

猪子原遺跡  
上ノ谷遺跡  
高城跡  
小原遺跡

2023

島根県教育委員会







猪子原遺跡  
上ノ谷遺跡  
高城跡  
小原遺跡

2023

島根県教育委員会



## 序

本書は、島根県教育委員会が中国電力株式会社および中国電力ネットワーク株式会社から委託を受けて、令和元（2019）年度・令和2（2020）年度・令和4（2022）年度に実施した島根県東部（飯南町～出雲市）における変電所および送電線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものです。

本書で報告する猪子原遺跡では、古墳時代中期後半の古墳を確認しました。この古墳の埋葬施設からは副葬品として鉄斧が出土しており、被葬者が周辺地域の有力者であることを想定できます。上ノ谷遺跡では、縄文時代前期から古墳時代後期にかけての集落跡を確認しました。縄文時代前期前半の住居跡からは土器のほか、石器が多く出土しており、石器製作を行っていたことが推定されます。また、古墳時代中期末から古墳時代後期の住居跡では、建物解体に伴う祭祀行為を行なっていたことがわかりました。高城跡では、主郭へ登るための登城路と考えられる遺構が見つかりました。小原遺跡では、古墳時代前期前葉の古墳を確認しました。

いずれの調査でも、当時の社会や人々の暮らしを考える上で貴重な資料を得ることができました。本書がふるさと島根の歴史を考え、伝える基礎資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後になりましたが、発掘調査および本書の作成にあたりご協力いただきました飯南町下来島地区、出雲市知井宮町保知石町内および知保上町内、雲南市掛合町波多地区の方々をはじめ、中国電力株式会社および中国電力ネットワーク株式会社並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年8月

島根県教育委員会  
教育長 野津 建二



# 例 言

- 1 本書は中国電力株式会社および中国電力ネットワーク株式会社から委託を受けて、島根県教育委員会が令和元年度、令和2年度、令和4年度に実施した島根県東部（飯南町～出雲市）における変電所および送電線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。
- 2 本報告書の発掘調査対象遺跡および事業年度は下記のとおりである。

令和元年度	発掘調査 猪子原遺跡（島根県飯石郡飯南町下来島1593番2 外）500m <sup>2</sup>
	上ノ谷遺跡（島根県飯石郡飯南町下来島3234番1 外）1300m <sup>2</sup>
	整理作業 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡
令和2年度	発掘調査 上ノ谷遺跡（島根県飯石郡飯南町下来島3234番1 外）2100m <sup>2</sup>
	整理作業 上ノ谷遺跡
令和3年度	報告書作成 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡
令和4年度	発掘調査 高城跡（島根県出雲市知井宮町高城2367番5 外）490m <sup>2</sup>
	小原遺跡（島根県雲南市掛合町波多1178番3）300m <sup>2</sup>
	報告書作成 高城跡・小原遺跡
令和5年度	報告書作成 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡・高城跡・小原遺跡
- 3 発掘調査は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが実施し、稲田陽介、今福拓哉、鈴木七奈、柳浦俊一が担当した。
- 4 発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、機械による掘削、測量等）については次の機関に委託した。

令和元～2年度・令和4年度	トーワエンジニアリング株式会社（出雲市萩野町）
5	発掘調査および報告書作成にあたっては、次の方々からご指導をいただいた。（肩書は当時）
- 岩本 崇（島根大学准教授）、高屋茂男（島根県立八雲立つ風土記の丘所長）、中村唯史（島根県立三瓶自然館調整幹）、西尾克己（松江市史編集委員会松江城部会長）、野島 永（広島大学教授）、矢野健一（立命館大学教授）
- 6 発掘調査および報告書作成に際しては、次の方々、関係機関から御協力、御助言をいただいた。（肩書は当時）

倉橋 英（赤穴八幡宮司）、平郡達也（島根大学准教授）、渡邊正巳（文化財調査コンサルタント株式会社）
---
- 7 本調査に伴う自然科学分析は、次の機関に委託し、その成果は第7章に掲載した。

令和3年度	株式会社パレオ・ラボ（黒曜石等の産地推定、石器の残存デンプン粒分析）
令和4年度	株式会社パレオ・ラボ（放射性炭素年代測定）
- 8 出土鉄器の保存処理は次の機関に委託した。

令和2年度	（一財）大阪市文化財協会（出土鉄器の保存処理）
-------	-------------------------
- 9 本書に掲載した遺構・遺物の写真は稲田、今福が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・淨書は、各調査員が行ったほか、遺物の分類・鑑定等は埋蔵文化財調査センターの職員の協力を得た。
- 10 本書の執筆は、第1章～第2章、第8章第5節を稲田・今福、第3章～第4章・第8章第1節～第2節第4項を今福、第5章～第6章、第8章第3節・第4節を稲田、第8章第2節第5項を鈴木、第7章は各分析者が行い、第7章については文頭に執筆者を明記した。編集は稲田、今福が担当した。
- 11 本書に掲載した遺物および実測図・写真等の資料は、島根県埋蔵文化財調査センター（島根県松江市打出町33番地）にて保管している。
- 12 本書の掲載にあたっては、DTP方式を採用した。

## 凡 例

- 遺構図中の方位北は、測量法に基づく平面直角第III座標系X軸方向を指し、座標系XY座標は世界測地系による。
- 本書で示す標高値はメートル表記である。標高値は東京湾平均海面(T.P.)値を使用した。
- 本書で使用した第1・16・19・20・158・161図は国土地理院発行の1/25,000(三瓶山東部ほか)、第3・8図は中国電力株式会社(令和2年度より中国電力ネットワーク株式会社)が作成した計画平面図を使用して作成したものである。
- 本書に掲載する土層は『新版 標準土色帖』(農林水産省農林水産技術會議事務局監修・財団法人日本色彩研究所 色票監修)にしたがって記載した。
- 本書で使用した遺構略記号は以下のとおりである。  
ST: 墓壙 SI: 穫穴建物 SB: 挖立柱建物 SD: 溝、SK: 土坑 Pit: 柱穴などの小土坑  
SX: 性格不明遺構 NR: 自然流路
- 本書で使用した挿図の縮尺は各図面に記した。
- 本書で用いた土器の分類および編年は以下の論文・報告書に依拠している。

### (1) 繩文土器

小林達雄編2008『総覧 繩文土器』アム・プロモーション

柳浦俊一2017『山陰地方における繩文文化の研究』雄山閣

### (2) 弥生土器

松本岩雄1992『出雲・隠岐地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編、木耳社

松本岩雄1992『石見地域』『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編、木耳社

### (3) 土師器

九州前方後円墳研究会実行委員会・九州国立歴史博物館誘致推進本部2002『古墳時代中・後期の土師器—その編年と地域性—』

松山智弘2000「小谷式再検討—出雲平野における新資料から—」『島根考古学会誌』第17集  
島根考古学会

松山智弘2015「山陰」『前期古墳編年を再考するⅡ—古墳出土土器をめぐって—』中国四国前方後円墳研究集会第18回研究集会 中国四国前方後円墳研究集会

松山智弘2018「山陰」『前期古墳を再考する』六一書房

### (4) 須恵器

岩本真実2019「石見地域における須恵器の編年と地域性—「石見型須恵器」再考—」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第22集、島根県古代文化センター

大谷晃二1994「出雲地域の須恵器の編年と地域性」『島根考古学会誌』第11集、島根考古学会

### (5) 陶磁器

九州近世陶磁学会2000『九州陶磁の編年』

### (6) 古墳

中国四国前方後円墳研究会編2018『前期古墳編年を再考する』六一書房

広瀬和雄1991「前方後円墳の畿内編年」『前方後円墳集成』中国・四国編、山川出版社

- 註は章ごとに連番を振り、章末に配置した。第7章は節ごとに連番を振り、節末に配置した。

# 本文目次

第1章 調査に至る経緯と経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	3
第3節 調査体制	16
第2章 遺跡の位置と環境	
第1節 地理的環境	19
第2節 歴史的環境	23
第3章 猪子原遺跡の調査	
第1節 調査の方法	37
第2節 基本層序	39
第3節 検出遺構とその遺物	42
第4節 小結	47
第4章 上ノ谷遺跡の調査	
第1節 調査の方法	51
第2節 基本層序	55
第3節 1区の調査	68
第4節 2区の調査	108
第5節 小結	142
第5章 高城跡の調査	
第1節 調査の方法	163
第2節 基本層序	165
第3節 検出遺構とその遺物	169
第4節 小結	171
第6章 小原遺跡の調査	
第1節 調査の方法	172
第2節 基本層序	174
第3節 検出遺構とその遺物	180
第4節 小結	195
第7章 自然科学分析	
第1節 飯南町来島・赤名地区的地形と上ノ谷遺跡の立地	201
第2節 上ノ谷遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定	205
第3節 上ノ谷遺跡から出土した石器の残存デンプン粒分析結果報告	208
第4節 小原遺跡・高城跡における放射性炭素年代測定	211
第8章 総括	
第1節 猪子原1号墳について	213
第2節 上ノ谷遺跡について	219
第3節 高城跡について	232
第4節 小原遺跡について	234
第5節 まとめ	238

# 挿図目次

第1図 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡・高城跡・小原遺跡の位置	1	第31図 土層堆積模式図と遺構面の位置関係	56
第2図 事業計画の概要	2	第32図 1区土層断面図(A-A')	57
第3図 H30年度試掘確認調査(要注意箇所1:上ノ谷遺跡)トレンチ配置図	5	第33図 1区土層断面図(B-B')	58
第4図 H30年度試掘確認調査(要注意箇所1:上ノ谷遺跡)トレンチ土層図	6	第34図 1区土層断面図(C-C')	59
第5図 H30年度試掘確認調査(要注意箇所1:上ノ谷遺跡)トレンチ出土遺物	6	第35図 2区土層断面図(D-D')	60
第6図 H30年度試掘確認調査(要注意箇所3:猪子原遺跡)トレンチ配置図	7	第36図 2区土層断面図(E-E')	61
第7図 H30年度試掘確認調査(要注意箇所3:猪子原遺跡)トレンチ土層図	7	第37図 第1遺構面全体図	62
第8図 令和元年度試掘確認調査(上ノ谷遺跡)トレンチ配置図	8	第38図 第2遺構面全体図	63
第9図 令和元年度試掘確認調査(上ノ谷遺跡)トレンチ土層図	9	第39図 第3遺構面全体図	64
第10図 令和元年度試掘確認調査(上ノ谷遺跡)トレンチ出土遺物	10	第40図 1区第1遺構面遺構配置図	65
第11図 令和元年度試掘確認調査(高城跡)トレンチ配置図	10	第41図 SI01実測図	67
第12図 令和元年度試掘確認調査(高城跡)トレンチ土層図	11	第42図 SI01遺物出土状況	68
第13図 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡周辺の地形分類図(S=1:50,000)	20	第43図 SI01出土遺物(1)	69
第14図 高城跡周辺の地形分類図(S=1:50,000)	21	第44図 SI01出土遺物(2)	70
第15図 小原遺跡周辺の地形分類図(S=1:50,000)	22	第45図 SI02実測図(床土除去前)	71
第16図 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡と周辺の遺跡	24	第46図 SI02実測図(床土除去後)	72
第17図 周辺遺跡出土遺物(赤穴八幡宮所蔵)(1)	25	第47図 SI02遺物出土状況	73
第18図 周辺遺跡出土遺物(赤穴八幡宮所蔵)(2)	26	第48図 SI02出土遺物	73
第19図 高城跡と周辺の遺跡	29	第49図 SI03実測図	74
第20図 小原遺跡と周辺の遺跡	32	第50図 SI03遺物出土状況	75
第21図 猪子原遺跡の範囲と開発予定地	38	第51図 SI03出土遺物	75
第22図 調査前地形測量図とグリッド設定	39	第52図 SI05実測図	76
第23図 猪子原1号填平面図	40	第53図 SI05遺物出土状況(1)	77
第24図 猪子原1号填土層断面図	41	第54図 SI05遺物出土状況(2)	77
第25図 猪子原1号填平面図および断面図	43	第55図 SI05出土遺物(1)	78
第26図 ST01平面図および断面図	46	第56図 SI05出土遺物(2)	79
第27図 ST01出土遺物	47	第57図 SI05出土遺物(3)	80
第28図 調査前地形測量図	52	第58図 SK41実測図	81
第29図 調査範囲とグリッド設定	53	第59図 SK41遺物出土状況	81
第30図 土層堆積確認トレンチ配置図	54	第60図 SK41出土遺物	82
		第61図 1区第1遺構面検出Pit実測図	84
		第62図 1区第1遺構面検出Pit出土遺物	85
		第63図 NRO1実測図	91
		第64図 NRO1遺物出土状況	92
		第65図 NRO1出土遺物	93
		第66図 1区第1黒色土層出土遺物(1)	95
		第67図 1区第1黒色土層出土遺物(2)	96
		第68図 1区第1黒色土層出土遺物(3)	97
		第69図 1区第2遺構面遺構配置図	98
		第70図 Pit441実測図	99
		第71図 Pit441出土遺物	99
		第72図 1区第2黒色土層出土遺物(1)	102

第73図	1区第2黒色土層出土遺物(2) .....	103	第116図	高城跡遺構配置図 .....	168
第74図	1区第3遺構面遺構配置図 .....	104	第117図	SX01実測図 .....	169
第75図	SK83実測図 .....	105	第118図	SK01実測図 .....	170
第76図	SK83出土遺物 .....	105	第119図	調査前地形測量図と開発予定地 .....	173
第77図	1区第3黒色土層出土遺物 .....	107	第120図	調査範囲・グリッド設定・トレンド配置図 .....	174
第78図	2区第1遺構面遺構配置図 .....	109			
第79図	SIO4実測図 .....	110	第121図	小原遺跡土層断面図(1) .....	175
第80図	SBO1実測図 .....	111	第122図	小原遺跡土層断面図(2) .....	176
第81図	SK15実測図 .....	112	第123図	小原遺跡土層断面図(3) .....	177
第82図	SK16実測図 .....	112	第124図	小原遺跡墳丘上面遺構配置図 .....	178
第83図	SK17実測図 .....	113	第125図	小原遺跡遺構配置図 .....	179
第84図	SK20実測図 .....	113	第126図	小原1号墳・3号墳平面図 .....	181
第85図	SK20遺物出土状況 .....	114	第127図	ST01実測図 .....	182
第86図	SK20出土遺物 .....	114	第128図	ST01出土遺物 .....	183
第87図	SK25実測図 .....	115	第129図	SD01実測図 .....	184
第88図	Pit182実測図 .....	117	第130図	SD01出土遺物 .....	185
第89図	Pit182出土遺物 .....	117	第131図	SD02実測図 .....	186
第90図	2区第1黒色土層出土遺物(1) .....	118	第132図	SD02出土遺物 .....	187
第91図	2区第1黒色土層出土遺物(2) .....	119	第133図	小原1号墳・3号墳周辺出土遺物 .....	187
第92図	2区第3遺構面遺構配置図 .....	120	第134図	小原2号墳・4号墳平面図 .....	188
第93図	SIO6実測図 .....	121	第135図	ST02・ST03実測図 .....	189
第94図	SIO6遺物出土状況 .....	122	第136図	SD03実測図 .....	190
第95図	SIO6出土遺物 .....	123	第137図	SD03出土遺物 .....	191
第96図	SK65実測図 .....	124	第138図	SD04・SD05実測図 .....	192
第97図	2区第3遺構面検出Pit実測図 .....	125	第139図	SD05出土遺物 .....	193
第98図	2区第3遺構検出遺構出土遺物 .....	125	第140図	SK01実測図 .....	194
第99図	水洗選別範囲とグリッド設定 .....	127	第141図	SK02実測図 .....	194
第100図	黒曜石出土分布 .....	129	第142図	SK03実測図 .....	194
第101図	黒曜石製石器出土地点 .....	129	第143図	小原2号墳・4号墳周辺出土遺物 .....	195
第102図	安山岩出土分布 .....	130	第144図	赤名盆地周辺の地形と神戸川水系の流路 .....	
第103図	安山岩製石器出土地点 .....	130			201
第104図	2区第3黒色土層出土遺物(1) .....	135	第145図	黒曜石産地推定判別図(1) .....	207
第105図	2区第3黒色土層出土遺物(2) .....	136	第146図	黒曜石産地推定判別図(2) .....	207
第106図	2区第3黒色土層出土遺物(3) .....	138	第147図	上ノ谷遺跡の分析対象とした石器と検出し たデンブン粒 .....	208
第107図	2区第3黒色土層出土遺物(4) .....	139	第148図	暦年較正結果 .....	212
第108図	2区第3黒色土層出土遺物(5) .....	140	第149図	猪子原1号墳丘構築復元図 .....	213
第109図	2区第3黒色土層出土遺物(6) .....	141	第150図	有肩鉄斧の部位名称 .....	214
第110図	2区第3黒色土層出土遺物(7) .....	142	第151図	有肩鉄斧の分類 .....	215
第111図	調査前地形測量図と開発予定地 .....	164	第152図	中国地方の有肩鉄斧出土地 .....	216
第112図	調査範囲・グリッド設定・トレンド配置図 .....	165	第153図	中国地方有肩鉄斧出土一覧 .....	217
第113図	高城跡土層断面図(1) .....	166	第154図	有肩鉄斧類似資料(刃部形状Ⅱ類) .....	218
第114図	高城跡土層断面図(2) .....	167	第155図	下山遺跡出土の月崎下層式土器 .....	219
第115図	高城跡土層断面図(3) .....	168	第156図	石器集中地点出土石器石材別組成 .....	221

第157図 石器集中地点出土石礫石材法量分布	… 221	第164図 5世紀～7世紀前葉の集落内変遷(森Ⅲ遺跡)	… 228
第158図 分類対象遺跡位置図	… 223		
第159図 土師器甕の分類	… 223	第165図 竪穴建物出土の土師器・須恵器の比率	… 230
第160図 土師器甕の分類と存続時期	… 224	第166図 土師器の器種比率	… 230
第161図 三瓶山周辺の集落遺跡(弥生時代後期～奈良時代)	… 227	第167図 須恵器の器種比率	… 230
第162図 6世紀末～7世紀前葉の竪穴建物	… 228	第168図 高城跡縄張り図	… 233
第163図 三瓶山周辺の集落遺跡における竪穴建物棟数	… 228	第169図 古墳時代前期の墳丘構築方法	… 235
		第170図 古墳時代前期の埋葬施設	… 237

## 表目次

第1表 事業予定地内の要注意箇所とその経過	… 2	第30表 水洗グリッド内出土石器・剥片集計表	… 131
第2表 文化財保護法に基づく提出書類	… 4	第31表 水洗グリッド内出土石器一覧	… 132
第3表 試掘調査出土遺物観察表	… 18	第32表 1区土層観察表(堆積土層)	… 147
第4表 赤穴八幡宮所蔵考古資料観察表	… 35	第33表 1区第1遺構面検出遺構土層観察表	… 149
第5表 猪子原遺跡(猪子原1号墳)土層観察表	… 49	第34表 1区第2遺構面検出遺構土層観察表	… 150
第6表 猪子原1号墳ST01土層観察表	… 50	第35表 1区第3遺構面検出遺構土層観察表	… 151
第7表 猪子原1号墳出土遺物観察表	… 50	第36表 2区土層観察表(堆積土層)	… 151
第8表 1区遺構面と検出した主な遺構	… 66	第37表 2区第1遺構面検出遺構土層観察表	… 152
第9表 1区第1遺構面検出竪穴建物跡(SI)一覧	… 80	第38表 2区第3遺構面検出遺構土層観察表	… 152
第10表 1区第1遺構面検出土坑(SK)一覧	… 83	第39表 1区第1遺構面出土遺物観察表	… 153
第11表 1区第1遺構面検出小土坑(Pit)一覧	… 87	第40表 1区第2遺構面出土遺物観察表	… 156
第12表 1区第1遺構面検出性格不明遺構(SX)一覧	… 90	第41表 1区第3遺構面出土遺物観察表	… 157
		第42表 2区第1遺構面出土遺物観察表	… 157
第13表 1区第1遺構面検出自然流路(NR)一覧	… 92	第43表 2区第3遺構面出土遺物観察表	… 158
第14表 1区第2遺構面検出土坑(SK)一覧	… 100	第44表 高城跡基本土層観察表	… 171
第15表 1区第2遺構面検出小土坑(Pit)一覧	… 100	第45表 SK01土層観察表	… 171
第16表 1区第2遺構面検出性格不明遺構(SX)一覧	… 100	第46表 小原遺跡土層観察表	… 197
		第47表 ST01土層観察表	… 198
第17表 1区第3遺構面検出土坑(SK)一覧	… 105	第48表 SD01土層観察表	… 198
第18表 1区第3遺構面検出小土坑(Pit)一覧	… 105	第49表 SD02土層観察表	… 199
第19表 1区第3遺構面検出性格不明遺構(SX)一覧	… 106	第50表 ST02・ST03土層観察表	… 199
		第51表 SD03土層観察表	… 199
第20表 2区遺構面と検出した主な遺構	… 108	第52表 SD04・SD05土層観察表	… 199
第21表 2区第1遺構面竪穴建物跡(SI)一覧	… 110	第53表 SK01土層観察表	… 199
第22表 2区第1遺構面掘立柱建物跡(SB)一覧	… 111	第54表 SK02土層観察表	… 199
第23表 2区第1遺構面土坑(SK)一覧	… 115	第55表 SK03土層観察表	… 199
第24表 2区第1遺構面小土坑(Pit)一覧	… 115	第56表 小原遺跡出土遺物観察表	… 200
第25表 2区第1遺構面性格不明遺構(SX)一覧	… 116	第57表 分析対象一覧	… 205
第26表 2区第3遺構面竪穴建物跡(SI)一覧	… 122	第58表 西日本黒曜石産地の判別群	… 205
第27表 2区第3遺構面土坑(SK)一覧	… 125	第59表 測定値および产地推定結果	… 206
第28表 2区第3遺構面小土坑(Pit)一覧	… 125	第60表 分析した石器と残存デンブン粒検出個数(IS: 第1次サンプリング)	… 209
第29表 2区第3遺構面性格不明遺構(SX)一覧	… 126		

第61表 石器残存デンブン粒の候補となる植物とその評価(残存デンブン粒を検出した石器のみを提示)	209	第64表 1区出土縄文後期土器集計表	219
		第65表 1区第2黒色土層出土縄文前期土器集計表	219
第62表 測定試料および処理	211	第66表 1区第3黒色土層出土縄文土器集計表	220
第63表 放射性炭素年代測定および曆年較正の結果	212	第67表 2区第3黒色土層出土縄文土器集計表	220
		第68表 検出遺構と出土土師器器分類	225

## 本文写真目次

写真1 平成30年度試掘調査状況(要注意箇所1)…	8	写真10 トレンチ掘削作業の様子2	53
写真2 猪子原遺跡調査指導風景	12	写真11 石器集中地點掘削作業の様子	55
写真3 猪子原遺跡空撮写真	12	写真12 水洗選別作業の様子	55
写真4 発掘体験の様子	13	写真13 2区で確認した褶曲	66
写真5 高城跡調査指導風景	15	写真14 主郭の様子	163
写真6 小原遺跡調査指導風景	15	写真15 主郭に据えられた石碑	163
写真7 報告書作成作業の様子	16	写真16 来島から野蒼付近で向きを変える神戸川	202
写真8 トレンチ設定状況	51	写真17 三瓶山	203
写真9 トレンチ掘削作業の様子1	53	写真18 三瓶浮布テフラの露頭	203

## 図版目次

図版1 1. 調査地遠景(南西から)	図版7 2. STO1土層堆積状況1(北東から)
図版1 2. 調査地近景(西から)	図版7 3. STO1土層堆積状況2(北から)
図版2 1. トレンチ配置状況(西から)	図版7 4. STO1鉄器出土状況1(南から)
図版2 2. B-1区南壁土層堆積状況(北から)	図版7 5. STO1鉄器出土状況2(南東から)
図版2 3. C-1区南壁土層堆積状況(北から)	図版7 6. STO1鉄器出土状況3(拡大)
図版2 4. D-1区南壁土層堆積状況(北から)	図版9 1. 調査完了(西から)
図版2 5. トレンチ掘削状況	図版9 2. 調査完了(東から)
図版3 1. B-1区西壁土層堆積状況(北東から)	図版10 1. STO1出土有肩鉄斧
図版3 2. C-1区西壁土層堆積状況(南東から)	図版10 2. STO1出土有肩鉄斧(X線)
図版3 3. C-2区西壁土層堆積状況(南東から)	図版11 1. 遺跡周辺から北方向を望む
図版3 4. A-1区埴丘隅部土層堆積状況(西から)	図版11 2. 調査地遠景(南西から)
図版3 5. D-1区西壁土層堆積状況(北東から)	図版12 1. 令和2年度調査完了(北西から)
図版3 6. D-2区西壁土層堆積状況(南東から)	図版12 2. 三瓶山降下火山灰(ハイカ)堆積状況
図版4 1. 猪子原1号墳埴輪検出状況(北西から)	図版13 1. 1区トレンチ掘削状況
図版4 2. 猪子原1号墳埴輪検出状況(北東から)	図版13 2. 1区南北トレンチ土層堆積状況1(南東から)
図版5 1. 墳丘北西隅部検出状況(北西から)	図版13 3. 1区南北トレンチ土層堆積状況2(北東から)
図版5 2. 墳丘南側斜面検出状況(南東から)	図版13 4. 1区南北トレンチ土層堆積状況3(南東から)
図版5 3. 墳丘北側斜面検出状況(北東から)	図版13 5. 2区東西トレンチ土層堆積状況1(南東から)
図版6 1. 一次埴輪およびSX01検出状況(西から)	図版13 6. 2区東西トレンチ土層堆積状況2(南東から)
図版6 2. STO1検出状況(北東から)	図版14 1. 1区第1遺構面調査完了1(令和元年度) (南西から)
図版6 3. STO1半裁状況(北から)	図版14 2. 1区第1遺構面調査完了2(令和2年度) (北西から)
図版6 4. STO1掘削状況	
図版7 1. STO1土層堆積状況(北から)	

- |                                       |                                      |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 図版15 1. 1区第1遺構面調査完了3（令和2年度）<br>(南西から) | 図版24 1. 2区第1遺構面調査完了状況1(南から)          |
| 図版15 2. 1区SI01完掘状況(西から)               | 図版24 2. 2区第1遺構面調査完了状況2(北西から)         |
| 図版16 1. 1区SI01土層堆積状況(南西から)            | 図版25 1. 2区SI04完掘状況(南東から)             |
| 図版16 2. 1区SI01遺物出土状況(北から)             | 図版25 2. 2区SI04土層堆積状況(南東から)           |
| 図版16 3. 1区SI01床面鉄器出土状況                | 図版25 3. 2区SB01完掘状況1(南西から)            |
| 図版16 4. 1区SI01柱穴(Pit02)内土器出土状況        | 図版25 4. 2区SB01完掘状況2(南東から)            |
| 図版16 5. 1区SI01煙道(Pit11)残存部土器出土状況      | 図版25 5. 2区SK15完掘状況(南西から)             |
| 図版16 6. 1区SI01柱穴(Pit03)完掘状況           | 図版26 1. 2区SK16完掘状況(東から)              |
| 図版16 7. 1区SI01掘削状況(西から)               | 図版26 2. 2区SK17完掘状況(南西から)             |
| 図版17 1. 1区SI02完掘状況(西から)               | 図版26 3. 2区SK20完掘状況(北東から)             |
| 図版17 2. 1区SI02床面検出土状況(西から)            | 図版26 4. 2区SK20土器出土状況(北東から)           |
| 図版17 3. 1区SI02煙道(Pit77)内土器出土状況        | 図版26 5. 2区SK25検出状況(東から)              |
| 図版17 4. 1区SI02煙道部土層堆積状況(南西から)         | 図版26 6. 2区SK25完掘状況(南東から)             |
| 図版17 5. 1区SI02煙道部完掘状況(南西から)           | 図版26 7. 2区Pit182完掘状況(南東から)           |
| 図版18 1. 1区SI03床面検出土状況(西から)            | 図版27 1. 2区第3遺構面調査完了状況1(東から)          |
| 図版18 2. 1区SI05完掘状況(北西から)              | 図版27 2. 2区第3遺構面調査完了状況2(南東から)         |
| 図版19 1. 1区SI05床面検出土状況(北から)            | 図版28 1. 2区SI06完掘状況(東から)              |
| 図版19 2. 1区SI05土層堆積状況(南西から)            | 図版28 2. 2区SI06土層堆積状況1(東から)           |
| 図版19 3. 1区SI05遺物出土状況1(南西から)           | 図版28 3. 2区SI06土層堆積状況2(南東から)          |
| 図版19 4. 1区SI05遺物出土状況2(南から)            | 図版28 4. 2区SK65完掘状況(東から)              |
| 図版19 5. 1区SK41完掘状況(西から)               | 図版28 5. 2区Pit477完掘状況(南から)            |
| 図版19 6. 1区SK41土器出土状況(南西から)            | 図版29 1. 2区Pit481完掘状況(東から)            |
| 図版19 7. 1区Pit228完掘状況(南西から)            | 図版29 2. 2区Pit531完掘状況(東から)            |
| 図版19 8. 1区Pit293完掘状況(西から)             | 図版29 3. 2区Pit535完掘状況(南東から)           |
| 図版20 1. 1区Pit294完掘状況(北西から)            | 図版29 4. 2区石器集中地点掘削状況(北西から)           |
| 図版20 2. 1区Pit299完掘状況(北西から)            | 図版29 5. 2区第3遺構面掘削状況(南東から)            |
| 図版20 3. 1区Pit315完掘状況(北西から)            | 図版30 1. 1区SI05出土遺物                   |
| 図版20 4. 1区Pit360完掘状況(北西から)            | 図版30 2. 1区SI01出土土器                   |
| 図版20 5. 1区Pit402土層堆積状況(北西から)          | 図版31 1. 第3黑色土層出土遺物                   |
| 図版20 6. 1区NR01掘削状況(ごども発掘体験)           | 図版31 2. 試掘確認調査出土遺物                   |
| 図版20 7. 1区NR01完掘状況(北から)               | 図版32 1. 1区SI01出土遺物                   |
| 図版21 1. 1区NR01土器出土状況(南西から)            | 図版32 2. 2区SI01・02出土遺物                |
| 図版21 2. 1区第1黒色土層掘削状況(南東から)            | 図版33 1. 1区SI01・02・03・05出土遺物          |
| 図版21 3. 1区第1ハイカ層掘削状況(北西から)            | 図版33 2. 1区SI01・05出土遺物                |
| 図版21 4. 1区第2遺構面調査完了状況1(北西から)          | 図版34 1. 1区SI05出土遺物1                  |
| 図版22 1. 1区第2遺構面調査完了状況2(南から)           | 図版34 2. 1区SI05出土遺物2                  |
| 図版22 2. 1区Pit441土器出土状況(北西から)          | 図版35 1. 1区SI05・SK41出土遺物              |
| 図版22 3. 1区第2黒色土層掘削状況(南東から)            | 図版35 2. 1区SI05出土遺物3                  |
| 図版22 4. 1区第3遺構面調査完了状況(南西から)           | 図版36 1. 1区SK41出土遺物1                  |
| 図版23 1. 1区第3遺構面調査完了状況(北西から)           | 図版36 2. 1区SK41出土遺物2                  |
| 図版23 2. 1区第3黒色土層石斧出土状況1(南西から)         | 図版37 1. 1区Pit293・294・299・315・360出土遺物 |
| 図版23 3. 1区第3黒色土層石斧出土状況2(南西から)         | 図版37 2. 1区NR01出土遺物1                  |
| 図版23 4. 1区SK83完掘状況(北から)               | 図版38 1. 1区NR01出土遺物2                  |
|                                       | 図版38 2. 1区NR01出土遺物3、第1遺構面出土古         |

- 埴時代土器(1・2区)
- 図版39 1. 1区第1黒色土層出土遺物 1  
図版39 2. 1区第1黒色土層出土遺物 2  
図版40 1. 1区第1黒色土層出土遺物 3  
図版40 2. 1区第1黒色土層出土遺物 4  
図版41 1. 1区第1黒色土層出土遺物 5  
図版41 2. 1区第1黒色土層出土遺物 6、Pit228・  
    402出土遺物  
図版42 1. 1区第1黒色土層出土遺物 7  
図版42 2. 1区第1黒色土層出土遺物 8  
図版43 1. 1区第1黒色土層出土遺物 9  
図版43 2. 1区出土ミニチュア土器・土製玉類  
図版44 1. 1区Pit441出土遺物、1区第2黒色土層  
    出土遺物 1  
図版44 2. 1区第2黒色土層出土遺物 2  
図版45 1. 1区第2黒色土層出土遺物 3  
図版45 2. 1区第2黒色土層出土遺物 4  
図版46 1. 1区第2黒色土層出土遺物 5  
図版46 2. 1区第2黒色土層出土遺物 6、1区SK83  
    出土遺物、1区第3黒色土層出土遺物 1  
図版47 1. 1区第3黒色土層出土遺物 2  
図版47 2. 1区第3黒色土層出土遺物 3  
図版48 1. 2区SK20出土遺物 1  
図版48 2. 2区SK20出土遺物 2、2区Pit182出土  
    遺物、2区第1黒色土層出土遺物 1  
図版49 1. 2区第1黒色土層出土遺物 2  
図版49 2. 2区第1黒色土層出土遺物 3  
図版50 1. 2区第1黒色土層出土遺物 4、2区SK65・  
    Pit477・481・531・535出土遺物  
図版50 2. 2区SI06出土遺物 1  
図版51 1. 2区SI06出土遺物 2  
図版51 2. 2区第3黒色土層出土遺物 1  
図版52 1. 2区第3黒色土層出土遺物 2  
図版52 2. 2区第3黒色土層出土遺物 3  
図版53 1. 2区第3黒色土層出土遺物 4  
図版53 2. 2区第3黒色土層出土遺物 5  
図版54 1. 2区第3黒色土層出土遺物 6  
図版54 2. 2区第3黒色土層出土遺物 7  
図版55 1. 2区第3黒色土層出土遺物 8  
図版55 2. 2区第3黒色土層出土遺物 9  
図版56 1. 2区第3黒色土層出土遺物 10  
図版56 2. 2区第3黒色土層出土遺物 11  
図版57 1. 2区第3黒色土層出土遺物 12  
図版57 2. 2区第3黒色土層出土遺物 13
- 図版58 1. 2区第3黒色土層出土遺物 14  
図版59 1. 遺跡周辺を望む(空撮)  
図版59 2. 調査完了状況(空撮)  
図版60 1. 調査地遠景(南から)  
図版60 2. 調査地近景(北東から)  
図版61 1. A-A'ライン土層堆積状況 1(南東から)  
図版61 2. A-A'ライン土層堆積状況 2(南東から)  
図版61 3. B-B'ライン土層堆積状況 1(南東から)  
図版61 4. B-B'ライン土層堆積状況 2(南東から)  
図版61 5. C-C'ライン土層堆積状況 1(北東から)  
図版61 6. C-C'ライン土層堆積状況 2(北東から)  
図版62 1. a-a'ライン土層堆積状況 1(南西から)  
図版62 2. a-a'ライン土層堆積状況 2(南東から)  
図版62 3. b-b'ライン土層堆積状況 1(南西から)  
図版62 4. b-b'ライン土層堆積状況 2(南東から)  
図版62 5. c-c'ライン土層堆積状況 1(南東から)  
図版62 6. c-c'ライン土層堆積状況 2(南西から)  
図版62 7. d-d'ライン土層堆積状況 1(南東から)  
図版62 8. d-d'ライン土層堆積状況 2(南西から)  
図版63 1. e-e'ライン土層堆積状況(東から)  
図版63 2. f-f'ライン土層堆積状況(南東から)  
図版63 3. g-g'ライン土層堆積状況(南から)  
図版63 4. h-h'ライン土層堆積状況 1(北東から)  
図版63 5. h-h'ライン土層堆積状況 2(北東から)  
図版63 6. i-i'ライン土層堆積状況 1(南東から)  
図版63 7. i-i'ライン土層堆積状況 2(北東から)  
図版63 8. j-j'ライン土層堆積状況(南東から)  
図版64 1. SX01 検出状況 1(南から)  
図版64 2. SX01 検出状況 2(東から)  
図版64 3. SK01 検出状況(南東から)  
図版64 4. SK01 完掘状況(南から)  
図版65 1. 遺跡周辺を望む(西から)  
図版65 2. 調査地遠景(南から)  
図版66 1. 調査前近景(東から)  
図版66 2. 調査完了(西から)  
図版67 1. A-A'ライン土層堆積状況 1(東から)  
図版67 2. A-A'ライン土層堆積状況 2(東から)  
図版67 3. A-A'ライン土層堆積状況 3(南東から)  
図版67 4. B-B'ライン土層堆積状況 1(西から)  
図版67 5. B-B'ライン土層堆積状況 2(西から)  
図版67 6. B-B'ライン土層堆積状況 3(南西から)  
図版68 1. C-C'ライン土層堆積状況 1(南から)  
図版68 2. C-C'ライン土層堆積状況 2(南から)  
図版68 3. D-D'ライン土層堆積状況 1(西から)

- 図版68 4. D-D'ライン土層堆積状況2(南から)  
図版68 5. E-E'ライン土層堆積状況1(東から)  
図版68 6. E-E'ライン土層堆積状況2(北東から)  
図版68 7. F-F'ライン土層堆積状況(西から)  
図版68 8. G-G'ライン土層堆積状況(南東から)  
図版69 1. 1号填・2号填填丘検出状況1(東から)  
図版69 2. 1号填・2号填填丘検出状況2(南西から)  
図版70 1. 1号填填頂部盛土検出状況(東から)  
図版70 2. 1号填填頂部盛土堆積状況(南から)  
図版70 3. ST01検出状況(西から)  
図版70 4. ST01土層堆積状況1(南東から)  
図版70 5. ST01土層堆積状況2(南から)  
図版71 1. ST01土層堆積状況3(南から)  
図版71 2. ST01土層堆積状況4(南東から)  
図版71 3. ST01土層堆積状況5(南から)  
図版71 4. ST01遺物出土状況(南西から)  
図版71 5. ST01完掘状況(南西から)  
図版72 1. SD01完掘状況(北東から)  
図版72 2. SD01土層堆積状況1(南東から)  
図版72 3. SD01土層堆積状況2(北西から)  
図版72 4. SD01土層堆積状況3(南東から)  
図版72 5. SD01土層堆積状況4(南東から)  
図版73 1. SD02完掘状況(南東から)  
図版73 2. SD02土層堆積状況(南東から)  
図版73 3. SD02遺物出土状況(東から)  
図版73 4. 1号填完掘状況(西から)
- 図版74 1. 2号填填頂部盛土検出状況(東から)  
図版74 2. ST02・ST03検出状況(北東から)  
図版74 3. ST02・ST03上層堆積状況1(南から)  
図版74 4. ST02・ST03上層堆積状況2(南西から)  
図版74 5. ST02・ST03完掘状況(北東から)  
図版75 1. SD03検出状況(南西から)  
図版75 2. SD03完掘状況(北西から)  
図版75 3. SD03土層堆積状況1(南から)  
図版75 4. SD03土層堆積状況2(南から)  
図版75 5. SD04完掘状況(南東から)  
図版75 6. SD04・SD05土層堆積状況1(南東から)  
図版75 7. SD04・SD05土層堆積状況2(南から)  
図版76 1. SD05完掘状況(西から)  
図版76 2. SD05遺物出土状況(南東から)  
図版76 3. SK01完掘状況(南から)  
図版76 4. SK02完掘状況(南東から)  
図版76 5. 2号填完掘状況(北東から)  
図版77 1. ST01・SD01出土遺物  
図版77 2. SD01出土遺物  
図版78 1. SD02出土遺物  
図版78 2. 1号填・3号填周辺、SD03出土遺物  
図版79 1. SD05出土遺物1  
図版79 2. SD05出土遺物2  
図版80 1. ST01、SD05、2号填・4号填周辺出土遺物  
図版80 2. 2号填・4号填周辺出土遺物

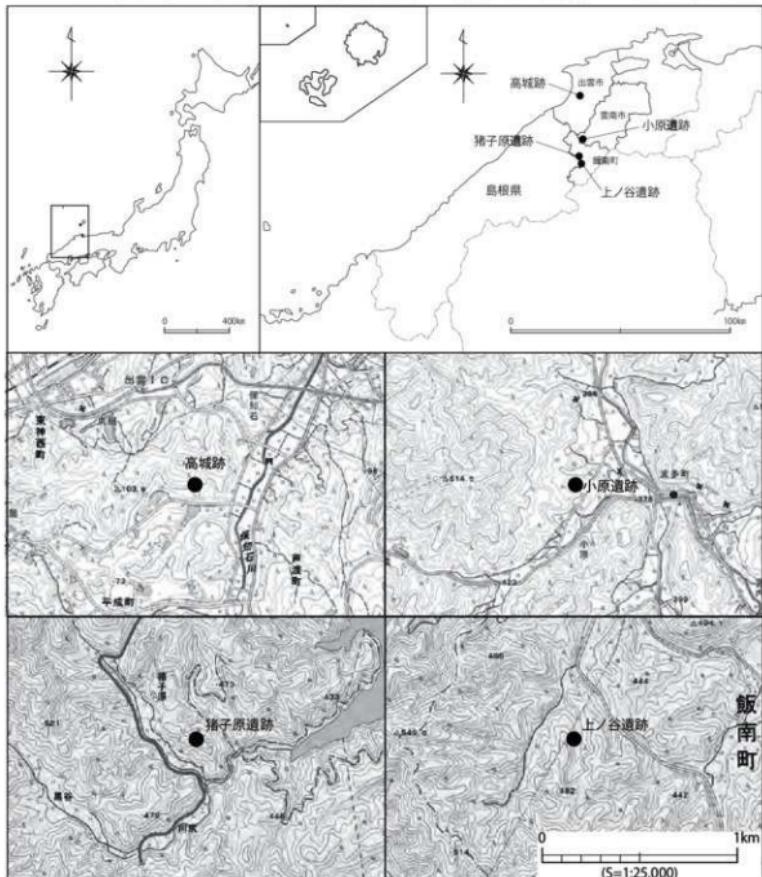
# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

### 1. 事業計画の概要

島根県の松江・出雲地区における電力供給は、松江・出雲地区の東部に位置する北松江変電所を拠点としたルートにより行われている。このような状況に対し、中国電力株式会社<sup>(1)</sup>は、将来北松江変電所と新設拠点の2拠点からの供給を検討しており、これに必要となる変電所および送電線の新設を予定している。

このような予定に合わせ、起点となる飯石郡飯南町から終点となる出雲市までの変電所、送電線

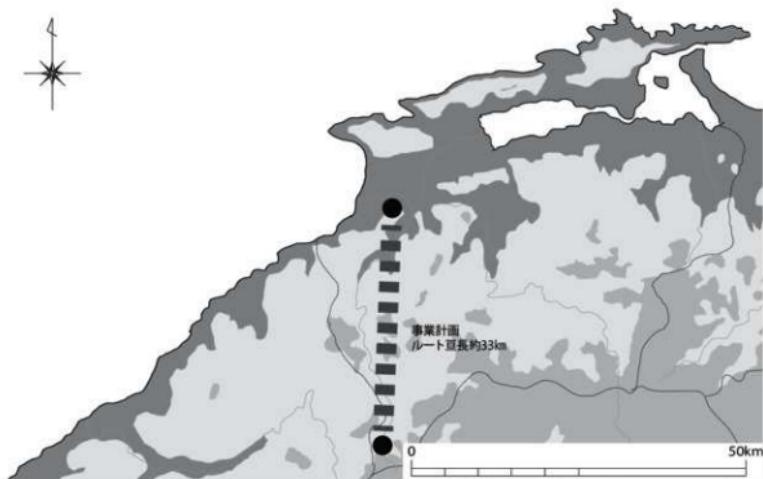


第1図 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡・高城跡・小原遺跡の位置

新設工事が計画されており、ルート亘長は約33kmを予定している(第2図)。

## 2. 埋蔵文化財保護部局への照会と調整

島根県東部(飯南町~出雲市)における変電所および送電線の事業化にあたり、中国電力株式会社



第2図 事業計画の概要

第1表 事業予定地内の要注意箇所とその経過

地点名	座標		試験 調査	遭跡の有無	経過	発掘 調査
	北緯	東經				
要注意箇所1	35°02' 23"	132°43' 19"	○	有 上ノ谷遺跡 (W65)	H30年度試験調査で見出。 (遺跡の発見) R1年度試験調査で範囲確定	○
要注意箇所2	35°02' 43"	132°43' 12"	○	無	R2年度試験調査実施	
要注意箇所3	35°04' 17"	132°42' 37"	○	有 猪子原遺跡 (W66)	H30年度試験調査で見出。 (遺跡の発見)	○
要注意箇所4	35°06' 54"	132°43' 47"	不要		鉄穴流し跡を確認 (事業用地外)	
要注意箇所5	35°07' 34"	132°44' 04"	不要		鉄穴流し跡を確認 工事前に測量調査実施 (鳥羽麻実施)	
要注意箇所6	35°07' 56"	132°43' 57"	不要		鉄穴流し跡を確認 工事前に測量調査実施 (鳥羽麻実施)	
要注意箇所7	35°08' 03"	132°43' 57"	不要		鉄穴流し跡を確認 工事前に測量調査実施 (鳥羽麻実施)	
要注意箇所8	35°08' 33"	132°43' 42"	不要	有 小原遺跡 (S56)	R1年度分布調査で見出。	○
要注意箇所9	35°11' 09"	132°43' 45"	不要		事業予定地移動	
要注意箇所10	35°11' 49"	132°43' 34"	不要	有 東山中城跡群 (a167)	工事立会実施	
要注意箇所11	35°12' 56"	132°43' 42"	不要	有 三ツ森城跡 (a157)	工事立会実施	
要注意箇所12	35°13' 09"	132°43' 40"	不要	有 三ツ森城跡 (a157)	工事立会実施	
要注意箇所13	35°13' 47"	132°43' 35"	不要	有 清村城跡 (a119)	工事立会実施	
要注意箇所14	35°14' 29"	132°43' 16"	不要	有 曽我里跡 (a115)	事業予定地移動	
要注意箇所15	35°15' 13"	132°43' 35"	不要		隣接する平坦面を確認 事業予定地移動	
要注意箇所16	35°15' 52"	132°43' 39"	不要		隣接する平坦面を確認 事業予定地移動	
要注意箇所17	35°19' 18"	132°42' 50"	○	有 高城跡 (W90)	R1年度試験調査実施 周辺の道路「高城跡 (W90)」に該当	○
要注意箇所18	35°19' 26"	132°42' 55"	○	無	R1年度試験調査実施	
要注意箇所19	35°19' 30"	132°43' 01"	○	無	R1年度試験調査実施	
要注意箇所20	35°19' 37"	132°43' 06"	○	無	R1年度試験調査実施	

から建設予定地が位置する飯南町教育委員会・雲南市教育委員会・出雲市教育委員会へ埋蔵文化財の有無について照会を行った。しかし、変電所設置および市域をまたぐ送電線の設置という広域的な事業であることが判明したため、島根県教育委員会を窓口として対応することとなった。そのため、平成29年1月16日付け管島用工第27号で中国電力株式会社から島根県教育委員会へ改めて埋蔵文化財の有無について照会を受けた。これに対し、島根県教育委員会では、建設予定地の市町教育委員会の協力を得て、平成29年2月から令和3年12月にかけて断続的に分布調査を実施した。その結果、周知の遺跡に加えて、試掘調査を要する要注意箇所、鉄穴流し跡などの事業実施前に測量調査を実施する必要のある箇所を多数確認し、発掘調査、試掘調査および測量調査が必要な旨を回答した（平成29年5月1日付け島教文財第153号、平成30年3月20日付け島教文財第153号の2、平成30年5月10日付け島教文財第195号、令和2年3月24日付け島教文財第1079号、令和2年11月24日付け島教文財第45号の6）（第1表）。なお、すでに市町教育委員会が実施した分布調査については、その成果を踏まえ、回答を実施している<sup>②</sup>。また、周知の遺跡のうち、出雲市内の曾我里峠城跡については、送電鉄塔の設置場所の変更が可能であったため、令和2年度に中国電力ネットワーク株式会社と協議を重ね、設計変更により建設予定地が移動された。

島根県教育委員会と中国電力株式会社および中国電力ネットワーク株式会社は、各市町教育委員会も含めて協議を重ね、分布調査の結果を踏まえた試掘確認調査を平成30年度から国庫補助事業により実施した。平成30年度は、11月に飯南町内下来島地内の要注意箇所2地点について試掘し、上ノ谷遺跡と猪子原遺跡を確認した。令和元年度は、6月に出雲市知井宮町地内、10月に飯南町下来島地内の5カ所について試掘調査を実施した。出雲市知井宮町の調査では、周知の遺跡である高城跡が建設予定範囲に含まれることを確認した。また、飯南町下来島の調査では、前年度に確認した上ノ谷遺跡の範囲確認を実施した。なお、雲南市掛合町地内の1カ所の要注意箇所については、試掘調査を実施していないが、現地の状況から小原遺跡が存在することを確認した。令和2年度の調査では、11月に飯南町下来島地内の1カ所の調査を実施したが、遺跡は確認されなかった。

以上の確認調査の結果、事業計画地には、周知の遺跡を含め、上ノ谷遺跡・猪子原遺跡・高城跡・小原遺跡の計4遺跡の存在が明らかになった。なお、このほかにも先に示したように、出雲市内で湯村城跡・三ツ森城跡・東山中城砦跡群・曾我里峠城跡が事業計画地に隣接する。

### 3. 法的手続き

文化財保護法に基づく法的手手続きは第2表のとおりである。

## 第2節 発掘調査の経過

### 1. 試掘調査

本節では上ノ谷遺跡、猪子原遺跡、高城跡に関する試掘調査について詳述する。試掘調査は分布調査の結果を受け、要注意箇所の埋蔵文化財の有無の確認を目的とし、平成30年度から断続的に実施した。平成30年度は、要注意箇所1（上ノ谷遺跡）および要注意箇所3（猪子原遺跡）の試掘を行った。令和元年度は上ノ谷遺跡の範囲確認を目的として試掘調査を実施したほか、高城跡の試掘調査を行った。

第2表 文化財保護法に基づく提出書類

遺跡の発見に関する届出（法第96条）

文書番号 日付	種類	所在地	発見 年月日	発見の事情	届出者	参考事項	勧告文書番号 日付	主な指示 事項
送配文財第410号 H31.3.13	敷地	飯石郡飯南町 下栗島3234番外	H30.11.29	電力関連施設建設工事 に伴う試掘確認調査	中国電力株式 会社	上ノ谷道跡 開発等面積4,400m <sup>2</sup>	島教文財第180号の26 H31.3.19	発掘調査
送配文財第411号 H31.3.13	古墳	飯石郡飯南町 下栗島1593番2外	H30.11.29	電力関連施設建設工事 に伴う試掘確認調査	中国電力株式 会社	猪子原道跡 開発等面積500m <sup>2</sup>	島教文財第180号の27 H31.3.19	発掘調査
島教理第560号、 R2.3.26	古墳他	青森市折合町波多 内地	R2.3.9	電力関連施設建設工事 予定地内における分布 調査	島根県教育委員会 埋蔵文化財調 査センター			

埋蔵文化財发掘の通知（法第93条）

文書番号 日付	種類及び 名称	所在地	土地所有者	面積 (m <sup>2</sup> )	原因	届出者	期間	指示文書番号 日付	主な指示 事項
案松井第135号 R3.12.24	古墳 小原通跡	青森市折合町 多1178番3号	中国電力ネット ワーク株式会社	703m <sup>2</sup>	電力関連 施設建設	中国電力ネットワー ク株式会社事業部長		島教文財第78号の102 R3.12.28	発掘調査
案松井第136号 R3.12.24	城跡 高城跡	青森市知井宮町字 高城2367番5号	中国電力ネット ワーク株式会社	860.99m <sup>2</sup>	電力関連 施設建設	中国電力ネットワー ク株式会社事業部長		島教文財第78号の103 R3.12.28	発掘調査

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第99条）

文書番号 日付	種類および名称	所在地	面積 (m <sup>2</sup> )	原因	報告者	担当者	期間
島教理第120号 R1.5.31	古墳 猪子原通跡	飯石郡飯南町 下栗島1593番2外	500m <sup>2</sup>	電力関連施設 建設	島根県教育埋蔵文化財調査センター所長	今福拓哉	R1.7.1～ R1.11.30
島教理第120号 R1.5.31	敷地 集落跡 上ノ谷道跡	飯石郡飯南町 下栗島3234番1外	1,000m <sup>2</sup>	電力関連施設 建設	島根県教育埋蔵文化財調査センター所長	今福拓哉	R1.7.1～ R1.11.30
島教理第72号 R2.4.22	敷地 集落跡 上ノ谷道跡	飯石郡飯南町 下栗島3234番1外	2,500m <sup>2</sup>	電力関連施設 建設	島根県教育埋蔵文化財調査センター所長	今福拓哉	R2.5.12～ R2.8.31
島教理第44号 R4.4.14	古墳 小原通跡	青森市折合町波多 内地	500m <sup>2</sup>	電力関連施設 建設	島根県教育埋蔵文化財調査センター所長	稻田陽介	R4.7.1～ R4.8.31
島教理第45号 R4.4.14	城跡 高城跡	青森市知井宮町地内	400m <sup>2</sup>	電力関連施設 建設	島根県教育埋蔵文化財調査センター所長	稻田陽介	R4.5.1～ R4.6.31

埋蔵文化財發見通知（法第100条第2項）

文書番号 日付	物件名	出土地	発見者	土地所有者	保管場所
島教文財第274号の6 令和1年10月7日	鉄器 計1点	飯石郡飯南町下栗島 猪子原通跡	島根県教育委員会教育長	中国電力株式会社	島根県教育行埋蔵文化財調査センター
島教文財第274号の12 令和2年1月7日	鐵文土器、土師器、須恵器、石製品、鐵器 計6箱	飯石郡飯南町下栗島 上ノ谷道跡	島根県教育委員会教育長	中国電力株式会社	島根県教育行埋蔵文化財調査センター
島教文財第114号の20 令和2年12月28日	鐵文土器、生糸土器、土師器、須恵器、石器 計40箱	飯石郡飯南町下栗島 上ノ谷道跡	島根県教育委員会教育長	中国電力株式会社	島根県教育行埋蔵文化財調査センター
島教文財第104号の3 令和4年7月27日	鐵製品 計1点	青森市知井宮町 高城跡	島根県教育委員会教育長	中国電力株式会社	島根県教育行埋蔵文化財調査センター
島教文財第104号の9 令和4年11月22日	土師器1箱、鐵文土器1袋、石器・石製品類 等1袋	青森市折合町波多 内地	島根県教育委員会教育長	中国電力株式会社	島根県教育行埋蔵文化財調査センター

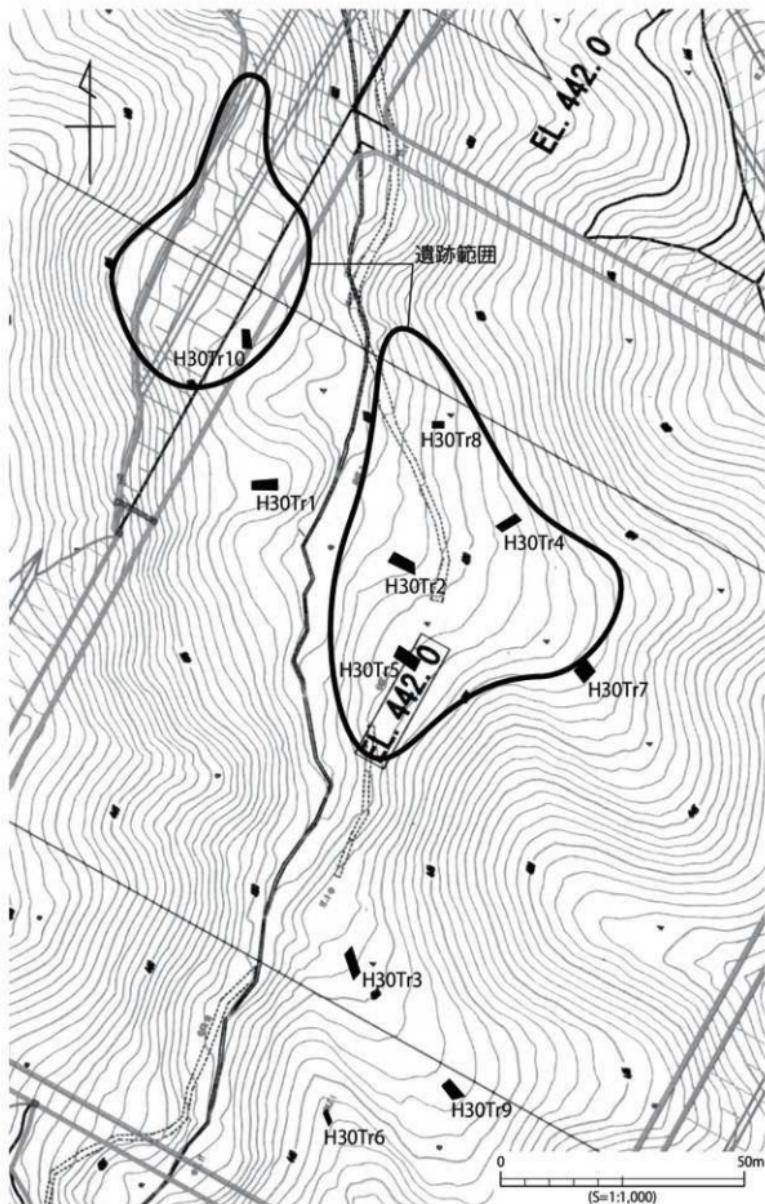
## 終了報告

文書番号 日付	遺跡名	調査期間	面積	提出者	提出先
島教文財第874号 R2.1.27	猪子原通跡	R1.7.1～ R1.9.3	500m <sup>2</sup>		中国電力株式会社
島教文財第874号 R2.1.27	上ノ谷道跡 (1区)	R1.8.21～ R1.12.9	1,300m <sup>2</sup>		中国電力株式会社
島教文財第848号 R3.1.19	上ノ谷道跡 (1・2区)	R2.5.11～ R2.12.11	1区 1,100m <sup>2</sup> 2区 1,000m <sup>2</sup>	島根県教育委員会教育長 新田英夫	中国電力ネットワーク株式会社
島教文財第582号の5 R4.11.15	高城跡	R4.5.17～ R4.8.1	490m <sup>2</sup>	島根県教育委員会教育長 野津達二	中国電力ネットワーク株式会社
島教文財第582号の5 R4.11.15	小原通跡	R4.7.26～ R4.11.1	300m <sup>2</sup>	島根県教育委員会教育長 野津達二	中国電力ネットワーク株式会社

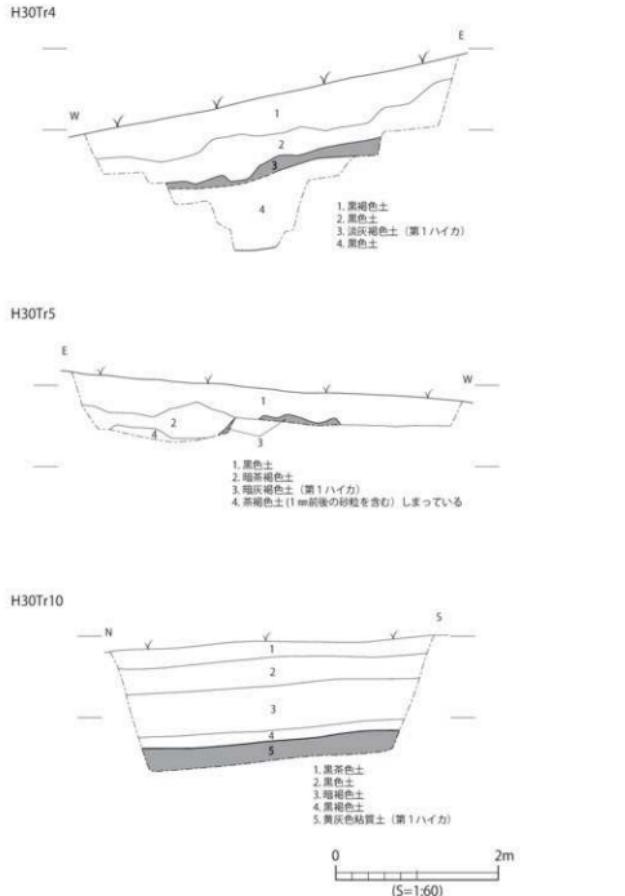
## (1) 平成30年度実施の試掘調査

## 要注意箇所1（第3～5図、第3表、写真1、図版31）

要注意箇所1の埋蔵文化財の有無を確認する目的で、計10本のトレンチを平坦面と緩斜面を中心へ設定し、試掘調査を実施した（第3図）。すべてのトレンチで三瓶山の噴火に伴い降下した火山灰が確認でき（写真1）、これより上層から繩文土器・土師器・須恵器がトレンチ2・4・5・8・10で出土した（第4・5図、第3表、図版31）。また、トレンチ5では火山灰を切るように遺構が存在することも確認した。以上のような調査成果から、確認した火山灰が第1ハイカ（三瓶太平山降下火



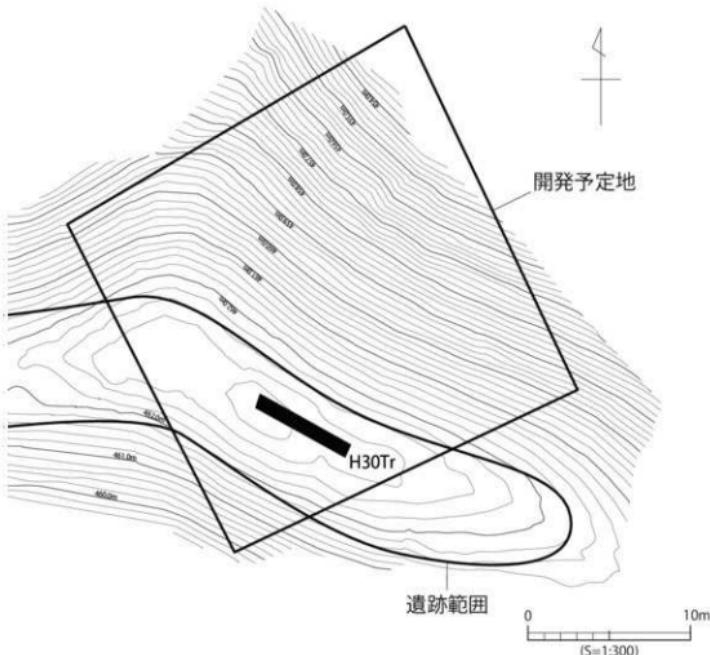
第3図 H30年度試掘確認調査（要注意箇所1：上／谷遺跡）トレンチ配置図



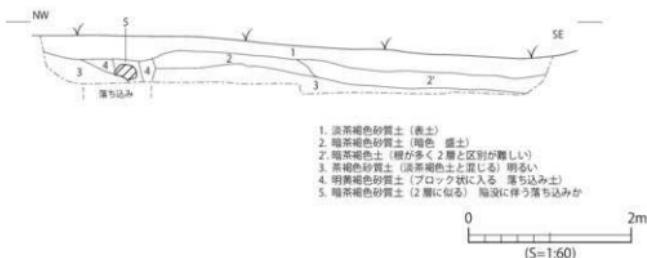
第4図 H30年度試掘確認調査（要注意箇所1：上ノ谷遺跡）トレンチ土層図



第5図 H30年度試掘確認調査（要注意箇所1：上ノ谷遺跡）トレンチ出土遺物



第6図 H30年度試掘確認調査（要注意箇所3：猪子原遺跡）トレントチ配置図



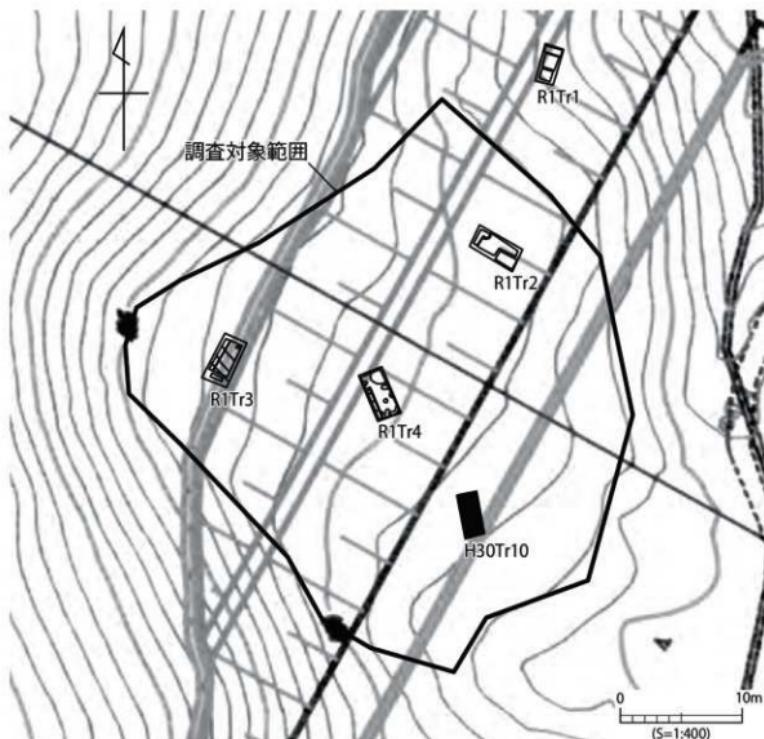
第7図 H30年度試掘確認調査（要注意箇所3：猪子原遺跡）トレントチ土層図

山灰）であり、縄文時代後期から古墳時代にかけての遺構・遺物が確認できる遺跡であると判明した。その範囲については、南北に流れる小河川を挟んだ緩斜面上となることが想定された。

以上のような試掘調査成果から、要注意箇所1に存在する埋蔵文化財を上ノ谷遺跡とし、新たに発見した遺跡として報告した。

#### 要注意箇所3（第6・7図）

要注意箇所3では、丘陵頂部に位置する尾根上にトレントチを設定し、試掘調査を行った（第6図）。トレントチ調査では、遺物が出土しなかったものの、盛土および墓壙状の落ち込みを検出した（第7



第8図 令和元年度試掘確認調査（上ノ谷遺跡）トレーニング配置図



写真1 平成30年度試掘調査状況（要注意箇所1）

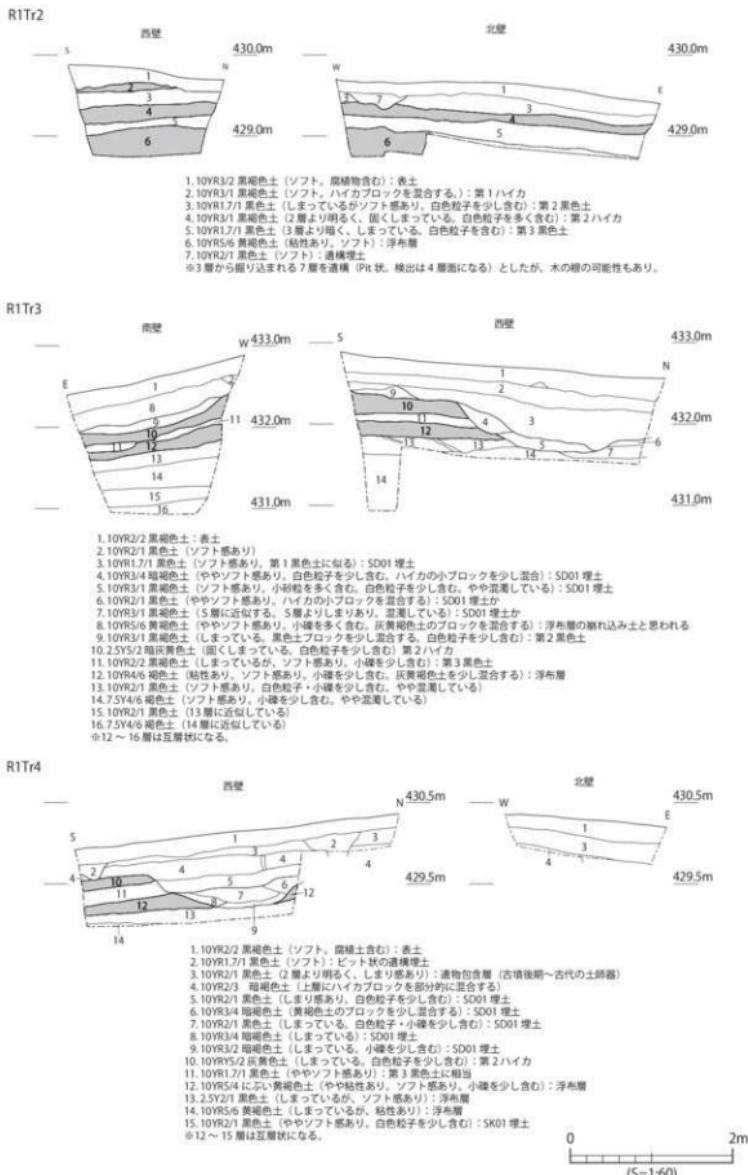
## （2）令和元年度実施の試掘調査

### 上ノ谷遺跡（第8～10図・第3表・図版31）

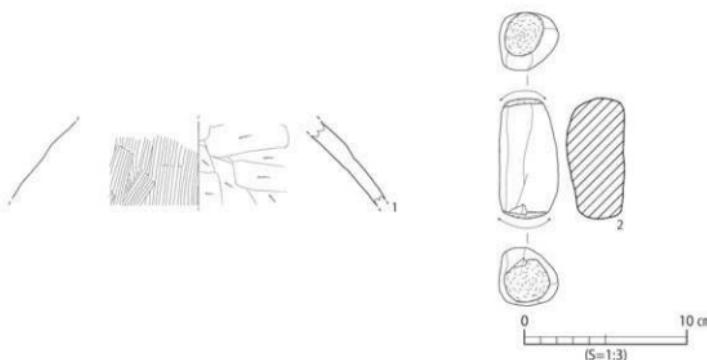
令和元年度は、上ノ谷遺跡の範囲確認を目的として試掘確認調査を実施した。小河川より東側については平成30年度の試掘調査により遺跡範囲が一連の緩斜面に存在することが判明していたが、小河川西側についてはトレーニング設置数が少なく、遺跡範囲が不明瞭であった。以上の状況を踏まえ、小河川西側に計4本のトレーニングを設定し、試掘調査を実施した（第8図）。試掘調査では、平成30年

図）。また、尾根は幅約4mと狭いものの、表面観察により、小規模なマウンド状の高まりが調査区外も含めて3地点で確認でき、古墳の存在が推測された。

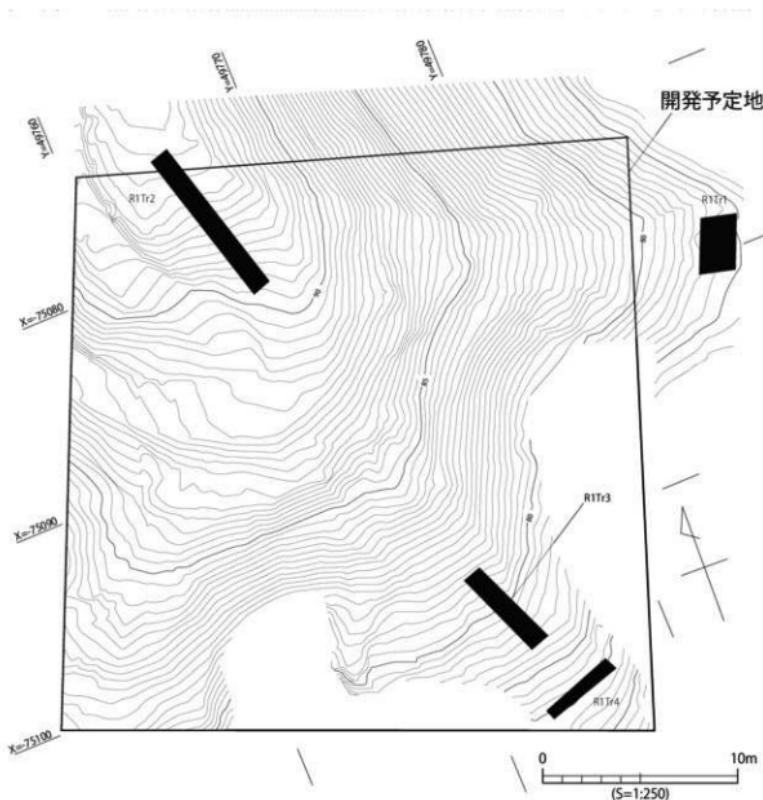
以上のような試掘調査成果から、要注意箇所3に存在する埋蔵文化財を猪子原遺跡とし、新たに発見した遺跡として報告した。



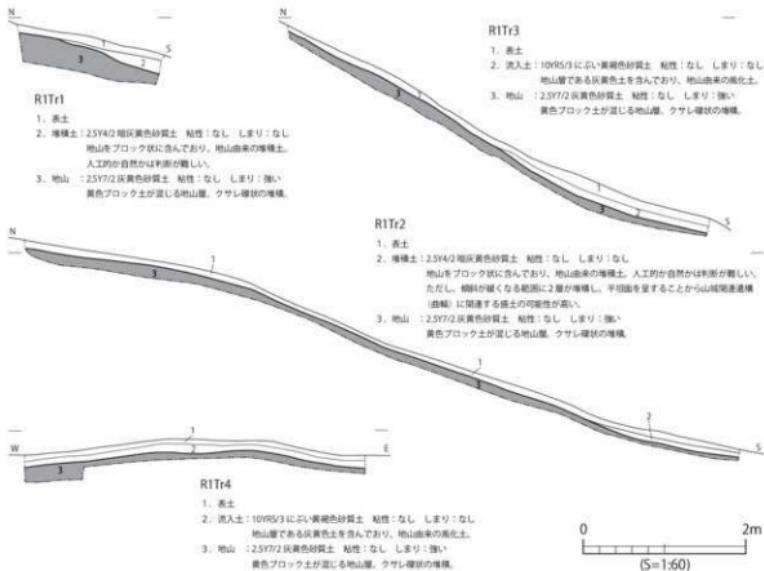
第9図 令和元年度試掘確認調査（上ノ谷遺跡）トレントチ土層図



第10図 令和元年度試掘確認調査（上ノ谷遺跡）トレンチ出土遺物



第11図 令和元年度試掘確認調査（高城跡）トレンチ配置図



第12図 令和元年度試掘確認調査（高城跡）トレントチ土層図

度と同様に第1ハイカを確認したが、さらに下層に火山灰（三瓶角井降下火山灰・浮布降下火山灰）が堆積することも判明した（第9図）。また、第1ハイカを切るように遺構が存在することも確認した。出土遺物は平成30年度同様、第1ハイカ上面に堆積する黒色土から土師器・石器が出土した（第10図・第3表・図版31）。以上の試掘調査を踏まえ、遺跡範囲を決定した。なお、上ノ谷遺跡は、遺跡を確認した範囲がすべて開発範囲内に収まる。

#### 高城跡（第11・12図）

緩斜面および平坦面を対象として、4地点でトレントチ調査を実施した（第11図）。各トレントチの基本層序は、上層から表土、地山由来の堆積土・流入土、地山層となっている（第12図）。このうち、Tr 1およびTr 2で検出した地山由来の堆積土は地山層をブロック状に含んでおり、トレントチ内の傾斜が緩くなる地点に堆積して平坦面を呈する状況が認められた。人工的な堆積かどうかは不明であったが、調査対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である高城跡の域内と考えられることから、自然もしくは人工的な小規模な平坦面の連続を利用していた状況が考えられた。遺物は出土していない。試掘調査後に、高城跡全体における調査個所の位置付けを行うため、高屋茂男氏に調査指導を受けた。



写真2 猪子原遺跡調査指導風景



写真3 猪子原遺跡空撮写真

## 2. 発掘調査

### (1) 令和元年度の発掘調査

#### 猪子原遺跡の発掘調査（写真2・3）

猪子原遺跡の発掘調査は令和元年度に実施した。現地調査は、7月1日より開始した<sup>⑩</sup>。試掘調査により3ヵ所のマウンドが確認されていたため、東からそれぞれ1号墓、2号墓、3号墓と仮称することとした。また、試掘で遺物が出土しておらず、時期が不明なため、弥生時代の墳丘墓の可能性も視野に入れて調査を進めた。

調査地は、比高差約40mの丘陵頂部尾根上に位置し、尾根の周囲は急斜面となっていた。このため、発掘從事者の安全確保のため、急斜面上に仮設足場を設置し、発掘地点までの安全な通行が可能なようにした。なお、丘陵頂部での調査のため、重機などの運搬が困難であったため、人力による掘削、排土運搬を行った。

発掘調査は、人力による排土運搬を実施するため、計画的な掘削が必要であった。そのため、平成30年度試掘トレンドの再掘削・延伸を先行して実施し、土層堆積の再検討を試みた。その結果、黄褐色土ブロックを含む黒色土である盛土が調査区内尾根全体におよぶことを確認した。調査当初は、調査区内に2基の古墳が存在することを想定していたが、調査の結果、長軸約20m、短軸約10m、高さ0.5mの方墳（猪子原1号墳）であることが判明した。また、方墳中央付近で墓壙を1基（ST01）検出した。墓壙は、埋葬施設に木棺を採用し、鉄斧が副葬されていた。

遺構の様相が徐々に明らかになる中で、調査は古墳時代研究者による調査指導を得ながら進め、8月19日に岩本崇氏・野島永氏による指導を受け、墳丘構築方法や埋葬施設、出土鉄斧についての知見を得た（写真2）。また、現地調査完了後の9月5日に中村唯史氏により遺跡の地質について指導を受け、墳丘基盤層や盛土中に含まれる黄褐色ブロックは火山灰（ハイカ）であるとの知見を得た。

猪子原遺跡の発掘調査対象面積は、500m<sup>2</sup>と小規模であるが、丘陵頂部のやせ尾根上での作業であり、排土置き場の確保などの制限があったため時間を要し、8月26日の完了協議を経て、9月3日に現地作業を終了した。なお、7月30日に墳丘検出状況、8月26日に墓壙完掘状況、9月3日に調査完了状況の空中写真撮影を行うほか、随時測量作業も並行して実施した（写真3）。

調査の進行と合わせて、成果も公開している。調査地が丘陵尾根の小規模な範囲であるほか、駐車場の確保など様々な制約があり、地元住民向けの現地説明会となったが、9月1日に17名の参加者があった。また、令和元年10月27日開催の飯南町来島地区文化祭でパネル展示を実施した。

### 上ノ谷遺跡の発掘調査

上ノ谷遺跡の発掘調査は令和元年度と令和2年度に実施した。調査対象面積は、令和元年度は1,300m<sup>2</sup>、令和2年度は2,100m<sup>2</sup>である。発掘調査が複数年度におよぶため、遺跡範囲間を流れる小河川より東側を1区、西側を2区とし、さらに1区は東西で二分し、1区東半および1区西半と呼称した。

令和元年度は1区東半を調査対象とし、8月21日より開始した。試掘調査成果を踏まえ、地表面から30cmの深さまで重機によって除去した後、表面清掃を実施したところ、遺物が出土した。遺物出土地点が想定より浅いため、土層堆積状況の確認を実施した結果、地表下に堆積する黒色土が包含層（第1黒色土層）であることが判明した。なお、遺構もこの包含層の上面あるいは土層中から掘り込まれたものと想定できるものの、遺構埋土も黒色土であることから第1黒色土層中の遺構検出は困難であった。そのため、第1黒色土層の下層に堆積する第1ハイカ層上面で遺構検出を実施した。遺構は竪穴建物3棟、土坑・小土坑約150基が検出され、出土遺物は縄文土器や土師器、須恵器であった。竪穴建物から出土した遺物はすべて土師器と須恵器であり、須恵器の型式から古墳時代後期後半の集落跡である可能性が考えられた。なお、第1ハイカ層より下層にも黒色土が堆積しており、飯南町頼原地区の志津見ダム周辺の発掘調査事例<sup>(4)</sup>を踏まえ、下層確認を目的とした調査を実施したが、遺構・遺物は確認できなかった。

調査は研究者による指導を得ながら進め、11月29日に西尾克己氏による指導を受け、竪穴建物に伴う土器の器種構成や周辺遺跡との比較についての知見を得た。また、10月29日に中村唯史氏による指導を受け、三瓶山降下火山灰・降下軽石の鑑定など、地質学的知見を得た。

令和元年度の上ノ谷遺跡の発掘作業は、11月25日の完了協議を経て、12月9日に現地作業を終了した。なお、11月28日空中写真撮影を行うほか、随時測量も掘削作業に並行して実施した。

調査の進行と合わせて、成果を公開している。来島地区の住民を中心とした現地公開となつたが、11月27日に平日開催ながら20名の参加者があった。また、10月27日開催の飯南町来島地区文化祭で遺物展示および調査状況のパネル展示を実施した。

### （2）令和2年度の発掘調査

#### 上ノ谷遺跡の発掘調査（写真4）

令和2年度の発掘調査は上ノ谷遺跡1区西半および2区を対象とした。作業は5月11日より開始した。1区は昨年度の発掘調査からの継続であるが、2区は新たに実施するため、調査前測量を5月11日より開始し、5月15日に終了した。掘削作業は令和元年度の発掘により、地表下が包含層であることを踏まえ、人力による表土掘削を実施し、遺物の採集に努めた。1区西半は東半と比較し傾斜が緩く、第1ハイカ層下層に遺物が存在する可能性も残っていたため、先行して土層堆積状況の把握を行った。その結果、第2黒色土層および第3黒色土層から縄文土器・石器が出土し、遺跡の開始時期が縄文時代前期まで遡る状況を確認した。また、1区西半の状況を踏まえ、2区についても先行して土層堆積状



写真4 発掘体験の様子

況を確認した結果、第3黒色土層で縄文時代前期前半の遺構・遺物を確認した。なお、2区第2黒色土層は地滑りにより大規模な自然改変を受けており、遺構・遺物は確認できなかった。

以上の状況から、調査対象を第1ハイカ層上面までとする認識を改め、第3黒色土層の調査まで実施するように変更した。なお、令和元年度同様に、包含層と遺構埋土が同一であるため、黒色土中での遺構検出は困難であると判断し、黒色土下層に堆積するハイカ層および自然堆積層で遺構検出を実施した。遺構は、各調査区および土層で検出しており、1区では、第1ハイカ層上面で竪穴建物1棟、自然流路1条、土坑・小土坑約200基、第2ハイカ層上面で土坑・小土坑約50基、第3黒色土層下層で土坑・小土坑約50基を検出した。2区では、第1ハイカ層上面で竪穴建物1棟、掘立柱建物1棟、土坑・小土坑約120基、第3黒色土層下層で竪穴建物1棟、土坑・小土坑約100基を検出した。また、2区第3黒色土層では石器の集中する地点を確認した。1区第1ハイカ層上面で検出した竪穴建物からは、令和元年度と異なり、古墳時代中期後半～後期初頭頃の土師器が出土し、古墳時代の集落が想定より長く存続していたことが判明した。第2黒色土層に関する遺構・遺物は希薄であったが、1区で縄文時代前期後葉の土器が出土した。第3黒色土層から出土した土器は、西川津B式と連続する土器型式前後2型式程度で収まる状況であり、2区第3黒色土層下層で検出した竪穴建物からは縄文時代前期前葉の土器が出土した。これらの土器とともに、2区では石鎚が多数出土しており、微細な剥片も出土した。石鎚や剥片は基本的に黒曜石であったため、黒色土中での目視確認が困難であった。そのため、範囲を限定して水洗選別を実施し、遺物の採集に努めた。

調査は研究者による指導を得ながら進め、9月25日に令和元年度に引き続き、西尾克己氏による指導を受け、石東地域の土師器や周辺遺跡出土事例などの知見を得た。また、9月29日に中村唯史氏による指導を受け、出土石器の石材鑑定など地質学的知見を得た。2区で確認した縄文時代の地滑りについては、中村氏に加え、渡邊正巳氏からも指導を受けた。

令和2年度の上ノ谷遺跡の発掘調査は、途中、調査体制の変更を行いながら、12月7日の完了協議を経て、12月11日に現地作業を終了した。なお、調査の進捗に合わせ、9月15日、12月10日に空中写真撮影を行うほか、随時測量も掘削作業に並行して実施した。

令和2年度も調査の進行と合わせて、成果も公開している。新型コロナ感染症対策を講じながら、8月22日には来島地区の住民を中心とした現地公開と飯南町内の小学生を対象とした発掘体験を実施し、40名の参加者があった(写真4)。また、11月8日開催の飯南町来島地区文化祭では、現地公開以降の発掘進捗状況の説明や遺物展示を実施した。

### (3) 令和4年度の発掘調査

#### 高城跡の発掘調査(写真5)

高城跡の発掘調査は、令和4年5月17日から8月1日にかけて行った。掘削前に調査区内の地形測量および写真撮影等を行い、掘削作業は5月24日から開始した。調査区内では、主郭南側斜面に伸びる尾根の一部が三又に分かれており、それぞれの尾根に小規模な平坦面が確認された。そのため、尾根の長軸方向に合わせて3ヵ所のトレーナーを設定するとともに、平坦面が確認された場所にはベルトを残しながら調査を行った。その結果、小規模な平坦面が連続している地点(SX01)と、多量の炭をともなう土坑(SK01)が検出された。これらは高城跡に伴う遺構の可能性が考えられたため、6月13日に高屋茂男氏による調査指導を受け、高城跡全体の遺構の配置や特徴から調査地の位



写真5 高城跡調査指導風景



写真6 小原遺跡調査指導風景

置付けについて知見を得た。

高城跡の発掘調査は、当初の想定より土量が大幅に増えたことに加え、排土の処理方法が変更されたことなどがあり、当初の予定より時間を要した。7月1日に完了協議を行い、植生土壌による埋め戻し作業等を経て8月1日に現地作業を終了した。6月14日に遺構検出状況、7月11日に調査完了状況の空中写真を撮影した。また、発掘調査と並行して調査区周辺の地形測量を実施した。

#### 小原遺跡の発掘調査（写真6）

小原遺跡の発掘調査は、令和4年7月26日から11月1日にかけて行った。本調査では、島根県埋蔵文化財調査センターが行っている埋蔵文化財基礎研修の実技講座Ⅱとして、雲南市教育委員会文化財課の福田ことり氏が参加した。

調査地の周囲は急傾斜であったため、調査地へ安全に通行できるよう仮設足場を設置した。掘削前に調査区内の地形測量および写真撮影等を行い、掘削作業は8月8日から開始した。

小原遺跡では、令和元年度の分布調査で尾根上に平坦面とマウンド状の高まり11基が確認されている。開発予定地内には高まり4基が含まれており、古墳もしくは墳丘墓の可能性が想定されたため、それぞれ1号墳～4号墳と仮称して調査を行うこととした。

基本土層や遺構の性格が不明であったため、尾根筋と墳丘の軸方向に合わせてトレントを設定して掘削を行った。その結果、調査区中央では黒色土や三瓶山起源の火山灰（ハイカ）と思われる層が互層状に堆積していることを明らかにし、また墳丘頂部では盛土を施していることが確認された。トレント調査の結果をもとに調査区全体の掘り下げを行い、1号墳と2号墳の墓壙（ST01～ST03）、墳丘周辺の溝（SD01～SD05）、土坑（SK01～SK03）を検出した。最終的に、墳丘全面を調査した1号墳および2号墳については、いずれも古墳時代前期の方墳であることが判明した。3号墳と4号墳については、墳端付近しか調査していないが、同じく前期古墳である可能性が想定された。10月4日には、岩本崇氏による火山灰の由来や堆積状況等について知見を得た。10月17日に完了協議、10月19日に調査区全体の空中写真撮影を行い、埋め戻し作業を経て11月1日に現地作業を終了した。なお、発掘調査と並行して測量調査も随時行った。調査成果については、10月1日に地元向けの現地説明会を行い、12名の参加者があった。



写真7 報告書作成作業の様子

### 3. 整理作業

#### (1) 令和元年度の作業

令和元年度は、発掘作業と並行して、現場事務所で遺物の洗浄、埋蔵文化財調査センターで遺物の注記・分類・接合を実施した。現地調査が終了した12月以降は、埋蔵文化財調査センターで遺構図面・写真の整理、出土遺物の実測を行った。また、遺構内土壤に含まれる種子・炭化物の採集のため、水洗後の遺構埋土の確認を実施した。

#### (2) 令和2年度の作業

令和2年度は、発掘調査と並行して、遺物の洗浄、注記、分類、接合を埋蔵文化財調査センターで実施した。現地調査終了後の12月からは、水洗土壤からの遺物抽出作業、遺構図作成、出土遺物の実測を進めた。出土遺物のうち、石器石材については中村唯史氏の指導を受けた。ただし、縄文土器などの土器については、新型コロナウイルス感染症蔓延防止対応のため、調査指導が実施できなかった。そのほか、猪子原遺跡出土鉄斧の保存処理を委託により実施した。

#### (3) 令和3年度の作業

令和3年度は、遺構図作成と遺物の分類・集計・浄書・写真撮影を実施するほか、原稿執筆、報告書の編集作業を行った（写真7）。また、石器石材の産地推定分析および石器に残留したデンプン粒の分析を委託した。新型コロナウイルス感染症予防のため、外部との接触を限定したが、縄文土器については矢野健一氏の指導を受けた。

#### (4) 令和4年度の作業

令和4年度は高城跡および小原遺跡について、遺物の洗浄・注記・分類・接合・実測・浄書・写真撮影、遺構の図面整理、遺構図作成、原稿執筆、報告書編集など、報告書作成の一連の作業を行った。また、小原遺跡墓壙埋土のフルイ作業を行ったほか、炭化物の放射性炭素年代測定の分析を委託した。

#### (5) 令和5年度の作業

令和5年度は、報告書の校正作業・印刷を行った。

## 第3節 調査体制

発掘調査、報告書作成は、次の体制で行った。

調査主体 島根県教育委員会

令和元（2019）年度

事務局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループGL 桑谷昭年、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一

島根県埋蔵文化財調査センター

所長 植 真治、総務課長 和田 諭、管理課長 守岡正司、調査第一課長 深田 浩  
(担当者) 調査第一課主事 今福拓哉

臨時職員 糸賀伸文・渡邊真二

令和2（2020）年度

事務局 教育庁文化財課

課長 萩 雅人、文化財グループGL 田中明子、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一  
島根県埋蔵文化財調査センター

所長 植 真治、総務課長 和田 諭、管理課長 守岡正司、調査第一課長 林 健亮  
(担当者) 調査第一課主任主事 今福拓哉、同主事 鈴木七奈

会計年度任用職員調査員 柳浦俊一、同調査補助員 片寄雪美・米田美江子

令和3（2021）年度

事務局 教育庁文化財課

課長 中島正顕、文化財グループGL 田中明子、管理指導スタッフ調整監 池淵俊一  
島根県埋蔵文化財調査センター

所長 植 真治、総務課長 坂根祐二、管理課長 深田 浩、調査第二課長 岩橋孝典  
(担当者) 調査第二課主任主事 今福拓哉

会計年度任用職員調査補助員 片寄雪美

令和4（2022）年度

事務局 教育庁文化財課

課長 中島正顕、文化財グループGL 田中明子、管理指導スタッフ調整監 原田敏照  
島根県埋蔵文化財調査センター

所長 熱田貴保、総務課長 坂根祐二、管理課長 深田 浩、調査第一課長 林 健亮  
(担当者) 調査第一課企画員 稲田陽介

会計年度任用職員調査補助員 渡邊真二

令和5（2023）年度

事務局 教育庁文化財課

課長 村上かおる、課長補佐 田中明子、管理指導スタッフ調整監 原田敏照  
島根県埋蔵文化財調査センター

所長 熱田貴保、総務課長 坂本孝良、管理課長 深田 浩、調査第一課長 林 健亮  
(担当者) 調査第一課主幹 稲田陽介

## 註

- (1) 中国電力株式会社から中国電力ネットワーク株式会社へ送配電事業が継承され、令和2年4月からは中国電力ネットワーク株式会社が事業主体となった。そのため、令和2年度以降の文化財保護法上の法的手続きは中国電力ネットワーク株式会社が実施した。
- (2) 令和2年度4月に送配電事業が中国電力株式会社から中国電力ネットワーク株式会社へ継承されたことを受け、以降の島根県教育委員会からの回答・協議については中国電力ネットワーク株式会社を相手方として実施している。
- (3) 発掘調査に先行し、猪子原遺跡の調査前測量を令和元年5月29日に島根県埋蔵文化財調査センターの研修として実施した。
- (4) 飯南町頼原地区の志津見ダム建設事業に伴う発掘調査では、第1ハイカ下層に堆積する黒色土層（第2・3黒色土層）からも遺物が出土している。第2黒色土層で縄文時代前期末から後期前葉、第3黒色土層で縄文時代早期から前期後葉の遺物が出土している。

第3表 試掘調査出土遺物観察表

土器

番号	遺物	回収	出土遺構	種別	器種	分類	法量 ( ) 内外元値				土色	調査・手法の特徴
							口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)		
5 1	31 H30 試掘	回文土器	深鉢	後期							外: 淡黄褐色(10YR8/3) 内: 淡白色(10YR8/2)	外: 卷貝条痕 内: ナデ
5 2	31 H30 試掘	土師器	甕				3.1				外: 淡褐色(5YR7/8) 内: 淡褐色(5YR7/8)	外: 木明
5 3	31 H30 試掘	須恵器	环身	石見4期	(12点)	3.4		(14.8)			外: 反色(7.5Y9/1) 内: 淡色(10Y6/1)	外: 回転ナデ, 回転ヘラケズリ, 沈線 内: 回転ナデ
10 1	31 R1 試窓	土師器	甕				5.0		(23.0)		外: 明赤褐色(2.5YR8/6) 内: 棕色(7.5YR6/6)	外: ナデ 内: ヘラケズリ

石器

番号	遺物	回収	出土遺構	種別	器種	分類	法量 ( ) 内外元値				石材	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
10 2	31 R1 試窓	石器	敲石				7.4	3.6	3.6	141.35	花崗岩	棒状

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

#### 1. 遺跡の立地

猪子原遺跡と上ノ谷遺跡は、島根県飯石郡飯南町下来島に所在する。猪子原遺跡は神戸川上流に所在する発電用ダム湖である来島湖西側の標高約462mの丘陵尾根上に立地する。上ノ谷遺跡は猪子原遺跡から約3.5km南の丘陵緩斜面上に立地する。神戸川より約1km離れているものの、神戸川支流となる小河川沿いに所在する。上ノ谷遺跡の標高は約430mである。高城跡は、島根県出雲市知井宮町に所在する。標高約105mの尾根頂部に設けられた主郭を中心として周辺の尾根や谷間に広く展開しており、遺跡の北西には神西湖、東には保知石川が流れる。小原遺跡は雲南市掛合町波多に所在する。神戸川水系最大の支流である波多川の西方にある、標高約416～418mの丘陵尾根上に立地する。

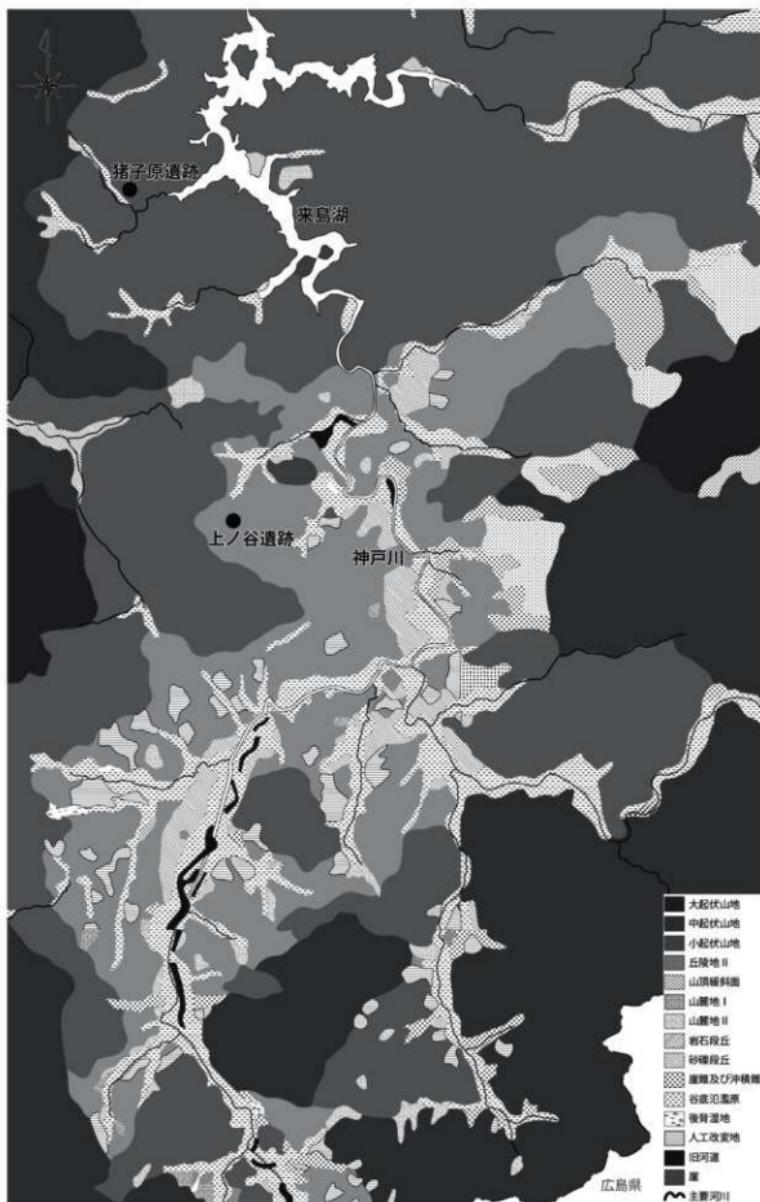
#### 2. 遺跡周辺の地理的環境

猪子原遺跡と上ノ谷遺跡が所在する飯南町来島・赤名地区は、中国山地の中央近くに位置し、南東方向には標高700m～800mの山々が連なり、東方向には琴引山（標高1013m）、南西方向には充满山（標高719m）がある。これらの山々の間を神戸川とその支流が南から北方向へ流れおり、川沿いには谷底氾濫原や後背湿地を由來とする盆地地形が広がる（第13図）。両地区的特徴的な地形である盆地地形は、赤名地区を中心として認められる。盆地は、河川の蛇行による平坦な谷底地形の形成と氾濫原に堆積した河川堆積物によって形成されるため、起伏が小さく、比較的広くなっている<sup>(1)</sup>。両遺跡はこの盆地の周囲に存在する地形分類上の丘陵・山地に位置している。

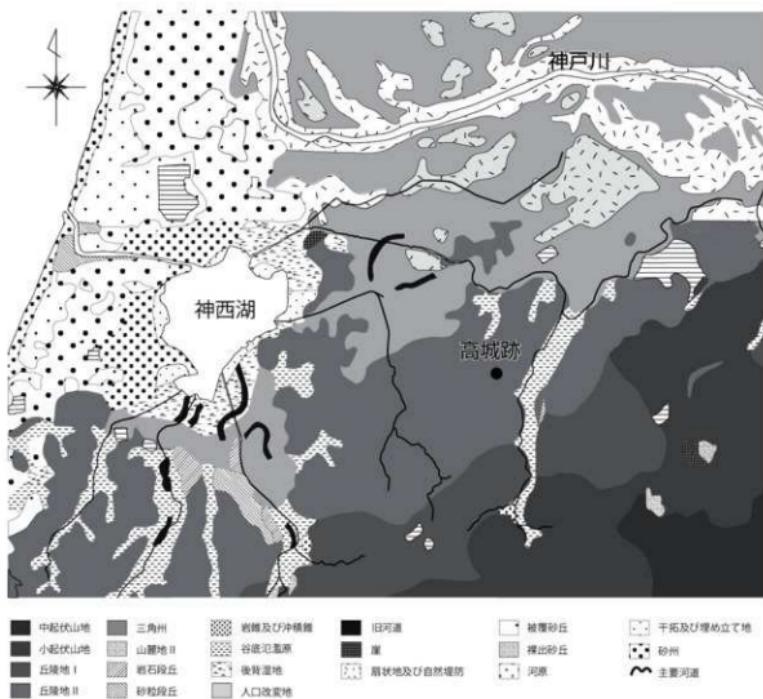
両遺跡の立地としては、猪子原遺跡が丘陵頂部付近に立地し、盆地や周囲の山々を見渡すことのできる眺望の良い立地といえる。一方、上ノ谷遺跡は盆地からの距離は遠くないが、入り組んだ丘陵谷間に位置しており、盆地から視認できない隠れた場所にあるといえる。

高城跡は出雲平野南端の丘陵地に位置し、北方には神戸川、北西側には神西湖を望む（第14図）。遺跡の東側には十間川水系の二級河川保知石川が北流しており、周囲には約200～300mほどの細長い谷が形成されている。高城跡の眼下に広がる出雲平野は、中国山地と北山山系（島根半島）に南北を挟まれ、斐伊川と神戸川の沖積作用によって形成された沖積平野である。奈良時代に編纂された『出雲國風土記』によると、出雲平野南西部から神西湖一帯は神門水海と呼ばれ、当時は現在の神西湖よりもはるかに大きく、日本海に向けて大きく口を開いた入海が形成されていた。しかし、斐伊川や神戸川の急速な堆積作用により北方から徐々に水域が狭まっていき、約1,000年前に潟湖の潮流口が閉鎖されることによって淡水環境となった。中世から近世には、山間部で盛んに行われた、たたら製鉄に伴う鉄穴流しによって、多量の土砂が斐伊川や神戸川に流れ、出雲平野の発達に影響を与えた。近世初期になると、斐伊川が完全に東流するようになり、神西湖は、貞享期に神戸川と結ぶ水路の埋積や差海川の開削による海水の流入などによって、汽水環境へと変わっていき、現在の地形へと受け継がれていく。

小原遺跡が所在する掛合町は、中国脊梁山地の北側に位置する。全体として山がちの地域で、町



第13図 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡周辺の地形分類図 (S=1:50,000)



第14図 高城跡周辺の地形分類図 (S=1:50,000)

域は斐伊川水系に属する三刀屋川と、出雲地方西部を流れる神戸川流域にまたがっている。遺跡が立地する波多地区は掛合町南西部に所在し、海拔高度723mの野田山を擁している。遺跡の周囲には谷底氾濫原などに由来する小盆地が広がり、東側には上刀根付近に源をもち神戸川水系最大の支流である波多川が北流する (第15図)。南側には県道川本波多線が通り、隣接する飯南町へ向かう交通路として利用されている。

### 3. 三瓶山噴火と火山灰

猪子原遺跡と上ノ谷遺跡では、三瓶山の噴火に伴い噴出・降下した火山灰が認められる。三瓶山は大田市と飯南町にまたがり所在する活火山で、今からおよそ10万年前に活動を始めている。過去に数回の活動期を経験しているが、地学的な見地から三瓶山の噴火活動について研究が進められ、年代や噴出物の様相が報告されている (松井・井上 1970・1971、松井 1998・2002ほか)。

飯南町志津見地区的板屋Ⅲ遺跡の発掘調査 (島根県 1998a) により、縄文時代に3回の噴火活動を繰り返したことが層位的に確認されて以降、下山遺跡 (島根県 2002) など、三瓶山隣接地域の遺跡で三瓶山噴出物を確認している。また、神戸川下流地域にも噴出物が運ばれており、三田谷Ⅰ遺跡 (島根県 2000) などの出雲平野部の遺跡でも堆積が確認されている。



第15図 小原遺跡周辺の地形分類図 (S=1:50,000)

三瓶山の噴火活動を示す基本層序とその年代については、板屋Ⅲ遺跡の層位関係を基にした基本層序と出土遺物から整理がされている（角田 2004・2009）。また、AMSによっておおよその歴年代も与えられている（小林・角田 2006）。これらによると、三瓶山由来の火山灰（以下、ハイカ）と黒色土（クロボク）が互層状に堆積しており、志津見地区では上層から『第1黒色土層』—『第1ハイカ層』—『第2黒色土層』—『第2ハイカ層』—『第3黒色土層』—『第3ハイカ層』—『第4黒色土層』の順に堆積する。第3ハイカ（三瓶切割降下火山灰）が繩文時代草創期から早期頃（BC10950-8265年）、第2ハイカ（三瓶角井降下火山灰）が前期後葉頃（BC3650-3550年）、第1ハイカ（三瓶志津見降下火山灰・太平山火碎流・太平山降下火山灰）が後期前葉頃（BC2145-2025年）に噴出・降下したと推測されている<sup>④</sup>。

猪子原遺跡と上ノ谷遺跡でもハイカが検出されており、上ノ谷遺跡では志津見地区同様に黒色土とハイカが互層状に堆積していることを確認した（図版12）。また、遺物も同様に、火山灰由来の粒子などと有機物が混じることで形成されるクロボク土壤（黒色土）から出土している。なお、上ノ谷遺跡の第1・3黒色土層出土遺物は、志津見地区的第1・3黒色土層出土遺物の時期と矛盾しない<sup>⑤</sup>。そのため、志津見地区の基本層序とほぼ対応することが指摘できる。小原遺跡でも、同様に黒色土とハイカが互層状に堆積している状況が認められた（図版67）。遺物は出土していないが、志津見地区的層序との対応が想定される。

## 第2節 歴史的環境

### 1. 猪子原遺跡と上ノ谷遺跡の歴史的環境

猪子原遺跡と上ノ谷遺跡が所在する来島・赤名地区は、神戸川とその支流沿いの谷底氾濫原や後背湿地を由来として形成された盆地を中心とし、多くの遺跡が確認されている（第16図）。しかし、発掘調査が行われていないため、賀田城跡（第16図7）や瀬戸山城（同図28）などの城跡、長者原古墳群（同図23）などの墳墓といった、地形的に認識できるもの以外については、多くの遺跡で様相が不明である。また、地形から遺跡として認識できるものについても、遺物などが出土していないため、詳細は不明である。ただし、表採や不時発見により出土した遺物が赤穴八幡宮に所蔵されており、断片的ではあるものの、歴史的環境を把握することが可能である。そのため、本節では赤穴八幡宮所蔵考古資料を中心とし、両地区における遺跡の変遷や概要を述べる<sup>④</sup>。なお、赤穴八幡宮所蔵の考古資料のうち、実測図（第17・18図）を掲載したものについては第4表で観察表を付した。中世以降の歴史的環境については、資料が乏しく、詳細が不明のため、城跡・居館跡および生産遺跡、銀山街道関連について着目し、概要を述べる。

#### （1）旧石器・縄文時代

来島・赤名地区においては、旧石器時代の遺跡は現在のところ確認されていない。縄文時代の遺跡は少ないものの、上ノ谷遺跡（同図2）や奥谷遺跡（同図27）、粟屋谷遺跡（同図34）、金屋谷遺跡（同図25）などがある。縄文時代後期以前の遺跡は少なく、本書で詳述する上ノ谷遺跡で、縄文時代前期前葉の住居跡や石器製作を行なっていたことが判明している程度である。縄文時代後期以降では、粟屋谷遺跡（第17図4）や金屋谷遺跡（同図8～10）で縄文土器が確認されているほか、奥谷遺跡では突堤土器が表採されている。また、奥真木地区では石斧（同図2）が表採されている<sup>⑤</sup>。

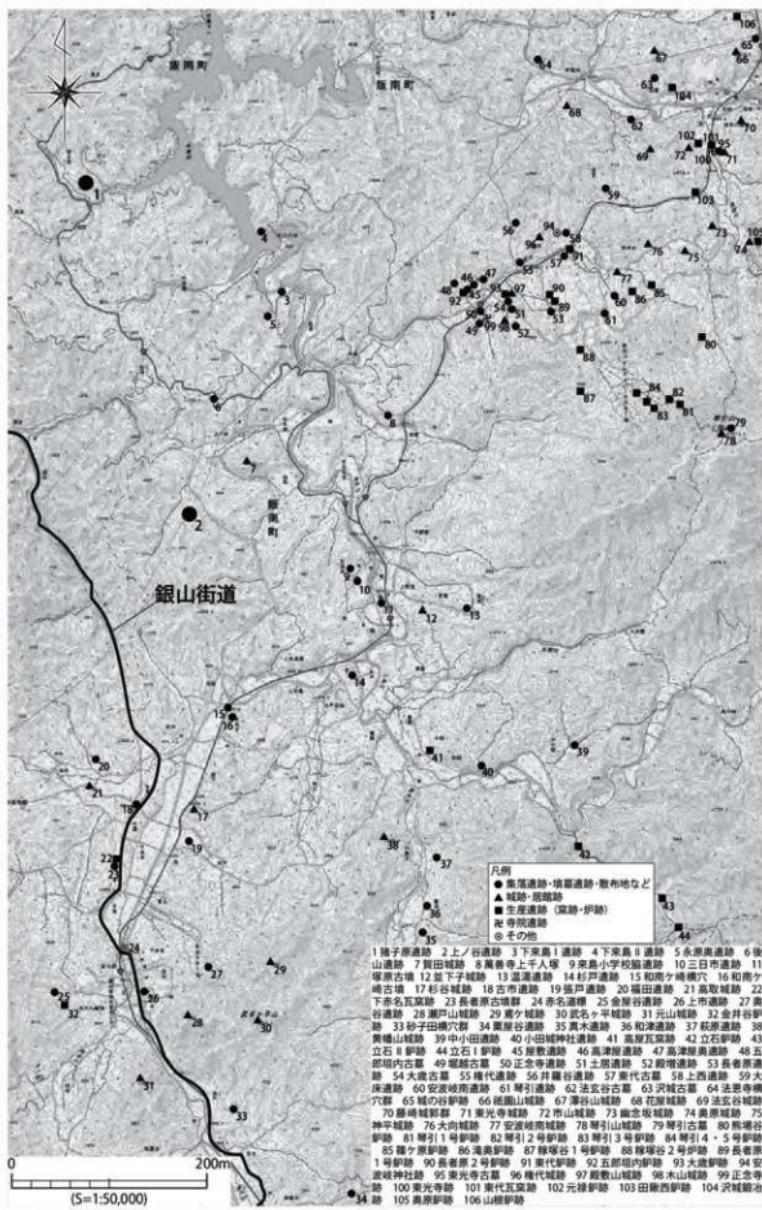
#### （2）弥生時代

弥生時代の遺跡は、確認されている遺跡は少なく、奥谷遺跡や上ノ谷遺跡がある。このほか、出土地点は不明であるが、川尻地区の来島湖周辺で遺物が採集されている（第18図1～11）。弥生時代中期から終末期の遺物が確認でき、後期前半の土器が主体となる。表採資料のみであり、遺跡の性格などは不明であるものの、来島湖周辺に弥生時代の集落が存在したことを推測できる。また、赤穴八幡宮付近で磨製石剣（第17図3）や張戸谷地区で石斧（同図1）が出土している。

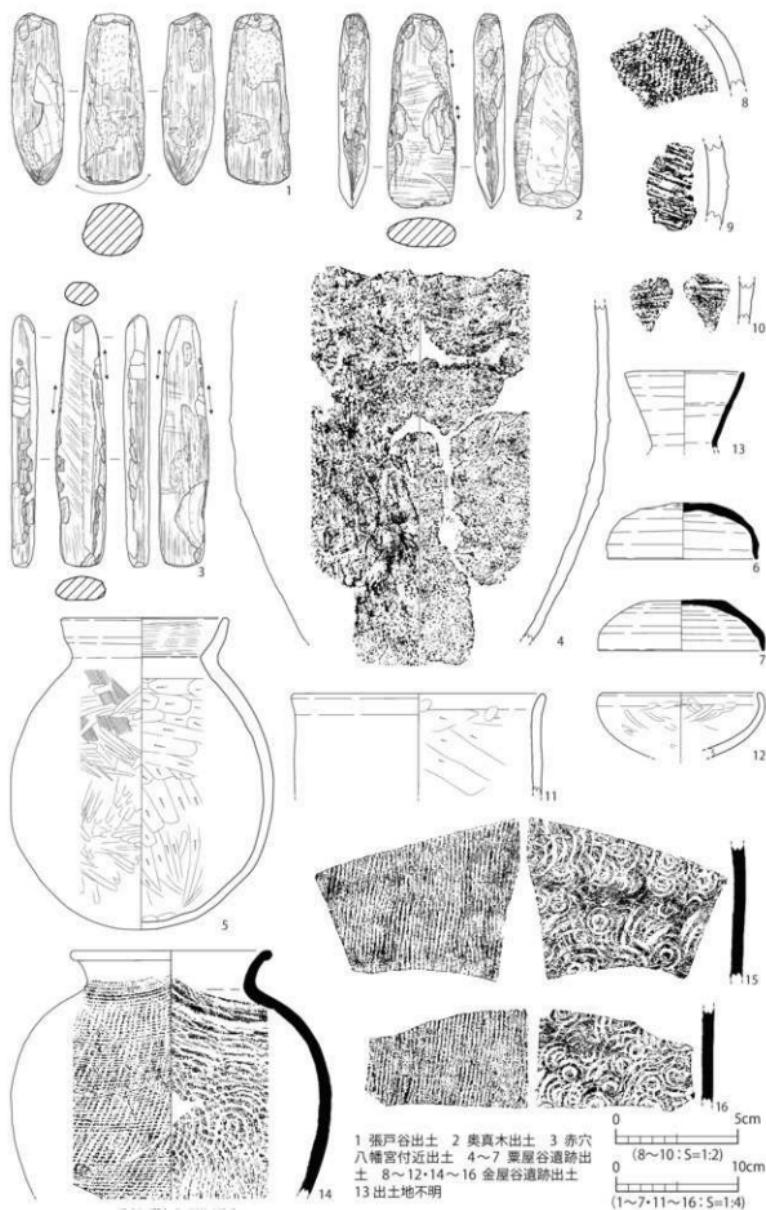
#### （3）古墳時代

古墳時代の集落遺跡としては、上ノ谷遺跡で古墳時代後半期の竪穴建物を確認している。このほか、奥谷遺跡や粟屋谷遺跡（第17図5～7）、金屋谷遺跡（同図11・12・14～16）で土師器、須恵器が確認できるほか、出土地不明であるが提瓶（同図13）も表採されている。表採資料中心であるが、古墳時代後半期に来島・赤名地区で集落が形成されていたことを推測でき、本書報告の上ノ谷遺跡の集落展開時期と対応する時期の遺物が各地で認められる。

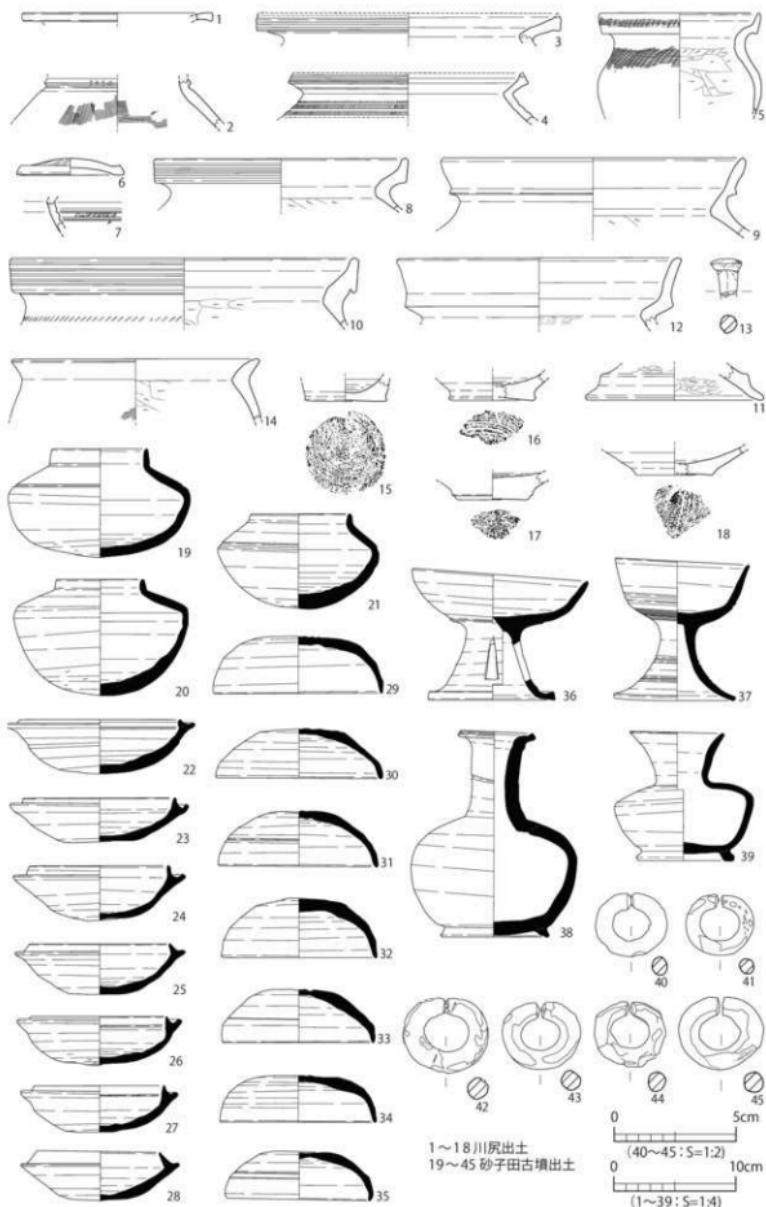
墳墓遺跡としては、猪子原遺跡（第16図1）や塚原古墳（同図11）、長者原古墳群、砂子田横穴群（同図33）などがある。猪子原遺跡は本書で詳細に報告するが、1号墳は古墳時代中期後半の方墳であり、造り出し付きの円墳あるいは帆立貝形古墳とみられる塚原古墳が同時期の古墳と推測できる。砂子田横穴群は横穴が露出した際に遺物が採集されており、須恵器や耳環が認められることから、古墳時代末の横穴群であることが推測できる（第18図19～45）。



第16図 猪子原遺跡・上ノ谷遺跡と周辺の遺跡



第17図 周辺遺跡出土遺物（赤穴八幡宮所蔵）(1)



第18図 周辺遺跡出土遺物（赤穴八幡宮所蔵）（2）

#### (4) 古代

古代遺構の遺跡については、資料が乏しく、表採資料も少ないため様相は不明瞭である。ただし、律令時代には両地区の大部分が飯石郡の来島郷に属しており、下来島「手倉」に来島郷の正倉の存在が推定されている（赤来町 1972）。また、「山雲国風土記」には、飯石郡の通道として「波多径」、「須佐径」、「志都美径」が記載されており、連続してつながり神戸郡と備後國を結ぶ「三径」であることが指摘されている（岡 2006）。これらの通道のうち、「志都美径」が現在の来島湖周辺を経由し、飯石郡家の南西道と合流し、備後國三次郡との境の三坂（飯南町赤名峠）に至ることが想定されている。「志都美径」の推定ルートとなる下来島川尻地区では、9世紀頃の遺物（第18図14～18）が表採されている。国内各郡家を結ぶ伝路を補完するように存在する小道は、古代交通を検討する上で重要な手掛かりとなると考えられる。

#### (5) 城跡

城跡については、賀田城跡や瀬戸山城跡、杉谷城跡（第16図17）、高取城跡（同図21）、鳩ヶ城跡（同図29）、武名ヶ平城跡（同図30）、元山城（同図31）など多くの城跡が存在する。これらは出雲、石見、備後の境に位置し、交通の要所となる赤名地区に集中している。毛利氏による出雲侵攻の際には、赤穴氏が居城とした瀬戸山城を攻略するため、瀬戸山城の尾根筋に武名ヶ平城跡、神戸川を挟んで元山城を築いている。瀬戸山城は赤穴氏の居城であるが、毛利氏の攻撃により赤穴氏が降伏した後は出雲侵攻の拠点となり、毛利氏退去後には堀尾氏により近世城郭に改修されている。

これらの赤名中心地のほか、出雲・松江と広島を結ぶ交通路（現在の国道54号沿い）にも祇園山城跡（同図66）や東光寺城跡（同図71）、木山城跡（同図98）など多くの山城が確認されている。

#### (6) 生産遺跡

窯業関係遺跡や製鉄遺跡が確認されている。窯業関係遺跡では、詳細は不明であるが、下赤名瓦窯跡（第16図22）や高尾瓦窯跡（同図41）などの窯業関係遺跡があるほか、来島地域の川尻地区では窯道具が採集されている（第18図13）。

製鉄遺跡では、金井谷鉛跡（第16図32）や立石鉛跡（同図42）などの製鉄遺跡が存在する。立石鉛跡は下来島の永田家や雲南省吉田町の田部家などが経営し、江戸から明治時代にかけて操業された鉛である。製鉄関連資料が報告されており、製鉄炉の構築・操業や金屋子信仰といった、たら吹製鉄の全体像を把握できることが指摘されている（角田 2017・2018）。当該地域の製鉄業のあり方を知るうえで貴重な資料である。

#### (7) 銀山街道

初期の銀山街道は、毛利元就により銀の積出港および物資輸入港として利用された温泉津が銀山経営の基地として定められた以降、銀山と温泉津を結ぶ道として開拓されている。慶長5（1600）年に徳川の直轄支配下に入った後は、海上輸送から輸送路の転換をはかり、陸路による尾道への輸送を目的とし、大森から鞆瀬を経由し、赤名へと通じる街道を利用している。この街道が江戸時代に銀の輸送路として銀山街道と呼ばれた路線であり、赤名中心地で松江・広島街道や赤名・出羽道などの街道と合流分岐する。赤名中心地は近世初期に赤名古市にあった町並みを移し、宿場町として形成され、交通の要路として物資の集散、特に銀の輸送の離立場の一つとして重要な位置を占めている。銀山街道は、赤名宿の入口で松江・広島街道と合流しており、赤名道標（第16図24）が存在する。このほかにも、鉛山街道の関連遺跡として、下赤名一里塚跡などの一里塚跡が確認できる。

## 2. 高城跡の歴史的環境

高城跡が所在する出雲平野南西部は、古くから良好な港湾として利用された入海地帯に接し、南から派生する丘陵およびその谷に形成された谷底平野を中心に多くの遺跡が展開している。ここでは、縄文時代から近世にかかる遺跡の動向を、周辺の様相も含めて概観する（第19図）。

### （1）旧石器・縄文時代

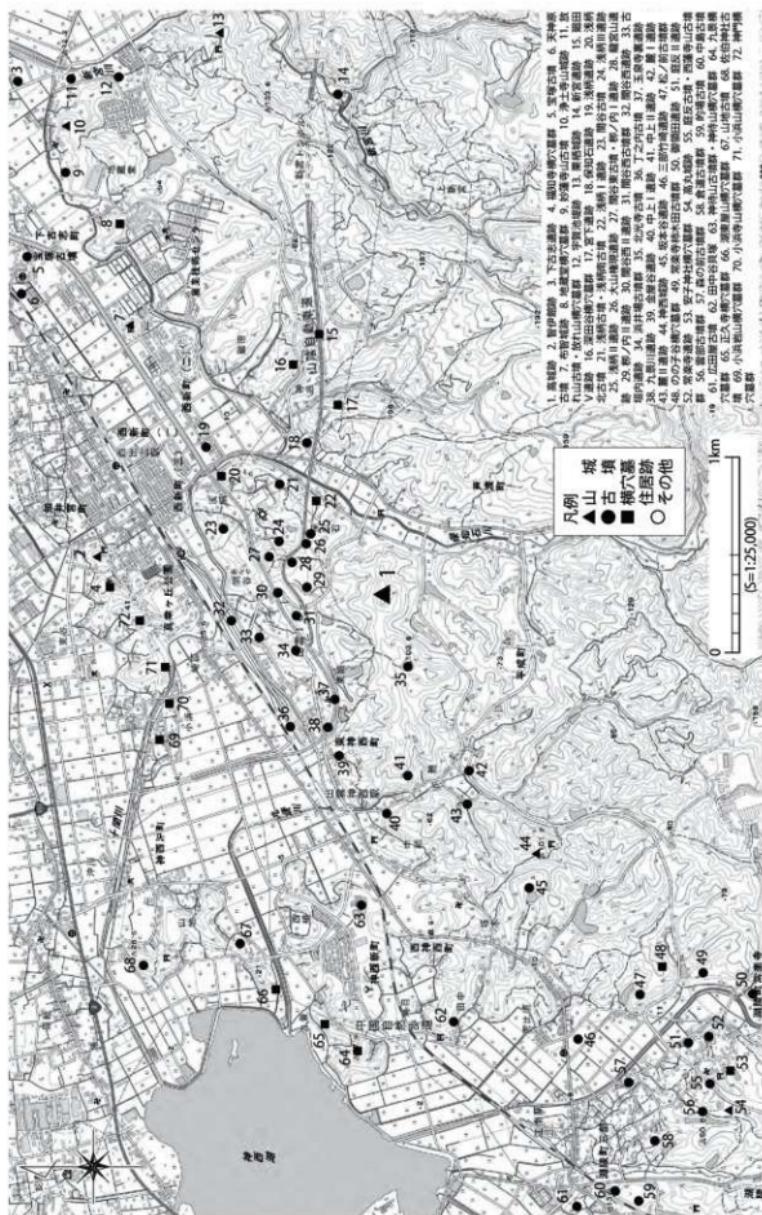
当地域では、今のところ旧石器時代の遺跡は確認されていない。しかし、周辺地域では出雲市船津町畠ノ前遺跡でナイフ形石器が出土しており、当地域でも今後旧石器時代の遺跡が発見される可能性がある。縄文時代になると、出雲平野で早期以降の遺跡が確認されるようになる。現在確認できる最古の土器は、山持遺跡から出土した押型文土器である。早期末から前期には、北山南麓の菱根遺跡や大社湊沿いの古砂丘上に立地する上長浜貝塚などで、該期の土器や石器が出土している。菱根遺跡や上長浜貝塚では隱岐産と思われる黒曜石の石器が認められ、この時期に海を介した交流があったことがうかがえる。出雲平野南西部では、保知石遺跡（第19図18）、浅柄遺跡（同図19）、九景川遺跡（同図38）、麓II遺跡（同図43）、三部竹崎遺跡（同図46）、御領田遺跡（同図50）、京田遺跡などが知られている。麓II遺跡では、後期初頭や中葉の土器がまとまって出土しているほか、神西湖南岸の御領田遺跡では後期前葉の竪穴建物が検出されており、京田遺跡とともに谷部全体に集落が広がっていたものと推測される。晚期になる保知石遺跡、浅柄遺跡、九景川遺跡、三部竹崎遺跡などで晚期の遺物が出土している。保知石遺跡では突縄文土器や大型の打製石斧が多量に出土し、農耕との関わりが指摘されている。

### （2）弥生時代

弥生時代になると、出雲平野全体に集落の形成が進む。本地域の弥生時代前期の遺跡は少なく、九景川遺跡や保知石遺跡、三部竹崎遺跡などで遺物が散見されるに過ぎない。中期中葉以降になると、出雲平野で後期まで継続する大規模集落が出現する。下古志遺跡（第19図3）や田畠遺跡などで該期の集落が営まれており、環濠を伴う可能性が指摘されている。後期には各地で遺跡が急増する。当地域では庭反II遺跡（同図51）、九景川遺跡などが確認されるほか、玉泉寺裏遺跡（同図37）では竪穴建物や加工段、麓II遺跡では水路跡から木製品が出土している。また、常楽寺柿木田古墳群（同図49）では竪穴建物と溝状遺構が検出されている。墳墓は玉泉寺裏遺跡で弥生時代終末期から古墳時代初頭の木棺墓が検出されているのみで、出雲平野中央・北部に見られる四隅突出型墳丘墓は本地域では今のところ確認されていない。

### （3）古墳時代

古墳時代前期の集落は、弥生時代中期中葉から継続して営まれることが多い。一方で古志本郷遺跡や下古志遺跡では大溝への土器の大量廃棄が確認されており、集落が衰退していく現象が認められる。本地域では、玉泉寺裏遺跡や麓II遺跡などで前期の遺物が一定量出土している。また、浅柄遺跡では前期後半から中期前葉の建物跡、九景川遺跡では土器を伴う水辺の祭祀が確認されるなど、当地における集落の様相の一端をうかがうことができる。墳墓は、前期末から中期に平野部周辺の丘陵上に常楽寺柿木田古墳群、山地古墳（第19図67）、浅柄北古墳（同図20）、浅柄II古墳（浅柄II遺跡）（同図25）、間谷東古墳（同図27）、などが作られる。前期末から中期初頭に築造された常楽寺柿木田1号墳は、全長約35mの前方後円墳と推定され、後円部上に墓壙3基が確認されたほか、後円部北側の盛土上に礫敷が検出されている。本地域で注目されるのは、礫床を備えた古墳の



第19図 高城跡と周辺の遺跡

出現である。前期末頃の山地古墳では礫敷きの箱形木棺、浅柄Ⅱ古墳では第1主体部には礫敷きの粘土椁、第2主体部には礫椁の箱形木棺が備えられている。さらに中期初頭の間谷東古墳では、奥才型木棺と称される棺内礫敷組合式木棺を備えており、同じタイプの埋葬施設は北部九州から北近畿にかけて広く分布していることから、日本海沿岸にまたがる広域的な地域間交流の存在が想定されている。中期中葉には、神門水海南側の丘陵上に全長64mの前方後円墳である北光寺古墳（同図35）が築造される。北光寺古墳は同時期の出雲西部では最大級の規模を誇り、その出現の解明が望まれる。このほか、雲部古墳群（同図56）、浜井場古墳群（同図34）、丁之内古墳（同図36）などがある。浜井場2号墳は、一辺約12m程度の方墳で主体部から直刀と鉄鏃の残欠が出土し、中期前半代の古墳と推定されている。

古墳時代後期になると、出雲平野では今市大念寺古墳や上塩治築山古墳、上塩治地藏山古墳といった大型の首長墳が相次いで築かれる。神戸川左岸地域でも豊富な副葬品が出土した前方後円墳である妙蓮寺山古墳（同図9）、圭頭大刀が出土し精美な切石づくりの横穴式石室を有する放れ山古墳（同図11）などが築造される。大型古墳の築造が停止されるのとほぼ期を同じくして、平野南部の丘陵には大規模な横穴墓群が営まれるようになる。本地域周辺では、神門横穴墓群（同図72）や地蔵堂横穴墓群（同図8）、安子神社横穴墓群（同図53）、のの子谷横穴墓群（同図48）などが知られている。後期の集落については、浅柄Ⅲ遺跡（同図24）で掘立柱建物跡が確認されている。

#### （4）古代

高城跡の位置する神門水海南岸域は、奈良時代の律令制下では神門郡滑狭郷に属する。出雲平野における官衙関連遺跡は、神門郡では古志本郷遺跡が郡家の関連施設として比定されているほか、天神遺跡、三田谷Ⅰ遺跡、尾山遺跡、古志遺跡などが官衙関連遺跡である可能性が指摘されている。また、九景川遺跡では奈良時代から平安時代初期の建物跡や、遺物が多数確認されている。なかでも桁行14mを測る大型の掘立柱建物跡や漆付着土器などは、その性格が注目されるところである。さらに、浅柄遺跡（第19図19）では7～8世紀にかけての多数の掘立柱建物跡が検出されている。出雲平野南縁部には、古代山陰道が通じていたと推定されることから、その関係の解明も今後の研究課題の一つである。このほか、常楽寺遺跡（同図52）や御領田遺跡、庭反Ⅱ遺跡などでも掘立柱建物跡が確認されている。寺院跡としては、神門寺境内廐寺や長者原廐寺が古くから知られているほか、墳墓遺跡は、西日本では稀な鍔手刀が出土した小坂古墳石櫃、方形マウンドを備え石櫃が出土した光明寺3号墓、石製骨蔵器が使用されていた菅沢古墓や朝山古墓などが確認されている。

#### （5）中世

出雲平野における中世の集落跡としては、蔵小路西遺跡が特筆される。蔵小路西遺跡では、一町四方の大溝に囲まれた中に多数の建物を配置する方形居館跡が確認されており、出土した陶磁器類から12世紀から15世紀にかけてのものと考えられることから、古代有力豪族勝部氏の系譜を引くといわれる朝山氏、または出雲国守護職にあった佐々木氏（塙谷氏）の居館と推定されている。このほか、大型建物跡や最古級の将棋駒が確認された高浜Ⅰ遺跡も居館の可能性が指摘されている。本地域では、建物跡や青磁が確認された庭反Ⅱ遺跡や常楽寺遺跡のほか、籠Ⅱ遺跡や坂本谷遺跡（第19図45）などで建物跡が確認されている。

出雲大社境内遺跡で発見された巨大な柱で構成される社殿跡は、宝治2年（1248）の造営と推定され、当時の出雲大社（杵築大社）の本殿がかかなり大きな掘立柱の構造であったことがうかがえる。

墳墓では、青磁の優品が副葬された荻杵古墓や、木棺墓が検出された姫原西遺跡、余小路遺跡、藏小路西遺跡などがあげられる。神門水海周辺では上長浜貝塚、九景川遺跡、御領田遺跡など多くの貝塚が形成されている。特に上長浜貝塚は全国的にも屈指の規模を誇る。ヤマトシジミの貝殻や魚骨、漁撈具などに加え、イノシシなどの獸骨や鹿角加工品なども出土しており、漁撈だけではなく狩獵にも従事していた可能性が指摘されている。

室町時代から戦国時代には、出雲平野周辺で多くの城館が築かれる。毛利元就によって尼子氏攻略の拠点として築かれた鳶ヶ巣城や、神西氏代々の居城であり出雲十旗に数えられる神西城（同図44）、古志氏の居城と伝えられている栗柄城跡（同図13）などがあげられる。神西城では、近接する麓II遺跡・坂本谷遺跡で丘陵斜面上に防御施設と考えられる柵列状の遺構が確認されており、従前の推定範囲より遙かに広域な縄張りを有していたことが判明している。また、中上II遺跡（同図41）では中世前半頃の大規模な盛土造成が明らかにされており、神西城との関係が指摘されている。

### （6）近世・近代

近世には斐伊川は完全に東流し、沼沢地化した旧神門水海の新田開発が進んだ。集落としては、保知石遺跡や三部八幡下遺跡で墓や建物跡が見つかっているが、集落全体の様相は不明である。

## 3. 小原遺跡の歴史的環境

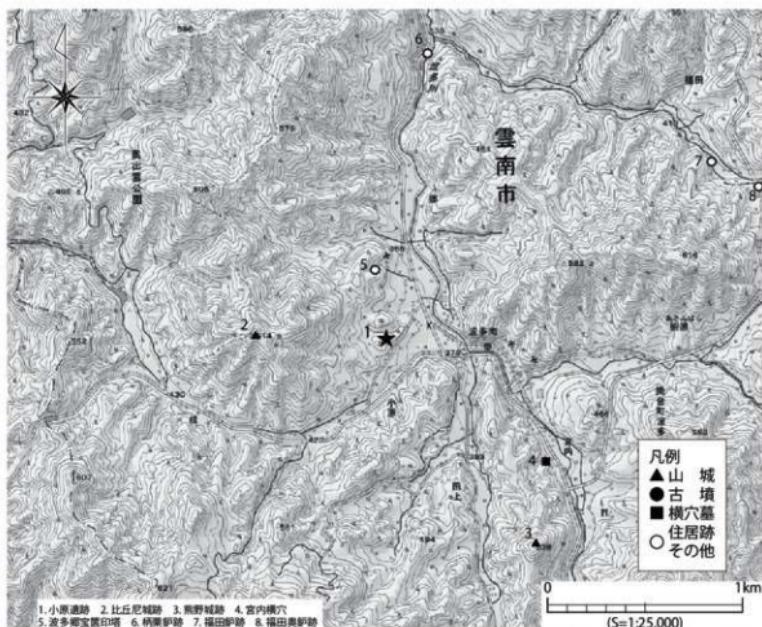
小原遺跡の所在する波多地区では、遺跡があまり見つかっておらず、発掘調査が行われていない。そのため、掛合町内の様相も含めて概観する（第20図）。

### （1）旧石器・縄文時代・弥生時代

当地域では旧石器時代の遺跡は発見されていない。掛合町内の縄文時代・弥生時代の遺跡は、入間・梨の木田出土の石斧、郡出土の石斧、多根出土の石斧、後松尾出土の打製石斧など、時期不明ながら石斧の出土地が知られているほか、羽森第1号鉋跡の調査では縄文時代の粗製土器や、弥生時代中期の土坑などが検出されており、羽森第2号遺跡では突帯文土器や弥生時代前期の甕、石鋸、叩石などが出土している。当地域の縄文・弥生時代の遺跡はこれまで知られていなかったが、本報告書掲載の小原遺跡で縄文土器と石斧片が出土している。今後調査が進めば、該期の集落を発見される可能性がある。

### （2）古墳時代

墳墓は、本報告の小原遺跡で前期の古墳を確認しているほか、掛合町内では羽森1号鉋跡で4世紀中葉の土坑墓が見つかっている。羽森1号鉋跡の土坑墓は、土坑底部に小形の木炭片と微量の炭化した藁と米が敷き詰められており、側壁が被熱によって変色していることから、土坑内で燃焼させたあとに床面に広げたものと推測されている。横穴墓は宗源寺横穴や舟津横穴群、宮内横穴（第20図4）、山根横穴群などがあげられる。宗源寺横穴では、断面蒲鉾型を呈する横穴が1穴のみ確認されている。舟津横穴群は、三刀屋川に面した丘陵斜面に築造されている。7基存在していたとされ、そのうちの1基から7世紀代の須恵器が出土している。宮内横穴は波多川に面する丘陵斜面に作られ、人骨や6世紀末から7世紀初頭の須恵器が出土している。山根横穴群では2基の横穴が確認されている。出土遺物は、人骨1体分のほかに須恵器、土師器、鉄刀、鉄鎌、鉄斧、紡錘車、貝殻など非常に豊富で、被葬者は当地の有力者か、あるいは後述する羽森第3遺跡の製鉄炉との関わりから、鉄生産や加工に関わりを持った人物であった可能性が指摘されている。



第20図 小原遺跡と周辺の遺跡

生産遺跡としては、羽森第3遺跡で古墳時代後期の円筒形製鉄炉が見つかっている。内径40cm程度の小規模なもので、砂鉄を原料とする。瑞穂町今佐屋山遺跡の製鉄炉と合わせて、県内最古級の製鉄炉と位置付けられている。

### (3) 古代・中世・近世

掛合町内では、製鉄関連の遺跡が多く見られる。羽森遺跡では3カ所の製鉄遺跡が調査され、木炭のC14年代測定で第1遺跡が13世紀、第2遺跡が12世紀、前述の第3遺跡で6世紀の年代が得られている。周辺地域でも、柄栗鉄跡（第20図6）、福田鉄跡（同図7）、福田奥鉄跡（同図8）などが見つかっている。当地域における鉄に関する記述は、天平5年（733）に編纂された『出雲国風土記』からも読み取れる。飯石郡の条には「波多小川 鉄あり」と記載されており、古代より波多川が、製鉄の原料となる川砂鉄の産地として知られていたことがうかがえる。この他、掛合町内では鉄床、古鉄、金原、金くそ原、鉄穴といった鉄に関する地名や、鉄製作技術たちが祭られた金屋子神、三宝荒神などの祠が各地に分布している。こうした鉄生産に関する遺跡や資料が多く存在することが、良質な砂鉄の産地を擁する本地域の歴史的な特徴を表していると言えよう。城館跡としては比丘尼城跡（同図2）や熊野城跡（（同図3）がある。熊野城跡は史料が残されていないものの、構造と選地について、15世紀末に備後多賀山氏が拠点とし、尼子氏によって落城・再興された日倉山城跡との共通点が指摘されている。

## 註

- (1) 来島・赤名地区的地理的環境の詳細については、第7章第1節で詳述されている。そのため、本章では概要を記載するのにとどめた。
- (2) 三瓶山噴火に伴う降下火山灰については、層序や年代、遺跡の評価とも大きく関わり、第4章第2節で後述するほか、第7章第1節で詳述されている。そのため、地理的環境同様に、本章では概要のみを記載した。
- (3) 上ノ谷遺跡第2黒色土層と志津見地区第2黒色土層では出土する縄文土器型式に差異が認められる。ただし、同一の降下火山灰の堆積年代が地区によって異なる可能性は考えにくく、縄文時代前期後葉頃の連続する土器型式の消長に差異が生じているものと推測できる。遺跡の評価、とりわけ当該時期の社会環境や土器型式の存続幅の評価に関わるものといえる。第4章第5節で詳述する。
- (4) 赤穴八幡宮所蔵の考古資料については、倉橋英氏（赤穴八幡宮宮司）にご配慮いただき、記録作成を実施した。なお、赤穴八幡宮所蔵の考古資料については、『赤来町史』（赤来町1972）でも紹介されている。
- (5) 採集された石器については、周知の遺跡が付近に存在するものの、同定が困難であった。そのため、石器に記載された地区名を使用している。

## 引用・参考文献

- 赤来町史編纂委員会編1972『赤来町史』赤来町  
出雲市教育委員会1977『天神遺跡』  
出雲市教育委員会1981『出雲車両基地建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』  
出雲市教育委員会1986『山地古墳発掘調査報告書』  
出雲市教育委員会1988『史跡今市大念寺古墳保存修理事業報告書』  
出雲市教育委員会1994『地藏堂横穴墓群発掘調査報告書』  
出雲市教育委員会1995『小山横穴墓群』  
出雲市教育委員会1996『上長浜貝塚』  
出雲市教育委員会2000a『浅柄遺跡』  
出雲市教育委員会2000b『田畠遺跡』  
出雲市教育委員会2000c『光明寺3号墓・4号墓』  
出雲市教育委員会2001『下古志遺跡』  
出雲市教育委員会2004『上塙治塗山古墳』  
出雲市教育委員会2005『浜井塙古墳群発掘調査報告書』  
出雲市教育委員会2008『玉泉寺裏遺跡・浜井塙4号墳・間谷東古墳』  
出雲市教育委員会2021『常楽寺柿木田古墳群・常楽寺柿木田1号墳の調査一』  
雲南市たらたらプロジェクト会議2022『雲南のたらたら文化』  
角田徳幸2004『三瓶火山の噴出物と縄文時代遺跡』『鳥根考古学会誌』第20・21集合併号、鳥根考古学会  
角田徳幸2009『火山噴火と遺跡群①島根県三瓶火山の噴出物によって埋没した遺跡群—』『大地と森の中で 縄文時代  
の古生態系』縄文時代の考古学3、同成社  
角田徳幸2017『飯南町立石鉈の製鉄関連資料』『古代文化研究』第25号、鳥根県古代文化センター  
角田徳幸2018『飯南町立石鉈の製鉄関連資料（補遺）』『古代文化研究』第26号、鳥根県古代文化センター  
掛合町誌編纂委員会1984『掛合町誌』掛合町誌刊行会  
掛合町教育委員会1997『羽森城跡・羽森1号鉄跡発掘調査報告書』  
掛合町教育委員会1998『羽森第2・羽森第3遺跡発掘調査報告書』  
小林謙一・角田徳幸2006『三瓶火山の噴出物と縄文時代のAMS炭素14年代測定』『鳥根考古学会誌』第23集、鳥根考古學  
会  
湖陵町教育委員会1986『庭反II遺跡』  
湖陵町教育委員会1987『庭反II遺跡・他』  
湖陵町教育委員会1994『神南地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書 御領田遺跡 三部竹崎遺跡』  
湖陵町教育委員会2000『湖陵町遺跡地図』  
湖陵町誌編纂委員会2000『湖陵町誌』湖陵町

- 島根県教育委員会1964『妙蓮寺山古墳調査報告』  
島根県教育委員会1980『出雲・上堀治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』  
島根県教育委員会1983『島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅰ 出雲部製鉄遺跡』  
島根県教育委員会1985『島根県生産遺跡分布調査報告書Ⅲ 窯業関係遺跡』  
島根県教育委員会1996『歴史の道調査報告書「劍山街道」島根県歴史の道調査報告書第3集』  
島根県教育委員会1998a『板屋Ⅲ遺跡』  
島根県教育委員会1998b『出雲・隱岐の城館跡』  
島根県教育委員会1999a『蔵小路西遺跡』  
島根県教育委員会1999b『姫原西遺跡』  
島根県教育委員会2000『三田谷Ⅰ遺跡(Vol.2)』  
島根県教育委員会2002『下山遺跡(2)』  
島根県教育委員会2003a『古志本郷遺跡VI-K区の調査一』  
島根県教育委員会2003b『古志本郷遺跡V 出雲国神門郡家関連遺跡の調査』  
島根県教育委員会2005『畠ノ前遺跡・菅原Ⅰ遺跡・クボ山遺跡・菅原Ⅱ遺跡・菅原Ⅲ遺跡・畠田Ⅴ遺跡・保知石遺跡・浅柄Ⅱ遺跡・柳ノ内Ⅰ遺跡』  
島根県教育委員会2006『山持遺跡Vol.5 (6区)』  
島根県教育委員会2007『余小路遺跡・小畑遺跡』  
島根県教育委員会2008『九嵐川遺跡』  
島根県教育委員会2009『御崎谷遺跡・間谷東遺跡・浅柄北古墳・間谷西II遺跡・間谷西古墳群』  
島根県教育委員会2011『高浜Ⅰ遺跡』  
島根県教育委員会2017a『麓Ⅱ遺跡・坂本谷遺跡・京田遺跡(1区)』  
島根県教育委員会2017b『玉泉寺裏遺跡(VI区・VII区)・九嵐川遺跡(V区)』  
島根県教育委員会2017c『の子谷横穴墓群・京田遺跡3区』  
島根県教育委員会2019『常楽寺柿木田古墳群—弥生時代集落の調査—』  
島根県古代文化センター1999『上堀治築山古墳の研究』  
島根県古代文化センター2014『解説出雲國風土記』  
島根県教育庁文化財課古代文化センター・埋蔵文化財調査センター2007『法光寺古墳発掘調査報告書』  
間 和彦2006『出雲國風土記』註論 明石書店  
大社町教育委員会2004『出雲大社境内遺跡』  
高屋茂男編2013『出雲の山城 山城50選と発掘された城館』ハーベスト出版  
同志社大学出雲古文化調査団1959『出雲古文化調査団報告』同志社大学人文科学研究所  
頼原町誌編纂委員会2004『頼原町誌 歴史』頼原町  
中村唯史2014『繩文時代の島根県の古地形と三瓶火山の活動の影響』『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集  
第13集、島根県古代文化センター  
西尾克己・野坂俊之1995『神西湖周辺の集落遺跡』『湖陵町誌研究』4 湖陵町教育委員会  
西尾克己・野坂俊之2000『原始古代の湖陵町』『湖陵町誌』湖陵町  
種中光輔2014『自然災害と地域社会の定着性—三瓶山の噴火からみた縄文社会—』『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集  
第13集、島根県古代文化センター  
福岡 孝・松井整司2002『AT降灰以降の三瓶火山噴出物の層序』『地球科学』56巻2号、地学団体研究会  
松井整司1998『三瓶火山の噴出物とその年代』『板屋Ⅲ遺跡』志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5、島根県教育委員会  
松井整司2002『三瓶火山の噴出物とその年代』『下山遺跡(2)』志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書  
12、島根県教育委員会  
松井整司・井上多津男1970『三瓶火山噴出物の<sup>14</sup>C年代』『地球科学』24巻3号、地学団体研究会  
松井整司・井上多津男1971『三瓶火山の噴出物と層序』『地球科学』25巻4号、地学団体研究会

第4表 赤穴八幡宮所藏考古資料觀察表  
土器

被験者番号	遺傳子	性別	年齢	出土地	時期	法量・面積・高さ・株距			色調	調整・手法の特徴	備考
						口径 (cm)	面積 (cm)	高さ (cm)	株距 (cm)		
17 4 魏文	初期	葉	葉簇生	後期		23.2	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY96号 外面: 淡緑色7.5YR96/4 内面: 淡緑色7.5YR96/6	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		
17 5 土師器	葉	葉	葉簇生		13.3	25.6	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY96号 外面: 淡緑色7.5YR96/4 内面: 淡緑色7.5YR96/6	外面: ナチュラル, ハケヌリ, ミガキ 内面: ナチュラル, ハケヌリ, ヘラカズリ, コピオサツ	丸底	
17 6 漆器蓋	耳環	葉	葉簇生	石器4期	12.1	4.6	砂粒多量に含む	内面: 淡緑色N/6 外面: 淡緑色6/	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル, 内面: ナチュラル		
17 7 漆器蓋	耳環	葉	葉簇生	石器4-5期	(13.5)	4.2	6.2	砂粒多量に含む	内面: 淡緑色N/6 外面: 淡緑色6/	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル, 内面: ナチュラル	
17 8 魏文	葉	葉	葉簇生	後期				内面: 淡緑色2.5Y9/4 内面: 淡緑色10Y98/3	外面: 織文, ナチュラル 内面: ナチュラル		
17 9 魏文	不明	葉	葉簇生	後期				内面: 淡緑色10Y98/2 内面: 淡緑色7.5YR96/4	外面: 二段目条痕 内面: 深紅色ナチュラル		
17 10 魏文	不明	葉	葉簇生	後期				内面: 淡緑色7.5YR96/3	外面: ベニハラツリ, ナチュラル 内面: ナチュラル		
17 11 土師器	瓶	葉	葉簇生		(20.3)	(8.3)	砂粒多量に含む	内面: 淡緑色SY97号 外面: 淡緑色SY97号	外面: ベニハラツリ, ナチュラル, 内面: ゴコオサツ		
17 12 土師器	瓶	葉	葉簇生		(12.8)	(5.3)	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y98/2 内面: 淡緑色10Y98/3	外面: ナチュラル, フタヒキ 内面: ナチュラル, フタヒキ		
17 13 漆器蓋	漆桶	葉	葉簇生	石器4-5期	9.6	6.6	砂粒多く含む	内面: 淡緑色N/6 外面: 淡緑色N/6	外面: ベニハラツリ, ナチュラル 内面: ナチュラル	直口 口縁	
17 14 漆器蓋	漆桶	葉	葉簇生		(16.3)	20.1	砂粒多量に含む	内面: 淡緑色SY97号 外面: 淡緑色SY97号	外面: ベニハラツリ, 同心円チャタキ, 内面: ナチュラル		
17 15 漆器蓋	漆桶	葉	葉簇生				砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y97/1 外面: 淡緑色10Y97/1	外面: ベニハラツリ 内面: ナチュラル		
17 16 漆器蓋	漆桶	葉	葉簇生				砂粒多く含む	内面: 淡緑色7.5YR96/3 外面: 淡緑色10Y97/1	外面: ベニハラツリ 内面: ナチュラル		
18 1 幼生	春	川尻	BB-2		(15.6)	1.0	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y97/1 内面: 淡緑色10Y97/1	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル	広口型	
18 2 幼生	春	川尻	BB-2		3.9		砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y97/1 内面: 淡緑色10Y97/1	外面: ハイツメ, ナチュラル(草葉上部) 内面: ハイツメ, ナチュラル	広口型	
18 3 幼生	春	川尻	NN-2		(24.3)	(2.1)	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y97/2 内面: 淡緑色10Y97/2	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 4 幼生	葉	川尻	NN-2		5.0		砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y97/2 内面: 淡緑色10Y97/2	外面: ナチュラル, 巴羅文(3系), 内面: ナチュラル		
18 5 幼生	葉	川尻	V-1~2		(12.9)	8.4	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y95/4 内面: 淡緑色10Y95/4	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		堀田か 門寺り
18 6 幼生	葉	川尻			(8.7)	1.4	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y94/2 内面: 淡緑色10Y94/2	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 7 幼生	葉	川尻	NN-2		3.0		砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y96/1 内面: 淡緑色10Y96/1	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		堀田か 門寺り
18 8 幼生	葉	川尻	V- 2		(20.4)	4.2	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y97/4 内面: 淡緑色10Y97/4	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 9 幼生	葉	川尻	V- 4		(24.5)	6.4	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y97/4 内面: 淡緑色10Y97/4	外面: ベニハラツリ 内面: ナチュラル		
18 10 幼生	葉	川尻	V- 2		(28.0)	5.6	砂粒多量に含む	内面: 淡緑色10Y98/3 内面: 淡緑色10Y98/3	外面: ナチュラル, 岩波文(5系), 刺突波 内面: ナチュラル, ハケヌリ		
18 11 幼生	着物	川尻	V- 2		2.8	(14.2)	砂粒多く含む	内面: 淡緑色10Y98/4 内面: 淡緑色10Y98/4	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 12 土師器	葉	川尻	古墳前期		Q2.9	5.8	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 13 土師器	深皿	川尻			3.2	2.6	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: 二段式用、ナチュラル		
18 14 土師器	葉	川尻			(19.8)	5.1	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ナチュラル, ハケヌリ 内面: ナチュラル		
18 15 土師器	耳环	川尻			1.9	6.7	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 16 土師器	耳环	川尻			2.2	(7.1)	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ベニハラツリ, 田んぼ切り 内面: ナチュラル		
18 17 土師器	耳环	川尻			2.3	(6.6)	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ベニハラツリ, ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 18 土師器	耳环	川尻			2.3	(6.2)	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 19 漆器蓋	砂子田	吉野	石器4~5期		7.7	8.9	砂粒多量に含む	内面: 淡緑色N/6 内面: 淡緑色N/6	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 20 漆器蓋	砂子田	吉野	石器4~5期		7.1	9.5	砂粒多く含む	内面: 淡緑色N/6 内面: 淡緑色N/6	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 21 漆器蓋	砂子田	吉野	石器4~5期		8.0	7.8	砂粒多く含む	内面: 淡緑色N/6 内面: 淡緑色N/6	外面: ベニハラツリ, ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 22 漆器蓋	砂子田	吉野	石器4期		13.1	4.5	砂粒多く含む	内面: 淡緑色N/6 内面: 淡緑色N/6	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル, 内面: ナチュラル		
18 23 漆器蓋	砂子田	吉野	石器5期		12.4	3.6	砂粒多く含む	内面: 淡緑色N/6 内面: 淡緑色N/6	外面: ナチュラル, 自然風, 調整不易(不明)		土器柱
18 24 漆器蓋	砂子田	吉野	石器5期		11.3	4.5	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 25 漆器蓋	砂子田	吉野	石器5期		11.5	4.2	砂粒多く含む	内面: 淡緑色SY97号 内面: 淡緑色SY97号	外面: ナチュラル 内面: ナチュラル		土器柱
18 26 漆器蓋	砂子田	吉野	石器4~5期		11.1	4.0	砂粒多く含む	内面: 淡緑色N/6 内面: 淡緑色N/6	外面: ベニハラツリ, 回転ナチュラル 内面: ナチュラル		
18 27 漆器蓋	砂子田	吉野	出雲5期		10.6	3.8	砂粒多く含む	内面: 淡緑色N/6 内面: 淡緑色N/6	外面: ナチュラル, ナチュラル 内面: ナチュラル		土器柱

測定 番号	遺物 番号	種別	器種	出土地	時期	法面 (I) 内側矢値				色調	調査・手法の特徴	備考	
						口径 (cm)	幅 (cm)	底径 (cm)	最大深 (cm)				
18	28	須恵器	坪身	砂子田 古墳	石見4~5期	10.0	4.1	13.0	研粒多く含む	外面: 淡灰色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ、田舎ヘラクズリ 内面: 田舎ナデ	土蔵柱	
18	29	須恵器	坪蓋	砂子田 古墳	石見4期	13.7	4.7	14.0	研粒多く含む	外面: 淡灰色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ、板目 内面: 田舎ナデ、ユビオサヌ		
18	30	須恵器	坪蓋	砂子田 古墳	石見5期	13.4	4.5	13.6	研粒多量に含む	外面: 淡白色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ 内面: 田舎ナデ		
18	31	須恵器	坪蓋	砂子田 古墳	石見5期	12.9	4.6	13.1	研粒多く含む	外面: 淡白色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ 内面: 田舎ナデ	土蔵柱	
18	32	須恵器	坪蓋	砂子田 古墳	石見5期	12.3	4.9	12.8	研粒多く含む	外面: 淡白色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ、ナデ 内面: 田舎ナデ		
18	33	須恵器	坪蓋	砂子田 古墳	石見5~6a期	12.2	4.4	12.5	研粒多量に含む	外面: 淡灰色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: ナデ、カキメ、田舎ナデ 内面: 田舎ナデ	土蔵柱	
18	34	須恵器	坪蓋	砂子田 古墳	石見4~5期	12.6	3.8	12.8	研粒多く含む	外面: 淡白色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ、ナデ、板目 内面: 田舎ナデ、ナデ		
18	35	須恵器	坪蓋	砂子田 古墳	出雲5期	11.6	4.1	12.1	研粒多く含む	外面: 淡灰色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ、ナデ、瓦砾 内面: 田舎ナデ、ナデ	土蔵柱	
18	36	須恵器	高付	砂子田 古墳	出雲4~5期	14.3	10.8	10.2	14.5	研粒多く含む	外面: 淡白色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ、瓦砾 内面: 田舎ナデ	
18	37	須恵器	高付	砂子田 古墳	石見4期	10.8	11.7	9.8	11.0	研粒多く含む	外面: 淡白色N6/ 内面: 淡白色N7/	外面: 田舎ナデ 内面: 田舎ナデ	
18	38	須恵器	高付蓋	砂子田 長頭古 古墳	石見4/5期	5.8	16.9	8.6	13.5	研粒多く含む	外面: 淡白色N7/1 内面: 淡白色N7/1	外面: 田舎ナデ、静止ヘラ切り、貼付系 内面: 田舎ナデ	
18	39	須恵器	高付蓋	砂子田 直口古 古墳	出雲8期以降	7.5	10.6	7.6	11.4	研粒多く含む	外面: 淡白色N7/1 内面: 淡白色N7/1	外面: 田舎ナデ、底部削り後ナデ、 貼付系 内面: 田舎ナデ	
石器													
測定 番号	遺物 番号	種別	器種	出土地	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	石材	法面 (I) 内側矢値			
										調査・手法の特徴	備考		
17	1	石器	磨製石斧	張芦古 代	14.0	5.2	4.3	521.0	培塿性片岩	先端は、使用時にによる敲打 粗削・形態準備→敲打→研磨			
17	2	石器	磨製石斧	单尾 直角木	15.9	5.6	2.5	358.4	斑岩	粗削・形態準備→敲打→研磨			
17	3	石器	磨製石剣	赤穴八幡宮 付近	20.6	4.1	2.05	316.8	結晶片岩	敲打後に研磨 修理を利用			
金属器													
測定 番号	遺物 番号	種別	器種	出土地	法面 (I) 内側矢値				石材	調査・手法の特徴			
					長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)		調査・手法の特徴	備考		
18	40	金属性	耳環	砂子田古墳	25.71	26.85	0.7	14.86	銅地				
18	41	金属性	耳環	砂子田古墳	24.49	27.48	6.73	13.67	銅地金張り				
18	42	金属性	耳環	砂子田古墳	30.32	34.06	8.67	28.26	銅地金張り				
18	43	金属性	耳環	砂子田古墳	27.70	31.58	9.02	24.52	銅地金張り				
18	44	金属性	耳環	砂子田古墳	26.16	29.05	7.54	15.32	銅地金張り				
18	45	金属性	耳環	砂子田古墳	27.33	30.94	7.94	22.94	銅地				

## 第3章 猪子原遺跡の調査

### 第1節 調査の方法

#### 1. 発掘調査区の立地

猪子原遺跡は、島根県飯石郡飯南町下来島に所在し、神戸川上流に所在する発電用ダム湖である来島湖西側の標高約462mの丘陵最高所付近の尾根上に立地する。調査前は、丘陵尾根から北側斜面にかけて植林が行われ、南側斜面は雑木が繁茂していた（図版1）。

#### 2. 発掘調査区とグリッドの設定

試掘調査は、平成30年度に島根県教育委員会が開発予定地内の丘陵尾根最高地点付近にトレンチを1カ所を設定し、実施した（第6・21図）。その結果、遺物は出土しなかったものの、盛土および墓壙状の落ち込みを検出した。また、開発予定地外に墳丘状の高まりが続くことも確認した（第21図）。このことから、丘陵尾根上に墳墓群の存在が想定されたため、発掘調査を実施することとした。調査対象面積は約500m<sup>2</sup>である。

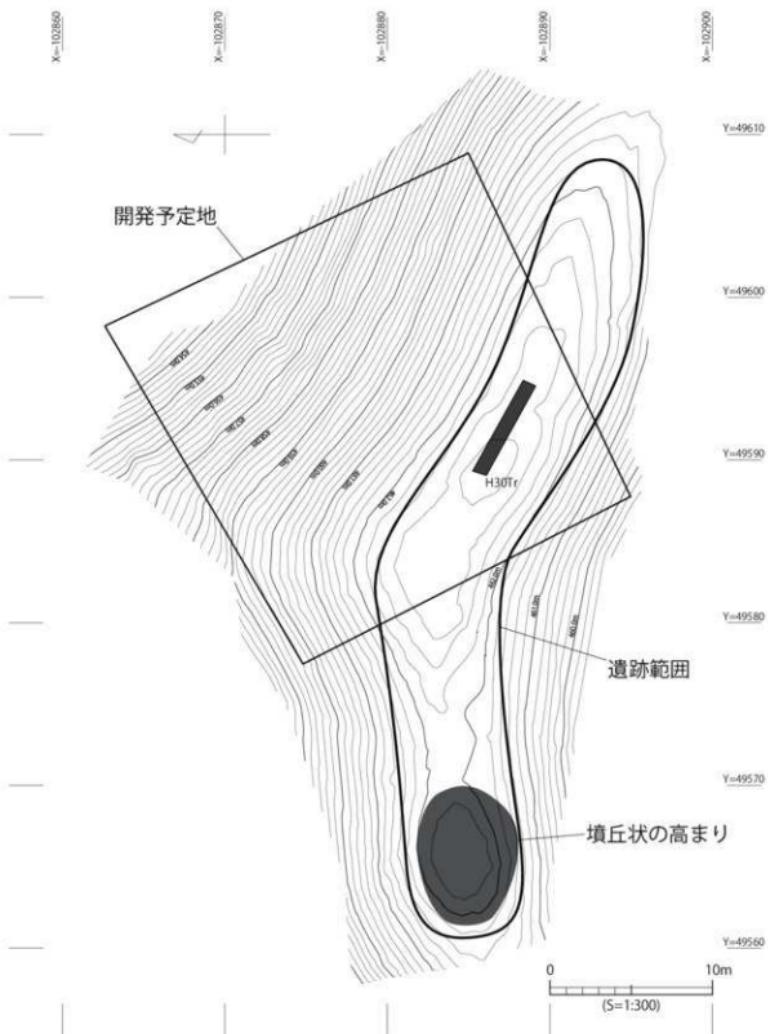
発掘調査は、想定される墳丘軸を基準に5m四方のグリッドを設定し、北から南に算用数字、西から東にアルファベットを振り、グリッド名とした（第22図）。

#### 3. 調査の方法

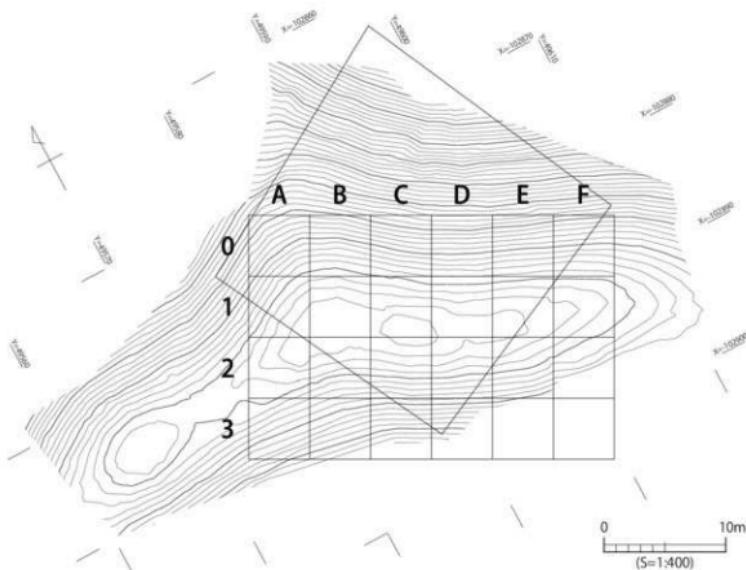
調査地は丘陵最高所付近のやせ尾根のため、掘削作業はすべて人力とし、調査員の立会のもと、スコップや鎌、ジョレンを基本とし、少しずつ面的に掘り下げた。墓壙の掘削は移植ゴテおよび草刈りを使用し、掘削土は土のう袋に入れ、水洗選別を行った。なお、設定したグリッド沿いに土層観察用のベルトを設定するほか、墓壙については必要に応じて半裁し、土層観察を実施した。土層は写真撮影後、断面図を作成した（図版2・3）。調査は墳丘除去後、下層遺構や遺物の有無を確認し、終了した（図版9）。

遺構や遺物の記録に関しては、遺跡調査システムを用いて測量し、遺構の平面図などは出力後に補正を行った。遺物については、遺跡調査システムによる位置の実測および手測りによる実測図を作成し、出土位置を記録した後に取り上げた。写真是、基本的にデジタルカメラによる撮影を行い、必要に応じて6×7版フィルムカメラ（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を実施した。

整理作業は、現地調査と並行して出土遺物の洗浄・注記を現地の事務所で実施し、現地調査終了後、上ノ谷遺跡の調査を挟み、令和元年12月中旬から埋蔵文化財調査センターにおいて遺物の実測、遺構図の編集、現地撮影写真の整理といった本格的な作業を開始した。令和2年には各図面のトレースを実施するほか、遺物の保存処理作業を一般財團法人大阪市文化財協会に委託し、接合を含めた鉄器の保存処理を実施した。令和3年4月からは報告書作成作業を開始し、遺物の写真撮影・画質ほかの調整、原稿執筆・編集作業を実施した。図面トレース以降の作業はDTP方式で行った。



第21図 猪子原遺跡の範囲と開発予定地



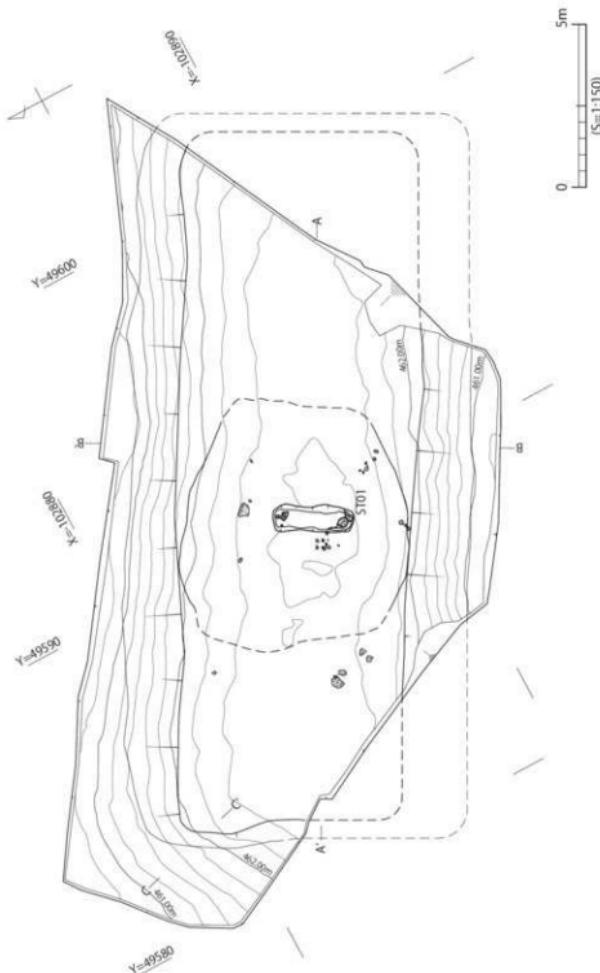
第22図 調査前地形測量図とグリッド設定

## 第2節 基本層序

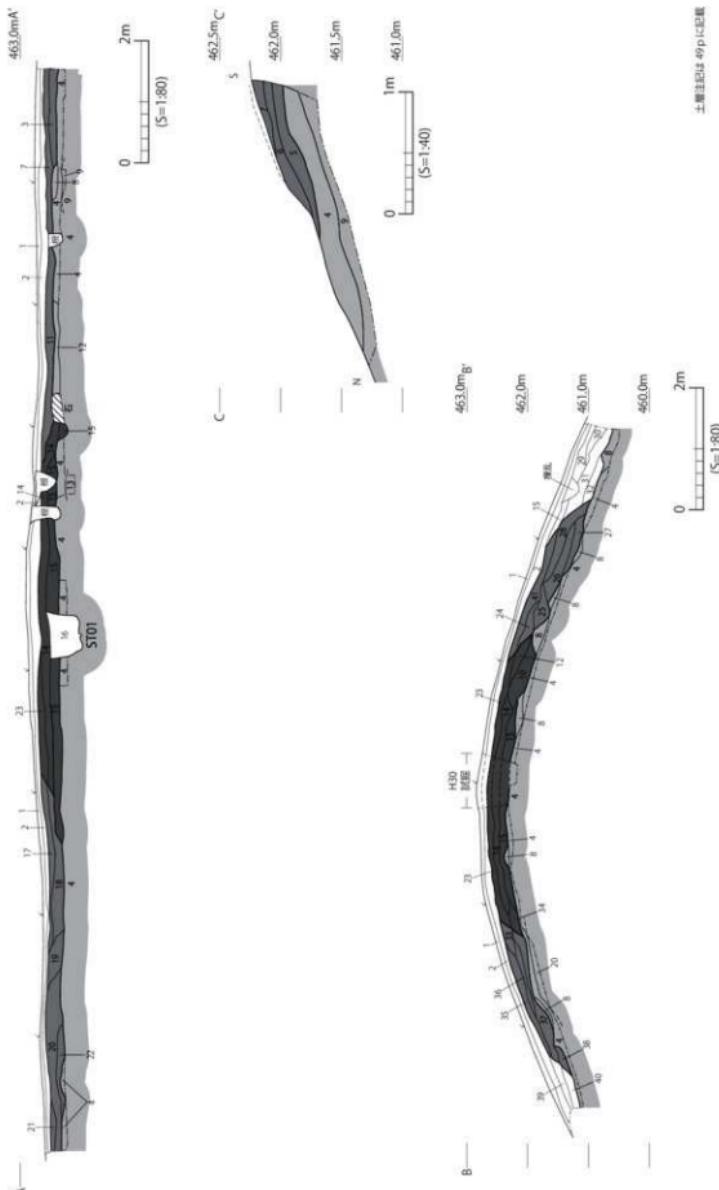
発掘調査の結果、開発予定地内に古墳1基（猪子原1号墳）を確認した（第23・24図）。1号墳は開発予定地外へと続いており、墳丘外の土層堆積状況は調査区北西端および南北端で部分的に確認できたのみである。本節では、調査区全体と墳丘盛土に区分し、基本層序を確認する。なお、土層観察表（第5表）を章末に付した。

### 1. 調査区

調査区内の土層は、上層から表土（第24図1層）、自然堆積（同図2層）となる。2層は褐色砂質土であり、調査区全体に堆積している<sup>①</sup>。2層より下層には1号墳に関連する土層（同図3・5～7・10～12・14～28・33～38・41層）が確認できる。1号墳墳丘外部の堆積については、2層より下層に黒褐色砂質土（同図29・30層）、黒色砂質土（同図31・32層）、暗褐色砂質土（同図39層）、にぶい黄褐色砂質土（同図40層）がある。これらの堆積土は、墳丘盛土に土色および土質が類似し、31・32層は三瓶山の火山灰層（ハイカ層）を由来とする黄褐色砂質土をブロック状に含む。ただし、しまりが墳丘盛土と比較して弱いことから墳丘盛土由来の流土と判断した。墳丘流土下層には旧表土は存在せず、にぶい黄褐色砂質土（同図4層）を基本とし、部分的に4層上面に黒色砂質土（同図8層）が堆積していた<sup>②</sup>。4層より下層には明赤褐色砂質土（同図9層）およびにぶい黄褐色砂質土（同図13層）が堆積するが、地山層である。



第23図 猪子原1号填平面図



第24図 猪子原1号埴土層断面図

## 2. 墳丘盛土

1号墳の墳丘盛土は、黒色砂質土（第24図10・23・25～28層）、黒褐色砂質土（同図5・6・12・14・15・17～20・22・24・34・36・37・41層）、暗褐色砂質土（同図3・11・33・35層）、褐色砂質土（同図7層）、にびい黄褐色砂質土（同図21・38層）がある。黒色土による盛土が基本であり、三瓶山火山灰（ハイカ）由来とする黄褐色砂質土をブロック状に含んでいる。墳丘盛土より下層については、墳丘外部同様に、旧表土は存在せず、4層を基本とし、部分的に4層上面に8層が堆積する。4層より下層には地山層である9層および13層が堆積する。

以上のように、猪子原1号墳は旧表土層が存在しないことから、墳丘尾根を削り出し、基本的に4層上面を墳丘基盤層として盛土が行われていることを指摘できる。なお、土層堆積状況から墳丘中央への墓壙（ST01）を掘り込む前後で盛土を区分することが可能である。次節で詳細に取り扱うが、前者を1次墳丘に作る盛土（同図10・12・14・15・23・34層）、後者を被覆盛土（同図3・5～7・11・17～22・24～28・33・35～38・41層）とした。被覆盛土は、土層の堆積状況から、1次墳丘上で埋葬が終了した後に施されており、前後関係をもつことを確認した。

## 第3節 検出遺構とその遺物

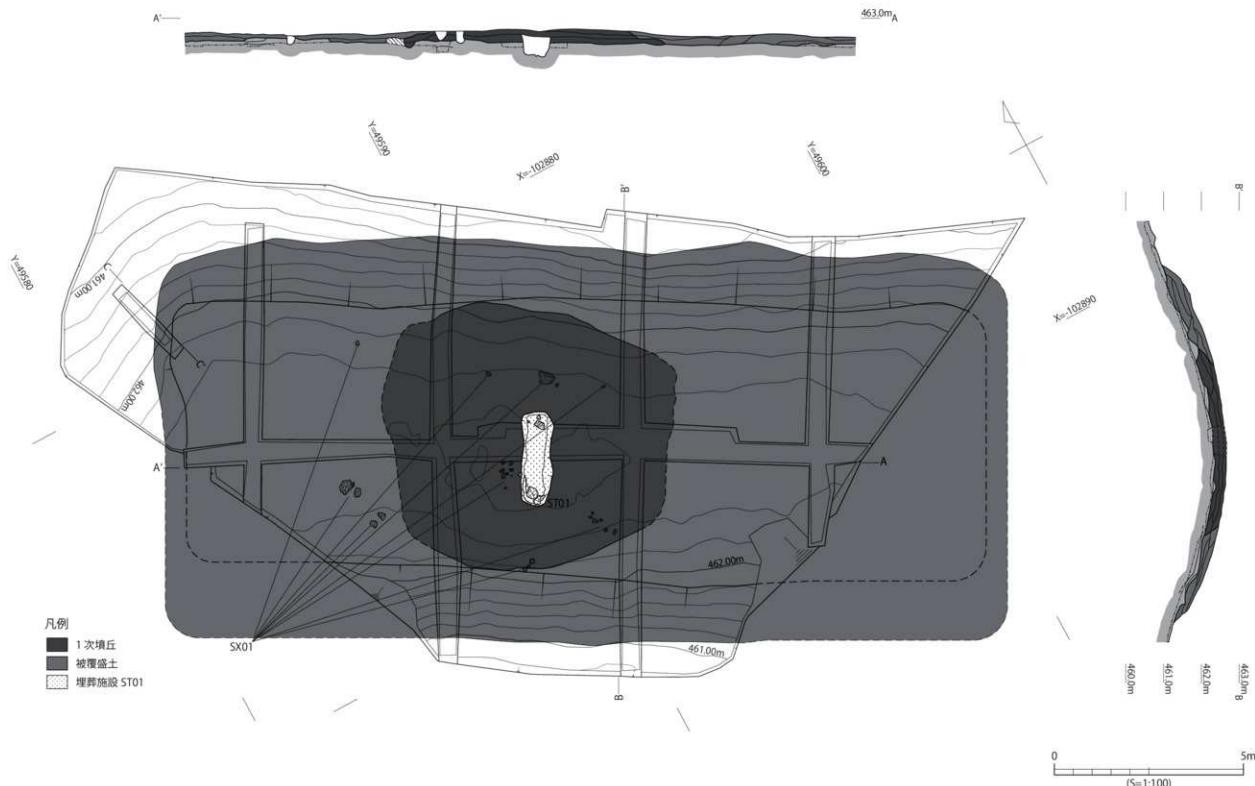
開発予定地内の発掘調査において、猪子原1号墳を検出した（図版4・5）。1号墳は調査区内を東西方向に延びる尾根上に立地しており、墳丘範囲は調査区外におよぶ。以下、猪子原1号墳について詳述する。なお、遺構の土層観察表（第6表）および出土遺物観察表（第7表）は章末に付した。

### 1. 墳丘規模と墳丘構造

発掘調査の結果、1号墳は南北約10.5m、東西推定約22m<sup>(3)</sup>、北側墳丘裾部からの高さ約2.65mとなることを確認した（第25図）。明瞭な墳頂部の平坦面は認められないが、南北の墳丘斜面の傾斜変換点の状況から、墳頂平坦面は南北約7.0m、東西約21mとなることが推測できる。墳丘形態は方墳となり、周溝は検出していない。ただし、外表施設については、葺石は未検出であるが、墳丘上部に角礫が数点配置されていることを確認した。これらの配石をSX01とした。墳丘中央付近で落ち込みを1ヵ所確認したため、墓壙と判断しST01とした<sup>(4)</sup>。

東西方向に長い墳丘をもつ古墳となるが、その要因として、1号墳が丘陵最高所付近のやせ尾根上に立地しており、地形的制約をうけ、南北方向に狭い墳丘となったことが想定できる。なお、やせ尾根上に墳丘を構築しているため、墳丘基盤層も平坦ではなく、地形に沿って弧を描いている。墳頂平坦面が不明瞭な点については、このような墳丘基盤層が要因であることも推測できる。また、実際の墳丘盛土高は約0.4mであり、低墳丘であるものの、地形を利用した墳丘構築が行われた結果、見かけ上の高さは約2.65mと高墳丘状となっている。

墳丘中央東西方向の土層（A-A'）および墳丘南北方向の土層（B-B'）の堆積状況の精査から、墳丘は削り出しにより墳丘基盤層（第24図4・8層）を形成し、その上面に盛土（同図15層）を施していることを確認した。この15層上面を埋葬作業面とし、墓壙ST01を掘り込み、埋葬完了後にST01を中心とし、東西7.5m、南北7.0mの範囲に盛土（同図10・12・14・23・34層）を施し、その外方にさらに盛土（同図3・5～7・11・17～22・24～28・33・35～38・41層）を行うことで墳



第25図 猪子原1号墳平面図および断面図

(白)

丘を構築していることが判明した。つまり、墳丘基盤層形成後、盛土により埋葬作業面を構築して被葬者の埋葬を行い、埋葬に対する覆土を施した後、最終的な墳丘を構築するための盛土を行っている。このことから、埋葬に伴う盛土を1次墳丘（図版6）、墳丘成形に伴う盛土を被覆盛土として区分・整理した。

## 2. 1号墳検出遺構とその遺物

### (1) 配石遺構

#### SX01 (第23～25図、図版4・6)

SX01は墳丘上部より検出された角礫を使った石の配列である（第23・25図）。当初は原位置を保っていないものと考えたが、1次墳丘部ではST01埋葬完了後の覆土となる14・23層、被覆盛土部では11・33・35層の上面で検出しており、墳頂平坦面を構成する盛土上面に位置していることから、墳丘に伴うものと判断した（第24・25図）。使用される礫は10cm程度の小形のものを主体とするが、20cmから40cm程の大形の角礫も含んでいる。SX01に伴う遺物は出土していない。

配石遺構の性格については、C-2グリッドで検出した10cm以下の角礫群はST01付近に位置しており、墓壙に伴う標石である可能性もあるが、ST01覆土上面となる14層上面に位置しており、墓壙に直接接って配置されたものではない<sup>⑨</sup>。また、このほかの配石も1次墳丘と被覆盛土の境界付近に配置されているものの、その性格については不明である<sup>⑩</sup>。

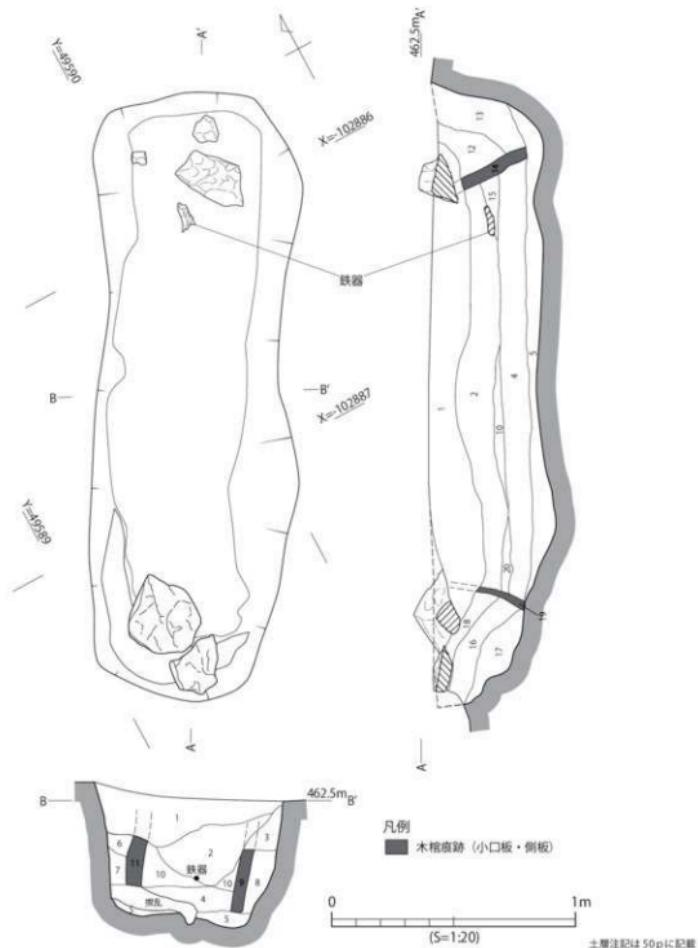
### (2) 墓壙

#### ST01 (第23～26図、図版6～8)

ST01は1号墳中央付近に施された1次墳丘中央付近（C-1・2グリッド）で検出した（第23・25図・図版6）。検出面は15層上面であり、墳丘基盤層上面に施された盛土上面から墓壙が掘り込まれている（第24図）。15層上部には10・14・23層が堆積しており、ST01での埋葬後に覆土として盛土が施されている。ST01は平成30年度の試掘調査の際に検出して落ち込みであり、発掘調査開始以前からその存在を想定していた。そのため、掘削時には試掘トレッジを再掘削したのち、平面的検出を実施した。なお、ST01以外の墓壙を検出しておらず、墓壙の配置を踏まえると、1号墳は単独埋葬であることが指摘できる。墓壙の平面プランは隅丸長方形であり、その規模は長さ約2.5m、最大幅約0.8mとなる（第26図）。先述したように、墓壙は墳丘基盤層上面に施された1次墳丘盛土（第24図15層）から掘り込まれている。この15層は旧表土を削り出し後、平坦な埋葬作業面を形成するために施された盛土であるといえる。墓壙底は地山面（同図13層）まで達しており、底面プランはやや不整形であった。

土層堆積状況から、ST01構築過程を整理すると、以下のとおりとなる。

墓壙掘削後、床面を地山ブロックの混入したにぶい黄褐色砂質土（第26図5層）によって整地し、木棺を設置している。第26図9・11・14・19層は木棺の痕跡で、これらの層には黄褐色砂質土や地山のブロックが混入しない。なお、検出した棺痕跡の規模より、上方に堆積する1～3層にも木棺小口および両側板は達していると考えられるが、明確に分離できなかった。棺を設置後、棺内には床土（同図4層）、棺外には裏込め土（同図6～8・12・13・16～18層）を充填している。これらの層にはハイカ由来の黄褐色砂質土ブロックが混入されている。棺内底面に棺痕跡が確認できないことから、木棺は底板を設けない箱形木棺であると推測できる。



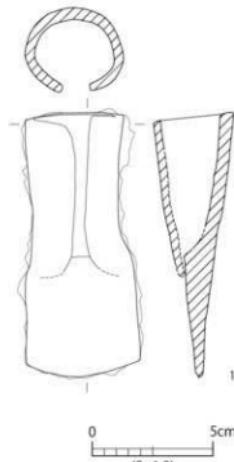
第26図 ST01平面図および断面図

埋葬および副葬後、1～3層で棺を覆っている。なお、これらの層も黄褐色砂質土ブロックを混入しており、その堆積状況から木棺蓋となる部分と棺の封土に分層できると思われたが、明確に分離できなかった<sup>⑦</sup>。これらの棺覆土とした層である2層から有肩鉄斧が出土している(第26図)。有肩鉄斧は棺内流入土(同図10層)と2層との境界で出土しており、棺覆土が木棺の腐朽に伴い、棺内へ流入した際に併せて棺内に落ち込んだものと推測できる。そのため、本来は棺蓋上部(棺外)へ副葬されたものと考えられる。また、両小口上方から裏込め土にかけて、5cmから30cmの角礫が認められた。これらの角礫は墓壙ST01の標石として機能したものと考えられる<sup>⑧</sup>。

木棺の規模は、長さ1.82m、幅0.38mである。棺の深さは検出した棺痕跡からは0.2mとなるが、先述したように棺封土（同図1～3層）と棺痕跡（同図9・11・14・19層）が明確に分離できておらず、本来はもっと深さがあったものと推測できる。棺材の厚みは約5cmである。

#### ST01出土遺物（第27図、図版10）

出土遺物は極めて少なく、有肩鉄斧が1点出土したのみである（第27図）。有肩鉄斧は先述したように、本来棺外に副葬されていたものと推測できる。袋部断面形態は円形で、折り返し部は接地しないが、並行する。肩部の張りは弱く、稜線は不明瞭である。刃部は方形で刃先部は弧を描く。縦断面は左右非対称となる<sup>100</sup>。



## 第4節 小結

猪子原遺跡は、平成30年度の試掘調査において、開発予定地内外に連続する墳丘状の高まりを確認するとともに、設定したトレンチで墓壙状の落ち込みを確認したことから、墓の存在を想定して調査を実施した。

調査の結果、長さ推定22m、幅約10.5mの葺石をもたない方墳となる猪子原1号墳を確認した。埋葬施設は中央付近に1基検出した。墓壙規模は長さ約2.5m、最大幅約0.8mの木棺直葬であり、木棺規模は長さ1.82m、幅0.38mである。副葬品として、有肩鉄斧を棺外に副葬していた。

猪子原1号墳は、土器が認められず、副葬品である有肩鉄斧しか出土していない。そのため、詳細な築造時期の把握は困難である。ただし、土層堆積状況の確認の結果、特異な墓壙構築方法を採用していることが判明した。1号墳は墳丘構築以前に旧表土を削平し、墳丘基盤層を造成した後、墳丘中央付近に部分的に盛土（1次墳丘）を施し、墓壙を掘り込んでいる。埋葬完了後に1次墳丘全体へ封土を施し、さらに外方へ盛土（被覆盛土）を施すことで最終的な墳丘構築を完了している。このような墓壙の掘込は、墳丘の築造と内部施設の構築が同時進行的に行われる「掘込墓壙b類」（和田1989）であると指摘できる。島根県内における「掘込墓壙b類」の木棺直葬の事例をみると、南外2号墳（島根県2007）、一の谷古墳（島根県2011）、山崎古墳（松江市1984）と少数ではあるが存在し、集成編年7期以降の時期比定がされている<sup>101</sup>。墓壙構築方法と島根県内における類例を踏まえると、猪子原1号墳の築造時期も同様に集成編年7期以降であると考えられる。

### 註

- (1) 2層は1号墳の墳丘盛土とは異なり、三瓶山由来の火山灰であるハイカをブロック状に含んでいないことから自然堆積と判断した。
- (2) 4層はハイカ層であり、このハイカ層上層に堆積する8層は「黒色土」である。第2章第1節および第4章で詳述するように、4層が第1ハイカ層あるいは第2ハイカ層であり、8層はこれらのハイカ層と互層状に堆積する黒色土層であることが指摘できるものの、猪子原遺跡ではハイカ層は1層のみの検出であったため、第1・第2のどちらのハイカ層であるかは判断できなかった。ただし、4層の土質は、上ノ谷遺跡第2ハイカ同様に硬くしまっており、堆積の厚さも第2ハイカと類似する。

- (3) 1号墳の東西規模については、北西隅部の検出状況および北東隅部付近の状況を踏まえ推測した。
- (4) 墳丘中央付近で確認した落ち込みは、平成30年度実施の試掘調査範囲内で確認しており、試掘調査で検出していた落ち込み（第7図）と対応する。
- (5) ST01上部でも角礫が複数検出されている。この礫群は、SX01と検出土層が異なり、木棺小口上部に配置しており、棺構造と一体的なものと想定できる。このため、SX01とは区別している。
- (6) ST01上面付近の配石と1次埴丘および被覆盛土境界付近の配石については、厳密には同じ性格をもつとはし難い。しかし、両者ともその性格について断言できるものではなかったため、すべてSX01として整理した。
- (7) ST01埋土は、墓壇底面に施された地山ブロックを混入したに似た黄褐色砂質土（第26図5層）を除き、黒色砂質土および黒褐色砂質土が堆積している。これらの層は土色のみでの分離は困難であり、混入された黄褐色砂質土ブロックの大きさも考慮して分層を実施している。そのため、本来分離できる層を同一層とする、あるいは同一層を分離している可能性がある。
- (8) これらの角礫はST01の標石として報告したが、木棺蓋の押さえとして機能した可能性も残る。ただし、木棺蓋の押さえとした場合、第26図の南北方向の土層断面（A-A'）より、角礫が堆積する同図1層下面に棺蓋が存在することとなり、同図2層が被葬者埋葬後の棺内充填土と解釈する必要がある。しかし、東西方向の土層断面（B-B'）では、2層は棺内流入土である同図10層上面に堆積し、棺内床土まで達していることが分かる。これらの土層堆積状況を踏まえると、2層は棺蓋上部に施された封土として解釈することが妥当であると判断した。そのため、ST01で検出した角礫は少なくとも直接的に木棺蓋を押さえているため、本報告では標石とした。
- (9) 猪子原1号墳出土有刷鉄斧については、第8章第1節で詳述する。本章では概要を述べるにとどめる。
- (10) 埋葬施設が箱形石棺となる「掘込墓壇b類」の事例も島根県内で数例確認できる。二名留2号墳（松江市1992）、松石4号墳（宍道町1978）など、集成編年7期以降の時期が想定できる資料が含まれる。

#### 引用・参考文献

- 島根県教育委員会2011『金ヶ谷遺跡4区・一の谷古墳』  
 島根県教育委員会2007『南外2号墳・勝負遺跡』  
 宍道町教育委員会1978『松石古墳群—古墳群と周辺遺跡—』  
 中国四国前方後円墳研究会2018『前期古墳を再考する』六一書房  
 野島 永2009『初期国家形成過程の鉄器文化』雄山閣  
 広瀬和雄1991「前方後円墳の畿内編年」「前方後円墳集成」中国・四国編、山川出版社  
 松江市教育委員会1984『山崎古墳』  
 松江市教育委員会1992『二名留古墳群発掘調査報告書』  
 吉松優希2019『地域報告4 猪子原』『中期古墳研究の現状と課題Ⅲ～埋葬施設の形式・構築方法・儀礼の地域的展開と被葬者像～』中国四国前方後円墳研究会第22回研究集会発表要旨集・資料集成、中国四国前方後円墳研究会  
 和田晴吾1989『葬制の変遷』『古代史復元』第6巻、講談社

第5表 猪子原遺跡（猪子原1号墳）土層観察表

層番号	性格	土色	備考
1	表土		
2	自然堆積	褐色砂質土	(10Y94/4) 粘性なし。しまり弱。調査区全体に堆積。
3	盛土（被覆底土）	暗褐色砂質土	(10Y93/2) 粘性なし。しまり強。~1.0mの長石・石英含む。10~20mmのブロック含む。
4	埴丘基盤	にぶい黄褐色砂質土	(10Y95/3) 粘性なし。しまり後。1.0m程の長石・石英等多く含む。50mm程の黄褐色砂質土(10Y95/6)ブロック含む。
5	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(7Y93/3) 粘性なし。しまりや強。~1.0mの石英・長石等少量含む。50mm程の黄褐色砂質土ブロック少含む。
6	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y93/2) 粘性なし。しまり強。~1.0mの石英・長石多量に含む。50mm程の黄褐色砂質土ブロック少含む。
7	盛土（被覆底土）	褐色砂質土	(10Y94/4) 粘性なし。しまりや弱。1.5m程の長石・長石等少く含む。100mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
8	埴丘基盤	黒褐色砂質土	(10Y92/7) 粘性なし。しまり強。~1.0mの石英・長石等多量に含む。自然堆積（褐色土）。
9	地山	明赤褐色砂質土	(3Y93/6) 粘性なし。しまり強。
10	盛土（1次堆疊）	黒褐色砂質土	(7Y92/1) 粘性なし。しまりや強。~1.0mの石英・長石等多く含む。50~100mmの黄褐色砂質土ブロック多く含む。
11	盛土（被覆底土）	暗褐色砂質土	(10Y93/3) 粘性なし。しまりやや強。0.5m程の長石・石英含む。100mm程の黄褐色砂質土ブロック多く含む。
12	盛土（1次堆疊）	黒褐色砂質土	(10Y92/3) 粘性なし。しまりやや強。0.5~3mmの石英・長石含む。30mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
13	地山	にぶい黄褐色砂質土	(10Y96/4) 粘性なし。しまり強。真砂土。
14	盛土（1次堆疊）	黒褐色砂質土	(10Y92/3) 粘性なし。しまり強。~0.5mの長石・石英含む。10~50mmの黄褐色砂質土ブロック多く含む。
15	盛土（1次堆疊）	黒褐色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまり強。~1.0mの軽石含む。20~100mmの黄褐色砂質土ブロック多く含む。
16	ST01 墓土	詳細は第6表を参照。	
17	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまりや弱。~1.0mの石英・長石等含む。50mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
18	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y92/3) 粘性なし。しまりや弱。0.5~1mmの石英・長石含む。30~50mmの黄褐色砂質土ブロック含む。
19	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまりやや弱。~0.5mmの長石・石英等含む。100mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
20	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y92/3) 粘性なし。しまりやや強。100~150mmの黄褐色砂質土ブロック含む。
21	盛土（被覆底土）	にぶい黄褐色砂質土	(10Y94/3) 粘性なし。しまりやや弱。0.1~0.4mmの石英・長石等多量に含む。50mm以下の黄褐色砂質土ブロック(10Y92/2)含む。
22	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y93/2) 粘性なし。しまりやや強。20mm以下の黄褐色砂質土ブロック少含む。
23	盛土（1次堆疊）	黑色砂質土	(10Y92/1) 粘性なし。しまり強。1~2mmの石英・長石等多く含む。20mm程の黄褐色砂質土ブロック多く含み、100mm程の黄褐色砂質土ブロック多く含む。
24	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~1mmの石英・長石等含む。50mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
25	盛土（被覆底土）	黑色砂質土	(10Y92/1) 粘性なし。しまりやや強。0.5m程の石英・長石含む。100mm程度の黄褐色砂質土ブロック含む。
26	盛土（被覆底土）	黑色砂質土	(10Y91/3) 粘性なし。しまり強。0.2~0.4mmの石英・長石含む。10~20mmの黄褐色砂質土ブロック含む。
27	盛土（被覆底土）	黑色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまり後。0.2~0.4mmの石英・長石等含む。10mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
28	盛土（被覆底土）	黑色砂質土	(7Y92/1) 粘性なし。しまり後。0.2~0.5mmの石英・長石等含む。20~50mmの黄褐色砂質土ブロック含む。
29	埴丘流土	黒褐色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまり弱。0.5mm程の石英・長石等含む。
30	埴丘流土	黒褐色砂質土	(7Y92/2) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・長石等含む。
31	埴丘流土	黑色砂質土	(10Y92/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~0.4mmの石英・長石等少量含む。10mm程の黄褐色砂質土ブロックわざかに含む。
32	埴丘流土	黑色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまり弱。0.5mm程の石英・長石等含む。10mm程の黄褐色砂質土ブロックわざかに含む。
33	盛土（被覆底土）	暗褐色砂質土	(10Y93/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.4mmの石英・長石含む。10mm程の黄褐色砂質土ブロックわざかに含む。
34	盛土（1次堆疊）	黒褐色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英・長石含む。80mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
35	盛土（被覆底土）	暗褐色砂質土	(10Y93/1) 粘性なし。しまりやや強。0.5mm程の石英・長石等含む。10mm程の黄褐色砂質土ブロックおよび黒褐色砂質土ブロック含む。
36	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y92/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~1.0mmの石英・長石等多く含む。
37	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y93/2) 粘性なし。しまりやや強。1.0mm程の長石・石英多く含む50mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
38	盛土（被覆底土）	にぶい黄褐色砂質土	(10Y94/3) 粘性なし。しまりやや弱。1.0mm程の石英・長石等および10mm程の小石含む。50mm程の黄褐色砂質土ブロック少含む。
39	埴丘流土	暗褐色砂質土	(10Y93/3) 粘性なし。しまり弱。0.5mm程の石英・長石等および0.5~10mmの小石含む。
40	埴丘流土	にぶい黄褐色砂質土	(10Y94/3) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・長石等および5mm程の小石多く含む。
41	盛土（被覆底土）	黒褐色砂質土	(10Y93/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.5mmの石英・長石等少く含む。50~100mmの黄褐色砂質土ブロック少含む。

第6表 猪子原1号墳ST01土層観察表

層番号	性格	土色	備考
1	木棺覆土	黒褐色砂質土	(7.5YR3/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・長石少量含む。50~100mmの黄褐色砂質土。(10YR5/6) ブロック含む。
2	木棺覆土	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまりやや強。0.5mm程の石英・長石等含む。30mm程の黄褐色砂質土ブロック少く含む。
3	木棺覆土	黒褐色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまりやや強。0.5mm程の石英・長石等少く含む。50mm程の黄褐色砂質土ブロック多く含む。
4	棺内埋土	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英・長石等多く含む。100mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
5	墓壙整地土	に赤い黄褐色砂質土	(10YR5/3) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・長石等を多く含む。10mm程の地山(第5表)層ブロックを多く含む。
6	木棺裏込	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.3~0.5mmの石英・長石等多く含む。30mm程の黄褐色砂質土ブロック少く含む。
7	木棺裏込	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.3~0.5mmの石英・長石等多く含む。10mm程の地山(第5表)層ブロック僅かに含む。
8	木棺裏込	黒褐色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまりやや強。0.5~1.0mmの石英・長石等多く含む。30mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
9	木棺痕跡(側面)	黒褐色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~1.0mmの石英・長石等含む。
10	棺内流入土	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまりやや強。0.5mm程の石英・長石等多く含む。10mmの黄褐色砂質土ブロック僅かに含む。
11	木棺痕跡(側面)	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英・長石等含む。
12	木棺裏込	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英・長石等多く含む。100mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
13	木棺裏込	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英・長石等多く含む。10mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
14	木棺痕跡(小口)	黒褐色砂質土	(10YR2/1) 粘性なし。しまりやや強。0.5mmの石英・長石等多く含む。
15	棺内流入土	黒褐色砂質土	(10YR3/2) 粘性なし。しまりやや強。0.2~1.0mmの石英・長石等多く含む。40mm程の黄褐色砂質土ブロック少く含む。
16	木棺裏込	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.2~0.5mmの石英・長石等多く含む。50~100mmの黄褐色砂質土ブロック多く含む。
17	木棺裏込	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり強。0.2~0.5mmの石英・長石等多く含む。10mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
18	木棺裏込	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.3mmの石英・長石等含む。20mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。
19	木棺着跡(小口)	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.3mmの石英・長石等含む。
20	棺内流入土	黒褐色砂質土	(10YR2/2) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・長石等多く含む。30mm程の黄褐色砂質土ブロック含む。

第7表 猪子原1号墳出土遺物観察表

発掘場所	遺物	出土地点	出土深場	種別	断面	法面 ( 内径 )			重積 ( t )	備考
						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
27	1	10	ST01	鉢器	有鉄鋤形	81a	109	底部 4.0 刃部 4.9	傾斜 3.3 刃部 4.6	250.3 鉢部折曲円錐 刃部は左毛と對称 刃先部は刃あり

## 第4章 上ノ谷遺跡の調査

### 第1節 調査の方法

#### 1. 発掘調査区の立地

上ノ谷遺跡は島根県飯石郡飯南町下来島に所在する。遺跡の所在する丘陵は、神戸川より約1km離れているものの、神戸川支流である小河川沿いに立地している。遺跡はこの小河川両岸に形成されており、調査前は植林が行われていた（図版11）。

#### 2. 発掘調査区とグリッドの設定

試掘調査は平成30年度と令和元年度に島根県教育委員会によって実施された。開発予定地内の丘陵尾根平坦面および緩斜面付近を中心にしてトレンチを14ヵ所（H30年度：10ヵ所、R1年度：4ヵ所）設定した（第3・28図）。その結果、平成30年度の調査ではTr 2・Tr 4・Tr 5・Tr 6・Tr 10で縄文土器・土師器・須恵器などの遺物が出土した（第5図）。また、遺跡内に三瓶山由来の火山灰（ハイカ）の堆積を確認した。以上のことから、小河川を挟んだ丘陵緩斜面上に縄文時代から古墳時代にかけての集落遺跡あるいは遺物散布地の存在が想定されたため、発掘調査を実施することとした。なお、発掘調査は令和元年度に小河川右岸側（1区）から実施したが、左岸側（2区）の遺跡範囲が不明瞭であった。そのため、令和元年度に追加の試掘調査を行い、遺跡の拡がりを把握した。調査対象面積は約3,400m<sup>2</sup>である（図版11・12）。

発掘調査は、国土座標を基準に10m四方のグリッドを設定し、北から南にアルファベット、西から東に算用数字を振り、グリッド名とした（第29図）。

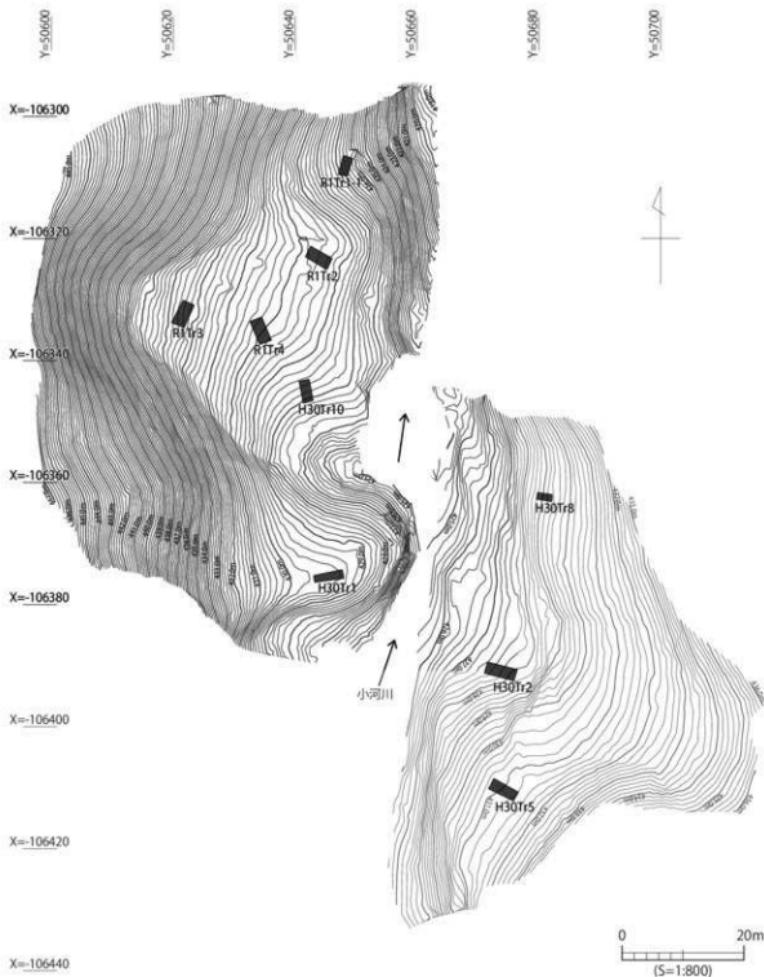
#### 3. 調査の方法

発掘調査は2ヵ年実施し、令和元年度は1区東半部、令和2年度は1区西半および2区を対象とした。表土掘削は、令和元年度はバケットに平爪を装着したバックホーを使用し、調査員の立会のもと、少しづつ面的に掘り下げた。しかし、掘削が進むにつれ、表土下約10cmで遺物包含層に達することが判明したため、令和2年度は人力による掘削作業に切り替えた。

表土下層の掘削は、ベルトコンベアを設置し、スコップや鍬、ジョレンを用いて人力で掘削したが、出土遺物の粗密に合わせて適宜移植ゴテおよび草削りなどを併用した。ただし、2区については、遺物包含層間に無遺物層（第1ハイカ層—第2ハイカ層間）が約30cmと比較的厚く堆積していたため、バックホーによる掘削作業を実施した。なお、掘削作業は、

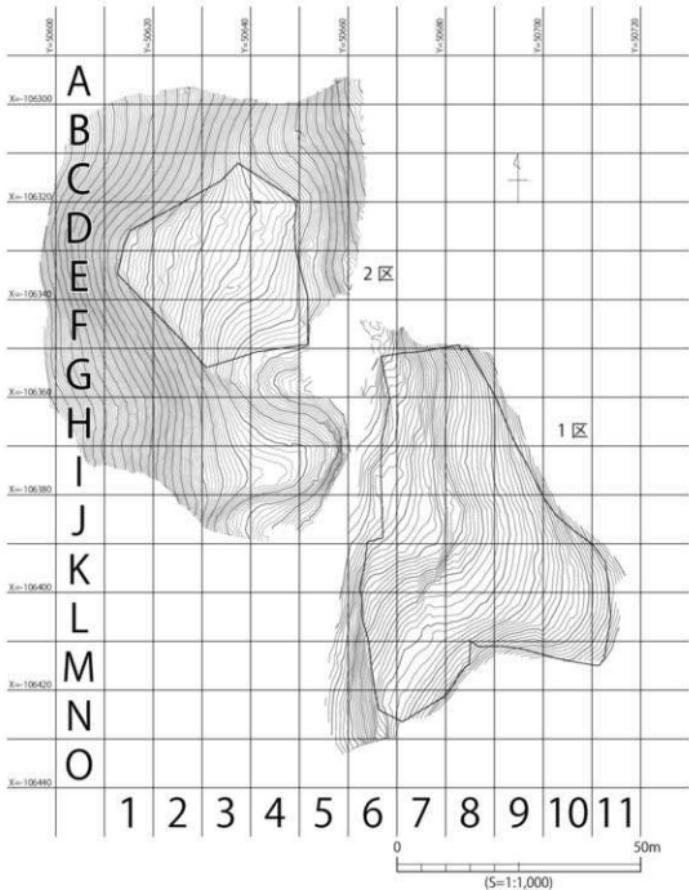


写真8 トレンチ設定状況



第28図 調査前地形測量図

土層堆積確認を目的としたトレンチ調査（第30図、図版13）を先行して行い、調査対象範囲内の土層を精査した後、面的に実施した。土層堆積確認のためのトレンチは、写真撮影後、必要に応じて断面図（第32～36図）を作成した。このほかにも、調査グリッドに沿って適宜トレンチを設定し、層の確認を行なながら掘削を進めた（写真8）。また、令和2年度には、トレンチによって把握した遺構面・遺物包含層の調査完了後に、調査グリッドの交点付近に1m四方のトレンチを設定し、調査対象となる層の有無を確認した（写真9・10）。



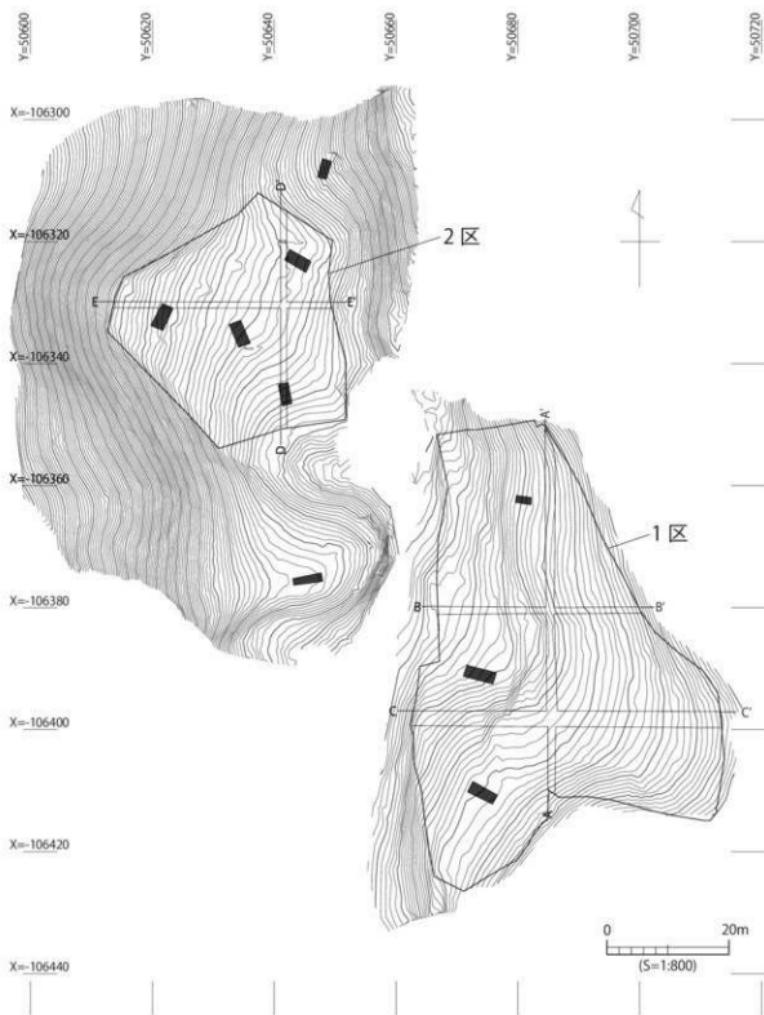
第29図 調査範囲とグリッド設定



写真9 トレンチ掘削作業の様子1



写真10 トレンチ掘削作業の様子2



第30図 土層堆積確認トレンチ配置図



写真11 石器集中地点掘削作業の様子



写真12 水洗選別作業の様子

遺構掘削は、移植ゴテおよび草削りを使用して行った。基本的に土層観察用のベルトを設定するか、半蔵して埋土を掘削し、土層観察を行いつづけた。土層は写真撮影後、必要に応じて断面図を作成した。

遺物は基本的に遺跡調査システムによる測量を実施し、出土位置の実測を行い、必要に応じ手測りによる実測図を作成した後に取り上げた。ただし、後述する2区第3遺構面で確認した石器集中出土地点については、第29図で示した調査グリッドとは異なるグリッド（第99図）を設定し、グリッド単位による取り上げを実施した。なお、竪穴建物と石器集中地点の掘削土は、土のう袋に入れ、水洗選別を行った（写真11・12）。

遺構および遺物の記録に関しては、遺跡調査システムを用いて測量し、遺構の平面図などは出力後に補正を行った。写真は、基本的にデジタルカメラによる撮影を行い、必要に応じて6×7版フィルムカメラ（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を実施した。

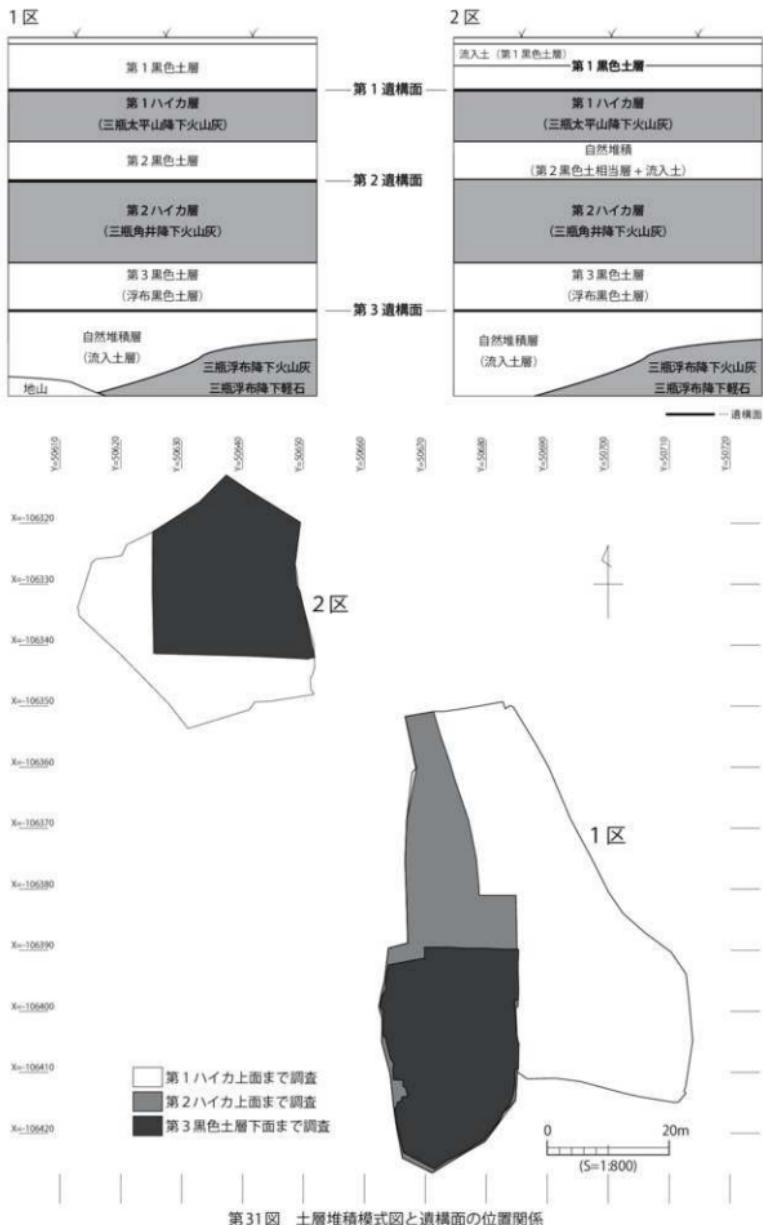
整理作業は、現地調査と並行して出土遺物の洗浄・注記を現地の事務所で実施し、現地調査終了後、令和元年12月中旬から埋蔵文化財調査センターにおいて遺物の実測、遺構図の編集、現地撮影写真の整理といった本格的な整理作業を開始した。令和2年には発掘調査と並行しながら、各図面のトレースを実施するほか、遺物の保存処理作業を一般財団法人大阪市文化財協会に委託し、保存処理を実施した。令和3年4月からは報告書作成作業を開始し、遺物の写真撮影・画質ほかの調整、原稿執筆・編集作業を実施した。図面トレース以降の作業はDTP方式で行った。

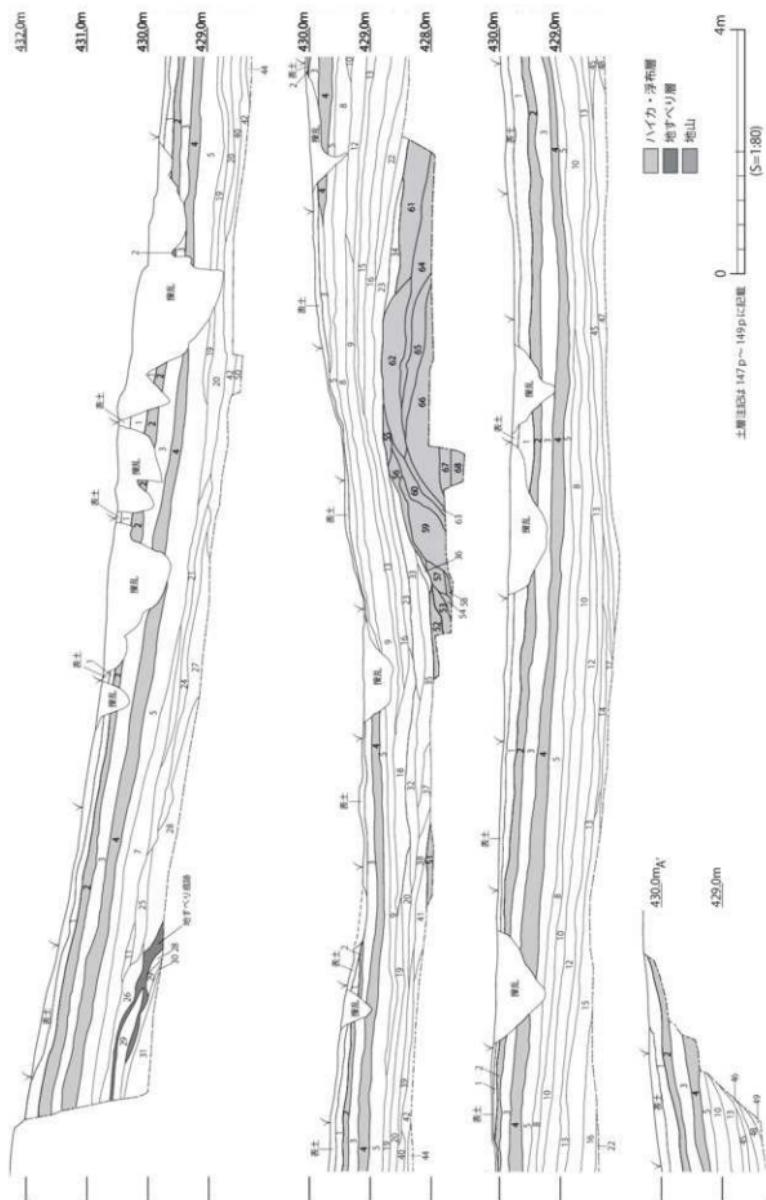
自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボに委託し、出土した石皿の残存デンブン粒分析と、石器集中地点から出土した黒曜石の産地推定分析を行った。分析試料はすべて埋蔵文化財調査センターが選定して提供した。

## 第2節 基本層序

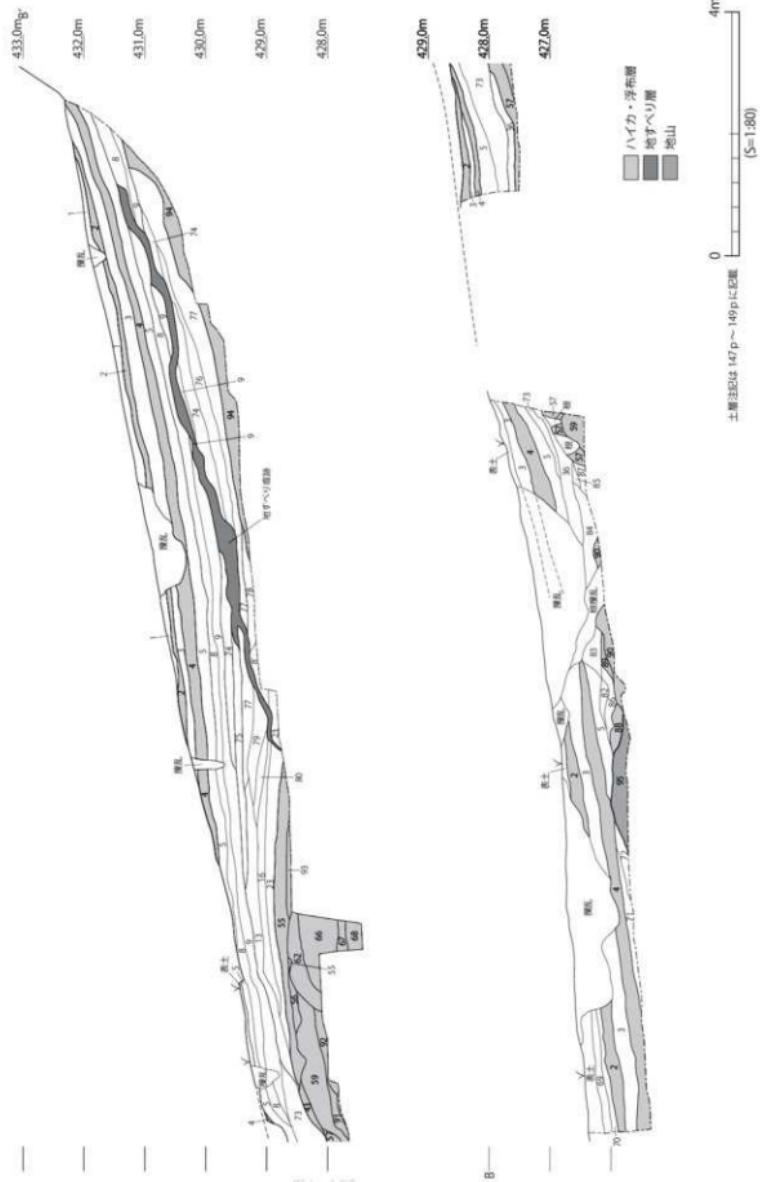
### 1. 遺跡の基本層序

上ノ谷遺跡の層序（第31～36図、第32・36表、図版13）は、調査によって確認した範囲では、基本的には表土層—第1黒色土層—第1ハイカ層—第2黒色土層—第2ハイカ層—第3黒色土層—三瓶浮布降下火山灰層—三瓶浮布降下軽石層—地山（真砂土系）となっている（第31図、図版12）。ただし、1区・2区とともに、第3黒色土層と浮布火山灰層との間で流入土層を複数確認している。浮布降下火山灰層が堆積後、第3黒色土層が堆積するまでの間、土砂の流入と堆積が繰り返されると





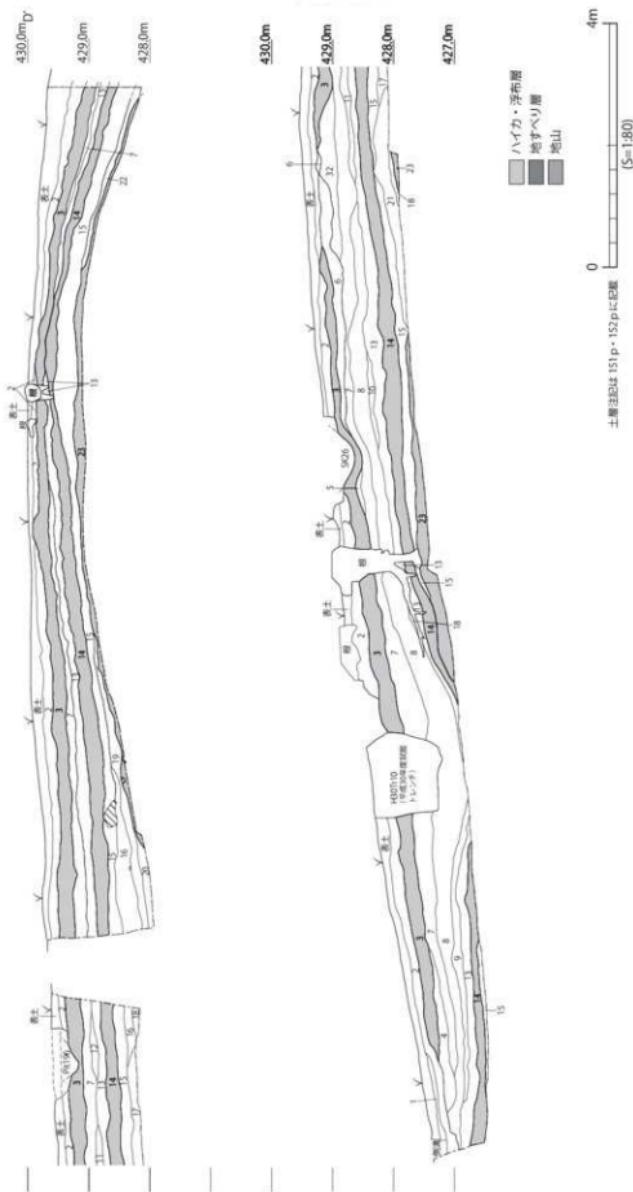
第32図 1区土層断面図 (A-A')



第33図 1区土層断面図 (B-B')



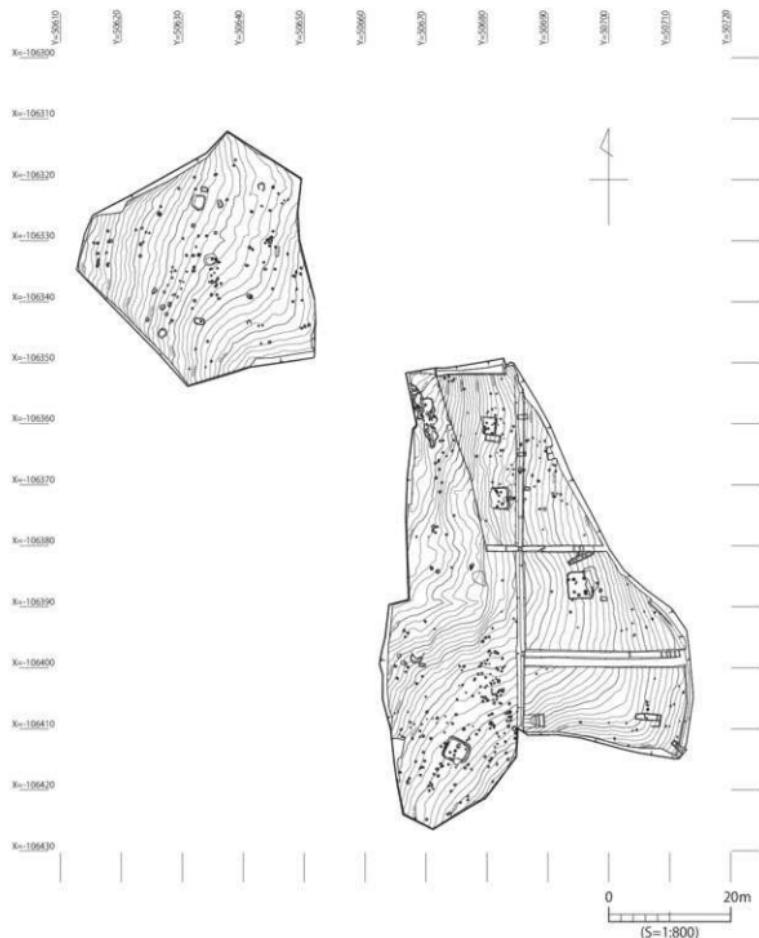
第34図 1区土層断面図 (C-C')



第35図 2区土層断面図 (D-D')



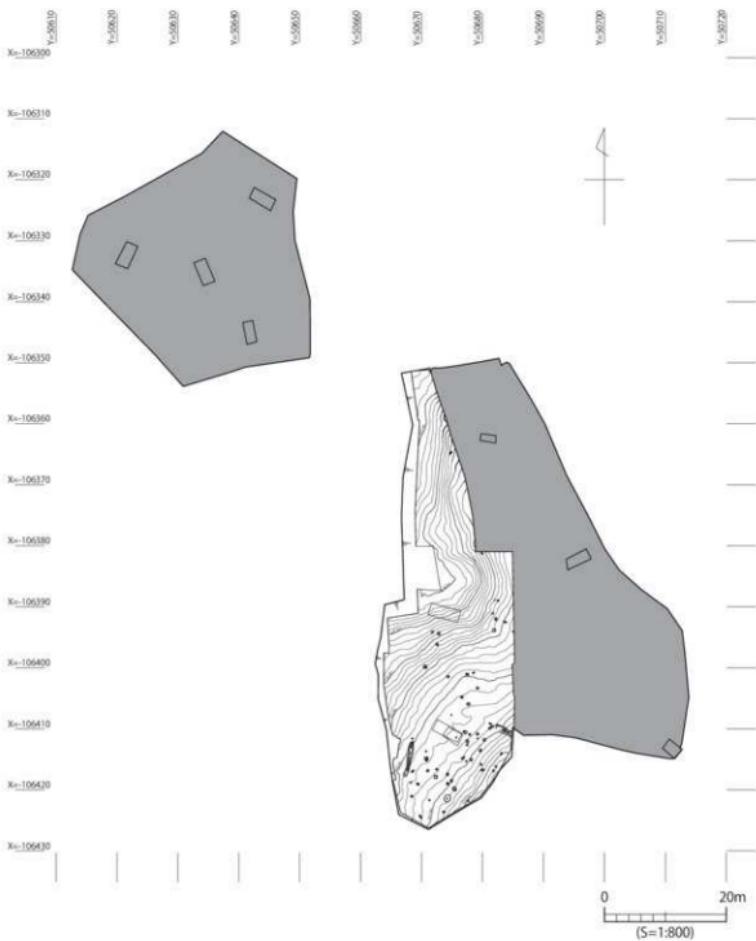
第36図 2区土層断面図 (E-E')



第37図 第1遺構面全体図

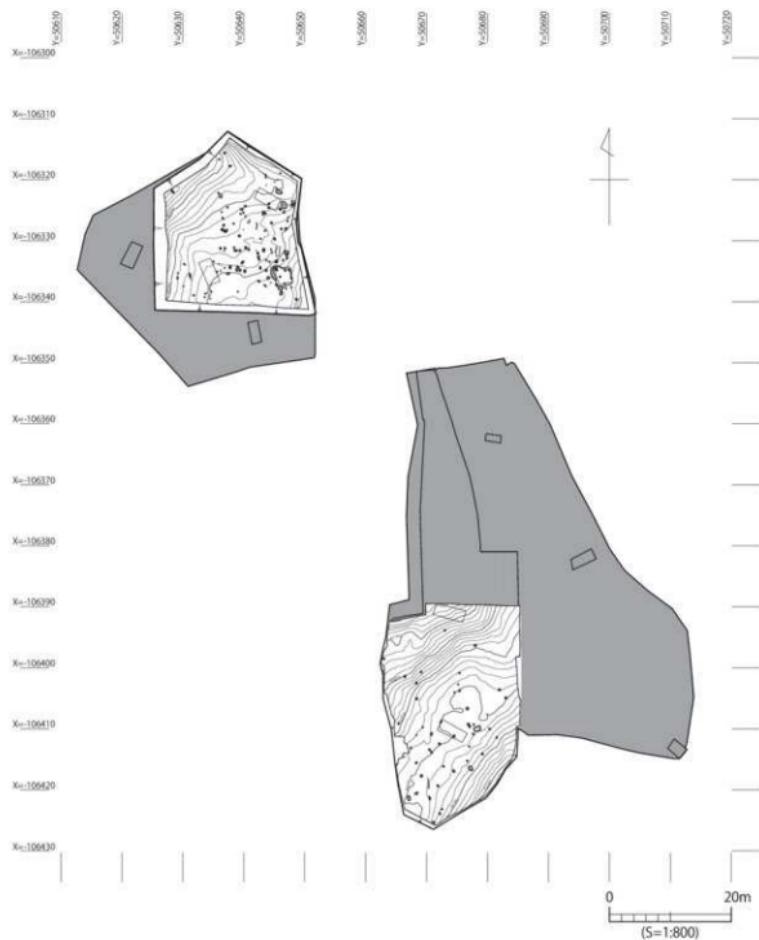
いう不安定な土壤環境が想定される（第32～36図、図版13）。また、2区では、第3黒色土層堆積以降も、土砂の流入と堆積が認められる。表土直下には、第1黒色土層の流入土層（第35・36図1層）が堆積するほか、第1ハイカ層—第2ハイカ層間において、地山（真砂土系）由来の土（第36図27・31・44層ほか）などの流入土層が堆積している。これらの流入土層を挟み、1区で検出した第2黒色土層に相当する黒色土層（第35・36図12・13・46層）<sup>(1)</sup>が認められる。そのため、第1ハイカ層—第2ハイカ層間の土壤環境としては不安定な状況であったものと推測できる。

ハイカ層とは、地元で三瓶山の火山灰を指す呼称であり、調査の便宜上そのまま土層名として用いている。地学的には、第1ハイカ層は三瓶太平山降下火山灰、第2ハイカ層は三瓶角井降下火山



第38図 第2遺構面全体図

灰と呼ばれている。また、第3黒色土層は浮布黒色土層と呼ばれている。なお、同町頼原地区で発掘された板屋Ⅲ遺跡（島根県1998・島根県2003）などでは、三瓶池田降下軽石層の可能性が高い粘土質火山灰層を検出しているが、上ノ谷遺跡では確認できていない。火山灰の年代については、AMS炭素年代測定により歴年代が与えられており（小林・角田2006）、第1ハイカ層がBC2145—2025年頃、第2ハイカ層がBC3650—3550年頃と推測されている。



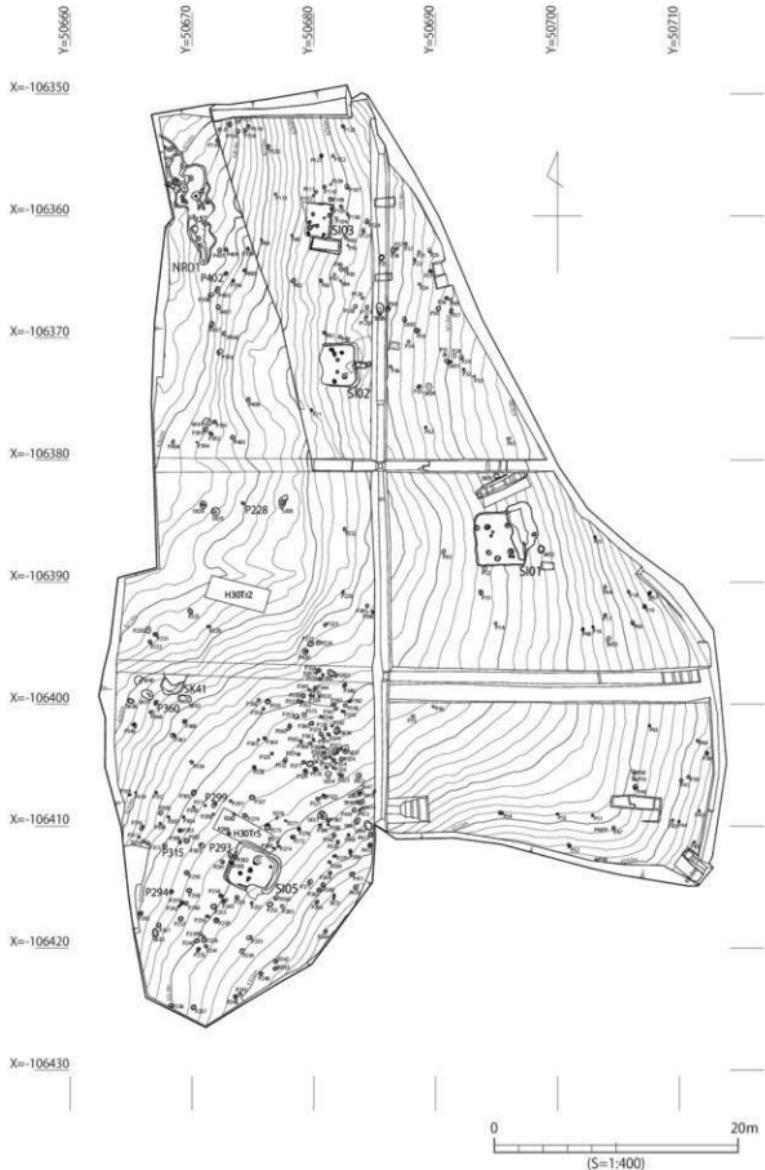
第39図 第3遺構面全体図

## 2. 遺物包含層

各時代の遺物を包含している土層は、1区では第1黒色土層（第32～34図1層）、第2黒色土層（同図3層）、第3黒色土層（同図5層）である。2区では第1黒色土層（第35・36図1・2層）、第3黒色土（同図15層）であり、第2黒色土層に相当する黒色砂質土（同図12・13・46層）では遺物は出土していない。

## 3. 遺構面

遺構は、本来、遺物包含層とした黒色土層中から掘り込まれたと想定できるが、遺構埋土も遺物



第40図 1区第1遺構面遺構配置図

包含層由来の土層であるため、検出が困難であった。そのため、1区では第1ハイカ層上面（第32～34図2層）、第2ハイカ層上面（同図4層）、第3黒色土層下面、2区では第1ハイカ層上面（第35・36図3層）、第3黒色土層下面で検出を行った。これらすべての面で遺構を確認しており、ハイカ層との対応をふまえ、第1ハイカ層上面で確認した遺構面を第1遺構面、第2ハイカ層上面を第2遺構面、第3黒色土下面を第3遺構面と整理した<sup>④</sup>（第31・37～39図）。なお、2区第2ハイカ層（同図14層）上面での遺構検出は、先述したように第1ハイカ層と第2ハイカ層の間の土層堆積が安定しておらず、第2黒色土層相当の黒色砂質土層から遺物が出土しないため、実施していない。

実際の調査では、すべて第3黒色土層を除去するまで発掘を行っているわけではなく、先行してトレンチ調査を実施し、必要な部分についてのみ下層まで掘り下げている（第31図）。

#### 4. 地滑り関連土層

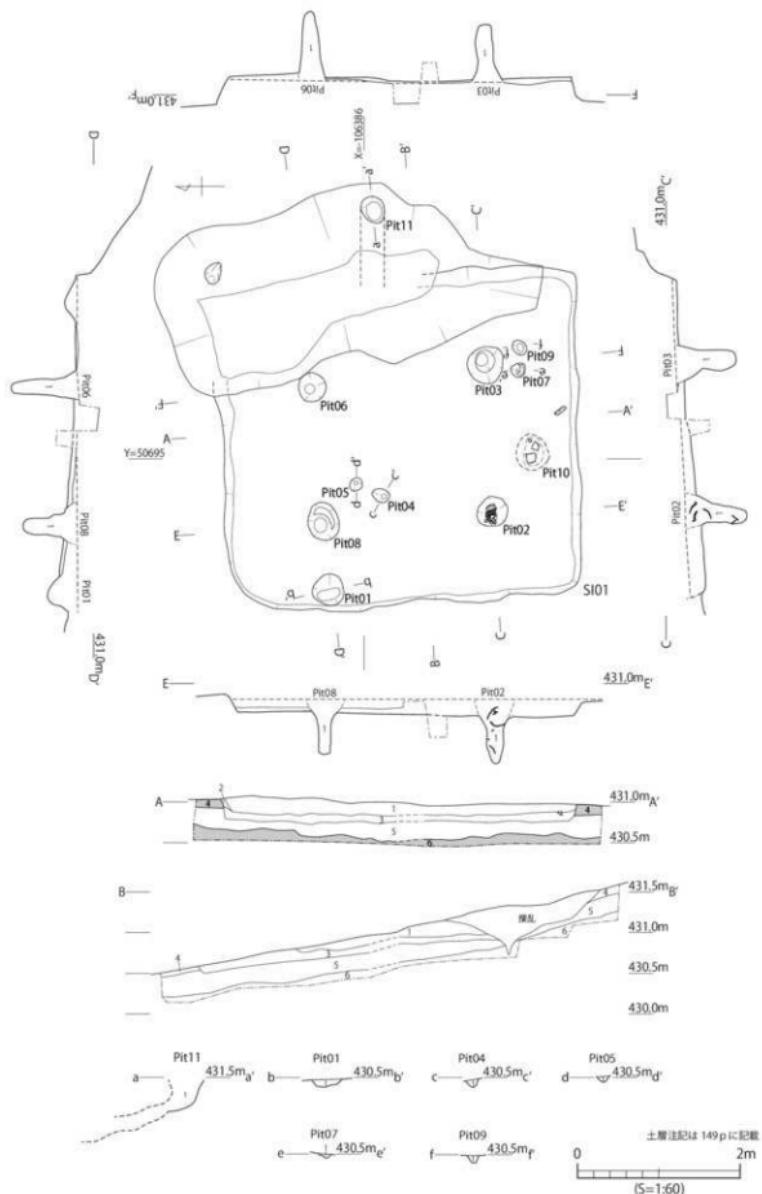


写真13 2区で確認した褶曲

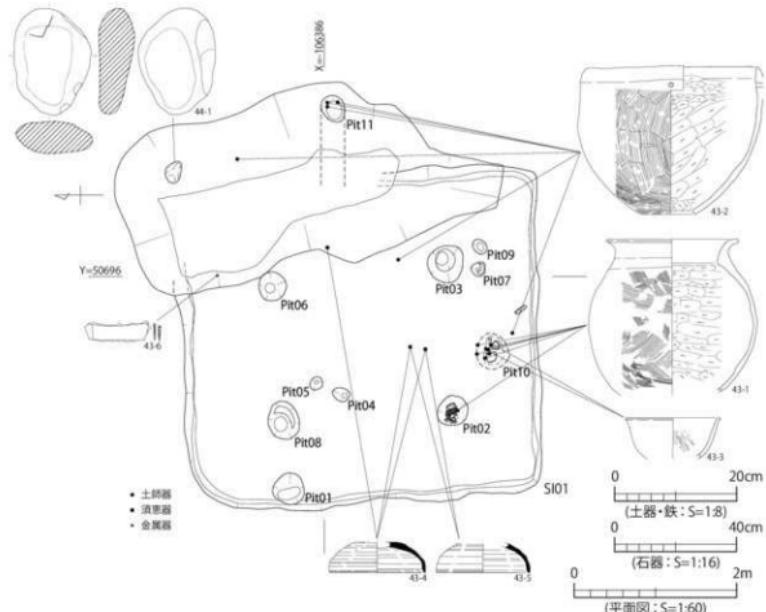
1区・2区ともに、地滑りに関連した土層の堆積を確認している。特に、2区では、地滑りの影響を受け、土層が褶曲している状況も認められる（第36図、写真13）。なお、褶曲を伴った地滑りは、少なくとも第2ハイカ層堆積以降に発生しており、上層に堆積する第1ハイカ層には影響を与えていない。このことから、縄文時代前期後葉から後期前葉までの間に発生した地滑りであることがいえる。

第8表 1区遺構面と検出した主な遺構

遺構面	遺構	出土遺物	時 期
整穴建物			
S101	土師器、須恵器、鉄器、石器	古墳時代後期後半	
S102	土師器	古墳時代後期後半	
S103	土師器	古墳時代後期後半	
S105	土師器	古墳時代中期後半～後期初頭	
土坑群			
SK41	土師器	古墳時代後期前半	
小土坑群			
Pit228	石器	縄文時代後期	
Pit293	土師器	古墳時代後半期	
Pit294	土師器	古墳時代中期後半～後期初頭	
Pit299	縄文土器	縄文時代後期	
Pit315	土師器	古墳時代後半期	
Pit360	土師器	古墳時代後半期	
Pit402	石器	縄文時代後期	
自然流路			
NR01	縄文土器、弥生土器、土師器	縄文時代後期～	
第1遺構面 (第1ハイカ層上面)			
第2遺構面 (第2ハイカ層上面)	土坑群 小土坑群 Pit441	縄文土器	縄文時代前期後葉・後期 縄文時代前期後葉・後期 縄文時代前期後葉
第3遺構面 (第3黒色土層下層上面)	土坑群 SK83 小土坑群	石器	縄文時代前期前葉 縄文時代前期前葉 縄文時代前期前葉



第41図 SI01 実測図



第42図 SI01 遺物出土状況

### 第3節 1区の調査

前述したように、上ノ谷遺跡1区では、第1遺構面、第2遺構面、第3遺構面の3面の遺構面を確認した。これらの遺構面は検出面であり、本来は各遺構面の上層に位置する黒色土層に伴う遺構を検出したものと推測できる（第8表）。そこで本節では、各遺構面で検出した主な遺構とその遺物について詳述する。また、あわせて遺構面とセットとなる黒色土層出土遺物についても記載する。なお、遺構については記載しなかったものも含め第9～19表に概要を示し、土色などの観察表（第33～35表）を付した。遺物については第39～41表を付した。

#### 1. 第1遺構面の調査

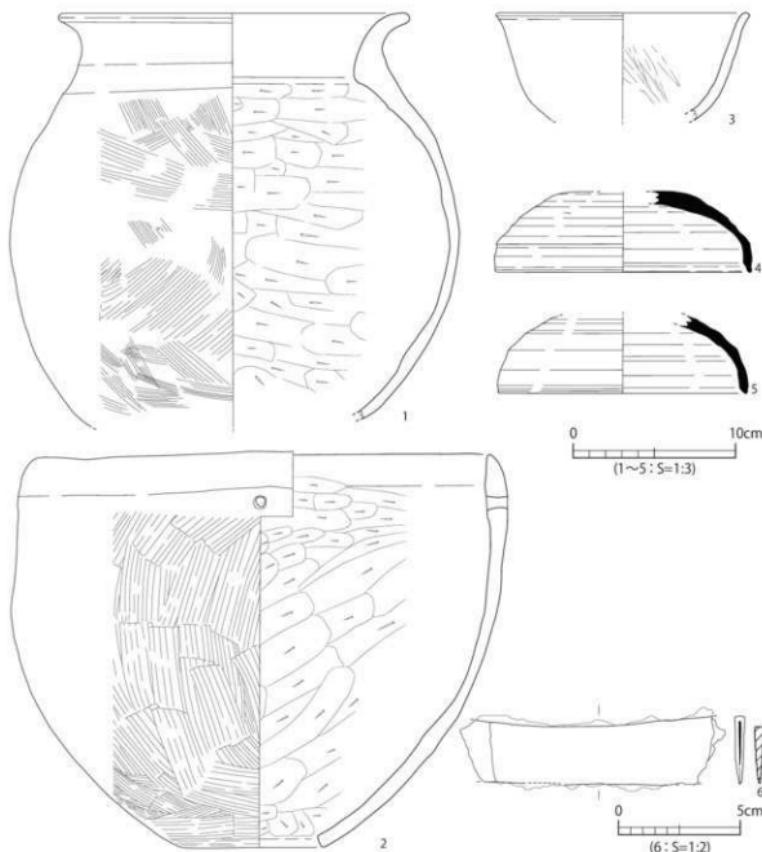
第1遺構面の調査は、1区の全範囲である約2,400m<sup>2</sup>を対象とした。調査の結果、第1ハイカ層上面から竪穴建物4棟、多数の土坑および小土坑、自然流路が検出された（第40図・図版14・15）。また、少量ながら、第1黒色土層中から、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

##### （1）竪穴建物

竪穴建物は1区第1遺構面では4棟検出している（第9表）。いずれも古墳時代後半期に属するものである。竪穴建物の概要については第9表で示し、土層観察表として第33表を付した。

##### SI01（第41・42図、図版15・16）

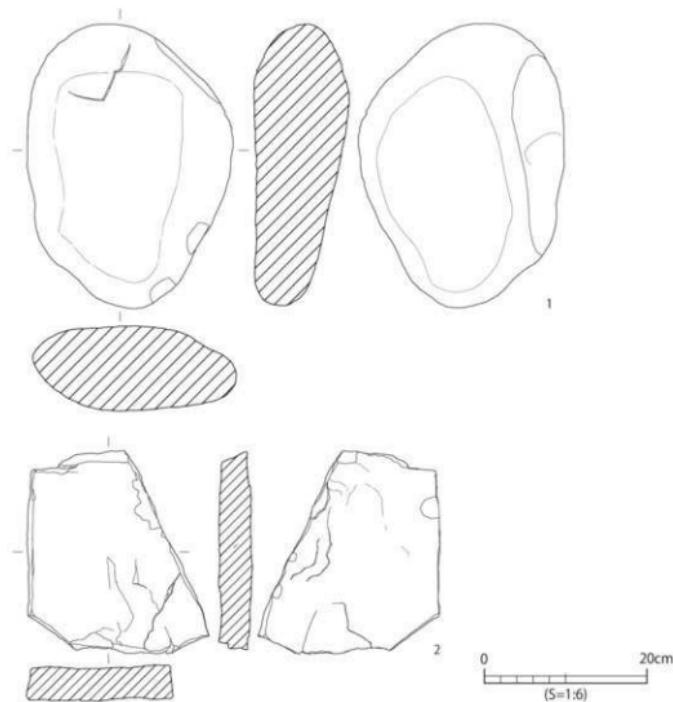
SI01は調査区中央東側の緩斜面で検出した（第41図）。平面形は東側の壁がかく乱により残存し



第43図 SI01出土遺物（1）

ていないが、隅丸長方形と考えられ、南北4.4m、東西4.0m、検出面から床面までの深さは0.2mである。完掘時の状況から、大部分がすでに削平されているものと推測できる。ただし、床土および柱穴は良好に残っており、床面からは小土坑10基（Pit01～10）を検出した。これらの小土坑のうち、Pit02・03・06・08は径0.35～0.45m、深さ0.8m程度となり、柱穴であると考えられる<sup>⑨</sup>。その配置から4本の主柱による竪穴建物が想定される。また、SI01東側で検出した小土坑（Pit11）は、かく乱により不明瞭ではあるが、甌が出土することからSI01に付随する煙道であったと考えられる。なお、焼土面および竪穴建物に伴う溝は検出していない。

遺物は床面およびSI01内の遺構内部から出土している。このほか、遺構埋土中からも出土したが、細片程度であり、第1黑色土層由来の遺物が自然に流れ込んだものと判断した。出土した遺物は土師器、須恵器、鉄器、石器である（第42図）。1ヵ所にまとまった状況での出土ではないが、煙道内部（Pit11）より甌、柱穴（Pit02）より甌、礫を伴う小土坑（Pit10）付近で高环や甌、甌片が出



第44図 SI01出土遺物（2）

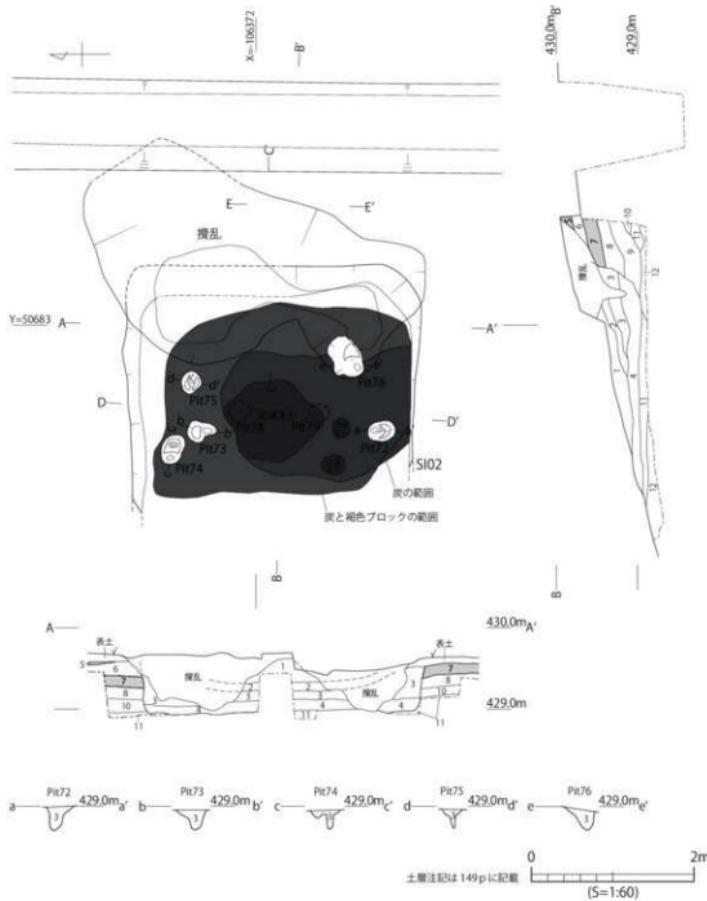
土している。柱穴および煙道内部で遺物が出土した状況から、建物解体時に意図的に置かれた可能性が高い。そのため、SI01の使用時期を示す土器群であるといえる。

#### SI01出土遺物（第43・44図、図版30・32・33）

床面および柱穴・煙道内部から出土した遺物は土師器、須恵器、鉄器、石器である（第43・44図）。これらの遺物は先述したようにSI01の使用時期を示すものであると考えられる。第43図1～3は土師器で、1の甕は口縁部が屈曲し、口頸部は直上方向に延びる。2は櫃で、半球状の胴部を呈し、口縁部付近に孔が2カ所認められる。3は高环の环部と考えられる。同図4・5は須恵器で、ともに环蓋である。石見4期ころのものと思われる。同図6は不明瞭であるが刀子の刃部と考えられる。第44図1・2は台石とした。1は両面に使用痕が認められる。

#### SI02（第45～47図、図版17）

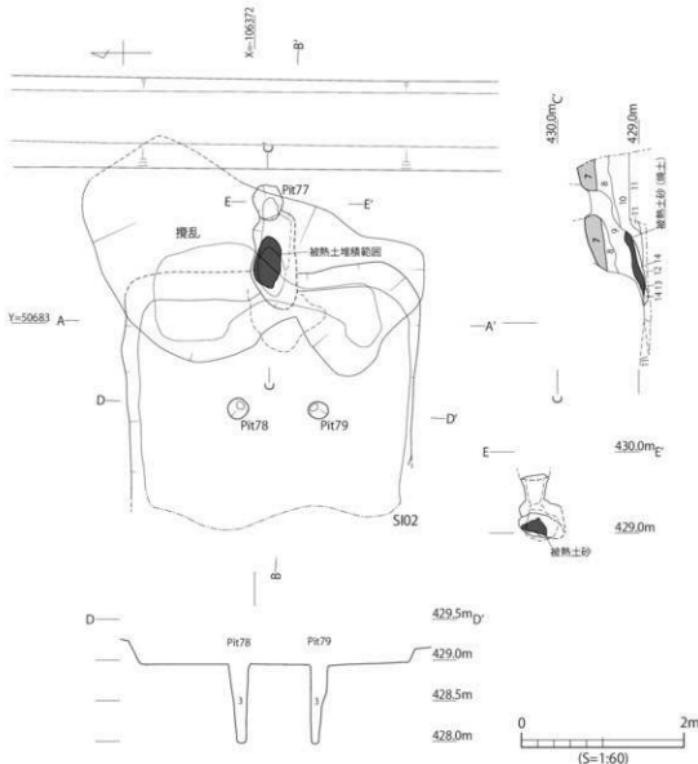
SI02は調査区北半中央付近の緩斜面で検出した（第45・46図）。東西の壁がかく乱および削平により不明瞭であるが、隅丸長方形と考えられ、南北3.5m、東西は残存規模で3.0m、検出面から床面までの深さは0.5mである。表土直下から検出されているが、SI02付近は後世に削平されており、表土直下層が第2ハイカ層となる地点も確認されている。そのため、SI02は大部分が削平されていると推測できる。調査によって、床土（第45図4層）が施されていることを確認し、床土から掘り



第45図 SiO<sub>2</sub>実測図（床土除去前）

込まれる小土坑5基(Pit72～76)を検出した。床土は炭を含み、部分的に炭が溜まる範囲も確認した。炭溜まりはSiO<sub>2</sub>中央付近に集中しており、焼土面をもつ中央土坑であると想定したが、遺構状の落ち込みは認められなかった。また、炭が検出される範囲も床面全体におよんでおり、焼土面を形成している状況は確認できなかった。そのため、炭を含む土を床上に利用していると判断した。

床土を除去後、遺構中央付近で小土坑2基(Pit78・79)を検出するとともに、東壁で煙道を検出した(第46図)。柱穴は径0.25m、深さ1.0m程となり、その配置から2本の主柱による竪穴建物が想定される。なお、床面を精査した際には掘形は確認できておらず、柱が据えられた状況で床を貼っていると推測される。煙道はSiO<sub>2</sub>東側で検出した小土坑(Pit77)と一緒に遺構であることが判明した。煙道内部には被熱した土が堆積しており(第46図13層)、埋土とした同図9・14層も被熱



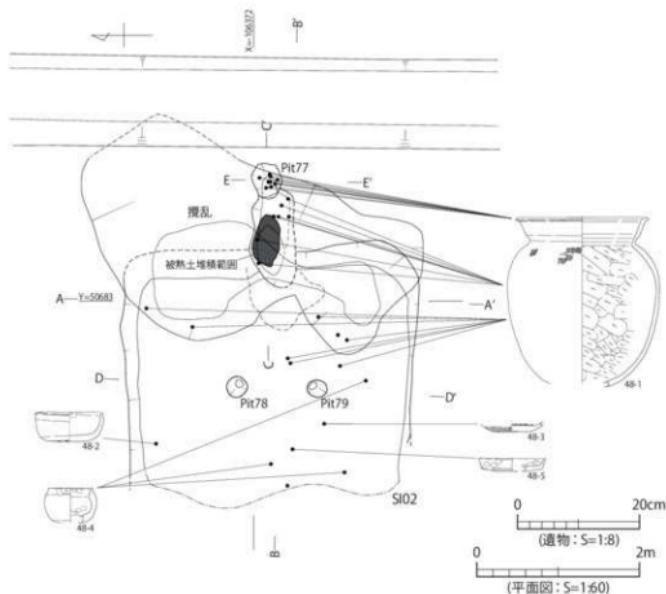
第46図 SI02実測図（床土除去後）

土をブロック状に含んでいた。なお、煙道（第45図9層）はSI02に施された炭混じりの床土（同図4層）によって焚口が閉塞されており、4層による床面の機能時には使用されていないことが想定される。以上のような柱穴および煙道の状況をふまえると、SI02は少なくとも、煙道が機能し4層による貼床が存在しない時期と、貼床が施される前後2時期の使用時期を想定できる。

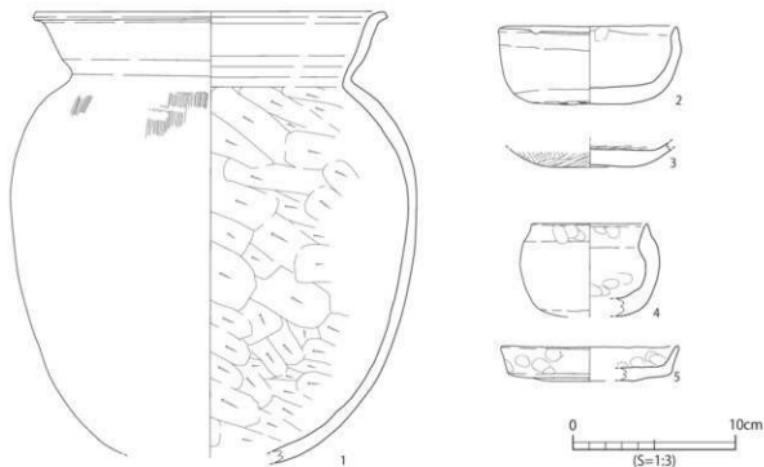
遺物は床面および煙道内部から出土している。遺構埋土中からの出土は細片程度であり、SI01同様に、第1黒色土層由来の遺物が自然に流れ込んだものと判断した。出土した遺物は土師器である（第47図）。1カ所にまとまった状況での出土ではないが、煙道内部（Pit77）を中心に甕が出土している。また、床土上面から塊や手づくね土器が出土している。出土状況から、煙道内出土の土師器甕は煙道を床上で閉塞する際に意図的に置かれた可能性が高い。なお、これらの土器は、貼床による床面形成前後という時期差が想定できるものの、遺物からは明瞭な時期差が認められなかった。ただし、床面や煙道から出土することから、SI02の使用時期を示す土器群であるといえる。

#### SI02出土遺物（第48図、図版32・33）

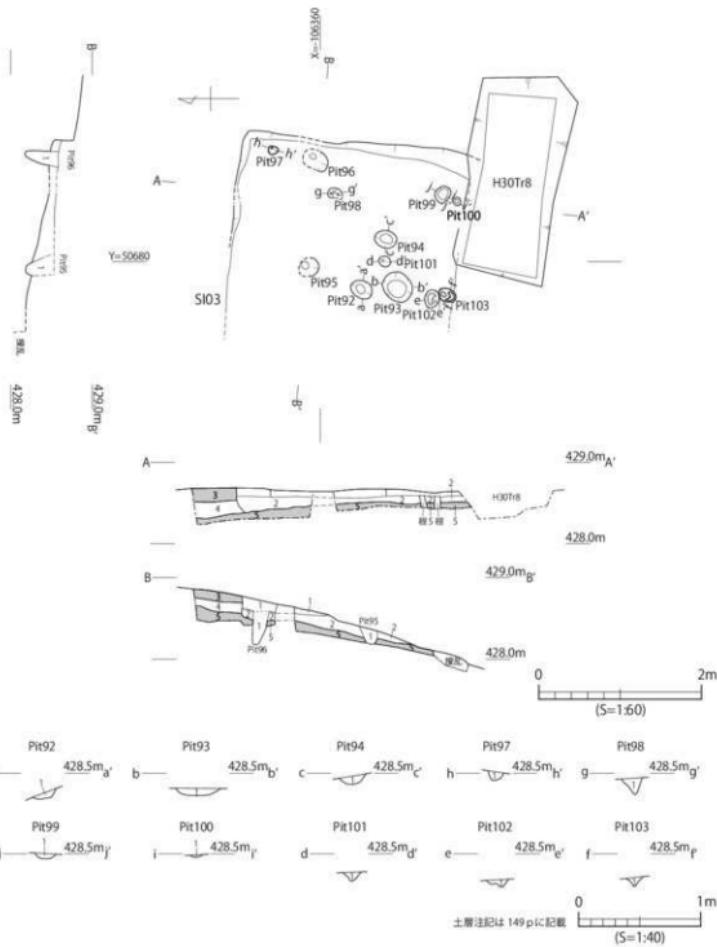
床面および煙道内部から出土した（第48図）。これらの遺物は先述したようにSI02の使用時期を



第47図 S102遺物出土状況



第48図 S102出土遺物

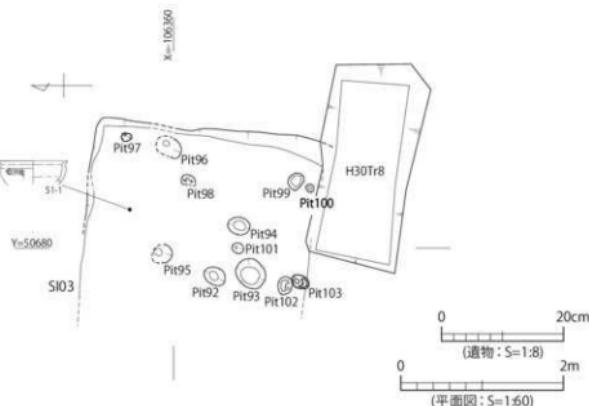


第49図 SI03実測図

示すものであると考えられる。第48図1～3は土師器で、1の甕は口縁部が屈曲し、口頸部はゆるいく字状にたちあがる。同図2は塊で、器壁は厚みをもつ。同図3は塊あるいは壺の底部、同図4・5はミニチュア土器である。4は塊形、5は皿状の形態となる。

### SI03 (第49・50図、図版18)

SI03は調査区北隅中央付近の緩斜面で検出した(第49図)。南側の壁が平成30年度の試掘調査(H30Tr 8)によって不明瞭となり、遺構全体も大きく削平されている。平面形は長方形と考えられ、南北推定3.0m、東西は残存規模で2.6m、検出面から床面までの深さは0.15mである。調査によって、床土(第49図2層)を確認し、床土上面から掘り込まれる小土坑を11基(Pit92～103)を検出



第50図 SI03遺物出土状況

した。小土坑は浅く、その配置からも柱穴と判断できるものは認められなかった。そのため、検出したSI03の規模も踏まえると、主柱が存在しない小規模な建物であることと推測できる。

遺物は床面から土師器が出土している(第50図)。1点のみの出土であるものの、床面で出土していることから、SI03の使用時期を示す上器であるといえる。

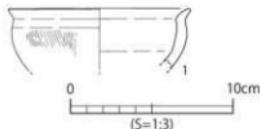
#### SI03出土遺物 (第51図、図版33)

SI03からの遺物は少なく、床面から土師器の鉢(第51図1)が1点出土しているのみである。

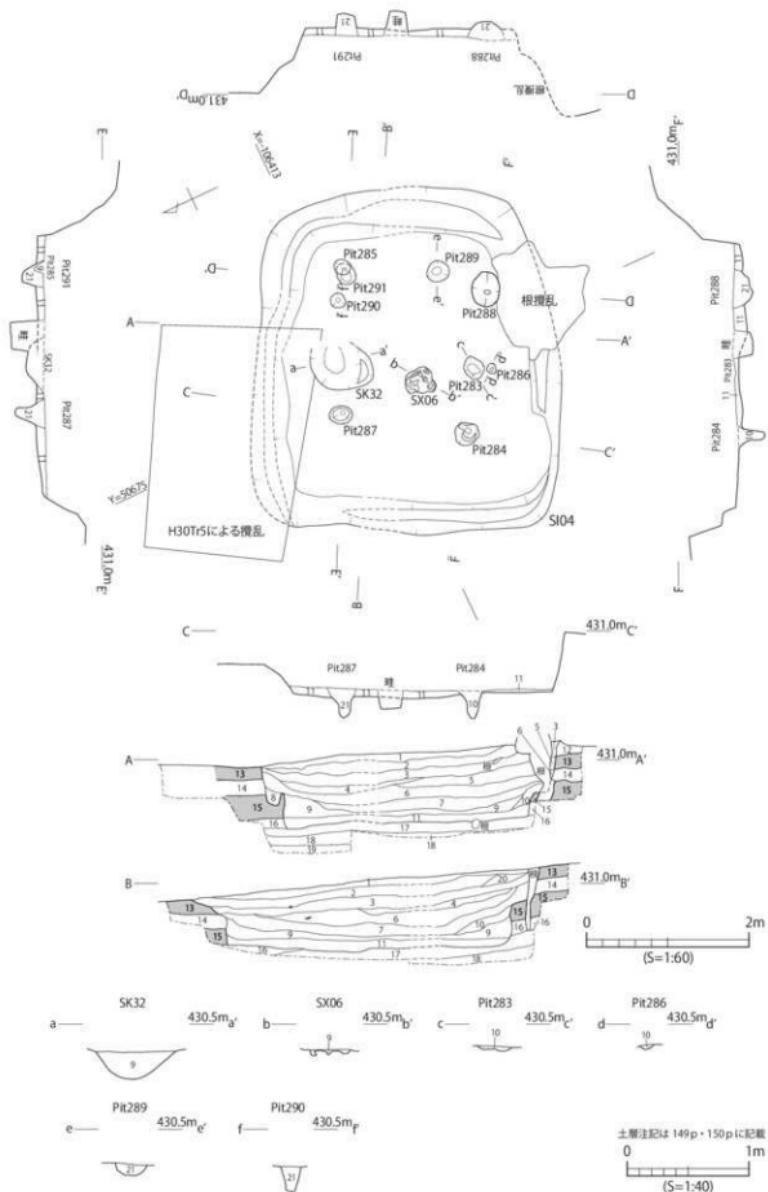
#### SI05 (第52~54図、図版18・19)

SI05は調査区南端の緩斜面で検出した(第52図)。平成30年度の試掘トレンチ(H30Tr 5)で北壁、かく乱により南側の壁の一部が不明瞭であるものの、比較的良好に遺構が残存していた。平面形は隅丸長方形と考えられ、南北3.8m、東西4.3m、検出面から床面までの深さは0.8mである。SI05の掘形は、南西隅部および北西隅部を除き、2段掘り状となっており、検出面からの深さ約0.4m付近でテラス状の平坦面が認められる。なお、このテラス状の平坦面の北側には落ち込みが存在しており、第52図8層が堆積していた。この落ち込みは平成30年度実施の試掘調査の影響を受け、部分的にしか残っておらず、平面的な検出が出来なかつたが、試掘トレンチ外では確認できておらず、溝状に拡がる可能性は低い。そのため、建築部材の抜き取り痕であると推測できる。床面からは土坑1基(SK32)、小土坑9基(Pit283~291)、性格不明遺構1基(SX06)を検出した。これらの小土坑のうち、Pit284・287・288・291は径0.25~0.4と規模に規則性はないものの、深さ0.3m程度となり、底面レベルがおおむね揃う。これらの小土坑の配置も踏まると柱穴である可能性が高く<sup>(4)</sup>、その配置から4本の主柱による竪穴建物が想定される。また、SI05中央付近で遺構を検出した。平面および断面が不整形であり、被熱痕なども確認できなかつたため、性格不明遺構とした。なお、周囲の遺構も含め精査したが、煙道などの付随施設は確認できなかつた。

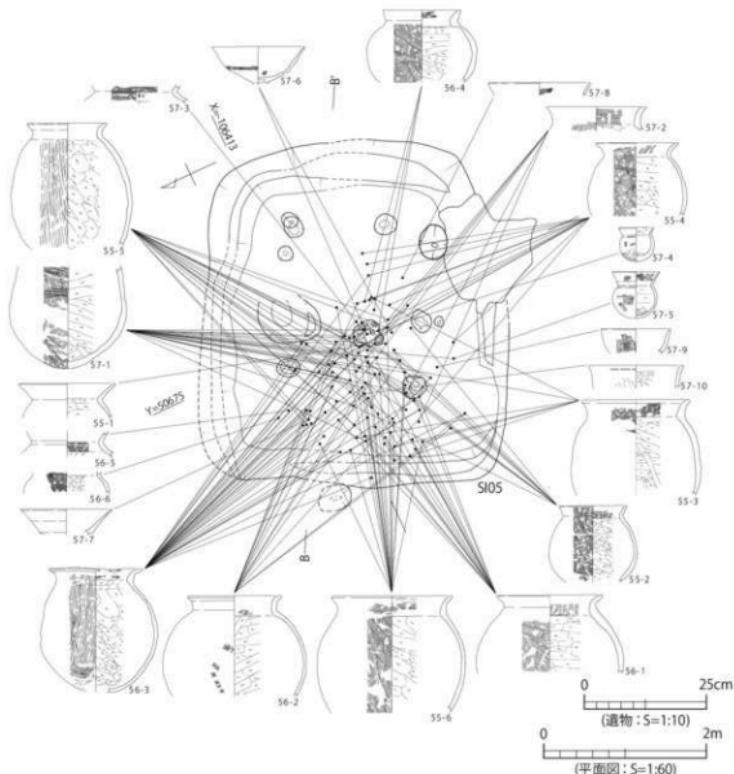
遺物は床面と遺構埋土から土師器が多数出土している。1区検出の他の竪穴建物と異なり、遺構



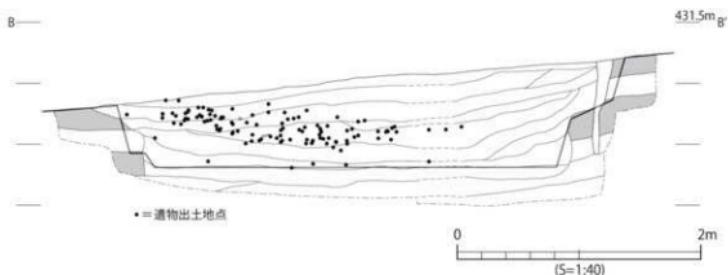
第51図 SI03出土遺物



第52図 SI05実測図



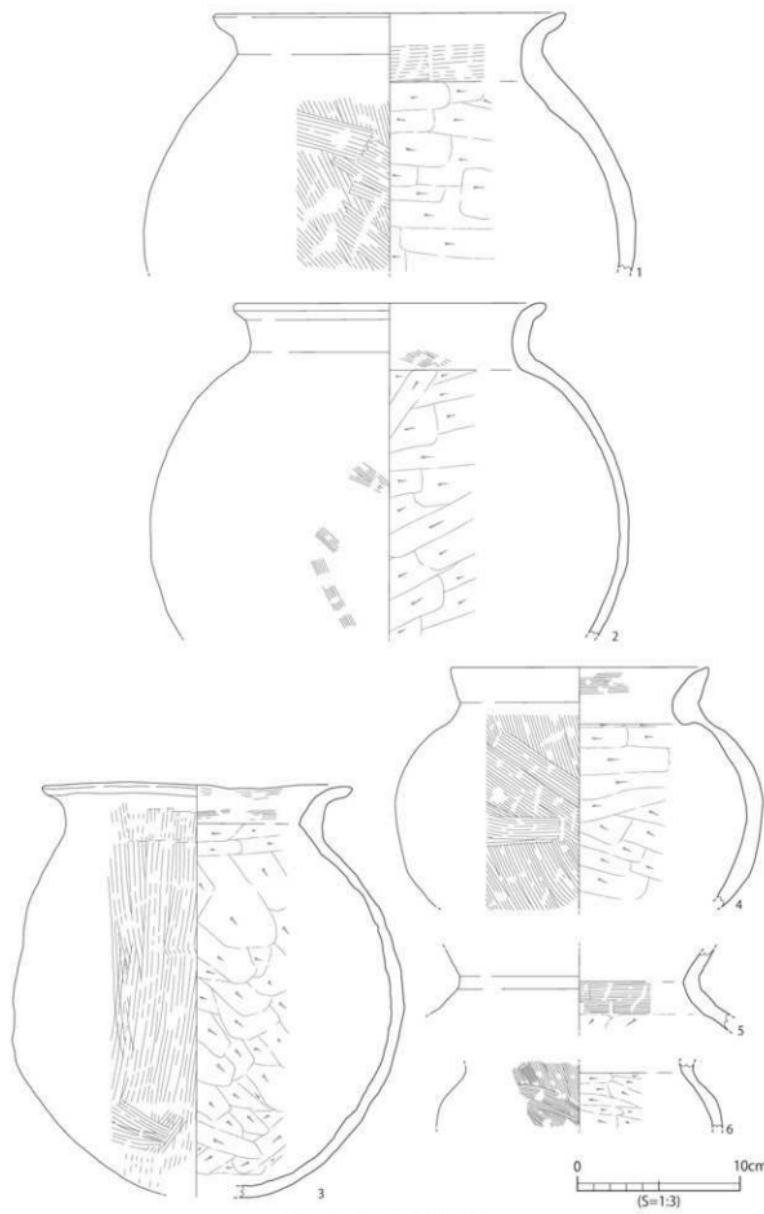
第53図 SI05遺物出土状況（1）



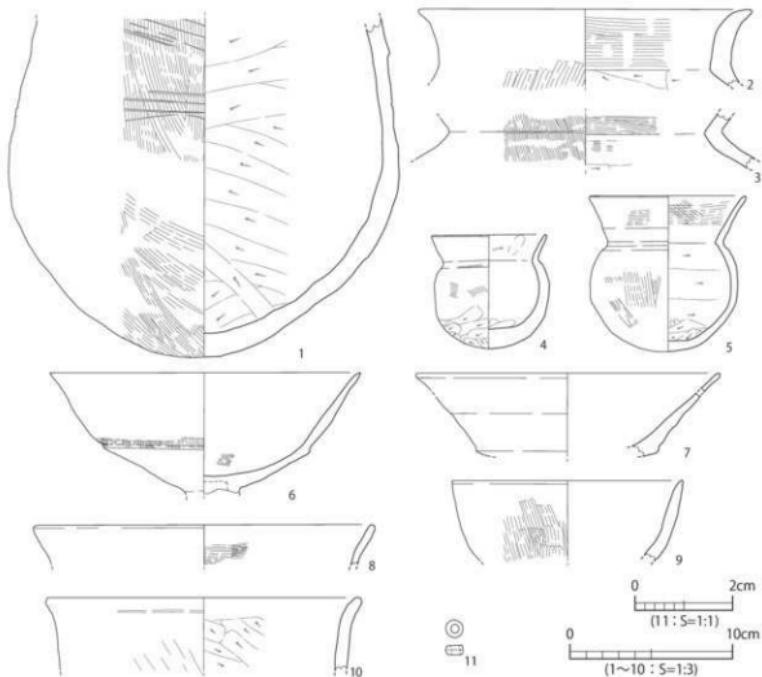
第54図 SI05遺物出土状況（2）



第55図 SI05出土遺物(1)



第56図 SI05出土遺物（2）



第57図 SI05出土遺物(3)

第9表 1区第1遺構面検出竪穴建物(SI)一覧

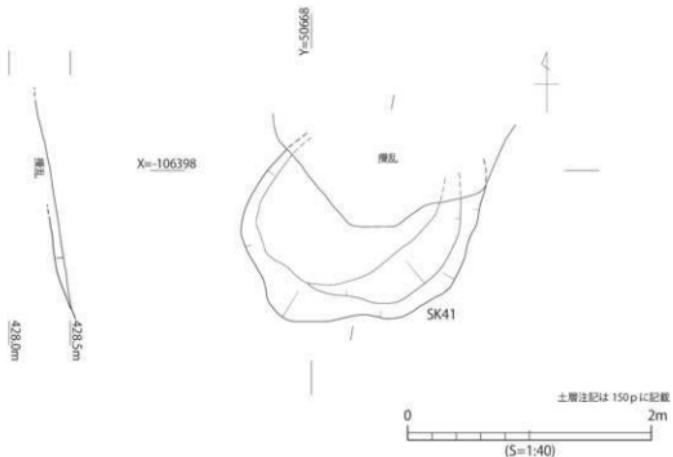
遺構番号	検出 グリッド	規模 (m · m)				特徴	出土遺物
		長軸	短軸	深さ (床面まで)	床面積		
SI01	J-9	4.4	4.0	(0.2)	16.2	丸形	4本柱 煙道 土師器、須恵器、鉄器、台石
SI02 (床土施工前)	I-8	3.5	(3.0)	(0.65)	(9.2)	丸形	2本柱 煙道 土師器
SI02 (床土施工後)				(0.5)	(8.3)	炭を含む床土	
SI03	G-7・9 H-7・9	(3.0)	(2.6)	(0.15)	(6.2)	方形?	無柱穴か 土師器
SI05	M-7	4.3	3.8	(0.8)	9.9	丸形	4本柱 土師器

埋土中から出土するものが多い(第53・54図)。出土する範囲もSI05中央から西壁側に集中していることをふまえると、建物廃絶後、意図的に土器が配置されたものと考えられる。なお、遺物は、特定の遺構埋土(第52図6層)に集中している。また、遺構埋土中から出土する遺物が基本的には甕や高环であるのに対し、床面からは丸底壺が出土しており、出土する器種に差異が認められる。

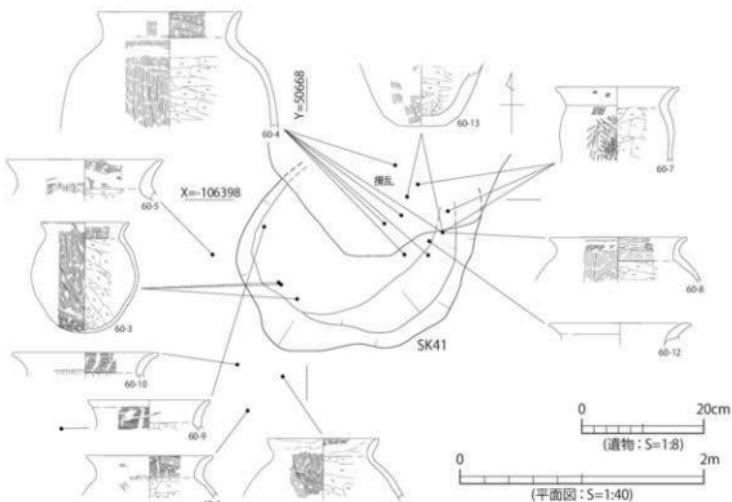
#### SI05出土遺物(第55～57図、図版33～35)

床面および遺構埋土中から出土した遺物は土師器と玉類である(第55～57図)。これらの遺物は出土状況からSI05の使用時期を示すものであると考えられる。なお、床面出土遺物と遺構埋土中出土遺物の時期差はそれほど認められない。土師器は、第55図1～第57図10で、第55図1～第57

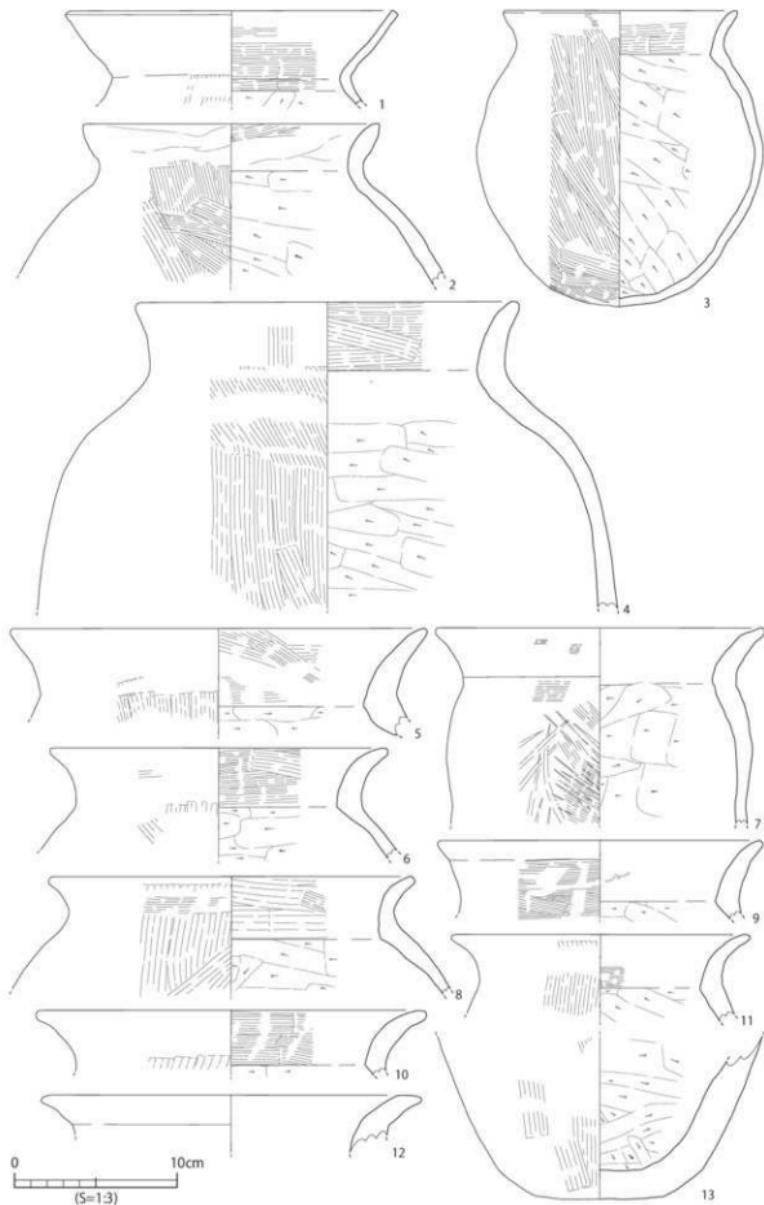
図3は甌である。第55図1は口縁部が直線状となり、口頸部はく字状にたちあがる。同図2は口頸部でゆるいく字状にたちあがり、口縁部形状は複合口縁だが退化した様相を呈する。第55図3～第56図4は口縁部が屈曲するもので、第55図3・4・第56図1は口頸部がゆるいく字状にたちあがり、第55図5・6・第56図2～4は直上方向に延びる。第55図5の外面には、ヘラ状工具によるミガキ様の調整が確認できる。第57図4・5は小型丸底甌である。同図6～9は高環で、6・7は



第58図 SK41実測図



第59図 SK41遺物出土状況



第60図 SK41出土遺物

有段高环である。同図10は口縁部付近のみとなるが、軸であると判断した。

第57図11は蛇紋岩製の白玉で、床土の水洗選別で出土を確認した。

## (2) 土坑

土坑(SK)は、1区第1遺構面で26基検出している(第10表)。遺物が出土するものは少なく、時期は不明瞭である。ただし、土師器が出土するものも認められ、古墳時代後半期のものが大半と推測できる。また、遺構底面に小孔をもつものも見られる。以下、遺物が出土した土坑について記載する。掲載遺構の土層観察表として第33表を付し、その他の土坑については第10表で概要を示す。

### SK41(第58・59図、図版19)

SK41は調査区中央西側の緩斜面で検出した土坑である(第58図)。第1ハイカ層上面で検出したが、上層の第1黒色土層は後世の削平により堆積は薄く、遺構の深さも浅いことから本来は第1黒色土層から掘り込まれた遺構である。かく乱により大部分が削平されている。平面形は不整円形であり、規模は一辺1.9m程度と推測される。深さは0.1m程度となる。

土坑内からは多数の土師器が出土している(第59図)。また、土坑周辺にも複数の土器片が出土しており、本来SK41に伴う遺物が後世の削平やかく乱の影響を受け、周辺に流れられたものと考えられる<sup>[5]</sup>。これらの遺物は、土坑西側と北西隅付近にまとまりをもって出土しており、土坑内に意図的に配置されたものと考えられる。

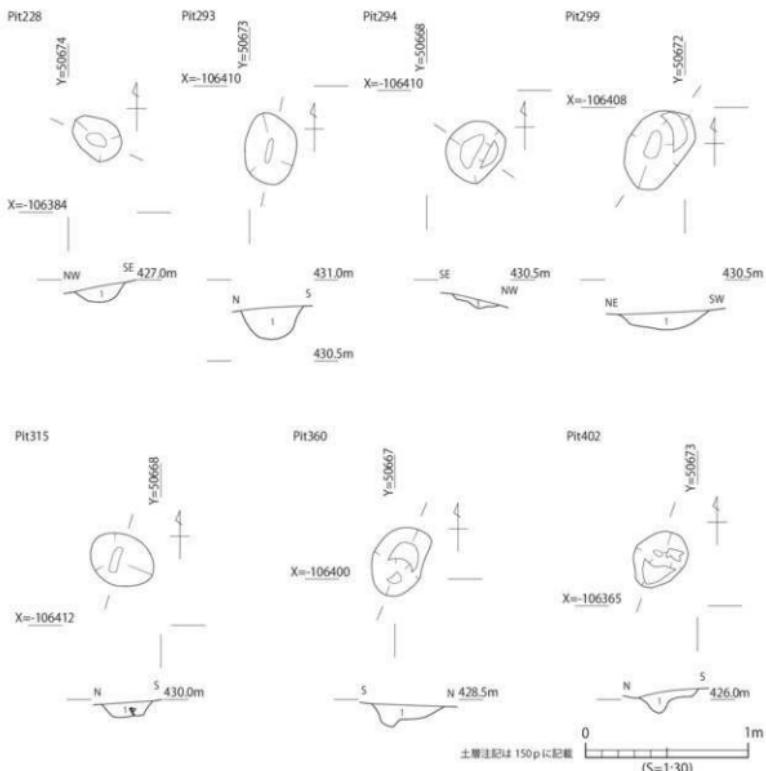
### SK41出土遺物(第60図、図版35・36)

SK41からは土師器が出土した(第60図)。第60図1~12は甕で、同図13は底部である。1は口縁部が直線状で、口頸部はく字状にたちあがる。2も口縁部が直線状となるが、1と比較して口頸部はゆるいく字状にたちあがる。3~8は口頸部がゆるいく字状にたちあがり、口縁部は外反する。9・10は口縁部が屈曲する。7にはヘラ状工具によるミガキ様の調整が外面に施される。

## (3) 小土坑

小土坑(Pit)は、1区第1遺構面で328基検出している(第11表)。竪穴建物に伴う小土坑のように、複数の小土坑によって遺構を構成するもののほか、小土坑単独で遺構となるものを含んでいる。また、床面に小孔をもつものが認められる。これらは、連続的に位置するものではなく、性格は不明であるが、杭などを据える際に、小土坑床面をさらに掘り込んだ可能性もある。なお、土坑同様に、第10表 1区第1遺構面検出土坑(SK)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
SK01	J-9	0.5	0.4	底面に小孔		SK35	L-7	0.6	0.5		
SK02	J-9	0.6	0.5	底面に小孔		SK36	L-8	0.6	0.4	底面に小孔	
SK03	K-9	0.5	0.4			SK37	L-8	0.7	0.5	底面に小孔	
SK04	I-8	0.6	0.4	底面に小孔		SK38	K-6	0.6	0.4		
SK05	H-8	0.5	0.4			SK39	K-6	0.8	0.6		
SK06	H-8	0.8	0.4	炭化物混入		SK40	K-6	0.7	0.4		土器細片
SK28	J-7	0.5	0.5			SK41	K-6	1.9	(1.9)		土師器
SK29	J-7	0.6	0.5	底面に小孔		SK42	K-6	1.1	0.6		
SK30	M-6	0.6	0.4	底面に小孔		SK43	I-7	0.7	0.4		
SK31	M-8	0.5	0.3			SK44	L-8	0.8	0.6		
SK32	M-7	0.7	(0.5)	SI05底面		SK45	L-8	0.6	0.4		
SK33	L-8	0.7	0.6			SK46	L-8	0.6	0.4		
SK34	L-8	0.6	0.5			SK47	L-8	0.8	0.4		



第61図 1区第1遺構面検出Pit実測図

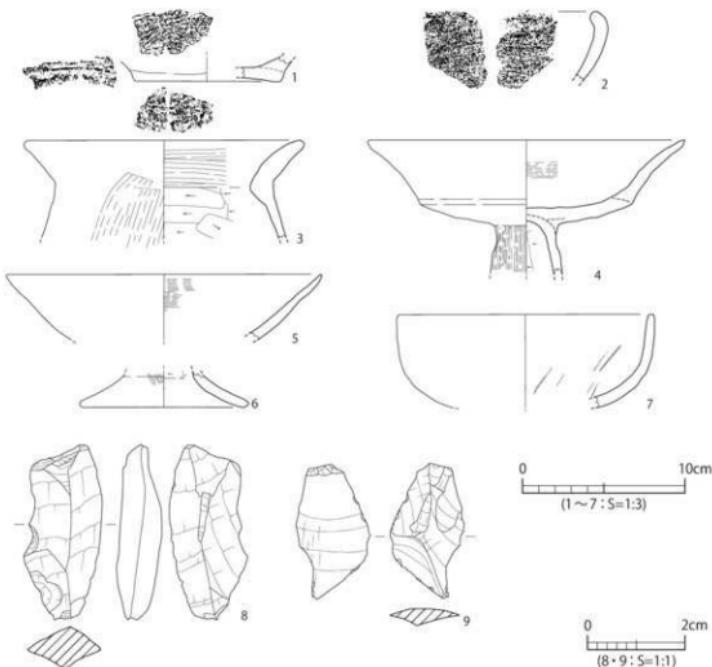
遺物を含むものが少なく、帰属時期不明なものが大半である。ただし、少数ながら遺物が出土する小土坑もあり、石器や土師器が出土している。出土遺物および層位から縄文時代後期あるいは古墳時代後半期に属することが推測できる。以下、遺物が出土した小土坑について記載する。掲載遺構の土層観察表として第33表を付し、その他の小土坑については第11表で概要を示す。

#### Pit228（第61図、図版19）

Pit228は調査区中央西側の斜面で検出している（第61図）。平面形は橢円形で、規模は長さ0.35m、幅0.25m、深さ0.1mである。第1ハイカ層上面で検出したが、遺構の深さが浅いことから本来は第1黒色土層から掘り込まれたと推測できる。小土坑内の埋土はしまりの弱い黒色土であり、上層の第1黒色土層に由来すると考えられる。遺構内からは石器が出土している。

#### Pit228出土遺物（第62図8、図版41）

Pit228からは安山岩製の剥片が出土している（第62図8）。剥片には微細な剥離が認められることから、使用痕のある剥片（UF）とした。時期については、1区第1遺構面や第1黒色土層出土の縄文土器が後期に限定されるため、同様の時期が想定できる。



第62図 1区第1造構面検出Pit出土遺物

## Pit293 (第61図、図版19)

Pit293は調査区南西の緩斜面で検出している(第61図)。平面形は楕円形で、規模は長さ0.45m、幅0.3m、深さ0.2mである。他の小土坑同様に、第1ハイカ層上面で検出したが、本来は第1黒色土層から掘り込まれたと推測できる。小土坑内にはしまりの弱い黒色土が堆積しており、上層の第1黒色土層に由来する埋土と考えられる。遺構内からは土師器が出土している。

## Pit293出土遺物 (第62図3、図版37)

Pit293からは土師器の甕が出土している(第62図3)。口頸部はゆるいく字状にたちあがり、口縁部付近でわずかに屈曲している。

## Pit294 (第61図、図版20)

Pit294は調査区南西隅の緩斜面で検出している(第61図)。平面形は不整円形で、規模は長さ0.35m、幅0.3m、深さ0.05mである。他の小土坑同様に、第1ハイカ層上面で検出したが、本来は第1黒色土層から掘り込まれたと推測できる。小土坑内にはしまりの弱い黒色土が堆積しており、第1黒色土層に由来する埋土と考えられる。遺構内からは土師器が出土している。

## Pit294出土遺物 (第62図4、図版37)

Pit294からは土師器の高环が出土している(第62図4)。环部と脚部の一部が遺存しており、环部の形状から有段高环とした。环部口縁部はゆるく外反する。

**Pit299 (第61図、図版20)**

Pit299は調査区南半西側の緩斜面で検出している(第61図)。平面形は楕円形で、規模は長さ0.5m、幅0.35m、深さ0.1mである。第1ハイカ層上面で検出したが、浅いことから本来は第1黒色土層中から掘り込まれたと推測できる。小土坑内には上層の第1黒色土に由来するしまりの弱い黒色土が堆積している。遺構内からは縄文土器が出土している。

**Pit299出土遺物 (第62図1・2、図版37)**

Pit299からは縄文土器が出土している(第62図1・2)。第62図1は深鉢底部であり、内外面ともに二枚貝条痕が施される。底面も同様に二枚貝条痕が認められるが、底部内面および底部外縁にナデが施される。同図2は精製無文深鉢の口縁部であり、内面は二枚貝条痕のうちにミガキ、外面にはミガキが施される。これらの土器は縄文時代後期に属すると考えられる。

**Pit315 (第61図、図版20)**

Pit315は調査区南西隅の緩斜面で検出している(第61図)。平面形は楕円形で、規模は長さ0.4m、幅0.3m、深さ0.08mである。第1ハイカ層上面で検出したが、本来は第1黒色土層中から掘り込まれたと推測できる。小土坑内には上層の第1黒色土に由来するしまりの弱い黒色土が堆積している。遺構内からは土師器が出土している。

**Pit315出土遺物 (第62図5・6、図版37)**

Pit315からは土師器の高杯が出土している(第62図5・6)。杯部および脚台部の一部が出土しており、杯部は直線的に立ち上がるが、口縁部付近でわずかに外反する。

**Pit360 (第61図・図版20)**

Pit360は調査区中央の西隅斜面で検出している(第61図)。平面形は不整楕円形で、規模は長さ0.45m、幅0.3m、深さ0.15mである。第1ハイカ層上面で検出したが、浅いことから本来は第1黒色土層中から掘り込まれたと推測できる。小土坑床面には小孔が認められる。埋土は、上層の第1黒色土に由来するしまりの弱い黒色土が堆積している。遺構内から土師器が出土している。

**Pit360出土遺物 (第62図7、図版37)**

Pit360からは土師器の塊が出土している(第62図7)。口縁部は直上方向に立ち上がり、端部は丸くおさまっている。

**Pit402 (第61図、図版20)**

Pit402は調査区北西隅の斜面で検出している(第61図)。平面形は不整楕円形で、規模は長さ0.35m、幅0.3m、深さ0.15mである。第1ハイカ層上面で検出したが、他の遺構同様に、本来は第1黒色土層から掘り込まれたと推測できる。小土坑内の埋土はしまりの弱い黒色土であり、上層の第1黒色土層に由来すると考えられる。遺構内からは石器が出土している。

**Pit402出土遺物 (第62図9・図版41)**

Pit402からは黒曜石製の剥片が出土している(第62図9)。剥片には微細な剥離が認められることから、使用痕のある剥片(UF)とした。時期については、1区第1遺構面や第1黒色土層出土の縄文土器が後期に限定されるため、同様の時期が想定できる。

**(4) その他の遺構****性格不明遺構**

性格不明遺構(SX)は、1区第1遺構面で5基検出している(第12表)。土坑および小土坑などと

第11表 1区第1遺構面検出小土坑(Pit)一覧

遺構 番号	検出 グリッド	規模 (m)		特徴	出土遺物	遺構 番号	検出 グリッド	規模 (m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit01	J-9	0.4	0.4	SI01 底面		Pit53	L-10	0.2	0.2	底面に小孔	
Pit02	J-9	0.4	0.35	SI01 柱穴	土師器	Pit54	L-9	0.3	0.2	底面に小孔	
Pit03	J-9	0.35	0.35	SI01 柱穴		Pit55	L-8	0.25	0.25		
Pit04	J-9	0.2	0.15	SI01 底面		Pit56	L-8	0.2	0.2		
Pit05	J-9	0.15	0.15	SI01 底面		Pit57	H-8	0.2	0.2		
Pit06	J-9	0.45	0.45	SI01 柱穴		Pit58	H-8	0.35	0.35		
Pit07	J-9	0.2	0.2	SI01 底面		Pit59	H-8	0.45	0.4		
Pit08	J-9	0.45	0.4	SI01 柱穴		Pit60	H-8	0.4	0.3		
Pit09	J-9	0.2	0.15	SI01 底面		Pit61	I-9	0.3	0.2		
Pit10	J-9	0.45	0.4	SI01 底面 集石	土師器	Pit62	I-8	0.2	0.2	底面に小孔	
Pit11	J-9	0.35	0.3	SI01 煙道	土師器	Pit63	L-10	0.2	0.2		
Pit12	J-9	0.4	0.4			Pit64	K-10	0.25	0.25		
Pit13	K-9	0.4	0.4			Pit65	J-9	0.3	0.25		
Pit14	K-9	0.2	0.15			Pit66	K-10	0.35	0.3		
Pit15	J-10	0.2	0.2	底面に小孔		Pit67	K-10	0.35	0.25	底面に小孔	
Pit16	K-9	0.2	0.15			Pit68	K-10	0.2	0.15	底面に小孔	
Pit17	K-10	0.3	0.2	底面に小孔		Pit69	H-9	0.25	0.15		
Pit18	K-10	0.25	0.2			Pit70	L-10	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit19	K-10	0.3	0.3	底面に小孔		Pit71	I-7	0.25	0.25		
Pit20	H-8	0.4	0.2			Pit72	I-8	0.35	0.25	SI02 床面	
Pit21	H-8	0.2	0.2			Pit73	I-8	0.35	0.25	SI02 床面	
Pit22	H-8	0.25	0.15			Pit74	I-8	0.4	0.3	SI02 床面	
Pit23	H-8	0.3	0.2			Pit75	I-8	0.3	0.25	SI02 床面	
Pit24	H-8	0.2	0.2			Pit76	I-8	0.45	0.4	SI02 床面	
Pit25	H-8	0.4	0.35			Pit77	I-8	0.45	0.35	SI02 煙道	土師器
Pit26	H-9	0.3	0.25			Pit78	I-8	0.25	0.25	SI02 柱穴	
Pit27	H-9	0.4	0.3			Pit79	I-8	0.25	0.2	SI02 柱穴	
Pit28	I-9	0.3	0.3			Pit80	H-8	0.3	0.2		
Pit29	I-9	0.4	0.3			Pit81	H-8	0.3	0.2		
Pit30	H-9	0.4	0.3			Pit82	H-7	0.45	0.3		
Pit31	I-9	0.3	0.3			Pit83	H-8	0.3	0.3		
Pit32	I-9	0.25	0.25			Pit84	H-8	0.15	0.15		
Pit33	I-9	0.2	0.2			Pit85	H-8	0.4	0.4		
Pit34	I-8	0.3	0.25			Pit86	H-8	0.35	0.35		
Pit35	I-8	0.4	0.2			Pit87	H-8	0.2	0.2		
Pit36	I-8	0.25	0.2			Pit88	H-7	0.2	0.2		
Pit37	H-8	0.2	0.2			Pit89	H-7	0.25	0.2		
Pit38	L-11	0.3	0.3			Pit90	H-7	0.3	0.2		
Pit39	L-11	0.2	0.2			Pit91	H-7	0.15	0.15		
Pit40	L-11	0.3	0.25			Pit92	H-7	0.3	0.2	SI03 床面	
Pit41	L-11	0.3	0.2			Pit93	H-7	0.4	0.3	SI03 床面	
Pit42	L-11	0.2	0.2			Pit94	H-8	0.25	0.2	SI03 床面	
Pit43	M-11	0.2	0.2	底面に小孔		Pit95	G-7	0.25	0.25	SI03 床面	
Pit44	L-10	0.2	0.2	底面に小孔		Pit96	H-8	0.35	0.25	SI03 床面	
Pit45	L-10	0.35	0.25	底面に小孔		Pit97	G-8	0.15	0.15	SI03 床面	
Pit46	M-10	0.2	0.15	底面に小孔		Pit98	H-8	0.2	0.15	SI03 床面	
Pit47	L-10	0.4	0.3	底面に小孔		Pit99	H-8	0.2	0.15	SI03 床面	
Pit48	L-10	0.3	0.2			Pit100	H-8	0.1	0.1	SI03 床面	
Pit49	L-10	0.4	0.4	底面に小孔		Pit101	H-8	0.15	0.15	SI03 床面	
Pit50	L-10	0.4	0.3	底面に小孔		Pit102	H-7	0.25	0.2	SI03 床面	
Pit51	L-10	0.25	0.15	底面に小孔		Pit103	H-7	0.25	0.15	SI03 床面	
Pit52	M-10	0.3	0.2	底面に小孔		Pit104	H-8	0.15	0.15		

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit105	G-8	0.3	0.3			Pit249	M-7	0.4	0.3		
Pit106	G-8	0.2	0.2			Pit250	M-7	0.4	0.4	底面に小孔	
Pit107	G-8	0.4	0.4			Pit251	M-7	0.2	0.2		
Pit108	G-8	0.3	0.3			Pit252	M-7	0.4	0.4		
Pit109	G-8	0.2	0.2			Pit253	M-7	0.3	0.2		
Pit110	G-8	0.35	0.3			Pit254	M-7	0.4	0.4	底面に小孔	
Pit111	G-8	0.3	0.3			Pit255	M-7	0.4	0.4		
Pit112	G-8	0.2	0.2			Pit256	M-7	0.4	0.2		
Pit113	G-7	0.2	0.2			Pit257	M-6	0.4	0.4		
Pit114	G-7	0.3	0.3	底面に小孔		Pit258	M-6	0.4	0.3		
Pit115	G-7	0.4	0.4	底面に小孔		Pit259	M-6	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit116	G-7	0.4	0.4			Pit260	M-6	0.3	0.2		
Pit117	G-7	0.3	0.3			Pit261	M-6	0.4	0.4		
Pit118	G-7	0.3	0.3			Pit262	M-6	0.4	0.4		
Pit119	G-7	0.25	0.25			Pit263	M-7	0.4	0.3		
Pit120	G-7	0.2	0.2			Pit264	M-8	0.35	0.25		
Pit121	G-8	0.2	0.2			Pit265	M-7	0.3	0.3		
Pit122	G-8	0.2	0.2			Pit266	M-8	0.4	0.25		
Pit123	G-8	0.2	0.2			Pit267	M-8	0.4	0.3		
Pit124	H-8	0.4	0.3			Pit268	M-8	0.4	0.3		
Pit125	H-8	0.4	0.2			Pit269	M-8	0.3	0.25		
Pit126	H-8	0.2	0.2			Pit270	M-8	0.3	0.3		
Pit127	H-8	0.3	0.3			Pit271	M-7	0.4	0.4		
Pit128	H-8	0.3	0.3			Pit272	M-7	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit129	H-8	0.4	0.3			Pit273	M-7	0.2	0.2		
Pit130	L-8	0.3	0.3	底面に小孔		Pit274	M-7	0.3	0.3		
Pit222	J-7	0.3	0.2			Pit275	M-7	0.4	0.4	底面に小孔	
Pit223	K-8	0.35	0.25			Pit276	M-7	0.2	0.2	底面に小孔	
Pit224	K-8	0.3	0.3			Pit277	L-7	0.2	0.2		
Pit225	K-6	0.4	0.35			Pit278	L-7	0.2	0.2		
Pit226	K-8	0.2	0.2			Pit279	L-7	0.4	0.3		
Pit227	K-7	0.4	0.4			Pit280	M-7	0.3	0.3		
Pit228	J-7	0.35	0.25	石器		Pit281	M-7	0.3	0.3		
Pit229	K-7	0.3	0.3			Pit282	L-7	0.2	0.2		
Pit230	K-6	0.4	0.2			Pit283	M-7	0.3	0.25	Si05 底面	
Pit231	K-6	0.4	0.4			Pit284	M-7	0.3	0.3	Si05 柱穴	
Pit232	K-6	0.4	0.3			Pit285	M-7	0.2	0.15	Si05 底面	
Pit233	M-7	0.4	0.3			Pit286	M-7	0.15	0.1	Si05 底面	
Pit234	N-7	0.4	0.3			Pit287	M-7	0.3	0.25	Si05 柱穴	
Pit235	N-7	0.4	0.4			Pit288	M-7	0.45	0.35	Si05 柱穴	
Pit236	N-7	0.3	0.3			Pit289	M-7	0.3	0.25	Si05 底面	
Pit237	N-7	0.4	0.4			Pit290	M-7	0.2	0.15	Si05 底面	
Pit238	M-7	0.4	0.3			Pit291	M-7	0.3	0.25	Si05 柱穴	
Pit239	M-7	0.3	0.3			Pit292	M-7	0.25	0.25		土器細片
Pit240	M-7	0.4	0.4			Pit293	M-7	0.45	0.35		土師器
Pit241	M-7	0.3	0.3			Pit294	M-6	0.35	0.3		土師器
Pit242	M-6	0.3	0.2			Pit295	M-6	0.4	0.3		土器細片
Pit243	N-7	0.3	0.3			Pit296	M-7	0.2	0.2	底面に小孔	
Pit244	M-8	0.3	0.25			Pit297	L-7	0.3	0.3		
Pit245	N-7	0.3	0.3			Pit298	L-7	0.2	0.2		
Pit246	N-7	0.3	0.3			Pit299	L-7	0.5	0.35		織文土器
Pit247	N-7	0.4	0.3			Pit300	L-7	0.2	0.2		
Pit248	N-7	0.4	0.3	底面に小孔		Pit301	L-7	0.4	0.4		土器細片

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit302	M-6	0.45	0.4			Pit355	K-7	0.4	0.4		
Pit303	M-7	0.45	0.4		土器細片	Pit356	K-7	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit304	L-6	0.3	0.3		土器細片	Pit357	K-7	0.15	0.15		
Pit305	M-6	0.4	0.4	底面に小孔		Pit358	K-7	0.3	0.3		
Pit306	M-6	0.3	0.3		土器細片	Pit359	K-8	0.3	0.25		
Pit307	L-6	0.3	0.3		土器細片	Pit360	K-6	0.45	0.3	底面に小孔	土器
Pit308	L-6	0.2	0.2		土器細片	Pit361	L-6	0.4	0.4		
Pit309	L-6	0.4	0.3			Pit362	L-7	0.25	0.25		
Pit310	M-7	0.25	0.2	底面に小孔	土器細片	Pit363	L-7	0.45	0.3		
Pit311	L-6	0.2	0.2			Pit364	L-7	0.3	0.3	底面に小孔	
Pit312	L-6	0.3	0.3		土器細片	Pit365	L-7	0.2	0.2		
Pit313	M-6	0.3	0.3		土器細片	Pit366	L-7	0.3	0.3		土器細片
Pit314	M-6	0.3	0.3			Pit367	L-7	0.3	0.2		
Pit315	M-6	0.4	0.3		土器	Pit368	L-8	0.3	0.3		
Pit316	M-6	0.3	0.3		土器細片	Pit369	L-6	0.4	0.4		
Pit317	M-6	0.4	0.3			Pit370	L-8	0.4	0.4		土器細片
Pit318	L-6	0.2	0.2		土器細片	Pit371	L-8	0.2	0.2	底面に小孔あり	土器細片
Pit319	L-6	0.2	0.2			Pit372	L-8	0.4	0.2		
Pit320	M-8	0.3	0.3			Pit373	L-7	0.4	0.4		
Pit321	L-8	0.4	0.3			Pit374	L-8	0.4	0.2		
Pit322	L-8	0.4	0.4	底面に小孔		Pit375	L-8	0.3	0.3		
Pit323	L-8	0.4	0.3	底面に小孔	土器細片	Pit376	L-8	0.4	0.4		
Pit324	L-8	0.4	0.4			Pit377	L-7	0.3	0.3		
Pit325	L-8	0.4	0.4			Pit378	L-8	0.3	0.3		
Pit326	L-8	0.3	0.3			Pit379	L-8	0.3	0.3		
Pit327	L-7	0.4	0.4			Pit380	L-7	0.4	0.4		
Pit328	L-7	0.3	0.3	底面に小孔		Pit381	L-8	0.3	0.3		
Pit329	L-7	0.4	0.3	底面に小孔		Pit382	M-8	0.3	0.3		
Pit330	L-8	0.4	0.3			Pit383	M-8	0.3	0.3		
Pit331	L-7	0.25	0.25			Pit384	M-8	0.4	0.3		
Pit332	L-7	0.3	0.3	底面に小孔		Pit385	K-8	0.3	0.3		
Pit333	L-7	0.2	0.2			Pit386	K-8	0.3	0.3		土器細片
Pit334	L-6	0.3	0.3			Pit387	L-8	0.3	0.3	底面に小孔	
Pit335	K-7	0.2	0.2			Pit388	L-8	0.2	0.2	底面に小孔	
Pit336	K-7	0.15	0.15		土器細片	Pit389	L-8	0.3	0.3		
Pit337	K-8	0.2	0.2	底面に小孔		Pit390	K-8	0.15	0.15		
Pit338	L-8	0.4	0.4	底面に小孔		Pit391	I-7	0.3	0.3		
Pit339	L-8	0.4	0.4			Pit392	I-7	0.4	0.2	底面に小孔	
Pit340	K-8	0.4	0.3	底面に小孔		Pit393	I-7	0.4	0.4		
Pit341	L-8	0.4	0.3			Pit394	I-7	0.15	0.15		
Pit342	K-8	0.4	0.25	底面に小孔		Pit395	I-7	0.35	0.35		
Pit343	L-8	0.3	0.3			Pit396	H-7	0.3	0.3		
Pit344	K-8	0.4	0.2			Pit397	H-7	0.45	0.4		
Pit345	K-7	0.2	0.2			Pit398	H-7	0.45	0.3	底面に小孔	
Pit346	L-8	0.2	0.2	底面に小孔		Pit399	H-7	0.2	0.2		
Pit347	L-8	0.3	0.3	底面に小孔		Pit400	H-7	0.4	0.2		
Pit348	L-6	0.4	0.3			Pit401	H-7	0.4	0.3		
Pit349	L-6	0.45	0.4	底面に小孔		Pit402	H-7	0.35	0.3	底面に小孔	石器
Pit350	K-7	0.4	0.4			Pit403	H-7	0.45	0.4		
Pit351	K-7	0.3	0.3			Pit404	I-7	0.35	0.25		
Pit352	K-7	0.2	0.2			Pit405	I-7	0.4	0.3		
Pit353	L-7	0.4	0.4			Pit406	I-7	0.3	0.3		
Pit354	L-7	0.3	0.3			Pit407	H-7	0.35	0.35		

遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅	特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅	特徴	出土遺物
Pit408	H7	0.35	0.35		Pit414	L-8	0.2	0.2	
Pit409	H7	0.4	0.3		Pit415	L-8	0.2	0.2	
Pit410	M-8	0.4	0.4		Pit416	L-8	0.4	0.3	
Pit411	M-8	0.45	0.4		Pit417	L-8	0.45	0.45	
Pit412	M-8	0.4	0.4		Pit418	L-8	0.3	0.3	
Pit413	M-8	0.4	0.4		Pit420	K-7	0.45	0.45	

第12表 1区第1遺構面検出性格不明遺構(SX)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅	特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅	特徴	出土遺物
SX01	H-8	0.6	0.3	不整形土坑		SX06	M-7	0.4	0.4
SX02	K-8	0.9	0.4	不整形土坑		SX07	I-7	0.7	0.5
SX05	J-7	1.1	0.6	床面に小孔				かく乱	

比較し、不整形の遺構となるもので、かく乱や風倒木などの痕跡の可能性が残る。遺物も出土しておらず、詳細な所属時期も不明なため、第12表で概要を示すのにとどめる。なお、土坑や小土坑同様に、床面に小孔を持つものも認められる。遺構の時期は、他の遺構同様と推測できる。

#### NR01(第63・64図、図版20・21図)

自然流路(NR01)は、1区第1遺構面で検出している(第63図・第13表)。調査区の東側から続く斜面の傾斜変換点西側となる調査区北西隅付近の平坦面で確認している。調査区内で南北方向にのびるが、調査区外にもおよび、1・2区間に流れる小河川方向へ続いている。NR01を検出した調査区北西部は後世のかく乱により第1黒色土層が削平され、表土直下が第1ハイカ層となる。そのため、NR01の検出面からの深さは最大で0.25mと浅く、大部分がすでに削平されていることが推測できる。また、表土直下が第1ハイカ層となる範囲はNR01より南側にもおよんでおり、自然流路は調査区南側へ拡がっていた可能性が高い。なお、1区第1遺構面中央西側付近も自然流路を検出した調査区北西隅付近同様に、調査区の東側から続く斜面から傾斜が変換し、平坦となる状況が確認できている。これらの地形を踏まえると、本来はこの平坦面全体が自然流路であったものと、考えられる<sup>(6)</sup>。

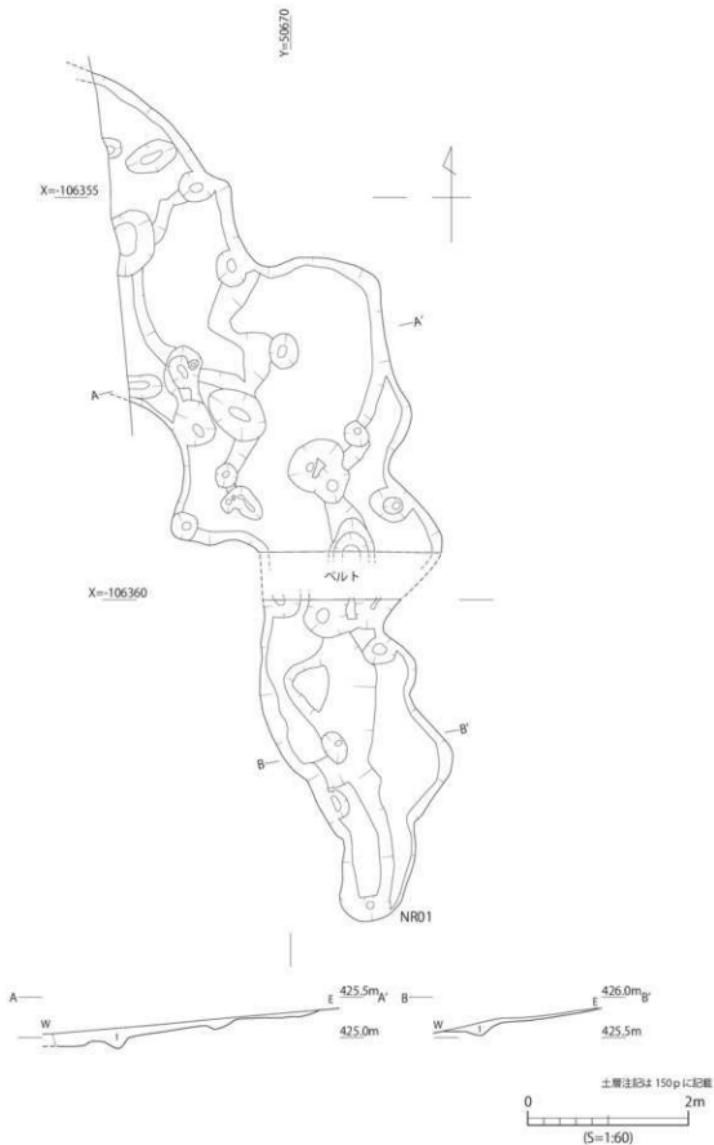
NR01は、調査当初、遺物が大量に出土し、出土地点もある程度まとまるところから土器溜の性格を有するものとして調査を実施した(第64図)。しかし、調査が進むにつれ、1・2区間に流れる小河川と並行すること、床面が不整形であり、人為的に形成された痕跡を確認できないことが判明した。また、出土する遺物も縄文土器、弥生土器、土師器であり、特定の時期に偏る状況が認められなかった。このことから、自然流路と判断した。

#### NR01出土遺物(第65図・図版37・38)

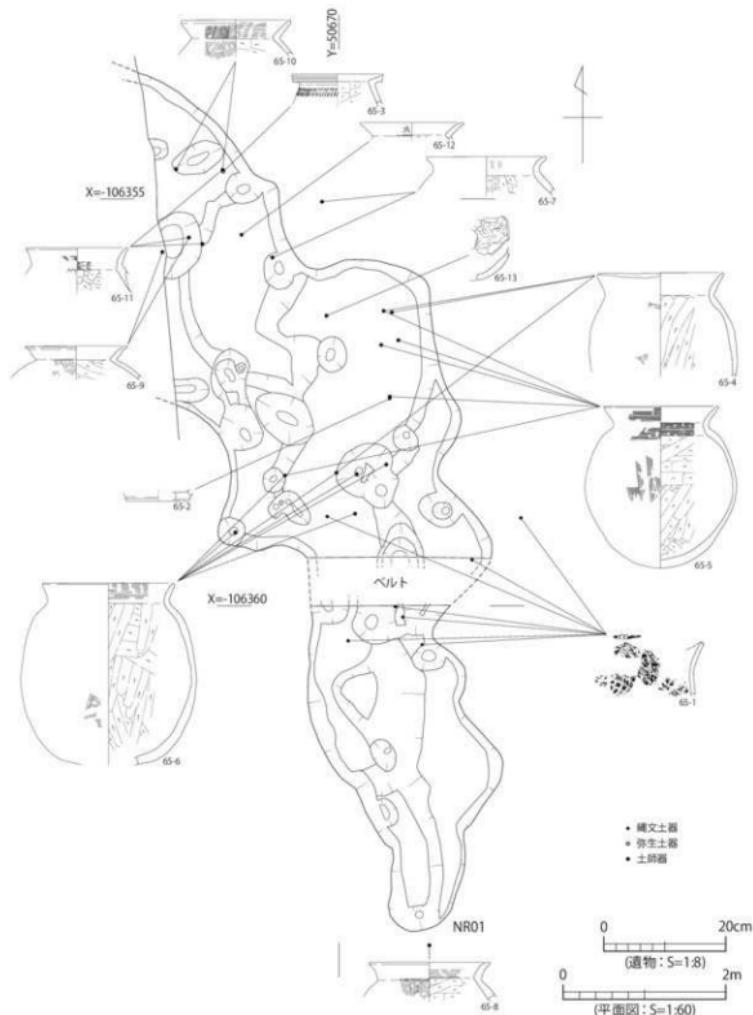
NR01から出土した遺物は縄文土器、弥生土器、土師器である(第65図)。縄文時代後期から古墳時代後期までの遺物が確認でき、NR01が少なくとも古墳時代後期前半頃まで自然流路として機能していたことを推測できる。

第65図1・2は縄文土器で、ともに深鉢である。1は口縁部付近が遺存しており、ゆるく外反している。波状口縁で波頂部には凹点が認められる。外面には沈線が施されており、重弧文が重複する文様構成が想定できる。2は深鉢底部内外面ともナデが施される。

同図3は弥生土器の甕で口縁端部には2条の凹線文、頸部直下には刺突文が施される。内面には



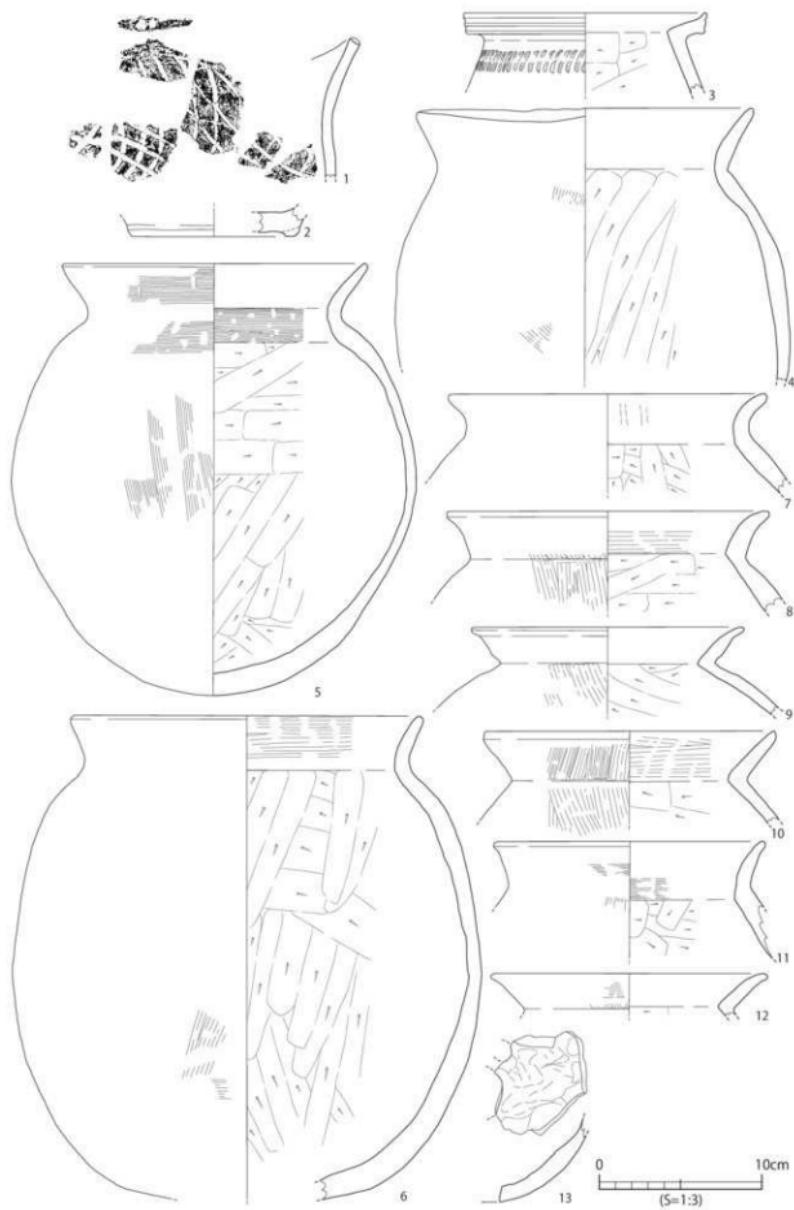
第63図 NR01実測図



第64図 NR01遺物出土状況

第13表 1区第1遺構面接出自然流路(NR)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅		
NR01	G-6・7 H-6・7	11.1	4.0	1区・2区间に流れる小河川に並行	縄文土器、弥生土器、土師器



第65図 NR01出土遺物

頸部までヘラケズリが認められる。弥生時代後期前葉の時期比定ができる。同図4～13は土師器で、4～12は甕、13は瓶底部である。甕は口縁部形状が複合口縁（9）、直線（4～6・10）、外反（7・11）、屈曲（8・12）するものが認められる。口頸部形状はく字（4・9・10・12）、ゆるいく字（5～8・11）となる。13は底部片で、孔が複数確認できることから多孔式瓶と考えられる。

### （5）第1黒色土層出土遺物

第1黒色土層中からは、縄文土器、弥生土器、土師器、土製玉類、須恵器が出土している（第66～68図・図版39～43）。基本的には小片であるが、全体の様相が把握できる個体も含まれる。また、ミニチュア土器や土製模造玉も出土している。

#### 縄文土器（第66図1～22、図版39・40）

縄文土器は深鉢（第66図1～10）と浅鉢（同図12）、底部（同図13・14）、器種不明胴部片（同図11・15～22）が出土している。これらの縄文土器は3・22を除き、縄文時代後期に属するものと考えられる。

後期の深鉢はすべて無文粗製深鉢であり、口縁部の形状は口縁端部付近でわずかに内湾するか、直線状にのびる。調整は、二枚貝条痕（6・9・10）、巻貝条痕（1・4・5・7）、匙面条痕（8）を施し、条痕調整後ナデを施すもの（1・4・7・8・10）がある。なお、ナデ調整のみの土器（2）も認められる。

12は浅鉢で3条の沈線と小J字文が確認できる。沈線は渦巻文様となると推測でき、幕地式に比定できる。下層からの混入と考えられる。

13・14は深鉢底部である。いずれも上げ底状で、13は底部外面の凹みが多い。

3・22は縄文時代前期の土器片である。3は口縁部付近の土器片であり、内外面ともにナデ調整が施される。

15～17は凹線文が施されており、元住吉山II式とした。内外面ともにナデ調整を基本とするが、16内面はミガキ調整となる。

18～21は外面に条痕調整後、ナデを施す。内面はナデを基本とし、20には二枚貝条痕が確認できる。

#### 弥生土器（第66図23・24、図版40）

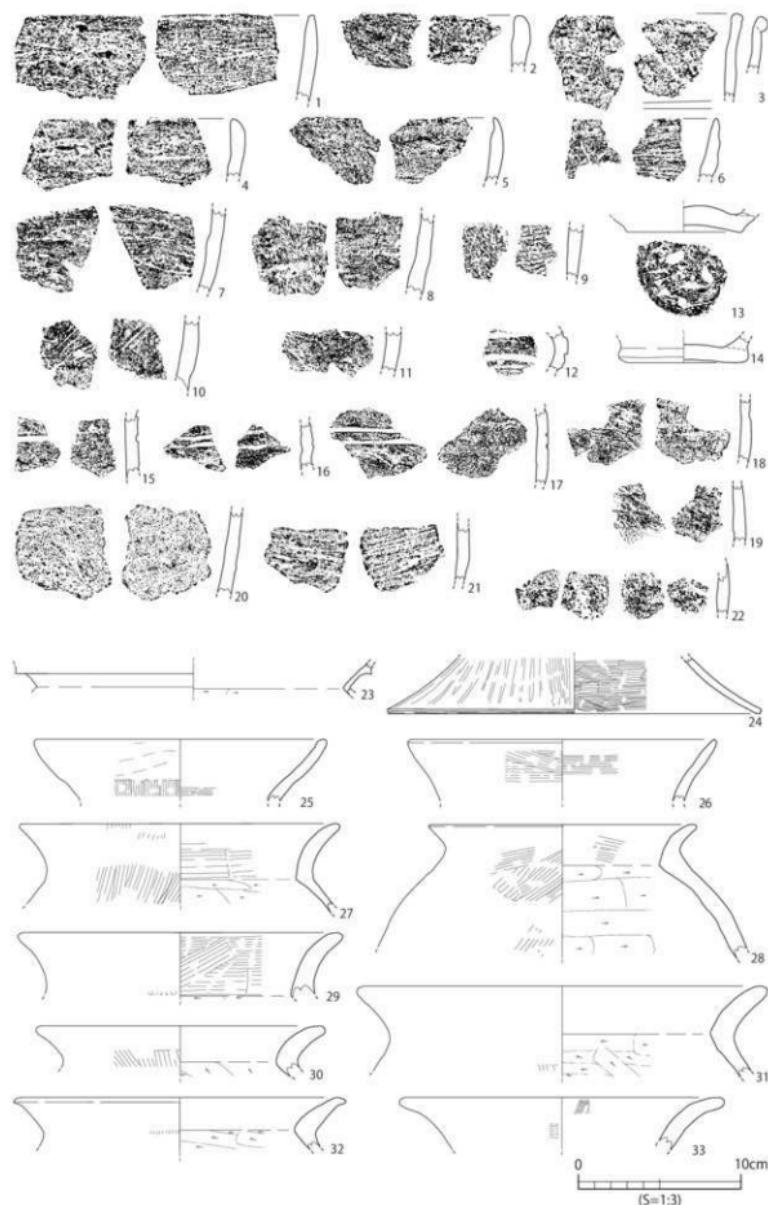
弥生土器は甕（第66図23）および高环（同図24）が出土した。いずれも小片であり、詳細は不明であるが、弥生時代終末期頃に属するものと考えられる。24は外面にナデ調整後ミガキ、内面はハケ調整が施され、脚端部に沈線が施される。

#### 土師器（第66図25～第67図24、図版40～43）

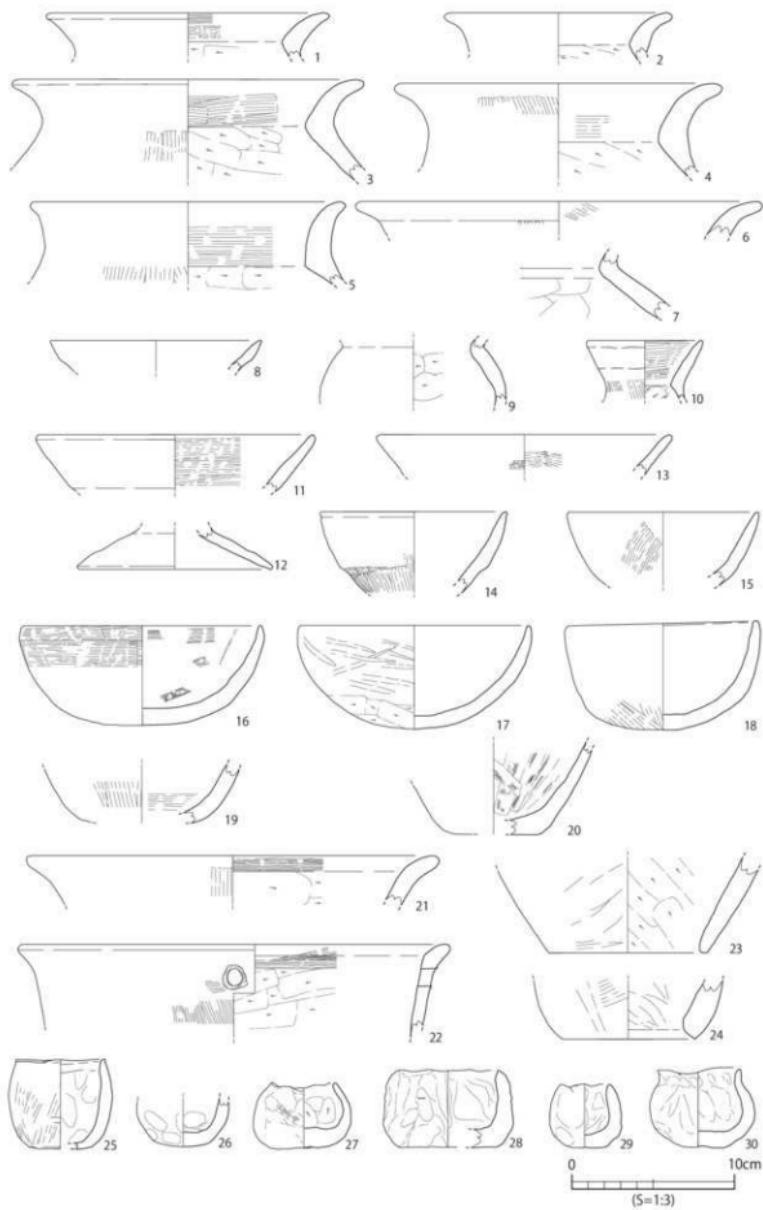
土師器は甕（第66図25～第67図7）、壺（第67図8～10）、高环（同図11～13）、塊（同図14～19）、底部（同図20）、瓶（同図21～24）が出土している。1区第1遺構面で検出した古墳時代の遺構と同様に、古墳時代後半期に属するものと考えられる。

甕は、口縁部形状が内湾（第66図25）、直線（同図26）、外反（同図27～31）、屈曲（第66図32～第67図6）となるものを確認した。口頸部はゆるいく字（第66図27～32・第67図1・2）と直上方向（第67図3～5）にたちあががるもののが認められる。第66図25は口縁端部内面側が丁寧なナデにより面をなしている。

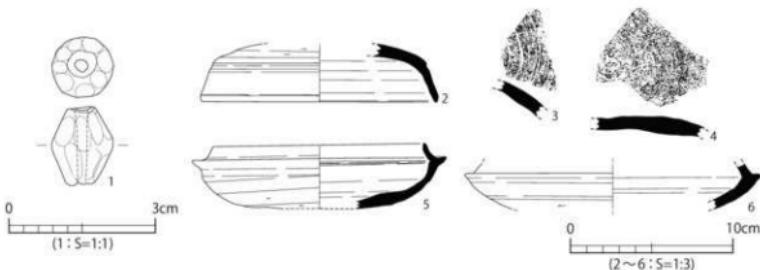
第67図8～10は小型丸底甕とした。口縁部は8が内湾、10が直線状となる。



第66図 1区第1黑色土層出土遺物 (1)



第67図 1区第1黑色土層出土遺物（2）



第68図 1区第1黒色土層出土遺物(3)

同図11～13は高環で、11・13が環部、12が脚部である。いずれも小片であるものの、11は有段高環であると考えられる。12の脚部は接地面が脚端部のみで、ハ字状となる。内外面はナデ調整が施される。

同図14～19は壺とした。半球状の形態を呈しており、外面はハケ調整(14～16・18・19)およびミガキ調整(17)が施される。このうち、14は胴部より下方、16は胴部より上方に施されたハケ調整により稜が認められる。内面は丁寧なナデ調整が施されるが、部分的にハケ調整を残すもの(16・19)がある。口縁端部の形状が不明な19を除き、端部は丸くおさめている。

同図20は底部片である。平底であり、外面はナデ調整、内面はヘラ状工具によるケズリ様の調整であるが、胎土の粒子が動かず、木目が残る。

同図21～24は壺とした。21・22は口縁部で口縁部は屈曲する。いずれも外面はハケ調整後にナデを施し、内面にはヘラケズリ後、口縁部へハケ調整が施される。22では把手装着用の孔が2箇所認められる。23・24は壺底部である。23・24ともに外面はハケ調整後にナデが施されるが、内面は23がヘラケズリ、24はヘラ状工具によるナデ調整が施される。底部端面は23がナデ調整、24は無調整である。

#### ミニチュア土器・土製玉類(第67図25～第68図1、図版41・43)

ミニチュア土器(第67図25～30)および土製東玉(第68図1)が出土している。これらは第1黒色土層出土の土師器同様に、古墳時代後半期に属するものと考えられ、1区第1遺構面で検出した古墳時代の遺構との関連が想定される。

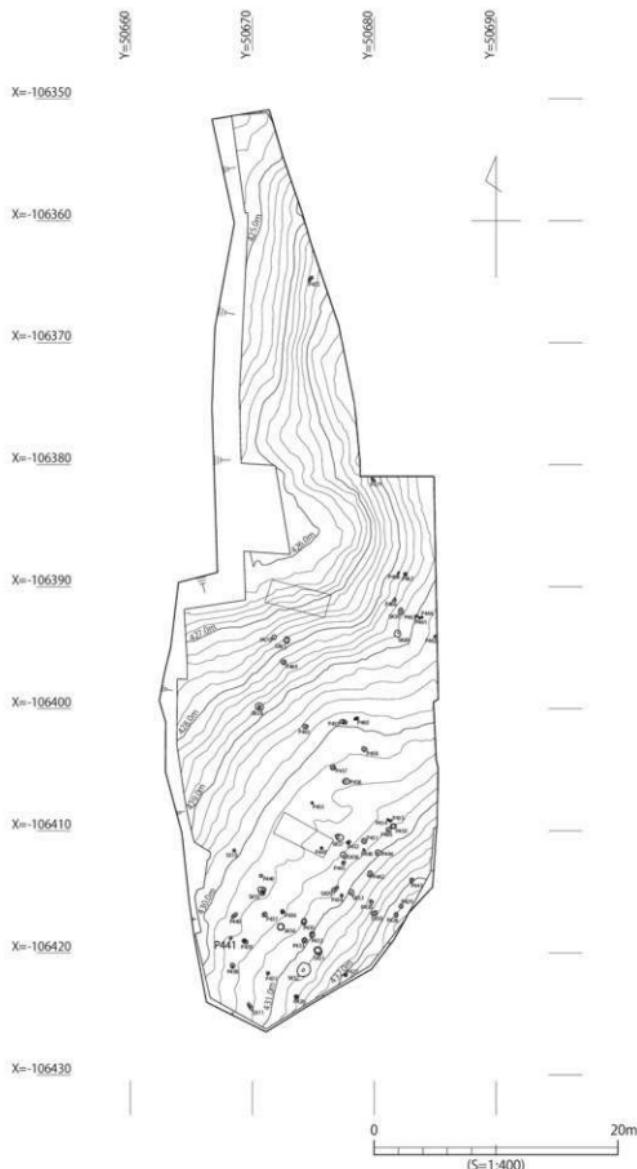
第67図25～30は手づくねのミニチュア土器である。丸底(26・29・30)と平底(25・27・28)が認められる。バリエーションが存在し<sup>⑦</sup>、形態的に塊形(25～29)と壺形(30)に分けられる。塊形には平底で口縁部より器高が低いもの(28)も確認できる。また、壺形(30)は、口縁部が外反する。

第68図1は土製玉類で、模造東玉とした。ユビによる整形が施されており、端面の状況から焼成前に片面穿孔により孔が穿たれている。

#### 須恵器(第68図2～6、図版41・43)

須恵器は蓋環(第68図2～6)が出土している。1区第1遺構面で検出のSI01出土須恵器同様に石見4期頃のものと考えられる。

第68図2～6は須恵器蓋環である。2～4が環蓋で天井部は平坦となる。稜および口唇部の形状



第69図 1区第2遺構面遺構配置図

が分かる2では、稜が沈線により表現され、口唇部は丸みを帯びる。天井部には回転ヘラケズリが施される。5・6は环身で、立ち上がりの長さや形状が分かる5では、立ち上がりは1.0cm程とやや短く、口唇部は丸みを帯びる。底部外面は回転ヘラケズリ調整が施される。

## 2. 第2遺構面の調査

第2遺構面の調査は、土層断面（第33・34図）の確認の際、中央より西側付近で縄文土器が出土したため調査対象となった。調査対象範囲は1区の西半部にあたる約1,100m<sup>2</sup>である。調査の結果、第2ハイカ層上面から複数の土坑および小土坑が検出された（第69図、図版21・22）。また、少量ながら、第2黒色土層中から、縄文土器、石器が出土している。

### （1）土坑

土坑（SK）は、1区第2遺構面で12基検出している（第14表）。遺物を含むものは認められず、詳細な時期は不明瞭である。ただし、小土坑や第2黒色土層中から出土する土器および層序から縄文時代前期後葉あるいは後期前葉頃と推測できる。第1遺構面検出土坑と同様に、底面に小孔を有するものも存在する。各土坑の概要については第14表で示す。

### （2）小土坑

小土坑（Pit）は、1区第2遺構面で47基検出している（第15表）。複数の小土坑が連続するような状況は認められず、単独で遺構となるものが基本となる。土坑同様に床面に小孔をもつものも確認している。小土坑からの遺物出土は少ないものの、縄文土器が出土している。帰属時期については、遺物を含む遺構が少ないものの、第2黒色土層中から出土する土器および層序から縄文時代前期後葉あるいは後期前葉頃と推測できる。以下、遺物が出土した小土坑について記載する。掲載遺構の土層観察表として第34表を付し、その他の小土坑については第15表で概要を示す。

#### Pit441（第70図、図版22）

Pit441は調査区南西隅の緩斜面で検出している（第70図）。平面形は楕円形で、規模は長さ0.3m、幅0.25m、深さ0.1mである。第2ハイカ層上面で検出したが、遺構の深さが浅いことから本来は第2黒色土層中から掘り込まれたと推測できる。小土坑内の埋土はしまりの弱い黒色土であり、上層の第2黒色土層に由来すると考えられる。遺構内からは縄文土器が出土している。

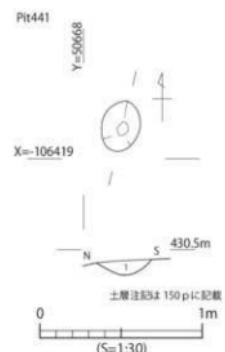
#### Pit441出土遺物（第71図、図版44）

Pit441からは縄文土器が出土している（第71図）。外面に巻貝による押引文が5条以上施され、垂下縫合には巻貝による刻目が認められる。内外面には二枚貝による条痕が確認できる。これらの特徴から、出土した縄文土器は月崎下層式に比定できる。

### （3）その他の遺構

#### 性格不明遺構

性格不明遺構（SX）は、1区第2遺構面で3基検出している（第16表）。土坑および小土坑などと比較し、不整形の遺構となるも



第70図 Pit441実測図



第71図 Pit441出土遺物

ので、かく乱や風倒木などの痕跡の可能性が残る。遺物も出土しておらず、所属時期も不明なため、第16表で概要を示すにとどめる。なお、土坑や小土坑同様に、床面に小孔を持つものも認められる。また、遺構の時期は、他の遺構同様と推測できる。

#### (4) 第2黒色土層出土遺物

第2黒色土層中からは、縄文土器、石器が出土している（第72・73図・図版44～46）。基本的に小片であり、全体の様相が把握できる個体は少ない。

第14表 1区第2遺構面検出土坑（SK）一覧

遺構番号	検出グリッド	規模（m）		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模（m）		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
SK50	M-7	0.5	0.5			SK56	M-7	0.7	0.5		
SK51	M-7	0.7	0.5			SK57	M-7	0.6	0.5		
SK52	N-7	1.0	0.8			SK58	K-7	0.6	0.6		
SK53	M-7	0.5	0.5			SK59	K-8	0.5	0.4		
SK54	M-7	0.7	0.6			SK60	K-8	0.6	0.6		
SK55	M-7	0.7	0.5	底面に小孔		SK61	K-7	0.6	0.4		

第15表 1区第2遺構面検出小土坑（Pit）一覧

遺構番号	検出グリッド	規模（m）		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模（m）		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit426	N-7	0.4	0.3			Pit450	M-8	0.4	0.4		
Pit427	N-7	0.3	0.2			Pit451	M-7	0.4	0.4		
Pit428	M-8	0.4	0.4			Pit452	M-7	0.3	0.3		
Pit429	M-8	0.4	0.4			Pit453	L-8	0.3	0.3	底面に小孔	
Pit430	M-7	0.4	0.4			Pit454	L-8	0.2	0.2		
Pit431	N-7	0.2	0.2			Pit455	L-7	0.2	0.2		
Pit432	M-7	0.4	0.4	底面に小孔		Pit456	L-7	0.4	0.4		
Pit433	M-7	0.3	0.3	底面に小孔		Pit457	L-7	0.4	0.4		
Pit434	M-7	0.3	0.3			Pit458	L-7	0.4	0.4		
Pit435	M-7	0.4	0.4			Pit459	L-7	0.45	0.4	底面に小孔	
Pit436	M-7	0.4	0.4			Pit460	L-7	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit437	M-6	0.45	0.4	底面に小孔		Pit461	L-7	0.4	0.3		
Pit438	N-6	0.4	0.4			Pit462	K-8	0.25	0.25		
Pit439	M-6	0.4	0.3	底面に小孔		Pit463	K-8	0.2	0.2		
Pit440	M-6	0.45	0.3		土器細片	Pit464	K-8	0.2	0.2		
Pit441	M-6	0.3	0.25		縄文土器	Pit465	K-8	0.2	0.2		
Pit442	M-8	0.45	0.4			Pit466	K-8	0.3	0.3		
Pit443	M-8	0.4	0.3			Pit467	J-8	0.3	0.3		
Pit444	M-8	0.45	0.4			Pit468	J-8	0.2	0.2		
Pit445	M-7	0.4	0.3			Pit469	K-7	0.4	0.4		
Pit446	M-7	0.3	0.3			Pit470	K-7	0.4	0.4		
Pit447	M-7	0.3	0.3			Pit471	J-7	0.3	0.2		
Pit448	M-8	0.2	0.2			Pit472	H-7	0.45	0.3		
Pit449	M-8	0.4	0.4								

第16表 1区第2遺構面検出性格不明遺構（SX）一覧

遺構番号	検出グリッド	規模（m）		特徴	出土遺物
		長	幅		
SX09	M-7	0.5	0.4		
SX10	M-6	0.2	0.2		
SX11	N-7	0.5	0.2	底面に小孔	

### 縄文土器（第72図、図版44・45）

縄文土器は深鉢（第72図1～14・19～21・24）と浅鉢（同図23・25・26）、底部（同図15・16・22）が出土している。また、縄文土器片を転用した土製円盤（同図17・18）も出土している。これらの縄文土器は1～18が縄文時代前期後葉、19～26が縄文時代後期に属するものと考えられる。

深鉢のうち、第72図1～14は月崎下層式である。内外面に二枚貝条痕を基本的に施し、口縁部内外面は条痕調整後、ナデを施すもの（1～4・11・12）も含む。口縁部付近には押引文が施されており（1～4）、1では5条の施文が確認できる。また、4では、押引文の下方に刺突文が施される。口縁部片（1～3）では、口唇部が内方に拡張し、刻目が施される状況も確認できる。1・3では垂下降帶上にも刻目が施される。なお、これらの施文については、基本的に巻貝が使用されている。

縄文時代後期の深鉢（同図19～21・24）については、口縁部が内湾する器形となるもの（19・20）、直線的に外傾するもの（21）が認められる。内湾器形である19では、口縁内面が押圧気味にナデを施することで肥厚している。崎ヶ鼻II式に比定できる。また、21では、口縁外面向方に肥厚する。内面調整は、ナデ調整を基本とするが、24は条痕調整後にナデが施される。外側調整もナデ調整を基本とするが、20では二枚貝条痕調整後にナデが施され、19ではケズリ様の調整が認められる。

浅鉢（同図23・25・26）はわずかに出土した。口縁部の形状が分かる23では、口縁が内湾し、内方方向に屈曲している。内面調整はミガキ調整（23・26）とナデ調整（25）が確認でき、26は二枚貝条痕調整の後にミガキ調整が施される。外側はナデ調整（23・26）とミガキ調整（25・26）であり、26では内面調整同様に二枚貝条痕調整の後にナデおよびミガキによる調整が行われている。

底部（同図15・16・22）はすべて深鉢底部であり、15・16が縄文時代前期後葉、22が縄文時代後期のものである。15・16では、内面に二枚貝条痕調整の後にナデ調整が施される。また、22では底外面に細沈線状の調整痕が認められる。

土製円盤（17・18）は土器片を転用しており、側縁部には打ち欠きの痕跡が残る。また、縁辺部は摩滅している。土製円盤には、外側に二枚貝条痕調整が施されており、縄文時代前期後葉の土器片の転用であることが推測できる。

### 石器（第73図、図版46）

石器は台石（第73図1）、敲石（同図2～4）、石皿（同図5）が出土している。第2黒色土層中から出土する縄文土器は、土器の特徴や層位から前期後葉および後期前葉と考えられるため、石器についても同様の時期に属するものと考えられる。

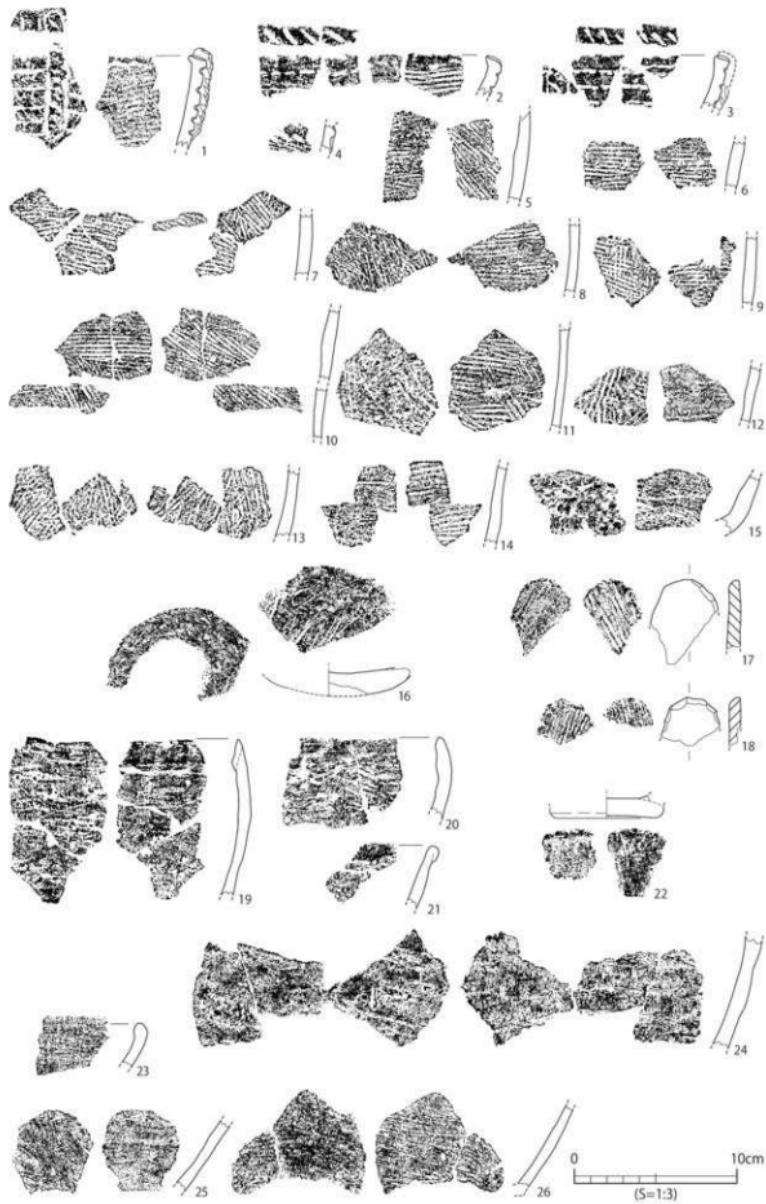
第73図1は花崗岩製で、部分的に剥落している。平坦な面をもつが磨面などは確認できなかったため台石とした。

同図2～4は敲石とした。石材は流紋岩（2）、閃綠岩（3）、花崗岩（4）であり、敲打痕が残る。

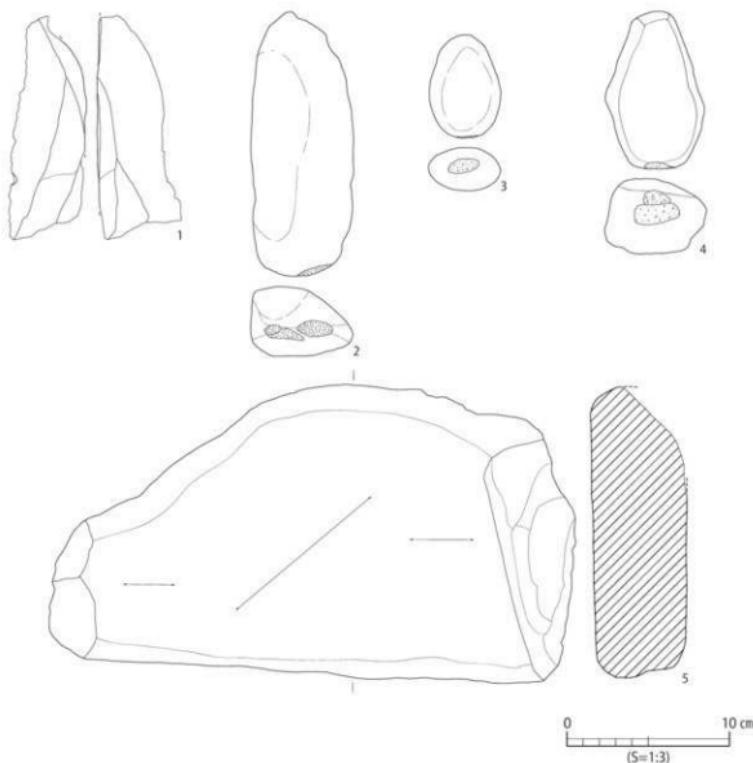
同図5は石皿とした。石材は花崗岩で両面に使用痕が残り、両側面は自然面である。残存デンブン粒分析を実施した結果、コナラ属の可能性があるデンブン粒のほか、植物纖維や細胞組織の微細な断片などの植物性物質が確認されている<sup>(8)</sup>。

## 3. 第3遺構面の調査

第3遺構面の調査は、土層断面（第34図）の確認の際、第3黒色土層中から石斧が出土したため調査対象となった（図版23）。ただし、調査区北半の土層断面（第33図）の確認では第3黒色土層中



第72図 1区第2黒色土層出土遺物(1)

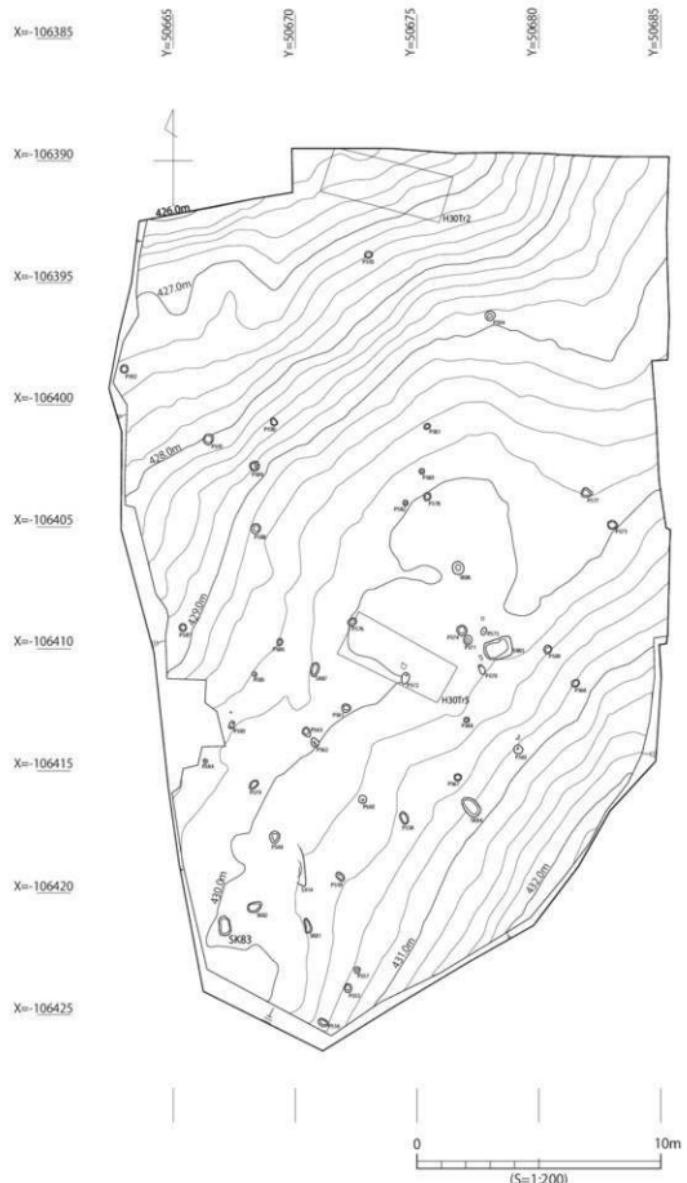


第73図 1区第2黒色土層出土遺物（2）

からの遺物出土は認められず、第3黒色土層の堆積も、北西部では湧水のため検出するまでに掘削を停止した。このような状況をふまえ、第3遺構面の調査範囲を決定するため、第2遺構面調査後に下層堆積状況を確認するために設定したトレチ（写真8）によって調査範囲を決定した。この結果、調査範囲は1区の南西部にあたる約680mが対象となった。調査の結果、第3黒色土層の下層に堆積する土層（第34図73層ほか）上面で土坑および小土坑が検出された（第74図、図版22・23）。また、少量ながら、第3黒色土層中から、縄文土器、石器が出土している。なお、第3遺構面の調査後、さらに下層に調査対象が存在するかトレチを設定して確認を行ったが、遺物などは確認できなかったため調査を終了した（写真9・10）。

### （1）土坑

土坑（SK）は、1区第3遺構面で7基検出している（第17表）。すべて第3黒色土層下層上面で検出した。ただし、遺構は浅く、本来は第3黒色土層中から掘り込まれたと想定できる。遺物を含むものが少ないものの、検出上面層となる第3黒色土層中から出土する縄文土器は西川津式に限定されるため、土坑の時期は縄文時代前期前葉頃と推測できる。以下、遺物が出土した土坑について記



第74図 1区第3遺構面遺構配置図

載する。掲載遺構の土層観察表として第35表を付し、その他の土坑については第17表を概要を示す。

#### SK83 (第75図、図版23)

SK83は調査区南西隅の平坦面で検出した土坑である(第75図)。平面形は楕円形であり、規模は長さ0.82m、幅0.5m、深さ0.08mとなる。土坑内からは石器が出土している。

#### SK83出土遺物 (第76図、図版46)

SK83から出土した遺物は黒曜石製の石鏃である(第76図)。凹基式の形態をもつが、えぐりは浅く、右脚部と左脚端部が欠損している。復元長は2.2cm程度と想定でき、小型の石鏃である。

#### (2) 小土坑

小土坑(Pit)は、1区第3遺構面で40基検出している(第18表)。遺物が出土するものは認められないものの、時期については土坑同様に、検出面上層に堆積する第3黑色土層出土遺物から縄文時代前期前葉と推測できる。各小土坑の概要については第18表で示す。

#### (3) その他の遺構

##### 性格不明遺構

性格不明遺構(SX)は、1区第3遺構面で1基検出している(第19表)。土坑および小土坑と比較し、不整形の遺構となるもので、かく乱や風倒木などの痕跡の可能性が残る。遺物は出土していないが、上層の第3黑色土層出土遺物の時期から、縄文

第17表 1区第3遺構面検出土坑(SK)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅		特徴	出土遺物
SK81	N-7	0.7	0.3			SK85	M-7 L-7	1.5	1.0		
SK82	N-6	0.6	0.4		土器片	SK86	L-7	0.6	0.5		
SK83	N-6	0.82	0.5		石器	SK87	M-7	0.6	0.4		
SK84	M-7	1.2	0.6								

第18表 1区第3遺構面検出土小土坑(Pit)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m) 長 幅		特徴	出土遺物
Pit555	N-7	0.3	0.3			Pit566	M-8	0.4	0.3		
Pit556	N-7	0.4	0.3			Pit567	M-7	0.4	0.3		
Pit557	N-7	0.3	0.3			Pit568	M-7	0.3	0.3		
Pit558	M-7	0.45	0.3			Pit569	M-8	0.3	0.3		
Pit559	M-7	0.4	0.3			Pit570	M-7	0.4	0.2		
Pit560	M-7	0.4	0.4			Pit571	L-7	0.4	0.4		
Pit561	M-7	0.4	0.4			Pit572	M-7	0.45	0.4		
Pit562	M-7	0.3	0.3			Pit573	L-8	0.4	0.4		
Pit563	M-7	0.4	0.3			Pit574	L-7	0.4	0.4		
Pit564	M-6	0.4	0.4			Pit575	L-7	0.4	0.2	底面に小孔	
Pit565	M-7	0.45	0.4			Pit576	L-7	0.4	0.3		



第75図 SK83実測図



第76図 SK83出土遺物

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit577	L-8	0.45	0.4			Pit586	L-6	0.3	0.3		
Pit578	L-7	0.4	0.3			Pit587	L-6	0.3	0.3	底面に小孔	
Pit579	M-6	0.4	0.3			Pit588	L-6	0.4	0.4		
Pit580	L-7	0.3	0.3			Pit589	L-6	0.4	0.4		
Pit581	L-7	0.3	0.3			Pit590	L-6	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit582	L-7	0.3	0.3			Pit591	L-6	0.45	0.4		
Pit583	M-6	0.4	0.3	底面に小孔		Pit592	L-6	0.4	0.4		
Pit584	M-6	0.2	0.2			Pit593	K-7	0.4	0.4		
Pit585	M-6	0.2	0.2	底面に小孔		Pit594	K-8	0.4	0.4		

第19表 1区第3遺構面検出性格不明遺構(SX)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅		
SX14	M-7	0.2	不明		

時代前期前葉と推測できる。概要については第19表で示す。

#### (4) 第3黒色土層出土遺物

第3黒色土層中からは、縄文土器、石器が少量出土している(第77図・図版46・47)。基本的には小片であり、全体の様相が把握できる個体は少ない。

##### 縄文土器(第77図1~8、図版47)

縄文土器は深鉢(第77図1)、鉢(同図2~7)、底部(同図8)が出土している。これらの縄文土器は特徴から西川津式と考えられ、縄文時代前期前葉に属するものと考えられる。

第77図1は深鉢口縁部片であり、内外面に二枚貝条痕による調整が確認できる。口唇部は丸みを帯び、外面には2本1単位の垂下沈線文が施されている。

同図2~7は鉢胴部片である。屈曲器形を呈し、内外面に二枚貝条痕調整が施されており、3~7は条痕調整後にナデ調整が行われている。2・3では細隆蒂文が確認でき、2では刻目が細隆蒂文上に施される。これらの胴部片の胎土には纖維が含まれ、2・6・7では明瞭に確認できる。

同図8は底部で、内外面に二枚貝条痕調整の後ナデ調整が施されている。

##### 石器(第77図9~14、図版46・47)

石器は楔形石器(第77図9)、石斧(同図10)、石鎌(同図11)、剥片(同図12・13)、台石(同図14)が出土している。時期については、第3黒色土層中から出土する縄文土器は西川津式に限定されることから、石器についても同様の時期に属するものと考えられる。

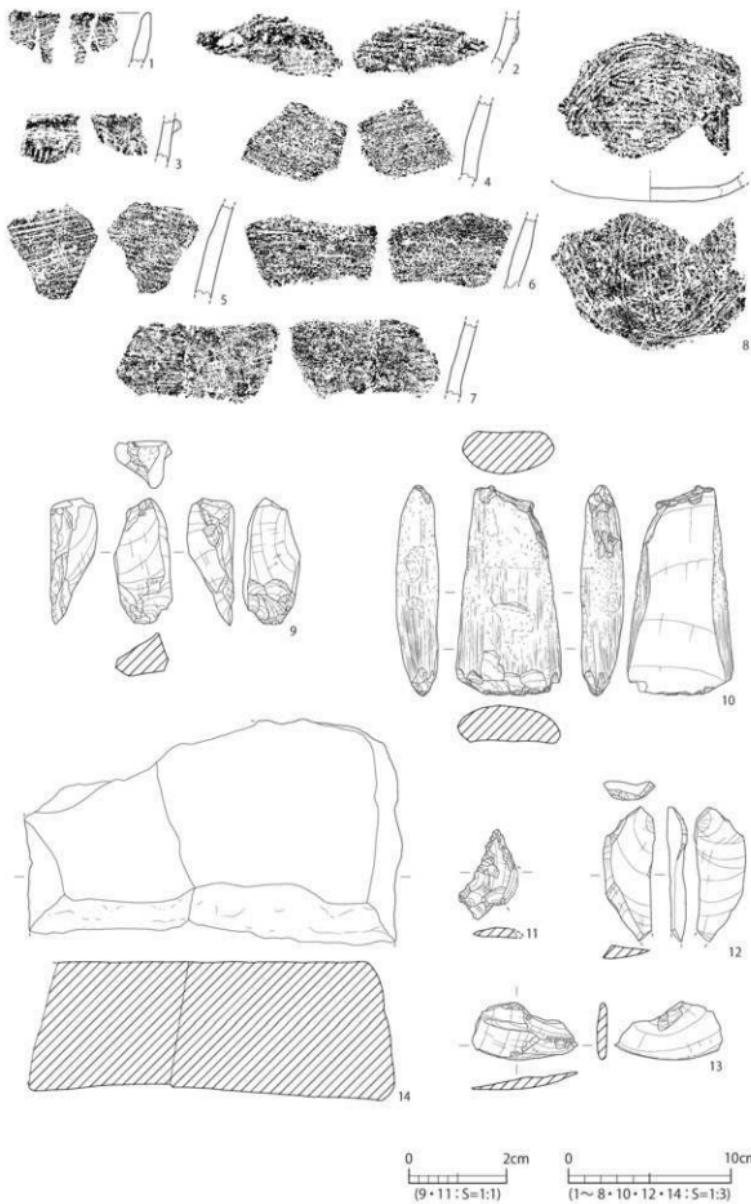
第77図9は黒曜石製の楔形石器で、加撃部に自然面が残る。

同図10は安山岩製の石斧で表面および側縁部に敲打痕が見られる。磨製石斧であるが、裏面が剥落後、刃部と基部を再加工している状況が認められる。

同図11は凹基式の石鎌である。えぐりは浅く、側縁に突起をもつ。黒曜石製で右脚部は欠損している。長さは1.8cmと小型のものである。

同図12・13は黒曜石製の剥片である。剥片には微細な剥離が認められることから、使用痕のある剥片(UF)とした。

同図14は台石とした。石材は花崗岩製で磨面などは確認できない。



第77図 1区第3黑色土層出土遺物

## 第4節 2区の調査

上ノ谷遺跡2区では、第1遺構面、第3遺構面の2面の遺構面を確認した。なお、1区第2遺構面に相当する第2ハイカ層および第2ハイカ層上層に堆積する第2黒色土層相当の黒色土層も検出している。ただし、先述したように第2ハイカ層～第1ハイカ層において、地滑りや複数の流入土層が堆積しており、遺構、遺物は確認できていない。第1・3遺構面は検出面であり、本来は各遺構面の上層に位置する黒色土層に伴う遺構を検出したものと推測できる(第20表)。本節では、各遺構面で検出した主な遺構とその遺物について詳述する。また、遺構面とセットとなる黒色土層出土遺物についても記載する。なお、遺構については記載しなかったものも含め第21～29表に概要を示し、土色などの観察表(第37・38表)を付した。遺物については第42・43表を付した。

### 1. 第1遺構面の調査

第1遺構面の調査は、2区の全範囲である約1,000m<sup>2</sup>を対象とした。調査の結果、第1ハイカ層上面から竪穴建物1棟、掘立柱建物1棟、多数の土坑および小土坑が検出された(第78図・図版24)。また、少量ながら、第1黒色土層中から、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器が出土している。

#### (1) 竪穴建物

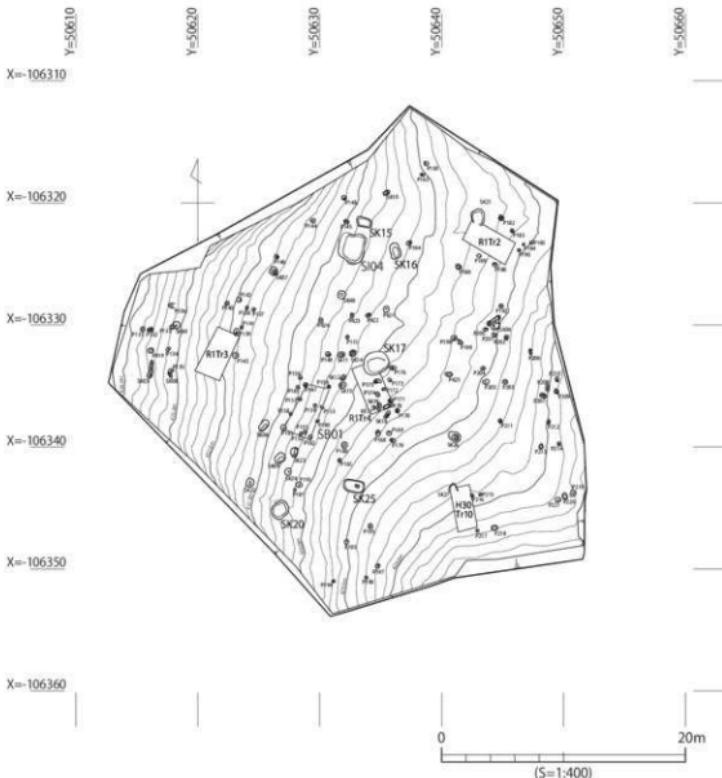
竪穴建物は、2区第1遺構面では1棟検出している(第21表)。第21表で概要を示し、土層観察表として第37表を付した。

#### SI04(第79図、図版25)

SI04は調査区中央北側の緩斜面で検出した(第79図)。平面形は南北の壁が膨らむ不整方形である。

第20表 2区遺構面と検出した主な遺構

遺構面	遺構	出土遺物	時期
第1遺構面 (第1ハイカ層上面)	竪穴建物 SI04		縄文時代後期?
	掘立柱建物 SB01		
	土坑群 SK15 SK16		縄文時代後期?
	SK17	土器細片	縄文時代後期?
	SK20	土師器	古墳時代中期後半
	SK25		古墳時代後半期
	小土坑群 Pit182	弥生土器	弥生時代後期前葉
第3遺構面 (第3黒色土層下層上面)	竪穴建物 SI06	縄文土器、石器	縄文時代前期前葉
	土坑群 SK65	石器	縄文時代早期～前期前葉
	小土坑群 Pit477	石器	縄文時代早期～前期前葉
	Pit481	石器	
	Pit531	石器	
	Pit535	石器	
	石器集中地点	石器	縄文時代前期前葉



第78図 2区第1遺構面遺構配置図

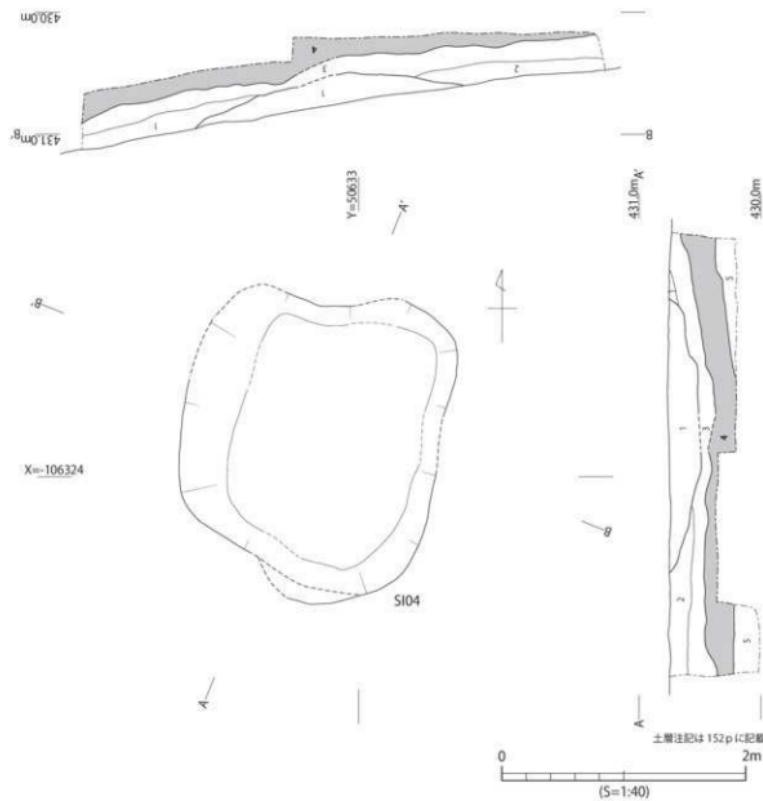
り、南北2.6m、東西2.15m、検出面から床面までの深さは0.25mである。完掘時の状況から、大部分がすでに削平されているものと推測できる。床面に床土などは確認できず、断面もすり鉢状となる。SI04内部からは柱穴や土坑などは確認されなかった。SI04は、調査当初、土坑として扱っていたが、その後の整理作業および後述する第3遺構面検出のSI06の存在から、縄文時代の竪穴建物の可能性が高いと判断した。なお、遺構内部から遺物は出土しておらず詳細な時期は不明であるが、検出面から、縄文時代後期後半以降と判断できる。

## (2) 掘立柱建物

掘立柱建物(SB)は、2区第1遺構面で1棟検出している(第22表)。第22表で概要を示し、土層観察表として第37表を付した。

### SB01(第80図、図版25)

SB01は調査区西半中央の斜面で検出した(第80図)。1間×2間で、梁行き2.3m、桁行き4.4mとなる。柱筋は凹凸があり、柱配列は整然としない。ただし、2区検出の他の小土坑に対し、直線



第79図 SI04実測図

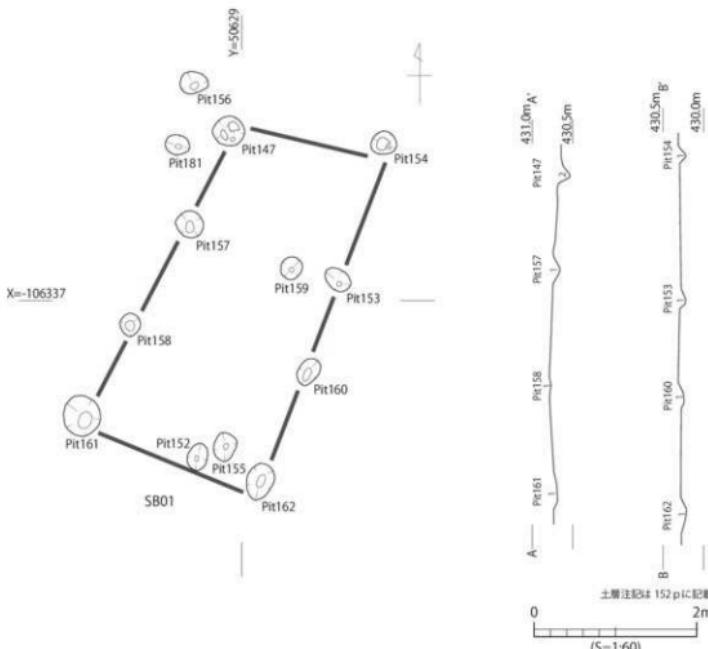
第21表 2区第1遺構面竪穴建物跡(SI)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m・m)					特徴	出土遺物
		長軸	短軸	深さ (床面まで)	床面積	平面形		
SI04	D-3	2.6	2.15	(0.25)	3.1	不整方形	織文か	

状に2列並ぶことから掘立柱建物とした。なお、柱穴については残りが浅く、柱痕は確認できていない。また、SB01に伴う遺物は出土していない。

### (3) 土坑

土坑(SK)は、2区第1遺構面で23基検出している(第23表)。すべて第1ハイカ層上面で検出したが、遺構の深さは浅く、本来は第1黒色土層(第35・36図1・2層)から掘り込まれたと想定できる。遺物を出土するものが少なく、時期は不明瞭である。ただし、土師器が出土するものも確認できており、古墳時代後半期に属するものが大半であると推測できる。なお、土坑として報告する遺構には墓壙の可能性があるもの(SK25)のほか、SI04周辺で検出し、関連が想定できる土坑(SK15・



第80図 SB01実測図

第22表 2区第1遺構面掘立柱建物跡(SB)一覧

遺構番号		グリッド		規模(m)		柱間距離(m)				出土 場所		
		E-2		棟行き	4.3	Pit154-Pit153	Pit153-Pit160	Pit160-Pit162	Pit162-Pit161			
柱穴	番号	Pit154	Pit153	Pit160	Pit162	1.8	1.2	1.4	2.3			
	規模	0.3 × 0.3	0.35 × 0.25	0.35 × 0.25	0.45 × 0.3		柱間距離(m)					
	番号	Pit161	Pit158	Pit157	Pit147	Pit161-Pit158	Pit158-Pit157	Pit157-Pit147	Pit147-Pit154			
	規模	0.45 × 0.45	0.25 × 0.25	0.35 × 0.3	0.4 × 0.35	1.3	1.4	1.3	1.9			

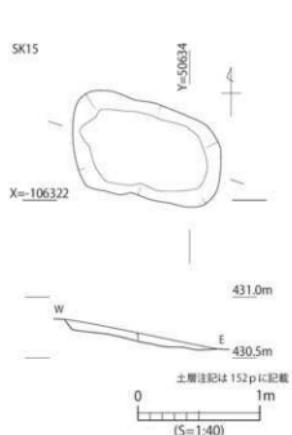
16) も含まれる。なお、1区同様に土坑底面に小孔をもつものも認められる。以下、遺物出土など特徴的な土坑について記載する。掲載遺構の土層観察表として第37表を付し、その他の土坑については第23表で概要を示す。

#### SK15 (第81図、図版25)

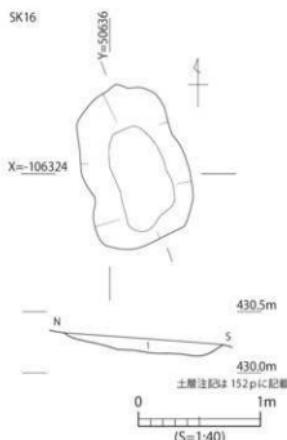
SK15は調査区中央北側の緩斜面で検出した土坑である(第81図)。平面形は不整橢円形であり、規模は長さ1.3m、幅0.8m、深さ0.08m程となる。遺物が出土しておらず、時期は不明だが、SI04に隣接しており、SI04と関連した遺構の可能性が高い。

#### SK16 (第82図、図版26)

SK16は調査区中央北側の緩斜面で検出した土坑である(第82図)。平面形は不整橢円形であり、規模は長さ1.3m、幅0.85m、深さ0.1m程となる。遺物が出土しておらず、時期は不明である。た



第81図 SK15実測図



第82図 SK16実測図

だし、SK15同様に、SI04に隣接しており、SI04と関連した遺構の可能性が高い。

### SK17（第83図、図版26）

SK17は調査区中央の緩斜面で検出した土坑である（第83図）。平面形は楕円形であり、規模は長さ2.1m、幅1.84m、深さ0.2m程となる。土坑内からは土師器の細片が出土したが、遺構周辺から弥生土器も出土している。遺構の深さなどを考慮すると、遺構周辺の遺物は本来SK17に伴っていた可能性も考えられるが、判断できなかった。

### SK20（第84・85図、図版26）

SK20は調査区南西隅の斜面で検出した土坑である（第84図）。平面形は楕円形であり、規模は長さ1.52m、幅1.3m、深さ0.2m程となる。土坑内からは多数の土師器が集中して出土している（第85図）。また、土坑周辺にも複数の土器片が出土しており、本来SK20に伴う遺物が後世の削平やかく乱の影響を受け、周辺に流れたものと推測できる。これらの遺物は、土坑南西隅付近に集中しており、土坑内に意図的に配置されたものと考えられる。

### SK20出土遺物（第86図、図版48）

SK20から出土した遺物は土師器である（第86図）。第86図1～4は甌、同図5は壺とした。甌は、口縁部形状はわずかに内湾するもの（4）と直線状になるもの（1～3）が認められる。口縁部はく字（1・2・4）とゆるいく字（3）にたちあがる。壺（5）は丸底壺で、口縁部が直線状となり、口縁部はく字状にたちあがる。

### SK25（第87図、図版26）

SK25は調査区南半中央の緩斜面で検出した土坑である（第87図）。平面形は隅丸方形であり、規模は長さ1.72m、幅1.05m、深さ0.2m程となる。SK25の床面は、水平ではないものの、周辺地形の傾斜に沿って整形されている。また、検出面において、SK25中央東側で角礫が検出されている。以上のような特徴から、SK25は墓壙である可能性が高く、その場合、遺構内で検出した角礫は標石であると考えられる。SK25の時期については遺物が伴っていないため不明である。ただし、周

辺からは土師器が出土しており、遺構の時期も同様な時期が想定できる。

#### (4) 小土坑

小土坑(Pit)は、2区第1遺構面で97基検出した(第24表)。掘立柱建物(SB01)を構成する小土坑(柱穴)のように、複数の小土坑によって遺構を構成するもののほか、単独で遺構となるものを含んでいる。また、床面に小孔をもつものが認められる。土坑同様に、遺物を含むものが多く、時期不明なものが大半である。ただし、遺物が出土する小土坑もあり、弥生土器が出土している。以下、遺物が出土した小土坑について記載する。掲載遺構の土層観察表として第37表を付し、その他の小土坑については第24表で概要を示す。

##### Pit182 (第88図、図版26)

Pit182は調査区北半東隅付近の緩斜面で検出した(第88図)。平面形は不整円形で、規模は長さ0.5m、幅0.45m、深さ0.25m程度である。小土坑床面には小孔が認められる。埋土は、上層の第1黒色土に由来するしまりの弱い黒色土が堆積している。遺構内からは弥生土器が出土している。

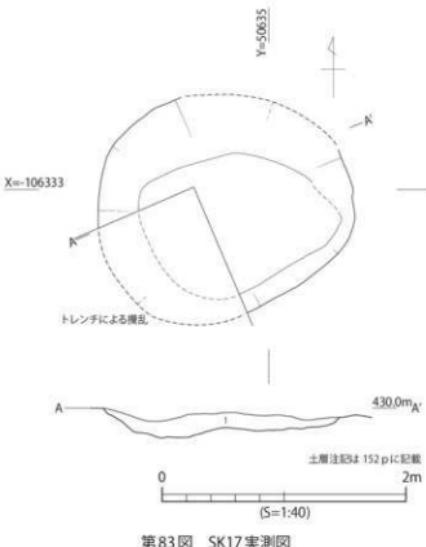
##### Pit182出土遺物 (第89図、図版48)

Pit182からは弥生土器の甕が出土している(第89図)。口縁端部は上下に拡張し、ヘラ状工具により凹線文が4条施される。内外面とも口縁部はナデ調整が施され、内面頸部より下方にはヘラケズリが認められる。これらの特徴は、弥生時代後期前葉頃の様相を示している。

#### (5) その他の遺構

##### 性格不明遺構

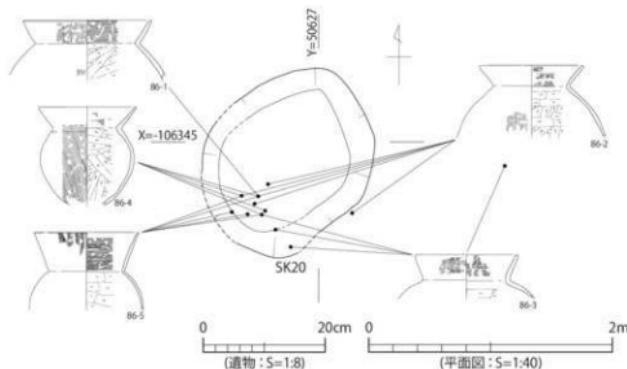
性格不明遺構(SX)は、2区第1遺構面で3基検出している(第25表)。土坑および小土坑などと比較し、不整形の遺構となるもので、かく乱や風倒木などの痕跡の可能性が残る。遺物も出土して



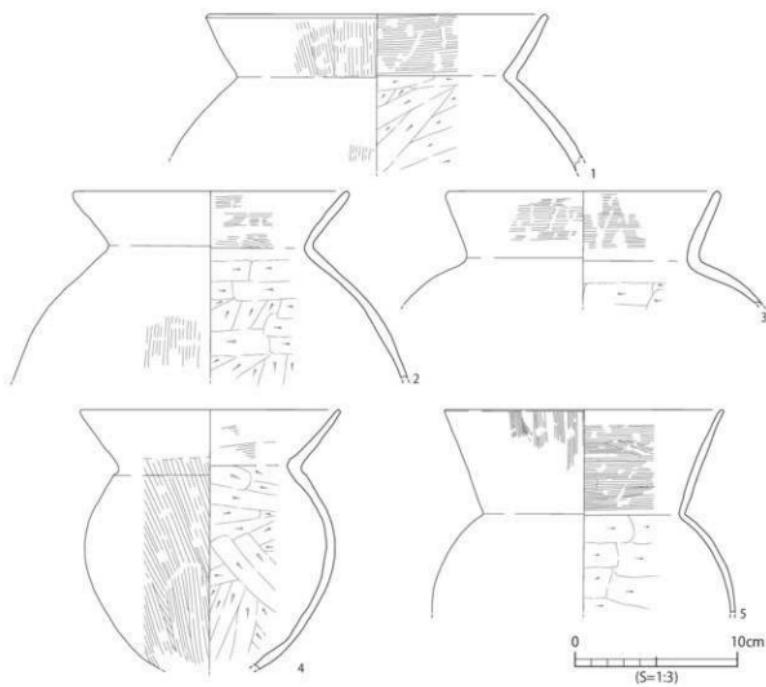
第83図 SK17実測図



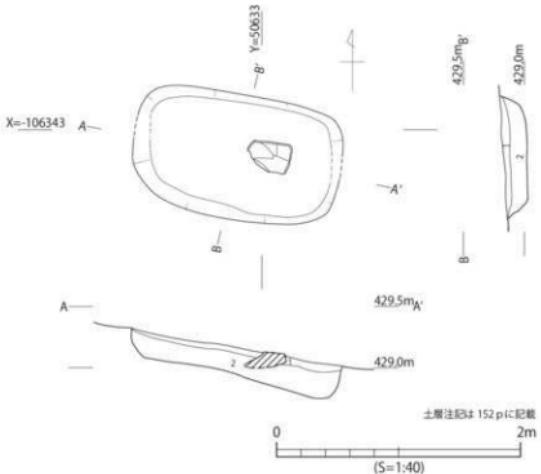
第84図 SK20実測図



第85図 SK20遺物出土状況



第86図 SK20出土遺物



第87図 SK25実測図

第23表 2区第1遺構面土坑(SK)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
SK07	D-2	0.7	0.7			SK19	E-3	0.6	0.5	底面に小孔	
SK08	E-2	1.0	0.6			SK20	F-2	1.52	1.3		土器
SK09	F-2	0.9	0.7	疊		SK21	D-4	1.2	1.2		
SK10	C-3	0.6	0.3			SK22	F-2	0.7	0.6		
SK11	E-3	0.6	0.4			SK23	F-2	0.8	0.6		
SK12	E-3	0.5	0.3			SK24	F-2	0.6	0.5		
SK13	E-3	0.6	0.5			SK25	F-3	1.72	1.05	墓壙か	
SK14	E-3	0.5	0.4			SK26	E-4	0.9	0.8	底面に小孔	
SK15	D-3	1.3	0.8			SK27	F-4	0.7	(0.6)		
SK16	D-3	1.3	0.85			SK48	D-3	0.6	0.6		
SK17	E-3	2.1	1.84		弥生土器、 土師器	SK49	D-1 E-1	0.5	0.5		
SK18	E-3	0.7	0.3	底面に小孔							

第24表 2区第1遺構面小土坑(Pit)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit131	E-1	0.4	0.35			Pit142	D-2	0.4	0.4		
Pit132	E-1	0.45	0.4			Pit143	E-2	0.4	0.4		
Pit133	E-1	0.4	0.3			Pit144	D-2	0.45	0.4		
Pit134	E-1	0.4	0.2			Pit145	D-3	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit135	E-1	0.4	0.3			Pit146	D-2	0.4	0.3		
Pit136	D-1	0.3	0.3			Pit147	E-2	0.4	0.35	S801	
Pit137	D-2	0.35	0.3			Pit148	C-3	0.3	0.3		
Pit138	D-2	0.35	0.2			Pit149	E-2	0.4	0.4	底面に小孔	
Pit139	E-2	0.4	0.3			Pit150	C-3	0.4	0.4		
Pit140	D-2	0.4	0.3			Pit151	E-3	0.3	0.3		
Pit141	E-2	0.2	0.2			Pit152	E-2	0.35	0.25		

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit153	E-2	0.35	0.25	S801		Pit191	F-3	0.4	0.4		
Pit154	E-2	0.3	0.3	S801		Pit192	D-4	0.3	0.3		
Pit155	E-2	0.35	0.25			Pit193	F-3	0.3	0.3		
Pit156	E-2	0.35	0.3			Pit194	G-3	0.3	0.3		
Pit157	E-2	0.35	0.3	S801		Pit195	F-3	0.4	0.4		
Pit158	E-2	0.25	0.25	S801		Pit196	G-3	0.3	0.3		
Pit159	E-2	0.25	0.25			Pit197	G-3	0.3	0.3		
Pit160	E-2	0.35	0.25	S801		Pit198	E-4	0.45	0.4		
Pit161	E-2	0.45	0.45	S801		Pit199	E-4	0.45	0.3		
Pit162	E-2	0.45	0.3	S801		Pit200	E-4	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit163	C-3	0.35	0.2	底面に小孔		Pit201	E-4	0.4	0.4		
Pit164	C-4	0.4	0.3		土器細片	Pit202	E-4	0.4	0.4		
Pit165	F-3	0.3	0.2			Pit203	E-4	0.45	0.4		
Pit166	E-3	0.3	0.3			Pit204	E-4	0.4	0.4		
Pit167	E-3	0.3	0.3	底面に小孔		Pit205	E-4	0.4	0.3		
Pit168	E-3	0.45	0.4			Pit206	E-4	0.4	0.2	底面に小孔	
Pit169	E-3	0.4	0.4			Pit207	E-4	0.45	0.4	底面に小孔	
Pit170	E-3	0.35	0.3			Pit208	E-4	0.45	0.3		
Pit171	E-3	0.4	0.4		土器細片	Pit209	E-4	0.4	0.4		
Pit172	E-3	0.3	0.2			Pit210	E-4	0.4	0.25		
Pit173	E-3	0.3	0.3			Pit211	E-4	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit174	E-3	0.4	0.3			Pit212	E-4	0.3	0.3		
Pit175	E-3	0.45	0.3			Pit213	E-4	0.4	0.3		
Pit176	E-3	0.45	0.4			Pit214	E-4	0.3	0.3		
Pit177	E-3	0.25	0.25			Pit215	F-4	0.2	0.2		
Pit178	E-3	0.4	0.25			Pit216	F-4	0.2	0.2		
Pit179	E-3	0.4	0.3			Pit217	F-4	0.3	0.3	土器細片	
Pit180	E-4	0.45	0.45			Pit218	F-4	0.4	0.4	土器細片	
Pit181	E-2	0.3	0.25			Pit219	F-5	0.45	0.45		
Pit182	D-4	0.5	0.45	底面に小孔	弥生土器	Pit220	F-4	0.4	0.4		
Pit183	D-4	0.3	0.3	底面に小孔		Pit221	F-5	0.45	0.4		
Pit184	D-4	0.2	0.2		土器細片	Pit419	E-1	0.45	0.4		
Pit185	D-4	0.3	0.3			Pit421	D-3	0.45	0.4		
Pit186	D-4	0.4	0.4			Pit422	D-3	0.4	0.3		
Pit187	F-3	0.2	0.2			Pit423	D-3	0.4	0.3		
Pit188	D-4	0.3	0.3	底面に小孔		Pit424	D-3	0.4	0.3		
Pit189	D-4	0.4	0.3			Pit425	E-4	0.45	0.3		
Pit190	D-4	0.3	0.3								

第25表 2区第1遺構面性格不明遺構(SX)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅		
SX03	E-1	1.4	0.4		
SX04	D-4 E-4	0.9	0.9		
SX08	E-1	0.5	0.5		

おらず、詳細な所属時期も不明なため、第25表で概要を示すのみとした。なお、土坑や小土坑同様に、床面に小孔を持つものも認められる。

#### (6) 第1黒色土層出土遺物

第1黒色土層中からは、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、石器が出土している(第90・91図、図版48~50)。このほかにも、縄文土器が出土しているが、細片のため図示できなかった。なお、

出土遺物も基本的には小片であり、全体の様相が把握できる個体は少ない。

#### 弥生土器（第90図1・2、図版48）

弥生土器は甌（第90図1・2）が出土している。1・2ともに口縁端部は上下に拡張し、凹線文が施される。2では頸部下方に刺突文が認められる。内面の調整は口縁部から頸部にかけナデ調整、頸部より下方にヘラケズリが施される。これらの特徴は、弥生時代後期前葉頃の様相を示している。

#### 土師器（第90図3～17、図版48～50）

土師器は甌（第90図3～9）、壺（同図10～13）、高环（同図14～16）、瓶（同図17）が出土している。1区と同様に古墳時代後半期に属するものと考えられる。

第90図3～9は甌である。口縁部形状が直線（第90図3・6・7）、外反（同図4・5）、屈曲（同図8・9）となるものを確認した。口縁部はく字（3・7）、ゆるいく字（4～6・9）にたちあがるもののが認められる。

同図10～13は丸底壺とした。いずれも器高10cm前後の小型の丸底壺と考えられる。10～12は頸部が長く、口縁部は直線状にたちあがる。胴部は扁球形となる。調整は内面頸部下方にヘラケズリ、外面にはハケ調整後にナデが施される。10には口縁部内面にユビナデが認められる。13は短頸の丸底壺の口縁部片とした。

同図14～16は高环で、14・16が環部、15が脚部である。いずれも小片であるものの、14は有段高环であり、口縁部のたちあがりはわずかに外反する。15の脚部は端部が丸みを帯びている。

同図17は瓶とした。平底の底部片であるが、底面に孔があげられている。以上の様相をふまえると多孔式瓶であると考えられる。

#### 須恵器（第90図18、図版49）

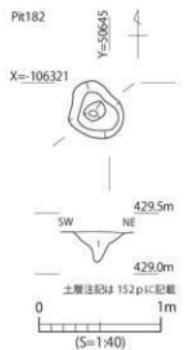
須恵器は壺の胴部片（第90図18）が出土している。小片のため詳細は不明である。2区では、提示した土器小片のほか、平成30年度試掘調査（H30Tr10）で須恵器环身（第5図3）が出土している。そのため、胴部片の時期については、試掘調査時出土須恵器环身と同時期である可能性が高い。

#### 陶磁器（第90図19～22、図版50）

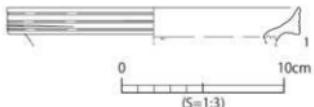
陶磁器は鉢（第90図19）、皿（同図20）、碗（同図21・22）が出土している。17世紀から18世紀前葉頃のものである。19・20は肥前系陶器で、19は白化粧土の後に透明釉が施されており、緑釉斑も認められる。20は口縁部が強く内湾する丸形皿で、内面に青緑釉、外面に透明釉が施される。21・22は肥前系磁器の丸形碗である。21は内外面に二重圈線が認められる。器壁が薄く、呉須の発色も強いため、青花の可能性も残る。22は外面に圈線および蔓草文が施される。内面の口唇部に釉返しがみられる。

#### 石器（第91図1～3、図版50）

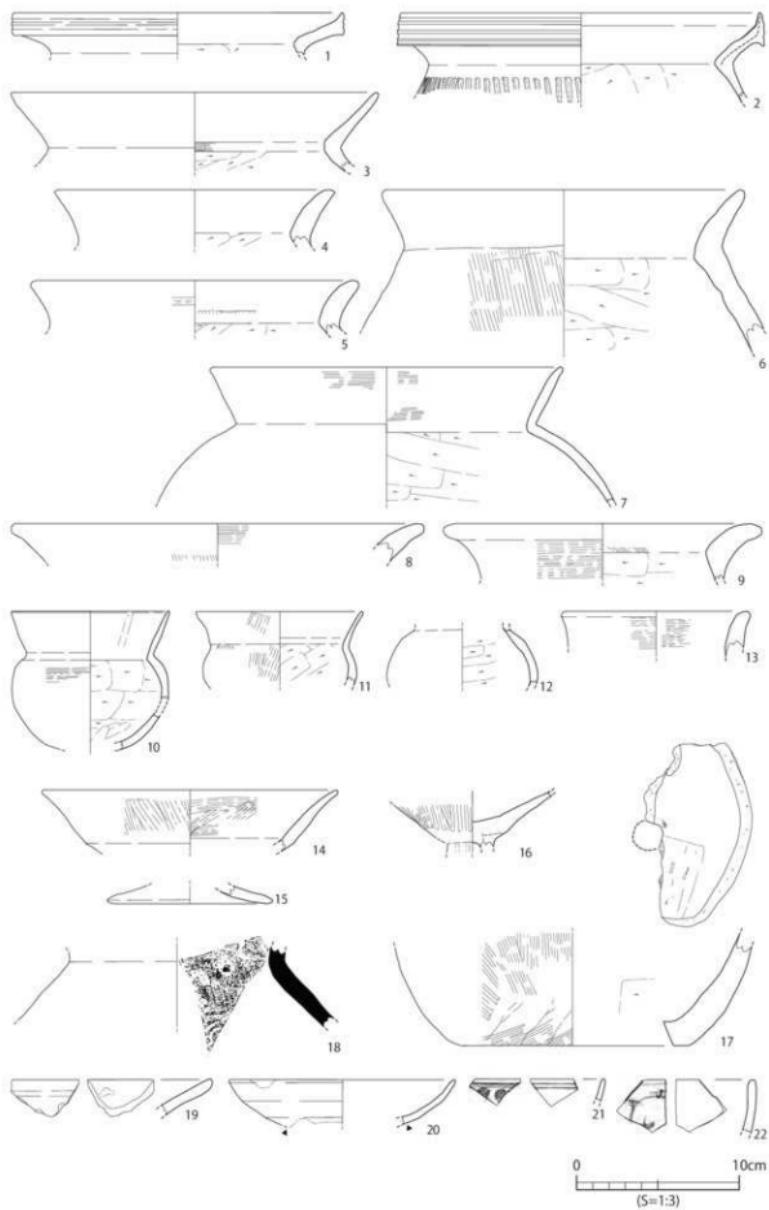
石器は石核（第91図1）、石錘（同図2）、敲石（同図3）が出土している。石核の石材は黒曜石で、



第88図 Pit 182実測図



第89図 Pit 182出土遺物

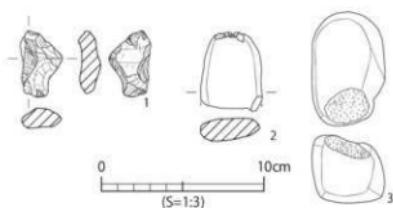


第90図 2区第1黑色土層出土遺物（1）

表面は摩滅している。2は流紋岩製で下部は欠損している。3は花崗岩製で敲打痕が認められる。

## 2. 第3遺構面の調査

第3遺構面の調査は、土層断面（第35・36図）の確認の際、第3黒色土層（15層）中から土器および石器が出土したため調査対象と



第91図 2区第1黒色土層出土遺物（2）

なった。ただし、調査区南半となるグリッドのFラインより南では、土層断面（第35図）の確認の結果、第3黒色土層が傾斜堆積しており、湧水によって調査不可能な状況であった。また、調査区西半となるグリッドの3ラインより西側でも、第3黒色土層検出以前に湧水によって調査不可能であった。このような状況をふまえ、第3遺構面の調査は2区北東部の約600mに限定して実施することとした（第92図）。

調査の結果、第3黒色土層の下層に堆積する上層（第35・36図16層ほか）上面で竪穴建物、土坑、小土坑などの遺構を検出し、これらに伴う遺物も出土した（図版27）。また、石器および剥片が多く出土した。剥片には微細な剥片（チップ）も含まれており、これらの遺物が集中する地点を確認した（第99～103図）。なお、第3黒色土層中から、縄文土器、石器が出土している。

1区同様に第3遺構面の調査後、さらに下層に調査対象が存在するかトレンチを設定して確認を行ったが、遺物などは確認できなかったため調査を終了した（写真9・10）。

### （1）竪穴建物

竪穴建物は2区第3遺構面では1棟検出している（第26表）。出土遺物から縄文時代前期前葉に属するものである。竪穴建物の概要については、第26表で概要を示し、掲載遺構の土層観察表として第38表を付した。

#### SI06（第93・94図、図版28）

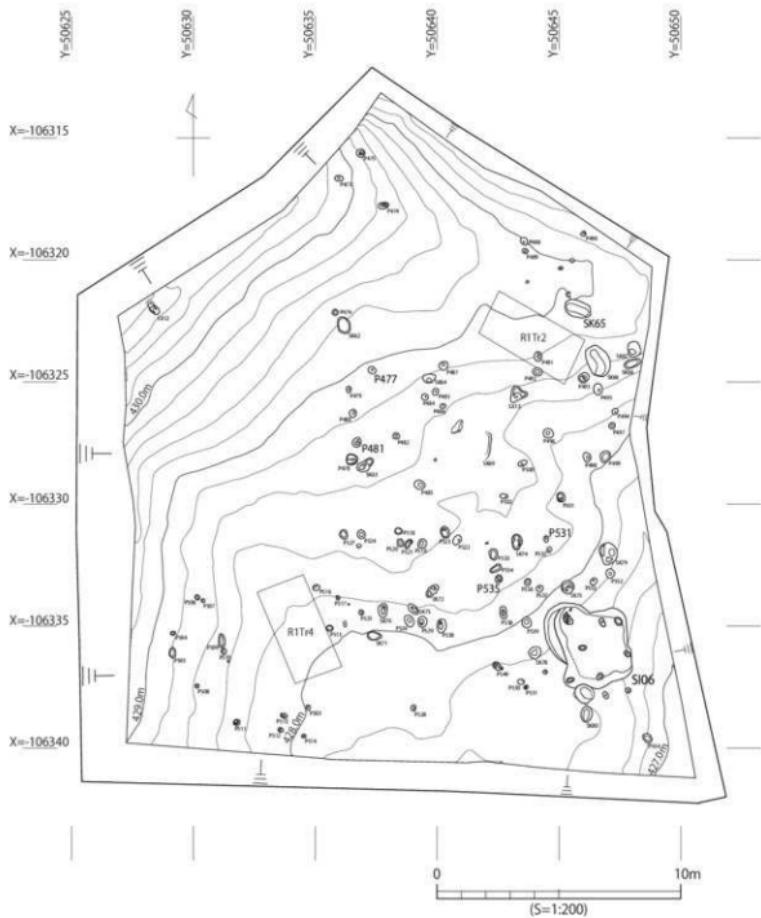
SI06は調査区南東隅の緩斜面で検出した（第93図）。平面形は不整形で、規模は南北3.45m、東西3.35m、検出面から床面までの深さは0.15mである。完掘時の状況より、大部分が削平されているものの、建物のプランは明瞭に確認できた。建物内外で土坑および小土坑を検出しており、SK76によりSI06南壁が切られている。SI06内部で検出した土坑（SK77）および小土坑（Pit540～Pit545）は、Pit545を除きSI06壁沿いに位置しており、柱穴の可能性が想定できる。ただし、これらの遺構内部からは柱痕などは確認できていない。なお、遺構内に堆積していた埋土（第93図1層）は、2区第3遺構面で検出した他の遺構と土色が異なっていた。建物内に施された貼床の可能性もあるが、判断できなかった。

遺物は床面およびSK77などのSI06内の遺構を中心とし、縄文土器と石器が出土している（第94図）。なお、縄文土器の出土状況にまとまりは認められないが、石器は並行して実施した石器集中地点の調査によって、SI06北西部に集中して出土することが判明した（第100～103図）<sup>39)</sup>。

#### SI06出土遺物（第95図、図版50・51）

SI06から出土した遺物は縄文土器および石器である（第95図）。

縄文土器（第95図1～9）は縄文時代前期前葉頃の特徴を示しており、SI06の使用時期を示すも

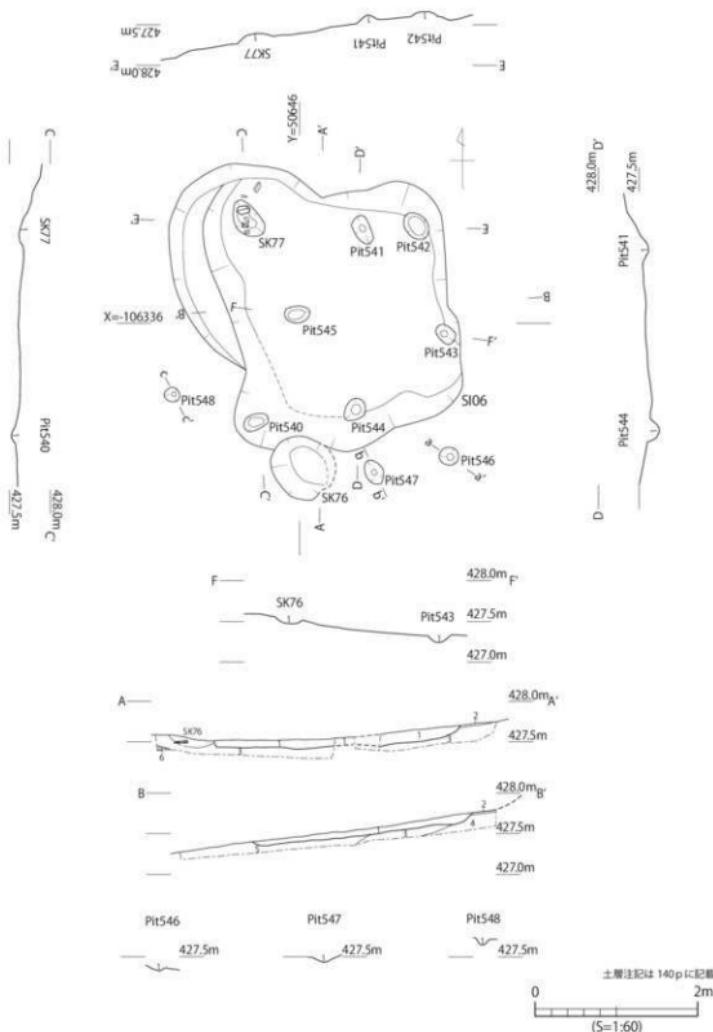


第92図 2区第3遺構面遺構配置図

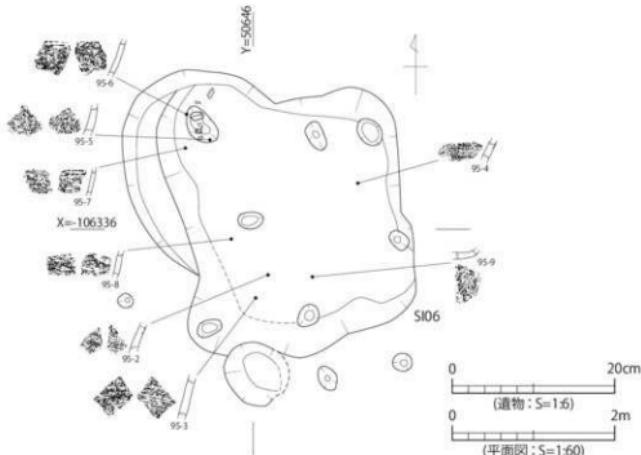
のであると考えられる。

第95図1～8は深鉢および鉢の口縁・胴部片である。1は口縁部片で内湾器形が認められ、口唇部には刻目が施されている。2は押引文、4は胴部へ刺突文が施されている。調整は、内面にナデ調整（1）と二枚貝条痕調整（2～8）が行われ、条痕調整後にナデが施されるもの（2・4～6・8）も確認できる。外面も同様にナデ調整（2・3）と二枚貝条痕調整（1・4～8）が認められ、条痕調整後にナデを施すもの（4～8）も含む。同図9は丸底の底部で内外面にナデが施される。

石器は石核（第95図10～12）、楔形石器（同図13）、スクレイパー（同図14）、石鏃（同図15～18）、石鏃未製品（同図19・20）、剥片（同図21～28）が出土した。



第93図 SI06実測図



第94図 SI06遺物出土状況

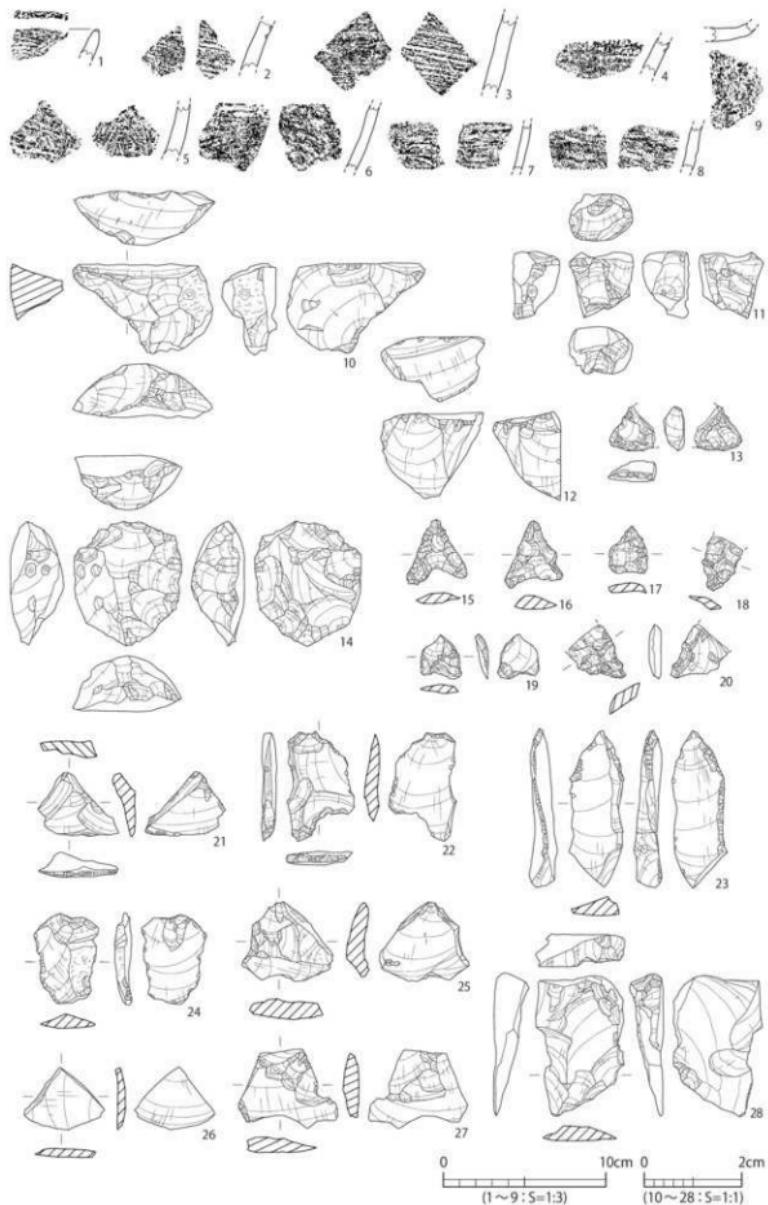
第26表 2区第3遺構面竪穴建物跡(SI)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m・m)				特徴	出土遺物
		長軸	短軸	深さ (床面まで)	床面積		
SI06	E-4	3.45	3.35	(0.15)	6.0	不整方形 床面に小土坑多数 床面周縁に小土坑位置 柱穴か	土器、石器

第95図10～12は石核で石材は黒曜石である。10・12は自然面を残す。同図13は小型であるが、加撃部が認められることから楔形石器とした。石材は黒曜石である。同図14はラウンドスクレイバーで、石材は黒曜石である。同図15～18は黒曜石製の小型の石鏃で、15・16がえぐりの浅い凹基式、17が平基式となる。16は側縁に突起をもつ。同図19・20は加工痕が認められるものの、加工が不十分なため石鏃未製品とした。ともに石材は黒曜石である。同図21～28は剥片で、石材は21～27が黒曜石、28が珪質凝灰岩である。21～24は剥片には微細な剥離が認められることから、使用痕のある剥片(UF)とした。25は二次加工が認められることから加工痕のある剥片(RF)とした。

## (2) 土坑

土坑(SK)は、2区第3遺構面で19基検出している(第27表)。すべて第3黒色土層下層上面で検出したが、遺構の深さは浅く、本来は第3黒色土層中から掘り込まれたと想定できる。遺物が出土するものは少ないものの、検出面上層となる第3黒色土層中から出土する縄文土器は縄文時代早期～前期前葉頃に限定されるため、土坑の時期も同様な時期と推測できる。以下、遺物が出土した土坑について記載する。掲載遺構の土層観察表として第38表を付し、その他の土坑については第27表で概要を示す。



第95図 SI06出土遺物



第96図 SK65実測図

**SK65 (第96図、図版28)**

SK65は調査区北東隅の平坦面で検出した土坑である(第96図)。平面形は楕円形であり、規模は長さ1.02m、幅0.68m、深さ0.1m程となる。土坑内からは石器が出土している。

**SK65出土遺物 (第98図、図版50)**

SK65からは使用痕のある剥片(UF)が出土した(第98図4)。石材は黒曜石である。

**(3) 小土坑**

小土坑(Pit)は、2区第3遺構面で82基検出している(第28表)。これらの小土坑には、竪穴建物(SI06)内で検出したものも含まれる。すべて第3黑色土層下層上面で検出した

が、遺構の深さは浅く、他の遺構同様に、本来は第3黑色土層中から掘り込まれたと想定できる。遺構内から遺物が出土するものは少ないものの、検出面上層となる第3黑色土層中から出土する縄文土器は縄文時代早期～前期前葉頃であるため、小土坑も同様な時期と推測できる。以下、遺物が出土した小土坑について記載する。掲載遺構の土層観察表として第38表を付し、その他の小土坑については、第28表で概要を示す。

**Pit477 (第97図、図版28)**

Pit477は調査区中央の平坦面で検出した小土坑である(第97図)。平面形は円形であり、規模は長さ0.35m、幅0.3m、深さ0.12m程となる。小土坑内からは石器が出土している。

**Pit477出土遺物 (第98図、図版50)**

Pit477からは使用痕のある剥片(UF)が出土した(第98図5)。石材は黒曜石である。

**Pit481 (第97図、図版29)**

Pit481は調査区中央の平坦面で検出した小土坑である(第97図)。平面形は楕円形であり、規模は長さ0.45m、幅0.35m、深さ0.12m程となる。小土坑内からは石器が出土している。

**Pit481出土遺物 (第98図、図版50)**

Pit481からはえぐりの浅い凹基式の石鏃が出土した(第98図2)。石材は黒曜石である。

**Pit531 (第97図、図版29)**

Pit531は調査区南東の平坦面で検出した小土坑である(第97図)。平面形は楕円形であり、規模は長さ0.3m、幅0.2m、深さ0.08m程となる。小土坑内からは石器が出土している。

**Pit531出土遺物 (第98図、図版50)**

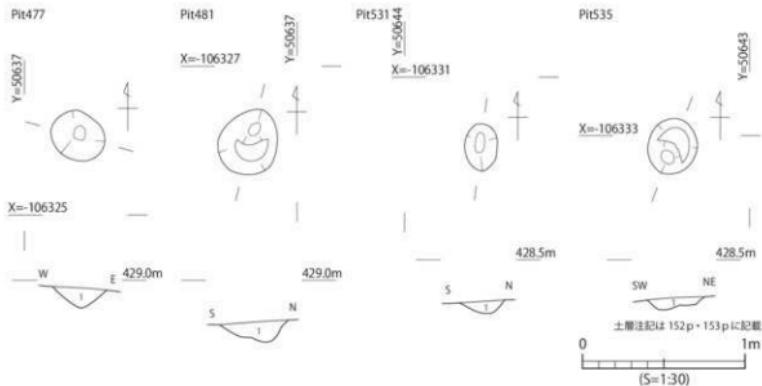
Pit531からは石鏃未製品が出土した(第98図3)。凹基式の左脚部として加工が認められるが、加工が不十分なため未製品とした。石材は安山岩である。

**Pit535 (第97図、図版29)**

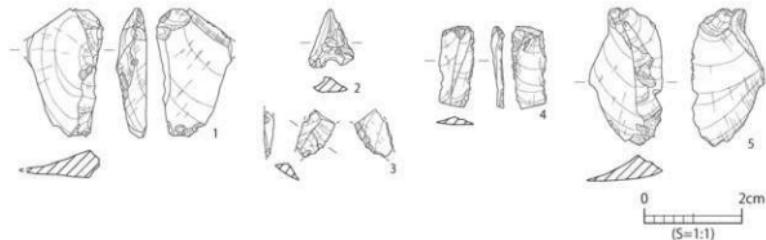
Pit535は調査区南東の平坦面で検出した小土坑である(第97図)。平面形は円形であり、規模は長さ0.35m、幅0.3m、深さ0.08m程となる。小土坑内からは石器が出土している。

**Pit535出土遺物 (第98図、図版50)**

Pit535からは楔形石器が出土した(第98図1)。石材は黒曜石である。



第97図 2区第3遺構面検出Pit実測図



第98図 2区第3遺構検出遺構出土遺物

第27表 2区第3遺構面土坑(SK)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
SK62	D-3	0.8	0.5			SK72	E-3	0.8	0.4	底面に小孔	
SK63	D-3	0.8	0.4			SK73	E-3	0.8	0.4	底面に小孔	
SK64	D-3	0.6	0.4			SK74	E-4	0.7	0.5	底面に小孔	
SK65	D-4	1.02	0.68	石器	SK75	E-4	0.5	0.5	底面に小孔		
SK66	D-4	1.3	0.9			SK76	E-5	0.8	0.75	SI06を切る	
SK67	D-4	0.7	0.7			SK77	E-5	0.5	0.3	SI06底面 碓	織文土器
SK68	D-4	0.7	0.5			SK78	E-4	0.5	0.5		
SK69	D-4	1.0	不明			SK79	E-4	0.9	0.76		
SK70	E-3	0.6	0.5	底面に小孔		SK80	E-4	0.6	0.4		
SK71	E-3	0.6	0.4								

第28表 2区第3遺構面小土坑(Pit)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit473	C-3	0.3	0.3			Pit476	D-3	0.3	0.3		
Pit474	C-3	0.45	0.3	底面に小孔		Pit477	D-3	0.35	0.3		石器
Pit475	C-3	0.4	0.4			Pit478	D-4	0.4	0.4		

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物	遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅					長	幅		
Pit479	D-3	0.4	0.3			Pit517	E-3	0.2	0.2		
Pit480	D-3	0.4	0.4			Pit518	E-3	0.3	0.3		
Pit481	D-3	0.45	0.35		石器	Pit519	E-3	0.4	0.3		
Pit482	D-3	0.3	0.3			Pit520	E-3	0.4	0.3		
Pit483	D-3	0.4	0.4			Pit521	E-3	0.4	0.2		
Pit484	D-3	0.3	0.3			Pit522	E-3	0.4	0.3		
Pit485	D-3	0.3	0.3			Pit523	E-3	0.45	0.4	底面に小孔	
Pit486	D-3	0.3	0.2			Pit524	E-3	0.4	0.4		
Pit487	D-3	0.45	0.4			Pit525	E-3	0.2	0.2		
Pit488	D-4	0.4	0.4			Pit526	E-3	0.45	0.45		
Pit489	D-4	0.3	0.3			Pit527	E-3	0.4	0.4		
Pit490	D-4	0.3	0.3			Pit528	E-3	0.2	0.2		
Pit491	D-4	0.4	0.3	底面に小孔		Pit529	E-3	0.45	0.45	底面に小孔	
Pit492	D-4	0.4	0.3			Pit530	E-3	0.45	0.4	底面に小孔	
Pit493	D-4	0.45	0.4			Pit531	E-4	0.3	0.2		石器
Pit494	D-4	0.3	0.3			Pit532	E-4	0.2	0.2		
Pit495	D-4	0.4	0.3			Pit533	E-4	0.45	0.4		
Pit496	D-4	0.45	0.45			Pit534	E-4	0.4	0.3		
Pit497	D-4	0.3	0.3			Pit535	E-4	0.35	0.3		石器
Pit498	D-4	0.4	0.3			Pit536	E-4	0.3	0.2		
Pit499	D-4	0.45	0.45			Pit537	E-4	0.3	0.3		
Pit500	D-4	0.4	0.2			Pit538	E-4	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit501	D-4	0.45	0.4			Pit539	E-4	0.4	0.4		
Pit502	D-4	0.4	0.2			Pit540	E-4	0.35	0.2	Si06 桂穴か	
Pit503	E-3	0.2	0.2			Pit541	E-4	0.35	0.2	Si06 桂穴か	
Pit504	E-2	0.2	0.2			Pit542	E-4	0.35	0.25	Si06 桂穴か	
Pit505	E-2	0.4	0.3			Pit543	E-4	0.25	0.2	Si06 桂穴か	
Pit506	E-3	0.2	0.2			Pit544	E-4	0.3	0.25	Si06 桂穴か	
Pit507	E-3	0.2	0.2			Pit545	E-4	0.3	0.2	Si06	
Pit508	E-3	0.2	0.2			Pit546	E-4	0.25	0.2		
Pit509	E-3	0.4	0.3			Pit547	E-4	0.3	0.2		
Pit510	E-3	0.3	0.3			Pit548	E-4	0.2	0.15		
Pit511	E-3	0.3	0.2			Pit549	E-4	0.4	0.3	底面に小孔	
Pit512	E-3	0.3	0.2	底面に小孔		Pit550	E-4	0.3	0.3		
Pit513	E-3	0.3	0.15			Pit551	E-4	0.2	0.2	底面に小孔	
Pit514	E-3	0.2	0.2			Pit552	E-4	0.3	0.3		
Pit515	E-3	0.3	0.3			Pit553	E-4	0.3	0.3		
Pit516	E-3	0.3	0.3			Pit554	E-4	0.4	0.3		

第29表 2区第3遺構面性格不明遺構(SX)一覧

遺構番号	検出グリッド	規模(m)		特徴	出土遺物
		長	幅		
SX12	D-2	0.8	0.4	底面に小孔	
SX13	D-4	1.0	1.0	底面に小孔	

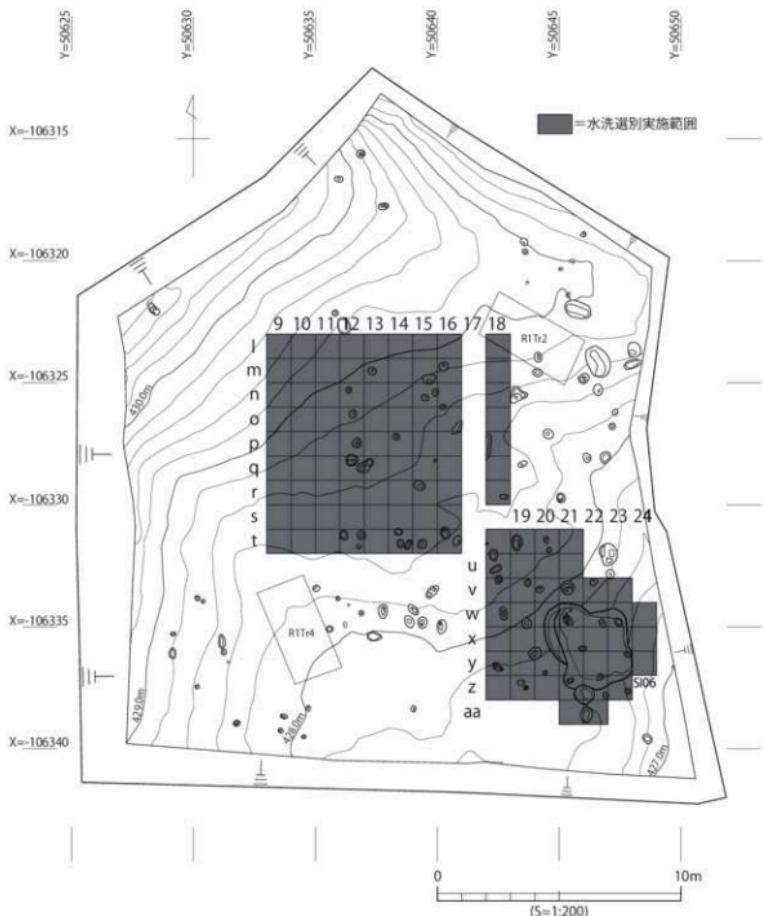
## (4) その他の遺構

## 性格不明遺構

性格不明遺構(SX)は、2区第3遺構面で2基検出している(第29表)。土坑および小土坑などと比較し、不整形の遺構となるもので、かく乱や風倒木などの痕跡の可能性が残る。遺物が出土していないため、時期は不明であるが、上層の第3黒色土層出土遺物より縄文時代早期～前期前葉と推測できる。概要については、第29表で示す。

## (5) 石器集中地点

2区第3黒色土層の掘削中に、楔形石器や石鎌などのほか、微細な剥片（チップ）が出土することが判明した。そのため、掘削土砂を水洗選別し、土砂に含まれる石器類の回収を行うこととした<sup>(10)</sup>。水洗選別を行うに際し、調査区全体に国土座標を基準に1m四方のグリッドを設定し、北から南にアルファベット（小文字）、西から東に算用数字を振り、グリッド名とした。ただし、実際に水洗選別を実施した範囲は、微細な剥片が多数出土する範囲に限定して実施した（第99図）。水洗選別の結果、黒曜石、安山岩、流紋岩などを石材とする石器が出土するとともに、多量の剥片が出土した（第30・31表）。以下、黒曜石と安山岩について、石材別に石器およびチップの出土状況を記載する。



第99図 水洗選別範囲とグリッド設定

出土した剥片の内、長径が1.0cm以下のものを微細な剥片として整理し、出土点数および重量をもとに分布図（第100・102図）を作成した。分布図の作成においては、点数・重量とともに平均および標準偏差を利用し、未出土、平均以下、平均+標準偏差、平均+標準偏差以上の4つに区分した。

石器は出土状況を重量分布図上で示した（第101・103図）。石核、楔形石器、石鏃、スクレイパーといった製品のほか、石鏃未製品やRF、UFが出土している。なお、図示可能な石器については、第3黒色土層出土遺物で概要について説明する。また、各石器の出土地点については、遺物観察表（第43表）に記載している。

#### 黒曜石（第100・101図、第30・31表）

黒曜石は、水洗選別を行った範囲内で、約19,850点出土しており、重量としては約300gとなる（第30表）。1点あたりの重量が0.015gとなる。出土点数の分布図（第100図左）では、調査区中央のo-11・12、p-11～13、q-12を中心に集中しており、w-19～21、x-19～21、y-19・21、z-21にも出土が集中する状況が確認できる。これらは、調査区中央付近で確認した平坦面およびSI06が位置している地点であり、平坦面および建物といった特定の地点に微細な剥片が集中している状況を把握できる。また、出土重量の分布図（第100図右）でも、出土点数と同様の地点で集中する状況が確認でき、特にSI06付近では、遺構内部となるx-21に分布の中心が認められる。黒曜石製の石器は、点数および重量分布の中心付近から多く出土しており（第101図、第31表）、チップと同様な地点で出土する傾向がある。

以上を踏まえると、黒曜石製の石器と石器製作時などに発生する剥片の出土状況には差が認められず、平坦面や建物といった特定の地点に集中している状況といえる。石器集中地点での石器製作あるいは、石器および制作時に発生した剥片を集積あるいは投棄している様相が想定できる。

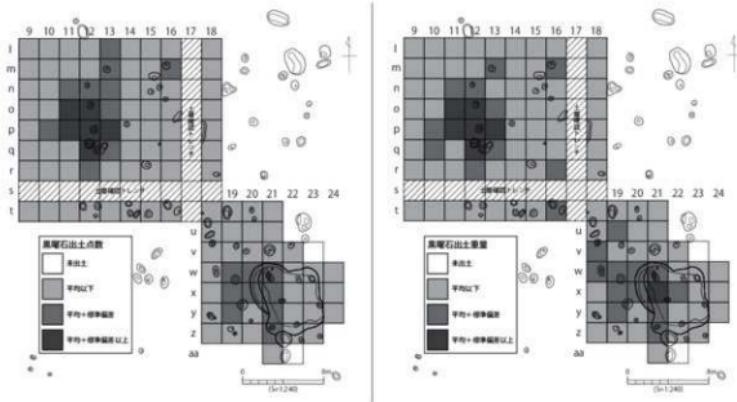
#### 安山岩（第102・103図、第30・31表）

安山岩は、水洗選別を行った範囲内で、約3,300点出土しており、重量としては約75gとなる（第30表）。1点あたりの重量が0.022gとなる。黒曜石と比較し、安山岩の出土量は少なく、黒曜石の16%程度となっている。出土点数の分布図（第102図左）では、n-12、o-12・13、p-11～16、q-12～16を中心に集中しており、w-19～21、x-20にも出土が集中する状況が確認できる。黒曜石同様に、調査区中央付近で確認した平坦面およびSI06といった特定の地点に集中することが想定できるが、平坦面では黒曜石ほど集中して出土していない状況が確認でき、SI06付近についても集中範囲が狭くなっている。出土重量の分布図（第102図右）についても、出土点数と同様の地点で集中するものの、SI06付近では黒曜石と比較して目立つ状況とは言えない。ただし、平坦面を中心として、安山岩についても集中して出土していることは明瞭であり、特定の地点に微細な剥片が集中している状況を把握できる。安山岩製の石器の出土地点も、剥片出土点数および重量分布と相関するように、平坦面付近では安山岩製の石器が出土するが、SI06付近ではほとんど出土していない状況が認められる（第103図、第31表）。

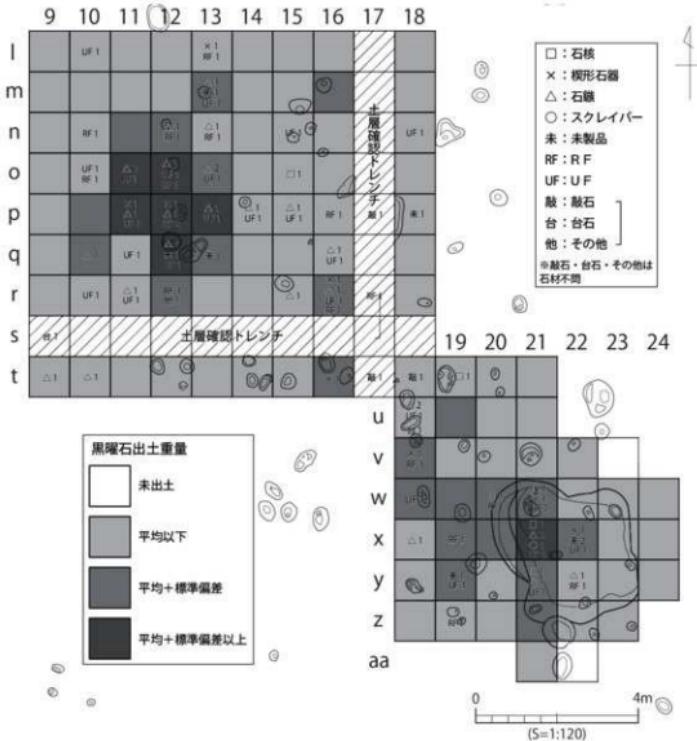
以上を踏まえると、安山岩についても、石器と石器製作時に発生する剥片が区分されることなく、特定の地点に集中している状況が認められる。そのため、黒曜石同様に、石器集中地点での石器製作あるいは、石器および制作時に発生した剥片を集積あるいは投棄している様相が想定できる。

#### （5）第3黒色土層出土遺物

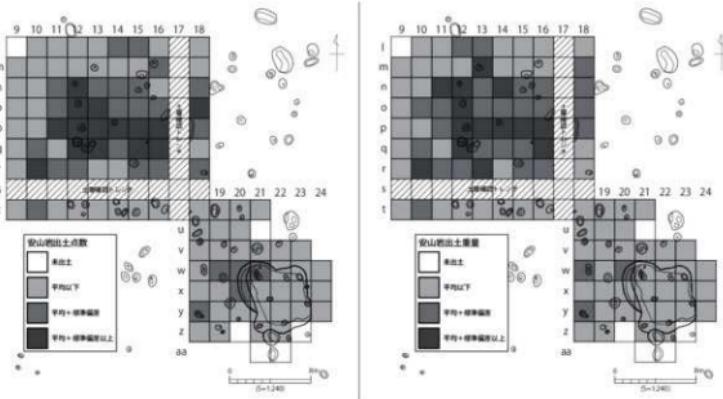
第3黒色土層からは、繩文土器、石器が出土している（第104～110図、図版51～58）。



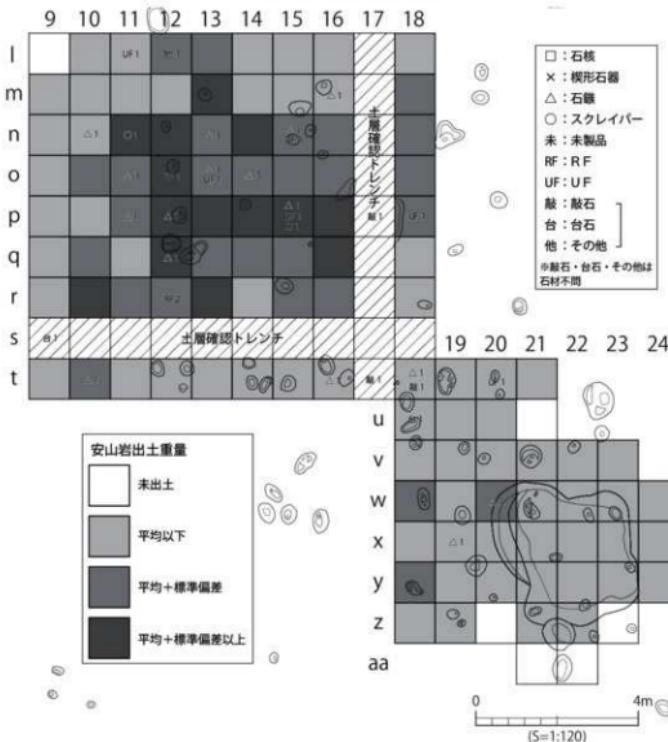
第100図 黒曜石出土分布



第101図 黒曜石製石器出土地点



第102図 安山岩出土分布



第103図 安山岩製石器出土地点

第30表 水洗グリッド内出土石器・剥片集計表

水洗 グリッド	黒曜石	石器点数 (個)		剥片点数 (個)		水洗 グリッド	黒曜石	石器点数 (個)		剥片点数 (個)		石器点数 (個)	剥片点数 (個)	
		石器重量 (g)	剥片重量 (g)	石器点数 (個)	剥片重量 (g)			石器重量 (g)	剥片重量 (g)	石器点数 (個)	剥片重量 (g)		石器重量 (g)	剥片重量 (g)
i9		4		0		o17		71		71				
		0.025		0										
i10	1	12		2		o18		1.944		1.377				
	3.592	0.160		0.061				34		1				
i11	5	1	4	p9				0.219		0.047				
	0.095	1.538	0.111					263		19				
i12	158		16	p10				3.805		0.352				
	1.429		0.989											
i13	2	202	14	p11				3	1197	1	82			
	1.505	2.583	0.788					2.199	18.664	0.413	0.819			
i14	94	33	p12					6	1712	1	118			
	1.218	0.503	4.574					2	20.688	0.335	2.003			
i15	47	30	p13					609						
	1.014	0.409	0.987					7.645						
i16	22	17	p14					2	99	69				
	0.432	0.241	0.715					1.335		1.743				
i17	20	7	p15					2	99	3	80			
	0.479	0.196	0.977					1.573	7.251	1.495				
m9	5	5	p16					3	120	125				
	0.011	0.056	0.879					1.941		1.947				
m10	53	8	p17											
	0.496	0.369	1					125		1	36			
m11	55	14	p18					0.623	1.895	0.187	1.352			
	1.293	0.189	0.745					6			17			
m12	154	14	p19					1	123		34			
	1.228	0.097	0.362					1.52			17			
m13	3	322	p10					1	2.359		0.329			
	3.086	2.999	0.724					2.571						
m14	67	14	p11					3	596	1	74			
	1.059	0.376	1.37					9.497	0.026		1.640			
m15	55	19	p12					3	295		0.896			
	0.589	0.183	0.286					3.507						
m16	217	1	p13					0.633			1.279			
	2.728	0.27	0.734					92			0.704			
m17	32	17	p14					2	96		115			
	0.477	1.123	2.602					1.523			2.616			
n9	4	5	p15											
	0.013	0.168												
n10	1	48	q18					82			16			
	0.195	0.341	0.248					1.009			0.407			
n11	261	1	r9					24			26			
	3.071	8.254	0.368					0.366			0.396			
n12	2	293	q10					1	33		96			
	0.519	4.602	1.634					0.144	0.906		2.196			
n13	2	177	q11					2	123		50			
	0.394	2.567	0.32					0.32	1.081		0.669			
n14	86	42	q12					1	191	2	40			
	1.506	2.187	0.551					3.559	1.306		1.276			
n15	1	65	q13					72			27			
	0.731	0.950	0.858					52			1.501			
n16	81	38	q14					3.75			20			
	2.410	0.693	1					94			35			
n17	1	42	q15					0.13	1.091		0.776			
	0.368	0.501	36					4	105		52			
o9	20	4	q16					4.897	5.776		0.896			
	0.231	0.097	0.492											
o10	2	154	q17					51			38			
	2.314	2.240	1.108					0.583			0.454			
	5	2740	1											
	1.278	29.128	0.238											
	3	1773	1											
o12	1.707	28.886	0.579											
	3	370	2											
o13	0.989	6.742	5.220											
	1	97	1											
o14	1.280	1.365	0.407											
	1	65	55											
o15	3.02	1.365	1.182											
	63	37	0.583											
o16		0.963	1.156											

水洗 グリッド	黒曜石	石器点数 (個)		剥片点数 (個)		安山岩	石器占率 (%)		剥片点数 (個)		水洗 グリッド	黒曜石	石器点数 (個)		剥片点数 (個)		安山岩	石器点数 (個)		剥片点数 (個)		
		石器重量 (g)	剥片重量 (g)	石器重量 (g)	剥片重量 (g)		石器重量 (g)	剥片重量 (g)	石器重量 (g)	剥片重量 (g)			石器重量 (g)	剥片重量 (g)	石器重量 (g)	剥片重量 (g)		石器重量 (g)	剥片重量 (g)	石器重量 (g)	剥片重量 (g)	
s15											w19								428		31	
s16											w20								4,772		0.486	
s17											w21								2,544	520	1	30
s18											w22								3	400	0.521	0.674
																		3,347	6,641		0.642	
																		133			13	
t9		1	26					15										2,415		0.191		
		0.381	0.187					0.245				w23						115			14	
t10		1	126					1	36									2,257			0.296	
		0.155	1.136					0.360	0.767			w24						6			1	
t11			73					26										1	64		19	
			0.918					0.580				x18						0.092	0.638		0.487	
t12			47					21				x19						1	252		1	28
			0.523					0.212									0.5	3,893	0.304	0.429		
t13			17					20				x20						447			29	
			0.194					0.282										6,795		0.619		
t14		7						6				x21						6	404		20	
		0.076						0.428										10,538	8,759		0.545	
t15		19						13				x22						4	163		11	
		0.271						0.067										2,16	3,499		0.171	
t16		1	38					1	16			x23						118			8	
		5,287	3,206					0.044	0.286									2,302		0.173		
t17											x24							6			4	
																		0.056		0.024		
t18			44					1	16			y18						92			31	
			1,865					0.302	0.349									1,471		0.941		
t19		1	22					13				y19						2	283		23	
		2,936	0.219					0.223										1,722	3,162		0.254	
t20			5					1	18			y20							2,105		0.273	
		0.051						0.145	0.32									147			11	
t21			0.193					0.102				y21						3	211		24	
		3	96					10				y22						2	37		8	
t18		0.971	1,665					0.161										0.327	1,092		0.123	
u19			90					5				y23							0.832		0.124	
u20			13					7				y24						4			3	
u21			0.120					0.045										0.020		0.022		
u21			9					0				z18						6	60		12	
		0.079						0										1,698		0.144		
v18		2	116					9				z19						67			15	
		2,113	2,634					0.074										1,557		0.297		
v19			170					25				z20						13			0	
v20			1,786					0.352										0.179		0		
v21			70					16				z21						171			18	
		0.620						0.561										3,449		0.316		
v21			42					13				z22						14			11	
		0.352						0.374										0.783		0.131		
v22			3					4				z23						2			0	
		0.010						0.092										0.008		0		
v23			0					3				aa21						5			0	
		0						0.122										0.018		0		
w18		1	161					19				aa22						0	0		0	
		1,258	3,994					1,034									96	19,846		27	3,308	
																	81,463	299,538		29,008	75,699	
												合計										

斜線部はトレーンにより全量不明

第31表 水洗グリッド内出土石器一覧

水洗 グリッド	石器組成表																			
	石核	楔形石器	石器	スクリーバー	未製品	UF	RF	その他	石斧	台石	敲石	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他
I 9																				
I 10																		1		
I 11																		1		
I 12																			1	
I 13		1																		
I 14																				
I 15																				
I 16																				
I 17																				
I 18																				
m9																				
m10																				
m11																				

水洗 グリッド	石器組成表											
	石核	廻形石器	石核	スクレイバー	未製品	UF	RF	その他	石核	台石	敲石	
	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他
m12												
m13				1			1		1			
m14												
m15												
m16				1								
m17												
m18												
n9												
n10				1						1		
n11						1						
n12				1						2		
n13				1	1					2		
n14												
n15				1					1		1	
n16												
n17												
n18										1		
o9												
o10										1	1	
o11			2	1							3	
o12			1						1	1	1	
o13			2	1				1	1			
o14				1								
o15	1											
o16												
o17												
o18												
p9												
p10												
p11	1		1	1					1			
p12	1		3	1						2		
p13			1						1			
p14			1						1			
p15			1	1				1	1		1	
p16										1		
p17												1
p18							1		1			
q9												
q10		1	1									
q11									1			
q12			1	1			1		1			
q13							1					
q14												
q15												
q16			1						1			
q17												
q18												
r9												
r10						1			1			
r11		1	1						1			
r12										1	2	1
r13												
r14												
r15			1									
r16	1		1					1		1		
r17										1		
r18												1
s9												
s10												
s11												
s12												
s13												
s14												
s15												
s16												
s17												
s18												
t9				1								
t10				1	1	1						
t11												
t12												
t13												
t14												
t15												
t16			1			1						
t17												1
t18							1					1
t19	1											
t20									1			
t21												

水洗 グリッド	石器組成表																UF		BF		その他			
	石核			柳形石器			石器			スクレイパー			未製品			UF		BF		その他				
	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他	黒	安	他
u 18							2																	1
u 19																								
u 20																								
u 21																								
v 18				1															1					
v 19																								
v 20																								
v 21																								
v 22																								
v 23																								
w 18																	1							
w 19																								
w 20	1																		1					
w 21	1			1														1						
w 22																								
w 23																								
w 24																								
x 18							1																	
x 19							1												1					
x 20																								
x 21	1							2			1			1			1							
x 22				1										2			1							
x 23																								
x 24																								
y 18															1			1						
y 19																								
y 20																								
y 21	1							1									1		1					
y 22								1											1					
y 23																								
y 24																								
z 18																								
z 19																								
z 20																								
z 21																								
z 22																								
z 23																								
aa 21																								
aa 22																								

## 縄文土器（第104・105図、図版51～54）

縄文時代早期（第104図1～3）と前期（第104図4～第105図33）が出土している。

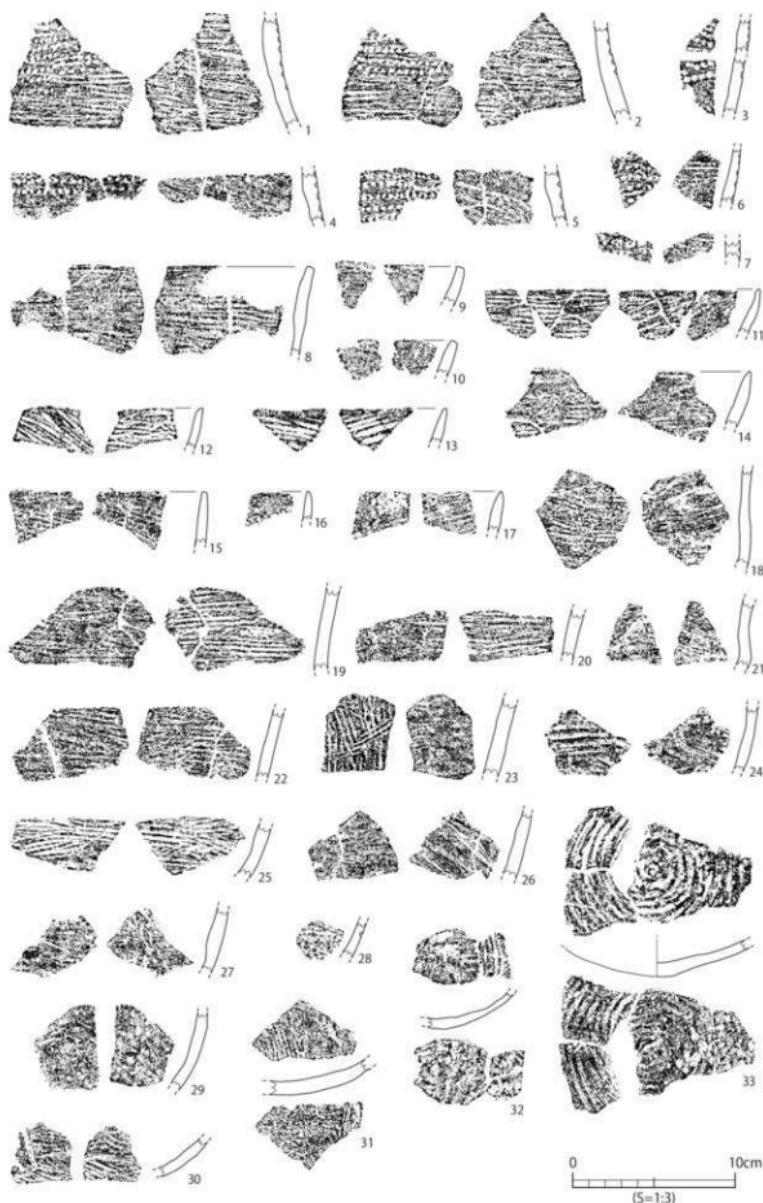
早期の土器はすべて深鉢胴部片で、1・2は同一個体の可能性が高く、外面に二枚貝条痕調整、内面に二枚貝条痕調整の後にナデ調整が施される。2では縄文（LR？）が施されるが摩滅で明瞭ではない。3は内外面とも二枚貝条痕調整が確認できる。これらの土器の様相から、福呂1式または長山馬籠式に比定できる。

前期の土器は、第104図4～29が西川津B式である。長頸の器形（第104図4・5・16）と洗面器様の浅い器形（同図6～15・17～29）が認められる。4・5・16では口縁が肥厚して段をなし、刻目が施されている。洗面器様の器形をもつものには細隆帯文が認められ、6・8・11・12・20～23には垂下細隆帯文が確認できる。細隆帯文上には刻目が施されるもの（同図10・12～15・18～22）も認められる。24～26は屈曲部に刻目が施される。調整は内外面に二枚貝条痕が施されており、条痕調整後にナデが施されるもの（同図4～12・16～20・22・23・26・28・29）も確認できる。

第104図30～第105図7は竹ノ谷遺跡（足立1981）出土類似の土器である。これらの土器は型式学的には西川津B式に後続し、羽島下層II式に先行するものである。棒状工具による円形刺突文を口縁部および胴部に連続的に施している。口縁部の器形は内湾（第104図31・32・34）および外反（同図30・33）し、胴部片（第105図1～7）の様相から屈曲器形を呈する。内外面の調整は二枚貝条痕調整を基本とし、条痕調整後にナデを施すもの（第104図30～32・第105図3・5～7）も認



第104図 2区第3黒色土層出土遺物（1）



第105図 2区第3黑色土層出土遺物（2）

められる。

第105図8～33は型式不明の土器片である。ただし、西川津式や竹ノ花遺跡類似土器同様に縄文時代前期前葉頃の時期と想定できる資料である。

第105図8～17は深鉢の口縁部である。8～10は口唇部が面をなすが、11～17は口縁端部が丸みを帯びる。11～13は屈曲器形で口縁部が内湾しており、羽島下層II式の可能性がある。調整は内外面とも二枚貝条痕調整を基本とし、8～11・16・17は条痕調整後にナデが施される。

同図18～29は深鉢あるいは鉢の胴部片である。21は屈曲器形であり、羽島下層II式の可能性がある。25は底部付近まで遺存しており、丸底となる。長山馬籠式あるいは西川津式の可能性がある。胴部片の調整は、内外面ともに二枚貝条痕を基本とし、19～21・23・24・26～29では条痕調整後にナデが施される。

同図30～33は底部片である。底部は丸底で、内外面ともに二枚貝条痕調整が施される。30～32には条痕調整の後、ナデが施される。

#### 石器（第106～110図、図版55～58）

石器は石核（第106図1～3）、楔形石器（同図4～12）、石鎌（同図13～第107図40）、石鎌未製品（第107図41～46）、スクレイパー（同図47・48）、剥片（第108図1～第109図16）、刺突具（第109図17）、石匙（同図18）、敲石（第110図1～6）、台石（同図7・8）、その他（同図9）が出土している。時期については、第3黒色土層中から出土する縄文土器は、早期～前期前葉に限定されることから、石器についても同様の時期に属するものと考えられる。

第106図1～3は石核で、石材はすべて黒曜石である。1は自然面が残る。

同図4～12は楔形石器である。石材は、黒曜石（4～10）、流紋岩（11）、凝灰岩（12）である。10は乳白色を呈しており、姫島産黒曜石と推定される。3の先端部は敲打痕跡があり、側縁部には使用痕および摩滅痕が確認できる。11は薄く、裏面に節理面を残す。

同図13～第107図40は石鎌である。平基式の石鎌（第106図13・14）、凹基式の石鎌（第106図15～第107図40）が確認できる。凹基式の石鎌にはえぐりの浅いもの（第106図15～第107図32）とえぐりが比較的深くなるもの（第107図33～35）が確認できる。また、側縁が突起などで凹凸となるもの（第106図15～21）も認められる。石材は、黒曜石（第106図13～19・第107図1～18・33・36～38）、安山岩（第106図20・第107図19～29・34・35・39・40）、流紋岩（第106図21・第107図30～32）である。石鎌は大半が長さ2cm以下であり、1cm以下の超小型のものも含まれる。

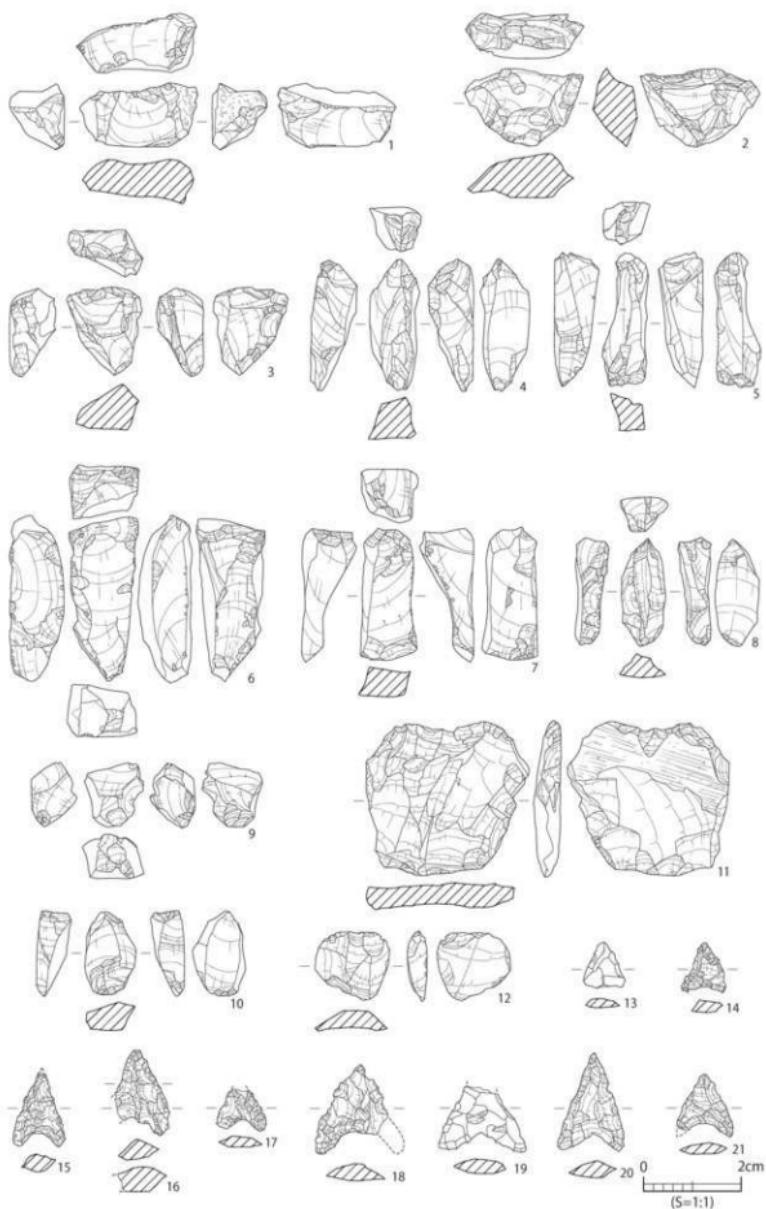
第107図41～46は加工痕が認められるものの、加工が不十分ため石鎌未製品とした。すべて石材は黒曜石である。

同図47・48はスクレイパーである。47は黒曜石製で裏面および基部に自然面を残す。48は安山岩製で基部加工が認められ、裏面の主要剥離面は風化している。

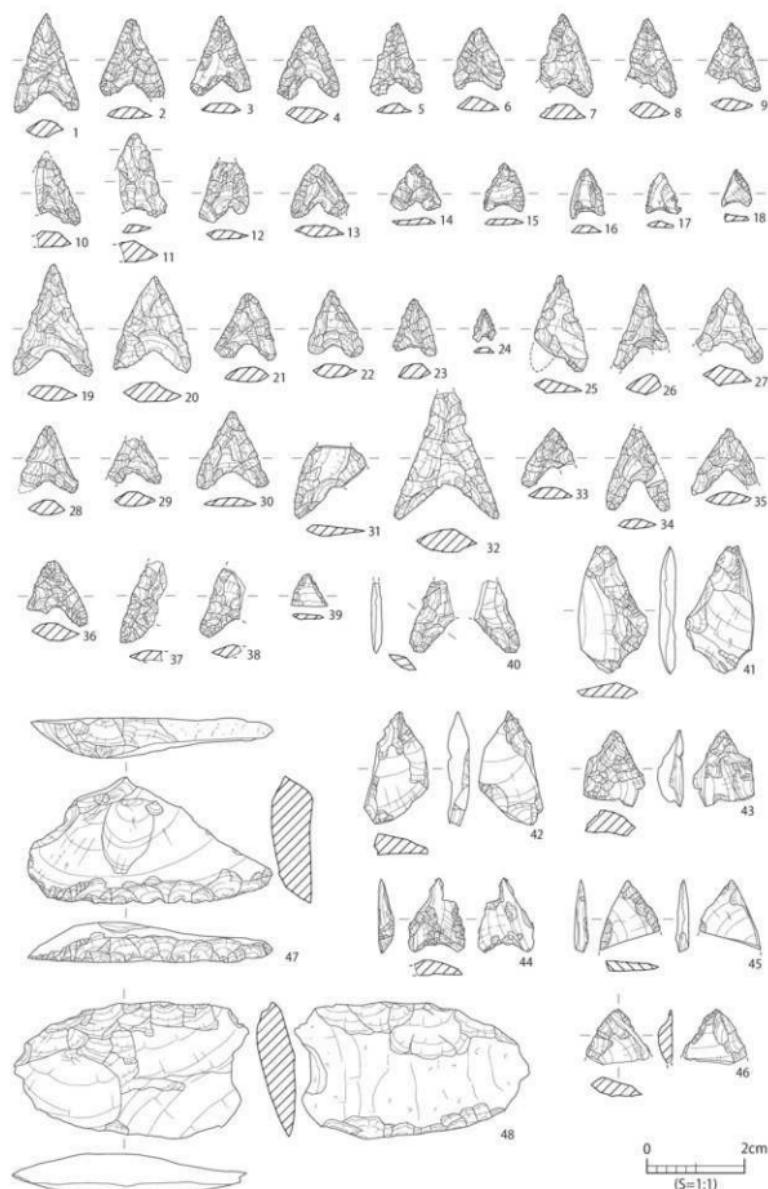
第108図1～第109図16は剥片である。剥片には二次加工が認められるもの（RF）（第108図1～10）、使用痕のあるもの（UF）（第108図11～第109図4）を含む。石材は黒曜石（第108図1～5・11～21・第109図5～9）、安山岩（第108図6～10・第109図1～4・10～16）である。

第109図17は刺突具とした。尖頭器状の形状であり、先端はドリル状となる。石材は安山岩である。

同図18は石匙のつまみ部分とした。石材は黒曜石である。



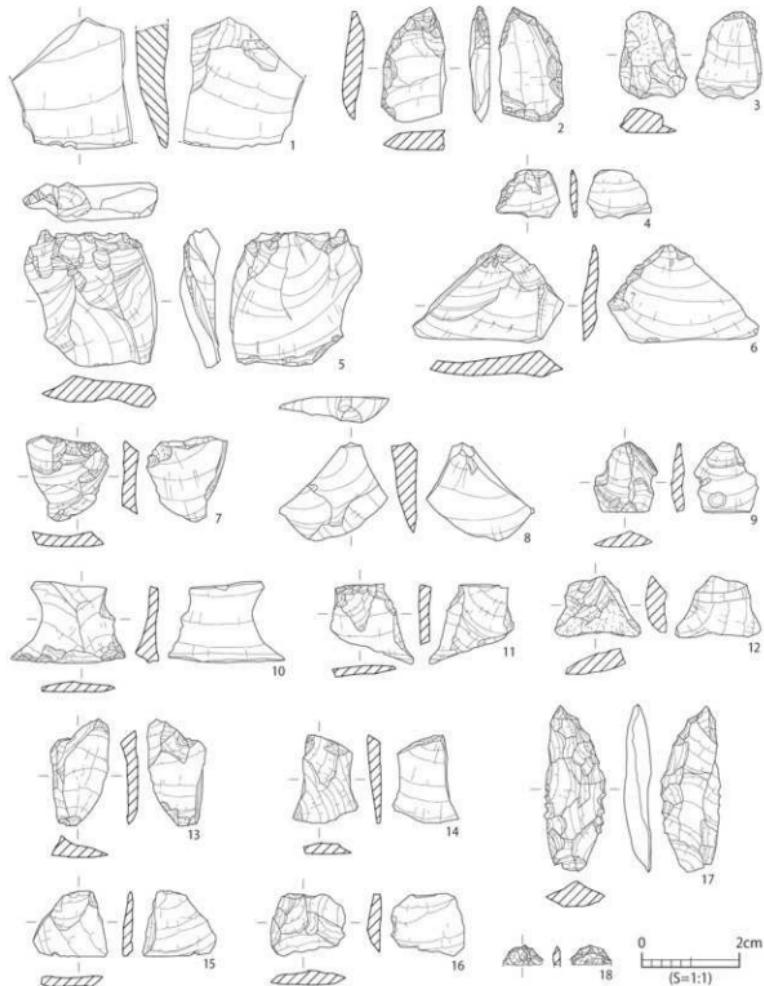
第106図 2区第3黒色土層出土遺物（3）



第107図 2区第3黑色土層出土遺物(4)



第108図 2区第3黑色土層出土遺物（5）



第109図 2区第3黑色土層出土遺物(6)

第110図1～6は敲石である。1・3・5・6には表裏面に磨面が確認でき、1には表面にも敲打痕がある。石材はすべて花崗岩である。

同図7・8は台石とした。石材は花崗岩製で磨面などは確認できない。

同図9は閃緑岩質の貫入岩で、表面は風化しているが表裏面に黒色物質の付着物が観察できるため図化した。黒色物質については、赤外線カメラ観察および蛍光エックス線分析の結果、スズや炭化物などに由来する黒色物質の付着あるいは吸着の可能性が示された。



第110図 2区第3黒色土層出土遺物（7）

## 第5節 小結

上ノ谷遺跡は、平成30年度の試掘調査において開発予定地内で遺物が出土し、縄文時代から古墳時代にかけての集落遺跡あるいは遺物散布地の存在が想定されたため、調査を実施した。

調査の結果、三瓶山由来の火山灰層（ハイカ層）の前後に堆積する黒色土層（第1～3黒色土層）で遺物を確認するとともに、これらの黒色土層に対応する遺構面を3面（第1～3遺構面）確認した。なお、2区では第2遺構面に相当する遺構面は確認できなかった。以下、各遺構面および遺構面上層に堆積する包含層出土遺物について整理し、小結としたい。

## 1. 1区第1遺構面

1区第1遺構面では、竪穴建物4棟(SI01～03・05)や土坑(SK)、小土坑(Pit)、自然流路(NR01)を検出した。上層に堆積する第1黒色土層からは、縄文時代後期の土器も含むが、古墳時代後半期の遺物が多く出土している。

竪穴建物は出土遺物から古墳時代中期後半～後期初頭のSI05と古墳時代後期後半のSI01～03に区分できる。これらの竪穴建物の柱穴や煙道内部、遺構埋土から土器が出土している。SI01～03では、出土状況から建物の解体や付随施設の利用停止に伴う儀礼の所作として理解が可能である。SI05では、床面と土器の集積に間層が存在している。このような出土状況を廐屋儀礼の所作と理解する場合、建物解体後に廐材を建物内部に投棄し、その上部に土器を配置している状況が推測できる。一方で、出土状況を時間的隔たりとして理解することも可能であり、この場合、建物廐絶後に形成されたくぼみに土器を捨てている状況が想定できる。SI05の土器出土状況が示す様相については判断できなかったが、廐屋儀礼の所作である場合、SI01・02では、柱穴、煙道内部に土器を配置しており、出土状況が異なる。古墳時代後半期において、時期により廐屋儀礼の様相が異なる可能性もある。

SK41では遺存状況が乏しかったものの、遺構内部より遺物が多数出土している。出土状況から、意図的に土器が配置されたと考えられるがその性格については不明である。周辺地域での検出例の増加などを踏まえて検討を行う必要がある。なお、後述する2区でも同様な遺構(SK20)が出土している。このほかの土坑や小土坑については、縄文時代後期から古墳時代後期後半までの遺物を含んでいたが、遺物が出土する遺構はわずかであり、時期の判明しているものは少ない。ただし、第1黒色土層中から出土する遺物は縄文時代後期の土器も含むが、古墳時代後半期の遺物が多く、1区第1遺構面検出の遺構も基本的には古墳時代後半期に属するものと考えられる。

## 2. 1区第2遺構面

1区第2遺構面では遺構は乏しく、土坑や小土坑を検出したのみである。遺物が出土する土坑や小土坑は少なく、Pit441で縄文時代前期後葉の月崎下層式が出土した程度である。また、包含層である第2黒色土層中からの遺物出土は希薄で、月崎下層式および縄文時代後期の土器が出土したのみである。なお、縄文後期の土器については、第2黒色土層上層に堆積する第1ハイカ層の降灰時期から、後期前葉に属する。

第2遺構面および第2黒色土層中から出土した月崎下層式は、上ノ谷遺跡ではじめて第2黒色土層中から出土した。これまで、後続する里木I式とともに、三瓶山周辺の調査では第3黒色土層中から出土する土器型式として理解（島根県1998ほか）されており、第2黒色土層から出土する土器型式は里木I式に後続する大歳山式以降とされてきた。ただし、下山遺跡出土の月崎下層式は、放射性炭素年代測定によって三瓶角井降下火山灰の降灰時期の年代が示されており（島根県2014）、上ノ谷遺跡での第2黒色土層中からの出土により、第2ハイカ降灰後も山陰地方で使用された土器型式であることが判明した。出土事例の増加を待つ必要があるが、月崎下層式の存続幅が広くなる可能性もある<sup>(11)</sup>。

### 3. 1区第3遺構面

1区第3遺構面では、第2遺構面同様に、遺構は乏しく、土坑、小土坑を検出したのみである。遺構からの遺物出土もSK83から黒曜石製の石鎌が出土したのみである。ただし、遺構面上層に堆積する第3黒色土層では、上ノ谷遺跡で第2・3黒色土層の調査契機となった安山岩製の石斧が出土するほか、縄文時代前期の土器が出土している。土器型式は基本的には西川津式と想定でき、後述する2区第3黒色土層では西川津B式が出土していることから、1区第3黒色土層出土の縄文土器も西川津B式と同時期の土器と推定できる。このため、第3遺構面検出遺構の時期も縄文時代前期前葉の位置付けが可能である。

### 4. 2区第1遺構面

2区第1遺構面では、竪穴建物1棟(SI04)、掘立柱建物1棟(SB01)、土坑、小土坑を検出した。遺構面上層に堆積する第1黒色土層中からは、古墳時代後半期の遺物が多く出土した。

SI04は出土遺物がないものの、形態的特徴から縄文時代の竪穴建物の可能性を想定したが、1区第1黒色土層中から出土する縄文土器は細片のみであり、遺構周辺からも出土していない。ただし、1区で検出したNRO1は2区との境に位置する自然流路であり、流路内からは縄文時代後期の土器が出土している。また、1区では縄文時代後期の土器が出土している。このことから、2区検出遺構にも縄文時代後期の遺構が含まれる可能性は高い。

SB01は遺存状況が悪く、遺物も出土していないため時期は不明である。ただし、周辺では古墳時代中期後半頃の遺構(SK20)が検出されるほか、第1黒色土層出土遺物も古墳時代後半期の遺物が大半を占めることから、掘立柱建物跡も古墳時代後半期の遺構である可能性が高い。

SK20では遺構内部より遺物が多数出土している。1区検出のSK41同様に、意図的に土器が配置されたと考えられるがその性格については不明である。周辺地域での類例を待ちたい。このほかの土坑や小土坑については、先述したように、第1黒色土層出土遺物も古墳時代後半期の遺物が大半を占めることから、基本的には古墳時代後半期の時期に属するものと考えられる。ただし、Pit182からは弥生後期前葉の土器が出土しており、縄文時代や弥生時代の遺構も一定量存在している。

### 5. 2区第3遺構面

2区第3遺構面では、竪穴建物1棟(SI06)、土坑、小土坑を検出すほか、石器集中地点を確認した。第3遺構面上層に堆積する第3黒色土層中からは、縄文時代早期の福呂I式または長山馬籠式がわずかに出土するほか、西川津B式および竹ノ花遺跡類似土器、羽島下層II式が出土する。このうち、西川津B式が大半を占めている。

SI06遺構内部からは土器・石器が出土し、柱穴と考えられる土坑および小土坑も検出した。また、遺構埋土は2区第3遺構面で検出した他の遺構とは異なっており、貼床が施されていた可能性もある。出土する土器は西川津式および竹ノ花遺跡類似土器であり、縄文時代前期前葉に位置付け可能なものに限定されている。このことから、SI06の時期も同様の時期が考えられる。

土坑および小土坑のうち、遺物が出土する遺構はわずかであり、出土する遺物も石器であることから時期把握は困難であった。ただし、先述したように上層に堆積する第3黒色土層出土遺物は大半が縄文時代前期前葉の時期を示すものであり、時期把握が可能なSI06は前期前葉に属する。この

ため、土坑および小土坑の時期も基本的には縄文時代前期前葉であると推測できる。

2区第3遺構面では石器および微細な剥片が多量に出土した。これらの石器は調査区中央付近の平坦面およびSI06周辺に集中していた。出土する石器には石鏃の未製品と考えられるものや、二次加工が認められる剥片を含んでおり、微細な剥片が多量に出土することをふまると、上ノ谷遺跡で石器製作が行われていたことが想定できる。ただし、集中地点では石器と微細な剥片が分離することなく出土しており、集積あるいは投棄の状況を示す可能性もある。少なくとも、多量の微細な剥片が出土し、分布が集中することから、上ノ谷遺跡で縄文時代前期前葉に石器製作が行われていたことがいえる。

## 註

- (1) 2区では、1区検出の第2黒色土層に相当する黒色砂質土が複数層検出されている。これらの黒色砂質土は地山由來の流入土など、複数の流入土を挟んで堆積しており、遺物を包含していない。このことをふまえ、本報告では自然堆積とした。ただし、第1ハイカ層と第2ハイカ層の間に堆積する黒色土層であり、堆積年代は1区検出の第2黒色土層と同時期である。
- (2) 2区で確認した遺構面は2面であり、厳密には上層から第1遺構面、第2遺構面となる。しかし、上ノ谷遺跡ではハイカ層が検出されており、放射性炭素年代測定により堆積年代が判明している。そのため、1区と2区の対応する遺構面が把握可能である。以上のことから、2区で検出した遺構面は、1区検出遺構面との整合から第1遺構面と第3遺構面とした。
- (3) 1区検出の堅穴建物は、SI05を除き、柱穴が深く掘られ、第2ハイカ層まで達していた。第2ハイカ層は非常に硬くしまった土層であり、第2ハイカ層を柱設置の際の基盤として利用したことが推測できる。
- (4) SI05の柱穴は、SI01・02の柱穴と比較して浅く、両者で明瞭な差が生じている。この差が、時期差であることが考えられるが、SI01・02の主柱は固くしまるハイカ層を基盤とするが、SI05はこのハイカ層より深く掘り込まれた遺構であるため、ハイカ層を柱の基盤として利用しておらず、両者の差について判断できなかった。周辺での調査事例の増加を待ちたい。
- (5) SK41周辺から出土した遺物は、本来SK41に伴っていたと判断できるもの以外は包含層（第1黒色土層）出土遺物として報告した。
- (6) 1区調査区中央西側の平坦面付近では多くの遺物が出土している。本書では包含層出土遺物として報告したが、前述した自然流路の範囲を考慮すると、本来は自然流路に伴う遺物であった可能性がある。
- (7) 島根県江津市森原神田川遺跡下ノ原地区の発掘調査報告書（島根県2021）では、ミニチュア土器の製作に際し、モデルとなった器種が數種類あり、それが器形に反映されていることが指摘されている。上ノ谷遺跡出土ミニチュア土器も複数の形態が認められることから、制作にあたり、モデルとなった器種があったものと想定できる。
- (8) 残存デンプン粒分析は、株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。分析結果については第7章第3節を参照。
- (9) SI06から出土した石器は、後述する石器集中地点に設定したグリッド（第99図）を利用して石器を取り上げた際、SI06の範囲内から出土したものを探査している。石器の取り上げは、グリッド内部の掘削土を水洗し、掘削土内の遺物を回収しているため、遺構出土と包含層由來の石器を区分することができなかった。ただし、本文に記述したように、SI06内部において出土石器類の集中が認められることから、出土状況に石器製作に伴う投棄あるいは集積といった意図が表現されていると考えられる。
- (10) 第3黒色土層から出土する石器の大半が黒曜石製であり、黒色土から石器を目視で確認することが困難であった。そのため、土砂を水洗選別し、遺物を回収することとした。
- (11) 月崎下層式は、刺突文および押引文を特徴とし、条痕調整の著しい縄文時代前期後葉の土器型式（竹広1994）で、山陰や西部瀬戸内に分布する。中部瀬戸内に分布する彦崎Z1式との類似性が指摘されており（宮本1993）、里木貝塚では里木I式の下層から彦崎Z1式が出土することから、月崎下層式も里木I式に先行する土器型式とされている。しかし、月崎下層式は条痕調整、里木I式は縄文施文と、両者は異系統の土器型式であり、これらが層位的に完全に分離した事例はない。そのため、両型式の土器が時系列的に単純な前後関係をもつとはいい難い。ま

た、下山遺跡の放射性炭素年代測定の結果を踏まえると、月崎下層式は里木1式～大歳山式期まで存続した可能性が高く、從来の土器編年観よりも幅をもつ土器型式であると考えられる。

### 参考文献

- 足立克己1981「出雲の前期縄文土器—竹ノ花遺跡出土の土器を中心として—」『えとのす』第16号、新日本教育図書  
稲田陽介2005「山陰における縄文時代前期の石器製作技術構造」『島根考古学会誌』第22集、島根考古学会  
上峯篤史2018「縄文石器—その視覚と方法」京都大学学術出版会  
角田徳幸2004「三瓶火山の噴出物と縄文時代遺跡」『島根考古学会誌』第20・21集合併号、島根考古学会  
角田徳幸2009「火山噴火と遺跡群①—島根県三瓶火山の噴出物によって埋没した遺跡群—」『大地と森の中で 縄文時代の古生態系』縄文時代の考古学3、同成社  
倉敷考古館1971「里木貝塚」倉敷考古館研究集報第7号  
小林谦一・角田徳幸2006「三瓶火山の噴出物と縄文時代のAMS炭素14年代測定」『島根考古学会誌』第23集、島根考古学会  
島根県教育委員会1998「板屋Ⅲ遺跡」  
島根県教育委員会2002a「下山遺跡（2）」  
島根県教育委員会2002b「かんどの流れ—総集編—～志津見ダム地内の遺跡～」  
島根県教育委員会2003「板屋Ⅲ遺跡（2）」  
島根県教育委員会2021「森原神田川遺跡下ノ原地区」  
島根県古代文化センター2014「山陰地方の縄文社会」古代文化センター研究論集第13集  
竹広文明1994「月崎下層式土器」『日本土器辞典』雄山閣出版  
橋中光輔2014「自然災害と地域社会の定着性—三瓶山の噴火からみた縄文社会—」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集、島根県古代文化センター  
宮本一夫1993「瀬戸内の縄文時代前期の地域様相—江口貝塚の事例を中心に—」『斎瀬・燧瀬の考古学』  
大西町教育委員会  
柳浦俊一2017「山陰地方における縄文文化の研究」雄山閣

第32表 1区土層觀察表(堆積土層)

番号	性格	土色	備考
1	第1 黒色土 (通常含む)	黒色砂質土	(7.5W1/J1) 粘性なし、しまりや弱。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。
2	第1 ハイカ (三島太平山脚下山崎)	黒色砂質土	(7.5W2/J1) 粘性なし。しまりや弱。0.3~0.5mmおよび2.0~3.0mmの石英・金雲母等含む。地点によって火成岩(にじいろ)黄色(2.5Y6/4)がブロックで構成する。 ただし、基本的には上の段階(第1-ハイカ)と譲り、黒色砂質土を呈する。
3	第1 黒色土 (通常含む)	黒色砂質土	(10W1/J1) 粘性なし、しまりや強。2.0~3.0mmの石英・長石・金雲母等含む。第1 黒色土(1巻に比べ、粒子がやや粗い。 2.0mmの灰白色ブロック(第2ハイカ: 10W1/R8/J1)含む)。
4	第1 ハイカ (三島井角下山崎)	灰黄褐色砂質土	(10W4/J1) 基本的に火成岩(津田色 2.5Y7/4)に似た黄色(2.5Y6/4)をブロック状に含むが、地点によって風化の影響を受けた灰白色土を呈する。
5	第1 黒色土 (通常含む)	黒色砂質土	(10W5/J1) 粘性あり、しまりや強。0.3~0.5mmの石英・金雲母等含む。3層と同様に2.0mm程の灰白色ブロック含む。
6	自然堆積	黒色砂質土	(7.5W2/J1) 粘性なし、しまりや強。0.3~0.5mmの石英・長石・金雲母等含む。粒子の細かく、1.0mm程の灰白色ブロック多く含む。
7	自然堆積	黒色砂質土	(7.5W3/J1) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。10~50mmの灰白色ブロック少量含む。
8	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・長石・金雲母等含む。(10W4/J4) ブロック含む。
9	自然堆積	黒色砂質土	(7.5W3/J1) 粘性なし、しまりや強。0.4mm程の石英・金雲母等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック含む。
10	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W2/J2) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの金雲母等含む。2.0mmの灰白色ブロックを多く含む。5.0mm程の小礫含む。
11	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W3/J1) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.8mmの石英・金雲母等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック含む。
12	自然堆積	暗褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.2~1.0mmの石英・金雲母等含む。2.0mmの灰白色ブロック含む。明眞褐色砂土(10W6/J3)をまだ多く含む。
13	自然堆積	黒色砂質土	(7.5W2/J1) 粘性なし、しまりや弱。0.1~0.3mmの金雲母等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック含む。
14	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W2/J2) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・長石等含む。2.0~3.0mmの小礫を含む。1.0mm程の灰白色ブロック多く含む。
15	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W2/J2) 粘性なし、しまりや強。0.5~2.0mmの石英・金雲母等多量に含む。2.0mm程の灰白色ブロック含む。
16	自然堆積	黒褐色砂質土	(5YR2/J1) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・長石等含む。4.0~40mmのクサレ疊含む。
17	自然堆積	黒色砂質土	(10W2/J1) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.3mmの金雲母等含む。1.0~2.0mmの小礫を含む。1.0mm程の灰白色ブロック少量化し、粒粗化。
18	自然堆積	黒色砂質土	(10W2/J1) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・長石等多く含む。1.0~10mmの灰白色ブロック多く含む。
19	自然堆積	黒褐色砂質土	(5YR2/J1) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等多く含む。10mm~100mmのクサレ疊を含む。
20	自然堆積	暗褐色砂質土	(5YR2/J2) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等多く含む。5mm分含む。
21	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W2/J2) 粘性なし、しまりや強。0.2mmの石英・金雲母等含む。1.0~3.0mmの小礫多く含む。
22	自然堆積	明眞褐色砂質土	(10W6/J6) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの粘物質(泥・金雲母等)を含む。2.0~5.0mmの灰白色ブロックを含む。20~40mmのクサレ疊を含み、部分的に集中して堆積する。
23	自然堆積	黒褐色砂質土	(7.5W3/J1) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.4mmの石英・金雲母等多く含む。
24	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W3/J2) 粘性なし、しまりや強。0.2~2.0mmの石英・金雲母等含む。他の自然堆積とは異なり、地山由來の風化土の堆積層(入江土)。
25	自然堆積	にじいろ黃褐色砂質土	(10W4/J3) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英等含む。赤褐色砂質土および褐色砂質土が混入する。
26	自然堆積	黒色砂質土	(10W2/J1) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.4mmの石英・金雲母等含む。0.5~2.0mmの灰白色ブロック含む。
27	自然堆積	暗褐色砂質土	(2.5Y5/4) 粘性なし、しまりや強。0.2mm程の石英・長石等多く含む。他の自然堆積層とは異なり、地山由來の堆積層。
28	自然堆積	浅褐色砂質土	(2.5Y7/4) 粘性なし、しまりや強。1.0~2.0mmの石英・長石等含む。他の自然堆積層とは異なり、地山由來の風化土の堆積層(入江土)。
29	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W3/J1) 粘性なし、しまりや強。0.2mm程の石英・長石等含む。1.0mm程の灰白色ブロックわずかに含む。
30	自然堆積	暗褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。20~30mmのクサレ疊少量含む。
31	自然堆積	明眞褐色砂質土	(7.5W5/B) 粘性ややあり、しまりや強。0.1~0.5mmの石英等含む。地山由來の風化土の堆積層。
32	自然堆積	黒色砂質土	(7.5W1/J1) 粘性なし、しまりや強。0.1~0.4mmの石英・金雲母等多く含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック少量化し。
33	自然堆積	にじいろ黃褐色土	(10W4/J3) 粘性なし、しまりや強。0.5mm程の石英・金雲母等多く含む。固く重なり、クサレ疊少量化。
34	自然堆積	にじいろ黃褐色砂質土	(10W4/J3) 粘性なし、しまりや強。1.0mm程の石英・金雲母等含む。2.0mm程度の小礫多く含む。10mm程のクサレ疊少量化。
35	自然堆積	暗褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.4mmの石英・金雲母等含む。5.0~10mmのクサレ疊少量含む。
36	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金雲母等含む。10~40mmのクサレ疊含む。
37	自然堆積	にじいろ黃褐色砂質土	(10W4/J3) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金雲母等含む。50mm程のクサレ疊少量含む。
38	自然堆積	黒褐色砂質土	(7.5W3/J2) 粘性なし、しまりや強。0.5mm、1.0~2.0mmの石英・長石・金雲母等多く含む。50mm程度のクサレ疊多く含む。
39	自然堆積	暗褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金雲母等多く含む。
40	自然堆積	暗褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。20~30mmのクサレ疊少量含む。
41	にじいろ黃褐色砂質土	にじいろ黃褐色砂質土	(10W4/J3) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・長石・金雲母等含む。5.0~10mmのクサレ疊少量化。
42	自然堆積	褐色砂質土	(7.5W4/J4) 粘性なし、しまりや強。0.5mm程の石英・金雲母等含む。10mm程のクサレ疊少量化。
43	自然堆積	黒褐色砂質土	(7.5W2/J2) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.3mmの石英・金雲母等含む。5.0mm程のクサレ疊含む。
44	自然堆積	暗褐色砂質土	(10W3/J4) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.3mmの石英・金雲母等含む。
45	自然堆積	黒色砂質土	(7.5W1/J1) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの金雲母等含む。1.0~3.0mmの小礫含む。2.0mm程の灰白色ブロック多く含む。
46	自然堆積	暗褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性あり、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金雲母等含む。10mm程のクサレ疊少量化含む。1.0mmの灰白色ブロック多く含む。
47	自然堆積	褐色砂質土	(10W4/B) 粘性なし、しまりや強。1.0mm程の石英・金雲母等含む。
48	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W3/J3) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金雲母等含む。2.0mm程の小礫含む。1.0mm程の灰白色ブロック少量化。
49	自然堆積	明眞褐色砂質土	(7.5W5/B) 粘性なし、しまりや強。0.5mm程の金雲母等多く含む。5.0~10mmの灰白色ブロック含む。
50	火山噴出物(浮石)	灰褐色砂質土	(7.5W4/J2) 粘性なし、しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金雲母等含む。
51	火山噴出物(浮石)	明眞褐色砂質土	(10W7/B) 粘性なし、しまりや強。1.0mm程の石英等含む。
52	火山噴出物(浮石)	明眞褐色砂質土	(10W7/B) 粘性あり、しまりや強。1.0mm程の石英等含む。5.0~10mmのクサレ疊多く含む。
53	火山噴出物(浮石)	橙色砂質土	(7.5W6/B) 粘性あり、しまりや強。0.5~1.0mmの石英等含む。灰白色ブロック含む。
54	火山噴出物(浮石)	にじいろ黃褐色砂質土	(7.5W6/B) 粘性あり、しまりや強。0.5~1.0mmの石英等多く含む。灰白色ブロック含む。
55	火山噴出物(浮石)	にじいろ黃褐色砂質土	(7.5W6/B) 粘性なし、しまりや強。0.5mm程の石英等多く含む。クサレ疊含む。
56	火山噴出物(浮石)	明眞褐色砂質土	(7.5W5/B) 粘性なし、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・長石・金雲母等多く含む。クサレ疊含む。
57	火山噴出物(浮石)	にじいろ黃褐色砂質土	(7.5W5/B) 粘性あり、しまりや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等多く含む。10~20mmのクサレ疊含む。

番号	性状	土色	備考
59	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(7.5W95/6) 粘性あり。しまりやや弱。0.2~1.0mmの石英等多量に含む。10~40mmのクサレ繰多量に含む。
60	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(7.5W95/6) 粘性なし。しまり強。1.0~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。
61	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(1.0W96/6) 粘性あり。しまり強。1.0mmの石英等多く含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック含む。
62	火山噴出物(浮石)	褐色砂質土	(7.5W96/6) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。2.0mm程の灰白色ブロック含む。
63	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(7.5W95/6) 粘性なし。しまり強。0.5~2.0mmの石英・金雲母等含む。3.0mm以上の小礫含む。1.0~2.0mm灰白色ブロック含む。
64	火山噴出物(浮石)	黒色砂質土	(1.0W92/1) 粘性なし。しまり強。2.0mm程の石英等多く含む。50mmのクサレ繰多量。鉄分多く含む。
65	火山噴出物(浮石)	褐色砂質土	(7.5W96/6) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。2.0mm程の灰白色ブロック含む。
66	火山噴出物(浮石)	にじみ黄褐色砂質土	(1.0W97/4) 粘性あり。しまり強。0.5~1.0mmの石英等多く含む。
67	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(1.0W97/6) 粘性あり。しまり強。1.0~2.0mmの石英等多量に含む。鉄分多く含む。浮石軽石層下以前の層。
68	火山噴出物(浮石)	浅褐色砂質土	(2.5W7/3) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~3.0mmの石英・金雲母等多く含む。
69	河川堆積	黑色砂質土	(1.0W91/7) 粘性あり。しまりやや強。1.0~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。粒子の荒い層。30~50mmの円錐多く含む。
70	河川堆積	黑色砂質土	(1.0W91/7) 粘性あり。しまりやや強。1.0~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。粒子の荒い層。30~50mmの円錐多く含む。川砂含む。
71	自然堆積	黑色砂質土	(1.0W92/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~1.0mmの石英等多く含む。
72	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W92/1) 粘性なし。しまり強。1.0~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。暗赤褐色。(5W92/2) ブロック含む。
73	自然堆積	黑色砂質土	(1.0W92/1) 粘性なし。しまりやや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等非常に多く含む。5.0~10mmの灰白色ブロック多く含む。土質類似する。
74	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W92/1) 粘性なし。しまり強。0.2~3.0mmの金雲母等多く含む。固くしまり。2.0mm程の灰白色ブロック多く含む。
75	自然堆積	明褐色砂質土	(1.0W92/2) 粘性なし。しまり強。0.3mm程の金雲母等含む。固くしまり。2.0mm程の灰白色ブロック多く含む。
76	自然堆積	にじみ黄褐色砂質土	(1.0W93/3) 粘性なし。しまり強。0.5~2.0mmの金雲母等多量に含む。3.0mm以上の小礫含む。固くしまる。
77	自然堆積	黑色砂質土	(1.0W93/2) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。2.0~5.0mmの灰白色ブロック多く含む。
78	自然堆積	黑褐色砂質土	(1.0W93/2) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英・金雲母等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロックおよびクサレ繰含む。
79	自然堆積	明褐色砂質土	(1.0W92/3) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロックおよび1.0~3.0mmのクサレ繰含む。
80	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W92/1) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の石英等含む。固くしまり。2.0mm程の灰白色ブロックおよびクサレ繰多く含む。
81	自然堆積	暗褐色砂質土	(1.0W93/3) 粘性なし。しまり強。1.0mm程の石英等含む。10mm程の灰白色ブロック含む。20~40mmのクサレ繰含む。
82	自然堆積	黑色砂質土	(1.0W92/1) 粘性あり。さりやや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等多く含む。10~20mmの小礫含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
83	自然堆積	黑色砂質土	(1.0W93/2) 粘性なし。しまり強。0.2mm程の石英・金雲母等多く含む。2.0mm程のクサレ繰多く含む。
84	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W7/7) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.5mm程の石英・金雲母等多く含む。30~50mmのクサレ繰少含む。
85	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W7/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.3mmの石英・金雲母等多く含む。30~50mmのクサレ繰少含む。
86	自然堆積	黑褐色砂質土	(7.5W7/3) 粘性なし。しまりやや強。0.2~0.5mm程の石英・金雲母等含む。暗赤褐色。(3W7/2) ブロック含む。
87	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W7/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.5mmの石英・金雲母等含む。
88	火山噴出物(浮石)	明褐色シルト質土	(1.0W7/6) 粘性あり。しまりやや強。0.5mm程の石英等含む。1.0mm程のクサレ繰含む。
89	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(1.0W7/6) 粘性あり。しまりやや強。0.5mm程の石英等含む。クサレ繰層。
90	火山噴出物(浮石)	灰褐色シルト質土	(2.5W7/2) 粘性なし。しまり弱。0.5mm程の金雲母等多量に含む。10mm程のクサレ繰多く含む。
91	火山噴出物(浮石)	淡黄色砂質土	(2.5W8/4) 粘性あり。しまり弱。1.0mm以上に金雲母等多く含む。10mm程の石英等多く含む。20mm程のクサレ繰含む。
92	火山噴出物(浮石)	淡黄色砂質土	(2.5W8/4) 粘性あり。しまりやや弱。1.0mm以上に金雲母等多く含む。10mm程の石英等多く含む。明褐色。
93	火山噴出物(浮石)	褐色砂質土	(2.5W8/8) 粘性なし。しまり強。1.0mm程の石英等多く含む。
94	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(1.0W7/6) 粘性あり。しまりやや弱。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。40mm程のクサレ繰多く含む。
95	地山	にじみ黄褐色砂質土	(1.0W7/6) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~2.0mmの小礫含む。真砂土。
96	自然堆積	黑褐色砂質土	(1.0W92/2) 粘性なし。しまり弱。0.2~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。5.0~10mmの灰白色ブロックおよびクサレ繰含む。
97	自然堆積	黑色砂質土	(1.0W92/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~2.0mmの金雲母等多く含む。50mmの灰白色ブロック含む。
98	自然堆積	黑色砂質土	(1.0W93/2) 粘性なし。しまり強。0.2~1.0mmの石英・金雲母等多く含む。
99	自然堆積	灰褐色砂質土	(1.0W95/2) 粘性なし。しまり強。0.2~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
100	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W92/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金雲母等多く含む。5.0~10mmの灰白色ブロックおよび50mm程のクサレ繰含む。
101	自然堆積	黑褐色砂質土	(7.5W93/1) 粘性あり。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金雲母等含む。0.5~2.0mm程の灰白色ブロックおよびクサレ繰少含む。
102	自然堆積	黑色砂質土	(3W7/1) 粘性なし。しまり強。0.2~0.4mmの石英・金雲母等含む。10mm程の灰白色ブロック少含む。
103	自然堆積	黑色砂質土	(2.5W7/2) 粘性なし。しまりやや強。0.2~1.0mmの石英等含む。0.5~1.0mmの灰白色ブロック含む。
104	自然堆積	黑褐色砂質土	(7.5W7/1) 粘性あり。しまりやや弱。0.2~2.0mmの石英・金雲母等多く含む。5.0~10mmの灰白色ブロック含む。
105	自然堆積	黑褐色砂質土	(1.0W7/2) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英等含む。4.0mm程の灰白色ブロックおよび50mm程のクサレ繰含む。
106	自然堆積	黑色砂質土	(2.5W7/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.4mmの石英・金雲母等含む。0.5~1.0mmの灰白色ブロックおよび20~50mmのクサレ繰含む。
107	自然堆積	黑褐色砂質土	(2.5W7/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.3mmの石英・金雲母等含む。5.0mm程のクサレ繰含む。
108	自然堆積	黑褐色砂質土	(3W7/1) 粘性なし。しまりやや強。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。
109	自然堆積	黑褐色砂質土	(2.5W7/1) 粘性なし。しまりやや強。0.2~0.4mmの石英等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック少含む。
110	自然堆積	褐色砂質土	(1.0W7/6) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。川砂主としてした層。
111	自然堆積	黑色砂質土	(2.5W7/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.4mmの金雲母等含む。10mm程のクサレ繰少含む。
112	自然堆積	暗褐色砂質土	(1.0W7/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.4mmの石英・金雲母等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック含む。
113	自然堆積	暗褐色砂質土	(1.0W7/3) 粘性なし。しまりやや弱。0.4mm程の石英等含む。2.0~3.0mmの砂利多く含む。
114	自然堆積	黑色砂質土	(7.5W7/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.5mm~1.0mmの石英・金雲母等含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロックを含む。
115	自然堆積	暗褐色砂質土	(1.0W7/3) 粘性なし。しまりやや弱。0.4mm程の石英・金雲母等多く含む。
116	自然堆積	にじみ黄褐色砂質土	(3W7/4) 粘性なし。しまりやや弱。0.5mm程の石英・金雲母等多く含む。
117	自然堆積	黑色砂質土	(2.5W7/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.3mm程の石英等含む。0.5~1.0mmの灰白色ブロック含む。
118	自然堆積	褐色砂質土	(2.5W7/3) 粘性なし。しまりやや弱。0.3~1.0mmの金雲母等含む。1.0~5.0mmの砂利多く含む。
119	自然堆積	黑褐色砂質土	(2.5W7/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.4mmの石英・金雲母等含む。1.0~2.0mmの砂利多く含む。
120	自然堆積	暗褐色砂質土	(1.0W7/3) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.5mmの金雲母等含む。2.0~3.0mmの砂利多く含む。
121	自然堆積	黑褐色砂質土	(1.0W7/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.2~0.4mmの金雲母等含む。20mm程の粒石含む。

層番号	性格	土色	備考
122	火山噴出物（浮布）	暗褐色砂質土	(10YR3/3) 粘性なし。しまりや弱。0.2~2.0mmの石英・金青母等多く含む。0.5mm程の灰白色ブロックおよび20mm程のクサレ様含む。砂壁疊ぎの層。
123	火山噴出物（浮布）	にぶい黃褐色砂質土	(10YR5/4) 粘性なし。しまりや強。0.2~3.0mmの石英・金青母等多量に含む。30mm程のクサレ様含む。
124	火山噴出物（浮布）	灰黃褐色砂質土	(10YR4/2) 粘性なし。しまりや強。0.3~1.0mmの石英等多く含む。3.0mm程の灰白色ブロック含む。
125	火山噴出物（浮布）	灰黃褐色シルト質土	(10YR5/2) 粘性なし。しまり強。0.2~1.0mmの金青母等多く含む。
126	火山噴出物（浮布）	にぶい黃褐色砂質土	(10YR4/3) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mm程石英・金青母等多く含む。30mm程のクサレ様多く含む。
127	火山噴出物（浮布）	灰黃褐色シルト質土	(2.5YR5/2) 粘性強。しまりや強。0.2~0.4mmの金青母等含む。
128	地山	にぶい黃褐色砂質土	(7.5YR5/3) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの石英等多く含む。
129	地山	にぶい黃褐色砂質土	(10YR5/1) 粘性なし。しまり強。1.0mm程の石英・長石等多く含む。

第33表 1区第1遭構面検出遭構土層観察表

層番号	性格	土色	備考
901			
1	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(7.5YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・金青母等含む。
2	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(7.5YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・金青母等含む。1層とはしまりの差で分層。
3	S01 床土	黑褐色砂質土	(3YR2/1) 粘性なし。しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金青母等含む。2.0mm程の灰白色ブロック含む。
4	第1ハイカ (三鈴太平山隕下火山灰)	黑色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまりや強。0.3~0.5mmの石英・金青母等含む。2.0mm程の灰白色ブロック含む。 ただし、基本的には上下の層（第1・第2・第3）と並び、黑色土層を呈する。
5	第2黒色土 (道吉古崩)	黑色砂質土	(10YR1.7/1) 粘性なし。しまりや強。0.2~0.5mmの石英・金青母等含む。1層に比べ、粒子がやや粗い。
6	第2ハイカ (三鈴井隕下火山灰)	灰黃褐色砂質土	(10YR4/2) 粘性なし。しまり強。2.0~3.0mmの石英・金青母等含む。3層と同様に2.0mm程の灰白色ブロック含む。 基本的に火山灰（透水色（2.5Y7/4）にぶい黃色（2.5Y6/4））をブロック状に含むが、地点によって上層の影響を受けて黒色系土層となる。
902			
1	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(7.5YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~0.5mmの石英・金青母等含む。
2	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(7.5YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~0.5mmの石英・金青母等含む。0.5mm程の灰白色ブロック含む。
3	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(7.5YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~0.5mmの石英・金青母等含む。1.0~5.0mmの灰白色ブロック含む。
4	S01 床土	黑褐色砂質土	(5YR2/1) 粘性なし。しまりや強。0.5~1.0mm程度の石英・金青母等多く含む。1.0~5.0mmの灰白色ブロックおよびクサレ様含む。
5	第1ハイカ (三鈴太平山隕下火山灰)	黑色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまりや強。0.3~0.5mmおよび2.0~3.0mmの石英・金青母等含む。地點によって火山灰（にぶい黃色（2.5Y4/4））がブロックにて堆積する。 ただし、基本的には上下の層（第1・第2・第3）と並び、黑色土層を呈する。
6	第2黒色土 (道吉古崩)	黑色砂質土	(10YR1.7/1) 粘性なし。しまりや強。0.2~0.5mmの石英・長石・金青母等含む。第1黒色土（1層）に比べ、粒子がやや粗い。 2.0mm程の灰白色ブロック（第2ハイカ（10Y R8/1））含む。
7	第2ハイカ (三鈴井隕下火山灰)	灰黃褐色砂質土	(10YR4/2) 基本的に火山灰（透水色（2.5Y7/4）にぶい黃色（2.5Y6/4））をブロック状に含むが、地點によって上層の影響を受けて黒色系土層となる。
8	第2黒色土 (道吉古崩)	にぶい黃褐色砂質土	(10YR5/3) 粘性あり。しまり弱。0.3~0.5mmの石英・金青母等含む。2.0~10mmの砾石多く含む。1・3層と比較して粒子が粗く、クサレ様少量含む。
9	透水土	黑色砂質土	(7.5YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~0.5mmの石英・長石・金青母等含む。粒子細かい。1.0mm程の灰白色ブロック含む。 黑褐色砂質土（5YR2/1）（植物の根跡や草茎等が見出される）ブロックを含む。
10	自然堆積	黑褐色砂質土	(10YR2/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~0.5mmの石英・長石・金青母等含む。2.0mm程の灰白色ブロック多く含む。5.0mm程の小礫含む。
11	自然堆積	暗褐色砂質土	(10YR3/3) 粘性なし。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金青母等含む。2.0mmの灰白色ブロック含む。明黄褐色砂質土（10YR6/2）（植物の根跡や草茎等が見出される）も含む。
12	自然堆積	黑色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまりや弱。0.3mm程の金青母等多く含む。1.0~2.0mmの灰白色ブロック含む。
13	埋没土	暗赤褐色砂質土	(3YR3/2) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの石英・長石・金青母等多く含む。2.0mm程の明赤褐色ブロック含む。鐵土。
14	埋没土	黑褐色砂質土	(5YR2/1) 粘性なし。しまりや弱。0.2~0.5mmの石英・長石・金青母等含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。0.5mm程の灰白色ブロック含む。
903			
1	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(7.5YR1.7/1) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・金青母等含む。
2	S03 床土	黑色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまり弱。0.5~1.0mmの石英・長石・金青母等多く含む。1.0~3.0mmの灰白色ブロック含む。
3	第1ハイカ (三鈴太平山隕下火山灰)	黑色砂質土	(7.5YR3/1) 粘性なし。しまり強。0.3~0.5mmおよび2.0~3.0mmの石英・金青母等含む。地點によって火山灰（にぶい黃色（2.5Y4/4））がブロックにて堆積する。 ただし、基本的には上下の層（第1・第2・第3）と並び、黑色土層を呈する。
4	第2黒色土 (道吉古崩)	黑色砂質土	(10YR1.7/1) 粘性なし。しまりや強。2.0~3.0mmの石英・長石・金青母等含む。第1黒色土（1層）に比べ、粒子がやや粗い。 2.0mm程の灰白色ブロック（第2ハイカ（10Y R8/1））含む。
5	第2ハイカ (三鈴井隕下火山灰)	灰黃褐色砂質土	(10YR4/2) 基本的に火山灰（透水色（2.5Y7/4）にぶい黃色（2.5Y6/4））をブロック状に含むが、地點によって上層の影響を受けて黒色系土層となる。
905			
1	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(10YR2/1) 粘性なし。しまりや弱。0.2mm程の石英等含む。0.5mm程の灰白色ブロック含む。
2	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(7.5YR2/1) 粘性なし。しまりや強。0.3mm程の石英・金青母等含む。5.0~10mmの灰白色ブロック含む。
3	透水土 (第1黑色土層由来)	黑色砂質土	(10YR2/1) 粘性なし。しまりや強。0.3mm程の石英・金青母等含む。5.0~10mmの灰白色ブロック含む。

4	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(10R2/1)	粘性なし、しまり弱。0.5～1.0mmの金雲母等多く含む。0.5mm程の灰白色ブロック含む。
5	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(10R0.7/1)	粘性なし、しまり強。0.3mm程の石英等含む。1.0～3.0mmの灰白色ブロック含む。
6	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R0.7/1)	粘性なし、しまり強。0.3mm程の石英、金雲母等多量に含む。5.0～10mmの灰白色ブロック含む。道溝壁中層。
7	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(10R2/1)	粘性なし、しまり弱。0.4mm程の金雲母等多く含む。2.0mm程の灰白色ブロック含む。
8	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R1.7/1)	粘性なし、しまりや強。0.3mm程の石英・長石等含む。2.0～3.0mmの灰白色ブロック含む。樹木などの住居跡の行き取り痕の可能性あり。
9	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(10R1.7/1)	粘性なし。
10	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(10R2/2)	粘性なし、しまりや強。0.3mm程の石英等含む。10mm程の灰白色ブロック含む。
11	S105 床土	黒色砂質土	(10R2/1)	粘性なし、しまり強。0.2～0.5mmの石英・金雲母等多く含む。5.0～30mmの灰白色ブロック多量に含む。 ハイカ (第1ハイカ層) と黑色土が混ざる土層となり、床土と考えられる。
12	第1 黒色土 (遺構土含層)	黒色砂質土	(7.5R1.7/1)	粘性なし、しまり弱。0.5～1.0mmの石英・金雲母含む。
13	第1ハイカ (三瓶太平山麓下火山区)	黒色砂質土	(7.5R2/1)	粘性なし、しまりやや弱。0.3～0.5mmおよび2.0～3.0mmの石英・金雲母等含む。地点によって火山灰 (にじく) (薄い2.5W4) がブロックに埋没する。 ただし、基盤的には上下の層 (第1 黑色土) と混ざり、黑色系土層を呈する。
14	第2 黑色土 (遺構土含層)	黒色砂質土	(10R1.7/1)	粘性なし、しまりやや強。2.0～3.0mmの石英・長石・金雲母等含む。第1 黑色土 (1層) に比べ、粒子が細かくなる。
15	第2ハイカ (三瓶井降下火山区)	灰褐色砂質土	(10R4/2)	粘性なし、しまり強。2.0～3.0mmの石英・金雲母等含む。3層と同様に2.0mm程の灰白色ブロック含む。 基本的には火山灰 (浅灰色 (2.5W4)) に混じる薄い黄色 (15W6/4) をブロック状に含むが、地点によって上下層の影響を受けて黑色系土層となる。
16	第3 黑色土 (遺構土含層)	にじく黃褐色砂質土	(10R5/3)	粘性なし、しまり強。0.3～0.5mmおよび2.0～3.0mmの石英・金雲母等含む。2.0mm～10mmの鉄石を多く含む。1.3層と比較して粒子が粗い。クサソテ種少量含む。
17	自然堆積	黒色砂質土	(7.5R2/1)	粘性なし、しまりやや強。0.3mm程の石英等を含む。0.5～1.0mmの灰白色ブロック含む。
18	自然堆積	黑褐色砂質土	(10R2/2)	粘性なし、しまり弱。0.3mm程の石英・長石等含む。4.0mm程の灰白色ブロックおよび50mm程のクサソテ含む。
19	自然堆積	黑褐色砂質土	(7.5R2/2)	粘性なし、しまりやや強。0.2～0.3mmの石英・金雲母等含む。5.0mm程のクサソテ含む。
20	遺構帶土 (第1 黒色土層由来)	黒色砂質土	(10R2/1)	粘性なし、しまりやや強。0.2～0.5mmの石英等含む。1.0～5.0mmの灰白色ブロック少含む。
21	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R2/1)	粘性なし、しまりやや強。0.3mm程の石英等含む。0.5～1.0mmの灰白色ブロック含む。
SK41	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R1.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。10～30mmの小礫含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
PR22B	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R1.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
PR293	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R1.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
PR294	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R1.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
PR299	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R0.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。10～30mmの小礫含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
PR315	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R0.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
PR360	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R0.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
PR402	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R0.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。
NR01	層番号 性格	土色	備考	
1	遺構帶土 (第1 黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5R1.7/1)	粘性なし、しまり弱。1.0mm程の石英・金雲母含む。10～30mmの小礫含む。1.0mm程の灰白色ブロック含む。

第34表 1区第2遺構面検出遺構土層観察表

PR441	層番号 性格	土色	備考
1	遺構帶土 (第2 黑色土層由来)	黒色砂質土	(10R1.7/1) 粘性なし、しまり弱。2.0～3.0mmの石英・長石・金雲母等含む。第1 黑色土 (1層) に比べ、粒子がやや粗い。2.0mm程の灰白色ブロック含む。

第35表 1区第3遭構面検出遺構土層観察表

SK83	番号	性格	土色	備考
1	透視理土 (第1 黒色土 塗面)	黒色砂質土	(10YR1/2)	粘性あり。しまり弱。0.3~0.5mの石英・金青母等含む。2.0m~10mの石英多く含む。クサレ様少量含む。

第36表 2区土層観察表(堆積土層)

番号	性格	土色	備考
1	第1 黑色土 (流入土) (透視理土)	黒色砂質土	(10YR1/2)
2	第1 黑色土 (透視理土)	黒色砂質土	(10YR3/1)
3	第1 ハイカ (第三太平山隣下火山)	黒褐色砂質土	(10YR2/2)
4	自然埋積	暗褐色砂質土	(10YR3/1)
5	自然埋積	にぶい黄褐色砂質土	(10YR5/1)
6	自然埋積	橙色砂質土	(7.5YR6/6)
7	自然埋積 (第1 黒色土相)	黒褐色砂質土	(10YR7/1)
8	自然埋積	にぶい黄褐色砂質土	(10YR8/4)
9	自然埋積	にぶい黄褐色砂質土	(10YR9/2)
10	自然埋積	黒褐色砂質土	(7.5YR10/1)
11	自然埋積	黒褐色砂質土	(7.5YR11/1)
12	自然埋積 (第1 黒色土相)	黒色砂質土	(7.5YR12/1)
13	自然埋積 (第1 黒色土相)	黒色砂質土	(10YR13/1)
14	第2 ハイカ (第三太平山隣下火山)	黒褐色砂質土	(10YR14/2)
15	第1 黑色土 (透視理土)	黒色砂質土	(10YR15/1)
16	自然埋積	暗褐色砂質土	(10YR16/2)
17	自然埋積	暗褐色砂質土	(10YR17/3)
18	自然埋積	にぶい黄褐色砂質土	(10YR18/4)
19	自然埋積	黒色砂質土	(7.5YR19/1)
20	自然埋積	黒褐色砂質土	(7.5YR20/1)
21	自然埋積	黒褐色砂質土	(10YR21/3)
22	自然埋積	黒褐色砂質土	(10YR22/2)
23	火山噴出物 (浮石)	明褐色砂質土	(7.5YR23/6)
24	自然埋積	にぶい褐色砂質土	(7.5YR24/1)
25	自然埋積	黒褐色砂質土	(7.5YR25/1)
26	自然埋積	黒褐色砂質土	(7.5YR26/1)
27	自然埋積	橙色砂質土	(7.5YR27/6)
28	自然埋積	橙色砂質土	(7.5YR28/5)
29	自然埋積	橙色砂質土	(7.5YR29/6)
30	自然埋積	橙色砂質土	(7.5YR30/5)
31	自然埋積	明褐色砂質土	(7.5YR31/6)
32	自然埋積	にぶい褐色砂質土	(7.5YR32/4)
33	自然埋積	明褐色砂質土	(7.5YR33/6)
34	自然埋積	明褐色砂質土	(7.5YR34/6)
35	自然埋積	黒褐色砂質土	(10YR35/1)
36	自然埋積	黒褐色砂質土	(10YR36/2)
37	自然埋積	明褐色砂質土	(7.5YR37/5)
38	自然埋積	明褐色砂質土	(7.5YR38/1)
39	自然埋積	褐色砂質土	(7.5YR39/4)
40	自然埋積	黒色砂質土	(7.5YR40/1)
41	自然埋積	黒色砂質土	(7.5YR41/1)
42	自然埋積	暗褐色砂質土	(10YR42/3)
43	自然埋積	暗褐色砂質土	(10YR43/3)
44	自然埋積	にぶい黄褐色砂質土	(10YR44/4)
45	自然埋積	黒褐色砂質土	(10YR45/2)
46	自然埋積 (第1 黒色土相)	黒色砂質土	(10YR46/2)
47	自然埋積	黒色砂質土	(10YR47/3)
48	自然埋積	にぶい黄褐色砂質土	(10YR48/4)
49	自然埋積	黒褐色砂質土	(10YR49/2)
50	自然埋積	黒色砂質土	(10YR50/2)
51	自然埋積	黒色砂質土	(7.5YR51/1)

層番号	性状	土色	備考
52	自然堆積	褐色砂質土	(7.5W84/4) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの石英・長石・金雲母等多量に含む。5.0mm~の小礫多量に含む。
53	自然堆積	褐色砂質土	(7.5W84/6) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの金雲母等多量に含む。1.0mm程の小礫多く含む。
54	自然堆積	黒褐色砂質土	(7.5W82/2) 粘性なし。しまり強。1.0mm程の石英・長石等含む。20mm程のクサレ隕石および絶石含む。
55	火山噴出物(浮石)	褐色砂質土	(7.5W86/6) 粘性なし。しまり強。0.4~0.5mmの石英・金雲母等含む。20~50mmのクサレ隕石含む。
56	火山噴出物(浮石)	にい 黑褐色砂質土	(10W84/3) 粘性なし。しまり強。1.0mm程の石英・長石等含む。1.0mm程のクサレ隕石および絶石含む。
57	火山噴出物(浮石)	褐色砂質土	(7.5W84/4) 粘性なし。しまりや弱。0.5mm程の石英・金雲母等含む。5.0mm程の軽石含む。
58	火山噴出物(浮石)	褐色砂質土	(7.5W86/3) 粘性なし。しまりや弱。0.5~1.0mmの金雲母等多量に含む。10~50mmのクサレ隕石含む。
59	自然堆積	黒褐色砂質土	(7.5W83/1) 粘性なし。しまり強。0.5mm程の金雲母等多量に含む。5.0mm~の小礫多量に含む。
60	自然堆積	明褐色砂質土	(7.5W85/6) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの石英・長石・金雲母等多量に含む。5.0mm~の小礫多量に含む。
61	自然堆積	黒褐色砂質土	(7.5W83/2) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの石英・長石・金雲母等多量に含む。5.0mm~の小礫多量に含む。

第37表 2区第1遺構面検出遺構土層観察表

層番号	性状	土色	備考
1	直線理土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W92/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。しまり弱く、第1黑色土層由來の土層。
2	第1黑色土 (透水性地盤)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまりや弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。第1黑色土層由來の流入土。
3	第1黑色土 (透水性地盤)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。
4	第1ハイカ (三瓶太平山海下火山灰)	黒褐色砂質土	(10W92/2) 粘性なし。しまりやや強。0.2~0.3mmの石英・金雲母等多く含む。火山灰(にい 黑褐色2.5W64)がブロック状に堆積する。
5	自然堆積 (第2黑色土相当)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまりやや強。0.2mm程の金雲母等多く含む。5.0~10mmの灰白色フロックハイカを多量に含む。
5801	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。1.0~5.0mmの灰白色ブロック含む。
2	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。
SK15	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。
SK16	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。
SK17	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。
SK20	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W92/1) 粘性なし。しまりやや弱。0.3mm程の石英・長石等多く含む。10~50mmのクサレ隕石多く含む。第1黑色土層由來の土層だが、浮石層由來のクサレ隕石含む。
2	第1ハイカ (三瓶太平山海下火山灰)	黒褐色砂質土	(10W92/2) 粘性なし。しまりやや強。0.2~0.3mmの石英・金雲母等多く含む。火山灰(にい 黑褐色2.5W64)がブロック状に堆積する。
SK25	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒褐色砂質土	(10W92/2) 粘性なし。しまりやや強。0.3~0.5mmの石英・長石多く含む。
2	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W92/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。しまり弱く、第1黑色土層由來の土層。
Pt182	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第1黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W93/1) 粘性なし。しまり弱。0.3mm程の石英・金雲母等多く含む。

第38表 2区第3遺構面検出遺構土層観察表

層番号	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第3黑色土層由来)	黒色砂質土	(7.5W82/1) 粘性なし。しまり弱。0.5mm程の石英・金雲母等多量に含む。5.0~10mmの小礫多く含む。3~5層の土層をブロック状に含む。
2	第3黑色土 (透水性地盤)	黒色砂質土	(10W92/1) 粘性なし。しまり強。0.2~1.0mmの金雲母等多く含む。ハイカ西面に堆積する黒褐色土層。比較的に粒子の粗い層。
3	自然堆積	黒褐色砂質土	(7.5W92/2) 粘性なし。しまりやや弱。0.5~1.0mmの石英・金雲母等含む。
4	自然堆積	黒褐色砂質土	(10W92/2) 粘性なし。しまりやや強。0.1~1.0mmの石英・金雲母等少量含む。
5	自然堆積	黒褐色砂質土	(5W92/1) 粘性なし。しまり強。0.3~1.0mmの石英・金雲母等多く含む。粒子の粗い土層。
6	火山噴出物(浮石)	明褐色砂質土	(7.5W96/6) 粘性なし。しまり強。0.5~1.0mmの石英・長石等多量に含む。10~20mmの軽石多く含む。
SK65	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第3黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W92/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金雲母等多量に含む。
Pt477	性状	土色	備考
1	透構帶土 (第3黑色土層由来)	黒色砂質土	(10W92/1) 粘性なし。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金雲母等多量に含む。

番号	性格	土色	備考
1 (第3 黒色土層由来)	黑色砂質土	(10YR2/1)	粘性なし。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金合葉等多量に含む。
Pt531			
番号	性格	土色	備考
1 (第3 黒色土層由来)	黑色砂質土	(10YR2/1)	粘性なし。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金合葉等多量に含む。
Pt535			
番号	性格	土色	備考
1 (第3 黒色土層由来)	黑色砂質土	(10YR2/1)	粘性なし。しまり弱。0.2~1.0mmの石英・金合葉等多量に含む。

第39表 1区第1遺構面出土遺物観察表

土器

種目	遺物	出ロ番号	山田遺構	種別	器種	分類	法面			土色	調査	手法の特徴	
							口径	高さ	底径				
43	1	32	S101	土師器	甕	Ect	20.0	(25.4)	27.6	砂粒多く含む	外:褐色(5YR7/3) 内:褐色(YR6/9)	外:ナチュラルメ、ヨビオサエ 内:ナチュラルケズリ	
43	2	32	S101	土師器	瓶		27.7	(24.6)	9.0	30.3	砂粒多く含む	外:褐色(YR6/6) 内:褐色(YR7/3)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
43	3	33	S101	土師器	壺		(15.2)	(6.6)	(15.6)	砂粒多く含む	外:浅黄色(10YR8/3) 内:浅黄色(10YR8/3)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
43	4	32	S101	酒呑器	坪壠		(15.6)	(5.0)	(15.6)	砂粒多く含む	外:灰褐色(7YR7/1) 内:灰褐色(5YR7/1)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
43	5	33	S101	酒呑器	坪壠		(15.2)	(4.8)	(15.6)	砂粒多く含む	外:灰褐色(6/2) 内:灰褐色(6/2)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
48	1	32	S102	土師器	甕	Eh2	21.4	27.7	9.4	40.9	砂粒多量に含む	外:褐色(YR6/6) 内:褐色(YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
48	2	32	S102	土師器	瓶		10.8	4.7	6.1	11.3	砂粒多く含む	外:浅黄色(10YR8/3) 内:灰褐色(10YR8/2)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
48	3	33	S102	土師器	壺		2.1	(4.0)	10.0	40.9	砂粒多量に含む	外:灰褐色(5YR8/3) 内:灰褐色(5YR8/3)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
48	4	32	S102	ミニチュア土器	瓶形		(7.0)	(5.0)	(6.2)	(8.6)	砂粒微量に含む	外:灰褐色(10YR8/3) 内:浅黄色(10YR8/3)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
48	5	33	S102	ミニチュア土器	壺形		(11.0)	(2.2)	(7.0)	(8.0)	砂粒多量に含む	外:浅黄色(10YR8/3) 内:浅黄色(10YR8/3)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
51	1	33	S103	土師器	瓶		(11.6)	3.8			砂粒多量に含む	外:灰褐色(10YR8/3) 内:灰褐色(10YR8/3)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
55	1	35	S105	土師器	甕	Ca	(19.6)	(7.0)			砂粒微量に含む	外:褐色(YR6/6) 内:褐色(YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
55	2	33	S105	土師器	甕	Btl	13.0	(16.0)	18.1	砂粒多く含む	外:灰褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
55	3	33	S105	土師器	甕	Eh1	(22.1)	19.3	(26.6)	砂粒多く含む	外:灰褐色(10YR7/3) 内:灰褐色(10YR7/2)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
55	4	34	S105	土師器	甕	Eh1	17.4	14.7	(21.0)	砂粒多く含む ハイカラ付	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
55	5	34	S105	土師器	甕	Ect	16.4	25.7	25.0	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(5YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
55	6	34	S105	土師器	甕	Ect	24.4	23.7	30.4	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
56	1	34	S105	土師器	甕	Eh1	21.6	16.0	(29.1)	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(YR7/3)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
56	2	34	S105	土師器	甕	Ect	19.2	20.5	(29.4)	砂粒多く含む ハイカラ付	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
56	3	34	S105	土師器	甕	Ect	19.0	24.4	丸底	24.1	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(SR2/2)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
56	4	35	S105	土師器	甕	Btl	(15.9)	15.7	(21.5)	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ	
56	5	35	S105	土師器	甕		5.0				砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
56	6	35	S105	土師器	甕		3.5				砂粒微量に含む	外:褐色(5YR5/6) 内:灰褐色(5YR5/6)	外:ナチュラルメ 内:ナチュラルケズリ
57	1	34	S105	土師器	甕		20.9	丸底	24.0	砂粒多く含む	外:灰褐色(10YR6/4) 内:灰褐色(10YR7/2)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ	
57	2	34	S105	土師器	甕	Eh1	20.5	4.7			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	3	35	S105	土師器	甕		3.5				砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	4	35	S105	土師器	小型甕		7.0	7.25	丸底	7.1	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	5	35	S105	土師器	小型甕		(9.5)	9.65	丸底	(9.5)	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	6	35	S105	土師器	壺		19.2	7.9			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	7	35	S105	土師器	壺		18.6	5.2			砂粒多量に含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	8	35	S105	土師器	壺		(20.6)	2.5			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	9	35	S105	土師器	壺		(14.2)	4.9			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
57	10	35	S105	土師器	甕		(19.4)	4.5			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
60	1	36	S1K41	土師器	甕	Ca	(20.4)	5.8			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
60	2	36	S1K41	土師器	甕	Cb(1)	(18.2)	9.8	(26.0)	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ	
60	3	35	S1K41	土師器	甕	Btl	14.4	18.2	丸底	(17.6)	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
60	4	36	S1K41	土師器	甕	Btl	(23.6)	18.9	(35.6)	砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ	
60	5	36	S1K41	土師器	甕	Btl	(25.6)	6.5			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ
60	6	36	S1K41	土師器	甕	Btl	(20.8)	6.8			砂粒多く含む	外:褐色(5YR6/6) 内:灰褐色(5YR6/6)	外:ナチュラル後ナデ 内:ナチュラル後ナデ

辨別 番号	遺物 番号	認定 出土地 位置	種類	種類 分類	測量・目次表				色調	調整・手法の特徴	
					口径 (cm)	周長 (cm)	底径 (cm)	最大深 (cm)	熟土		
60	7	36	SK41	土師器	甕	Db3	(20.2	12.0	10.8)	砂粒多く含む 外:灰褐色(10YR7/4) 内:灰褐色(5YR6/4)	外:ナメメナジ、ハケヌ、ミガキ等(ヘラ) 内:ナマ、ヘラタリ
60	8	36	SK41	土師器	甕	Eb	(22.5	7.2	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナメメナジ、ヘラタリ	
60	9	36	SK41	土師器	甕	Eb	(20.0	4.8	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナメメナジ、ヘラタリ	
60	10	36	SK41	土師器	甕	Eb	(24.0	3.9	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナメメナジ、ヘラタリ	
60	11	36	SK41	土師器	甕	Db	(18.6	5.1	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナメメナジ、ヘラタリ	
60	12	36	SK41	土師器	甕	E	(23.4	3.5	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
60	13	36	SK41	土師器	甕	底部	10.0	(A0)	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
62	1	37	Pt299	陶文土器	深鉢	底部	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
62	2	37	Pt299	陶文土器	深鉢	側面	(9.0)	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ		
62	3	37	Pt291	土師器	甕	Eb	(17.2	6.0	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
62	4	37	Pt294	土師器	甕	高坪	有段窯坪	(19.0)	9.3	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ
62	5	37	Pt315	土師器	高坪	高坪	(19.3)	4.1	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
62	6	37	Pt315	土師器	高坪	(部分)	2.0	[10.4]	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
62	7	37	Pt300	土師器	甕	(15.5)	5.7	(15.0)	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	1	37	NR01	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
65	2	37	NR01	陶文土器	深鉢	底部	(10.6)	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ		
65	3	37	NR01	陶文土器	甕	V-1	(15.0)	4.7	砂粒微細に含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	4	38	NR01	土師器	甕	Ca1	20.8	16.8	24.2 砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	5	38	NR01	土師器	甕	Cb1	18.8	26.6	丸底 (24.8) 砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	6	38	NR01	土師器	甕	Cb1	(21.7)	29.8	(29.0) 砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	7	37	NR01	土師器	甕	Db	(19.6	6.1	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	8	37	NR01	土師器	甕	Eb	(18.0	6.2	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	9	38	NR01	土師器	甕	Ba1	(16.4)	5.4	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	10	38	NR01	土師器	甕	Ca	(18.0)	5.7	砂粒微細に含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	11	38	NR01	土師器	甕	Db	(16.7	7.2	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	12	38	NR01	土師器	甕	Ea	(17.0)	2.6	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ	
65	13	38	NR01	土師器	甕	多孔式	5.2	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ		
66	1	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	2	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	3	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	底部	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	4	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	5	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	6	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	7	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	8	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	9	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	10	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	11	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	深鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	12	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	浅鉢	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	13	40	第1高土層 (1区)	陶文土器	底部	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	14	40	第1高土層 (1区)	陶文土器	底部	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	15	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	底部	不明	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	16	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	底部	不明	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	17	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	不明	元住吉山	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	18	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	不明	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	19	39	第1高土層 (1区)	陶文土器	不明	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			
66	20	40	第1高土層 (1区)	陶文土器	不明	後期	砂粒多く含む 外:褐色(7.5YR6/6) 内:褐色(7.5YR6/6)	外:ナメメナジ 内:ナマ			

地区	遺物	出土地点番号	位置	種別	器種	分類	測量・Q内皮分類				色調	実測・手法の特徴	
							口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)			
66	21	40	第1高士土器 (1区1期)	陶土器	深鉢	後期	砂粒多く含む	外に灰い褐色(SYR7/4)	内に灰い褐色(SYR7/4)	外・二枚貝付底、ナデ			
66	22	39	第1高士土器 (1区1期)	陶土器	深鉢	前期	砂粒多く含む	外・褐色(SYR6/6)	内・褐色	ナデ			
66	23	40	第1高士土器 (1区1期)	陶土器	底	V-4	1.8	砂粒微塵に含む	外に灰い褐色(SYR6/3)	内・褐色	ナデ		
66	24	40	第1高士土器 (1区1期)	陶土器	底环	V-4	3.4 (23.0)	砂粒微塵に含む	外に灰い褐色(SYR6/4)	内に灰い褐色(SYR7/2)	ナデ・ミガキ		
66	25	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	A	118.0	3.8	砂粒多く含む	外に灰い褐色(SYR6/2)	内・灰い褐色(SYR6/2)	ナデ・ミガキ	
66	26	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	C	119.0	3.8	砂粒多く含む	外に灰い褐色(SYR7/4)	内に灰い褐色(SYR7/4)	ナデ・ミガキ	
66	27	40	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底	Db	119.7	5.6	砂粒多く含む	外に灰い褐色(SYR5/5)	内・灰い褐色(SYR5/5)	ナデ・ミガキ	
66	28	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Db(1)	116.4	8.2	砂粒多く含む	外に灰い褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
66	29	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Db	120.0	4.0	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR7/5)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
66	30	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Db	117.6	3.1	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR5/5)	内・灰い褐色(SYR5/5)	ナデ・ミガキ	
66	31	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Db	125.2	5.6	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR4/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
66	32	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Eb	120.6	3.2	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
66	33	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	E	120.0	3.2	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	1	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Eb	117.6	2.8	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR5/5)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	2	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Eb	114.0	2.9	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR5/5)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	3	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Ec(1)	121.6	6.2	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	4	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Ec	120.2	5.7	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	5	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	Ec(1)	119.6	5.1	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	6	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	質	E	125.0	2.1	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	7	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底			3.1	砂粒多面に含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	8	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	小型	西	113.0	1.9	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR5/5)	内・灰い褐色(SYR5/5)	ナデ・ミガキ	
67	9	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	小型	春	4.1	(11.5)	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	10	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	小型	春	6.0	3.6	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR5/5)	内・灰い褐色(SYR5/5)	ナデ・ミガキ	
67	11	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底环	有底環	116.8	3.5	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	12	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底环	(部前)	2.6	(12.0)	砂粒多面に含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	13	42	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底环		117.6	2.5	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	14	43	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		111.6	5.0	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	15	43	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		111.6	4.5	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	16	40	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		114.6	6.1	(15.1) 砂粒多面に含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	17	40	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		114.1	6.4	(14.3) 砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	18	40	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		111.6	6.7	11.9 砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	19	43	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底			3.6	(12.0) 砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	20	41	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底部		5.7	(5.3) (12.0)	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	21	43	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		25.4	3.0	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	22	43	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		26.6	5.7	砂粒多面に含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	23	43	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		5.9	(9.6)	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	24	43	第1高士土器 (1区1期)	土鍋	底		3.6	(8.1)	砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	25	43	第1高士土器 (1区1期)	ミニニア土器	椭形		(5.3)	(5.5) (3.8)	(6.4) 砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	26	41	第1高士土器 (1区1期)	ミニニア土器	椭形		3.0	丸底	(5.6) 砂粒多面に含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	27	41	第1高士土器 (1区1期)	ミニニア土器	椭形		3.9	4.1	3.6 6.0 砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	28	43	第1高士土器 (1区1期)	ミニニア土器	椭形		(6.2)	4.7	(6.0) (8.0) 砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	29	41	第1高士土器 (1区1期)	ミニニア土器	椭形		(3.1)	4.9	丸底 4.5 砂粒微塵に含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
67	30	41	第1高士土器 (1区1期)	ミニニア土器	椭形		5.1	4.9	丸底 4.6 砂粒多く含む	外・明褐色(SYR6/4)	内・灰い褐色(SYR6/4)	ナデ・ミガキ	
68	1	43	第1高士土器	土玉	底			1.55	1.25 砂粒微塵に含む	褐色(SYR6/6)	コビヌエ工・片面彫		
68	2	41	第1高士土器 (1区1期)	酒器	片皿	石臼4期	(14.4)	3.6	(14.6) 砂粒多く含む	外・明褐色(N3/3)	内・正色(N4)	ナデ・ミガキ	
68	3	43	第1高士土器 (1区1期)	酒器	片皿				外・明褐色(N3/1)	内・正色(N2)	ナデ・ミガキ		
68	4	43	第1高士土器 (1区1期)	酒器	片皿				外・明褐色(SY5/7)	内・正色(SY5/7)	ナデ・ミガキ		
68	5	41	第1高士土器 (1区1期)	酒器	片皿	石臼4期	13.0	4.0	15.6 砂粒多く含む	外・明褐色(N3/1)	内・正色(N3/1)	ナデ・ミガキ	

測定・内側元標														
測定	遺物	回収	出土遺構	種類	器種	分類	口径 (mm)	横幅 (mm)	底径 (mm)	最大深 (mm)	執持	色調	調整・手法の特徴	
68	6	43	第1 黒色土層 (1区 1層)	漆素器	舟身	石貝 4期	2.7	(0.8)	砂粒多く含む	外: 黒灰地(2.5Y6/1) 内: 黑灰地(2.5Y6/1)	外: 手打ナメ, 回転へラケツリ 内: 手打ナメ			
<b>石器</b>														
測定	遺物	回収	出土遺構	種類	器種	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	石材	備考		
44	1	32	5401	石器	台石		35	25.4	11.7	11.00		高面使用例あり		
44	2	32	5401	石器	台石		25	22	4.1	3.560				
62	8	41	Pt0228	石器	LIF		3.6	2.6	0.9	4.61	石山形	右側縁に使用例		
62	9	41	Pt0202	石器	LIF		2.3	1.6	0.4	0.91	黑耀石			
<b>武器</b>														
測定	遺物	回収	出土遺構	種類	器種	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	石材	備考		
41	6	33	5401	鉄器	刀子		10.9	2.8	0.4	36.3	刃面部	わずかに反る 斜刃三角形		
<b>玉類</b>														
測定	遺物	回収	出土遺構	種類	器種	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	石材	備考		
57	11	33	5405	玉類	玉五		37.5	2.0	2.0	0.03	軟状透か			
<b>第40表 1区第2遺構前面出土遺物観察表</b>														
土器	測定	遺物	回収	出土遺構	種類	器種	分類	口径 (mm)	横幅 (mm)	底径 (mm)	最大深 (mm)	執持	色調	調整・手法の特徴
71	1	44	Pt0441	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	1	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	2	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	3	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	4	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	5	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	6	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	7	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	8	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	9	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	10	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	11	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	12	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	13	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	14	44	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	15	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	16	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	深鉢	月崎下層式								
72	17	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	土削片乱用								
72	18	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	土削片乱用 (月崎下層)								
72	19	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	土削片乱用								
72	20	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	後削								
72	21	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	後削								
72	22	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	後削	(6.4)							
72	23	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	後削								
72	24	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	後削								
72	25	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	後削								
72	26	45	第2 黒色土層 (1区 3層)	陶文土器	土盤	後削								
<b>石器</b>														
測定	遺物	回収	出土遺構	種類	器種	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量(g)	石材	備考		
73	1	46	第2 黒色土層 (1区 3層)	石器	台石		13.8	4.7	5.2	246.8	花崗岩	平坦面あり 鏡面本確認		
73	2	46	第2 黒色土層 (1区 3層)	石器	基石		16.3	6.5	4.3	600.2	花崗岩	敲打痕		
73	3	46	第2 黒色土層 (1区 3層)	石器	砧石		6.4	4.4	2.7	103.1	閃雲岩	敲打痕		

種類	遺物	図版	出土場所	種別	器種	分類	法量 内外復元値				備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	
73	4	46	第2系色土層 (1区3面)	石器	鉢石		9.7	6.1	4.6	344.7	花崗岩 敲打痕
73	5	46	第2系色土層 (1区3面)	石器	石皿		32.3	18.0	5.95	3,660	花崗岩 デンブン粒分析(コナラ) 自然風(無削面)

第41表 1区第3遺構面出土遺物観察表  
土器

種類	遺物	図版	出土場所	種別	器種	分類	法量 内外復元値				備考
							口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)	
77	1	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	深鉢	前期					砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)
77	2	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	鉢	西川B式					砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)
77	3	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	鉢	西川B式					砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)
77	4	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	鉢	西川B式					砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)
77	5	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	鉢	西川B式					砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)
77	6	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	鉢	西川B式					砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)
77	7	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	鉢	西川B式					砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)
77	8	47	第3系色土層 (1区5面)	陶文土器	深鉢	前期	10.5				砂粒多く含む 外: 黄褐色(10YR3/4) 内: 黄褐色(10YR3/4)

## 石器

種類	遺物	図版	出土場所	種別	器種	分類	法量 内外復元値				備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	
76	1	46	50Q10	石器	石器	3-1型	2.0	1.2	0.25	0.45*	英石
77	9	46	第3系色土層 (1区5面)	石器	研磨石器	前期	2.6	1.1	0.9	2.312	磨擦石 加摩部と先端部はやや打刃削除
77	10	47	第3系色土層 (1区5面)	石器	磨製石器	前期	12.9	6.4	2.6	296.43	安山岩 裏面刃削後に刃部および基部を再加工
77	11	46	第3系色土層 (1区5面)	石器	石器	2倍	1.8	1.2	0.25	0.335	黑曜石 裏面は刮削面を残し、縁辺部を加工
77	12	46	第3系色土層 (1区5面)	石器	UF	前期	2.8	1.0	0.25	0.725	黑曜石 先端部欠損
77	13	46	第3系色土層 (1区5面)	石器	UF	前期	1.2	2.2	0.2	0.472	黑曜石 先端部欠損
77	14	46	第3系色土層 (1区5面)	石器	石器	初期	13.9	23.2	8.6	3,760.42	花崗岩 施墨目模様

第42表 2区第1遺構面出土遺物観察表  
土器

種類	遺物	図版	出土場所	種別	器種	分類	法量 内外復元値				備考
							口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)	
86	1	48	5Q20	土器器	盤	Ca	21.0	4.3	5.5	43.5	砂粒多く含む 外: 黄白色(10YR8/2) 内: 黄褐色(10YR8/4)
86	2	48	5Q20	土器器	盤	CaI	17.0	16.6	24.3	砂粒多く含む 外: 黄白色(10YR8/2) 内: 黄褐色(10YR8/4)	
86	3	48	5Q20	土器器	盤	Ch	17.0	7.0	22.0	砂粒多く含む 外: 黄白色(10YR8/4) 内: 黄褐色(10YR8/4)	
86	4	48	5Q20	土器器	盤	Aa	16.0	16.0	11.53	砂粒多く含む 外: 黄白色(10YR8/4) 内: 黄褐色(10YR8/4)	
86	5	48	5Q20	土器器	盤		17.6	12.5	18.6	砂粒多く含む 外: 黄白色(10YR8/4) 内: 黄褐色(10YR8/4)	
89	1	48	Pit182	先生土器	盤	V-1	18.0	2.1			砂粒多く含む 外: 黄白色(10YR8/4) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	1	48	第1系色土層 (2区1-2面)	先生土器	盤	V-1	20.6	2.6			砂粒多面に含む 外: 黄白色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/3)
90	2	48	第1系色土層 (2区1-2面)	先生土器	盤	V-1	22.0	5.0	22.6	砂粒多面に含む 外: 黄白色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)	
90	3	48	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	盤	Ca	22.6	4.9			砂粒多く含む 外: 黄白色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	4	48	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	盤	Db	17.2	3.5			砂粒多く含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	5	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	盤	Db	20.2	3.3			砂粒多く含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	6	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	盤	Cb(I)	22.3	10.0	24.7	砂粒多面に含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)	
90	7	48	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	盤	Ca	21.8	8.3	28.1	砂粒多面に含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/3)	
90	8	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	盤	E	25.6	2.5			砂粒多く含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	9	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	盤	Eb	19.6	3.5			砂粒多く含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	10	50	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	小型盤		9.65	8.8	丸底	9.75	砂粒多面に含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	11	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	小型盤		10.3	4.5	9.4	砂粒多く含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)	
90	12	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	小型盤		3.5	0.9	砂粒多く含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)		
90	13	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	小型盤		11.6	2.8			砂粒多く含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	14	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	高环		18.1	3.8			砂粒多面に含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)
90	15	49	第1系色土層 (2区1-2面)	土器器	高环	(鉢)	1.1	1.0	砂粒多面に含む 外: 黄褐色(2.5YR8/3) 内: 黄褐色(10YR8/4)		

辨団	遺物	回復	出土遺構	種類	器種	分類	法量・内側寸幅				調整・手法の特徴	
							口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)		
90	16	49	第1東色土層 (2区1・2層)	土器	高脚		3.5		砂粒多く含む ハバカラ付	外:灰青褐色(10W7/1) 内:灰青褐色(10W7/1)	外:ハバカラ付ナリ 内:灰青褐色ナリ	
90	17	49	第1東色土層 (2区1・2層)	土器	瓶	多孔式	6.9	(14.0)	砂粒多く含む ハバカラ付	外:赤褐色(5YR5/8) 内:赤褐色(5YR5/8)	外:ハバカラ付 内:赤褐色(5YR5/8)	
90	18	49	第1東色土層 (2区1・2層)	土器	高脚		4.8		砂粒多く含む ハバカラ付	外:灰青褐色(5YR5/8) 内:灰青褐色(5YR5/8)	外:灰青褐色(5YR5/8) 内:灰青褐色(5YR5/8)	
<b>陶磁器</b>												
辨団	遺物	回復	出土遺構	種類	器種	分類	法量・内側寸幅				調整・手法の特徴	
							口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)		
90	19	50	第1東色土層 (2区1・2層)	把柄灰陶瓶	瓶	古武雄					透明地 緑縞	
90	20	50	第1東色土層 (2区1・2層)	把柄灰陶瓶	丸皿	内野山北窯	14.0				透明地 青縞 透明縞	
90	21	50	第1東色土層 (2区1・2層)	把柄灰陶瓶	丸皿	灰					二重縞線 梁付 17C	
90	22	50	第1東色土層 (2区1・2層)	把柄灰陶瓶	丸皿	九角H-2					透明地 圖縞 菊草文 17C 前半	
<b>石器</b>												
辨団	遺物	回復	出土遺構	種類	器種	分類	法量・内側寸幅				備考	
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)		
91	1	50	第1東色土層 (2区1・2層)	石器	石核		4.1	2.6	1.4	12.16	黒曜石	摩滅
91	2	50	第1東色土層 (2区1・2層)	石器	石核		4.8	3.3	1.3	36.17	流紋岩	下部欠損
91	3	50	第1東色土層 (2区1・2層)	石器	敲打石		7.0	4.5	4.1	180.99	花崗岩	敲打痕
<b>第43表 2区第3構面出土遺物観察表</b>												
土器	辨団	出土遺構	種類	器種	分類	法量・内側寸幅				色調	調整・手法の特徴	
						口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)			
95	1	50	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	前期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
95	2	50	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	竹ノ花縞			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:ナリ 竹ノ花(巻頭) ハバカラ付	
95	3	50	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	前期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:ナリ	
95	4	50	506	陶文土器	鉢	竹ノ花縞			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
95	5	50	506	陶文土器	鉢	前期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
95	6	50	506	陶文土器	鉢	前期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
95	7	50	506	陶文土器	鉢	前期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
95	8	50	506	陶文土器	鉢	前期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
95	9	50	506	陶文土器	鉢	前期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	1	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	早期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:ナリ 反対縞	
104	2	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	前中期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	3	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	前中期			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	4	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	5	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	6	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	7	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	8	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	9	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	10	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	11	51	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	12	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	13	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	14	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	15	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:黄褐色(10YR5/4)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	16	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:明褐色(10YR7/3)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	17	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	深鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:明褐色(10YR7/3)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	18	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:明褐色(10YR7/3)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	
104	19	52	第3東色土層 (2区1・2層)	陶文土器	鉢	西川津式			砂粒多く含む ハバカラ付	外:暗褐色(10YR3/4) 内:明褐色(10YR7/3)	外:二重貝皿縞 ハバカラ付	



辨団	遺物	回収	出土遺構	基準番号	層位	種別	種類	分類	測定 / 内部寸法				調査・手法の特徴	
									口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大幅 (cm)	熱土	
105	31	54	第3東色土層 (2段15cm層)	城文土器	底部	鉢形	石器		砂粒多く含む ハイカット	外:にごい黄赤色(2.3%V3)	内:暗赤褐色(2.5%V2)	外:二枚貝多個		
105	32	54	第3東色土層 (2段15cm層)	城文土器	底部	鉢形	石器		砂粒多く含む ハイカット	外:にごい黄赤色(7.9%V4)	内:灰褐色(7.0%V4)	外:二枚貝多個、ナデ		
105	33	54	第3東色土層 (2段15cm層)	城文土器	底部	西口津	石器	器形不明	砂粒多く含む ハイカット	外:にごい黄赤色(2.5%V7)	内:灰褐色(2.5%V7)	外:二枚貝多個		
<b>石器</b>														
辨団	遺物	回収	出土遺構	基準番号	層位	水洗	グリッド	種別	種類	分類	測定 / 内部寸法			備考
						y-21	石器	石核	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	
95	10	51	5406	w-21	石器	石核			1.8	2.7	1.1	3.956	黒曜石	自然面残す
95	11	51	5406	w-21	石器	石核			1.35	1.25	0.9	1.624	黒曜石	
95	12	51	5406	x-21	石器	石核			1.7	2.0	1.35	3.545	黒曜石	裏面は自然面残す
95	13	51	5406	w-21	石器	柳形石器			0.9	0.9	0.45	0.328	黒曜石	
95	14	51	5406	x-21	石器	スラブレザー			2.6	2.15	1.05	4.805	黒曜石	ラウンドスクレイバー
95	15	51	5406	x-21	石器	石核	3-1型		1.4	3.2	0.25	0.269	黒曜石	裏面も自然面に加工あり
95	16	51	5406	x-21	石器	石核	2型		1.4	1.55	0.25	0.314	黒曜石	裏面も自然面あり
95	17	51	5406	y-21	石器	石核	1型		1.0	0.75	0.25	0.159	黒曜石	裏面は削除
95	18	51	5406	y-22	石器	石核			1.15	0.85	0.2	0.147	黒曜石	裏面ののみ
95	19	51	5406	x-22	石器	石核半製品			0.9	0.75	0.2	0.103	黒曜石	
95	20	51	5406	x-22	石器	石核半製品			1.2	0.85	0.25	0.262	黒曜石	裏面のみ
95	21	51	5406	y-21	石器	UF			1.25	1.6	0.45	0.617	黒曜石	
95	22	51	5406	x-21	石器	UF			2.3	1.35	0.3	0.679	黒曜石	
95	23	51	5406	w-21	石器	UF			3.2	1.1	0.5	1.195	黒曜石	調査用による剥片を使用か
95	24	51	5406	x-22	石器	UF			1.85	1.3	0.35	0.725	黒曜石	調査用による剥片
95	25	51	5406	y-22	石器	UF			1.9	1.8	0.4	0.882	黒曜石(削除:久見)	裏面分析試料
95	26	51	5406	x-21	石器	剥片			1.3	1.6	0.2	0.342	黒曜石(削除:久見)	裏面分析試料
95	27	51	5406	y-22	石器	剥片			1.6	2.0	0.35	0.758	黒曜石(削除:久見)	裏面分析試料
95	28	51	5406	y-21	石器	剥片			2.9	1.8	0.55	3.112	柱状黑曜岩	
98	1	50	Pf35	v-18	石器	柳形石器			2.6	2.5	0.6	1.759	黒曜石	加摩郡と先端は平行削面
98	2	50	Pf481	p-12	石器	石核	3-1型		1.2	0.9	0.3	0.303	黒曜石	裏面は削除を残す
98	3	50	Pf331	t-20	石器	石核半製品			0.9	0.6	0.2	0.145	赤玉岩	
98	4	50	5405		石器	UF			1.7	0.7	0.25	0.216	黒曜石	裏面は削除を残す
98	5	50	Pf48	m-13	石器	UF			2.8	1.5	0.6	1.635	黒曜石(削除:久見)	裏面分析試料
106	1	55	第3東色土層 (2段15cm層)	o-15	石器	石核			1.3	2.4	1.0	3.020	黒曜石	自然面残す
106	2	55	第3東色土層 (2段15cm層)	t-19	石器	石核			1.6	2.4	0.9	2.956	黒曜石	
106	3	55	第3東色土層 (2段15cm層)	w-20	石器	石核			1.8	1.5	0.9	2.105	黒曜石	黒化
106	4	55	第3東色土層 (2段15cm層)	p-12	石器	柳形石器			2.7	1.0	0.9	2.290	黒曜石	加摩郡と先端はクロスする
106	5	55	第3東色土層 (2段15cm層)	p-12	石器	柳形石器			2.75	0.85	0.9	1.934	黒曜石	加摩郡と先端はクロスする
106	6	55	第3東色土層 (2段15cm層)	t-16	石器	柳形石器			3.35	1.4	1.1	5.287	黒曜石	加摩郡と先端は平行削面
106	7	55	第3東色土層 (2段15cm層)	r-16	石器	柳形石器			2.7	1.15	1.1	2.789	黒曜石	加摩郡と先端はクロスする
106	8	55	第3東色土層 (2段15cm層)	x-22	石器	柳形石器			2.2	0.9	0.7	1.064	黒曜石	加摩郡と先端はクロスする
106	9	55	第3東色土層 (2段15cm層)	p-11	石器	柳形石器			1.3	1.2	0.9	1.246	黒曜石	欠損
106	10	55	第3東色土層 (2段15cm層)	t-13	石器	柳形石器			1.7	1.0	0.65	1.059	黒曜石(底面)	加摩郡と先端はクロスする
106	11	55	第3東色土層 (2段15cm層)	q-10	石器	柳形石器			3.15	3.3	0.5	6.850	透明白岩	裏面に鋸面残す
106	12	55	第3東色土層 (2段15cm層)	r-11	石器	柳形石器			1.4	1.5	0.35	0.430	燧石岩	加摩郡と先端は平行削面
106	13	55	第3東色土層 (2段15cm層)	t-10	石器	石核	1型		0.95	0.8	0.2	0.155	黒曜石	裏面は鋸面のみ加工
106	14	55	第3東色土層 (2段15cm層)	o-11	石器	石核	1型		1.05	0.9	0.3	0.166	黒曜石	裏面は鋸面のみ加工
106	15	55	第3東色土層 (2段15cm層)	t-9	石器	石核	2型		1.7	1.05	0.4	0.381	黒曜石	縫合部にわずかに剥起あり
106	16	55	第3東色土層 (2段15cm層)	q-12	石器	石核	2型		1.8	1.1	0.5	0.618	黒曜石	縫合部の凹み
106	17	55	第3東色土層 (2段15cm層)	o-11	石器	石核	2型		0.85	1.0	0.25	0.168	黒曜石	縫合部の凹み
106	18	55	第3東色土層 (2段15cm層)	m-13	石器	石核	2型		1.8	1.4	0.35	0.456	黒曜石	縫合部の凹み
106	19	55	第3東色土層 (2段15cm層)	u-18	石器	石核	2型		1.3	1.7	0.3	0.650	黒曜石	縫合部に突起あり
106	20	55	第3東色土層 (2段15cm層)	o-13	石器	石核	2型		2.0	1.2	0.4	0.660	安山岩	縫合部の凹み
106	21	55	第3東色土層 (2段15cm層)	r-10	石器	石核	2型		1.3	1.0	0.25	0.221	透明白岩	縫合部の凹み
107	1	55	第3東色土層 (2段15cm層)	石器	石核	3-1型			2.0	1.25	0.4	0.538	黒曜石	裏面は自然面残す
107	2	55	第3東色土層 (2段15cm層)	o-12	石器	石核	3-1型		1.6	1.3	0.2	0.340	黒曜石	裏面は自然面残す
107	3	55	第3東色土層 (2段15cm層)	o-13	石器	石核	3-1型		1.65	1.15	0.2	0.304	黒曜石	裏面と下半部に削除面を残す
107	4	55	第3東色土層 (2段15cm層)	p-11	石器	石核	3-1型		1.5	1.2	0.3	0.328	黒曜石	左側縫合部欠損
107	5	55	第3東色土層 (2段15cm層)	p-12	石器	石核	3-1型		1.5	1.0	0.2	0.197	黒曜石	裏面は縫合部のみ加工
107	6	55	第3東色土層 (2段15cm層)	石器	石核	3-1型			1.25	1.05	0.3	0.255	黒曜石	裏面は自然面残す
107	7	55	第3東色土層 (2段15cm層)	p-12	石器	石核	3-1型		1.7	1.05	0.3	0.422	黒曜石	裏面は縫合部のみ加工
107	8	55	第3東色土層 (2段15cm層)	q-10	石器	石核	3-1型		1.7	0.95	0.3	0.362	黒曜石	左側縫合部欠損
107	9	55	第3東色土層 (2段15cm層)	p-15	石器	石核	3-1型		1.4	0.95	0.25	0.276	黒曜石	左側縫合部欠損

地図 番号	図面 番号	出土遺物 位置	水洗 グリップ	種別	脊椎	分類	法線 (JIS 規格)			石材	備考
							長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		
107_16	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	r-11	石器	石器	3-1 棒	1.4	0.8	0.3	0.296 黒曜石	表面とも斜面を残す 左半部欠損
107_11	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	p-14	石器	石器	3-1 棒	1.7	0.8	0.4	0.432 黒曜石	左側部・一部欠損
107_12	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	r-16	石器	石器	3-1 棒	1.25	1.0	0.2	0.248 黒曜石	裏面は傾斜部分のみ加工 右側部・右端部欠損
107_13	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-12	石器	石器	3-1 棒	1.1	1.1	0.25	0.245 黒曜石	右側部欠損
107_14	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	p-13	石器	石器	3-1 棒	0.95	1.0	0.15	0.118 黒曜石	裏面は傾斜部分のみ加工
107_15	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	x-18	石器	石器	3-1 棒	1.0	0.8	0.15	0.092 黒曜石	裏面は斜面を残す
107_16	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	q-16	石器	石器	3-1 棒	1.0	0.65	0.2	0.146 黒曜石	裏面は斜面を持ち、先端部のみ加工
107_17	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	v-18	石器	石器	3-1 棒	0.9	0.7	0.15	0.066 黒曜石	
107_18	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-13	石器	石器	3-1 棒	0.8	0.6	0.15	0.060 黒曜石	裏面は斜面を残す
107_19	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	p-15	石器	石器	3-1 棒	2.3	1.3	0.35	0.751 安山岩	
107_20	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-13	石器	石器	3-1 棒	2.0	1.4	0.4	0.718 安山岩	
107_21	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	p-14	石器	石器	3-1 棒	1.4	1.1	0.4	0.407 安山岩	
107_22	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	t-10	石器	石器	3-1 棒	1.4	1.0	0.3	0.360 安山岩	裏面は傾斜部分のみ加工
107_23	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	o-11	石器	石器	3-1 棒	1.15	0.7	0.35	0.238 安山岩	
107_24	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	q-12	石器	石器	3-1 棒	0.7	0.4	0.1	0.026 安山岩	裏面は斜面を持ち
107_25	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	p-11	石器	石器	3-1 棒	2.0	1.0	0.3	0.413 安山岩	裏面は傾斜部分のみ加工 左側部欠損
107_26	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	p-12	石器	石器	3-1 棒	1.7	0.9	0.4	0.355 安山岩	左側部・右側部欠損
107_27	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	w-20	石器	石器	3-1 棒	1.5	1.1	0.4	0.521 安山岩	裏面は傾斜部分のみ加工 右側部欠損
107_28	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	t-18	石器	石器	3-1 棒	1.3	0.9	0.3	0.302 安山岩	裏面は斜面を残す
107_29	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-15	石器	石器	3-1 棒	0.9	0.9	0.3	0.202 安山岩	裏面は傾斜部分のみ加工 右側部・左側部欠損
107_30	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	t-10	石器	石器	3-1 棒	1.6	1.25	0.2	0.342 遊牧族	裏面は傾斜部分のみ加工
107_31	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	i-12	石器	石器	3-1 棒	1.5	1.2	0.2	0.419 游牧族	先端部・右側部欠損
107_32	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	i-11	石器	石器	3-1 棒	2.6	1.6	0.5	1.358 游牧族	先端部欠損
107_33	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	r-15	石器	石器	3-2 棒	1.2	0.9	0.2	0.110 黒曜石	右側部欠損
107_34	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	x-19	石器	石器	3-2 棒	1.65	0.9	0.2	0.304 安山岩	裏面は半周に斜面を残す 先端部・右側部欠損
107_35	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	m-16	石器	石器	3-2 棒	1.3	1.0	0.3	0.270 安山岩	右側部欠損
107_36	55	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	o-13	石器	石器	3-2 棒	1.3	1.0	0.35	0.340 黒曜石	左側部欠損
107_37	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	o-16	石器	石器	3-2 棒	1.7	0.6	0.2	0.244 黒曜石	裏面は傾斜部分のみ加工 左側部のみ
107_38	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	o-16	石器	石器	3-2 棒	1.4	0.65	0.25	0.223 黒曜石	左側部のみ
107_39	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	t-16	石器	石器	3-2 棒	0.7	0.75	0.1	0.044 安山岩	先端部のみ
107_40	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-10	石器	石器	3-2 棒	1.5	0.7	0.2	0.248 安山岩	左側部のみ
107_41	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	m-13	石器	石器未製品	2.6	1.4	0.3	0.995 黒曜石		
107_42	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	x-21	石器	石器未製品	2.3	1.2	0.4	0.958 黒曜石		
107_43	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	p-18	石器	石器未製品	1.6	1.2	0.45	0.623 黒曜石		
107_44	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	y-19	石器	石器未製品	1.5	1.1	0.3	0.345 黒曜石	一部欠損	
107_45	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	q-13	石器	石器未製品	1.45	1.2	0.25	0.266 黒曜石	上半部のみ	
107_46	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	q-12	石器	石器未製品	1.15	1.25	0.4	0.375 黒曜石	上半部のみ	
107_47	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-11	石器	スクレイバー	2.6	5.0	0.8	8.254 黒曜石	エンドスクレイバー 裏面および先端部は自然面	
107_48	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	o-16	石器	スクレイバー	2.8	4.75	0.8	9.353 安山岩	サイドスクレイバー	
108_1	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	o-16	石器	RF	2.6	1.15	0.65	1.665 黒曜石		
108_2	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	r-16	石器	RF	2.4	1.25	0.4	0.951 黒曜石(附根(久見))	地帯分析試料	
108_3	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	w-20	石器	RF	1.3	1.5	0.4	0.459 黒曜石(不明)(不明)	地帯分析試料	
108_4	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-13	石器	RF	1.05	1.3	0.3	0.334 黒曜石		
108_5	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	x-19	石器	RF	1.1	1.4	0.35	0.500 黒曜石? 久見? or 黑曜石 波状地帯分析試料		
108_6	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	r-12	石器	RF	2.25	1.4	0.5	1.421 安山岩		
108_7	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	n-15	石器	RF	2.1	1.0	0.3	0.656 安山岩		
108_8	56	第3系赤土層 (2.0~15.0m)	r-12	石器	RF	1.9	1.05	0.35	0.885 安山岩		

辨団 番号	遺物 番号	回収 場所	出土遺構	水洗 グリッド	種別	器種	分類	測量・寸法(実寸)			重量(g)	石材	備考
								長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
108 9	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-12	石器	RF			0.9	1.7	0.4	0.579	安山岩	
108 10	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-15	石器	RF			3.0	2.0	1.1	5.481	安山岩	
108 11	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	q-16	石器	UF			2.7	1.55	0.7	2.456	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
108 12	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	n-15	石器	UF			2.2	1.5	0.35	0.731	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
108 13	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	i-10	石器	UF			2.85	1.85	0.75	3.592	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
108 14	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	o-10	石器	UF			2.1	1.2	0.4	0.744	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
108 15	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-11	石器	UF			2.2	1.3	0.25	0.625	黒曜石 (指輪:久見or 黄浦?)	産地分析試料
108 16	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	o-12	石器	UF			2.2	1.2	0.2	0.403	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
108 17	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	r-16	石器	UF			2.3	0.9	0.45	0.909		
108 18	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-13	石器	UF			1.35	1.9	0.45	0.869	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
108 19	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-15	石器	UF			1.4	1.7	0.4	0.701	黒曜石 (指輪:久見or 黄浦?)	産地分析試料
108 20	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	w-18	石器	UF			1.7	1.7	0.7	1.256	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
108 21	56	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	y-19	石器	UF			1.3	2.7	0.7	1.377	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
109 1	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	o-13	石器	UF			2.7	2.25	0.65	4.560	安山岩	
109 2	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	i-11	石器	UF			2.4	1.25	0.4	1.538	安山岩	先端ドリル状
109 3	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-15	石器	UF			1.8	1.35	0.5	1.039	安山岩	
109 4	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-18	石器	UF			1.0	1.3	0.15	0.187	安山岩	
109 5	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	r-16	石器	剥片			2.8	2.5	0.7	4.477	黒曜石(指輪:久見?)	産地分析試料
109 6	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	n-12	石器	剥片			2.0	2.7	0.6	1.969	黒曜石	
109 7	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	u-19	石器	剥片			1.8	1.65	0.3	0.977	黒曜石(指輪:久見)	産地分析試料
109 8	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	s-17	石器	剥片			2.0	2.2	0.5	1.365	黒曜石(不規則:不明)	産地分析試料
109 9	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	u-19	石器	剥片			1.4	1.25	0.3	0.458	黒曜石	
109 10	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	m-13	石器	剥片			1.65	2.3	0.5	1.058	安山岩	
109 11	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	m-13	石器	剥片			1.65	1.4	0.25	0.676	安山岩	
109 12	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	i-12	石器	剥片			1.2	1.7	0.4	0.787	安山岩	
109 13	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-11	石器	剥片			2.2	1.2	0.35	0.895	安山岩	
109 14	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-12	石器	剥片			1.8	1.3	0.25	0.542	安山岩	
109 15	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-15	石器	剥片			1.3	1.5	0.2	0.456	安山岩	
109 16	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-18	石器	剥片			1.3	1.5	0.3	0.958	安山岩	
109 17	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	i-12	石器	剥片			3.4	1.2	0.5	2.146	安山岩	尖頭器様 先端はドリル状
109 18	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	r-12	石器	石塊			0.4	0.8	0.15	0.041	黒曜石	石塊のつまみ部分か
110 1	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	t-17	石器	凝石			9.6	6.8	3.8	379.530	花崗岩	表面面に擦痕 側面および表面に敲打痕
110 2	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)		石器	凝石			9.7	7.6	4.2	478.700	花崗岩	側面3方に敲打痕
110 3	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)		石器	凝石			6.5	7.1	5.5	302.640	花崗岩	表面面に擦痕
110 4	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)		石器	凝石			9.1	6.9	4.7	426.940	花崗岩	両面2方向に敲打痕
110 5	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	t-18	石器	凝石			9.5	7.2	6.0	543.010	花崗岩	表面面に擦痕 側面3方に敲打痕
110 6	57	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	p-17	石器	凝石			10.7	10.2	5.3	752.700	花崗岩	表面面に擦痕
110 7	58	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	u-18	石器	台石			15.0	14.8	4.7	1227.300	花崗岩	一部欠損
110 8	58	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	s-9	石器	台石			6.9	6.6	4.5	310.260	花崗岩	一部欠損
110 9	58	第3黑色土層 (2.0±1.5m)	i-10	石器	不明			19	3.7	2.0	43.018	閃緑岩質の貫入岩	スス・固化剤付着

## 第5章 高城跡の調査

### 第1節 調査の方法

#### 1. 発掘調査区の立地

高城跡は、島根県出雲市知井宮町高城および法光寺に所在し、標高約105mの尾根頂部にある主郭を中心として展開する（第111図）。主郭は数段の平坦面で構成され（写真14）、周囲は切岸により急斜面となっている。主郭東側には後世のものと思われる石碑が据えられている（写真15）。

発掘調査区は主郭より南に約40m下った尾根上に立地する。調査区内の標高は約78m～約92mとかなりの高低差がある。調査前は植林が行われ、調査区の一部は作業道として利用されていた。

#### 2. 発掘調査区とグリッドの設定

本発掘調査の対象範囲は、令和元年度に島根県教育委員会が実施した試掘確認調査（第1章第2節参照）の結果、工事範囲、周辺地形の状況等に基づき、協議の上で第112図のとおり設定した。調査にあたっては、世界測地系の第III座標系に基づき座標軸を合わせた10m四方のグリッドを設定し、北から南にアルファベット、西から東に算用数字を振り、グリッド名とした。

#### 3. 調査の方法

掘削作業はすべて人力で行い、調査員の立会のもとでスコップや鍬、ジョレンなどを用いて表土層から順に掘り下げた。遺構の掘削は、主に移植ゴテおよび草刈りを使用した。排土は埋め戻しのため植生土嚢に詰めて、人力で運搬した。尾根の軸方向に合わせて3カ所のトレーナー掘削を行うとともに、平坦面ごとに上層観察用のベルトを残し、上層から記録を取りつつ順次掘削を行った。土層は写真撮影後に断面図を作成した。調査区内はかなりの急傾斜であったため、安全面を考慮しつつ慎重に作業を行い、特に急勾配のため遺構が残っていないと判断された場所については、有資格者による一部掘削のみに留めた。また、調査区の周囲には流土防止のため防護柵を設置した。調査は地山上面まで掘削し、遺構の有無を確認した後、植生土嚢による埋め戻しを行った。

遺構や遺物の記録は遺跡調査システムを用い、図面を出力後に補正を行った。写真は、デジタルカメラで撮影した。整理作業は、令和4年11月上旬から埋蔵文化財調査センターにおいて遺構図の編集、写真的整理、図面のトレース、原稿執筆・編集作業等を実施した。図面トレース以降の作業



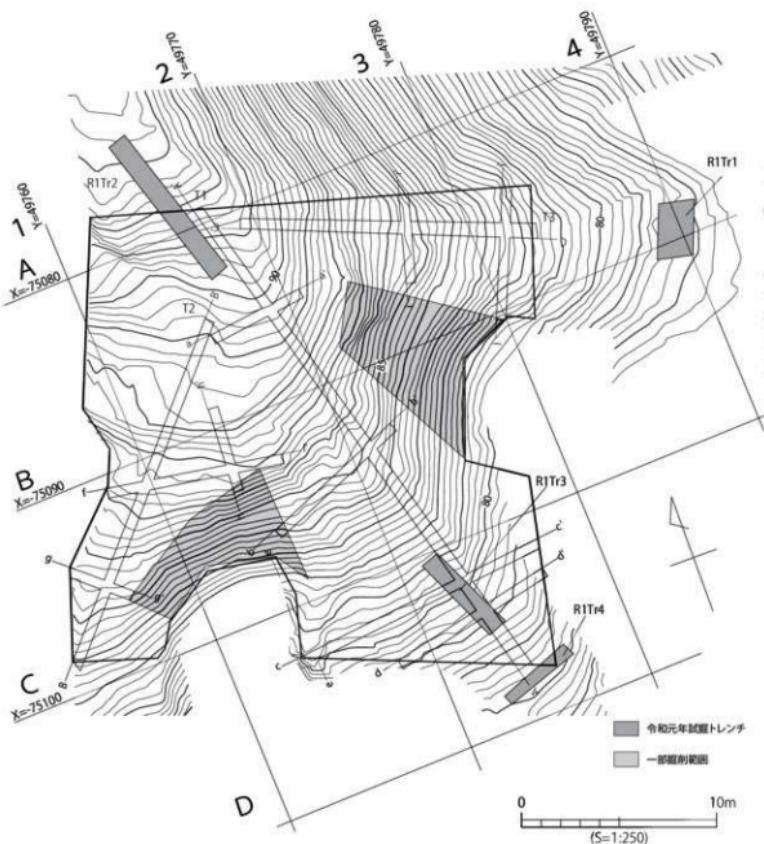
写真14 主郭の様子



写真15 主郭に据えられた石碑



第111図 調査前地形測量図と開発予定地



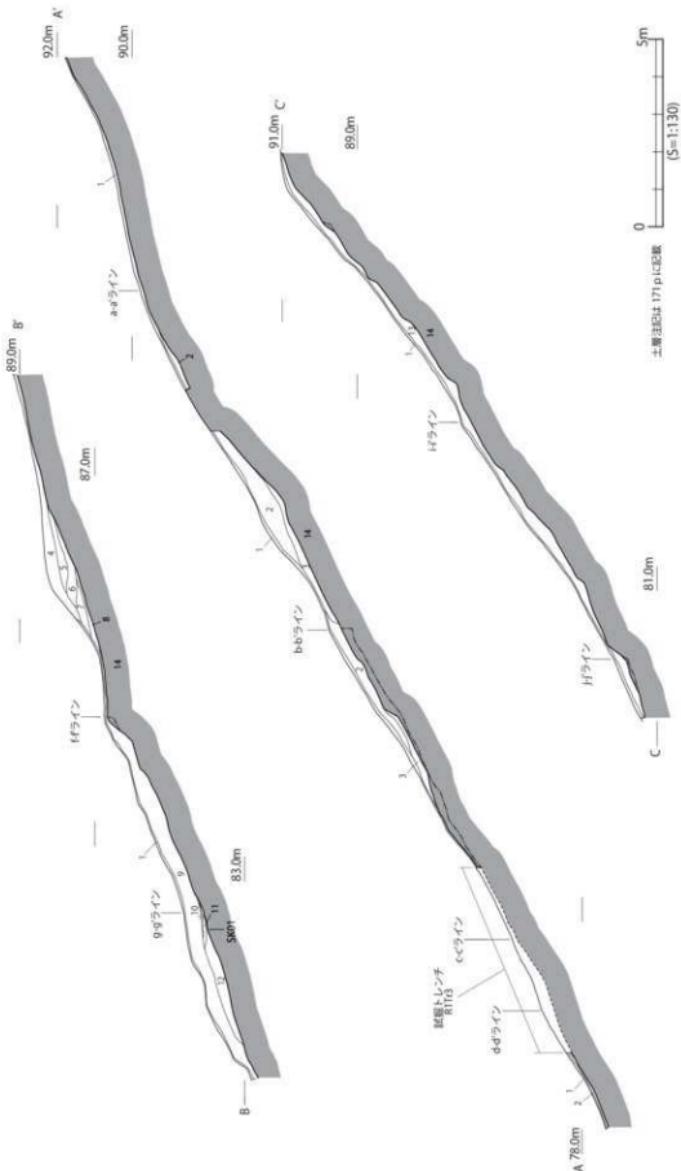
第112図 調査範囲・グリッド設定・トレンチ配置図

は、DTP方式で行った。炭化物の放射性炭素年代測定を、株式会社パレオ・ラボに委託した。分析試料は埋蔵文化財調査センターが選定して提供した。

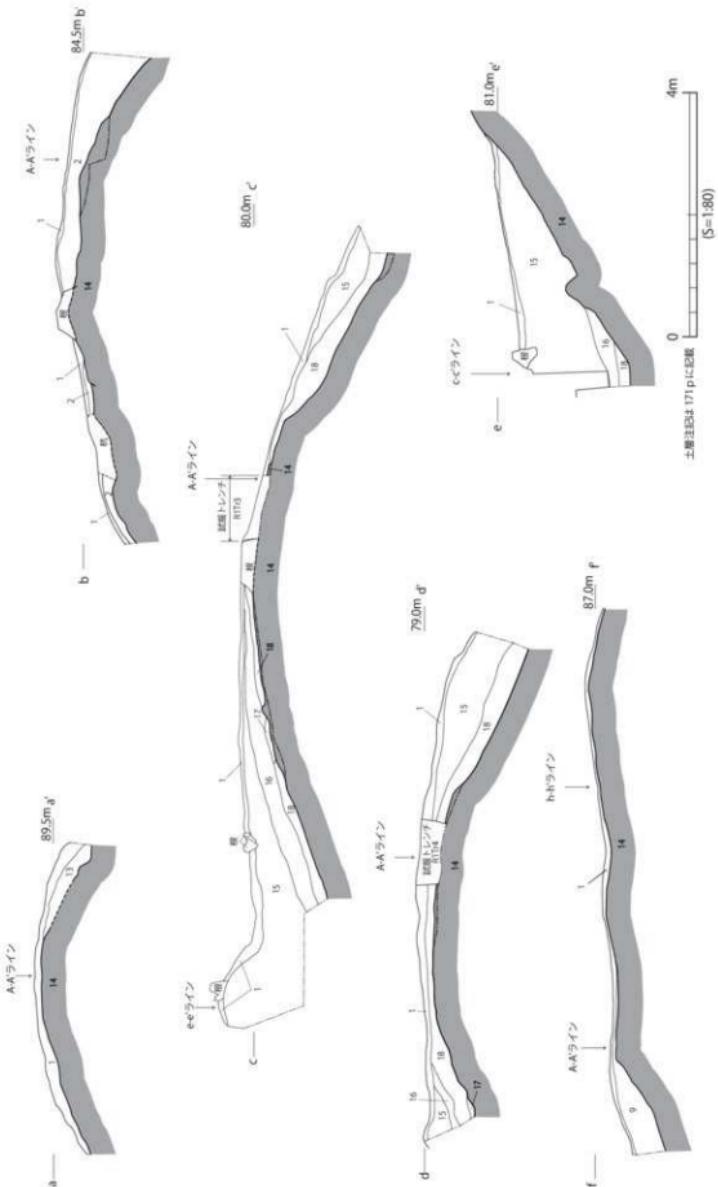
## 第2節 基本層序

本調査区は、主郭から南に伸びる尾根上に位置する。尾根は調査区中央付近で三叉に分かれており、調査前の地形測量では、それぞれの尾根に小規模な平坦面が確認された。そのため、各尾根の軸方向に合わせてトレンチ(T1～T3)を設定し(第112図)、A-A'・B-B'・C-C'ラインを基に基本土層を作成した(第113図、図版61)。また、平坦面ごとに設定したa-a'～j-j'ラインでも土層観察を行った(第114図・第115図、図版62・63)。各土層の観察表は章末に付している(第44表)。

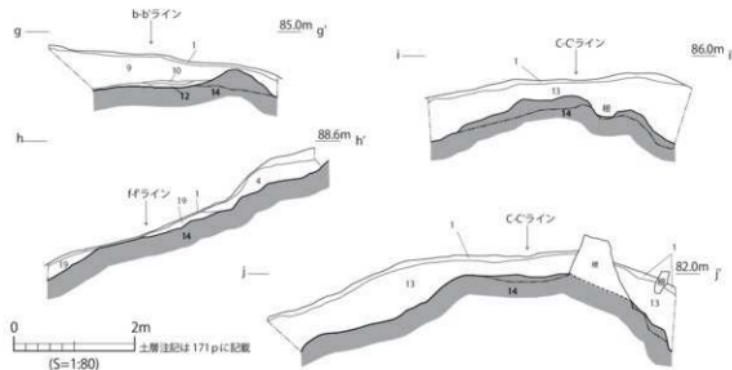
基本土層(第113図)は、大きく表土(1層)、造成土(4～7層)、黄色・褐色系土(2・3・9・



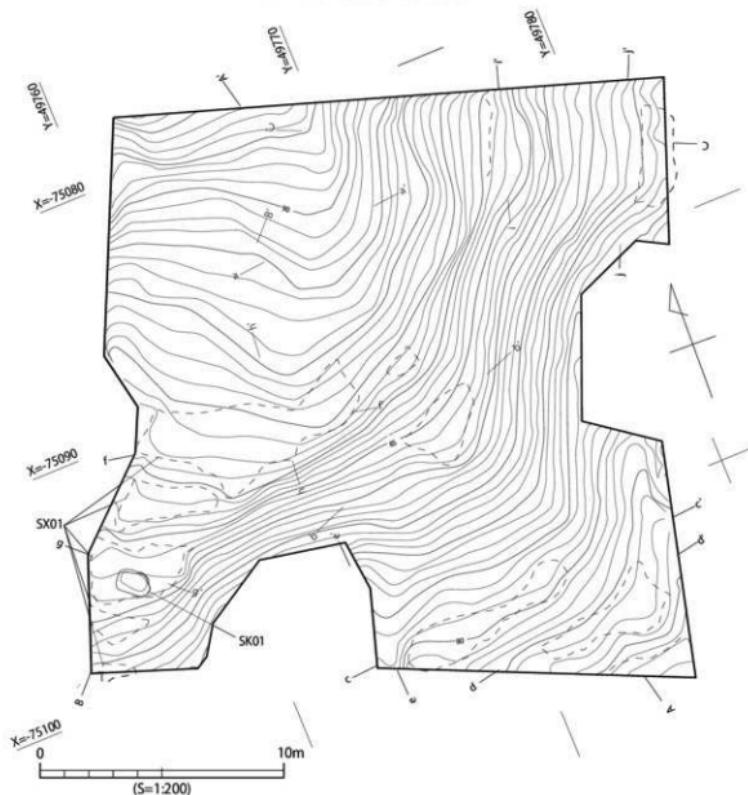
第113図 高城跡土層断面図(1)



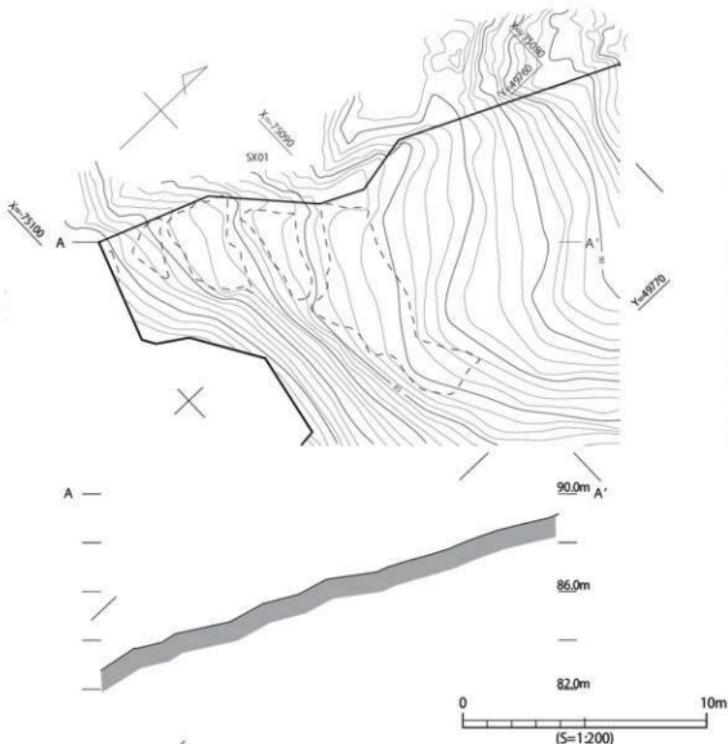
第114図 高城跡土層断面図（2）



第115図 高城跡土層断面図（3）



第116図 高城跡遺構配置図



第117図 SX01実測図

12・13層)、灰黄色土(14層)の4層に区分した。表土は調査区全面に堆積している。造成土は主に調査区北西の作業道に伴うもので、8層は作業道造成時の旧表土の可能性がある。黄色・褐色系土は、主に中腹部から下部にかけて堆積し、地山をブロック状に含んでいることが多い。T 2では9層上面でSX01を、12層上面でSK01(10・11層)を検出している。この他、第114図・第115図15・16・18・19層も、黄色・褐色系土に含まれる。これらの層には遺物が含まれておらず、堆積時期は不明である。灰黄色土は地山層である。調査区全面に堆積している。

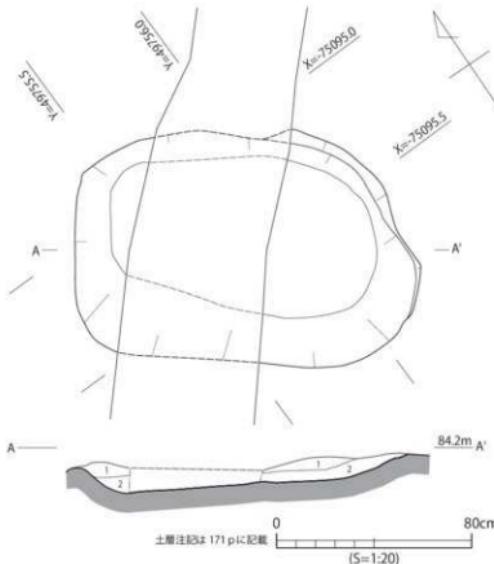
### 第3節 検出遺構とその遺物

高城跡の発掘調査では、西側斜面の尾根上で階段状に連続する平坦面(SX01)と、炭を大量に含んだ土坑(SK01)を検出した(第116図)。SK01の土層観察表は章末に付している(第45表)。

#### (1) 性格不明遺構

##### SX01(第117図、図版64)

SX01は、調査区西側の南西に向かって伸びる尾根上で検出した。小規模な平坦面5基が地形に



第118図 SK01実測図

沿って連続しており、南西端は調査区外へと続く。ピットや盛土等の人为痕跡は確認できなかったが、主郭へ至る尾根上に配置されていることや、平坦面が階段状に連続していることなどから遺構と判断した。平坦面は最大のもので約9.5m×約3.5m、最小のもので1.5m×1m以上を測る。遺物は出土しておらず時期は不明であるが、SX01下層より検出されたSK01の放射性炭素年代測定で、16世紀初頭～17世紀中頃の値が得られているため、それ以降の所産と推測される。

## (2) 土坑

### SK01（第118図、図版64）

SK01は、調査区西側の尾根上でSX01の下層より検出した。平面は楕円形を呈し、長さ約1.4m、幅約0.9m、深さ約0.1mを測る。土坑北東側にわずかに被熱痕が認められる。埋土中には多量の炭を含んでおり、遺物は出土していない。炭化物の放射性炭素年代測定を行い、16世紀初頭～17世紀中頃の年代が得られている（第7章第4節）。

この他、調査区内では小規模な平坦面を複数確認しているが、いずれも明確に遺構とは判断できなかった。また、調査区中央南端で約3.5m×約2.5mの残丘状の地形が認められた。自然地形としては不自然であったため断ち割りを行ったが、黄褐色の砂質土が厚く堆積しているのみで（第114図c-c'、e-e'）、明確な人为痕跡は確認できなかった。遺物は、表土中より時期・用途不明の鉄製品が1点出土したのみで、高城跡の性格を示すものは出土しなかった。

## 第4節 小結

今回の調査では、令和元年度の試掘調査の結果から、調査対象地を高城跡の城域と捉えて調査を実施した。その結果、主郭から南側斜面に伸びる尾根上に、階段状に連続した平坦面1基（SX01）と、炭を含んだ土坑1基（SK01）を検出した。このうちSX01については、明確な人為痕跡は認められず、時期も判然としないため、機能を特定することは困難である。しかし、自然地形に依拠した普請のあり方は、高城跡の城域に認められる他の遺構と共通したもので、高城跡を構成する遺構として評価できる（第8章第3節）。具体的な機能については想像の域をでないが、主郭との位置関係や遺構の配置状況に着目するならば、尾根伝いに主郭へと至る登城路のような機能が想定されよう。

高城跡の機能としては、古志城や神西城との位置関係や単純な郭構成などから、比布智神社のある小山などとともに、警戒・監視を目的とする番城としての性格を持つと推測されている（島根県1980）。今回の調査では、高城跡の機能の特定につながる知見は得られなかつたが、城域南側の一部の様相が明らかになった。今後の研究の進展により、高城跡全域の性格の解明が望まれる。

### 引用・参考文献

島根県教育委員会1980『出雲・上塙治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告書』

第44表 高城跡基本土層観察表

層番号	土色	備考
1	にふい黄褐色砂質土	(1)YR5/3 表土
2	黄褐色砂質土	(1)YR5/3 粘性なし。しまり弱。地山ブロックを少量含む。
3	明褐色砂質土	(1)YR7/6 粘性なし。しまり弱。地山ブロックを少量含む。
4	にふい黄褐色砂質土	(1)YR7/4 粘性なし。しまり強。地山ブロックを多く含む。作業道の造成土。
5	浅黄褐色砂質土	(1)YR6/3 粘性なし。しまり強。地山ブロックを多く含む。作業道の造成土。
6	灰黄褐色砂質土	(1)YR6/2 粘性なし。しまり強。地山ブロックを少量含む。作業道の造成土。
7	褐灰色砂質土	(1)YR6/1 粘性なし。しまり弱。作業道の造成土。
8	黑褐色砂質土	(1)YR6/2 やや粘質。しまり弱。根を多量に含む。旧表土か。
9	にふい黄褐色砂質土	(1)YR5/4 粘性なし。しまり弱。
10	黄褐色砂質土	(1)YR7/6 粘性なし。しまり弱。炭を少量含む。SK01 墓土。
11	暗褐色砂質土	(1)YR6/3 粘性なし。しまり弱。炭を多量に含む。SK01 墓土。
12	にふい黄褐色砂質土	(1)YR7/3 粘性なし。しまり弱。地山を少量含む。
13	明黄褐色砂質土	(1)YR7/6 粘性なし。しまり弱。地山ブロックを多量に含む。
14	灰黄色砂質土	(2)YR7/2 粘性なし。しまり強。黄色ブロックを含む。地山。
15	黄褐色砂質土	(1)YR5/6 粘性なし。しまり弱。地山をほとんど含まない。
16	明黄褐色砂質土	(1)YR6/6 粘性なし。しまり弱。小型の地山ブロックを多量に含む。
17	褐色砂質土	(7)YR6/5 粘性なし。しまり弱。地山の礫の凝まりか。
18	深褐色砂質土	(2)YR8/0 粘性なし。しまりやや強。ブロック状の地山を多量に含む。
19	黄褐色砂質土	(1)YR5/6 粘性なし。しまり弱。地山ブロックを多量に含む。

第45表 SK01土層観察表

層番号	土色	備考
1	黄褐色砂質土	(1)YR7/6B 粘性なし。しまり弱。炭を少量含む。
2	暗褐色砂質土	(1)YR3/3 粘性なし。しまり弱。炭を多量に含む。

# 第6章 小原遺跡の調査

## 第1節 調査の方法

### 1. 発掘調査区の立地

小原遺跡は、島根県雲南市掛合町波多に所在し、南西から北東に延びる標高約416～418mの丘陵尾根上に立地する。丘陵上には、尾根筋に沿って墳丘墓と思われるマウンド状の高まりが連続しており、本発掘調査区はその一画に位置する。調査区の西側には、盟主墳と考えられる約14～15mの大型の高まりが認められ、北東側には、尾根の先端に向かって10m程度の高まりが続いている。

### 2. 発掘調査区とグリッドの設定

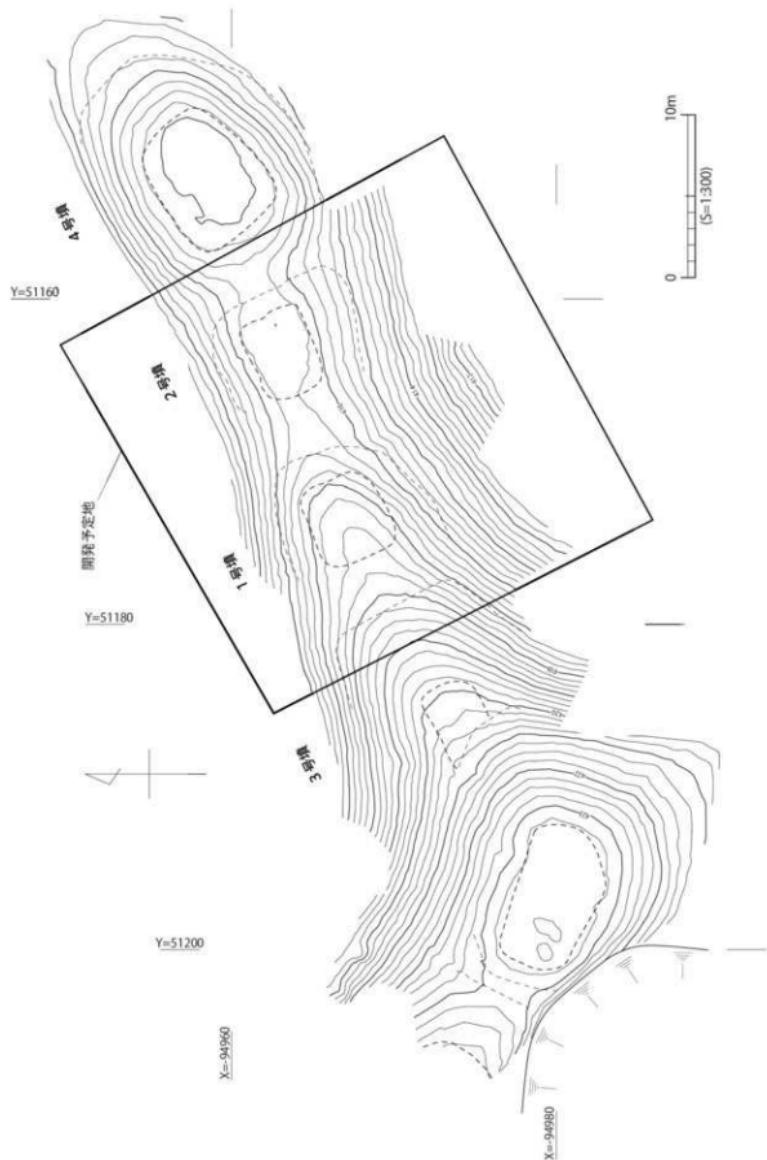
本遺跡は、令和元年度に島根県教育委員会が実施した分布調査によって発見された遺跡である。分布調査では、墳墓の可能性があるマウンド状の高まり11基と平坦面が確認され、本発掘調査の対象範囲内には、このうち4基の高まりが含まれていた。そのため、それぞれを小原1号墳～4号墳として調査を行うこととした（第119図）。発掘調査区は遺跡の範囲、工事対象範囲、周辺地形等を考慮し、協議の上で設定した（第120図）。調査にあたっては、想定される墳丘軸を基準に5m四方のグリッドを設定し、南西から北東にアルファベット、北西から南東に算用数字を振り、グリッド名とした。

### 3. 調査の方法

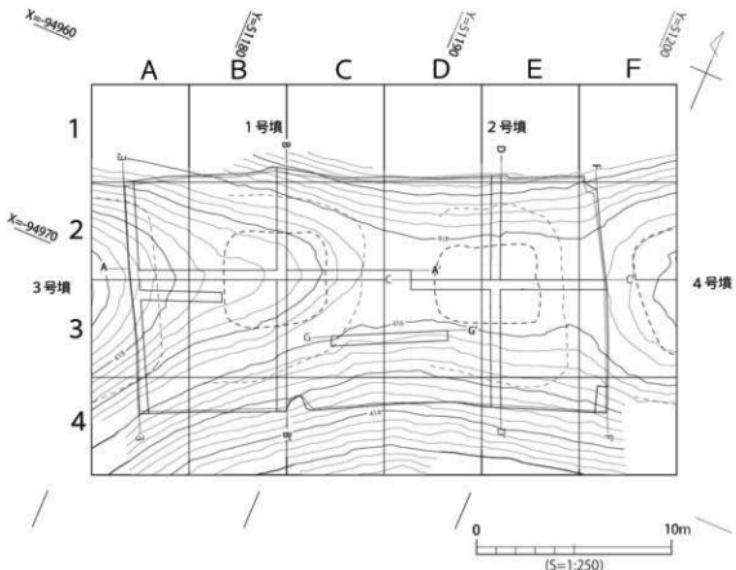
掘削作業はすべて人力で行い、調査員の立会のもとでスコップや鎌、ジョレンなどを用いて上層から順に掘り下げた。排土は、埋め戻しのため植生土嚢に詰めて、人力で運搬した。遺構の掘削は、移植ゴテおよび草削り等を使用して行った。墓壙の掘削土は、一部を土嚢袋に入れて持ち帰り、フリイにかけて遺物の有無を調べた。掘削にあたっては、適宜ベルトやトレンチを設定し、図面・写真や遺物の出土状況の記録を行いつづり下げた。調査は地山面まで掘削し、遺構・遺物の有無を確認した後、主に植生土嚢を用いて埋め戻しを行った。

遺構や遺物の記録は、遺跡調査システムを用いて測量し、図面を出力後に補正を行った。写真はデジタルカメラによる撮影を行い、必要に応じて6×7版フィルムカメラ（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を実施した。

整理作業は、現地調査終了後の令和4年11月上旬から埋蔵文化財調査センターにおいて行った。作業内容は、出土遺物の洗浄・注記・接合、墓壙埋土のフリイ、現地撮影写真の整理、遺構図の編集、遺物実測、図面のトレース、原稿執筆・編集作業等を実施した。図面トレース以降の作業は、DTP方式で行った。また、炭化物の放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボに委託した。分析試料は埋蔵文化財調査センターが選定して提供した。



第119図 調査前地形測量図と開発予定地



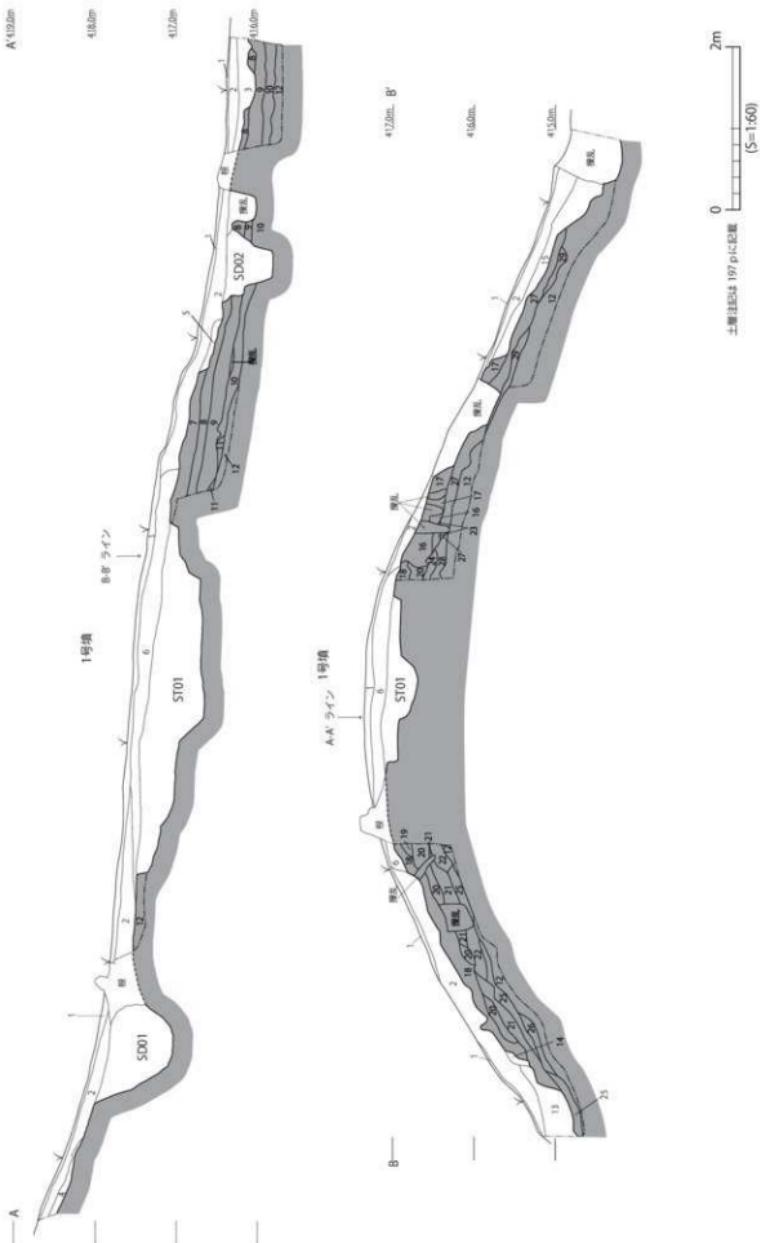
第120図 調査範囲・グリッド設定・トレンチ配置図

## 第2節 基本層序

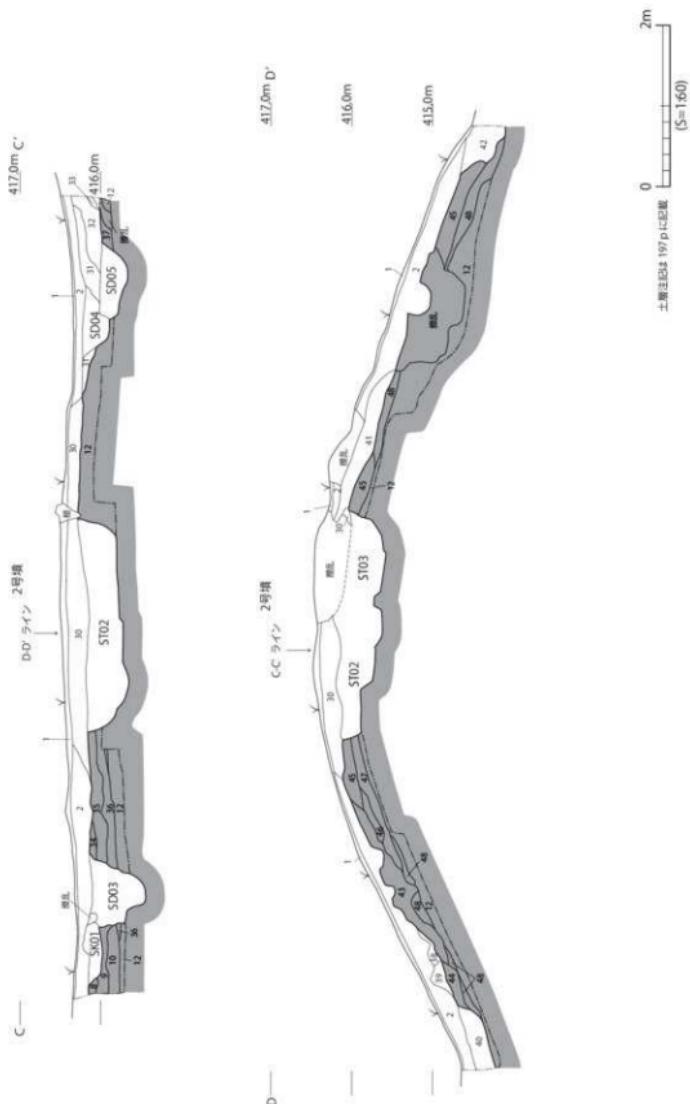
小原遺跡では発掘調査の結果、古墳4基を確認した。基本土層は墳丘上に設定したA-A'～G-G'ラインで確認したほか、必要に応じてトレンチ等を設けて堆積状況を確認した(第120図)。各土層の観察表は章末に付している(第46表)。

基本土層(第121図～第123図、図版67・68)は、大きく表土(1層)、自然堆積土(2・3層)、墳丘流土(4・5・13～15・31～33・38～42・49・50・53・55・56層)、墳丘盛土(6・30層)、地山(7～12・16～29・34～37・43～48・51・52・54・57～62層)に分けられる。表土および自然堆積土は調査区のほぼ全面に堆積し、古墳時代前期前葉の土師器、縄文土器、石器などが出土している。墳丘流土は、墳丘裾部を中心に堆積している。盛土と比べて粘性やしまりが弱いことから、盛土由来の二次堆積土と判断した。ただし、5・31～33・38・39・41・55・56層などは、堆積状況や土質などから盛土の可能性もある。墳丘盛土として確実なものは、1号墳と2号墳の墳頂部で検出した6層と30層である。6層は厚さ約20cmで、層中には1mmから拳大の赤色礫や古墳時代前期前葉の土師器が含まれている。30層は厚さ約25cmで、1cm～5cm程度の明褐色灰色のブロックを含む。礫や遺物は見られなかった。

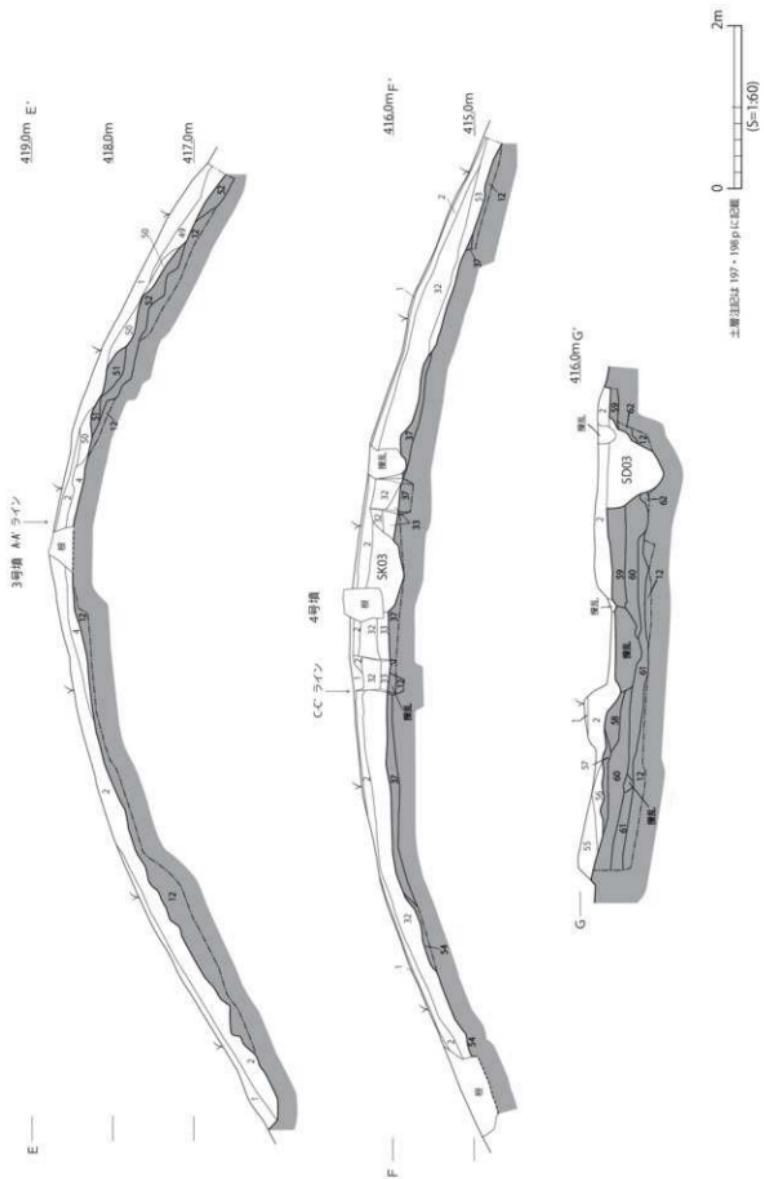
地山は、尾根筋に沿って比較的水平な土層堆積が見て取れる(A-A'・C-C'・G-G'ライン)。上層から、第1黒色土(7層)、第1火山灰層(8層)、第2黒色土(9・60層)、第2火山灰層(10・35・61層)、漸移層(11・36・62層)、橙色・赤橙色土(12・37層)に分けられ、このうち黒色土と火山灰層は、主に調査区中央の谷部で確認された。これらの土層は、志津見ダム関連の発掘調査で確認された三



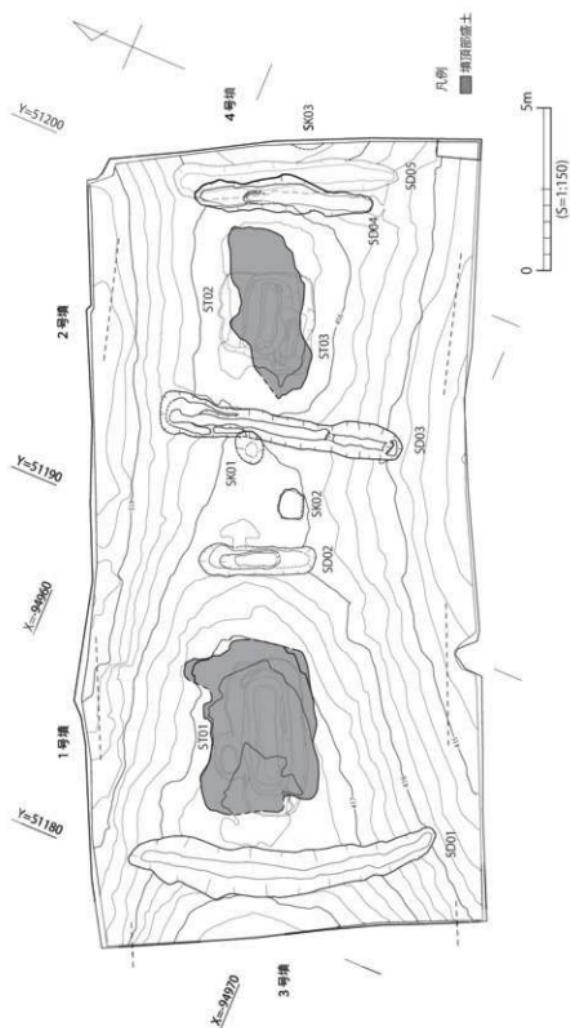
第121図 小原遺跡土層断面図（1）



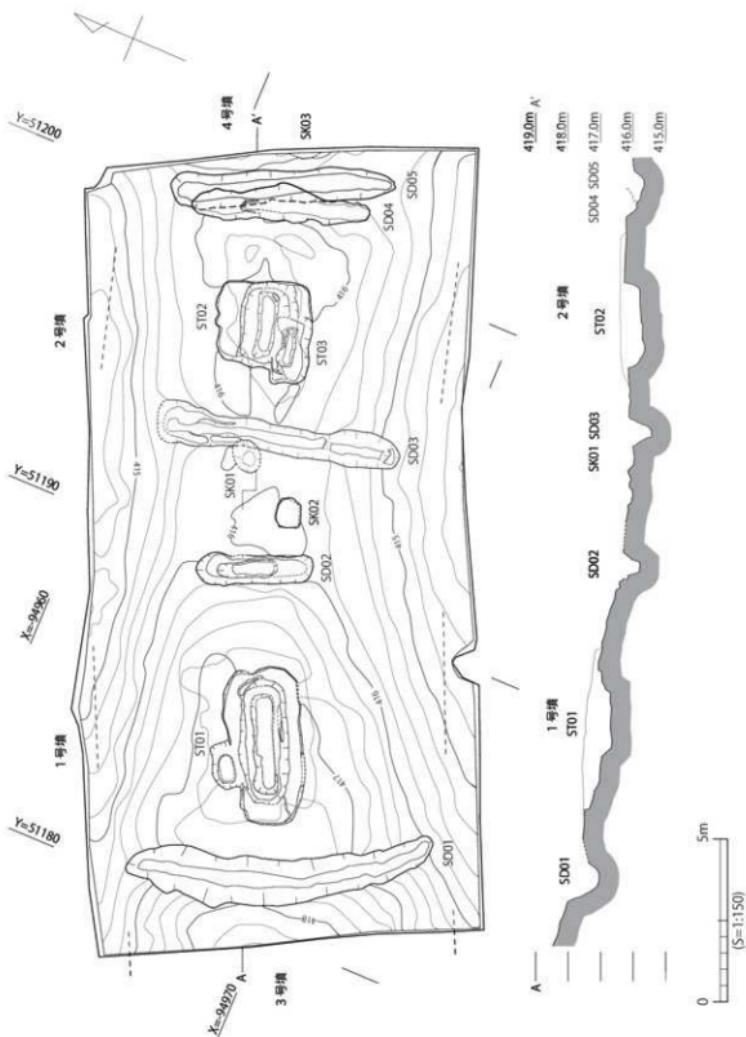
第122図 小原遺跡土層断面図（2）



第123図 小原遺跡土層断面図（3）



第124図 小原遺跡墳丘上面遺構配置図



第125図 小原遺跡遺構配置図

瓶山起源の土層堆積（島根県1998・2002など）と酷似しており、本遺跡の黒色土および火山灰層は、それぞれが「第1黒色土層」、「第1ハイカ層」、「第2黒色土層」、「第2ハイカ層」に相当すると思われる。南北軸（B-B'・D-D'・E-E'・F-Fライン）では、地形の傾斜が大きいためか堆積の乱れが目立つ。黒色土や火山灰層と思われる土層は確認できるものの、堆積状況が悪く二次的に流れたものと推測される。

### 第3節 検出遺構とその遺物

本調査では、古墳4基（小原1号墳～4号墳）と古墳に伴う墓壙（ST01～ST03）、区画溝と推測される溝（SD01～SD05）、土坑（SK01～SK03）を検出した（第124図・第125図）。1号墳と2号墳は墳丘全体の調査を行い、それぞれの墳頂部で盛土と墓壙を確認している。3号墳と4号墳は墳裾付近の一部を調査したのみで、墳丘は調査区外へと続いている。なお、遺構の土層観察表（第47表～第55表）、出土遺物観察表（第56表）は章末に付している。

#### 1. 1号墳・3号墳周辺の調査

##### （1）1号墳・3号墳の墳丘規模と墳丘構造

1号墳は南北約10.7m、東西約9.1mの方墳である（第126図）。現高は、SD01底面から0.52m、SD02底面から1.76mを測る。墳裾は、南北は丘陵斜面の傾斜変換点が利用され、東西はSD01とSD02によって区画されている。ただし南北の墳裾は、区画溝の端部の位置から復元すると、もう少し内側にくる可能性がある。SD01は墳丘西側で検出した区画溝で、1号墳の墳丘を囲むように弧を描いている。SD02は1号墳東側の区画溝と考えられるが、SD01と比べて短いため別の機能も想定される。溝中央に土坑状の落ち込みが認められ、溝内に埋葬施設が存在していた可能性もある。現状の墳頂平坦面は、南北約3.0m、東西約5.5mである。

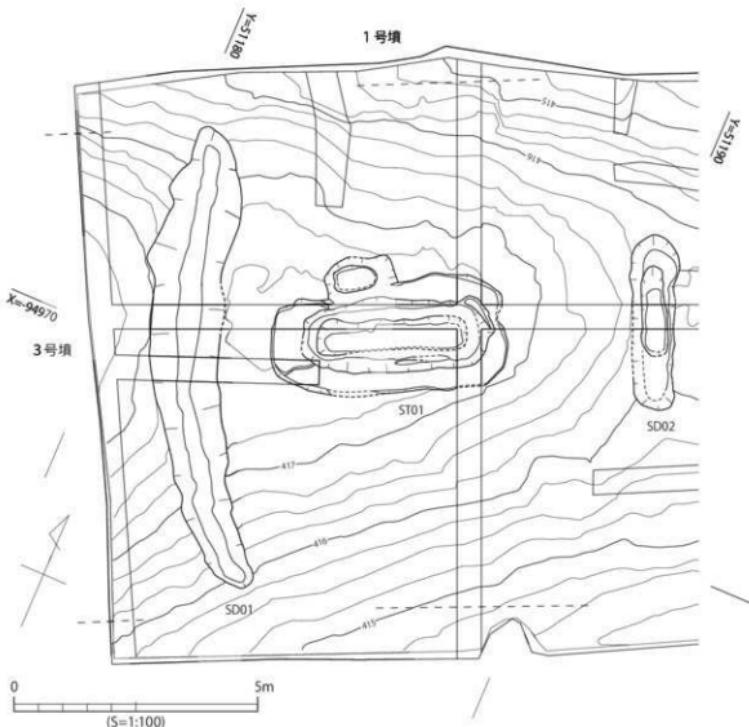
1号墳の墳丘は、尾根筋を溝で区切り、地山削り出しと盛土で構築される。葺石などの外表施設は認められなかった。盛土（第121図6層）は墳頂部の南北約3.5m、東西約5.2mの範囲で検出され、盛土下面の墓壙（ST01）を覆うように施されている（第124図・図版70）。盛土中には、拳大の礫や古墳時代前期前葉の土師器が含まれていた。ST01は、盛土直下の平坦な地山上面（第121図7・12・18層）で検出した。墳頂部を削って平坦面を作出した後に、墓壙を構築したと推測される。

3号墳は調査区西端で確認した。調査区内に盛土は見られなかったが、測量図やE-E'ラインの傾斜変換点などから、調査区内に墳裾の一部が含まれていると判断した。墳丘は調査区外へ続いており、地形測量図から1辺10m程度の方墳と推測される。

##### （2）墓壙

###### ST01（第127図・図版70～71）

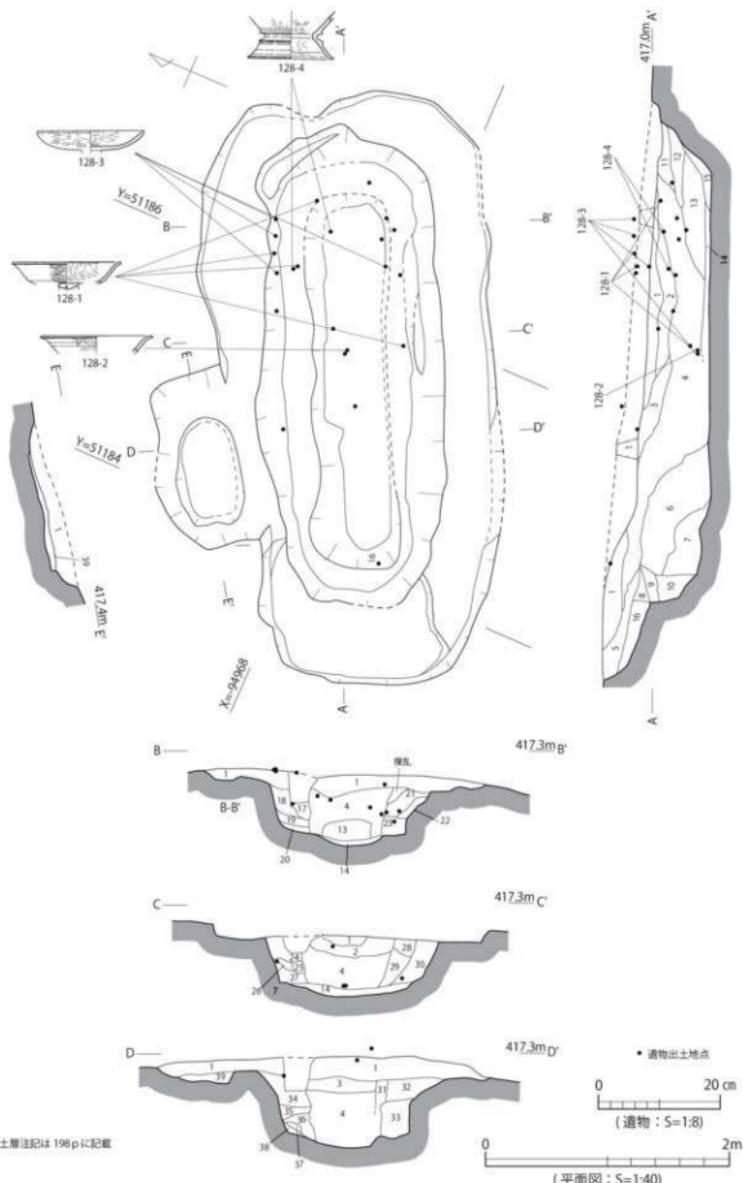
ST01は、1号墳墳頂部の平坦面で検出した<sup>(1)</sup>。検出面は盛土（第121図6層）直下の地山上面（同図7・12・18層）である。尾根頂部の地山を削って、平坦面を作出した後に掘り込まれたと思われる。墓壙は、周間に浅いテラスを持つ二段墓壙である（第127図）。墓壙一段目は、長さ約4.8m、幅約2.4mで、深さは最も深いところで約0.4mを測る。平面は隅丸長方形を呈し、北側の長辺に長さ約1.4m、幅約0.8mの張り出しが認められる。墓壙二段目は、長さ約3.9m、幅約1.5m、深さ約



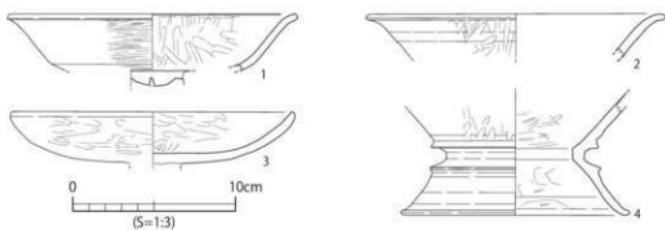
第126図 小原1号墳・3号墳平面図

0.6mで、平面形は隅丸長方形を呈する。壁面はほぼ垂直に掘り込まれているが、北東側などはやや緩やかな傾斜で掘削されている。底面は僅かに窪んでいる。

墓壙内の土層(第127図)は、覆土(1~7層)、裏込め土(8~13・17~30・32~38層)、木棺痕跡(31層)、整地土(14~16層)に分けられる。整地土は、墓壙一段目と二段目に認められる。16層は墓壙一段目の底面に敷かれ、床面が整えられている。墓壙二段目に切られていることから、一段目の床面を整地した後に二段目を掘り込んだことが分かる。14層・15層は墓壙二段目の整地土である。墓壙二段目の底面は緩く窪んでいるが、整地土を敷くことによって水平に整えられている<sup>(2)</sup>。棺痕跡はほとんど確認できず、僅かに31層が木棺側板の痕跡の可能性があるのみである。裏込め土や整地土の堆積状況などから、組合せ式の箱形木棺が設置されていたと推測される。木棺設置後に、棺外に裏込め土を充填している。裏込め土はしまりの強い層が多く、地山由来と思われる粘質土のブロックが詰まっているものもある。両側板と北西側の小口板の裏込め土はほぼ垂直に堆積しているが、北東側小口板の裏込め土(11~13層)は棺内に向かって大きく傾斜している。また、B-B'の土層断面では棺内に13層が侵入している様子を読み取れる。これらは、北東側の小口板が腐朽した後に、裏込め土が土圧で棺内に流入した状況を示していると考えられる。裏込め土の高



第127図 ST01実測図



第128図 ST01出土遺物

さは、墓壙一段目の床面とほぼ対応している。木棺の規模は、裏込め土の堆積状況から推測すると長さ約2.85m以上、幅約0.58m、高さ約0.5m以上となる。覆土は、墓壙中央に向かってレンズ状に堆積している。墓壙全体を覆う封土と考えられ、棺の腐朽に伴い棺内に流入したものと思われる。頭位方向は不明だが、北東側の方が墓壙幅が広く、土師器片が多く出土していることなどから、北東方向の可能性がある。

墓壙一段目張り出し部の下面には、長さ0.9m、幅0.5m、深さ0.1mの土坑状の窪みを検出した。埋土は39層である。性格は不明だが、墓壙一段目と同じ覆土（1層）で覆われていたことから、墓壙に付属する施設であったと思われる。

遺物は、古墳時代前期前葉の土師器が出土した。いずれも破片で、墓壙の北東側で多く出土している。出土層位は覆土と裏込め土で、底面や整地土からは出土していない。接合資料や同一個体資料が多く見られ、覆土と裏込め土など異なる層位間で接合するものや、盛土・SD02・SD03といった墓壙外の土師器との接合・同一個体関係も確認されている。SD02やSD03は1号墳より下った谷間にあることから、本来1号墳頂部にあった土師器が流れたものと推測される。この他に墓壙内に副葬品は認められなかった。遺構の時期は、出土遺物より古墳時代前期前葉と推測される。

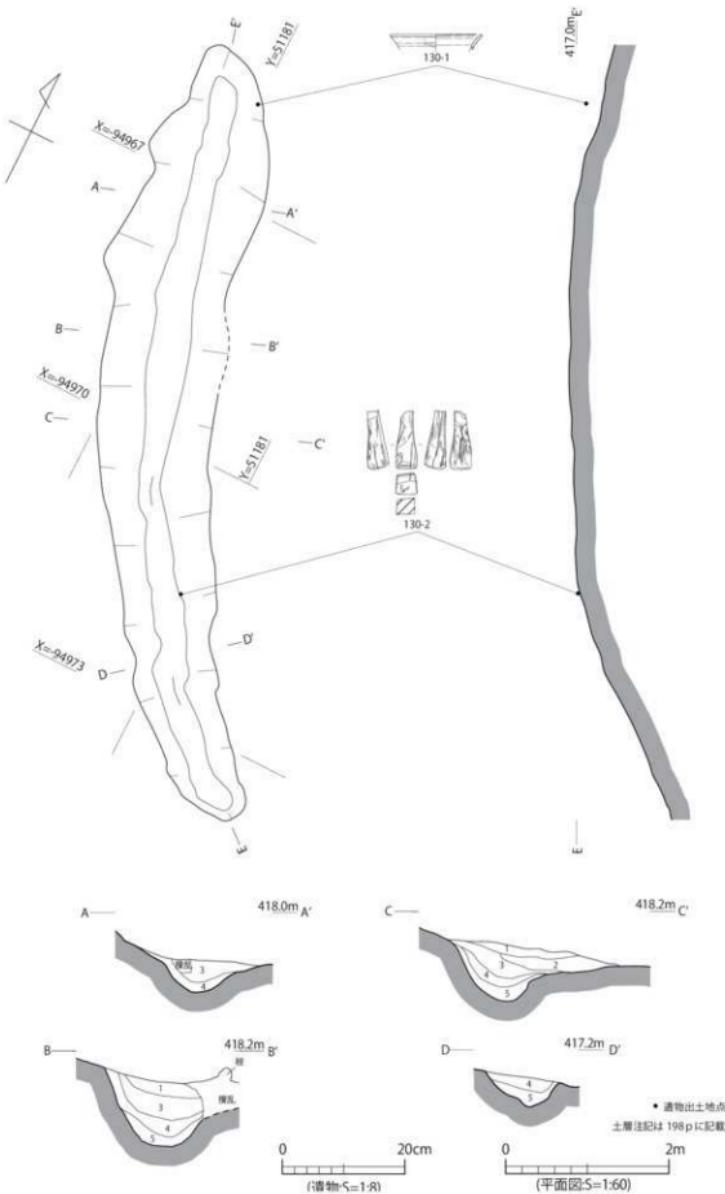
#### ST01出土遺物（第128図、図版77・80）

ST01の出土遺物は、すべて古墳時代の土師器である。第128図1・2は高環である。1の口縁は外反し、端部はナデによって面取りされている。底部は直径約2.6cmの円盤が充填され、円盤中央には、直径約4mmの刺突痕が見られる。外面はハケメやミガキ、内面はナデやミガキが施されている。2は口縁が外反し、端部は丸い。内外面ともにナデ、ミガキが施される。3は低脚環である。口縁は内湾し、端部は僅かに面取されている。底部外面に、脚部の接合痕が見られる。外面は全面ミガキが施されている。4は小型の鼓形器台である。筒部の突帯は鋭く、内面の屈曲部は面取りされている。脚部は薄く、僅かに外反する。外面はミガキ、内面はミガキやヘラケズリなどが施されている。古墳時代前期前葉の小谷2式に比定される。

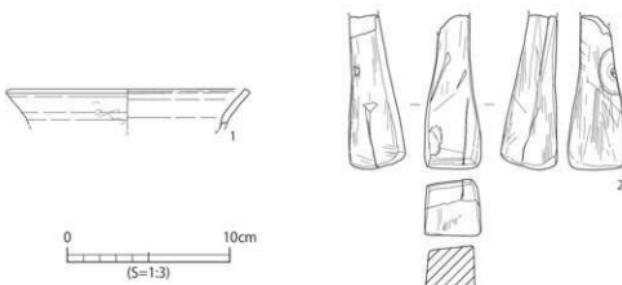
#### （3）溝

##### SD01（第129図、図版72）

SD01は、調査区西端の1号墳と3号墳の間で検出した。長さ約9.5m、幅約1.5m、深さ約0.8mを測る。尾根筋を南北に分断するように掘り込まれており、平面形は1号墳を囲むように緩やかに弧を描いている。断面はU字状を呈し、溝中央が深く端になるにつれて浅くなっていく。土層はレンズ状の堆積が見られ<sup>(3)</sup>、自然に埋没したと思われる。SD01は、平面形や1号墳との位置関係から、1号墳西側の区画溝と推定される。遺構の時期は、出土遺物より古墳時代前期前葉と考えらえる。



第129図 SD01実測図



第130図 SD01出土遺物

**SD01出土遺物 (第130図、図版77)**

第130図1は土師器の壺である。口縁は外反し、端部は面取りされている。口縁内面に段が見られ、布留甕の可能性がある。時期は小谷2式並行と思われる。2は砥石である。上部は欠損しており、作業面には主に縱方向の削痕が明瞭に残る。下端部に施溝分割の溝が、裏面には分割の際の割れ円錐が認められるなど、砥石製作時の痕跡が残されている。

**SD02 (第131図、図版73)**

SD02は1号墳東側で検出した。長さ約3.6m、幅約1.0m、深さ約0.6mを測り、溝中央に土坑状の落ち込みを伴う。断面は箱形を呈し、埋土は上下2層である。上層より、およそ1個体分の土師器壺(第132図1)が出土している。ST01やSD03から出土した土師器と接合・同一個体関係が認められ、本来は1号墳頂部あったものが流れ込んだものと思われる。SD02は、1号墳埴丘を挟んでSD01と対になる位置に作られていることから、1号墳東側の区画溝と考えられる<sup>10)</sup>。溝中央に掘り込まれた土坑状の落ち込みは、SD01には見られない特徴で、形状から溝内に構築された埋葬施設の可能性がある。遺構の時期は、出土遺物より古墳時代前期前葉と推測される。

**SD02出土遺物 (第132図、図版78)**

第132図1は土師器の壺である。口縁部は大きく外傾し、端部は面取りされている。二重口縁の下端部に突出部を持つ。頸部には櫛状工具による1段の羽状文が施され、胴部にはゆるやかな波状文が描かれる。胴部外面にはハケメ、内面にはヘラケズリが見られる。底部は丸底で、内面には指押しの跡が認められる。古墳時代前期前葉の小谷2式に比定される。

**(4) 1号墳・3号墳周辺の出土遺物**

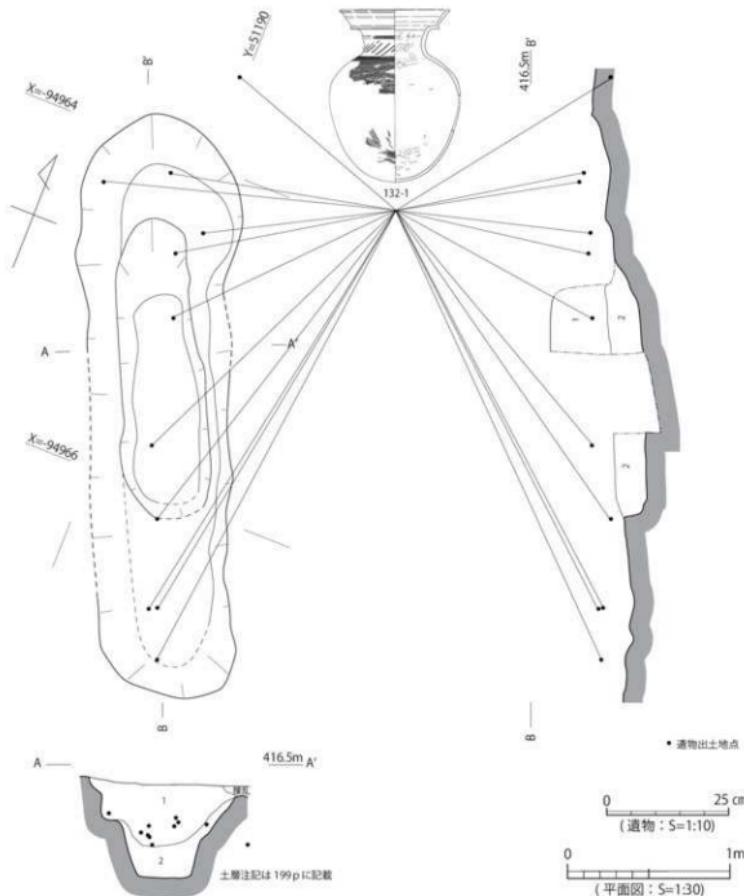
第133図1～4は、1号墳・3号墳周辺から出土した遺物である。いずれも小片で、表土や自然堆積土から出土している。

**土師器 (第133図1～3、図版78)**

1は鼓形器台の口縁部と思われる。端部が丁寧に面取りされ、内面には丁寧なミガキが施される。2・3は鼓形器台の脚部で、2は屈曲した端部を持ち、内面にはヘラケズリが見られる。3は脚端部が面取りされている。

**石器 (第133図4、図版78)**

4は磨製石斧である。大幅に欠損しており、刃部には微細剥離痕が認められる。

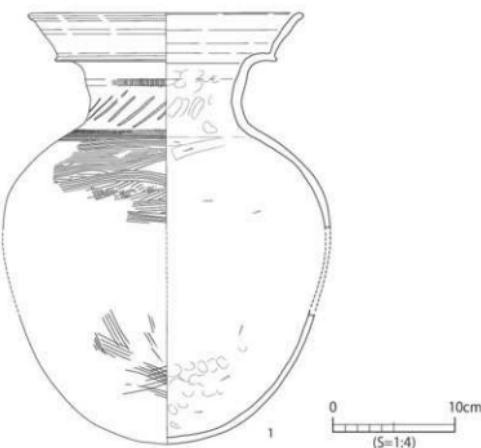


第131図 SD02実測図

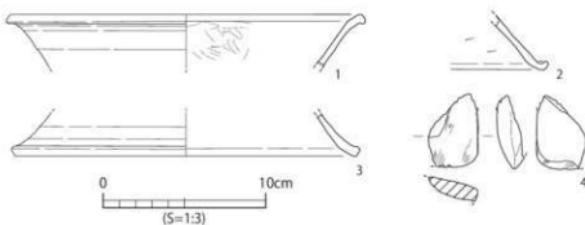
## 2. 2号墳・4号墳周辺の調査

### (1) 2号墳・4号墳の墳丘規模と墳丘構造

2号墳は南北約10.5m、東西約7mの方墳である(第134図)。現高は、SD03底面から0.96m、SD04底面から0.52m、SD05底面から0.74mを測る。南北の墳裾は尾根斜面の傾斜変換点としたが、南北とも区画溝の端部より外側に位置するため、本来の墳裾はもう少し内側に存在していたのかかもしれない。墳丘西側にはSD03、東側にはSD04・SD05が構築されている。2号墳との位置関係から2号墳の区画溝と推測されるが、SD04とSD05のいずれかは4号墳の西区画溝の可能性がある。SD03は、SD02と同じく溝底面に土坑状の落ち込みを伴い、埋葬施設の存在が想定される。現状の墳頂平坦面は南北約2.9m、東西約4.4mである。



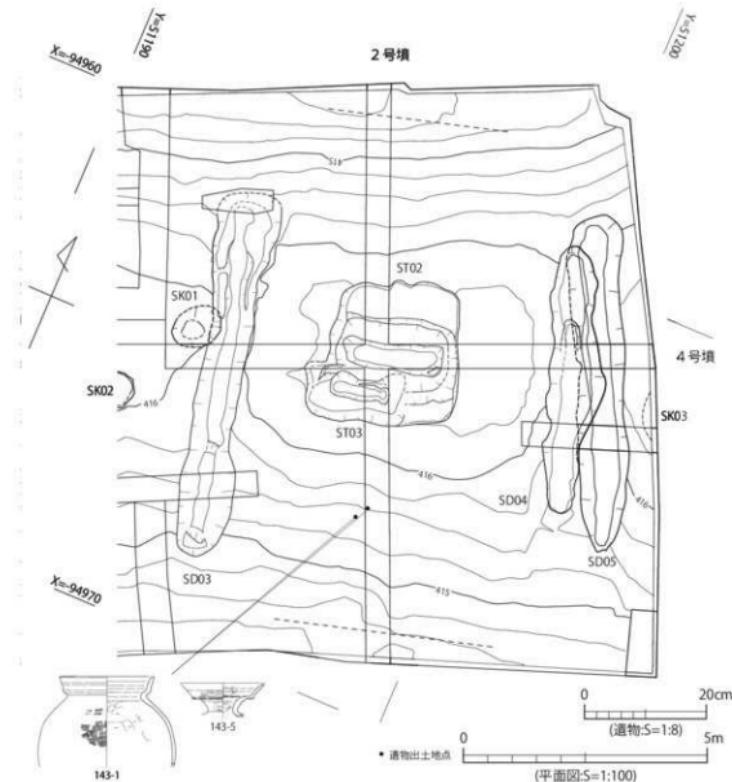
第132図 SD02出土遺物



第133図 小原1号墳・3号墳周辺出土遺物

墳丘は、尾根筋を溝で区切り、盛土と地山の削り出しによって構築されている。葺石などの外表施設は認められなかった。盛土（第122図30）は、墳頂部の南北約2.1m、東西約5.1mの範囲で、下面の墓壙（ST02・ST03）を覆うような状態で検出された（第124図・図版74）。ST02とST03には切合関係が認められるが、盛土上面から掘り込まれた形跡は認められなかった。ST02およびST03は、盛土直下の地山（第122図12・35・45層）上面の平坦面で検出された。墳頂部を平坦に削り出した後に墓壙を構築したものと推測される。墳丘南側斜面では、古墳時代前期前葉の土師器がまとまって出土した（第134図、第143図1・5）。出土状況から、本来は墳頂部にあったものが二次的に移動したと思われる。

4号墳は調査区東端で確認した。墳丘端部が僅かに調査区にかかっていると思われるが、調査区内では明確な墳壙は確認できなかった。SD04もしくはSD05が、墳丘西側の区画溝となる可能性がある。墳丘は調査区外へ続き、地形測量図から東西約15m、南北約12mの方墳もしくは円墳と推測される。



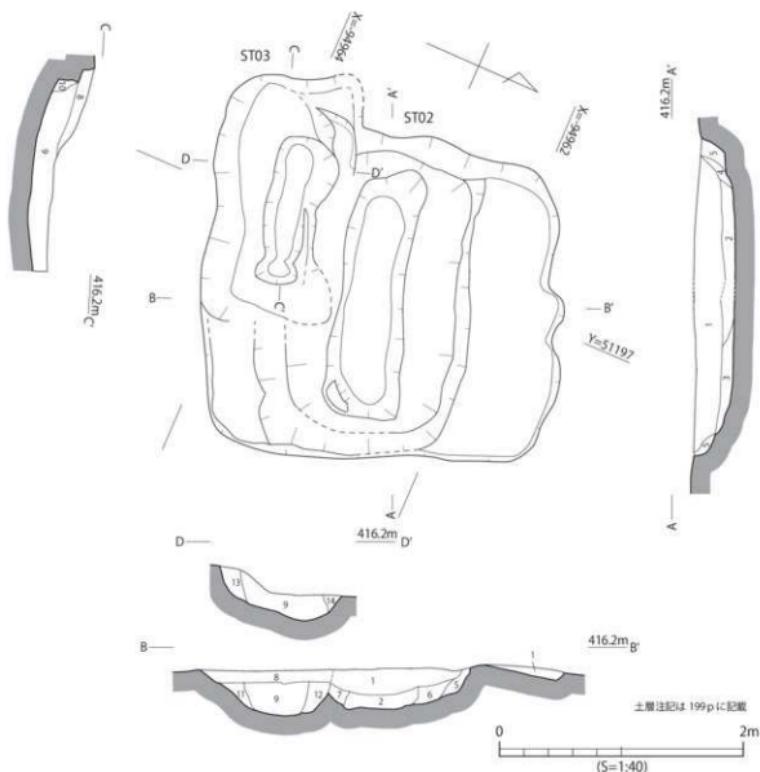
第134図 小原2号墳・4号墳平面図

## (2) 墓壙

**ST02・ST03 (第135図、図版74)**

ST02およびST03は、2号墳頂部の平坦面で検出した。ST02とST03は切合関係を持ち、土層観察の結果、ST02→ST03の順で構築されていることが分かった<sup>⑤</sup>。検出面は、盛土（第122図30層）直下の地山上面（12・35・45層）である。墳頂部の地山を平坦に削り出した後に、墓壙が掘り込まれたと推測される。

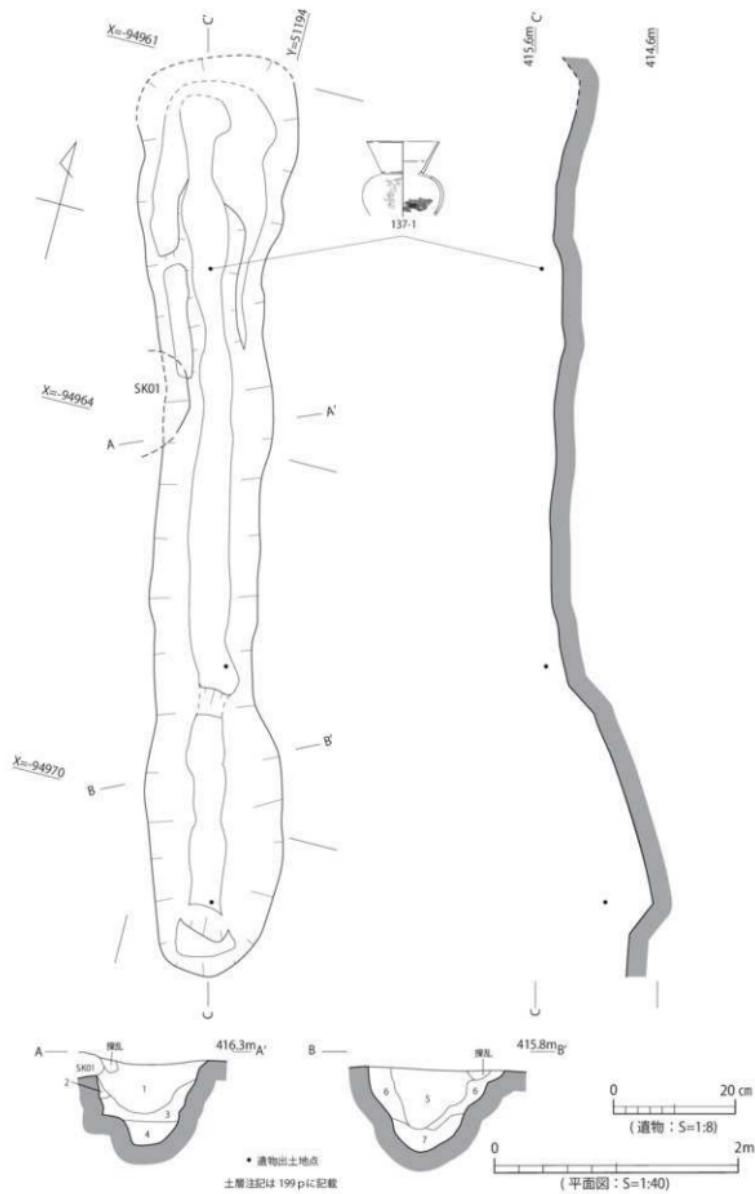
ST02は、南北二方向に浅いテラスを持つ二段墓壙である。墓壙一段目は隅丸方形を呈し、長さ約2.6m、幅約2.9m、深さ約0.1mを測る。北側のテラスは、尾根斜面に向けて傾斜している。墓壙二段目は隅丸長方形を呈し、長さ約2.3m、幅約1.7m、深さ約0.3mである。壁面は緩やかに立ち上がり、底面は僅かに窪んでいる。墓壙内の土層（第135図）は、覆土（1～3層）と裏込め土（4～7層）が認められる。裏込め土は、砂質でしまりの弱いものが多い。5層は緑灰色の砂質土である。墓壙壁面に沿って敷かれており、土質が他の土と比べてやや異質であった。7層はST03によって切



第135図 ST02・ST03実測図

られている。棺痕跡は確認できなかったが、土層の堆積状況や墓壙の形状から箱形木棺が据えられていたと推測される。木棺の規模は長さ約2.0m、幅約0.56m、高さ約0.34m以上と推測される。覆土はレンズ状に堆積し、棺の腐朽後に流入したものと思われる。覆土（1層）はST03に切られていることが予想されるが、ST03の覆土（8層）との境界は漸移的で判然としなかった。

ST03は、隅丸長方形を呈する。ST02と異なり一段墓壙のように見えるが、西側小口面で僅かに段が確認され、本来は小口側に小さなテラスが付属していた可能性がある。墓壙の規模は長さ約2.1m以上、幅約1.1m以上、深さ約0.4mを測る。小口側はほぼ垂直に掘り込まれているのに対し、長軸の側壁は緩やかに立ち上がる。底面は船底状に窪んでいる。墓壙の北壁がST02の裏込め土（7層）を切っている。墓壙内の土層（第135図）は、覆土（8・9層）と裏込め土（11～14層）が認められる。裏込め土はしまりの強いものが多い。棺痕跡は確認できなかったが、土層堆積や墓壙形状から、棺底が緩やかな船底となる木棺が据えられていたと考えられる。木棺の規模は、長さ約1.48m以上、幅約0.4m、高さ約0.45m以上と推測される。覆土はレンズ状の堆積を呈し、棺の腐朽後に流入したものと思われる。ST02・ST03ともに頭位方向は不明である。遺物は出土していない。



第136図 SD03 実測図

### (3) 溝

#### SD03 (第136図、図版75)

SD03は2号墳西側で検出した。尾根筋を南北に区切るように構築されている。長さ約7.5m、幅約1.1m、深さ約0.7mを測り、南端に土坑状の落ち込みを伴う。北西側の長辺の一部がSKO1（11世紀前半～12世紀中頃）によって切られている。溝の断面はU字状もしくは箱状を呈する。遺物は、古墳時代前期前葉の土師器が出土しており、ST01やSD02から出土した土師器と接合・同一個体関係を持つもの（第132図1）や、2号墳周辺より出土した土師器と同一個体関係を持つもの（第137図1）がある。SD03は、2号墳との位置関係から2号墳西側の区画溝と考えられる。溝底面で認められた土坑状の落ち込みは、SD02で検出されたものと類似しており、区画溝内に設けられた埋葬施設の可能性がある。時期は、出土遺物より古墳時代前期前葉と推測される。

#### SD03出土遺物 (第137図、図版78)

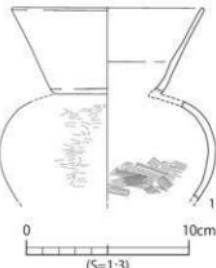
第137図1は土師器の直口壺である。口縁部は外傾し、端部は丸い。胴部は丸みを持ち、棒ミガキやハケの痕跡が残る。器形や胎土から、畿内系の模倣品と推測される。古墳時代前期前葉に比定される。

#### SD04・SD05 (第138図、図版75・76)

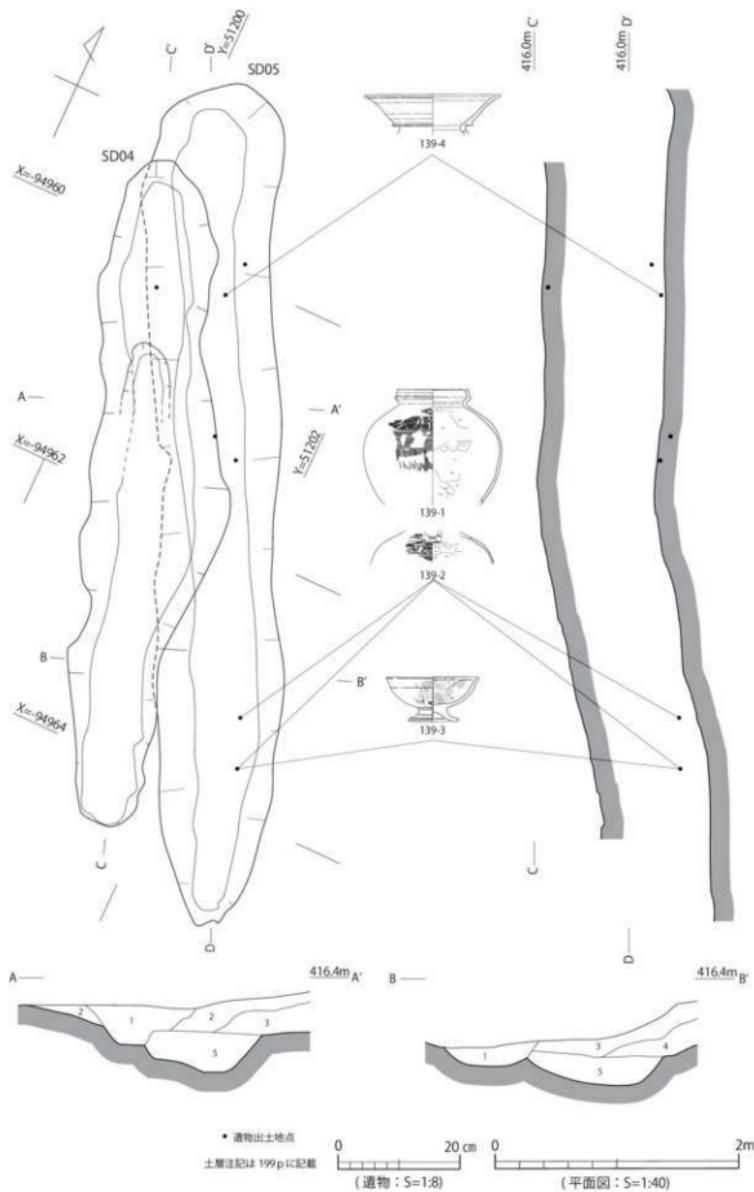
SD04およびSD05は、調査区東端の2号墳と4号墳の間で検出した。検出面や切合関係からSD05→SD04の順番に構築されたことが分かる。両溝とも、尾根筋を南北に区切るように構築されている。SD04は長さ約5.5m、幅約1.1m、深さ約0.3mを測る。断面はU字状を呈し、埋土は1層である。溝中央に性格不明の浅い窪みが認められる。遺物は土師器小片のみで、詳細な時期は不明である。SD05は、SD04の下層で検出した。長さ約6.9m、幅約1.1m、深さ約0.3mを測る。断面はU字状を呈し、埋土は5層である。SD05からは、古墳時代前期前葉の土師器が多く出土し、2号墳周辺より出土した土師器との接合関係（第139図4）が確認されている。SD04とSD05は、2号墳・4号墳との位置関係から古墳の区画溝と考えられる。しかし、それぞれがどちらの古墳に伴う溝かは判断できなかった<sup>回</sup>。遺構の時期は、出土遺物よりSD05が古墳時代前期前葉、SD04はそれ以後と推測される。

#### SD05出土遺物 (第139図、図版79・80)

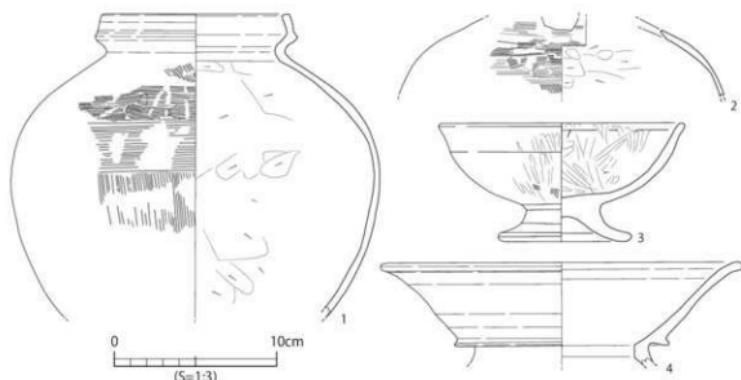
第139図1～4は土師器である。1は短い二重口縁を持つ壺である。口縁は内傾し、下端部は緩やかに突出する。口縁端部は面取りされている。外面に炭化物が付着している。外面には縦横のハケメが施され、内面はヘラケズリの痕跡が明瞭に残る。2は壺の胴部で、頸部付近が外面からの衝撃によって欠損している。1と同じ地点で出土しており、同一個体の可能性がある。3は低脚壺である。壺部は楕円形を呈し、口縁端部が僅かに外反する。内外面ともにミガキが施される。4は鼓形器台である。口縁は大きく外反し、底部には突帯を持つ。内外面にはナデが施されている。これらの土器は、古墳時代前期前葉の小谷2式に比定される。



第137図 SD03出土遺物



第138図 SD04・SD05実測図



第139図 SD05出土遺物

#### (4) 土坑

##### SK01 (第140図、図版76)

SK01は調査区中央で検出した。SD03の西側長辺の一部を切っている。平面形は円形と推測され、断面は皿状を呈する。長さ約1.0m、深さ約0.18mを測る。埋土に炭を多量に含み、遺物は出土していない。炭化物の放射性炭素年代測定により、11世紀前半～12世紀中頃の年代が得られている(第7章第4節)。

##### SK02 (第141図、図版76)

SK02は調査区中央で検出した。平面は闊丸方形で、断面は皿状を呈する。長さ約0.9m、幅約0.8m、深さ約0.1mを測る。埋土には多量の炭を含んでいる。遺物は出土していない。

##### SK03 (第142図)

SK03は調査区東端で検出した。遺構の端が僅かに壁にかかっており、平面形は確認できなかつた。断面は皿状を呈し、深さは約0.45mを測る。埋土に炭を含んでいる。遺物は出土していない。

#### (5) 2号墳・4号墳周辺の出土遺物

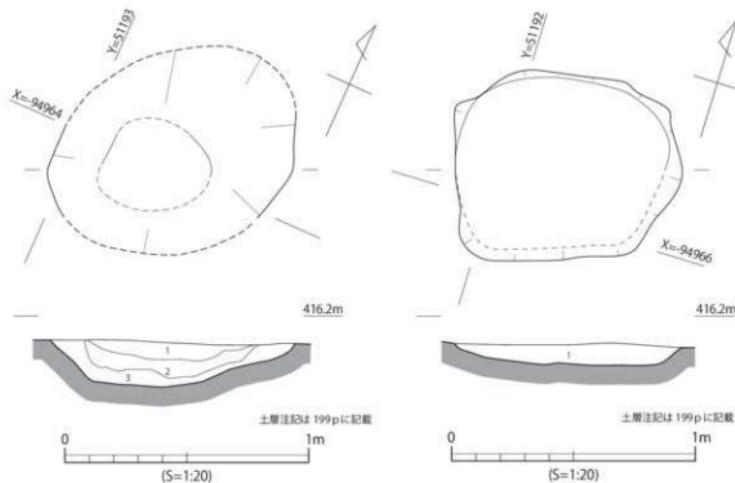
1～6は、2号墳・4号墳周辺から出土した遺物である。このうち1と5は2号墳の墳丘斜面でまとまって出土しており(第134図)、本来は2号墳墳頂部付近にあったものと思われる。

##### 土師器 (第143図1～5、図版80)

1～4は甕である。1の口縁は僅かに外傾し、下段は緩く突出する。口縁端部は面取りされ、胴部外面には炭化物が付着している。外面はハケ、内面はヘラケズリが施される。2と3はしっかりと面取りされた二重口縁を持ち、下端には明瞭な突帯を持つ。これらの土器は、古墳時代前期前葉の小谷2式に比定される。4は布留甕の模倣品と推測される。頸部は緩やかに立ち上がり、胴部には列点文が施される。器壁は非常に薄く、外面にはハケメ、内面にヘラケズリの痕跡が残る。5は小型の二重口縁壺で、模倣品と思われる。口縁は大きく外傾し、下端部に突帯が垂下する。頸部から胴部にかけては、折れ曲がるように屈曲する。内外面ともにミガキが施される。

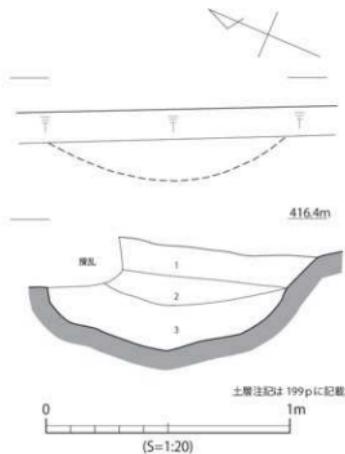
##### 縄文土器 (第143図6、図版80)

6は縄文土器の深鉢胴部である。内面にナデ、外面に条痕が認められる。

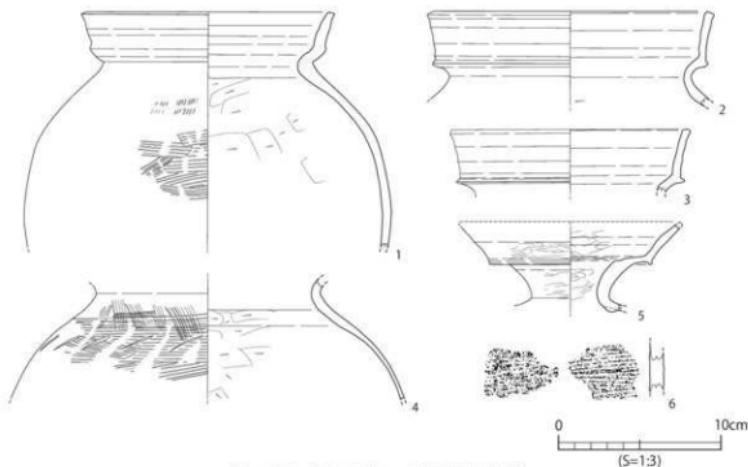


第140図 SK01実測図

第141図 SK02実測図



第142図 SK03実測図



第143図 小原2号墳・4号墳周辺出土遺物

## 第4節 小結

小原遺跡では、分布調査で確認されたマウンド状の高まりを中心に調査を行い、その結果、古墳4基（小原1号墳～4号墳）を確認した。このうち1号墳と2号墳は、一辺がおよそ10m程度の方墳で、尾根筋を区切るように区画溝を施し、地山の削り出しと盛土によって構築されていることが判明した。築造時期は、墓壙や区画溝、墳丘周辺の出土遺物より古墳時代前期前葉の小谷2式期と推測される。

1号墳は南北約10.7m、東西約9.1mを測り、東西の墳裾は区画溝で区画される。埋葬施設は、墳頂部の平坦面で木棺直葬の二段墓壙1基を検出した。墓壙内には、組合せ式の箱形木棺が据えられていたと推測される。明確な副葬品は出土していないが、盛土や墓壙内の埋土、裏込め土から多数の土師器片が出土している。2号墳は南北約10.5m、東西約7mを測り、1号墳と同様に東西に区画溝を持つ。埋葬施設は、墳頂部平坦面に切合関係を持つ木棺直葬の墓壙2基を確認した。箱形木棺および、棺底が緩やかな船底状となる木棺が据えられていたと推測される。副葬品は出土していない。1号墳・2号墳とともに、地山に直接墓壙を掘り込み、埋葬を行った後に盛土を施している。このような墓壙の築造方法は、「掘込墓壙c類」（和田1989）に分類される。この他、両古墳とも区画溝内に埋葬施設を考えらるる土坑状の落ち込みを確認している。同様の遺構は、松江市茶山遺跡（松江市2014）などでも確認されており、当期の埋葬方法を考えるうえで興味深い。

1号墳と2号墳の築造は、ともに小谷2式期に行われている<sup>⑦</sup>。3号墳や4号墳の時期は不明であるが、周囲からも古墳時代前期前葉以外の土器は出土していないため、近い時期に築造されたと推測される。よって、これらの古墳群は、限られた時期にあまり間を置かずに構築されていったと推測される。

## 註

- (1) ST01検出当初は、尾根に直行する方向に主軸を持つ2基の墓壙が切り合っている状況を想定していた。しかし、掘削中に尾根沿いに主軸を持つ1基の墓壙であることが判明したため、土層断面などを再設定して調査を行った。
- (2) 14層の南西側は、墓壙中央付近で上層との境界が判然としなくなったため、確認することができなかった。
- (3) C-Cの土層断面では、1層・2層と3層以下がやすれて堆積している状況が確認された。別の溝が切り合っている可能性が想定されたが、両者の土質がよく似ており他の土層断面では消失していたため、平面的に検出することはできなかった。
- (4) SD02は他の溝と比べて長軸が短いため、トレンチを設けて確認したが遺構の延長は認められなかった。本報告では区画溝として捉えているが、土坑の可能性も想定される。
- (5) 検出時には、1号墳と同じように張り出しを持つ1基の墓壙と捉えていた。しかし、調査が進む中で2基の墓壙が切り合っていることが判明したため、主軸を再設定して調査を行った。
- (6) SD04とSD05は溝の主軸が若干異なる。2号墳の西区画溝であるSD03の軸方向を根据にするならば、SD04が2号墳東区画溝、SD05が4号墳西区画溝となり、その場合、古墳の築造順序は4号墳→2号墳が想定される。
- (7) 1号墳と2号墳の先後関係は、古墳の間に空閑地が存在するため不明である。この空閑地については、トレンチを設定して遺構の有無を確認したが、明確な遺構は検出されなかった。

## 引用・参考文献

- 島根県教育委員会1998『板屋Ⅲ遺跡』  
島根県教育委員会2002『下山遺跡』  
松江市教育委員会2014『茶山遺跡』  
和田晴吾1989「葬制の変遷」『古代史復元』第6巻、講談社

第46表 小原遺跡土層観察表

層番号	土色	備考
1	褐色砂質土	(7SYR4/4) 表土。
2	明褐色砂質土	(7SYR5/6) 粘性なし。しまり弱。明褐色土 (10YR6/6) を多量に含む。部分的に黒褐色土 (10YR3/1) が混じる。
3	にふい黄褐色砂質土	(10YR5/4) 粘性なし。しまり弱。明褐色土 (10YR6/6) を多量に含む。部分的に黒褐色土 (10YR3/1) が混じる。
4	にふい暗褐色砂質土	(7SYR5/4) 粘性なし。しまり弱。棕色土 (2.5YR6/8) のブロックを多量に含む。埴丘流土。
5	にふい黄褐色砂質土	(10YR5/4) 粘性なし。しまり弱。黄褐色土 (10YR6/6) のブロックを含む。盛土または埴丘流土か。
6	褐色粘質土	(5YR6/8) 粘性強。しまり強。參程灰色の赤色土塊を含む。盛土。
7	褐灰色砂質土	(10YR4/4) 粘性なし。しまり強。暗褐色土 (10YR3/3) か (10YR6/6) を含む。黑色土層。
8	にふい黃褐色砂質土	(10YR7/3) 粘性なし。しまり強。火山灰ブロックを多量に含む。火山灰層。
9	黒褐色砂質土	(10YR3/1) 粘性なし。しまり強。火山灰や1mm程度の白色の粒を多量に含む。黑色土層。
10	にふい黃褐色砂質土	(10YR7/3) 粘性なし。しまり強。火山灰、灰褐色土 (10YR3/1) にふい黄褐色土 (10YR7/4) のブロックを含む。火山灰層。
11	明褐色砂質土	(7SYR5/6) 粘性なし。しまり弱。暗褐色土 (7SYR5/1) を含む。漸移層。
12	褐色粘土	(5YR6/8) 粘性強。しまり強。1mm程度の明褐色土 (5YR7/0) や1mm～參大の (2.5YR7/4) 泥炭灰色土のブロック、白色の粒を含む。
13	黒褐色砂質土	(7SYR3/1) 粘性なし。しまり弱。黄褐色土 (7SYR5/6) や明褐色土の火山灰ブロック (7SYR7/1) をわずかに含む。埴丘流土。
14	褐灰色砂質土	(7SYR4/1) 粘性なし。しまり弱。黄褐色土 (7SYR6/6) を含む。埴丘流土。
15	暗赤褐色砂質土	(2.5YR2/2) 粘性なし。しまり弱。棕色土 (2.5YR6/8) のブロックを含む。埴丘流土。
16	黒褐色砂質土	(10YR3/2) 粘性なし。しまり弱。明褐色土 (10YR6/6) やにふい黄褐色土 (10YR7/2) の火山灰ブロック、1mm程度の白色粒 (10YR6/6) を含む。亂層か。
17	暗灰黄色砂質土	(2.5YR2/2) 粘性なし。しまり弱。明褐色土 (2.5YR6/6) を含む。
18	黑褐色砂質土	(10YR4/1) 粘性なし。しまり弱。暗褐色土 (7SYR4/1) が混じる。
19	褐灰色砂質土	(10YR4/1) 粘性なし。しまり強。明褐色土 (10YR6/6) を含む。黑色土。
20	にふい黃褐色砂質土	(10YR7/3) 粘性なし。しまり強。砂質の火山灰ブロックを多量に含む。
21	黑褐色砂質土	(10YR4/1) 粘性なし。しまり弱。砂粒を多く含む。黑色土。
22	にふい黃褐色砂質土	(10YR7/2) 粘性なし。しまり強。褐灰色土 (10YR4/1) の火山灰ブロックを含む。
23	褐灰色砂質土	(10YR4/1) 粘性なし。しまり強。1mm程度の白色粒 (10YR6/6) を含む。黑色土か。
24	灰白色砂質土	(10YR7/1) 粘性なし。しまり強。灰白色土 (10YR7/1) の火山灰や黄褐色土 (10YR6/6)などを含む。
25	黃褐色砂質土	(3.5YR6/8) 粘性なし。しまり弱。褐灰色土 (3.5YR6/6) を含む。漸移層。
26	黃褐色砂質土	(3.5YR6/8) 粘性なし。しまり弱。棕色土 (3.5YR6/6) のブロックを含む。漸移層。
27	暗赤褐色砂質土	(2.5YR2/2) 粘性なし。しまり弱。棕色土 (3.5YR6/6) を含む。
28	淡黃色砂質土	(2.5YR4/4) 粘性なし。しまり弱。灰白色土 (2.5YR7/1) のブロックを含む。漸移層。
29	にふい暗褐色砂質土	(2.5YR5/6) 粘性なし。しまり弱。漸移層。
30	黃褐色粘質土	(7SYR7/8) 粘性強。しまり強。1cm～5cm程度の明褐色土 (7SYR7/1) のブロックを含む。盛土。
31	灰オリーブ色砂質土	(3.5YR5/8) 粘性なし。しまり弱。棕色土 (2.5YR6/8) のブロックや少量の灰、黃褐色土 (10YR6/6) を含む。盛土または埴丘流土か。
32	褐灰色砂質土	(3.5YR4/2) 粘性やや強。しまり弱。明褐色 (5B7/1), 棕色 (2.5YR6/6) の粒、黃褐色土 (2.5YR7/8) を含む。盛土または埴丘流土か。
33	にふい砂質砂質土	(7SYR6/4) 粘性なし。しまりやや強。明褐色土 (2.5YR7/1) の粒を含む。盛土または埴丘流土か。
34	明黃褐色砂質土	(2.5YR7/8) 粘性なし。しまり弱。5mm程度の黃灰土 (2.5YR7/1) のブロックや褐色土 (3YR7/8) を少量含む。
35	暗灰黄色砂質土	(2.5YR2/2) 粘性なし。しまり弱。黃灰土 (2.5YR7/1) のブロックや黃褐色土 (2.5YR7/1), 棕色土 (3YR7/8) を含む。火山灰層か。
36	浅黃色砂質土	(2.5YR7/4) 粘性なし。しまり弱。1mm程度の黃灰土 (2.5YR7/1) の粒を含む。漸移層か。
37	赤褐色砂質土	(10YR6/8) 粘性なし。しまり弱。灰白色土 (3.5YR4/1) の粒を含む。
38	褐色砂質土	(10YR4/4) 粘性強。しまりやや強。5mm程度の明褐色土 (2.5YR7/1) の粒、盛土または埴丘流土か。
39	暗灰黄色砂質土	(2.5YR4/2) 粘性なし。しまり弱。明黃褐色土 (2.5YR7/6) を含む。盛土または埴丘流土か。
40	黃褐色砂質土	(2.5YR5/8) 粘性なし。しまり弱。黃褐色土 (2.5YR7/6) を含む。埴丘流土。
41	黃褐色砂質土	(10YR5/6) 粘性なし。しまり弱。にふい黃褐色土 (10YR5/4) や褐色土 (2.5YR7/8), 黃褐色土 (10YR7/8) を含む。盛土または埴丘流土か。
42	灰オリーブ色砂質土	(3YR4/2) 粘性なし。しまり弱。黃褐色土 (10YR7/8) を含む。埴丘流土。
43	褐色砂質土	(10YR4/4) 粘性なし。しまり弱。棕色土 (3.5YR6/8) を含む。
44	灰褐色砂質土	(10YR4/4) 粘性なし。しまり強。棕色土 (2.5YR6/8) や白色の粒を含む。
45	灰オリーブ色砂質土	(5YR7/2) 粘性なし。しまりやや強。黃褐色土 (10YR7/8) を含む。
46	灰黃褐色砂質土	(10YR4/2) 粘性なし。しまり弱。
47	灰黃褐色砂質土	(10YR5/2) 粘性なし。しまり強。黃褐色土 (10YR6/6) を含む。
48	褐色砂質土	(2.5YR6/8) 粘性なし。しまり強。漸移層。
49	黑色砂質土	(2.5YR2/1) 粘性なし。しまり弱。黃褐色土 (2.5YR7/8) を含む。埴丘流土。
50	にふい黃褐色砂質土	(2.5YR3/1) 粘性なし。しまり弱。黃褐色土 (2.5YR7/8) のブロックを含む。埴丘流土。
51	褐灰色砂質土	(2.5YR4/1) 粘性なし。しまり弱。黑色土。
52	褐灰色砂質土	(2.5YR6/1) 粘性なし。しまり弱。黃褐色土 (2.5YR7/8) を含む。漸移層。
53	灰黃褐色砂質土	(10YR6/2) 粘性なし。しまり強。赤褐色土 (10YR6/6) を含む。埴丘流土または地山か。
54	灰黃褐色砂質土	(10YR6/2) 粘性なし。しまり弱。
55	明褐色砂質土	(2.5YR5/6) 粘性なし。しまり弱。黃褐色土 (2.5YR7/8) を含む。盛土または埴丘流土か。
56	暗灰黄色土	(2.5YR5/2) 粘性なし。しまり弱。黃褐色土 (2.5YR7/8) を含む。盛土または埴丘流土か。

番号	土色	備考
57	にふい黄褐色砂質土	(10YR5/4)
58	灰褐色砂質土	(7.5YR5/2)
59	明褐色砂質土	(10YR7/6)
60	黄褐色砂質土	(2.5Y4/1)
61	灰黄色砂質土	(2.5Y6/2)
62	明黄褐色砂質土	(2.5Y7/6)

第47表 ST01土層観察表

番号	土色	備考
1	橙色砂質土	(2.5Y6/6)
2	灰オフワード色砂質土	(SY5/2)
3	橙色粘質土	(2.5Y6/6)
4	暗オリーブ色砂質土	(5Y4/3)
5	にふい黄褐色砂質土	(SYR7/4)
6	明赤褐色砂質土	(2.5YR5/6)
7	褐色砂質土	(7.5YR4/3)
8	明黄褐色砂質土	(10YR7/6)
9	橙色粘質土	(2.5YR7/6)
10	黄褐色砂質土	(10YR5/6)
11	明赤褐色砂質土	(5YR5/6)
12	黒色砂質土	(7.5YR2/11)
13	橙色粘質土	(2.5YR6/6)
14	黄褐色砂質土	(10YR8/8)
15	黒色砂質土	(7.5YR2/1)
16	黑褐色砂質土	(3YR3/1)
17	橙色粘質土	(2.5YR6/8)
18	黄褐色砂質土	(10YR5/6)
19	灰赤色砂質土	(10R5/2)
20	赤褐色砂質土	(10R2/1)
21	褐色砂質土	(7.5YR4/3)
22	橙色粘質土	(2.5YR6/6)
23	灰褐色砂質土	(7.5YR4/2)
24	にふい赤褐色砂質土	(3YR5/4)
25	にふい赤褐色砂質土	(3YR4/4)
26	橙色粘質土	(2.5YR6/8)
27	にふい赤褐色砂質土	(3YR4/4)
28	明赤褐色砂質土	(5YR5/6)
29	橙色粘質土	(5YR6/6)
30	にふい赤褐色砂質土	(2.5YR4/4)
31	褐褐色砂質土	(3YR6/7)
32	赤褐色砂質土	(2.5YR4/6)
33	橙色砂質土	(2.5YR6/6)
34	明赤褐色砂質土	(3YR5/6)
35	赤褐色砂質土	(3YR4/6)
36	橙色砂質土	(3YR6/6)
37	黄褐色砂質土	(10YR8/8)
38	黄褐色砂質土	(10YR5/6)
39	黄褐色砂質土	(10YR5/6)

第48表 SD01土層観察表

番号	土色	備考
1	にふい黄褐色砂質土	(10YR6/3)
2	にふい黄褐色砂質土	(10YR4/3)
3	黒褐色砂質土	(10YR3/1)
4	褐褐色砂質土	(7.5YR6/1)
5	浅黄褐色砂質土	(7.5YR8/6)

第49表 SD02土層観察表

層番号	土色	備考
1	にぶい黄褐色砂質土	(10YR5/4) 粘性なし。しまり弱。明黄褐色土 (10YR5/8) を含む。
2	褐色砂質土	(7.5YR5/7) 粘性なし。しまり弱。黄褐色土 (7.5YR7/6) を含む。

第50表 ST02・ST03土層観察表

層番号	土色	備考
1	黄褐色砂質土	(10YR7/8) 粘性なし。しまり弱。灰白色 (10YR7/1) や淡赤褐色 (7.5YR7/4) の粒や礫を多量に含む。薄土。
2	明黄褐色砂質土	(10YR6/8) 粘性なし。しまり弱。淡赤褐色 (7.5YR7/4) や明緑灰色 (10G7/1) の粒を多量に含む。薄土。
3	明黄褐色砂質土	(10YR6/8) 粘性やや強。しまり弱。明黄褐色土 (10YR7/1) を含む。薄土。
4	褐色砂質土	(2.5YR6/8) 粘性なし。しまり弱。赤褐色土 (10YR6/8) のブロックや淡赤褐色 (7.5YR7/4) の礫を含む。裏込め土か。
5	綠赤色砂質土	(10G9/7) 粘性なし。しまり弱。黄褐色土 (10YR8/6) や赤褐色 (10YR6/8) のブロック、白色の粒などを含む。裏込め土か。
6	明黄褐色砂質土	(2.5YR6/8) 粘性なし。しまり強。明赤褐色土 (2.5YR5/8)、暗緑灰色土 (10G5/4)、灰白色土 (7.5YR5/8) を多量に含む。裏込め土か。
7	黄褐色砂質土	(2.5Y5/6) 粘性なし。しまり弱。明赤褐色土 (2.5YR5/8) を含む。裏込め土か。
8	にぶい褐色砂質土	(5YR4/4) 粘性なし。しまり弱。にぶい褐色土 (5YR0/4) や灰白色土 (7Z7) を多量に含む。薄土。
9	褐色砂質土	(7.5YR4/4) 粘性なし。しまり弱。暗緑灰色土 (10G4/1)、灰白色土 (7.5YR7/1)、橙色土 (2.5YR7/8) を多量に含む。薄土。
10	明赤褐色砂質土	(5YR5/6) 粘性なし。しまり弱。明赤褐色土 (2.5YR5/8) を含む。裏込め土。
11	褐色砂質土	(2.5YR6/8) 粘性なし。しまり強。明赤褐色土 (2.5YR5/8) を多量に含む。裏込め土。
12	明褐色砂質土	(7.5YR5/8) 粘性なし。しまり強。褐色土 (2.5YR6/8) や暗緑灰色土 (10G4/1) を多量に含む。裏込め土。
13	明赤褐色砂質土	(5YR5/8) 粘性なし。しまり強。橙色土 (2.5YR5/8) のブロックを含む。裏込め土。
14	黄褐色砂質土	(2.5YR7/8) 粘性なし。しまり強。明黄褐色土 (7.5YR7/8) のブロックを含む。裏込め土。

第51表 SD03土層観察表

層番号	土色	備考
1	にぶい黄褐色砂質土	(10YR4/3) 粘性なし。しまり弱。明黄褐色土 (10YR6/8) を含む。部分的に黒褐色土 (10YR3/1) が混じる。
2	黄褐色砂質土	(2.5Y4/1) 粘性なし。しまり弱。明黄褐色土 (2.5YR7/6) を含む。
3	褐色砂質土	(5YR7/8) 粘性なし。しまり弱。暗緑灰色土 (5YR7/8) のブロックや黄褐色土 (10YR4/3) が混じる。
4	褐赤色砂質土	(3YR4/1) 粘性なし。しまり弱。褐色土 (5YR8/8) のブロックを含む。
5	黒褐色砂質土	(10YR5/1) 粘性やや強。しまり弱。1mm 程度の白色の粒を含む。
6	褐灰色砂質土	(10YR4/1) 粘性なし。しまり弱。明黄褐色土 (10YR7/6) を含む。
7	褐赤色砂質土	(10YR5/1) 粘性なし。しまり弱。橙色土 (2.5YR6/8) を含む。

第52表 SD04・SD05土層観察表

層番号	土色	備考
1	灰黄褐色砂質土	(10YR4/2) 粘性なし。しまり弱。黄褐色土 (10YR7/8) を含む。1 ~ 1.5mm 程度の灰白色土 (10YR7/1) のブロック (火山灰) を含む。
2	灰オリーブ色砂質土	(3Y5/2) 粘性なし。しまり弱。暗褐色土 (2.5YR6/8) のブロックや少量の灰を含む。黄褐色土 (10YR8/6) を含む。
3	灰褐色砂質土	(5YR4/2) 粘性やや強。しまり弱。明青灰色 (3B7) や褐色土 (2.5YR6/8) の粒を含む。黄褐色土 (7.5YR7/8) を含む。
4	にぶい褐色砂質土	(7.5YR6/4) 粘性なし。しまり弱。明青灰色 (7.5YR7/1) の粒を含む。
5	灰灰褐色砂質土	(10YR4/2) 粘性なし。しまり弱。黑褐色土 (3YR3/1) や明黄褐色土 (10YR6/8) を含む。綠灰色土 (5G6/1) や白色粒を含む。

第53表 SK01土層観察表

層番号	土色	備考
1	褐色砂質土	(10YR4/4) 粘性なし。しまり弱。明黄褐色土 (10YR6/8) を含む。
2	黑色砂質土	(10YR3/1) 粘性なし。しまり弱。炭層。
3	黒褐色砂質土	(10YR2/1) 粘性なし。しまり強。火山灰や1mm 程度の白色の粒を多量に含む。

第54表 SK02土層観察表

層番号	土色	備考
1	黑色砂質土	(10YR5/1) 粘性なし。しまり弱。炭層。

第55表 SK03土層観察表

層番号	土色	備考
1	明黄褐色砂質土	(10YR6/6) 粘性なし。しまり弱。炭を含む。
2	明黄褐色砂質土	(10YR6/8) 粘性なし。しまり弱。炭を含む。
3	黒褐色砂質土	(10YR3/1) 粘性なし。しまり弱。炭を多量に含む。

第56表 小原遺跡出土遺物観察表

土器

辨認 番号	遺物 番号	回収 番号	出土遺場 Gr/層位	種別	器種	法量 (L) 内容(元種)				調整・手法の特徴
						C径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	
128 1	77	ST01		土師器	高杯	(17.6)	(7.8)	砂粒をや多く含む	内: 棕褐色(7SYR2/6) 外: 棕褐色(7SYR6/6)	外: ナチュラル、ミカゲ、三方手 内: ナチュラル、ミカゲ
128 2	77	ST01		土師器	高杯	(18.0)	(8.4)	砂粒を多く含む	内: 棕褐色(7SYR2/6) 外: 棕褐色(7SYR6/6)	外: ミカゲ、ナデ 内: ミカゲ、ナデ
128 3	80	ST01		土師器	低脚杯	(17.3)	(7.5)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(7SYR2/6) 外: 深褐色(7SYR6/6)	外: ミカゲ 内: ミカゲ
128 4	77	ST01		土師器	鈍形酒呑	(13.5)	(14.1)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 棕褐色(7SYR2/6)	外: ミカゲ、ナデ 内: ミカゲ、ナデ、ヘラケズリ
130 1	77	S001		土師器	甕	(14.4)	(5.0)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ナチュラル、ミカゲ 内: ナチュラル、ミカゲ
132 1	79	S002-03*	ST01	土師器	甕	(21.8)	(35.3)	丸底	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ヨコナチュラル、ミカゲ、羽状文、波状文 内: ミカゲ、ヘラケズリ、ナデ、拘束し
133 1	78	CS/2層		土師器	鈍形酒呑	(21.4)	(22.1)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ヨコナチュラル、ミカゲ 内: ミカゲ、ヘラケズリ
133 2	78	B2/2層		土師器	鈍形酒呑			砂粒を多く含む	外: 深褐色(7SYR2/6) 内: 深褐色(7SYR6/6)	外: ヨコナチュラル、ナデ 内: ミカゲ、ナデ
133 3	78	B2/2層		土師器	鈍形酒呑	(21.0)	(21.4)	砂粒を非常に多く含む	内: 深褐色(7SYR2/6) 外: 深褐色(7SYR6/6)	外: ヨコナチュラル 内: ナチュラル
137 1	77	S003-13/2層		土師器	口口壺	(11.1)	(11.3)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ナチュラル、ミカゲ 内: ナチュラル
139 1	79	S005		土師器	甕	(11.2)	(22.8)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(7SYR2/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ヨコナチュラル、ミカゲ 内: ヨコナチュラル、ミカゲ、ヘラケズリ
139 2	79	S005		土師器	甕			砂粒を非常に多く含む	内: 深褐色(7SYR2/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ナチュラル、ヘラケズリ 内: ヘラケズリ、拘束し
139 3	80	S005		土師器	低脚甕	(14.8)	7.3	7.2	(5.1)	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 深褐色(10YR8/6)
139 4	79	S005-12/2層		土師器	鈍形酒呑	(21.6)	(22.3)	砂粒を非常に多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ナチュラル、ミカゲ 内: ヨコナチュラル
143 1	80	E3/2層		土師器	甕	(14.8)	(22.6)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(7SYR2/6) 外: 黄褐色(10YR8/6)	外: ヨコナチュラル、ミカゲ 内: ヨコナチュラル、ヘラケズリ
143 2	80	E3/2層		土師器	甕	(16.8)	(17.6)	砂粒を多く含む	内: 深褐色(7SYR2/6) 外: 黄褐色(10YR8/6)	外: ヨコナチュラル、ミカゲ 内: ヨコナチュラル、ヘラケズリ
143 3	80	E3/2層		土師器	甕	(14.6)	(14.8)	砂粒を非常に多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 黄褐色(10YR8/6)	外: ヨコナチュラル 内: ヨコナチュラル
143 4	80	E3/2層		土師器	甕			砂粒を非常に多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 黄褐色(10YR8/6)	外: ヨコナチュラル、ナデ、羽状文 内: ヨコナチュラル、ヘラケズリ
143 5	80	E3/2層		土師器	甕			砂粒を少し含む	内: 深褐色(7SYR2/6) 外: 黄褐色(7SYR2/6)	外: ナチュラル、ミカゲ 内: ナチュラル
143 6	80			織文土器	深鉢			砂粒を多く含む	内: 深褐色(10YR8/6) 外: 深褐色(10YR8/6)	外: ナチュラル 内: ナチュラル

石器

辨認 番号	遺物 番号	回収 番号	出土遺場 Gr/層位	種別	器種	法量 (L) 内容(元種)				備考	
						高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重畠(g)		
130 2	77	S001		石製品	砥石	(9.5)	3.5	3.5	136 g	堆積岩か	分割時の薄や削れ凹凸が残る
133 4	78	B3/1層		石器	磨製石斧	(4.5)	(3.0)	(1.5)	18.9 g	堆積岩か	

## 第7章 自然科学分析

### 第1節 飯南町来島・赤名地区的地形と上ノ谷遺跡の立地

中村唯史（島根県立三瓶自然館）

#### 1. 地形の概要

来島・赤名地区は中国山地の中央近くに位置し、南東には脊梁に相当する標高700～800m級の山々が連なり、東には標高1013mの琴引山がある。西には充満山（719m）を最高点とする山列がある。これらの峰々から神戸川が流れ出て地区を南から北へ流れ、川沿いには起伏量の少ない盆地地形が広がる。盆地部分は標高400m前後で、島根県内では有数の多雪地帯である。

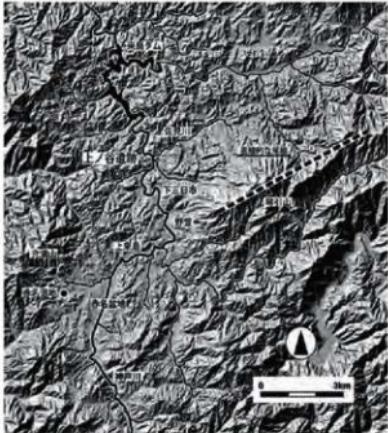
当地の地形は、過去1000万年以上をかけた中国山地の隆起と、その過程で形成された断層構造の影響を強く受けたことが推定される。

中国山地は、中国地方全体が広く面的に隆起して形成された地形で全体に起伏が少なく、「準平原」に区分されることもある。この地形を大きく俯瞰すると、隆起が急速に進行した時期と停滞した時期の浸食によって形成された数段の平坦面が認められる。この平坦面は、脊梁部にわずかに残る標高1000m級のものがあるほか、山陽側では「吉備高原面」と「瀬戸内面」の2段の地形面に大別されている。吉備高原面は標高300～700mの緩やかな傾斜を持つ地形面、瀬戸内面は標高200m内外の地形面である。なお、平坦面と言っても平野のように平らということではなく、ある程度の起伏がありつつ、大きく見れば高度が一定の範囲にある地形のことである。中国山地の地形は脊梁が山陰側に大きく偏っているため、山陰側は山陽側に比べて傾斜が大きく、平坦面が明瞭ではないが、吉備高原面に対応するものとして「石見高原面」がある。来島・赤名地区はこの地形面に相当する高度範囲であるが、起伏が大きく、高度が一定の地形面が広がっている印象はない。石見高原面より低い地形面として、瀬戸内面に相当する「都野津面」がある。来島・赤名地内にはこれに相当する地形面は存在せず、大田市以西の石見地域で明瞭な平坦面である。

島根一鳥取県境あたりを境に、中国山地の西側では北東一南西方向の断層が発達することも特徴である。この方向性は山地全体の地形を特徴づけており、琴引山から大木本山へ連なる山列もこれと平行する。次に述べる赤名盆地の形成に至る地盤の変動もこの方向性と関係する。

#### 2. 赤名盆地の地形と断層

赤名地区を中心とする赤名盆地は、当地一帯を特徴づける地形のひとつである。河川の蛇行による平坦な谷底の形成と河川堆積物の堆積によって形成された地形で、平坦面に加えて周辺も起伏が小さいことから、比較的広い印象を受



第144図 赤名盆地周辺の地形と神戸川水系の流路



写真16 来島から野萱付近で向きを変える神戸川

ける盆地になっている。

赤名盆地が形成された要因として断層による流路の変化が想定される。第144図に示すように、神戸川の流路は、上来島で緩く曲流して南西から北東方向へ流れた後、野萱でほぼ直角に北西方向へ向きを変え、大きくみると「クランク状」に河道がずれた形になっている(写真16)。

断層によって水平方向の変位(移動)が生じた時、このような地形が形成されることが知られている。

そして、断層変位によって河川のせき止め気味になり、上流部で堆積が進行することで盆地が形成される事例がしばしば認められる。

クランク状の流路が断層変位による場合、上来島から野萱にかけての南西・北東方向の直線的な流路部分が断層位置と想定される。その場合、北側が北東方向、南側が南西方向にずれたことになる。この直線流路の北東側延長には、琴引山の直線的な尾根筋があり、平行して上ノ谷、佐見川の谷が同じ方向性の直線的な谷地形である。これらのことからみて、赤名盆地の形成に関係するクランク状の流路は、断層によって生じた可能性が高いと考えられる。その断層の活動時期は、盆地の形成に直接関係していることから地質時代としては新しいもので、約260万年前に始まる新生代第四紀と推定され、過去数10万年間に活動した「活断層」に相当する可能性もある。

神戸川の流路がせき止め気味になって赤名盆地が発達することで、この範囲で神戸川に合流する支流谷でも流速の低下が生じた。地形によっては排水不良を起こして谷の湿地化が生じることがあり、この現象に起因する地形として「赤名湿地」がある。赤名湿地の下流には三瓶火山噴出物の浮布テフラ(後述)が数mの厚さで分布しており、これが堆積することがさらに排水不良による湿地化を促したことが考えられる。

### 3. 地滑り地形の利用

上ノ谷遺跡は、神戸川支流の上ノ谷川左岸にあたる谷内に立地している。上記のように、上ノ谷の地形は小規模ながら北東・南西方向の、中国山地の主要な断層と平行する直線的な地形であり、断層に関係する地形とみられる。遺跡は小さな沢が流れる谷にあり、地質的には古第三紀の花崗岩類の分布域で、遺跡付近で亀裂が多い硬質な花崗岩の露頭が確認できる。

付近は急傾斜の谷地形であるが、遺跡範囲は沢の両岸ともテラス状の緩斜面になっている。これは地滑り地形である。山腹斜面の地盤が直径数10mにわたって円弧状に滑ったもので、堆積物に覆われているが滑落崖(地盤が滑り落ちることでできる崖)が円弧状に追跡できるほか、発掘調査時に地滑りにともなう地層の変形が確認できている。遺跡ではこのように形成された緩斜面が住居など生活の場として利用された。

地滑り地形を居住地等に利用する事例は現在でもよくみられる。地滑りは繰り返し崩落することもあるが、滑った土塊が長期間にわたって安定する事例も多く、このような場合は土地として利用できる。

#### 4. 遺跡地内の火山灰層

遺跡地内では花崗岩の上に黒色土（クロボク）が厚く分布し、その間に複数の三瓶火山（写真17）起源の火山灰層および軽石層が確認された。火山灰や軽石などの火山噴出物は「テフラ」と総称されることから、以下、テフラ層と称する。

ここでは三瓶火山起源のテフラ層は3層確認されている。下位から黄褐色の軽石層、低発泡の軽石～岩片を主体とする2層の火山灰層の順で重なる。近隣で見られる火山灰層との対比と岩相から、最下位の軽石層が三瓶火山第4活動期の「三瓶浮布テフラ」（写真18）、その上位の2層が第6活動期の「三瓶角井テフラ」と第7活動期の「三瓶大平山テフラ」に対比できる。飯南町角井の志津見ダム建設に伴う板屋Ⅲ遺跡などの一連の発掘調査では、角井テフラが「第2ハイカ」、大平山テフラが「第1ハイカ」と称され、以降、島根県内の遺跡発掘調査ではこの名称が用いられることが多い。

浮布テフラは約16000年前の大規模な軽石噴火によって放出されたもので、来島・赤名地内では最大2m前後の厚さで堆積している。当地内では直径5cm程度までの軽石を主体としており、上ノ谷遺跡でも同様である。このテフラはさらに東方の庄原市内でも1m以上の厚さで分布し、ここでは「キビ土」と称されている。浮布テフラの軽石は、多くの場合、指で押しつぶすことができる程度のもろさまで風化しており、黄褐色の色は風化によるもので、未風化のもの白色である。

このテフラは、飯南町以東の中国山地に広く分布するクロボクの主な母材になっている。クロボクは、火山灰由来の粒子や黄砂に代表される風成塵と有機物が混じることでできる土壤で、火山灰の分布地に分布していることが多い。なお、クロボクの成因として、人為による野焼きの影響も指摘されている。

角井テフラと大平山テフラは、前者が約5500年前、後者が約4000年前の噴出物である。遺跡地内では層厚10～15cm程度で、しばしば擾乱によりブロック状に分断されているが、地層としての連続性は比較的識別しやすい状態である。いずれのテフラも灰色の砂サイズの粒子からなり、デイサイト岩片と鉱物粒子が主体で、火山ガラスはほとんど含まない。分布範囲、層厚、岩質が似通つており、角井テフラと大平山テフラを識別することは困難である。このテフラを噴出した活動期の噴火は、浮布テフラを噴出した時のような大規模な爆発的噴火ではなく、デイサイト溶岩をゆっくり噴出しながら、それが時折崩壊することで火碎流発生を繰り返す「雲仙平成噴火型」の活動を中心だったとみられる。三瓶山麓にはこのタイプの噴火に特徴的な堆積物（ブロックアンドアッシュフロー）が厚く分布している。三瓶山の山体の大部分が形成されたのはこの時期の活動である。



写真17 三瓶山



写真18 三瓶浮布テフラの露頭

三瓶山の北麓には、大平山テフラを放出した第7活動期の噴出物によって埋もれた森林、三瓶小豆原埋没林がある。スギの巨木から成るこの埋没林は、縄文時代の森林環境を示すもので、上ノ谷遺跡の周辺にも同じような森林が存在していたことが考えられ、古環境を推定する上の参考になる。

## 5. 火山活動と遺跡の環境

上ノ谷遺跡の堆積物は、黒色土層（クロボク）に挟まれる角井テフラと大平山テフラ、黒色土層の下の浮布テフラの3層の火山灰層が特徴的である。地層として目立つため、縄文時代の人々が火山活動に繰り返し襲われたように見えるが、その影響はどのようなものであったかを若干検討する。

16000年前の浮布テフラの降灰は、1mを超える厚さで広い範囲を覆っているため、環境を大きく変えた可能性が高い。降灰量が多い範囲では、生態系は一時的に壊滅的な打撃を受け、少なくとも数年間は人類の居住に適さない環境だったと推定される。飯南町地内ではこの時期の遺跡は確認されていないが、斐伊川中流の原田遺跡（奥出雲町）で浮布テフラの下位から石器類が出土している事例から神戸川流域にも同時代に人の暮らしがあったことは十分に考えられる。

浮布テフラの降灰は縄文時代の始まりにあたる時期で、その後13000年以上にわたって縄文時代が続く。この長い縄文時代に三瓶火山の活動によって当地に降灰があったのは約5500年前と約4000年前の2時期である。10～15cm程度の降灰は、生態系にある程度の影響を及ぼしたと思われるが、山間部の傾斜地では比較的早く火山灰が流出して、植生が失われるほどの影響ではなかったと推定される。噴火が継続する期間もそれほど長くはなく、数日から数週間、それが数年の間に何度か繰り返される程度である。したがって、縄文時代の三瓶火山の活動は、上ノ谷遺跡で暮らした縄文人にとって、数ヶ月から数年は食料調達に苦労するような状況をもたらし、一時的には居住地を変えたかも知れない。しかし、火山噴火の影響が及んだ期間は短く、上ノ谷遺跡では長い間、集落が存在し続けたものと思われる。

### 引用・参考文献

- 松井整司・井上多津男（1971）三瓶火山の噴出物と層序. 地球科学, 25, 147-163.  
島根県教育委員会（1993）『志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財調査報告書1：板屋II遺跡』.

### ※図版説明

第144図 赤名盆地周辺地形と神戸川水系の流路（地理院地図を使用）

写真16 上来鳥から野萱付近で向きを変える神戸川

上来鳥（奥側）から野萱（手前側）へ直線的に流れる流路が見える。この曲流によって水流が停滞気味になり、赤名盆地が形成された。琴引山の中腹から撮影。

写真17 三瓶山

三瓶山は幾度も繰り返された火山活動によって形成された。火山としては中国地方で最も新しく、活火山に指定されている。

写真18 三瓶浮布テフラの露頭

野萱地区で確認した三瓶浮布テフラ（写真中①）と同時期の三瓶小田テフラ（写真中②）の地層。浮布テフラは数cm大的軽石が主体で、小田テフラは火山灰が主体。

## 第2節 上ノ谷遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定

竹原弘展（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

飯石郡飯南町下来島に所在する上ノ谷遺跡より出土した縄文時代前期前半の黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

### 2. 試料と方法

分析対象は、黒曜石製石器 20 点である（第57表）。

遺跡では、縄文時代前期前半の遺物包含層である第3黑色土層より、チップ等を中心に黒曜石が1万点以上出土している。試料は、測定前に超音波洗浄器やメラミンフォーム製スポンジを用いて、測定面の表面の洗浄を行った。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム(Rh)、X線検出器は SDD 検出器である。測定条件は、測定時間 100sec、照射径 8mm、電圧 50kV、電流 1000 μA、試料室内雰囲気は真空に設定し、一次フィルタに Pb 測定用を用いた。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用

第57表 分析対象一覧

分析 No.	遺物番号	出土位置	器種	重量(g)
1	108-14	o-10	UF	0.744
2	108-15	p-11	UF	0.625
3	108-12	h-15	UF	0.731
4	108-16	o-12	UF	0.403
5	108-21	y-19	UF	1.377
6	108-20	w-18	UF	1.258
7	108-19	p-15	UF	0.701
8	108-18	p-13	UF	0.869
9	108-2	r-16	RF	0.951
10	108-3	w-20	RF	0.439
11	108-5	x-19	RF	0.500
12	109-5	r-16	楔由来の剥片	4.477
13	98-5	Pit477	UF	1.635
14	108-13	l-10	UF	3.592
15	108-11	q-16	UF	2.456
16	109-8	s-17	フレイク	1.365
17	95-26	SiO6	フレイク	0.342
18	95-25	SiO6	RF	1.080
19	95-27	SiO6	フレイク	0.758
20	109-7	u-19	フレイク	0.797

いた（望月, 1999など）。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)、ルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps : count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

$$1) \text{Rb分率} = \text{Rb強度} * 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$2) \text{Sr分率} = \text{Sr強度} * 100 / (\text{Rb強度} + \text{Sr強度} + \text{Y強度} + \text{Zr強度})$$

$$3) \text{Mn強度} * 100 / \text{Fe強度}$$

$$4) \log(\text{Fe強度} / \text{K強度})$$

そして、これらの指標値を用いた2つの判別図（横軸 Rb 分率 - 縦軸 Mn 強度 × 100 / Fe 強度 の判別図と横軸 Sr 分率 - 縦軸 log(Fe 強度 / K 強度) の判別図）を作成し、各地の原石データと石器のデータを照合して、産地を推定する方法である。この方法は、できる限り蛍光X線のエネルギー差が小さい元素同士を組み合わせて

第58表 西日本黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群	原石採取地(点数)
島根	隠岐	久見	久見バーライト中(6), 久見採掘現場(5)
		真瀬浦	真瀬浦海岸(3), 加茂(4), 岸浜(3)
大分	姫島	姫島	姫島(20)
佐賀	伊万里	腰岳	二ノ瀬(8)
長崎	佐世保	淀崎	淀崎神社(10)
小国	西小国	久安谷(9)	
熊本	球磨	白浜	白浜林道(14)
	八吉	桑ノ木	桑ノ木津留(7), 上青木(21)
鹿児島	大口	日東	日東(10), 五女木(10), 小川口(11)
	市来	市来	上牛島(10), 野下(9), 宇都川(7), 平木場(1), 黑岩川(9)
	鹿児島	三船	三船(10)
	垂水	小浜	小浜(5)
	鏡江	長谷	長谷(10)

指標値を算出するため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊分析が望ましい考古遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。ただし、風化試料の場合、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少するため、解釈の際は注意が必要である（望月、1999）。試料の測定面には、なるべく平滑な面を選んだ。

原石試料は、採取原石を割って新鮮な面を露出させた上で、分析対象の剥片と同様の条件で測定した。第58表に各原石の採取地とそれぞれの試料点数を示す。

### 3. 分析結果

第59表に剥片の測定値および算出された指標値を、第145図と第146図に、日本列島西部における黒曜石原石の判別図に剥片の分析結果をプロットした図を示す。なお、両図では視覚的にわかりやすくするために、各判別群を橢円で取り囲んである。

測定の結果、13点が久見群（隱岐エリア、島根県）、1点が久見群と箕浦群（隱岐エリア、島根県）の重複域の範囲にプロットされた。分析No.6、12、17の3点は、第145図では久見群の範囲にプロットされたが、第146図では久見群の範囲の下方にプロットされた。これは、先述したように遺物の風化による影響と考えられ（望月、1999）、久見群に属する可能性が高い。同様に、分析No.11は久見群または箕浦群に属する可能性が高い。また、久見群の範囲にプロットされた分析No.7は、箕浦群に属する可能性も考えられる。分析No.10と16は、互いに比較的近い位置にプロットされたが、合致する判別群はなく、産地不明であった。ここでは仮に不明1群とした。不明1群の2点は、石器表面がザラザラしていてガラス光沢がない。表面の風化等の影響で本来の組成を示していない可能性がある。第59表に産地推定結果を示す。

第59表 測定値および産地推定結果

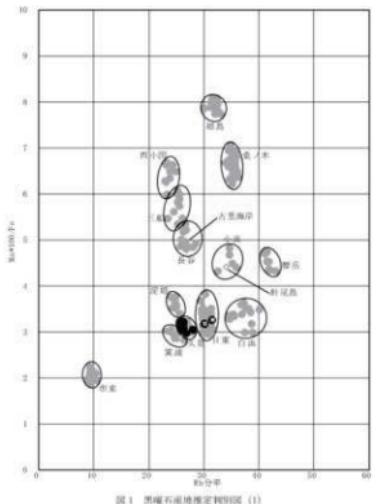
分析No.	K強度 (cps)	Mn強度 (cps)	Fe強度 (cps)	Rb強度 (cps)	Sr強度 (cps)	Y強度 (cps)	Zr強度 (cps)	Rb分率 Rb/(Mn+100) Fe	Mn*100 Sr分率	log Fe/K	判別群	エリア	分析No.	
1	228.3	69.9	2240.6	863.0	40.2	456.6	1979.4	25.84	3.12	1.20	0.99	久見	隱岐	1
2	250.3	77.8	2572.3	986.5	51.2	531.8	2223.4	26.01	3.03	1.35	1.01	久見or 箕浦	隱岐	2
3	283.0	90.2	2897.6	1118.1	57.6	613.0	2553.7	25.75	3.11	1.33	1.01	久見	隱岐	3
4	338.4	101.5	3434.4	1271.3	62.7	668.8	2741.7	26.79	2.96	1.32	1.01	久見	隱岐	4
5	265.4	84.0	2644.3	981.6	51.0	538.7	2268.2	25.56	3.18	1.33	1.00	久見	隱岐	5
6	435.2	108.1	3384.2	1306.1	64.8	690.7	2916.2	26.24	3.19	1.30	0.89	久見?	隱岐?	6
7	309.2	93.6	3102.9	1150.8	56.2	612.2	2584.0	26.14	3.02	1.28	1.00	久見or 箕浦?	隱岐	7
8	316.9	97.6	3131.8	1157.2	55.6	621.9	2689.0	25.58	3.12	1.23	0.99	久見	隱岐	8
9	286.1	87.1	2815.0	1087.0	56.3	586.9	2415.2	26.22	3.09	1.36	0.99	久見	隱岐	9
10	522.0	93.1	2936.9	1479.4	81.7	675.3	2677.4	30.11	3.17	1.66	0.75	不明1	不明	10
11	293.1	77.2	2555.0	965.8	49.3	507.8	2169.3	26.16	3.02	1.33	0.94	久見?or 箕浦?	隱岐?	11
12	316.2	78.9	2459.2	953.2	54.9	516.2	2114.8	26.19	3.21	1.51	0.89	久見?	隱岐?	12
13	342.1	105.5	3417.3	1243.7	63.0	673.6	2815.6	25.94	3.09	1.31	1.00	久見	隱岐	13
14	331.0	104.3	3246.0	1211.8	64.1	661.3	2814.7	25.50	3.21	1.35	0.99	久見	隱岐	14
15	282.7	88.3	2803.5	1018.2	51.1	548.4	2293.2	26.03	3.15	1.31	1.00	久見	隱岐	15
16	546.4	91.9	2829.0	1570.9	68.7	696.3	2644.7	31.54	3.25	1.38	0.71	不明1	不明	16
17	510.2	95.4	3140.3	1358.8	60.3	683.1	2756.9	27.96	3.04	1.24	0.79	久見?	隱岐?	17
18	320.5	99.0	3192.8	1189.8	61.8	645.4	2670.7	26.05	3.10	1.35	1.00	久見	隱岐	18
19	311.4	100.3	3198.2	1206.2	62.2	659.8	2727.4	25.91	3.14	1.34	1.01	久見	隱岐	19
20	326.0	102.8	3246.5	1249.1	61.7	678.7	2867.8	25.72	3.17	1.27	1.00	久見	隱岐	20

#### 4. おわりに

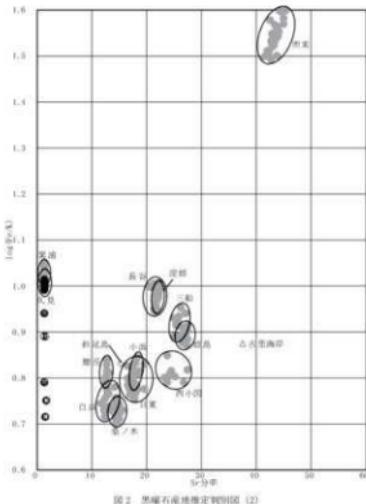
上ノ谷遺跡より出土した黒曜石製石器20点について、蛍光X線分析を用いた判別図法による産地推定を行った結果、2点は産地不明であったものの、18点は隱岐エリア産と推定された。

#### 引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。大和市教育委員会編「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2 一上和田城山遺跡篇一」：172-179、大和市教育委員会。



第145図 黒曜石産地推定判別図(1)



第146図 黒曜石産地推定判別図(2)

## 第3節 上ノ谷遺跡から出土した石器の残存デンプン粒分析結果報告

渋谷綾子（東京大学史料編纂所）

### 1.はじめに

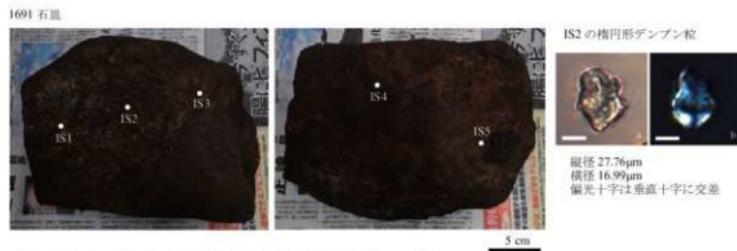
残存デンプン粒分析は遺跡の土壤や遺物の表面から植物の生産物の1つであるデンプン粒を見つけ出し、過去の植生や人間の植物利用を解明する研究手法である。日本では旧石器時代から弥生時代までの遺跡において、石器や土器の付着物から残存デンプン粒の検出が報告されている（渋谷ほか2015）。今回、鳥根県飯石郡飯南町に所在する上ノ谷遺跡より出土した縄文時代後期の石皿に対し、残存デンプン粒分析を実施した。ここでは、分析結果を報告する。

### 2.対象とした資料と分析の方法

今回の分析対象は石皿1点である。遺構から取り上げられた後に未水洗のまま保管された。石器の観察と分析試料の採取、ならびにプレパラートの作製と顕微鏡観察は、東京大学総合研究博物館の地下控室で行った。試料の採取時は異物の混入を避けるため、石器ごとの手洗い等採取条件に留意した。

試料採取では、使用痕の確認された部位を主に選択するとともに、使用痕の外側の面、確認されなかった部位の試料も採取し、残存デンプン粒の有無と検出量を検討した。試料はフラガー（2006）が提案した方法を参照し、5箇所を選択した（第147図）。マイクロビペットにチップをはめて精製水を吸い、採取する対象に注入、洗浄しながら試料が $16\ \mu\text{l}$ 以上（複数枚のプレパラートを作製する必要量）になるまで吸引した。未水洗であったため、表面に付着した土を少量採取し、遺跡土壤に含まれたデンプン粒のコンタミネーションを確認する試料とした。

採取した試料はすべて、現生デンプン粒標本の作製（渋谷, 2006, 2010）と同じ方法でプレパラートを作製し、試料を遠心後（13000rpm・1分）、 $8\ \mu\text{l}$ をスライド封入剤（グリセロール・ゼラチン） $8\ \mu\text{l}$ で封入し、1試料につき2枚作製した。このとき、スライドグラスやカバーガラス、スライド封入剤の汚染の有無を確認するため、試料を入れないプランクスライドを作製した。次に、光学顕微鏡（Olympus BX53-33Z、簡易偏光装置付）を用いて、接眼レンズを10倍、対物レンズを10～40倍、総合倍率100～400倍の視野条件で観察し、写真記録（Wraycam NF500）を行った。



第147図 上ノ谷遺跡の分析対象とした石器と検出したデンプン粒  
IS：第1次試料；白丸：試料採取箇所；バー： $10\ \mu\text{m}$ ；a：400倍；開放ニコル；b：400倍；直交ニコル

第147図 上ノ谷遺跡の分析対象とした石器と検出したデンプン粒

### 3. 分析結果

1箇所の試料より残存デンブン粒1個が検出された(第60表、第147図)。検出したデンブン粒は使用痕(磨面)からの検出量であり、土試料には含まれていなかった。デンブン粒の他には、植物繊維や細胞組織の微細な断片等の植物性物質が確認されたが、全体的に植物性物質の含有が極めて少なかった。

### 4. 考察

分析の結果、残存デンブン粒1個の検出を確認した。土試料からは検出されず、磨面からの検出であったため、石器の加工対象物に由来する可能性がある。ただし、検出量が1個であるため、これをもって石器の加工対象物に直接的に関係するとはいいがたい。石器の加工対象物・コンタミネーションのどちらの可能性も考えることができる。

現生デンブン粒標本との比較からは、検出したデンブン粒の由来する植物の候補として、コナラ属などの堅果類を考える(第61表)。現生コナラ属やクリ属、クルミ属の形態学的特徴については、渋谷(2006, 2010)を参照願いたい。

残存デンブン粒の検出量が少なかった理由としては、(1)石器製作など植物の加工以外の目的で使用された可能性、(2)植物加工に使用されたが、使用頻度が少なかったためデンブン粒が遺存しなかった可能性、という2通りの解釈が提示できる。これまで報告された分析事例においても、敲打痕や磨面のある石器から残存デンブン粒が検出されなかった事例は存在する。同じ遺跡から出土している他の石器ではデンブン粒が検出されるかどうか、検討することが必要である。

### 5. まとめ

分析の結果、上ノ谷遺跡の石皿1点から残存デンブン粒1個が検出された。磨面から検出され、また土試料には残存デンブン粒が含まれていなかったものの、検出量の少なさから、加工対象植物の痕跡と指摘することは困難である。今後、他の石器の分析と本分析結果について、さまざまな角度から検討されれば、上ノ谷遺跡における人間活動、特に植物資源の利用の一端を明らかにすることができると考える。

第60表 分析した石器と残存デンブン粒検出個数 (IS: 第1次サンプリング)

分析番号	器種	グリッド	層位	取上番号	地図番号	時期	水洗	採取部位	使用痕の種類	検出個数	土試料	検出個数
									IS1	IS2	IS3	IS4
1691	石皿	L8	第2 黒色土層	1691	73-5	縄文時代 前期～後期	未	IS5	磨面	0	有	0

第61表 石器残存デンブン粒の候補となる植物とその評価(残存デンブン粒を検出した石器のみを提示)

(1) IS: 第1次試料。残存デンブン粒の形態は、A: 円形・いびつな円形・橢円形、B: 半円形・三角形・四角形、C: 多角形、D: 分解し原形が識別困難なもの、I: 10 µm未満、II: 10~20 µm、III: 20 µm以上、という項目で分類。

(2) 残存デンブン粒の評価は、a: 植物加工の痕跡と考えられるもの、b: 植物加工の痕跡とコンタミネーションの可能性の両方が考えられ、特定できないもの、c: コンタミネーションの可能性が高いものの、という項目で評価。

分析番号	器種	検出部位		デンブン粒の種類				評価	候補となる植物
		試料	使用痕 有無	形態	外形	縦径 (µm)	横径 (µm)		
1691	石皿	IS1	磨面	×	偏	27.76	16.99	垂直十字に交差	b
		IS2	磨面	○					
		IS3	磨面	×					
		IS4	無	×					
		IS5	無	×					

### 引用文献

- Fullagar, R. 2006. Starch on artifacts. Ancient starch research (Torrence, R. & Barton, H. eds.), 177-203. Left Coast Press, INC., Walnut Creek.
- 渋谷綾子（2006）日本の現存植物を用いた参照デンプン標本. 新潟県立歴史博物館研究紀要 7, 7-16.
- 渋谷綾子（2010）日本列島における現生デンプン粒標本と日本考古学研究への応用—残存デンプン粒の形態分類をめざして. 植生史研究 18 (1), 13-27.
- 渋谷綾子・青野友哉・永谷幸人（2015）残存デンプン粒分析におけるコンタミネーションの検討—北海道伊達市北黄金貝塚を中心として—. 国立歴史民俗博物館研究報告 195, 79-110.

## 第4節 小原遺跡・高城跡における放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

伊藤 茂・加藤和浩・廣田正史・佐藤正教・山形秀樹・Zaur Lomtadze・三谷智広

### 1. はじめに

島根県の小原遺跡および高城跡から出土した試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

### 2. 試料と方法

試料は、小原遺跡から出土した炭化材1点(PLD-48667)、高城跡から出土した炭化材1点(PLD-48668)である。いずれも最終形成年輪が残存していない部位不明の炭化材である。

測定試料の情報、調製データは第62表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた<sup>14</sup>C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、<sup>14</sup>C年代、曆年代を算出した。

第62表 測定試料および処理

測定番号	遺跡名	試料データ	前処理
PLD-48667	小原遺跡	種類:炭化材 試料の性状:最終形成年輪以外 部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸:アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム:1.0 mol/L 温度:1.2 mol/L)
PLD-48668	高城跡	種類:炭化材 試料の性状:最終形成年輪以外 部位不明 状態:dry	超音波洗浄 有機溶剤処理:アセトン 酸:アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム:1.0 mol/L 温度:1.2 mol/L)

### 3. 結果

第63表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って曆年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した<sup>14</sup>C年代、第148図に曆年較正結果をそれぞれ示す。曆年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後曆年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて曆年較正を行うために記載した。

<sup>14</sup>C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。<sup>14</sup>C年代(yrBP)の算出には、<sup>14</sup>Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した<sup>14</sup>C年代誤差( $\pm 1\sigma$ )は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の<sup>14</sup>C年代がその<sup>14</sup>C年代誤差内に入る確率が68.27%であることを示す。

なお、曆年較正の詳細は以下のとおりである。

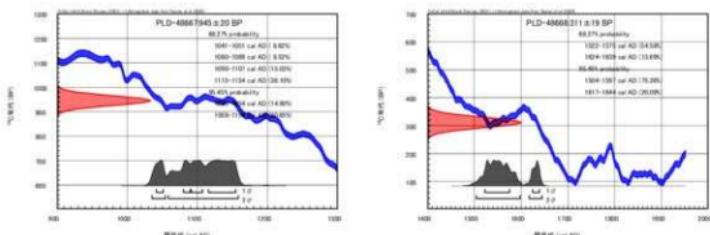
曆年較正とは、大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定で半減期が5568年として算出された<sup>14</sup>C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の<sup>14</sup>C濃度の変動、および半減期の違い(<sup>14</sup>Cの半減期5730±40年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

<sup>14</sup>C年代の曆年較正にはOxCal4.4(較正曲線データ:IntCal20)を使用した。なお、 $1\sigma$ 曆年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された<sup>14</sup>C年代誤差に相当する68.27%信頼限界の曆年代範囲であり、同様に $2\sigma$ 曆年代範囲は95.45%信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、

その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は14C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第63表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{14}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代 (yrBP ± 1 $\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP ± 1 $\sigma$ )	$^{14}\text{C}$ 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
PLD-48667	-26.19 ± 0.12	945 ± 20	945 ± 20	1041-1051 cal AD (8.62%) 1080-1089 cal AD (8.52%) 1090-1107 cal AD (15.03%) 1115-1154 cal AD (36.10%)	1035-1054 cal AD (14.80%) 1058-1158 cal AD (80.65%)
PLD-48668	-26.80 ± 0.18	311 ± 19	310 ± 20	1522-1575 cal AD (54.58%) 1624-1639 cal AD (13.69%)	1504-1597 cal AD (75.36%) 1617-1644 cal AD (20.09%)



第148図 暦年較正結果

#### 4. 考察

測定結果について、2  $\sigma$  暦年代範囲（確率95.45%）に着目すると、小原遺跡から出土した炭化材（PLD-48667）は、1035-1054 cal AD (14.80%) および 1058-1158 cal AD (80.65%) で、11世紀前半～12世紀中頃の暦年代を示した。これは、平安時代中期～後期に相当する。

また、高城跡から出土した炭化材（PLD-48668）は、2  $\sigma$  暦年代範囲（確率95.45%）でみると、1504-1597 cal AD (75.36%) および 1617-1644 cal AD (20.09%) で、16世紀初頭～17世紀中頃の暦年代を示した。これは、室町時代から江戸時代前期に相当する。

なお、木材の場合、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料は、いずれも最終形成年輪が残っていない部位不明の炭化材であり、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性がある。その場合、試料の木が実際に枯死もしくは伐採された年代は、測定結果よりもやや新しい年代であると考えられる。

#### 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎、日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」：3-20、日本第四紀学会。
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Soutter, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capone, M., Fahrni, S.M., Fogtmann Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reining, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757. doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 ( cited 12 August 2020)

## 第8章 総括

島根県東部（飯南町～出雲市）における変電所および送電線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では、令和元年度に飯南町猪子原遺跡および上ノ谷遺跡、令和2年度に上ノ谷遺跡、令和4年度に出雲市高城跡および雲南市小原遺跡の調査を実施した。猪子原遺跡では、鉄斧を副葬する猪子原1号墳を確認した。上ノ谷遺跡では縄文時代前期前葉と古墳時代後半期の集落跡を確認し、これらに伴う遺物が出土した。また、高城跡では中世山城に関する遺構を、小原遺跡では古墳時代前期前葉の古墳群を確認した。以下、これらの遺跡について、遺構および遺物からの検討を行いたい。

### 第1節 猪子原1号墳について

#### 1. 墳丘構築方法について

猪子原1号墳は、長さ推定22m、幅約10.5mの方墳となる。埋葬施設は中央付近に1基検出しており、墓壙規模は長さ約2.5m、最大幅約0.8mの木棺直葬で、木棺規模は長さ1.82m、幅0.38mである。有肩鉄斧が棺外に副葬されていた。墳丘の築造と埋葬施設の構築は同時進行的に行われ、「掘込墓壙b類」（和田1989）による墓壙の掘り込みが行われていることを指摘でき、島根県内の類例から集成編年7期以降の時期比定が可能である。

墳丘構築方法は、土層断面の確認から第149図のように復元できる。まず、旧表土（第149図Phase 0）を掘削し、墳丘構築の基盤を整形する（同図Phase 1）。その後、墳丘基盤層に盛土を施し、埋葬作業面（1次墳丘）を形成する（同図Phase 2）。埋葬作業面から墓壙を掘り込み（同図Phase 3）、墓壙底面の整地後に木棺を設置し、埋葬を行う（同図Phase 4）。埋葬終了後、墓壙上部への覆土および埋葬作業面である1次墳丘全体へ封土を施す（同図Phase 5）。1次墳丘への封土後、被覆盛土

Phase 0 古墳築造前（旧地形）

Phase 4 埋葬



Phase 1 旧地形（旧表土）を掘削し、墳丘築造の基盤を整形する

Phase 5 墓壙上部および一次墳丘全体への盛土（覆土・封土）



Phase 2 盛土を施し、埋葬作業面を形成する（1次墳丘）

Phase 6 墓壙への盛土（被覆盛土）開始



Phase 3 墓壙を掘り込む

Phase 7 墳丘完成



第149図 猪子原1号墳墳丘構築復元図

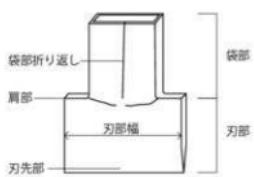
とした1次墳丘周縁部への盛土を開始し(同図Phase 6)、墳丘を完成している(同図Phase 7)。被覆盛土は、土層堆積状況から、墳裾や墳丘隅部へ先行して施されている(第24図26~28・38層)。1号墳は丘陵頂部付近のやせ尾根上で築造されるため、墳丘裾部は丘陵斜面に位置している。そのため、墳丘構築時に盛土が斜面へ流出しないように、先行して墳裾へ盛土を施し、その後、1次墳丘との間を盛土で充填している状況が想定できる。なお、被覆盛土そのものが1次墳丘の丘陵尾根斜面への流出を防止するため施されていることも推測できる。やせ尾根という地形的制約を受けた結果、古墳墳丘の流出を防ぐため、丁寧な構築方法を採用していることが指摘できる。第3章第1節で述べたように、猪子原遺跡は標高約462mの丘陵最高所付近の尾根上に立地する。遺跡からは周囲を広く見渡すことが可能であり、眺望の良い地点となっている。このような地理的環境が隣接する2号墳も含め、地形的制約を受けながらも当該地へ古墳を築造する起因と考えられる。これらの点を踏まえると、1号墳に埋葬される被葬者は周辺地域を治める地域首長であった可能性が高い<sup>(1)</sup>。

## 2. 出土有肩鉄斧について

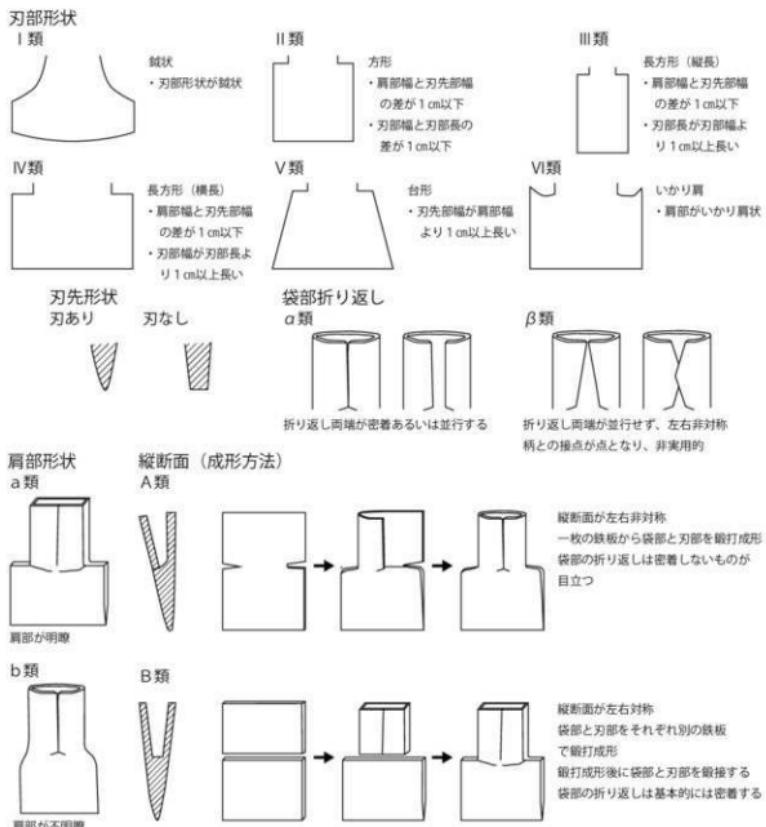
猪子原1号墳は、土器が伴わず、副葬品である有肩鉄斧のみの出土となる。そのため、詳細な築造時期の把握は困難である。ただし、周辺地域では有肩鉄斧と時期把握可能な遺物が共伴する古墳も認められる。そこで、猪子原1号墳出土の有肩鉄斧について、時期把握可能な資料との比較を行い、1号墳築造時期について検討を行いたい。検討を実施するため、有肩鉄斧の属性を抽出・分類し、中国地方における出土状況の把握を行う。あわせて、地域的な出土の偏在などについても確認する。分類や出土状況の様相をふまえ、1号墳出土有肩鉄斧の時期的位置付けを試みる。なお、対象となる時期については、古墳時代前期~中期とし、時期区分については、古墳時代前期を中四研編年(中国四国前方後円墳研究会2018)、古墳時代中期を集成編年(古瀬1991)で記載する。中四研編年と集成編年の対応については、第153図に示す。

### (1) 有肩鉄斧の分類

古墳時代の鉄斧は、袋部両端が閉じ合わされた袋状鉄斧、短冊形鉄斧、短合范の梯形鋸造鉄斧に区分でき、袋状鉄斧のなかでも袋部基部幅より張り出す肩部をもつものが有肩鉄斧である。東潮(東1982)や岡戸哲紀(岡戸1985)、古瀬清秀(古瀬1991)、野島永(野島2009)などが分類を行い、機能や系譜、生産、制作技術について論じている。ここでは、野島の分類を参考にし、有肩鉄斧の分類を行う。分類を実施するに際し、有肩鉄斧の部位(第150図)の属性を抽出し、刃部形状、刃先形状、肩部形状、袋部折り返し、断面に着目した(第151図)。刃部は、刃部平面形状によりI類~VI類とし、刃先に刃が確認できない資料(刃先形状:刃なし)については、儀器と判断し、検討資料から除外した。肩部については、張り出しの様相で2分(a類・b類)した。なお、袋部は折り返しの形状で2分(a類・b類)可能であるが、袋部折り返しがb類となるものは、非実用的と判断し、検討資料から除外している。縦断面については、野島の分類を参考にし、A類とB類に区分した。これらの分類は、刃部形状や肩部形状が形態的特徴、縦断面が制作方法の差異を示す。



第150図 有肩鉄斧の部位名称



第151図 有肩鉄斧の分類

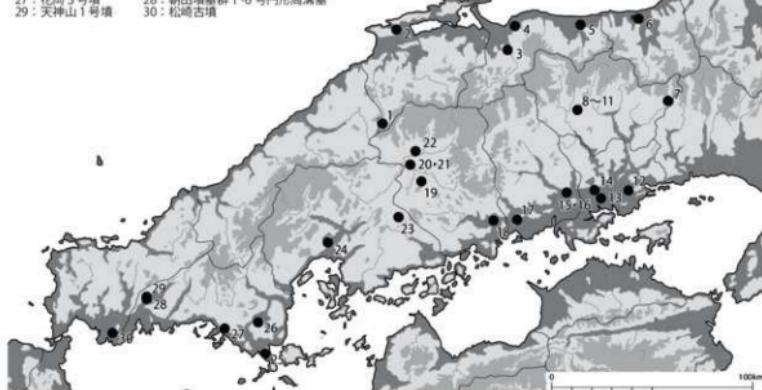
上記の分類をもとに、猪子原1号墳出土有肩鉄斧を確認すると、刃部形状II類（方形）、刃先形状刃あり、肩部形状b類、袋部折り返しα類、断面A類となる。

## （2）中国地方の類例

先に示した分類に基づき、中国地方における有肩鉄斧出土事例（第152図）を確認すると第153図のようになる。猪子原1号墳出土有肩鉄斧と同様に刃部形状II類、肩部形状b類となる資料は中四研VI期から集成7期にかけて確認できる（第154図）<sup>12)</sup>。また、中四研VI期と集成7期に出土が集中する状況も認められる。なお、II b類資料のうち、猪子原1号墳出土資料と類似するものとして、集成7期の寺山3号墳（広島市歴史科学教育事業団1997）がある。

肩部形状については、刃部形状II類では張り出しが不明瞭なb類が中四研VI期から集成7期まで確認できる。これに対し、張り出しが明瞭なa類は中四研VI期に確認できるものの、以降は集成7期まで確認できない。刃部形状II類の有肩鉄斧に関しては、集成7期に肩部の張り出しが明瞭化す

- 1: 猪子原遺跡  
3: 番田山 123 号墳  
5: 中峰 1 号墳  
7: 今岡 10 号墳  
9: 中原 22 号墳  
11: 中原 35 号墳  
13: 金蔵山古墳  
15: 西山 26 号墳  
17: 東塙古墳  
19: 下矢井田 4 号墳  
21: 上原治置 1 号墳  
23: 山口 5 号墳  
25: 白鳥古墳  
27: 花岡 3 号墳  
29: 天神山 1 号墳
- 2: 大寺 1 号墳  
4: 番田山 2 号墳  
6: 里仁 33 号墳  
8: 中原 8 号墳  
10: 中原 24 号墳  
12: 鶴山丸山古墳  
14: 神宮寺山古墳  
16: 隆庵古墳  
18: 鶴山 1 号墳  
20: 上原治置 6 号墳  
22: 大寺 2 号墳  
24: 寺山 3 号墳  
26: 用田 3 号墳  
28: 朝田埴系群 I~6 号円形周溝墓
- 30: 松崎古墳



第152図 中国地方の有肩鉄斧出土地

る傾向を想定できる。この肩部の変化に相関し、縦断面の様相も変化している。縦断面については、VI類（いかり刃）で中四研VI期からB類が確認できるのに対し、他の刃部形状の有肩鉄斧では、集成7期まで出現時期が下る状況を認められる。集成7期以降に、有肩鉄斧の製作方法に画期が想定でき、VI類出現当初から採用されていた袋部と刃部の鍛接による成形方法がII類～IV類の有肩鉄斧の製作にも採用される状況を指摘できる。この製作方法の変化に相関し、刃部形状II類の有肩鉄斧の肩部形状がa類となるため、集成7期以降は肩部形状b類が認められなくなる状況を想定できる。

### （3）有肩鉄斧の地域的偏在

有肩鉄斧の出土地については、瀬戸内地域に集中し、山陰地方での出土は散見される程度である（第152図）。山陰地方での出土については、出雲で猪子原1号墳を除くと、中四研V期の大寺1号墳<sup>③</sup>で確認できる。伯耆では中四研I～II期のI類（鉄状）が出土した中峰1号墳（伯耆）、集成8期の番田山2号墳および越敷山123号墳と3例確認できるが、時期差があり、集中して出土する状況は認められない。因幡では集成5期の里仁33号墳（因幡）のみとなる。集中して出土する瀬戸内地域での出土点を確認すると、中四研V・VI期の備前、集成5～7期の備後、集成6・7期の周防および美作などで地域的偏在があげられる<sup>④</sup>。特に、備後地域のうち、北部地域では集成5～7期に継続して有肩鉄斧が副葬されていることが確認できる。これら備後北部地域は、猪子原1号墳が所在する飯南町と隣接する地域であり、両地域の関連性が想定できる。なお、備後北部地域出土資料には刃部形状II類（肩部形状a類）となる上四拾貫6号墳出土資料（広島県教育委員会1978）も含まれており、集成7期に位置付けられている。

分類 期	刀部・肩部 鏡	I a 領	II a 領	II b 領	III a 領	III b 領	IV a 領	IV b 領	V a 領	V b 領	Via 領
直刀形 1 期	不明 中國刀 1号墳 (1件)	A 領	不明	A 領	不明	A 領	B 領	不明	A 領	不明	A 領
II 期	不明 中國刀 (1件)										
III 期											
IV 期											
3 期											
VI 期	金圓山六號 (直刀) K6(直刀) 6号	直刀形 鏡 (直刀) 鏡 6号									
5 期											
6 期											
7 期	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号	直刀形 鏡 7号
8 期	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号	直刀形 鏡 8号

第153図 中国地方有肩铁斧出土一覧



第154図 有肩鉄斧類似資料（刃部形状II類）

#### （4）猪子原1号墳出土有肩鉄斧の時期について

有肩鉄斧について、形態的特徴および製作方法から分類を実施するとともに、地域的偏在について確認し、中国地方出土事例の様相の把握を行った。

分類および比較検討の結果、類似資料となるII b類は中四研VI期以降、継続的に認められるが、中四研VI期と集成7期に集中する状況を確認した。また、縦断面分類（製作方法）の様相から、集成7期以降、袋部と刃部を鍛接して成形する製作技術がII類にも採用され、これに相関し、肩部形状がa類となる状況を想定できた。これらのことから、猪子原1号墳出土有肩鉄斧は中四研VI期～集成7期まで製作され、鍛接成形による鉄斧製作が刃部形状II類に採用される以前に造られたことが指摘できる。

地域的偏在の様相については、隣接地域である備後北部地域では集成5～7期に出土が集中しており、猪子原1号墳出土資料についても同様の時期が想定できる。

以上のような分類および地域的偏在の様相から、猪子原1号墳出土有肩鉄斧は集成5～7期に製作されたことが想定できる。さらに、類似資料とした広島市寺山3号墳出土資料や刃部形状II類の備後北部出土資料は集成7期に位置付けられることをふまえると、猪子原1号墳出土有肩鉄斧も集成7期に製作された可能性が高い。

### 3. 猪子原1号墳の築造時期について

猪子原1号墳について、墳丘構築方法および出土有肩鉄斧について検討を行った。墳丘構築方法では、土層断面図から復元し、墳丘の築造と埋葬施設の構築が同時進行的に行われていることを確認した。このような埋葬施設の構築方法は「掘込墓壙b類」となり、集成編年7期以降に島根県内の類例が確認できる墓壙の構築方法であることを指摘した。また、出土有肩鉄斧は、分類および地域的偏在状況から同類の有肩鉄斧の製作時期を確認し、類似資料や周辺地域である備後北部地域における刃部形状II類の出土状況から集成7期に製作された可能性を考えた。これらの墓壙構築方法や出土有肩鉄斧の様相から、猪子原1号墳の築造時期は集成7期（5世紀中頃～後半）であると想定したい。

## 第2節 上ノ谷遺跡について

### 1. 繩文土器について

上ノ谷遺跡では、1区第1黒色土層～第3黒色土層および2区第3黒色土層で繩文土器が出土している。これらの土器は、型式および層位から、縄文時代早期、前期前葉、前期後葉、後期前葉～後葉の時期が与えられる。以下、出土した繩文土器について、時期および出土層位ごとに様相を述べる。なお、出土した繩文土器については、非掲載も含め、第64～67表で示す。

#### (1) 縄文時代後期

縄文時代後期の土器は1区第1黒色土層および1区第2黒色土層から出土している(第64表)。第1黒色土層出土の繩文土器は精製・粗製の無文深鉢および浅鉢や沈線文、渦巻文および小J字文の施文が確認できるものである。基本的に小片であり、粗製無文土器が主体となるため不明瞭ではあるが、混入と考えられる幕地式を除き、崎ヶ鼻II式～元住吉山II式程度の土器が出土している。1区第2黒色土層出土繩文後期土器は、出土量が少ないものの、土器の特徴から、崎ヶ鼻I式および崎ヶ鼻II式に比定できる。

以上のことから、上ノ谷遺跡出土繩文後期土器は幕地式と崎ヶ鼻I～元住吉山II式に比定できる土器が出土しており、縄文時代後期前葉から後期後葉を中心とした時期が与えられる。

#### (2) 第2黒色土層出土繩文前期土器

1区第2黒色土層から出土した繩文前期土器は、内外面に条痕調整が施されており、ナデ調整の土器



第155図 下山遺跡出土の月崎下層式土器

第64表 1区出土繩文後期土器集計表

出土層位	型式	時期	特徴	点数	内訳						
					ナデ	ミガキ	ナデミガキ併用	二枚貝条痕	匙面条痕	巻貝条痕	ケズリ様(巻貝条痕)
Pit299		後期	底部片	1				1			
			精製無文	1		1					
NR01		後期	沈線文	1	1						
			底部片	1	1						
第1黒色土層		後期	粗製無文	27	15			7	1	4	
			渦巻・小J字	1	1						
			凹線文	3	2	1					
			底部片	2	2						
第2黒色土層	サルガ鼻式	後期	粗製無文	7	1	2		3			1

第65表 1区第2黒色土層出土繩文前期土器集計表

型式等	特徴	出土層位	点数	内訳(外調整/内調整)						
				条痕/条痕	条痕/ナデ	一部条痕/条痕	一部条痕/ナデ	ナデ/条痕	ナデ/ナデ	
月崎下層式	押引文	第2黒色土層	5	2	1				1	1
脇部片	無文	第2黒色土層	21	9	1	2	2	2	5	
底部	丸底	第2黒色土層	3	1		1		1		
月崎下層式	押引文	Pit441	1					1		

についても、条痕調整後に丁寧にナデが施されているものと考えられる（第65表）。施文は、口縁部付近に押引文が施される。これらの特徴から、月崎下層式に比定できる。月崎下層式は、志津見ダムに関連して実施した発掘調査において、第3黒色土層から出土する土器型式として整理されている（島根県1998ほか）。下山遺跡（島根県2002d）でも第3黒色土層から月崎下層式が出土している（第155図）。口縁部付近に押引文が4条施され、押引文下方に刺突文が施されている。これに対し、上ノ谷遺跡出土の月崎下層式に施される押引文は5条施されていることが確認できる。堆積年代の判明している第2ハイカ層を挟んで堆積する黒色土層間で条数に差が認められることから、多条化していく状況が想定できる。なお、従来、月崎下層式は里木I式（北白川下層III式）に先行し、北白川下層IIc式に並行する条痕調整の土器型式として理解されている。三瓶山周辺の調査においても、第2黒色土層から出土する土器型式は大歳山式以降とされている。上ノ谷遺跡の発掘調査によって月崎下層式が第2黒色土層および第2ハイカ層上で検出した遺構内から出土したことにより、月崎下層式自体の存続幅が従来想定されていたものより長いことも考えられる<sup>(5)</sup>。

### （3）第3黒色土層出土縄文早期・前期土器

第3黒色土層では、1区で縄文時代前期前葉、2区で縄文時代早期後葉および前期前葉の土器が出土している（第66・67表）。

1区出土の縄文土器は、屈曲器形や細隆帯文が確認でき、その特徴から西川津B式に比定できる。無文の胴部片も同型式と考えられ、西川津B式を中心とした土器が出土していると考えられる。2区も同様に、西川津B式の特徴である細隆帯文が確認でき、無文の胴部片や底部片も同型式と考えられる。なお、1区・2区とともに西川津B式が出土したもの、西川津A式は確認されていない。西川津A式を作らず、西川津B式が出土したことから、両型式に時期差が想定できる<sup>(6)</sup>。

第66表 1区第3黒色土層出土縄文土器集計表

型式等	特徴	出土層位	点数	内訳（外調整／内調整）					
				条痕／条痕	条痕／ナデ	一部条痕／条痕	一部条痕／ナデ	ナデ／条痕	ナデ／ナデ
西川津B式	細隆帯文	1区 第3黒色土層	5	2	1	2			
	沈縄文		1	1					
	無文		29		2	3	12		12

第67表 2区第3黒色土層出土縄文土器集計表

型式	特徴	出土層位	点数	内訳（外調整／内調整）					
				条痕／条痕	条痕／ナデ	一部条痕／条痕	一部条痕／ナデ	ナデ／条痕	ナデ／ナデ
西川津B式	細隆帯文	2区 第3黒色土層	32	11	1	3	5	3	2
	竹／花 類似		12	5			6		1
	刺突文		1						1
	前期		191	43	14	24	38	17	55
	押引文		5	1	1	1			2
前期無文	胴部片	2区 SI06	1				1		
	底部 (丸底)		1				1		
	刺突文		24	2				2	20
	押引文		1						1
前期	口縁	2区 SI06	3		1	1		1	
	胴部片		24						
	底部 (丸底)		1						
早期	胴部片	2区 第3黒色土層	2						2

また、刺突文や押引文を口縁部および胴部に施す土器群も出土しており、竹ノ花遺跡出土資料(足立1981)と類似する特徴をもつ。これらの土器群は、西川津式に後続し、羽島下層Ⅱ式に先行する資料として評価されている(柳浦2017ほか)。上ノ谷遺跡で西川津B式と同一層・同一地点から出土したことにより、両者は時期的に連続している可能性が考えられる。なお、2区第3遺構面検出のSI06では前期胴部片とともに、竹ノ花遺跡類似資料(第95図2・4)が出土している。このことから、SI06が縄文時代前期前葉の時期の建物と評価できる。

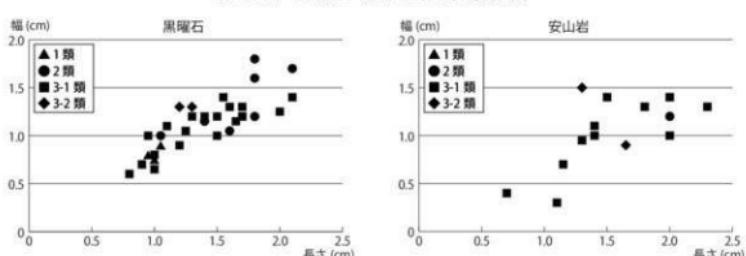
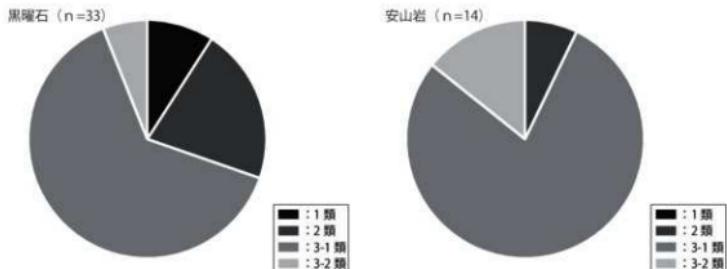
## 2. 石器について

### (1) 石器集中地点とその様相

2区第3黒色土層および第3遺構面からは石器が多数出土しており、石器集中地点(第100~103図)も確認した。石器集中地点では、石器製作に伴う微細な剝片が多量に出土したほか、石核、楔形石器、石鏃、スクレイパー、UFといった石器のほか、石鏃未製品およびRFも含まれていた。特に石鏃の出土が目立ち、石鏃未製品も出土することから、上ノ谷遺跡の縄文時代前期前葉の集落では、石器生産を行っていたことが指摘できる。

### (2) 石器集中地点出土石鏃組成

石器集中地点で出土した石鏃は、基部および側縁の形態から分類が可能であり、平基式(1類)、凹基式で側縁に突起をもつもの(2類)、凹基式(3類)が確認できる。このうち、3類とした凹基式の石鏃は、基部のえぐりの形態から2つに細分でき、えぐりの浅いものを3-1類、えぐりの深いものを3-2類に区分できる。これらの石鏃の出土組成(第156図)を石材別に確認すると、黒曜



石では3-1類とした凹基式のうち、えぐりの浅い石鏃が大半をしめ、2類の側縁に突起をもつ凹基式の石鏃も一定量存在する。安山岩も黒曜石同様に3-1類が占める状況が認められる。石材を問わず、凹基式の石鏃生産を行う傾向が指摘できる。

#### (3) 石器集中地点出土石鏃の法量

石器集中地点から出土した黒曜石製・安山岩製石鏃の法量分布を第157図で示した。両石材製の石鏃とも、長さ2.5cm以下、幅2.0cm以下におさまり、小型の石鏃を指向していたことがうかがえる。また、長さ1.0cm以下の超小型の石鏃も両石材で確認できる。なお、黒曜石製石鏃では、1類は長さ1.0cmと超小型の石鏃となるほか、2類で3類と比較して幅広の石鏃が確認できる。形態差によって法量が異なる状況も確認できる。ただし、基本的には石材間での石鏃法量に明瞭な差異はなく、黒曜石と安山岩については、石材の差異によって指向する石鏃の法量が異なるといった状況は明瞭には認められない。一方、流紋岩製には長さ2.5cmを超える石鏃(第107図32)もわずかではあるが確認できる。石材によっては、比較的大きい石鏃も生産していた可能性がある。

#### (4) 出土石鏃とその特徴

石器集中地点から出土した石鏃について、分類および法量の確認を行った。その結果、黒曜石製および安山岩製の石鏃は、石材を問わず、凹基式石鏃を基本とし、分類によって法量に若干の差があるものの、長さ2.5cm以下の超小型<sup>⑦</sup>・小型となる傾向を示した。これらのような、小型の石鏃を生産する要因として、石材产地との地理的隔たりが関与していると考えられる。石鏃石材のうち、黒曜石は分析によって隠岐産であることが判明した。隠岐産黒曜石の素材搬入形態については、稲田陽介が論じている(稲田2005)。稲田は、山陰地方の縄文時代前期の石器製作技術について、隠岐から中国地方山間部にかけて、黒曜石素材が地理的勾配をもって徐々に小型化し、これに連動して石核素材および遺跡内生産される器種も小型化が認められるとしている。山陰地方の黒曜石製石器製作は、黒曜石の素材搬入形態に大きく規制されていることを指摘している。

上ノ谷遺跡は中国地方山間部に位置し、黒曜石原産地である隠岐とは離れている。このような地理的背景および稲田の指摘をふまえると、遺跡出土の黒曜石製石器は、地理的勾配をもって小型化するといった、黒曜石の素材搬入形態に大きく規制された石器製作技術が表現されていると考えられる。

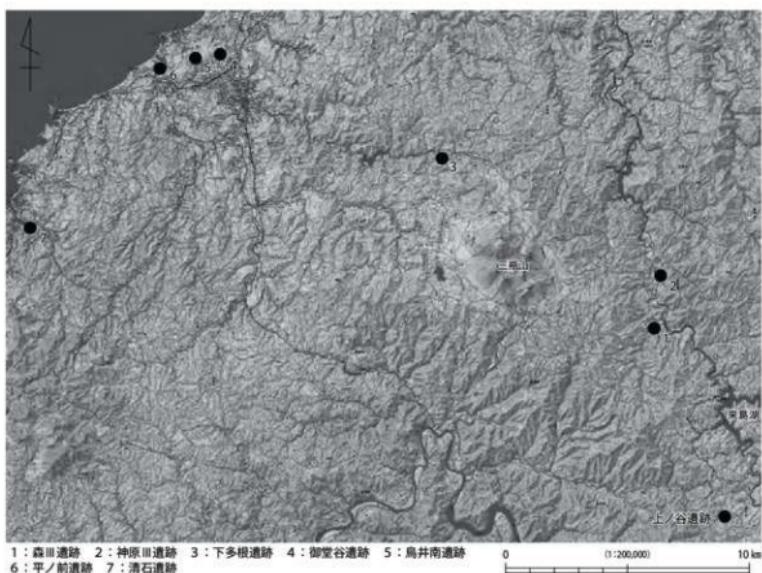
### 3. 土師器について

#### (1) 出土土師器とその特徴

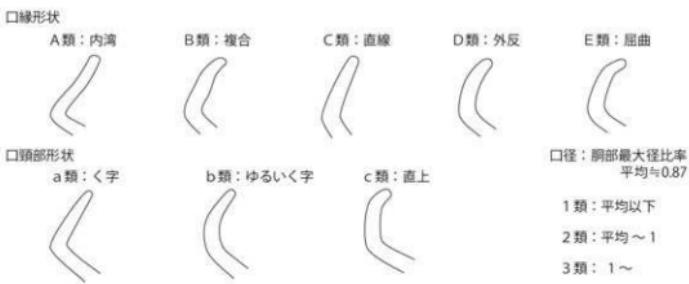
上ノ谷遺跡では、1・2区第1遺構面で土師器が多数出土している。土師器は小型壺や高杯、瓶、ミニチュア土器も出土しているが、甕が出土の大半を占めている。また、遺構からも出土しており、SI01では石見4期の特徴を示す須恵器壺蓋と共に作っている。須恵器との共作関係から、土師器も古墳時代後期後半の時期が推測できる。ただし、SI05のように、須恵器と共にせず、土師器のみが出土する遺構も確認できる。これらの遺構からは、内湾口縁や退化した複合口縁の甕が出土しており、須恵器と共に作る土師器と比較し、古い様相を示すものと考えられる。

#### (2) 土師器甕の分類

前述したように、上ノ谷遺跡出土土師器は、その特徴から須恵器と共に作る一群と古い様相をもつ一群のおおむね2時期に区分できる。前者は共作する須恵器の特徴から古墳時代後期後半と判断

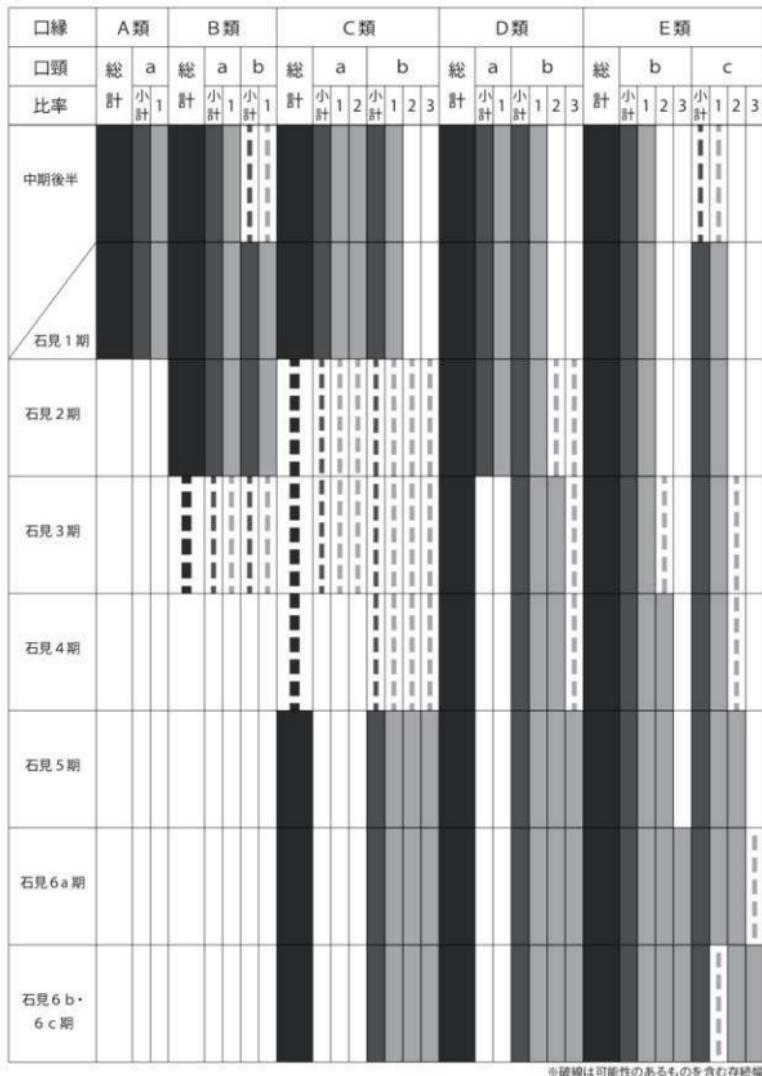


第158図 分類対象遺跡位置図



第159図 土師器甕の分類

できるが、後者については、周辺地域の調査例が少ないほか、時期比定が可能な遺物と共に伴しないことから時期の把握は困難である。このような時期把握が困難な一群の時期比定を行うため、三瓶山周辺および大田市沿岸部付近の出土土師器を対象に分類を実施した。分類は、上ノ谷遺跡で出土する土師器の大半を占める甕を対象器種とし、各遺跡で遺構から出土し、時期判定が可能なものを対象資料とした（第158図）。また、分類については、口縁形状で5類（A～E類）、口頭部形状で3類（a～c類）、口径と胴部最大径の比率で3類（1～3類）に区分した（第159図）。なお、口径と胴部最大径の比率については、集成資料の平均（0.87）を基準とし、口径が胴部最大径より小さいが平均以下のもの（1類）と平均以上のもの（2類）、口径より胴部最大径が大きいもの（3類）に区分した。対象時期については、上ノ谷遺跡で出土する複合口縁の土師器甕の様相から、中期後半以降



第160図 土師器窯の分類と存続時期

第68表 検出遺構と出土土師器甕分類

検出区	検出した主な遺構	出土遺物	土師器甕分類	時期
1区	SI01	土師器・須恵器・鉄器・石器	Ec1	石見4期（古墳時代後期後半）
	SI02	土師器	Eb2	石見4期（古墳時代後期後半）
	SI05	土師器	Bb1 Ca Eb1 Ec1	古墳時代中期後半～後期初頭
	SK41	土師器	Ca Cb1 Db1 Db3 Eb	古墳時代中期後半～後期初頭
	Pt293	土師器	Eb	古墳時代後半期
2区	SK20	土師器	Aa3 Ca1 Cb	古墳時代中期後半

とし、時期区分については、大谷晃二（大谷1998）および岩本真実（岩本2019）の石見地域における須恵器編年に従う。

共伴遺物などで時期把握可能な土師器甕の分類の様相は、第160図のようになる。口縁部形状のみで時期比定が比較的可能なA類・B類を除き、C類～E類では口縁部形状のみでなく、口頭部形状および口縁部径と胴部最大径の比率を組み合わせることで、ある程度の時期把握は可能である。ただし、口縁部形状D類・E類については、対象時期をとおし、同分類が存続する状況も認められる<sup>(8)</sup>。また、C類は周辺地域の出土事例において、石見2～4期に該当するものが確認できなかったものの、石見5期以降の資料は確認できている。空隙を挟み、同一分類が存在する状況は想定しにくく、当該地域においては良好な出土事例が認められないものの、D類・E類と同様な存続幅を持つことが推測できる。以上の土師器甕分類の様相を踏まえると、単一の土師器甕の型式差による時期決定は困難である。ただし、同一遺構出土の土師器甕に複数型式が確認できる場合、組み合わせによる時期の推測が可能である。

### （3）上ノ谷遺跡検出遺構の時期

上記の分類とその存続時期を踏まえ、上ノ谷遺跡検出遺構の時期を示すと第68表のとおりとなる<sup>(9)</sup>。竪穴建物SI01ではEc1類のみの確認であるが、共伴する須恵器坏蓋から古墳時代後期後半となる。SI02では須恵器などの共伴遺物が未確認のため、土師器甕の分類からは後期後半以降となる。ただし、上ノ谷遺跡では石見4期の須恵器以外、須恵器が出土しておらず、後期の遺構も時期が把握できるものは後期後半となることから、SI02の時期についても後期後半の可能性が高い。SI05はB類およびC類の共伴する。前述したように、当該地域におけるC類の存続幅が不明瞭なため、B類の存続幅から遺構の時期を示すと、古墳時代中期後半～後期初頭と判断できる。土坑SK41ではC類が確認できる。上ノ谷遺跡出土のC類は古墳時代中期後半～後期初頭に限定されることから、SK41も同時期に比定できる。SK20はA類の土師器甕が出土することから、古墳時代中期後半に位置付けられる。

以上のように、三瓶山周辺および大田市沿岸部の時期把握可能な遺構から出土した土師器甕の分類から、上ノ谷遺跡出土の土師器は古墳時代中期後半～後期初頭および後期後半の2時期存在することが指摘できる。

## 4. 古墳時代後半期の竪穴建物について

### （1）竪穴建物検出状況

竪穴建物は、1区でSI01～03・05を検出した。須恵器および土師器甕の分類から、古墳時代中期後半～後期初頭のSI05と古墳時代後期後半のSI01が認められる。また、SI02・03は出土遺物で

は詳細な時期は不明であるが、SI02は古墳時代後期後半と判断でき、隣接するSI03も同時期と考えられる。そのため、1区検出の竪穴建物は2時期に区分が可能である。

### (2) 竪穴建物の配置と機能

中期後半～後期初頭のSI05では、煙道など遺構に付随する施設は確認できなかったものの、祭祀の可能性もある土器集積が認められた。一方、後期後半の竪穴建物は、3棟検出したが、隣接するSI02・03に対し、SI01がやや離れて位置している。SI03は遺構の遺存状況が悪く、詳細は不明であるが、SI02より小型の建物で主柱をもたないことが考えられる。これに対し、SI02は2本柱の竪穴建物であり、建築当初は煙道をもっており、炊事機能を有していたと推測できる。遺構配置や建物構造をふまると、SI02・03はセット関係が想定でき、同時性が指摘できる。

SI02で検出した煙道は、貼床に伴い埋められていることが判明した。SI02の改築に伴い、SI02で炊事を行わなくなった状況が推測できる。竪穴建物に付随する煙道はSI01でも検出されている。SI01は先述したように、SI02・03とは離れて配置されており、規模も古墳時代後期後半の建物の中で最大となる。SI01の煙道は、SI02と異なり貼床で埋められておらず、最終段階まで機能していたことが想定できる。

### (3) 竪穴建物の変遷

以上のような建物に付隨する煙道の検出状況や建物配置から、SI01とSI02・03では時期差が想定でき、SI02・03がSI01に先行して建てられ、その後、SI01を建てた後にSI02が保持していた炊事機能をSI01へ移した状況を想定できる。このことから、後期後半の竪穴建物は少なくとも2時期に細分できる。ただし、SI01とSI02の出土土器には時期差が認められないことから、古墳時代後期後半の特定の時期における集落規模の拡大に伴う建物の変遷を示しているといえる。

## 5. 三瓶山周辺における古墳時代中期～終末期の集落変遷

### (1) はじめに

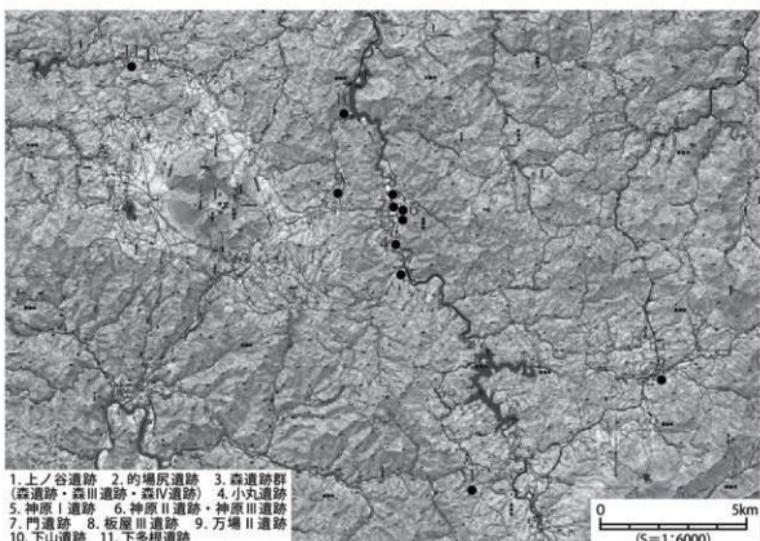
上ノ谷遺跡では古墳時代中期末（5世紀末）の竪穴建物1棟、後期末（6世紀末～7世紀初頭）の竪穴建物3棟が検出された。上ノ谷遺跡の北西側約11kmには三瓶山が聳えており、その周辺地域ではこれまでに弥生時代～奈良時代の集落遺跡が見つかっている。上ノ谷遺跡の集落と併行する時期を含めた古墳時代中期（5世紀）～終末期（7世紀）の当該地域の集落変遷を、遺構・出土遺物等から分析した結果、上ノ谷遺跡と集落変遷・生活様式を共有する集団の居住していた可能性が高いことがわかった。

### (2) 三瓶山周辺の集落遺跡

三瓶山周辺の集落遺跡は、これまでに飯南町志津見地区・八神地区・角井地区・頼原地区・大田市三瓶地区に所在することが知られている（第161図）。これらの遺跡は神戸川とその支流の河岸段丘上や丘陵の緩斜面に位置し、弥生時代～奈良時代の竪穴建物が見つかっている。以下でその様相を概観する。

飯南町志津見地区には神原Ⅰ遺跡・神原Ⅱ遺跡・神原Ⅲ遺跡・板屋Ⅲ遺跡・門遺跡が所在する。神原Ⅰ遺跡（島根県2000a）・神原Ⅱ遺跡（島根県2000a・2002b・2003）・神原Ⅲ遺跡（島根県2004）では古墳時代中期～奈良時代、板屋Ⅲ遺跡（島根県1998）では弥生時代後期～奈良時代の竪穴建物が確認された。

同町八神地区的森遺跡・森Ⅲ遺跡・森Ⅳ遺跡（以下、森遺跡群と記載。）・小丸遺跡は、神戸川の



第161図 三瓶山周辺の集落遺跡（弥生時代後期～奈良時代）

河岸段丘上に位置する。森遺跡群（島根県2000b・島根県飯南町2009）では弥生時代後期～奈良時代の竪穴建物が見つかった。後述するが、森遺跡群では6世紀末～7世紀前葉の竪穴建物が他遺跡よりも多く検出されている。

角井地区では、万場II遺跡・下山遺跡が所在する。万場II遺跡（島根県飯南町2007）は古墳時代終末期～奈良時代の竪穴建物が多く見つかっており、周辺地域内ではやや後出する集落である。

頓原地区の的場尻遺跡（島根県頓原町1998）では、弥生時代終末期～古墳時代終末期の竪穴建物が検出された。本遺跡は、上ノ谷遺跡と同様に三瓶山からやや離れた広島県との県境に近い地域に所在する。

大田市三瓶地区的下多根遺跡（島根県大田市1999）は三瓶山北側、三瓶川の河岸段丘上に位置し、古墳時代中期から奈良時代の竪穴建物が見つかっている。

### （3）竪穴建物の特徴

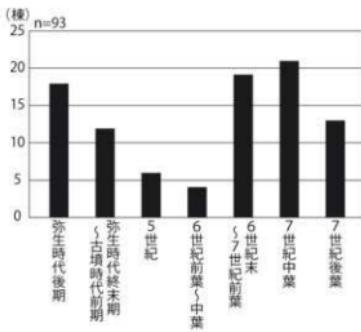
三瓶山周辺地域において、6世紀末～7世紀前葉にかけて建てられた竪穴建物は共通した特徴がある。平面形は一辺が3～5m程度の方形で、各建物は地形に沿って並ぶように建てられる場合が多い。また、壁際に造り付け窓を備え付けたものが多く、当該時期の竪穴建物18棟のうち、11棟で確認されている（第162図）。7世紀中葉以降の竪穴建物でも造り付け窓が確認できることから、本地域では6世紀末～7世紀前葉以降に造り付け窓が普及した可能性が高い。

### （4）遺跡内の遺構変遷

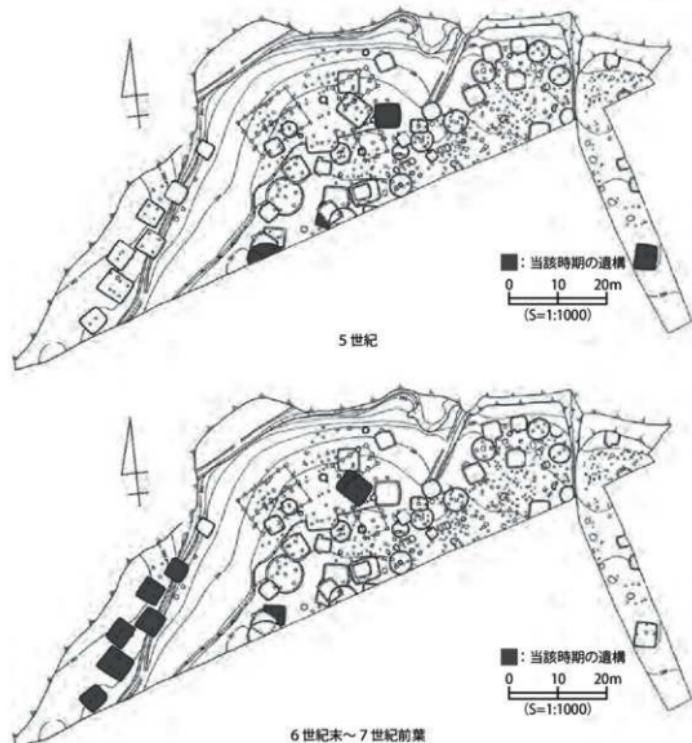
ここでは、集落遺跡の変遷を棟数・立地等から分析する。弥生時代後期～古墳時代終末期における竪穴建物の内、時期が判別できるものを集計すると、5世紀～6世紀中葉は棟数が低迷しているが、6世紀末～7世紀前葉になると短期間で増加している（第163図）。



第162図 6世紀末～7世紀前葉の竪穴建物



第163図 三瓶山周辺の集落遺跡における竪穴建物棟数



第164図 5世紀～7世紀前葉の集落内変遷（森III遺跡）

竪穴建物の変遷を明確に確認できる森Ⅲ遺跡で例示すると、5世紀をとおして竪穴建物は4棟となっているが、6世紀末～7世紀前葉になると8棟に増加する（第164図）。建て替えを考慮したとしても、棟数の増加幅は顕著である。また前述したように、本遺跡の6世紀末～7世紀前葉の竪穴建物は平面が一辺3～5m程度の方形で、地形に沿って並ぶように建てられている。

6世紀末～7世紀前葉の竪穴建物が検出された集落遺跡は森遺跡群（森遺跡・森Ⅲ遺跡）・神原Ⅰ遺跡・板屋Ⅲ遺跡だが、その多くは森遺跡群に分布している。当該時期において森遺跡群は、周辺地域の集落の中でも中心的な存在であった可能性がある。

#### （5）竪穴建物内出土遺物の組成

各遺跡の竪穴建物内出土遺物の組成は、時期ごとに特徴が表れる。以下では、出土遺物の各属性を時期ごとに抽出し、そこからわかる特徴を述べる。

##### 土師器と須恵器の出土比率（第165図）

土師器と須恵器の出土比率を確認すると、5世紀は出土遺物の中に須恵器が含まれず、6世紀末以降確認できるようになる。須恵器は7世紀中葉までは3割程度の割合で出土し、後葉にやや割合が減るが、出土土器比率の2割を占める。6世紀前葉～中葉は竪穴建物の棟数が少ないため言及しづらいが、現在確認されている遺構からは須恵器は出土していない。

##### 土師器の器種比率（第166図）

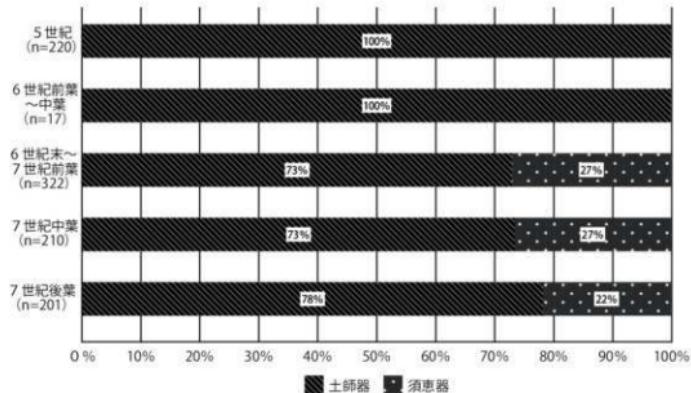
出土遺物の内、土師器の器種比率は時期ごとの変化が顕著である。5世紀では甕・高环・小型丸底壺が比率の大部分を占める。数は少ないが、环・椀・ミニチュア土器・壺などの出土例がある。前述したとおり、6世紀前葉～中葉は遺構数が少ないため不明な部分が多いが、土師器の甕が組成の中心となり、前の時期に多く出土した小型丸底壺は確認できない。6世紀末～7世紀前葉では、出土した土師器の6割を甕が占める。甕と比較すると少ないが、高环・环・瓶・椀なども出土する。ごく少量であるが、ミニチュア土器・壺などの器種が出土する例もある。7世紀中葉は、甕の割合が出土した土師器全体の8割まで増加し、瓶・高环・椀は前の時期と比べて割合が減少する。7世紀後葉になると、甕の割合がさらに増加する。环の割合は前の時期に引き続き変化が少ないが、高环はさらに割合が減少し、瓶はやや増加する傾向がある。

5世紀までは高环・小型丸底壺などの祭祀的性格を含む供獻具が比較的多く出土する傾向を認められる。しかし、6世紀末～7世紀前葉以降は炊爨や貯蔵で使用できる甕が組成の中心となり、瓶なども共伴する。このような組成の変化の背景には、同時期に造り付け窯が普及したことが関係すると考えられる。

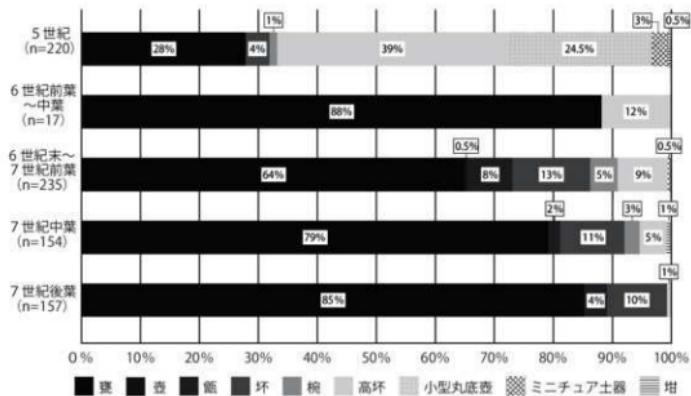
##### 須恵器の器種比率（第167図）

須恵器の器種比率は、そのほとんどを高环・环身・环蓋が占める。6世紀末～7世紀前葉では环身・环蓋が組成の主体で、高环・壺・甕などの出土例も散見する状況であった。7世紀中葉になると高环の出土割合が大幅に増加し、环身・环蓋とともに組成の主体となる。壺の割合は前の時期に比べると減少する。少量であるが、鉢の出土例がある。7世紀後葉では、高环・环身・环蓋の割合はほぼ変化しない。その他の器種では、甕が少量出土する程度に留まる。

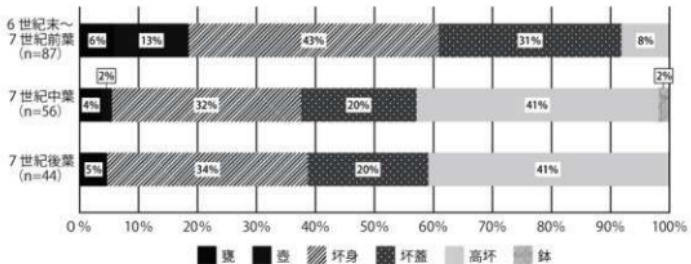
6世紀末以降に出土した須恵器は、そのほとんどが供獻具の高环・环身・环蓋である。6世紀末以降の土師器の中にも高环・环・椀などが含まれるが、环以外は時期が下るにつれて大幅に割合が減少し、代わりに炊爨・貯蔵に使用可能な甕が増加している。このことから、6世紀末以降の竪



第165図 竖穴式出土の土師器・須恵器の比率



第166図 土師器の器種比率



第167図 須恵器の器種比率

穴建物では、供膳具・炊爨具を須恵器・土師器で使い分けている可能性が考えられる。

#### (6)まとめ

これまでに三瓶山周辺の各遺跡における古墳時代中期～古墳時代終末期の集落の変遷・竪穴建物内の出土遺物組成の変化を分析した。

三瓶山周辺の集落遺跡では6世紀末～7世紀前葉にかけて造り付け窓を備えた竪穴建物の棟数が増加する。この時期に当地域で人口が増加し、造り付け窓の普及した可能性が高い。また、6世紀末～7世紀前葉以降の竪穴建物から出土する土師器の器種が、造り付け窓の普及とともに炊爨に使用可能な甕が中心となる。同時に高环などの供膳具は土師器から須恵器に置き換わることから、器種ごとに土師器・須恵器を使い分けている可能性がある。三瓶山周辺の集落では、集落内の変遷や生活様式（竪穴建物の立地と規格・造り付け窓の使用・器種ごとの土器の使い分け）を共有する集団の居住していた可能性が考えられる。

この結果は、上ノ谷遺跡におけるSI05（古墳時代中期末）・SI01・SI02・SI03（6世紀末～7世紀初頭）の変遷や、竪穴建物の立地・規格、出土遺物の組成とほぼ一致している。上ノ谷遺跡では古墳時代中期まで1棟であった竪穴建物が、6世紀末～7世紀初頭には3棟に増加している。SI01・SI02・SI03は谷地形に沿うように並んで建てられており、各遺跡における同時期の竪穴建物の変遷や立地と共通している。また、遺構の残存状況が最も良いSI01は方形プラン（4.3m×3.2m）で、前述の規格の範囲内に収まる。各遺構内の出土遺物は、SI05が土師器の甕・高环・小型丸底壺、SI01が土師器の甕・甌・环と須恵器の环蓋、SI02が土師器の甕・环・ミニチュア土器である。これらは前述で示した各時期の竪穴建物内出土遺物の組成と特徴が一致している。以上を鑑みると、上ノ谷遺跡の集落は三瓶山周辺地域の集落と同様の変遷の中で形成され、生活様式を共有する人々の居住していた可能性が高い。

竪穴建物の棟数増加の要因は、現時点では不明である。しかし、出雲平野部では6世紀末（出雲4期）以降、水利開発を背景に外部からの移住を伴いながら急激に人口増加した可能性が指摘されている（池澤2019）。この時期の出雲平野部と三瓶山周辺地域の集落間の交流関係は不明瞭であるが、神戸川の水運を利用すれば接続することは可能である。三瓶山周辺における竪穴建物の棟数増加は、平野部と関連する当時の開発にともなっている可能性も考えられるため、今後検討する必要がある。

### 第3節 高城跡について

高城跡は、中世の山城跡として知られている。今回の調査では、主郭より南へ約40m下った尾根上の調査を行い、階段状に連続した小規模な平坦面（SX01）と多量の炭を含んだ土坑（SK01）を検出した。しかし、いずれも遺構の性格が不明瞭で、遺物も出土していないため評価が難しい。そこで、本調査区の位置付けを行うにあたり、まず主郭および周辺の遺構の整理を行いたい<sup>(10)</sup>。

高城跡の主郭は、標高105～106mの尾根頂部に位置する（第168図）。郭全体は東西約60m、南北約14mを測り、数段の平坦面で構成される。自然地形を削平して普請されており、周囲は切岸により急斜面となっている。平坦面は一定の広さが確保されているものの、削平が良好でないためか、郭の輪郭が判然としない。主郭から北西に伸びる尾根上には、一段下がった所に曲輪が認められる。主郭東側の急斜面を下ると狭い尾根が東へ伸び、その先に堀切が認められる。堀切を越えた尾根先端側は不明瞭で、積極的に曲輪とは判定しにくい。北側斜面にも平坦面が認められるが、なだらかで普請が行われたかどうかは不明である。本調査区の位置する主郭南側には尾根上にいくつもの平坦面が点在し、自然地形を利用した曲輪の可能性がある。

これらの特徴をまとめると、以下のようになる。

- ・主郭、堀切、曲輪といった比較的単純な遺構で構成されている。
- ・主郭は一定規模の面積が確保されている一方で、普請は自然地形に依拠しており、しっかりととした作りをしていない。
- ・主郭周辺には、堀切や小規模な曲輪が配されているものの、主郭との機能的な関連性が不明瞭である。
- ・自然地形を利用して曲輪状の平坦面が多数認められる。

こうした特徴から本城は長期間にわたって計画的に普請された山城というより、自然地形を利用して短期間に普請された山城であったと評価することができる<sup>(11)</sup>。

さて、以上の点をふまえて改めて本調査区の遺構を見てみると、小規模な平坦面群から成るSX01は、柱穴や盛土といった明瞭な人為痕跡をもたず、自然地形に沿って配置されているなどの点で、高城跡の構造的特徴と合致していると言える。時期については、下層から検出されたSK01の放射性炭素年代測定で16世紀初頭～17世紀中頃の年代が得られていることから、室町時代から江戸時代前期以降の所産と推測される。

これらのことから、SX01は高城跡を構成する山城関連遺構として捉えることは十分に可能である。その場合SX01の性格として想定されるのは、主郭との位置関係や連続した平坦面の配置状況から、例えば小郭を利用して尾根沿いに主郭へと至る登城路のような機能が考えられるだろう。また、本調査区ではSX01と炭溜まりであるSK01以外に明確な遺構は見つかっていない。従って本調査区は、登城路のような特定の機能に限定して設けられた地区と評価することができよう。

以上、高城跡全体の遺構の整理を行った上で、本調査区の位置付けを試みた。その結果、本調査区は高城跡の城域の一部と考えられ、その性格としては、主郭へ至るための登城路であることが想定された。今回の調査は高城跡全体の一部に過ぎず、築造時期の問題など未解明な点も多く残されている。今後の調査研究で、高城跡の歴史的な評価が定まることが期待される。



第168図 高城跡縹張り図

## 第4節 小原遺跡について

小原遺跡の発掘調査では、古墳4基の調査を行った。このうち小原1号墳と2号墳については、墳丘の構築方法や埋葬施設、古墳の築造時期などについて所見を得た。ここでは、小原1号墳と2号墳の諸要素を整理し、島根県内の前期古墳との比較をとおして、その位置付けを試みたい。

### 1. 小原1号墳・2号墳の系統

小原1号墳・2号墳は、葺石などの外表施設を持たない方墳で、墳丘規模は1号墳が南北約10.7m、東西約9.1m、2号墳が南北約10.5m、東西約7mを測る。築造時期は古墳時代前期前葉の小谷2式期と推測され、これは集成編年I期～II期（広瀬1991）、中四研編年I期～II期（中国四国前方円墳研究会2018）に相当する。このうち中四研編年I期は、土器型式や副葬品、内部主体の変化から草田6段階と小谷2段階に細分され、I期前半（草田6段階）には前段の四隅突出型墳丘墓から一変して外表施設のない方墳が出現し、I期後半（小谷2段階）になると三角縁神獣鏡や竪穴式石室など定型化古墳の要素を取り入れつつも引き続き方墳が展開する状況が明らかにされている（松山2018）。

さて、小原1号墳・2号墳は外表施設を持たない一辺10m程度の方墳であることから、中四研編年I期前半以降に出現・展開する方墳の流れで捉えられる。そこで、島根県内で中四研編年I期からII期に属する方墳を抽出すると、松江市社日古墳（島根県2000）、同市柴尾遺跡（松江市1994・1995）、同市茶山遺跡（松江市2014）、同市奥才古墳群第8支群（鹿島町2002）、同市小屋谷古墳群（八雲村1981）、雲南市土井・砂遺跡（島根県2001）などがあげられ、いずれも葺石のない一辺約10m～20mの方墳が複数基確認されている。では次に、小原1号墳・2号墳で確認された諸要素について、これらの方墳と比較してみるとこととする。

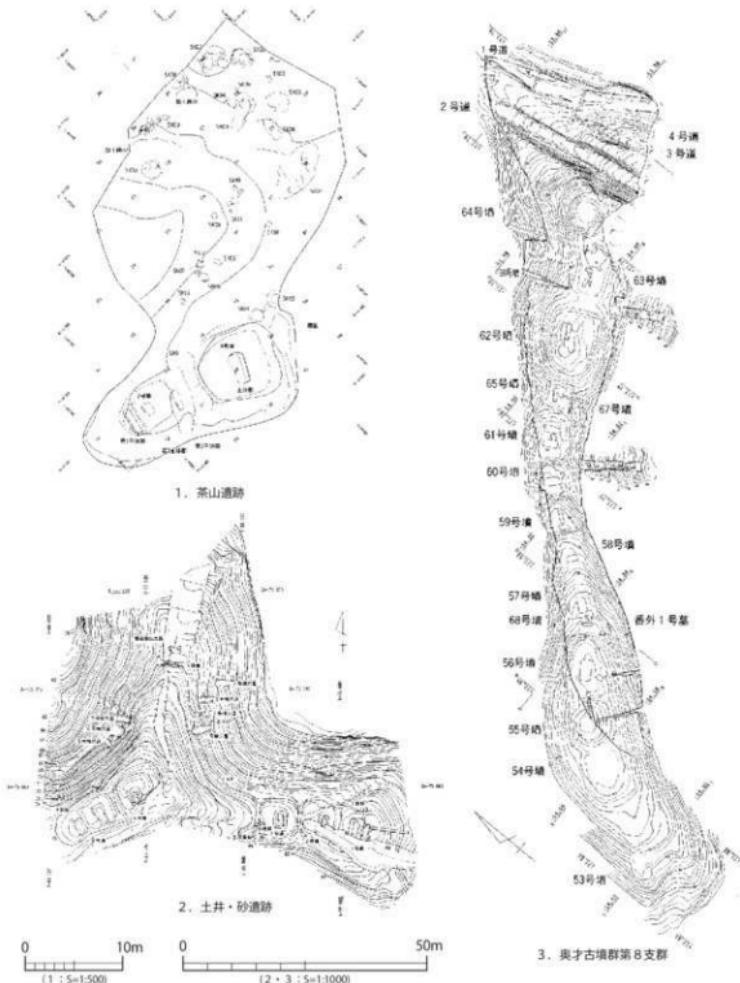
### 2. 諸要素の比較

#### （1）墳丘構築方法

まず、墳丘の構築方法について見てみる。小原1号墳・2号墳の墳丘は、丘陵尾根という自然地形を利用して行われる。地山の削り出しや盛土によって整形され、墳裾は尾根筋を区切るように構築された区画溝と丘陵傾斜が利用される。同様の墳丘構築方法は、茶山遺跡（第169図1）、土井・砂遺跡（2）、奥才古墳群第8支群（3）など多くの事例で認められる。茶山遺跡では地山の削り出しや盛土、区画溝によって3基の方墳が築造されている。土井・砂遺跡では、丘陵尾根頂部に6基の方墳が構築され、地山の削り出しや尾根に直交する溝が施されている。奥才古墳群第8支群でも、丘陵尾根頂部で多数の方墳が連続して築造されている。地山削り出しや盛土で整形され、区画溝は尾根筋を切るように施されている。このように、自然地形を利用してしつづ地山の削り出しや盛土、区画溝によって連続して古墳を築造するあり方は、該期の一般的な手法と言えよう。

#### （2）埋葬施設

次に、埋葬施設について検討する。小原1号墳・2号墳では、墳丘頂部に作出した地山平坦面に墓壙を掘り込み、埋葬後に盛土を施して墓壙全体を覆っている。このような構築方法は、「掘込墓壙c類」（和田1989）に分類される。埋葬施設は、木棺直葬の二段墓壙もしくは一段墓壙で、1号墳では組合せ式の箱形木棺が、2号墳では箱形木棺と棺底が緩やかな船底状となる木棺が備えられて



第169図 古墳時代前期の墳丘構築方法

たと想定される。墓壙・木棺の規模は1号墳のものが最大で、墓壙一段目が長さ約4.8m、幅約2.4m、深さ最大約0.4m、二段目が長さ約3.9m、幅約1.5m、深さ約0.6mを測り、木棺は推定長さ約2.85m以上、幅約0.58m、高さ約0.5m以上と長大である。この他、1号墳の東区画溝(SD02)と2号墳の西区画溝(SD03)から土坑状の落ち込みが検出されており、墳頂部以外にも埋葬施設が存在していた可能性がある。

他の方墳の埋葬施設を見てみる。墓壙の構築方法については、地山面から墓壙を掘り込む事例は

多く認められるものの（土井・砂遺跡1号墳第1主体部、奥才56号墳第1主体部など）、盛土が失われていたり、盛土が残っていても墓壙との関係が不明瞭であったりと、類型を判断できるものがあまり見られなかった。しかし、墓壙の深さや盛土の残存状況などから推測すると、「掘込墓壙c類」に該当する事例は一定量存在するものと思われる<sup>[12]</sup>。二段墓壙が構築される事例は数多く認められる。主な事例としては、土井・砂1号墳第1主体部および第2主体部（第170図1）、奥才56号墳第1主体部（2）、小屋谷3号墳第1主体部（3）、柴尾2号墳2号主体部（4）、茶山1号墳主体部（5）などがあげられ、県内全域で見た場合は枚挙にいとまがない。棺の多くは木棺直葬で、箱形木棺や刳り抜き式木棺が多用されている<sup>[13]</sup>。石棺や土器棺なども散見されるが、墳頂部の中心的な埋葬施設としては、これらの木棺が採用される傾向にある。墓壙・木棺規模については、土井・砂5号墳第1主体部で長さ約4.55m、幅約2.4mの墓壙に、長さ約2.7m、幅約0.7mの箱形木棺が確認されており、小原1号墳の事例が突出して大きい訳ではなさそうだ。区画溝内に他の施設を設ける事例としては、茶山2号墳第3主体部の事例があげられる（第169図1）。墳丘東側の溝内より、組合せ式箱形木棺を備えた埋葬施設が見つかっている。

### （3）副葬品

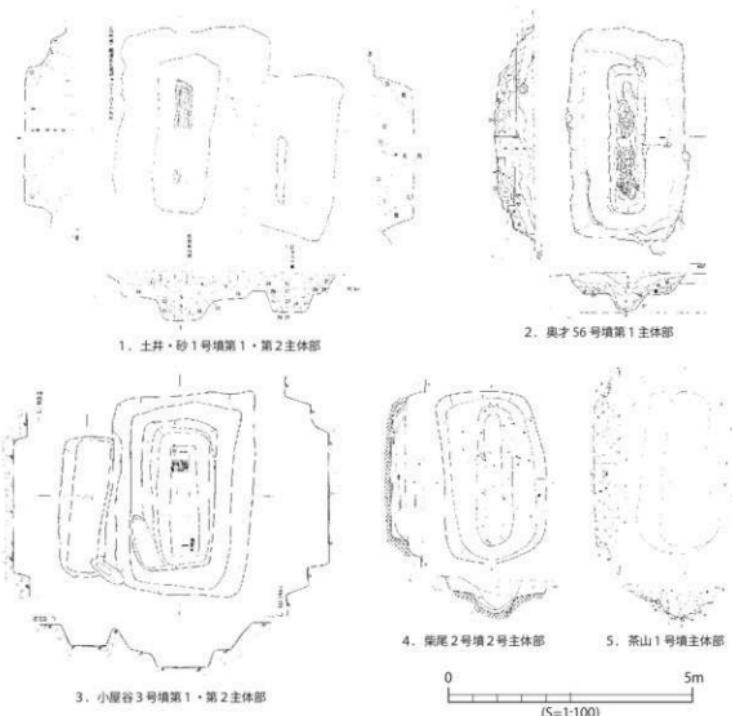
最後に副葬品について分析する。小原1号墳・2号墳では、明確な副葬品は確認されていない。しかし、1号墳では盛土や墓壙内の覆土・裏込め土から多数の土師器片が出土しており、特に墓壙北東側に集中する傾向が認められた。これが意図的なものかは判断できなかったが、棺の設置に先立って、墳頂部で土師器を用いた埋葬儀礼が行われた可能性は想定できよう。

他の方墳の副葬品・墓壙内出土遺物を見てみると、①破鏡（小屋谷3号墳第1主体部、土井・砂1号墳第2主体部）、②鉄製品（社日1号墳第1主体部・同第3主体部、小屋谷3号墳第1主体部、柴尾3号墳第1主体部・同第2主体部、土井・砂4号墳主体部・5号墳第1主体部・6号墳主体部、奥才56号墳第1主体部・62号墳第1主体部、茶山1号墳主体部・2号墳第2主体部、柴尾2号墳1号主体部・3号墳第1主体部・同第2主体部など）、③玉類（柴尾3号墳第1主体部）、④土師器片（柴尾2号墳2号主体部、土井・砂4号墳主体部など）、⑤遺物無し（土井・砂2号墳主体部、土井・砂5号墳第2主体部、奥才56号墳第2主体部、茶山2号墳第1主体部・同第3主体部など）などが認められ、かつこれらの組み合わせもあることから、かなり多様性に富んでいたことが分かる。

このうち、小原1号墳・2号墳に関わるのは④土師器片と⑤遺物無しの事例である。柴尾2号墳2号主体部では、墓壙埋土中より土師器片が多数出土しており、破片の大きさが一定であることから故意に混入させた可能性が指摘されている。また土井・砂4号墳では、被葬者の頭位付近と思われる北側の墓壙埋土から、多数の土師器片と袋状鉄斧1点が出土している。いずれも、小原1号墳とよく似た出土状況といえよう。遺物が出土しない事例は、一定量認められる。有機物が納められていた可能性もあるため、本来的な副葬品の有無は不明であるが、少なくとも上記の副葬品を供える場合とは異なる状況が存在していたことは間違いない。このように、小原1号墳・2号墳における副葬品のあり方は、他の方墳でも類例を確認でき、該期の方墳に認められる多様な副葬品の出土状況の中の一例として捉えることができるだろう。

## 3. 小原1号墳・2号墳の位置付け

これまで小原1号墳・2号墳で確認された諸要素と、中四研編年Ⅰ～Ⅱ期の外表施設を持たない



第170図 古墳時代前期の埋葬施設

方墳との比較を行った。その結果、墳丘構築方法・埋葬施設・副葬品において、他の事例と比べて特質した要素は認められず、むしろ多くの類似点を持つことが分かった。よって、小原1号墳および2号墳は、該期の小規模方墳としては一般的なあり方をしていると言えるだろう。

このようなあり方は、小原1号墳・2号墳に限らず、当該期の方墳全体の傾向として指摘できる。これまで見てきたように、墳丘構築方法や埋葬施設においては古墳間で共通した要素を持つ事例が多く認められ、そこには一定の規格性が読み取れる。よって、島根県の中四研編年Ⅰ期からⅡ期の方墳には、古墳の構造に際して共通の規範が存在していたと推測される<sup>[14]</sup>。その一方で、副葬品についてはやや異なる状況がうかがえる。副葬品は、埋葬施設ごとに様々な様相を示しており、これは被葬者の持つコネクションや立場、慣習など多様であったことを反映したものと考えられる。

以上、小原1号墳と2号墳は、中四研編年Ⅰ期より出現・展開する外表施設を持たない方墳の流れに位置付けられ、該期の方墳に施行された墳墓造営の規範に則して築造されたと推測される。小原1号墳・2号墳の存在は、当地域が古墳時代前期前葉には、こうした枠組みに組み込まれていたことを示す点で重要である。しかし、当地では両古墳に先行する遺跡の実態が不鮮明であるため、どのような過程を経て小原1号墳・2号墳が築造されるに至ったのかは分かっていない。今後の研究の進展で、当地域の古墳時代開始期の様相が明らかになることが望まれる。

## 第5節 まとめ

島根県東部（飯南町～出雲市）における変電所および送電線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査では、猪子原遺跡、上ノ谷遺跡、高城跡、小原遺跡の調査を実施した。今回の調査成果を整理し、まとめてみたい。

### 1. 猪子原遺跡

猪子原遺跡では、方墳1基（猪子原1号墳）を確認した。墓壇は墳丘中央から1基検出し、埋葬施設は木棺であり、棺外副葬として有肩鉄斧が1点出土した。墳丘構築方法および出土有肩鉄斧から古墳時代中期後半（集成7期）に時期比定が可能である。眺望のよい高所へ古墳を築造した結果、地形的な制約を受けて特異な長方形墳丘を呈しているものの、墳丘の流出防止を目的とした丁寧な墳丘構築が施されている。このような墳丘構築とともに、一墳丘に単独で埋葬され、周辺地域で偏在する有肩鉄斧を副葬することから、1号墳に埋葬される被葬者は周辺地域を治める地域首長であると考えられる。

### 2. 上ノ谷遺跡

上ノ谷遺跡では、縄文時代前期から古墳時代後半期にかけての遺構や遺物が出土した。

縄文時代前期については、第3遺構面で竪穴建物および石器集中地点などを確認し、生活の痕跡を明らかにすることができた。出土する土器は早期後葉が数点含まれるもの、西川津B式から竹ノ花遺跡出土土器類似の刺突文土器を中心としており、前期前葉の特定の時期に営まれた集落であると考えられる。石器については、20,000点を超える隱岐産黒曜石および安山岩などの微細な剥片とともに、石鏃などの製品や未製品が出土した。石器生産が集落内で行われたものと理解できる。建物および石器生産を確認したことで、小規模な集落と集落内で行われる生業といった、中国山間部の縄文前期前葉の集落様相が把握できた。今後は、中国山間部の調査事例の蓄積をもとに、山陰沿岸部などとの比較検討が深化していくものと考えられる。

第2遺構面で縄文前期後葉の土器型式である月崎下層式が出土した。月崎下層式は、角井降下火山灰の降下直前に使用されていた土器型式の一つで、広域に分布する北白川下層式系土器型式に対し、山陰や西部瀬戸内を中心に分布する土器型式である。三瓶山周辺地域では第2ハイカ層下層から出土していた土器型式であり、今回はじめて第2遺構面検出遺構から出土した。上ノ谷遺跡では第2ハイカ層下層の第3黑色土層から出土しないことをふまると、第2ハイカ降灰後に移動してきた縄文人によってもたらされた土器型式といえる。当該時期の縄文人の活動の一端を把握できる土器であり、火山噴火という自然災害に対する縄文社会のあり方を検討する上で重要な資料となるものと考えられるが、今回十分に検討できなかった点が課題として残っている。

古墳時代後半期に関しては、竪穴建物や多数の土坑、小土坑を確認した。出土する遺物から古墳時代中期後半～後期初頭および後期後半の時期が与えられる。竪穴建物では、中期後半～後期初頭と後期後半の2時期の建物を確認した。後期後半の竪穴建物では、改築により煙道を埋めている状況が把握できることで、集落規模の拡大に伴う建物の増築および改築による建物の機能変化といった状況を想定することができた。

### 3. 高城跡

高城跡では、主郭より南へ下った尾根上の調査を行い、階段状に連続した小規模な平坦面（SX01）1基と多量の炭を含んだ土坑（SK01）1基を検出した。SX01は、調査区周辺の他の遺構との比較から高城跡を構成する山城関連遺構と考えられ、その性格としては主郭へと至る登城路のような機能が想定される。SK01は埋土から多量の炭が見つかっており、放射性炭素年代測定で16世紀初頭～17世紀中頃の年代が得られている。

### 4. 小原遺跡

小原遺跡では、古墳4基（小原1号墳～4号墳）と古墳に伴う墓壙（ST01～ST03）、古墳の区画溝（SD01～SD05）、土坑（SK01～SK03）を検出した。このうち、1号墳と2号墳は墳丘全面を調査し、古墳時代前期前葉（小谷2式期）に築造された方墳であることが判明した。両古墳とも、墳頂部に木棺直葬の埋葬施設を持ち、墳丘は丘陵尾根を利用して、地山削り出しと盛土によって構築されている。明確な副葬品は出土していないが、1号墳では墓壙内より土師器の破片が出土している。墳丘の構築方法や埋葬施設などにおいて、県内の他の方墳と類似点が多く認められることから、該期における県内の方墳造営の規範に即して築造されたものと推測される。

小原遺跡の出土土師器の大半は、古墳時代前期前葉の小谷2式に比定される。3号墳や4号墳の時期は不明であるものの、周囲から古墳時代前期前葉以外の土器は出土していないため、近しい時期に築造されたものと推測される。よって、小原1号墳から4号墳は、限られた時期にあまり間を置かずに構築されていったと考えられる。

以上、述べてきたように、各遺跡の発掘調査によってさまざまな歴史的様相をうかがい知ることができた。ただし、本報告書では検討不十分な点の多さが悔やまれる。今後より詳細な検討を期待し、地域のより豊かな歴史像を描くための資料として活用されることを願う。

#### 註

- (1) 猪子原遺跡が所在する島根県中南部地域周辺では、古墳の調査事例が少なく、類例や比較できる資料が確認できなかった。また、隣接する広島県三次市についても、島根県境付近の調査事例が少なく、様相は不明である。そのため、猪子原1号墳で確認された墳丘構築や副葬などの様相の地域的位置付けが出来なかった。資料の増加待ち、検討する必要がある。
- (2) 有肩鉄斧の分類と中国地方の出土事例の様相について、本報告では猪子原1号墳出土有肩鉄斧と同類となる刃部形状II類を中心と言及するにとどめた。
- (3) 出雲市大寺1号墳出土鉄斧については、島根大学考古学研究室に収蔵されている。今回、報告書作成に際し、実見する機会をいただいた。
- (4) 有肩鉄斧の地域的偏在については、瀬戸内地域で、中四研V・VI期に備前で確認できるが、集成5期以降になると、備前周縁部である備中・美作・備後に偏在して出土する状況となることが認められる。本報告書では詳細に扱わなかったが、鉄斧生産や流通などに画期が想定できる状況である。
- (5) 山陰地方では北白川下層IIc式が欠落しており、月崎下層式が北白川下層式系土器と共に存する事例から、北白川下層Iib・Iic式の代替型式として理解されてきた（柳浦2017）。しかし、条痕調整である月崎下層式と縄文施文である北白川下層式系土器は異系統の土器型式であり、同じ時間幅を共有する保証ではなく、月崎下層式が里木I式・大歳山式まで存続する可能性は残る。なお、島根県郷路橋遺跡では、月崎下層式が北白川下層III式と共に存するほか、北白川下層Iib・Iia式が混じらない状況で羽鳥下層II式および北白川下層Ia式と共に存する。月崎下層

- 式が一定程度の時期幅を有していることが指摘できる。
- (6) 西川津B式は、西川津A式の屈曲器形を母体として出現することが指摘（柳浦2017）されている。
  - (7) 長さ1.0cm程度の超小型石器については、その規模から非実用的な性格が強い。石器集中地点で微細な剥片とともに出土したことから、石器製作時の織文人による手遊びなどが考えられる。島根県での出土事例の蓄積を持ち、改めて検討する必要がある。
  - (8) 例えば、Db1類やEb1類は古墳時代後半期に一貫して確認できる分類であり、これらの分類の土師器表のみでの時期決定は困難である。
  - (9) 第67表で示した上ノ谷遺跡出土土師器の分類では、SI05でDb3類、SK20でAa3類が確認でき、第166図で確認した各分類の消長と異なる。分類を実施するに際し、遺構出土かつ時期把握が可能な資料に対象を限定したため、資料の絶対数が不足した結果、正確な分類消長が提示できていない可能性が高い。周辺地域での資料増加を持ち、改めて検討する必要がある。
  - (10) 高城跡の遺構の特徴や本調査区の位置付けについては、高屋茂男氏に多くご教示いただいた。また、高城跡の構張り図（第168図）を作成していただいた。
  - (11) 高城跡の城主は古志義信の第3子貞信とされ、その機能については、古志の城や神西城との位置関係や、遺構の構成が比較的単純であることから、比布智神社のある小山などとともに警戒・監視を目的とする番城としての性格を持つと推測されている（島根県1980）。
  - (12) 「掘込墓壙C類」の可能性がある事例としては、茶山3号墳や田和山2号墳（松江市2005）があげられる。茶山3号墳では主体部の一部しか調査されていないが、旧表土から掘り込まれた墓壙が盛土で覆われている状況が確認されている。田和山2号墳は、埴形は異なるが、加工した地山平坦面に二段墓壙を掘り込み、木棺設置後に盛土が施されている。
  - (13) 社日1号墳第1主体部では、盛土から掘り込まれた墓壙に木棺木棺蓋が採用されており、他の方墳とはやや様相を異なる。これが時期的なものなのか、埴丘規模に起因するもののかは検討を要する。
  - (14) 当然のことながら、このような傾向は神原神社古墳（加茂町2000）や大成古墳（安来市1999）といった大型方墳では大きく異なり、埴丘規模や埴丘・埋葬施設の構築方法、竪穴式石室の採用、三角縁神獣鏡などの豊富な副葬品等、歴然とした格差を読み取ることができる。

## 引用・参考文献

### 第1節

- 岡戸哲紀1985「鉄製手斧の世界」『山王古墳』奈良大学考古学研究室調査報告第8集、上富田町教育委員会・奈良大学考古学研究室
- 斎藤 忠1978「弘法山古墳出土の鉄斧とその機能」『弘法山古墳 長野県松本市弘法山古墳調査報告』松本市教育委員会
- 島根県古代文化センター・島根県教育厅埋蔵文化財調査センター2005『大寺1号墳発掘調査報告書』
- 中国四国前方後円墳研究会2018『前期古墳編年を再考する』六一書房
- 中国四国前方後円墳研究会2019『中期古墳研究の現状と課題Ⅲ～埋葬施設の形式・構築方法・儀礼の地域的展開と被葬者像～』中国四国前方後円墳研究会第22回研究集会発表要旨集・資料集成、中国四国前方後円墳研究会
- 野島 永2009『初期国家形成過程の鉄器文化』雄山閣
- 東 潮1982「東アジアにおける鉄斧の系譜—古代朝鮮の資料を中心としてー」『森貞次郎博士古希記念古文化論集』上巻、森貞次郎博士古希記念論文集刊行会
- 広島県教育委員会1978「上四拾貫古墳群」『中国縱貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1）』
- 広島市歴史科学教育事業団1997『広島市安佐南区山本七丁目所在 寺山遺跡発掘調査報告』
- 古瀬と雄1991『「前方後円墳の畿内編年」『「前方後円墳集成』中国・四国編』山川出版社
- 古瀬清秀1991『農工具』『古墳時代の研究』8、古墳II 副葬品、雄山閣出版
- 和田晴吾1989『葬制の変遷』『古代史復元』第6巻、講談社

### 第2節

- 足立克己1981「出雲の前期織文土器—竹ノ花遺跡出土の土器を中心としてー」『えとのす』第16号、新日本教育図書
- 池淵俊一2019「出雲平野における6・7世紀の水利開発とその評価」『国家形成期の首長権と地域社会構造』

- 島根県古代文化センター研究論集第22集、島根県古代文化センター  
 稲田陽介2005「山陰における縄文時代前期の石器製作技術構造」『島根考古学会誌』第22集、島根考古学会  
 今塙谷毅行・松永幸寿2002「日向における古墳時代中～後期の土師器－宮崎平野部を中心にして－」『古墳時代中・後期の土師器－その編年と地域性－』第5回九州前方後円墳研究会発表要旨資料、九州前方後円墳研究会  
 岩橋孝典2019「古墳時代後期の炊爨文化から見た地域相－出雲西部地域と石見東部地域を事例として－」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第22集、島根県古代文化センター  
 岩本真実2019「石見地域における須恵器の編年と地域性－「石見型須恵器」再考－」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター研究論集第22集、島根県古代文化センター  
 上塙篤史2018『縄文石器－その視覚と方法』京都大学学術出版会  
 大谷見二1998「原始・古代の石見」『八雲立つ風土記の丘』No.147・148・149合併号、島根県立八雲立つ風土記の丘  
 角田徳幸2004「三瓶火山の噴出物と縄文時代遺跡」『島根考古学会誌』第20・21集合併号、島根考古学会  
 角田徳幸2009「火山噴火と遺跡群①－島根県三瓶火山の噴出物によって埋没した遺跡群－」『大地と森の中で 縄文時代の古生態系』縄文時代の考古学3、同成社  
 島根県飯南町教育委員会2007『万場II遺跡』  
 島根県飯南町教育委員会2009『森II遺跡 森III遺跡 森IV遺跡 森VI遺跡』  
 島根県大田市教育委員会1999『下多根・神田』  
 島根県教育委員会1996『門遺跡』  
 島根県教育委員会1998『板屋III遺跡』  
 島根県教育委員会2000a『神原I遺跡 神原II遺跡』  
 島根県教育委員会2000b『森遺跡 板屋I遺跡 森脇山城遺跡 阿丹谷辻堂遺跡』  
 島根県教育委員会2002a『かんどの流れ－総集編－ 志津見ダム地内の遺跡』  
 島根県教育委員会2002b『神原II遺跡－1997年の調査成果－』  
 島根県教育委員会2002c『小丸遺跡』  
 島根県教育委員会2002d『下山遺跡（2）』  
 島根県教育委員会2003『神原II遺跡（3）』  
 島根県頃原町教育委員会1998『埋蔵文化財発掘調査報告書（的場尻遺跡・社日山城跡）』  
 島根県頃原町教育委員会2004『神原III遺跡 後平遺跡』  
 竹広文明1988「中国地方縄文時代の剥片石器－その組成・剥片剥離技術－」『考古学研究』第35巻第1号、考古学研究会  
 竹広文明1996「月崎下層式土器」『日本土器辞典』雄山閣出版  
 竹広文明2003『サヌカイトと先史社会』溪水社  
 仁木聰2019「造り付け竈を有する竪穴建物について」『御堂谷遺跡 諸友大師山横穴IV群1号穴』一般国道9号（大田静間道路）改築工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書3、島根県教育委員会  
 倭中光輔2014「自然災害と地域社会の定着性－三瓶山の噴火からみた縄文社会－」『山陰地方の縄文社会』古代文化センター研究論集第13集、島根県古代文化センター  
 柳浦俊一2017『山陰地方における縄文文化の研究』雄山閣  

### 第3節

島根県教育委員会1980『出雲・上塙治地域を中心とする埋蔵文化財調査報告』

#### 第4節

鹿島町教育委員会2002『奥才古墳群第8支群』  
 加茂町教育委員会2002『神原神社古墳』  
 島根県教育委員会2000『社日古墳』  
 島根県教育委員会2001『湯の奥遺跡・登安寺遺跡・湯後遺跡・土井・砂遺跡』  
 中国四国前方後円墳研究会2018『前期古墳編年を再考する』六一書房  
 広瀬和雄1991『前方後円墳の畿内編年』『前方後円墳集成』中国・四国編、山川出版社  
 松江市教育委員会1994『柴尾遺跡発掘調査報告書（1）』  
 松江市教育委員会1995『柴尾遺跡他発掘調査報告書（II）』

松江市教育委員会2005『田和山遺跡』

松江市教育委員会2014『茶山遺跡』

松山智弘2018『山陰』『前期古墳編年を再考する』中国四国前方後円墳研究会編、六一書房

安来市教育委員会1999『荒島古墳群発掘調査報告書一大成古墳第4・5次発掘調査——塙津山古墳群・若塙古墳測量調査—』

八雲村教育委員会1981『御崎谷遺跡・小屋谷古墳群』

和田晴吾1989『葬制の変遷』『古代史復元』第6巻、講談社

#### 出典および図表関連文献

##### 第152・153図関連文献（第152図の番号と対応／簡略表記）

- 1) 本書所収
- 2) 島根県教育庁古代文化センター・島根県教育庁埋蔵文化財調査センター2005『大寺1号墳発掘調査報告書』
- 3) 島根県教育文化財団2013『金翅伽ノ上ノ内遺跡 越敷山古墳群（金翅地区）』
- 4) 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会2000『妻木晚田遺跡発掘調査報告書Ⅱ（妻木山地区）』
- 5) 倉吉市教育委員会1997『中峰古墳群発掘調査報告書』
- 6) 鳥取県教育文化財団1985『里仁古墳群』
- 7) 岡山県教育委員会2008『今岡古墳群』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』30・12) 岡山県1987『鶴山丸山古墳』『岡山県史』
- 13) 倉敷考古館1959『金哉山古墳』
- 14) 岡山市1962『神宮寺山古墳』『岡山市史』
- 15) 岡山県教育委員会1997『西山遺跡・西山古墳群』『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』121・16)
- 17) 長福寺裏山古墳群・開戸庵寺跡調査推進委員会1965『長福寺裏山古墳群』
- 18) 広島県教育委員会1982『亀山遺跡 第1次発掘調査概報』・広島県教育委員会1983『亀山遺跡 第2次発掘調査概報』
- 19) 広島県教育事業団2014『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（34）』
- 20) 広島県教育委員会1978『上四拾貢古墳群』『中国縱貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1）』
- 21) 四拾貢小原発掘調査団1969『四拾貢小原』
- 22) 広島県教育事業団2011『中国横断自動車道尾道松江線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（16）』
- 23) 豊栄町教育委員会1994『山王4・5・6号古墳』
- 24) 広島市歴史科学教育事業団1997『広島市安佐南区山本七丁目所在 寺山遺跡発掘調査報告』
- 25) 山口県教育委員会編1980『白鳥古墳』平生町教育委員会・26) 周東町教育委員会1991『用田古墳群』
- 27) 山口県教育委員会1986『花岡遺跡』
- 28) 山口県教育委員会文化課編1976『朝田墳墓群1付木崎遺跡』山口県教育委員会・29) 山口市教育委員会社会教育課編1979『天神山古墳』山口市教育委員会・30) 小野忠熙・宇部市教育委員会編1981『松崎古墳』宇部市教育委員会

##### 第154図出典（第154図の番号と対応）

- 1) 広島県教育委員会1982『亀山遺跡 第1次発掘調査概報一』
- 2) 山口県教育委員会1986『花岡遺跡』山口県埋蔵文化財調査報告第90集
- 3) 広島市歴史科学教育事業団1997『広島市安佐南区山本七丁目所在 寺山遺跡発掘調査報告』
- 4) 広島県教育委員会1978『上四拾貢古墳群』『中国縱貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告（1）』
- 5) 松本哲也編2000『妻木晚田遺跡発掘調査報告書Ⅱ（妻木山地区）』大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・大山町教育委員会

#### 第155図出典

- 1) 島根県教育委員会2002『下山遺跡（2）』志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書12

##### 第158・160図関連文献（第158図の番号と対応／簡略表記）

- 1) 島根県飯南町教育委員会2009『森II遺跡・森III遺跡・森IV遺跡・森VI遺跡』
- 2) 島根県頸原町教育委員会2004『神原III遺跡 後平城跡』
- 3) 島根県大田市教育委員会1999『下多根・神田』大田市埋蔵文化財調査報告第22集
- 4) 島根県教育委員会2019『御堂谷遺跡 諸友大師山横穴IV群1号穴』一般国道9号（大田静間道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3
- 5) 島根県大田市教育委員会2018『鳥居南遺跡発掘調査報告書1』大田市埋蔵文化財発掘調査報告書第35集
- 6) 島根県教育委員会2019『平ノ前道路』一般国道9号（大田静間道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2
- 7) 島根県仁摩町教育委員会1998『清石遺跡外発掘調査報告書』

##### 第161図関連文献（第161図の番号と対応／簡略表記）

- 1) 本書所収 2) 島根県頃原町教育委員会1998『湯尻遺跡・社日山城跡』 3) 島根県教育委員会1994『森遺跡 板屋I遺跡 森脇山城遺跡 阿丹谷社堂遺跡』・島根県飯南町教育委員会2009『森II遺跡 森III遺跡 森IV遺跡 森VI遺跡』 4) 島根県教育委員会2002『小丸遺跡』 5) 島根県教育委員会2000『神原I遺跡 神原II遺跡』 6) 島根県教育委員会2000『神原I遺跡 神原II遺跡』・島根県教育委員会2002『神原II遺跡』・島根県教育委員会2003『神原II遺跡(3)』・島根県頃原町教育委員会2004『神原III遺跡 後平遺跡』 7) 島根県教育委員会1996『門遺跡』 8) 島根県教育委員会1998『板屋III遺跡』 9) 島根県飯南町教育委員会2007『万場II遺跡』 10) 島根県教育委員会2002『下山遺跡(2)』 11) 島根県大田市教育委員会1999『下多根・神田』

#### 第162図出典（第162図の番号と対応／一部加工）

- 1) 島谷芳雄ほか編2000『神原I遺跡 神原II遺跡』志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書8、島根県教育委員会 2) 山崎順子ほか編2009『森II遺跡 森III遺跡 森IV遺跡 森VI遺跡』農業集落排水事業汚水処理施設建設工事・農業活性化総合整備事業圃場整備工事町道南谷川線改良工事・町営住宅用地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、島根県飯南町教育委員会 3) 角田徳幸編1998『板屋III遺跡』志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書5、島根県教育委員会 4) 柳浦俊一編1994『森遺跡 板屋I遺跡 森脇山城遺跡 阿丹谷社堂遺跡』志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書2、島根県教育委員会

#### 第163・165図関連文献（簡略表記）

- 1) の湯尻遺跡：島根県頃原町教育委員会1998『湯尻遺跡・社日山城跡』 2) 森遺跡：島根県教育委員会1994『森遺跡 板屋I遺跡 森脇山城遺跡 阿丹谷社堂遺跡』 3) 森III遺跡：島根県飯南町教育委員会2009『森II遺跡 森III遺跡 森IV遺跡 森VI遺跡』 4) 森IV遺跡：島根県飯南町教育委員会2009『森II遺跡 森III遺跡 森IV遺跡 森VI遺跡』 5) 小丸遺跡：島根県教育委員会2002『小丸遺跡』 6) 神原I遺跡：島根県教育委員会2000『神原I遺跡 神原II遺跡』 7) 神原II遺跡：島根県教育委員会2000『神原I遺跡 神原II遺跡』・島根県教育委員会2002『神原II遺跡』・島根県教育委員会2003『神原II遺跡(3)』 8) 神原III遺跡：島根県頃原町教育委員会2004『神原III遺跡 後平遺跡』 9) 島根県教育委員会1996『門遺跡』 10) 島根県教育委員会1998『板屋III遺跡』 11) 万場II遺跡：島根県飯南町教育委員会2007『万場II遺跡』 12) 下山遺跡：島根県教育委員会2002『下山遺跡(2)』 13) 下多根遺跡：島根県大田市教育委員会1999『下多根・神田』

#### 第164図出典（一部加工）

- 1) 森III遺跡：山崎順子ほか編2009『森II遺跡 森III遺跡 森IV遺跡 森VI遺跡』農業集落排水事業汚水処理施設建設工事・農業活性化総合整備事業圃場整備工事町道南谷川線改良工事・町営住宅用地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、島根県飯南町教育委員会

#### 第169図出典（第169図の番号と対応／一部加工）

- 1) 松江市教育委員会2014『茶山遺跡』 2) 島根県教育委員会2001『湯の奥遺跡・登安寺遺跡・湯後遺跡・土井・砂遺跡』 3) 鹿島町教育委員会2002『奥才古墳群第8支群』

#### 第170図出典（第170図の番号と対応／一部加工）

- 1) 島根県教育委員会2001『湯の奥遺跡・登安寺遺跡・湯後遺跡・土井・砂遺跡』 2) 鹿島町教育委員会2002『奥才古墳群第8支群』 3) 八雲村教育委員会1981『御崎谷遺跡・小屋谷古墳群』 4) 松江市教育委員会1994『柴尾遺跡発掘調査報告書(1)』 5) 松江市教育委員会2014『茶山遺跡』



# 写 真 図 版





1. 調査地遠景(南西から)



2. 調査地近景(西から)

図版2 猪子原遺跡



1. トレンチ配置状況(西から)



2. B-1区南壁土層堆積状況(北から)



3. C-1区南壁土層堆積状況(北から)



4. D-1区南壁土層堆積状況(北から)



5. トレンチ掘削状況



1. B-1区西壁土層堆積状況(北東から)



2. C-1区西壁土層堆積状況(南東から)



3. C-2区西壁土層堆積状況(南東から)



4. A-1区墳丘隅部土層堆積状況(西から)



5. D-1区西壁土層堆積状況(北東から)



6. D-2区西壁土層堆積状況(南東から)

図版4 猪子原遺跡



1. 猪子原1号墳墳丘検出状況(北西から)



2. 猪子原1号墳墳丘検出状況(北東から)



1. 墳丘北西隅部検出状況(北西から)



2. 墳丘南側斜面検出状況(南東から)



3. 墳丘北側斜面検出状況(北東から)

図版 6 猪子原遺跡



1. 一次墳丘およびSX01検出状況(西から)



2. SX01検出状況(北東から)



3. ST01半裁状況(北から)



4. ST01掘削状況



1. ST01 土層堆積状況(北から)



2. ST01 土層堆積状況 1 (北東から)



3. ST01 土層堆積状況 2 (北から)



5. ST01 鉄器出土状況 2 (南東から)



6. ST01 鉄器出土状況 3 (拡大)

図版8 猪子原遺跡



1. ST01 完掘状況(北から)



2. 填丘検出状況



3. 填丘斜面掘削



4. ST01 掘削状況

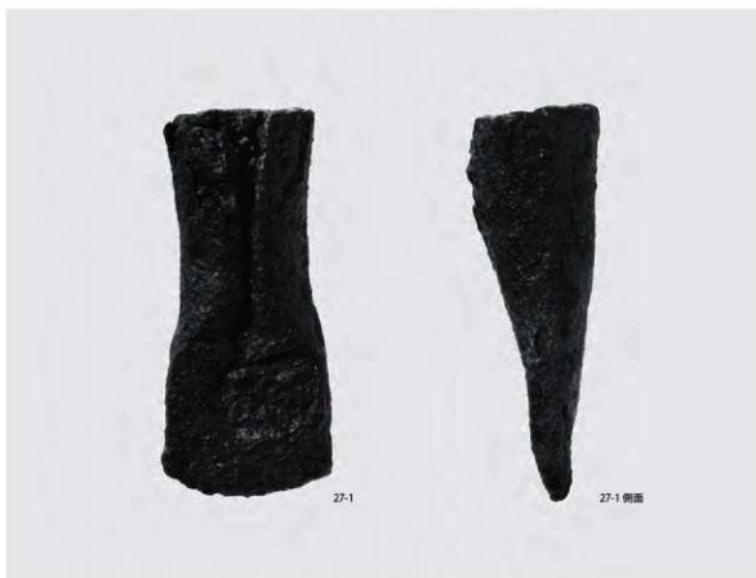


1. 調査完了(西から)

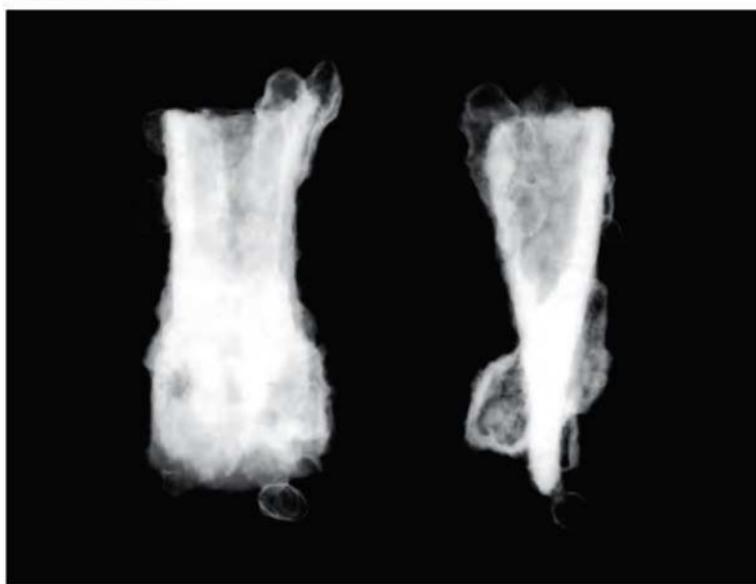


2. 調査完了(東から)

図版 10 猪子原遺跡



1. ST01出土有肩鉄斧



2. ST01出土有肩鉄斧 (X線)



1. 遺跡周辺から北方向を望む



2. 調査地遠景(南西から)

図版 12 上ノ谷遺跡



1. 令和 2 年度調査完了(北西から)



2. 三瓶山降下火山灰(ハイカ)堆積状況



1. 1区トレンチ掘削状況



2. 1区南北トレンチ土層堆積状況 1 (南東から)



3. 1区南北トレンチ土層堆積状況 2 (北東から)



4. 1区南北トレンチ土層堆積状況 3 (南東から)



5. 2区東西トレンチ土層堆積状況 1 (南東から)



6. 2区東西トレンチ土層堆積状況 2 (南東から)

図版 14 上ノ谷遺跡



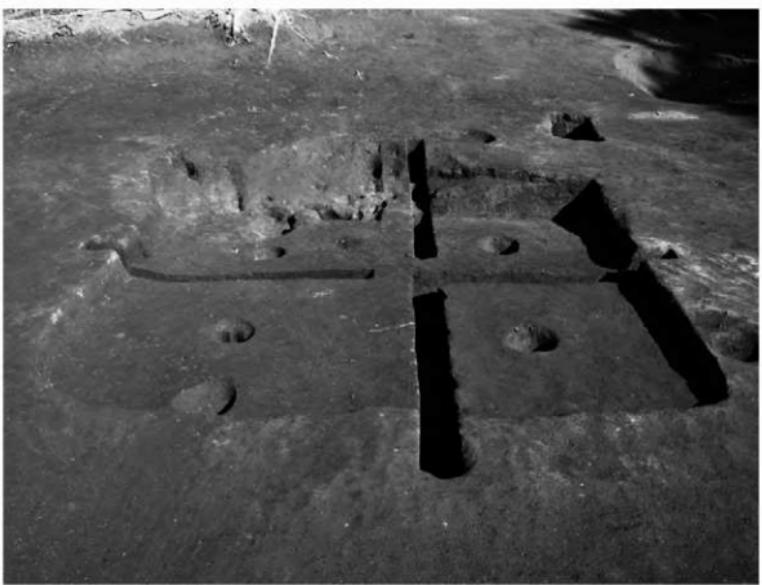
1. 1区第1遺構面調査完了 1(令和元年度)(南西から)



2. 1区第1遺構面調査完了 2(令和2年度)(北西から)



1. 1区第1遺構面調査完了3(令和2年度)(南西から)



2. 1区SI01完掘状況(西から)

図版 16 上ノ谷遺跡



1. 1区 Si01土層堆積状況(南西から)



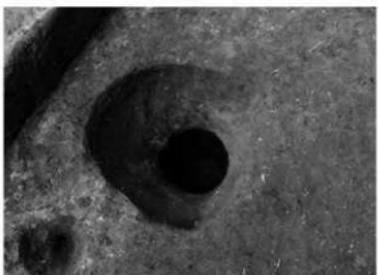
2. 1区 Si01遺物出土状況(北から)



3. 1区 Si01床面鉄器出土状況



4. 1区 Si01柱穴(Pit02)内土器出土状況



6. 1区 Si01柱穴(Pit03)完掘状況



5. 1区 Si01煙道(Pit11)残存部土器出土状況



7. 1区 Si01掘削状況(西から)



1. 1区SiO2完掘状況(西から)



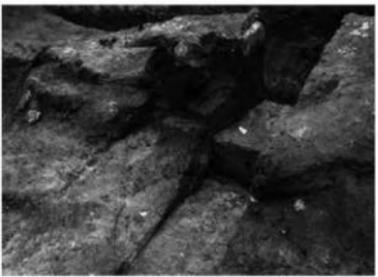
2. 1区SiO2床面棟出土状況(西から)



3. 1区SiO2煙道(Pit77)内土器出土状況



4. 1区SiO2煙道部土層堆積状況(南西から)



5. 1区SiO2煙道部完掘状況(南西から)

図版 18 上ノ谷遺跡



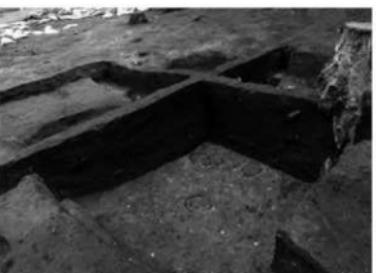
1. 1区 SI03床面検出状況(西から)



2. 1区 SI05完掘状況(北西から)



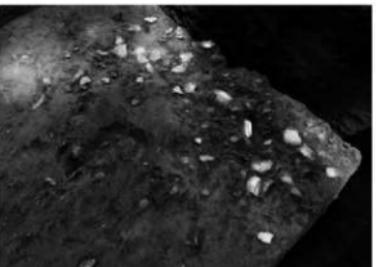
1. 1区SI05床面検出状況(北から)



2. 1区SI05土層堆積状況(南西から)



3. 1区SI05遺物出土状況1(南西から)



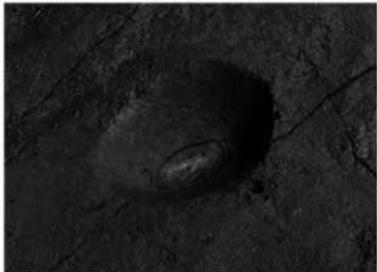
4. 1区SI05遺物出土状況2(南から)



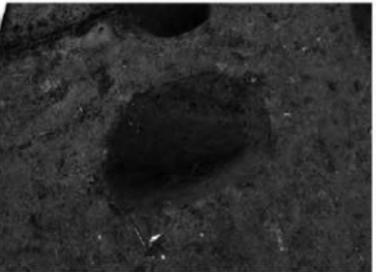
5. 1区SK41完掘状況(西から)



6. 1区SK41土器出土状況(南西から)

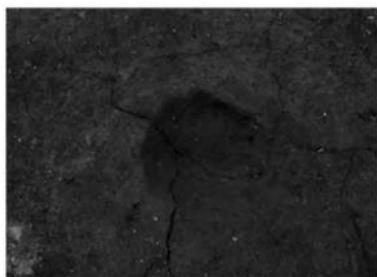


7. 1区Pit228完掘状況(南西から)

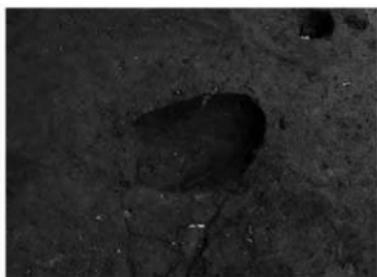


8. 1区Pit293完掘状況(西から)

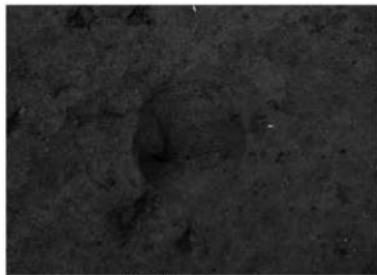
図版 20 上ノ谷遺跡



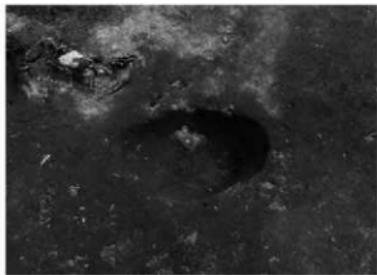
1. 1区 Pit294 完掘状況(北西から)



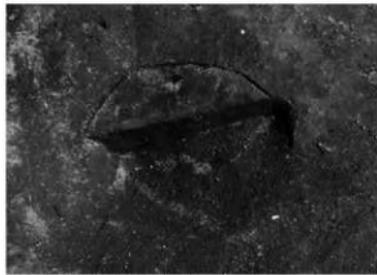
2. 1区 Pit299 完掘状況(北西から)



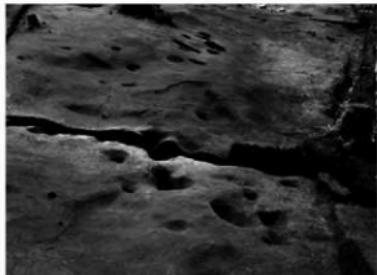
3. 1区 Pit315 完掘状況(北西から)



4. 1区 Pit360 完掘状況(北西から)



5. 1区 Pit402 土層堆積状況(北西から)



7. 1区 NR01 完掘状況(北から)



6. 1区 NR01 挖削状況(こども発掘体験)



1. 1区NR01土器出土状況(南西から)



2. 1区第1黒色土層掘削状況(南東から)



3. 1区第1ハイカ層掘削状況(北西から)

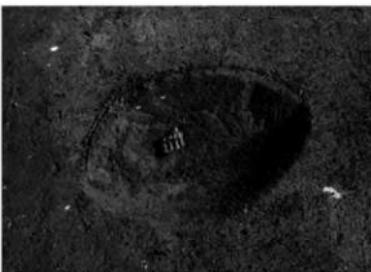


4. 1区第2遺構面調査完了状況1(北西から)

図版 22 上ノ谷遺跡



1. 1区第2遺構面調査完了状況2(南から)



2. 1区Pit441土器出土状況(北西から)



3. 1区第2黒色土層掘削状況(南東から)



4. 1区第3遺構面調査完了状況(南西から)



1. 1区第3遺構面調査完了状況(北西から)



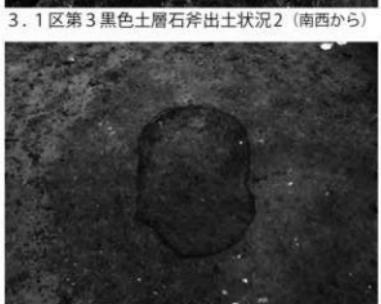
2. 1区第3黒色土層石斧出土状況1(南西から)



3. 1区第3黒色土層石斧出土状況2(南西から)



2. 1区第3黒色土層石斧出土状況1(南西から)



4. 1区SK83完掘状況(北から)

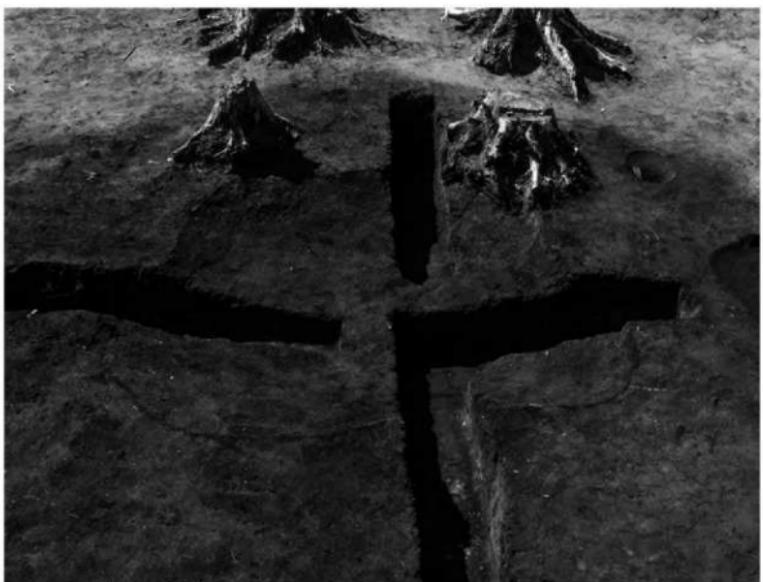
図版 24 上ノ谷遺跡



1. 2区第1遺構面調査完了状況1(南から)



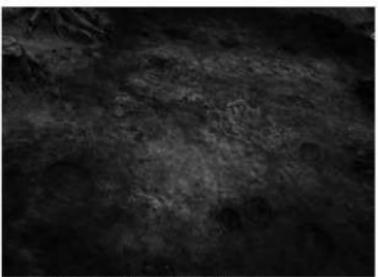
2. 2区第1遺構面調査完了状況2(北西から)



1. 2区SI04完掘状況(南東から)



2. 2区SI04土層堆積状況(南東から)



3. 2区SB01完掘状況1(南西から)

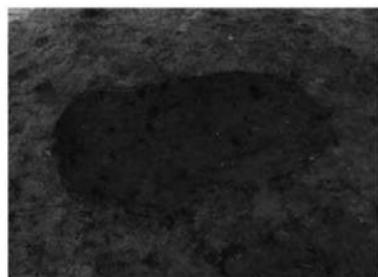


4. 2区SB01完掘状況2(南東から)

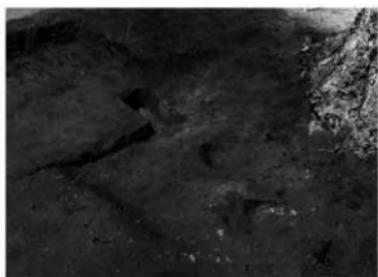


5. 2区SK15完掘状況(南西から)

図版 26 上ノ谷遺跡



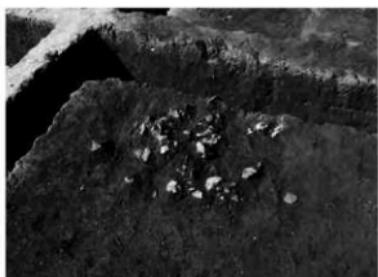
1. 2区SK16完掘状況(東から)



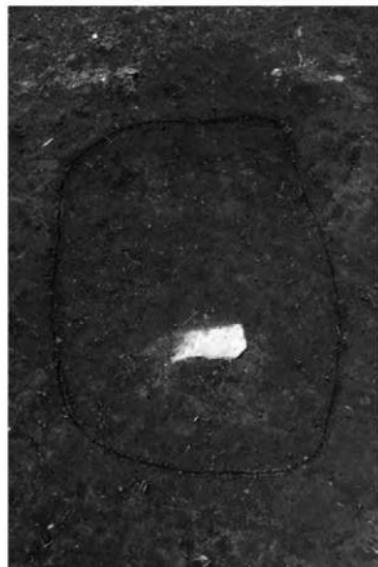
2. 2区SK17完掘状況(南西から)



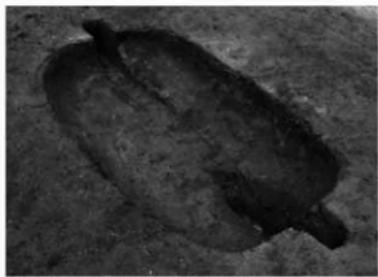
3. 2区SK20完掘状況(北東から)



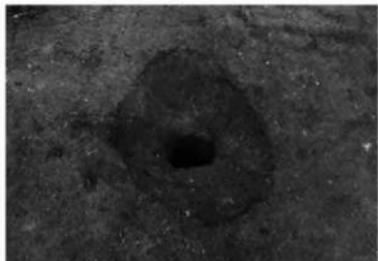
4. 2区SK20土器出土状況(北東から)



5. 2区SK25検出状況(東から)



6. 2区SK25完掘状況(南東から)



7. 2区Pit182完掘状況(南東から)



1. 2区第3遺構面調査完了状況1(東から)



2. 2区第3遺構面調査完了状況2(南東から)

図版 28 上ノ谷遺跡



1. 2区 SI06完掘状況(東から)



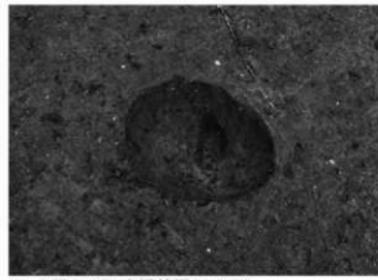
2. 2区 SI06土層堆積状況 1(東から)



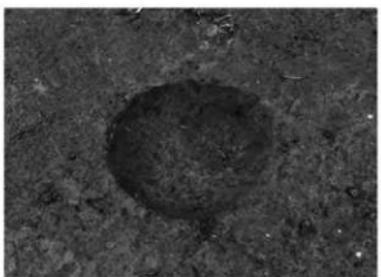
3. 2区 SI06土層堆積状況 2(南東から)



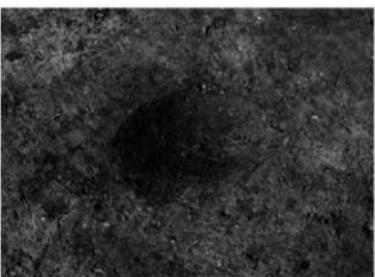
4. 2区 SK65完掘状況(東から)



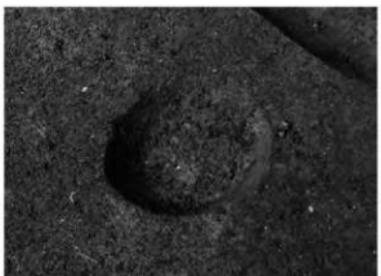
5. 2区 Pit477完掘状況(南から)



1. 2区Pit481完掘状況(東から)



2. 2区Pit531完掘状況(東から)



3. 2区Pit535完掘状況(南東から)



4. 2区石器集中地点掘削状況(北西から)



5. 2区第3遺構面掘削状況(南東から)

図版 30 上ノ谷遺跡



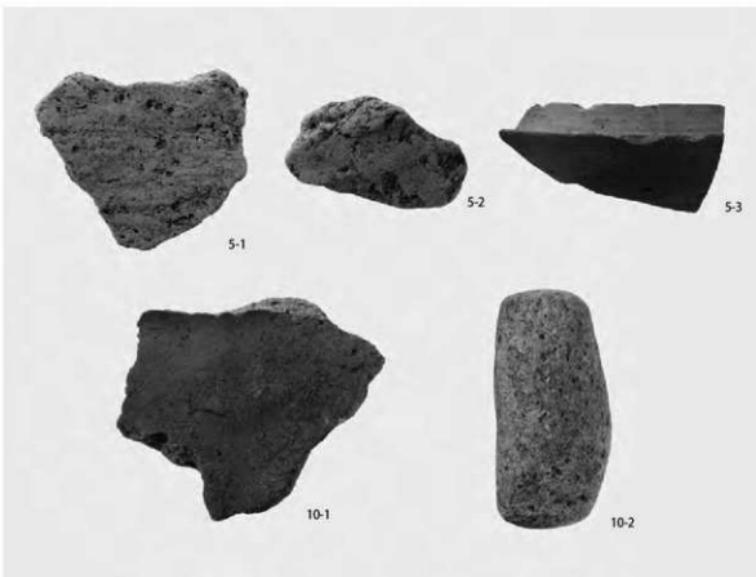
1. 1区 SI05出土遺物



2. 1区 SI01出土土器



1. 第3黑色土層出土遺物



2. 試掘確認調査出土遺物

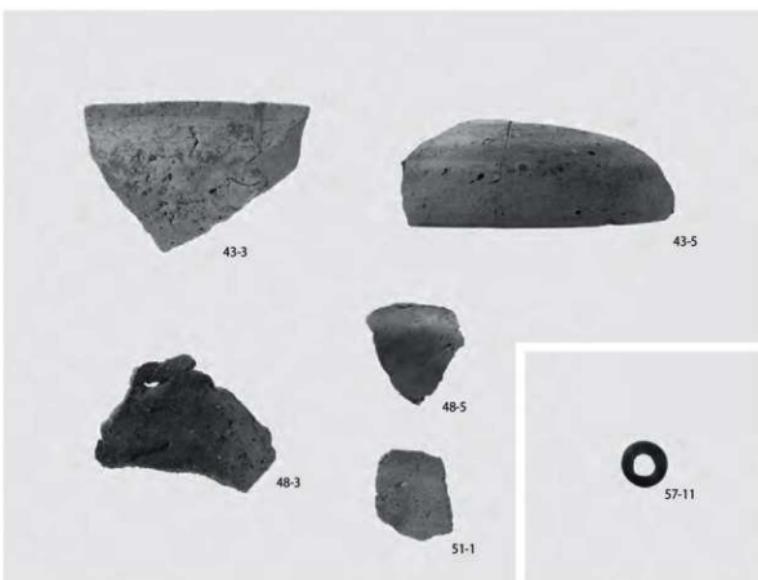
図版 32 上ノ谷遺跡



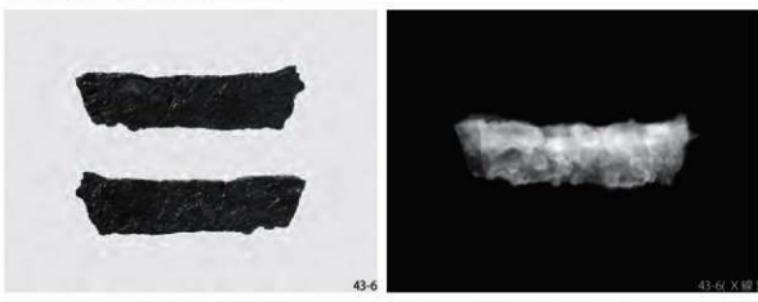
1. 1区 SI01 出土遺物



2. 2区 SI01・02 出土遺物



1.1 区 SI01・02・03・05 出土遺物



43-6

43-6(X級)



55-2

55-3

2.1 区 SI01・05 出土遺物

図版 34 上ノ谷遺跡



55-4



55-5



55-6



56-1

1. 1 区 SI05 出土遺物 1



56-2



56-3

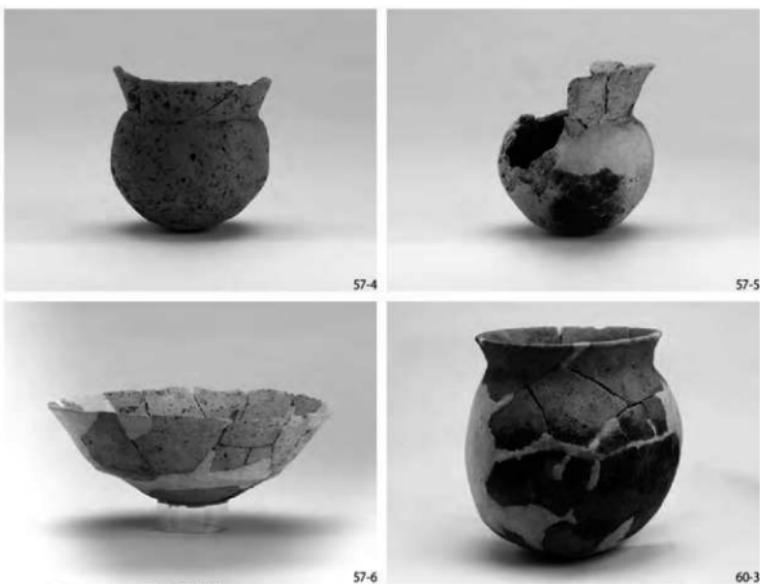


57-1

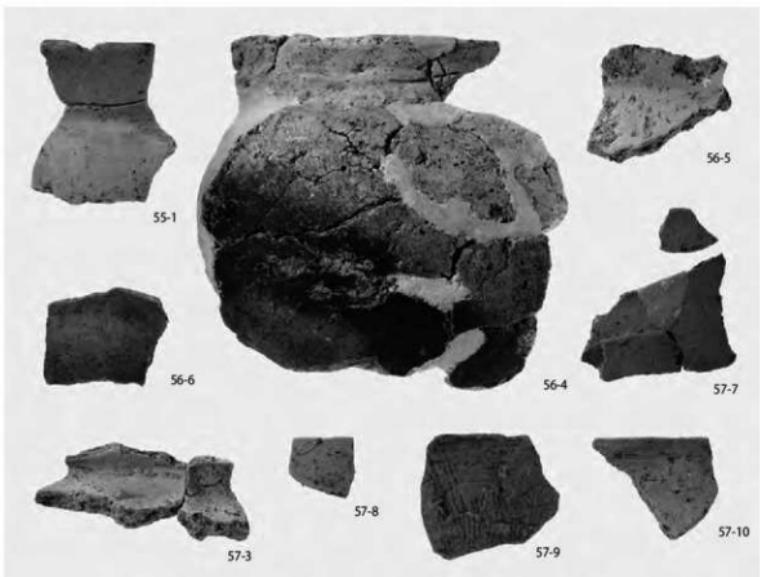


57-2

2. 1 区 SI05 出土遺物 2

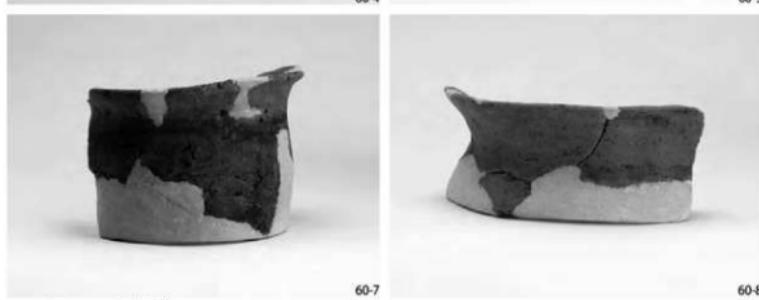


1. 1区 SI05・SK41出土遺物

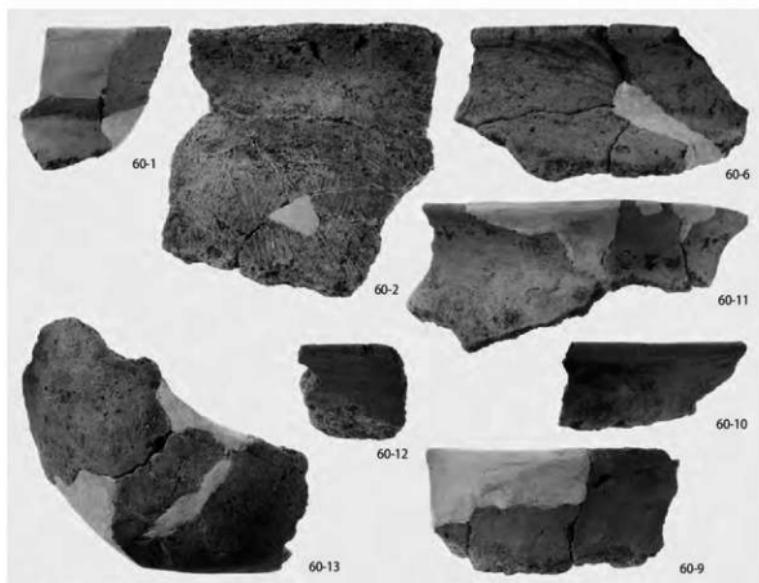


2. 1区 SI05出土遺物 3

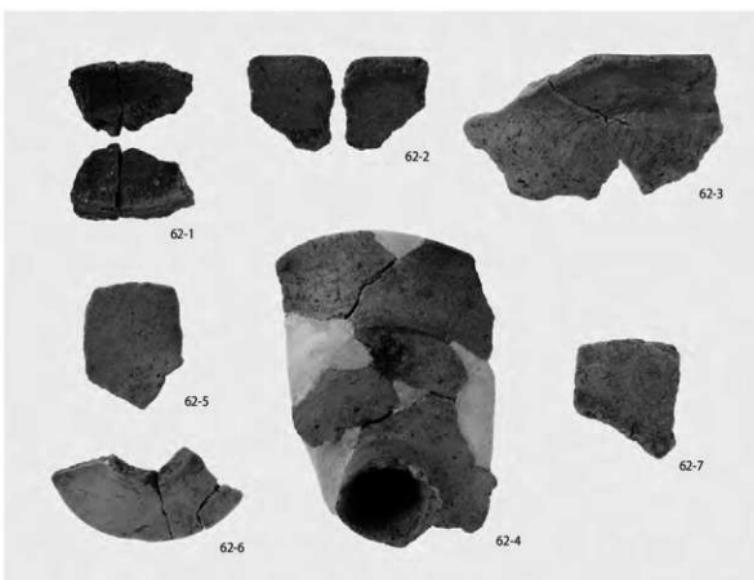
図版 36 上ノ谷遺跡



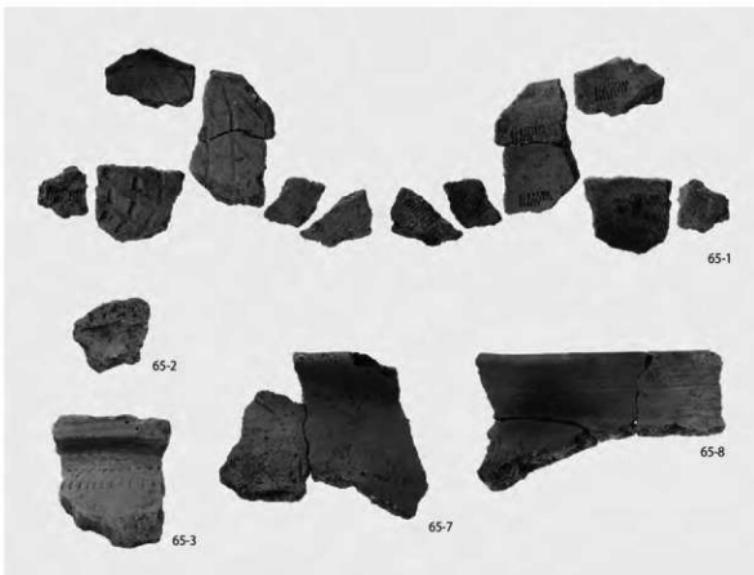
1. 1区 SK41出土遺物 1



2. 1区 SK41出土遺物 2

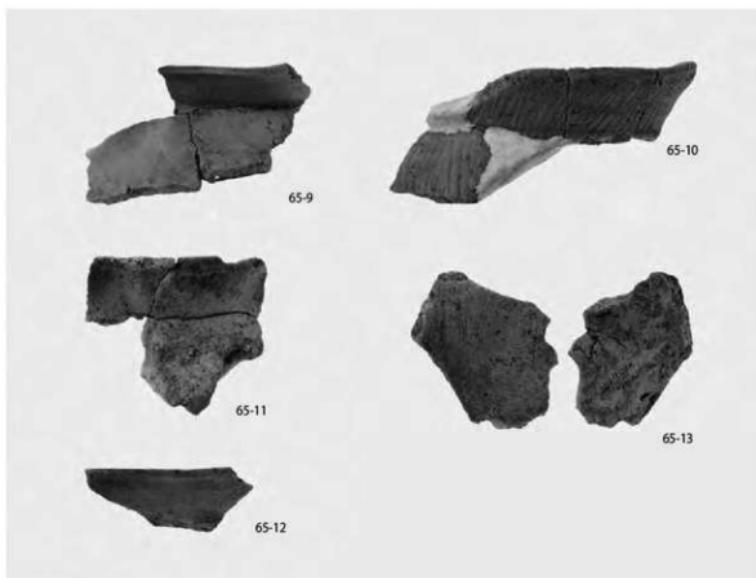


1. 1区 Pit293・294・299・315・360出土遺物

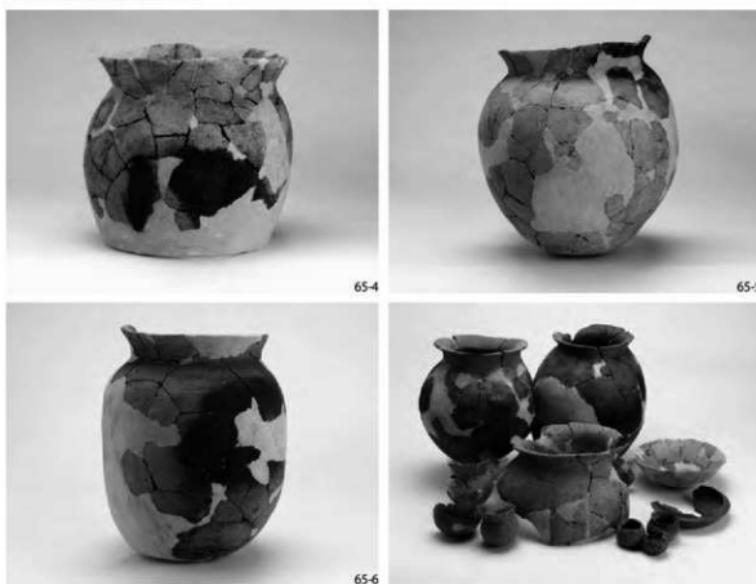


2. 1区 NR01出土遺物 1

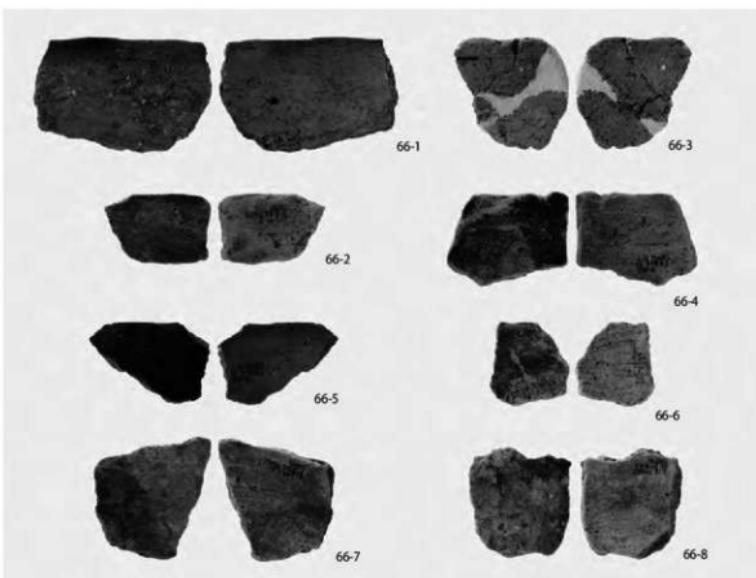
図版 38 上ノ谷遺跡



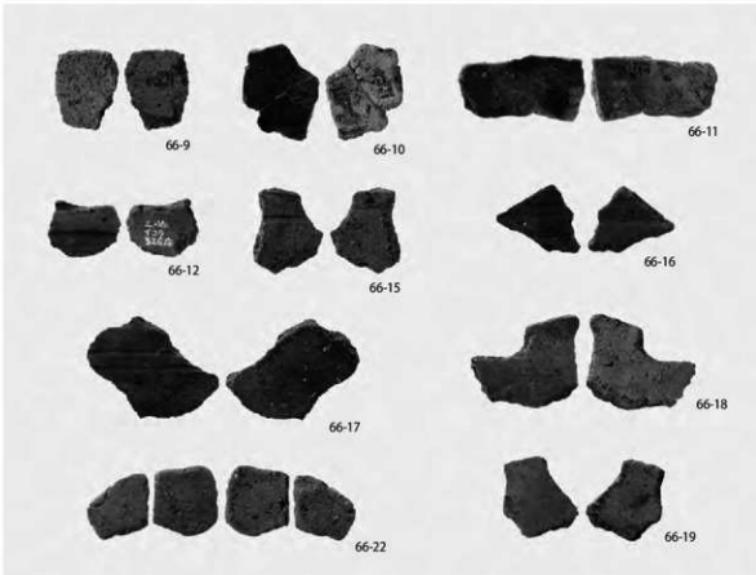
1. 1区 NR01出土遺物 2



2. 1区 NR01出土遺物 3、第1遺構面出土古墳時代土器(1・2区)

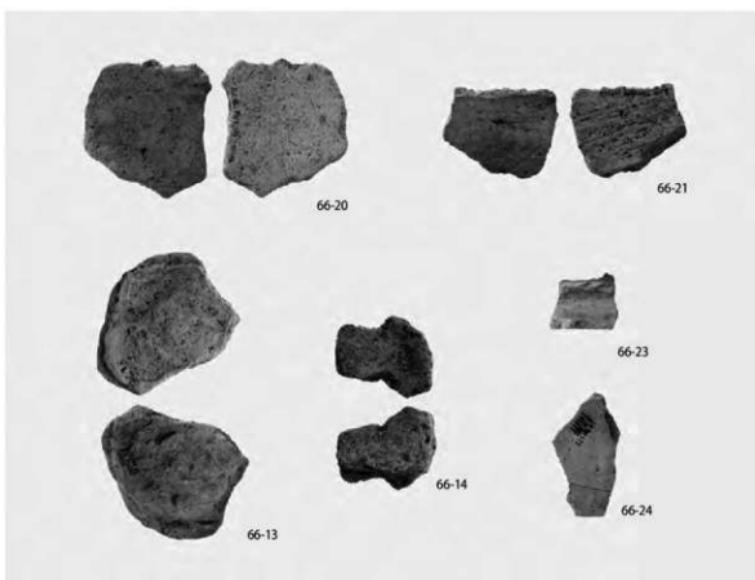


1. 1区第1黑色土層出土遺物 1



2. 1区第1黑色土層出土遺物 2

図版 40 上ノ谷遺跡



1. 1区第1黑色土層出土遺物 3

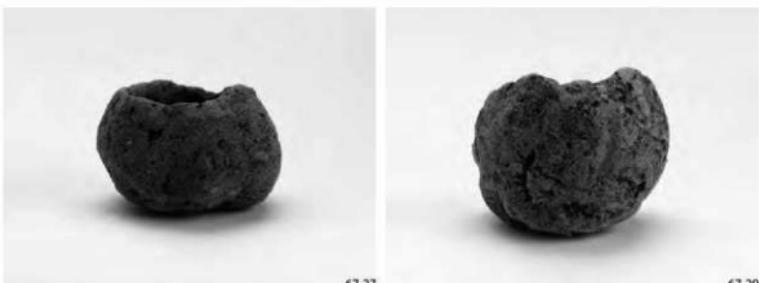


2. 1区第1黑色土層出土遺物 4



67-20

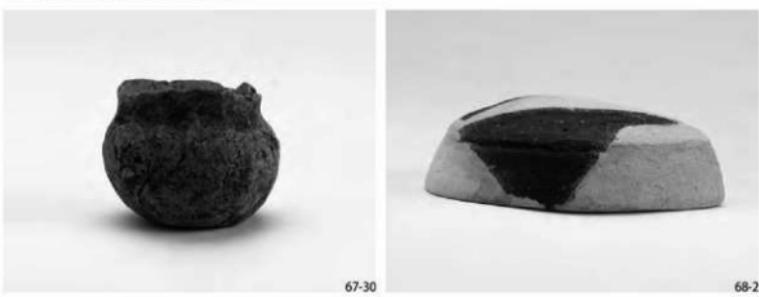
67-26



67-27

67-29

1. 1 区第1黑色土層出土遺物 5



67-30

68-2



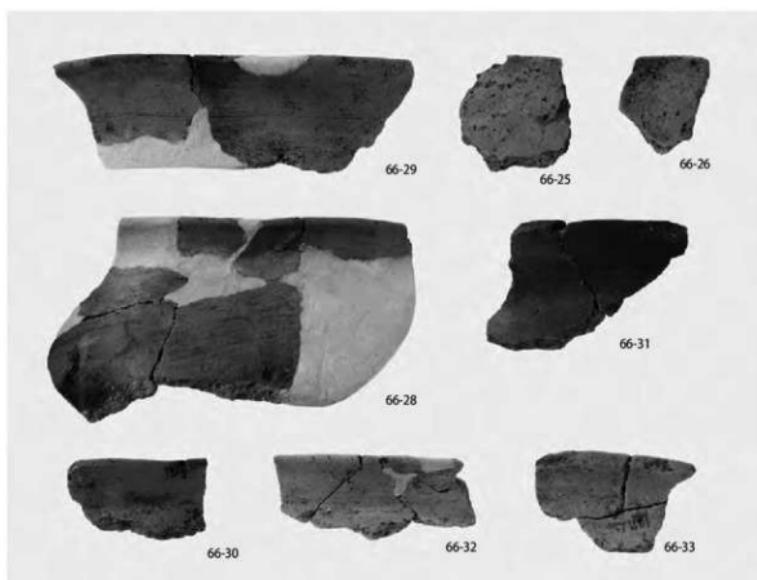
68-5

62-9

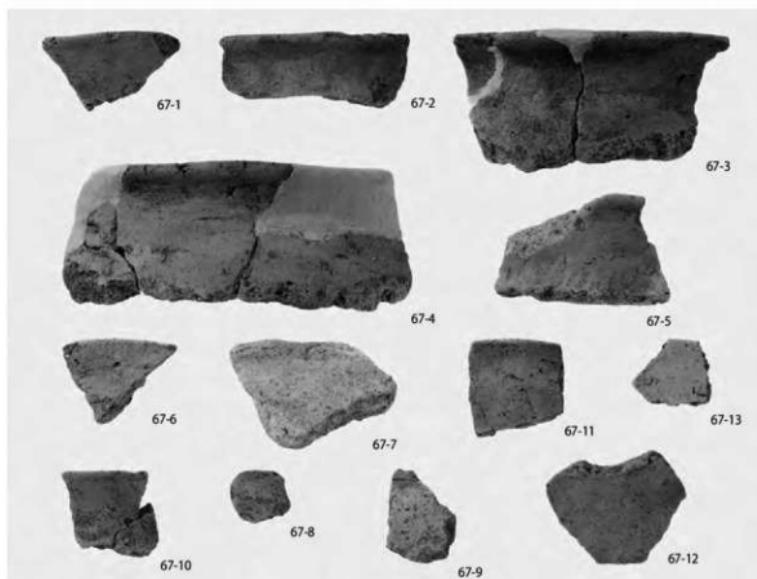
62-8

2. 1 区第1黑色土層出土遺物 6、Pit228・402出土遺物

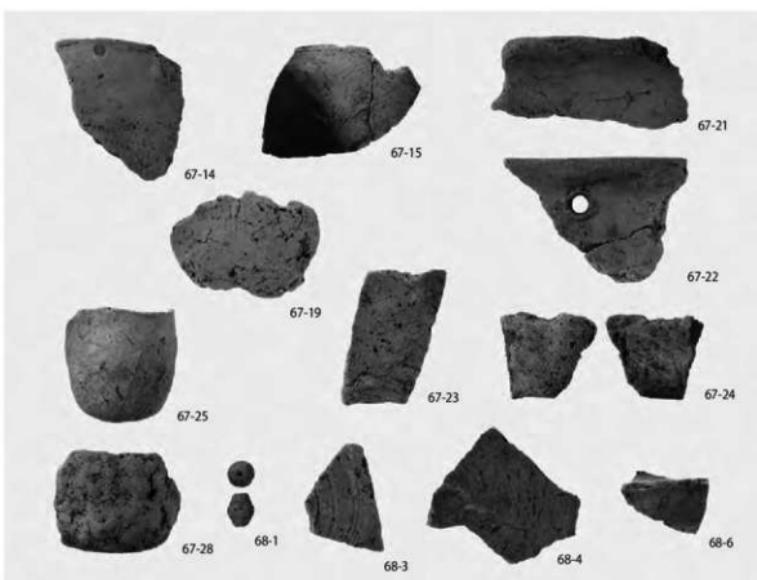
図版 42 上ノ谷遺跡



1. 1区第1黑色土層出土遺物 7



2. 1区第1黑色土層出土遺物 8

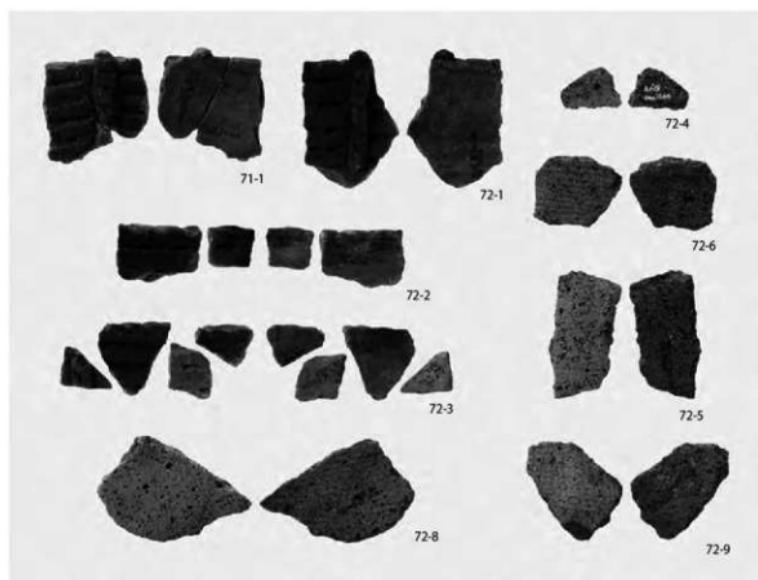


1. 1区第1黑色土層出土遺物 9

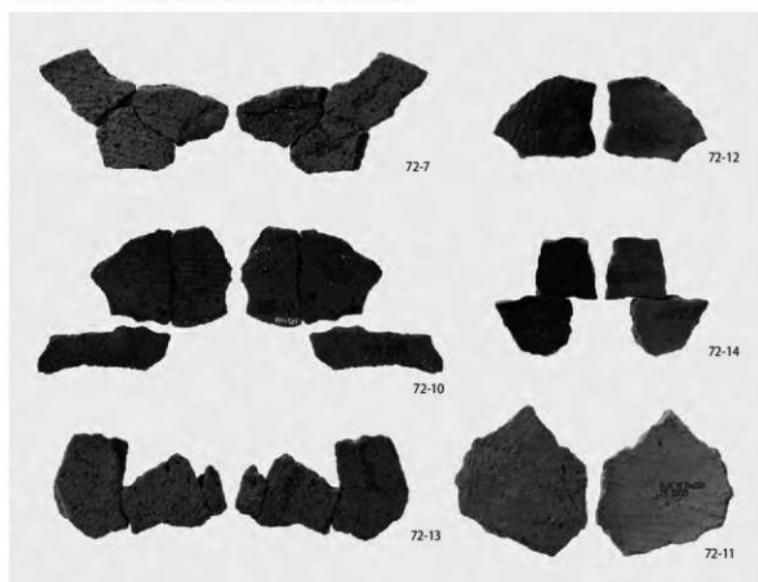


2. 1区出土ミニチュア土器・土製玉類

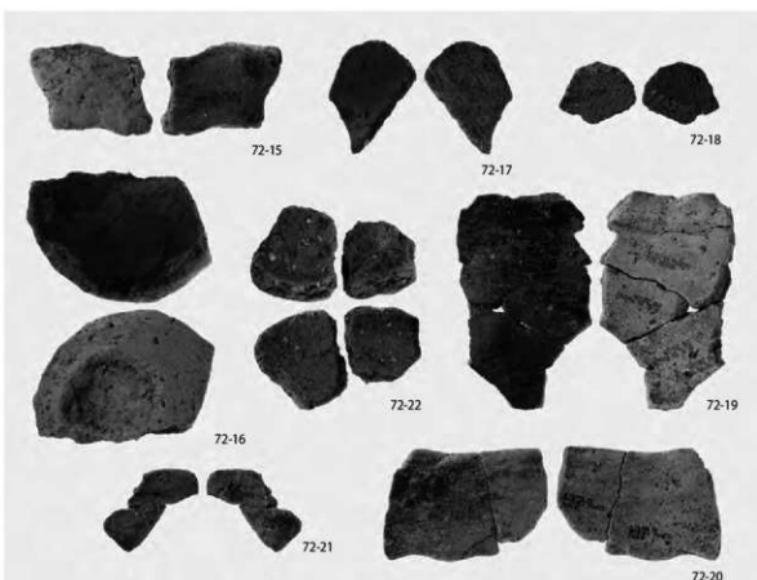
図版 44 上ノ谷遺跡



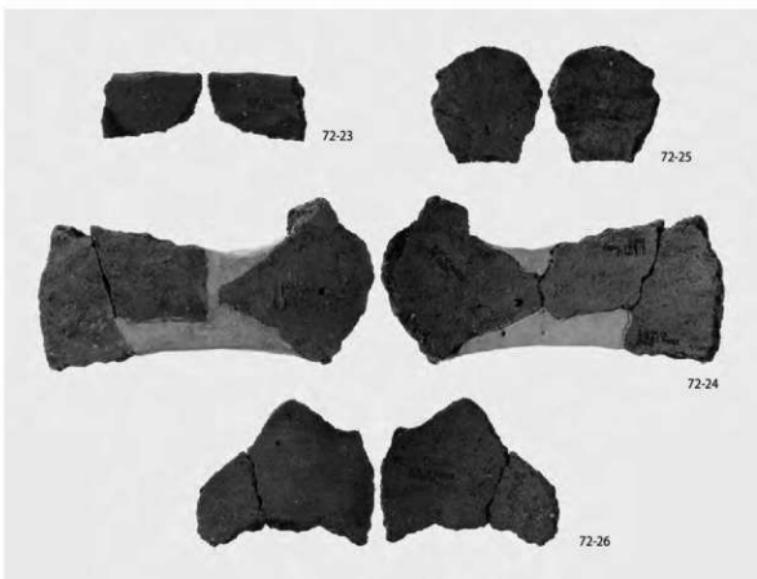
1. 1区 Pit441出土遺物、1区第2黑色土層出土遺物 1



2. 1区第2黑色土層出土遺物 2

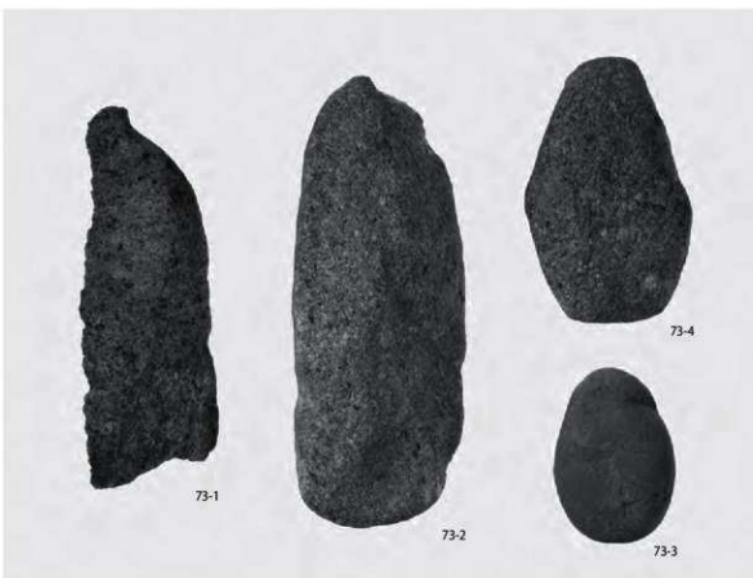


1. 1区第2黑色土層出土遺物 3

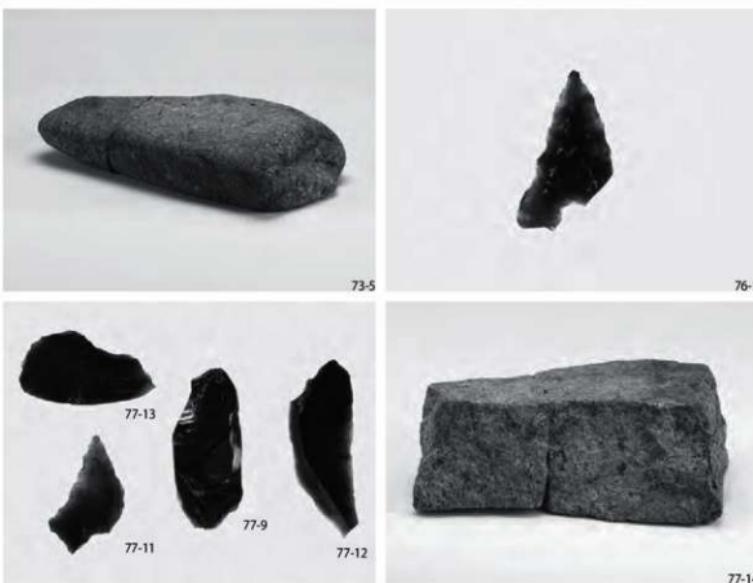


2. 1区第2黑色土層出土遺物 4

図版 46 上ノ谷遺跡



1. 1区第2黒色土層出土遺物 5

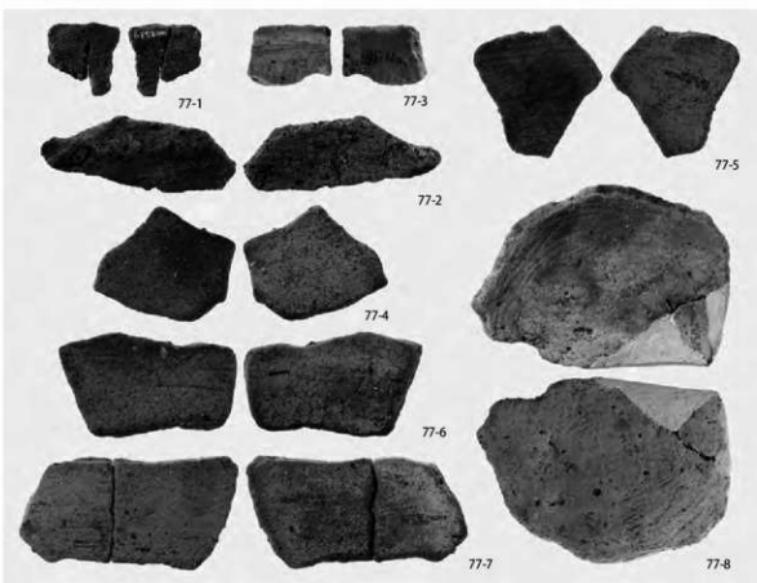


2. 1区第2黒色土層出土遺物 6、1区SK83出土遺物、1区第3黒色土層出土遺物 1



77-10

1. 1区第3黑色土層出土遺物 2

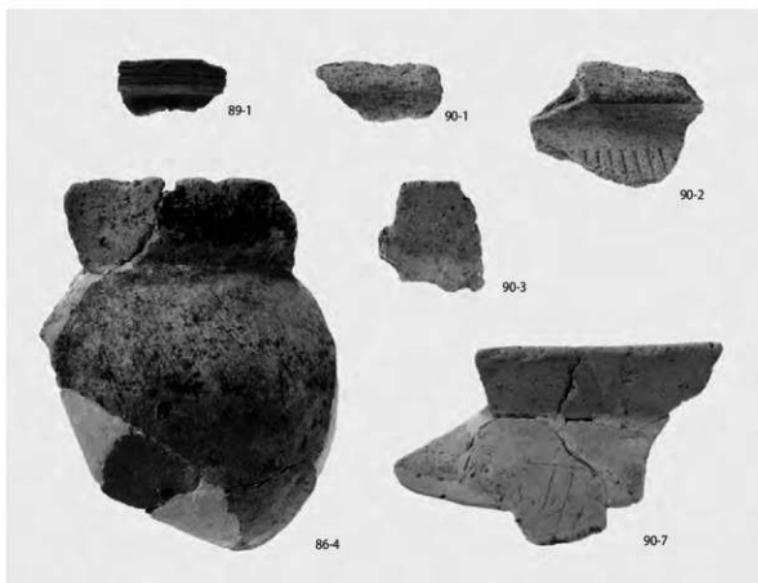


2. 1区第3黑色土層出土遺物 3

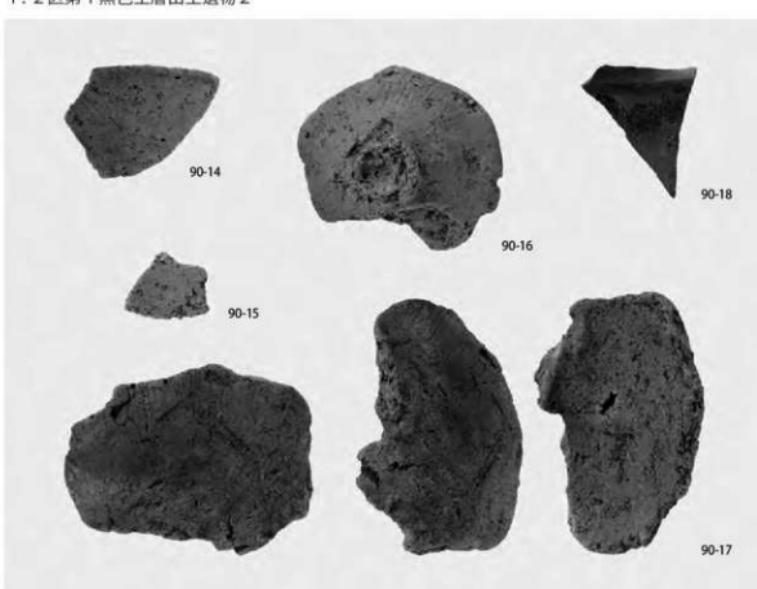
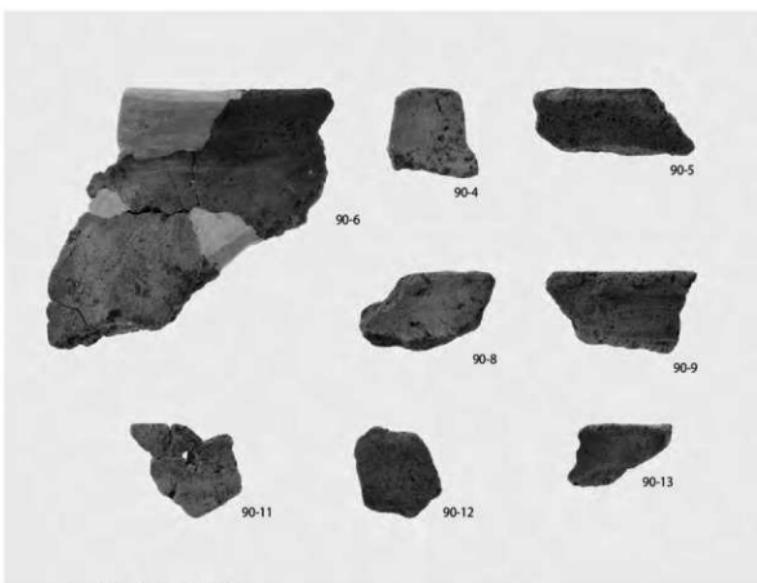
図版 48 上ノ谷遺跡



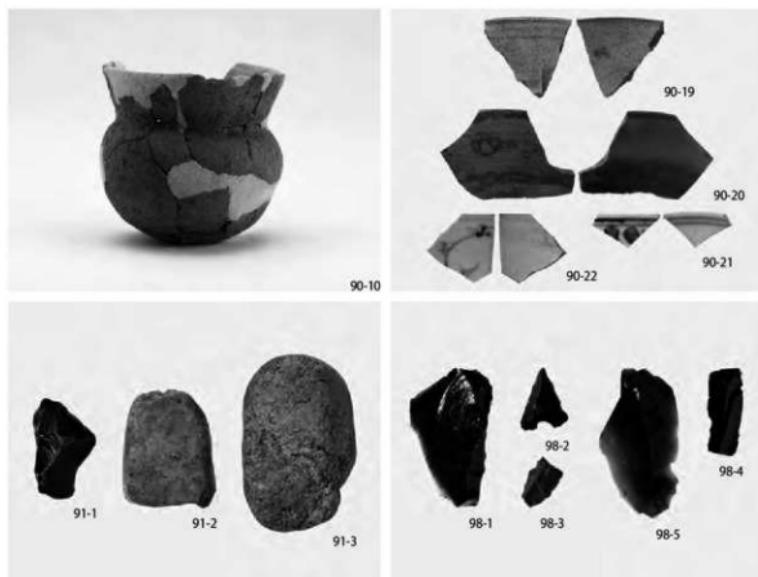
1.2区SK20出土遺物 1



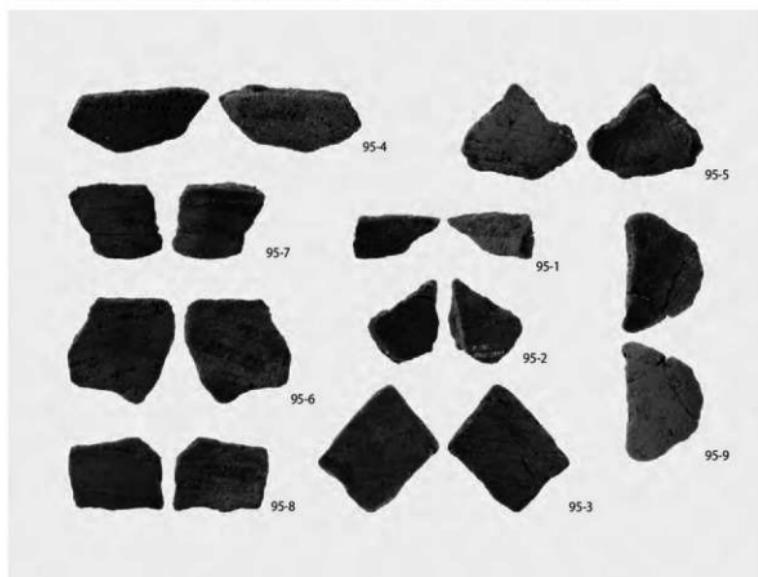
2.2区SK20出土遺物 2、2区Pit182出土遺物、2区第1黑色土層出土遺物 1



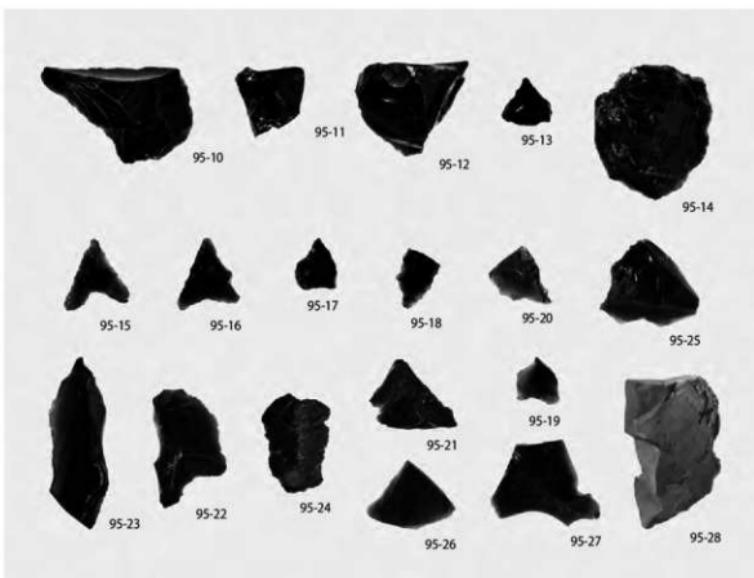
図版 50 上ノ谷遺跡



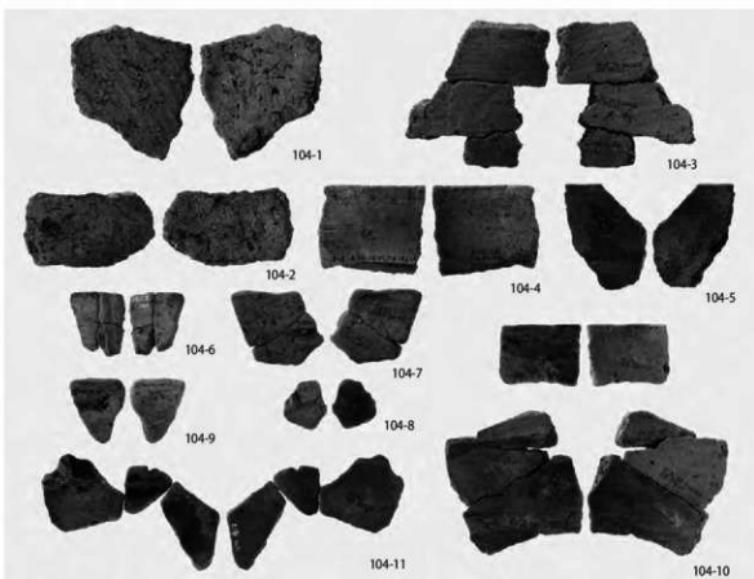
1. 2区第1黑色土層出土遺物 4、2区SK65・Pit477・481・531・535出土遺物



2. 2区SI06出土遺物 1

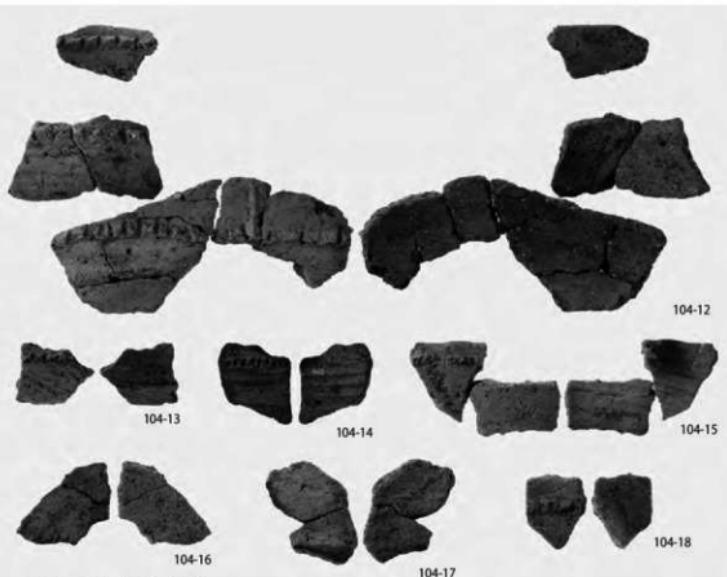


1. 2区SI06出土遺物 2

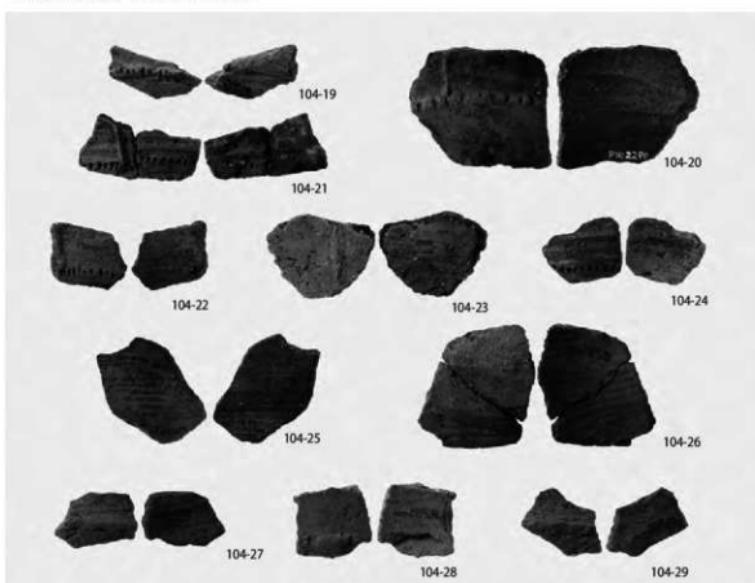


2. 2区第3黑色土層出土遺物 1

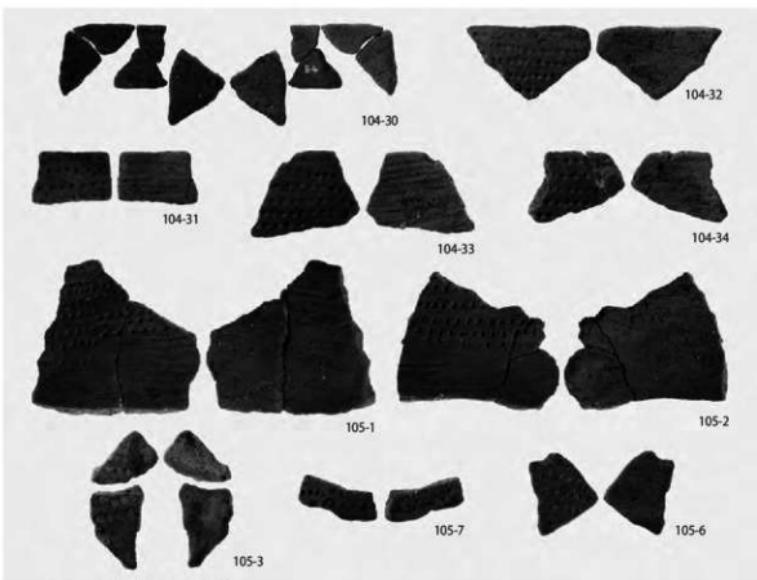
図版 52 上ノ谷遺跡



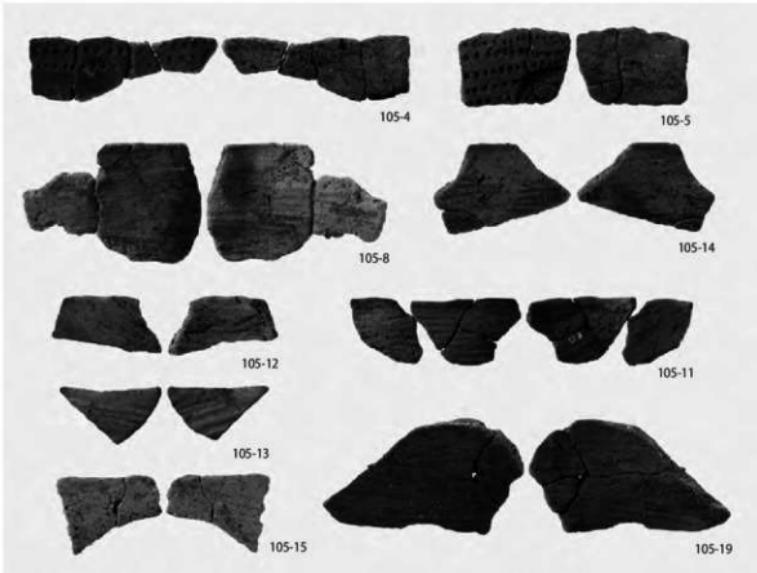
1. 2区第3黑色土層出土遺物 2



2. 2区第3黑色土層出土遺物 3

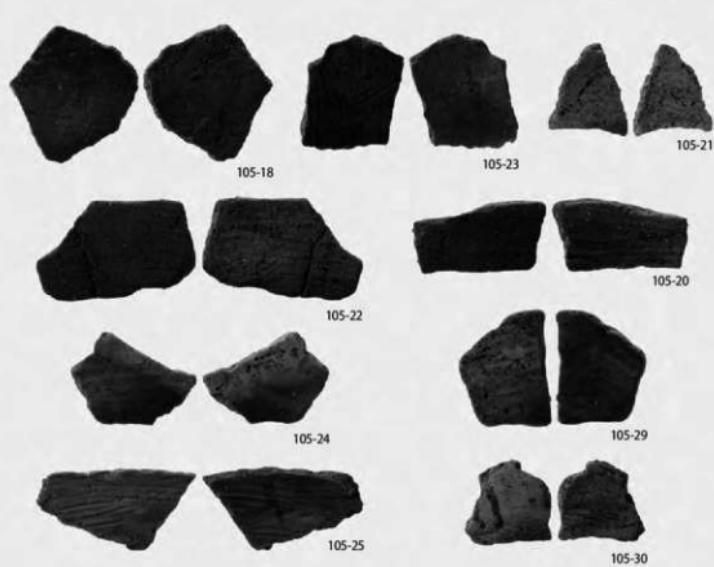


1. 2区第3黑色土層出土遺物 4

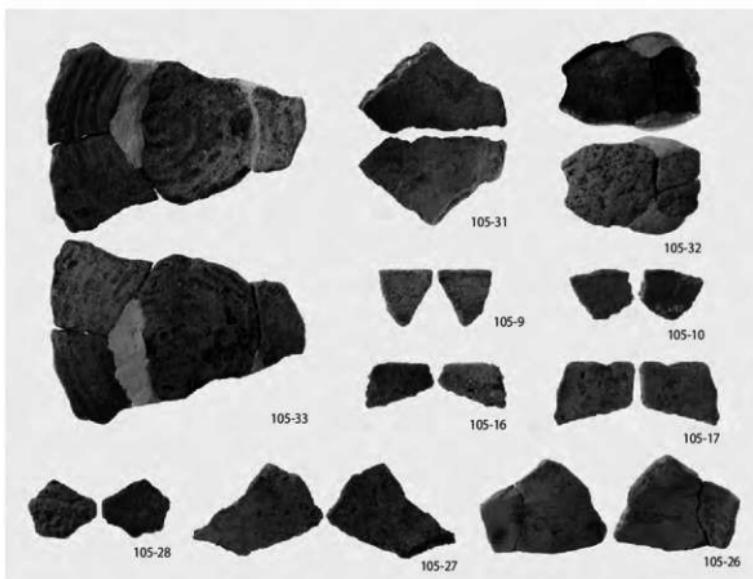


2. 2区第3黑色土層出土遺物 5

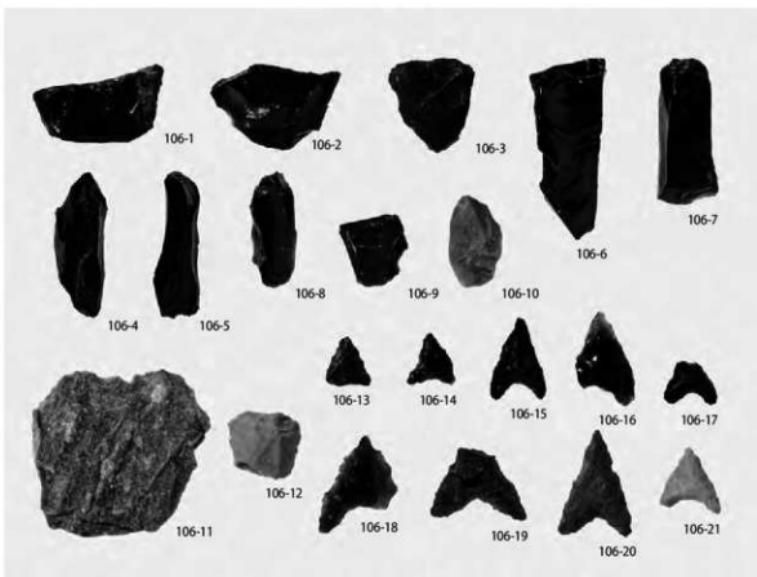
図版 54 上ノ谷遺跡



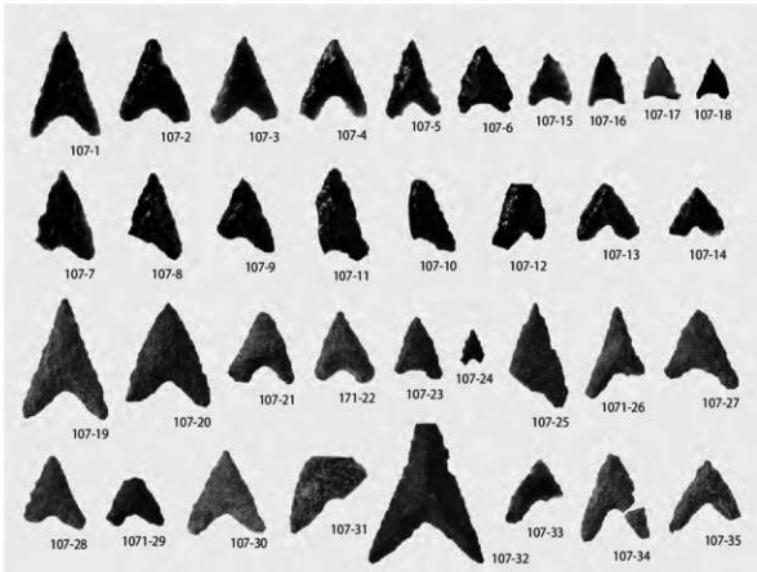
1. 2区第3黑色土層出土遺物 6



2. 2区第3黑色土層出土遺物 7

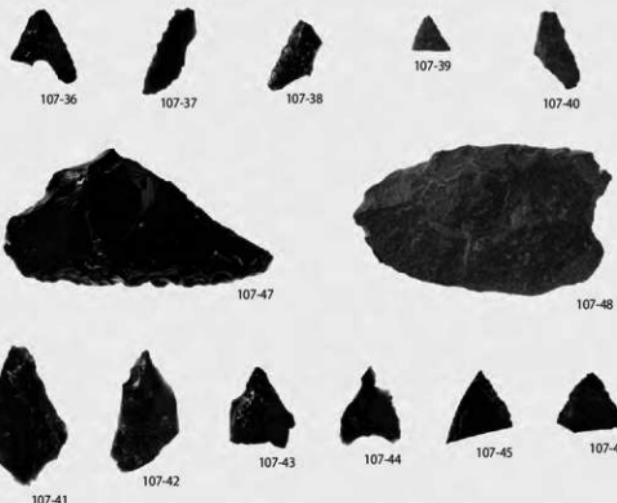


1. 2区第3黑色土層出土遺物 8

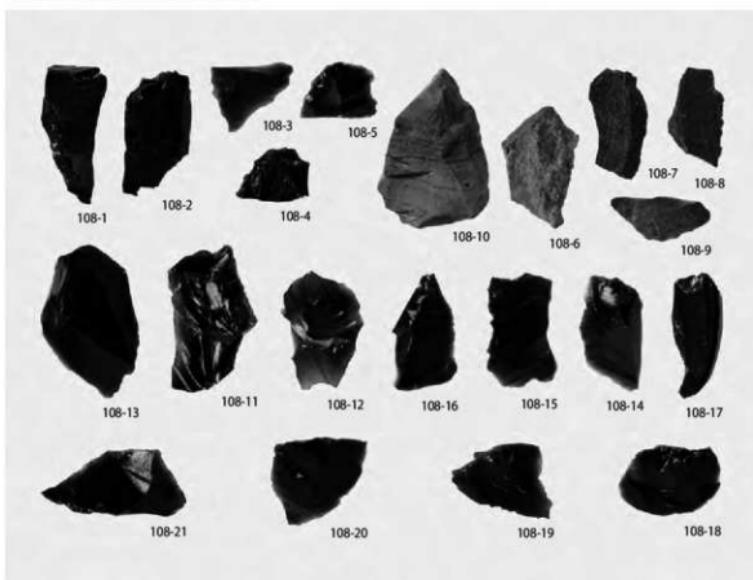


2. 2区第3黑色土層出土遺物 9

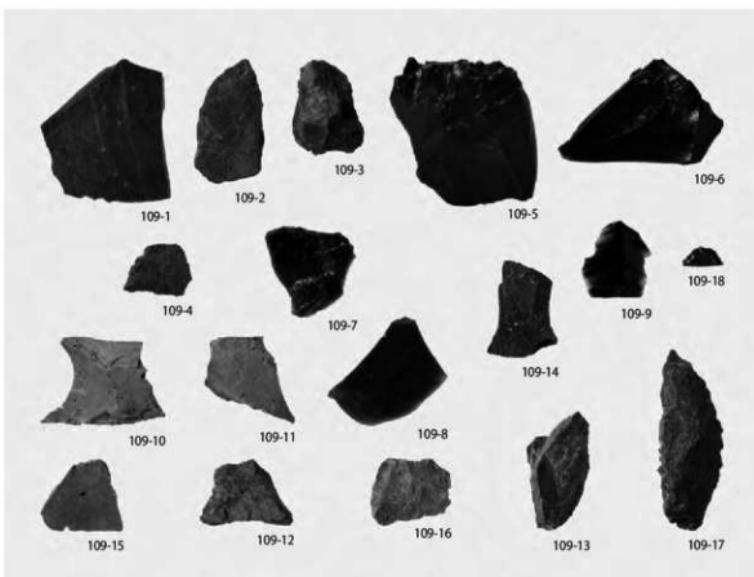
図版 56 上ノ谷遺跡



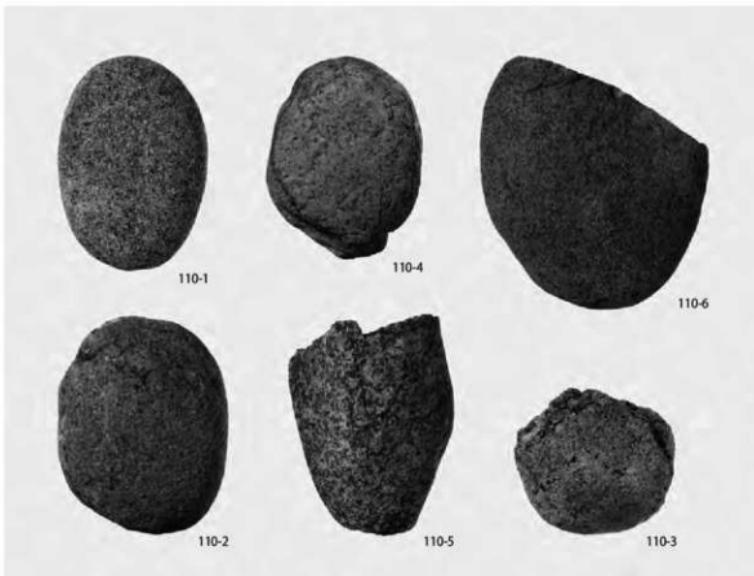
1.2区第3黑色土層出土遺物10



2.2区第3黑色土層出土遺物11

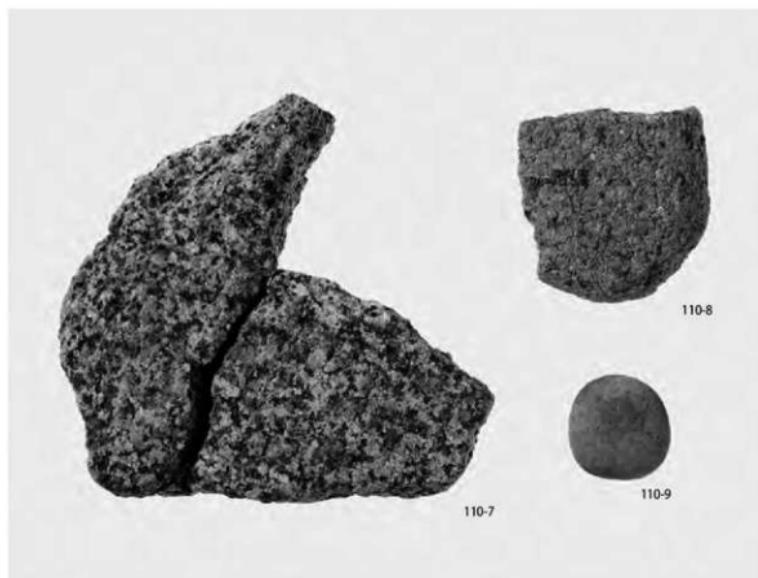


1. 2区第3黑色土層出土遺物 12



2. 2区第3黑色土層出土遺物 13

図版 58 上ノ谷遺跡



1.2区第3黑色土層出土物14



2.2区石器集中地点出土黒曜石削片



1. 遺跡周辺を望む(空撮)



2. 調査完了状況(空撮)

図版 60 高城跡



1. 調査地遠景(南から)



2. 調査地近景(北東から)



1. A-A' ライン土層堆積状況1(南東から)



2. A-A' ライン土層堆積状況2(南東から)



3. B-B' ライン土層堆積状況1(南東から)



4. B-B' ライン土層堆積状況2(南東から)



5. C-C' ライン土層堆積状況1(北東から)



6. C-C' ライン土層堆積状況2(北東から)

図版 62 高城跡



1. a-a' ライン土層堆積状況 1(南西から)



2. a-a' ライン土層堆積状況 2(南東から)



3. b-b' ライン土層堆積状況 1(南西から)



4. b-b' ライン土層堆積状況 2(南東から)



5. c-c' ライン土層堆積状況 1(南東から)



6. c-c' ライン土層堆積状況 2(南西から)



7. d-d' ライン土層堆積状況 1(南東から)



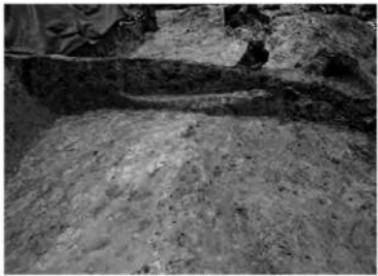
8. d-d' ライン土層堆積状況 2(南西から)



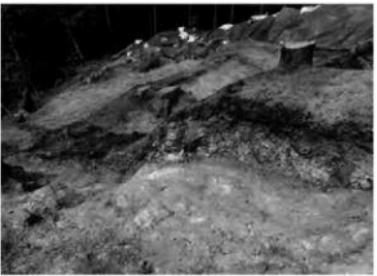
1. e-e' ライン土層堆積状況(東から)



2. f-f' ライン土層堆積状況(南東から)



3. g-g' ライン土層堆積状況(南から)



4. h-h' ライン土層堆積状況 1(北東から)



5. h-h' ライン土層堆積状況 2(北東から)



6. i-i' ライン土層堆積状況 1(南東から)



7. i-i' ライン土層堆積状況 2(北東から)



8. j-j' ライン土層堆積状況(南東から)

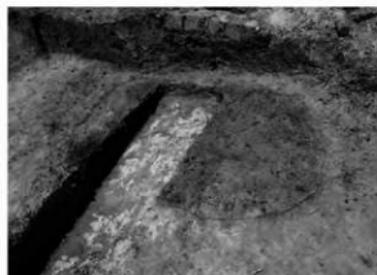
図版 64 高城跡



1. SX01検出状況 1(南から)



2. SX01検出状況 2(東から)



3. SK01検出状況(南東から)



4. SK01完掘状況(南から)



1. 遺跡周辺を望む(西から)



2. 調査地遠景(南から)

図版 66 小原遺跡



1. 調査前近景(東から)



2. 調査完了(西から)



1. A-A' ライン土層堆積状況 1(東から)



2. A-A' ライン土層堆積状況 2(東から)



3. A-A' ライン土層堆積状況 3(南東から)



4. B-B' ライン土層堆積状況 1(西から)



5. B-B' ライン土層堆積状況 2(西から)



6. B-B' ライン土層堆積状況 3(南西から)

図版 68 小原遺跡



1. C-C' ライン土層堆積状況 1(南から)



2. C-C' ライン土層堆積状況 2(南から)



3. D-D' ライン土層堆積状況 1(西から)



4. D-D' ライン土層堆積状況 2(南から)



5. E-E' ライン土層堆積状況 1(東から)



6. E-E' ライン土層堆積状況 2(北東から)



7. F-F' ライン土層堆積状況(西から)



8. G-G' ライン土層堆積状況(南東から)



1. 1号墳・2号墳墳丘検出状況1(東から)



2. 1号墳・2号墳墳丘検出状況2(南西から)

図版 70 小原遺跡



1. 1号墳墳頂部盛土検出状況(東から)



2. 1号墳墳頂部盛土堆積状況(南から)



3. ST01検出状況(西から)



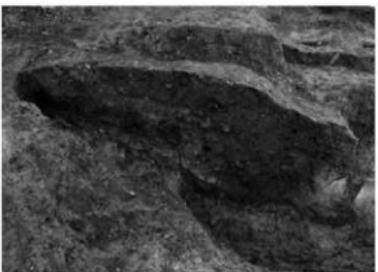
4. ST01土層堆積状況1(南東から)



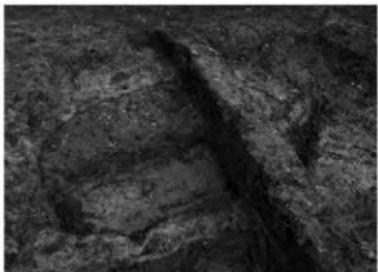
5. ST01土層堆積状況2(南から)



1. ST01土層堆積状況3(南から)



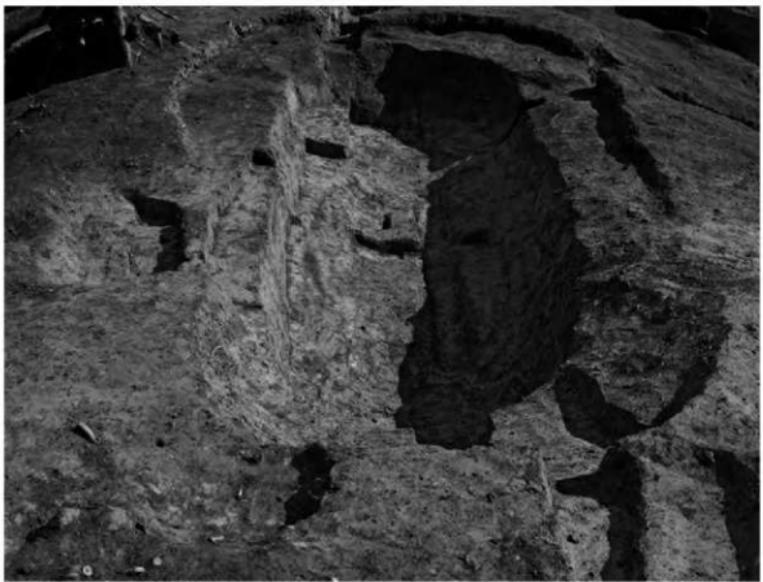
2. ST01土層堆積状況4(南東から)



3. ST01土層堆積状況5(南から)



4. ST01遺物出土状況(南西から)



5. ST01完掘状況(南西から)

図版 72 小原遺跡



1. SD01 完掘状況(北東から)



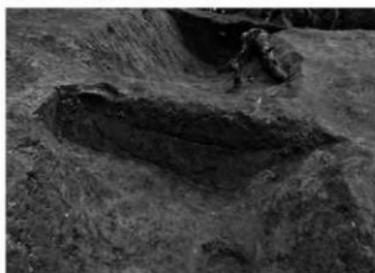
2. SD01 土層堆積状況 1(南東から)



3. SD01 土層堆積状況 2(北西から)



4. SD01 土層堆積状況 3(南東から)



5. SD01 土層堆積状況 4(南東から)



1. SD02完掘状況(南東から)



2. SD02土層堆積状況(南東から)

3. SD02遺物出土状況(東から)



4. 1号填完掘状況(西から)

図版 74 小原遺跡



1. 2号墳埴頂部盛土検出状況(東から)



2. ST02・ST03検出状況(北東から)



3. ST02・ST03土層堆積状況1(南から)



4. ST02・ST03土層堆積状況2(南西から)



5. ST02・ST03完掘状況(北東から)



1. SD03検出状況(南西から)



2. SD03完掘状況(北西から)



3. SD03土層堆積状況 1(南から)



4. SD03土層堆積状況 2(南から)



5. SD04完掘状況(南東から)



6. SD04・SD05土層堆積状況 1(南東から)



7. SD04・SD05土層堆積状況 2(南から)

図版 76 小原遺跡



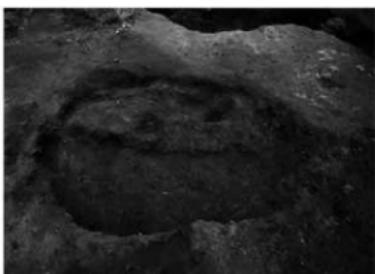
1. SD05 完掘状況(西から)



2. SD05 遺物出土状況(南東から)



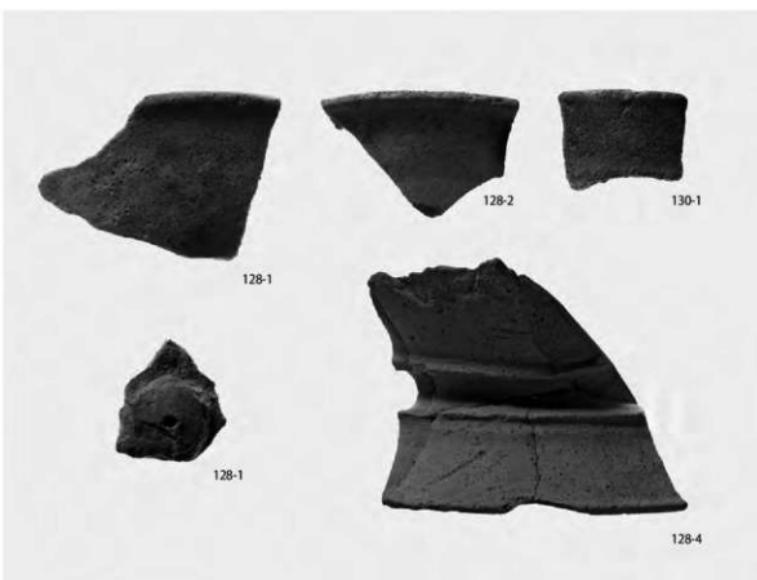
3. SK01 完掘状況(南から)



4. SK02 完掘状況(南東から)



5. 2号填完掘状況(北東から)



1. ST01・SD01出土遺物

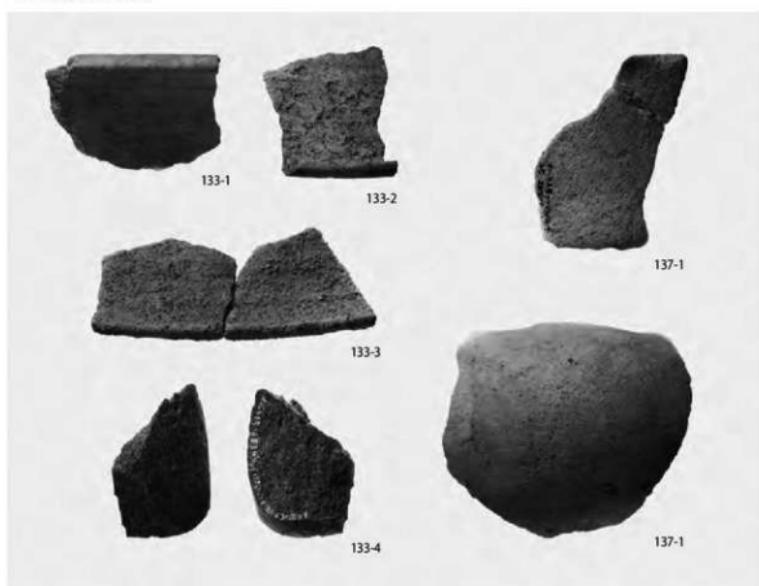


2. SD01出土遺物

図版 78 小原遺跡



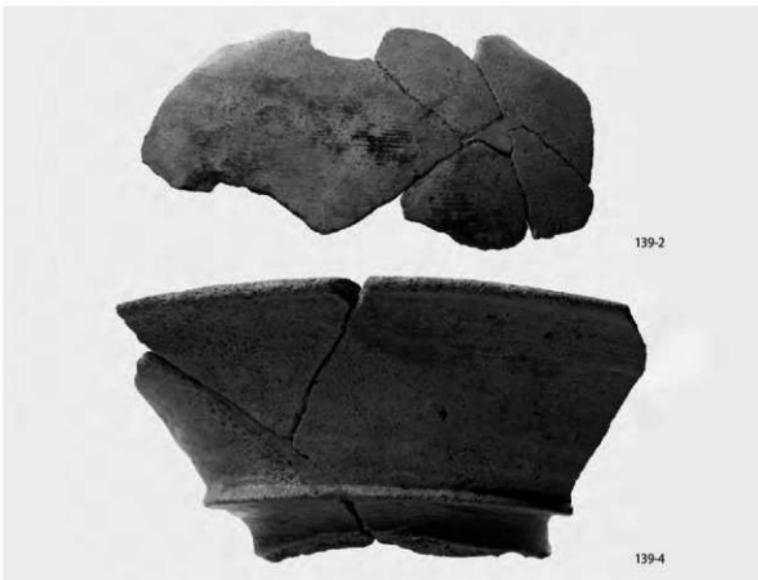
1. SD02出土遺物



2. 1号填・3号填周辺、SD03出土遺物



1. SD05出土遺物1

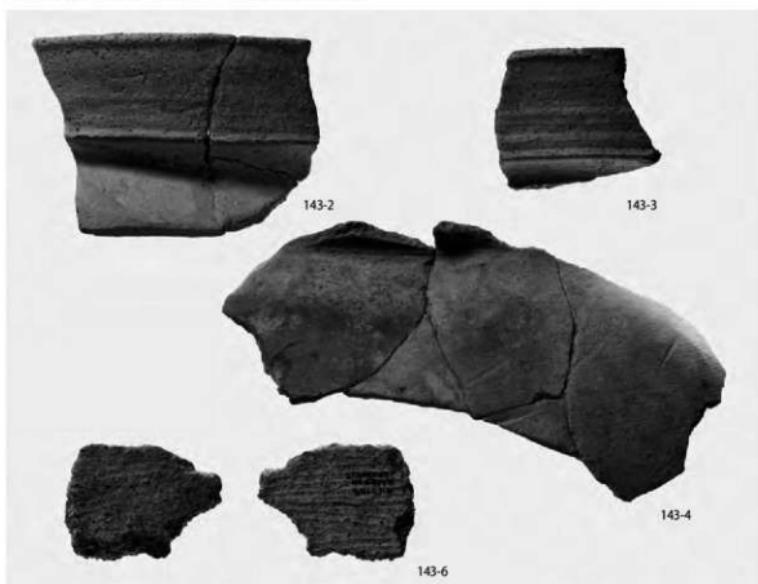


2. SD05出土遺物2

図版 80 小原遺跡



1. ST01、SD05、2号墳・4号墳周辺出土遺物



2. 2号墳・4号墳周辺出土遺物

## 報 告 書 抄 錄

猪子原遺跡  
上ノ谷遺跡  
高城跡  
小原遺跡

島根県東部（飯南町～出雲市）における変電所および送電線新設工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行者 島根県教育委員会

発行 2023（令和5）年8月

編集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 島根県松江市打出町33番地

電話 0852-36-8608

印刷 (有)黒潮社







